環太平洋価値観国際比較調査

——東アジア周辺諸国の「信頼感」の統計科学的解析——

総合報告書

課題番号：１８２５２００１

The Asia - Pacific Values Survey (2006-2009)

——Data Analysis on Peoples' Sense of Trust——

Summary Report

平成 18 年度　～　平成 21 年度科学研究費補助金

基盤研究(A)　研究成果報告書

平成 22 年 3 月

研究者代表　吉野　諒三
大学共同利用機関法人　情報・システム研究機構
統計数理研究所　データ科学研究系　教授

Ryozo Yoshino
The Institute of Mathematical Statistics

March 2010

環太平洋価値観国際比較調査　総合報告書

——東アジア周辺諸国の「信頼感」の統計科学的解析——

基礎研究 A　No.18252001

研究組織

研究代表者　吉野諒三　（統計数理研究所　データ科学研究系　教授）

研究分担者　松本　渉　（統計数理研究所　データ科学研究系　助教）

研究協力者　鈴木達三　（統計数理研究所　名誉教授）
馬場康維　（統計数理研究所　名誉教授）
前田忠彦　（統計数理研究所　データ科学研究系　准教授）
土屋隆裕　（統計数理研究所　データ科学研究系　准教授）
林　文　（東洋英和女学院大学　人間科学部　教授）
山岡和枝　（国立保健医療科学院　技術評価部　室長）
佐々木正道（中央大学　文学部　教授）
中尾啓子　（首都大学東京　都市教養学部　教授）
鄭　躍軍　（同志社大学　文化情報学部　教授）

袈岩　晶　（統計数理研究所　技術補佐員）
角田弘子　（統計数理研究所　技術補佐員）
二階堂晃祐（統計数理研究所　技術補佐員）
藤田泰昌　（上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科　特別研究員）
芝井清久　（上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科 博士課程）
西舘　崇　（東京大学大学院新領域創成科学研究科　博士課程）

海外共同研究者　趙彦云　Zhao Yanyun　（中国人民大学）
周国模　Zhou Guomo　（浙江林学院）
謝邦昌　（台湾輔仁大学）
蘆興普　Lo Hing-Po　（香港城市大学）
Agnes Law　（香港城市大学）

交付決定額（配分額）

	直接経費	間接経費	合計
平成 18 年度	10,600,000	3,180,000	13,780,000
平成 19 年度	10,100,000	3,030,000	13,130,000
平成 20 年度	7,500,000	2,250,000	9,750,000
平成 21 年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
総額	32,100,000	9,630,000	41,730,000

The Asia-Pacific Values Survey Summary Report

Chief Ryozo Yoshino
(Professor, Department of Data Science, The Institute of Statistical Mathematics)

Members

Suzuki Tatsuzo (Professor Emeritus, The Institute of Statistical Mathematics)
Yasumasa Baba (Professor Emeritus, The Institute of Statistical Mathematics)
Tadahiko Maeda (Associate Professor, Department of Data Science, The Institute of Statistical Mathematics)
Takahiro Tsutiya (Associate Professor, Department of Data Science, The Institute of Statistical Mathematics)
Fumi Hayashi (Professor, Toyo-Eiwa Women's University)
Kazue Yamaoka (Chair, Department of Technology, Assessment and Biostatistics, National Institute of Public Health)
Masamichi Sasaki (Professor, Chuo University)
Keiko Nakao (Professor, Tokyo Metropolitan University)
Yuejun Zheng (Professor, Doshi-sha University)
Wataru Matsumoto (Assistant Professor, Department of Data Science, The Institute of Statistical Mathematics)

Assistants

Akira Horoiwa (Technical Assistant, The Institute of Statistical Mathematics)
Hiroko Tsunoda (Technical Assistant, The Institute of Statistical Mathematics)
Kosuke Nikaido (Technical Assistant, The Institute of Statistical Mathematics)
Taisuke Fujita (Graduate School of Global Studies, Sophia University)
Kiyohisa Shibai (Graduate School of Global Studies, Sophia University)
Takashi Nishitate (Graduate School of Frontier Sciences, The University of Tokyo)

Collaborators

Zhao Yanyun (China Renming University)
Zhou Guomo (Zhejiang Forestry University)
Shia Ben-Chang (Fu Jen Catholic University)
Lo Hing-Po (Hong Kong City University)
Agnes Law (Hong Kong City University)

※ 今後、本報告書を含め、過去の調査報告書に誤謬が見つかった場合は、報告書の Web ページ（http://www.ism.ac.jp/~yoshino/）にてお知らせする予定である。

はしがき

本書は、2006年度から2009年度における日本学術振興会・科学研究費補助金・基盤研究A「環太平洋価値観国際比較調査…東アジア周辺諸国の「信頼感」の統計科学的解析…」（課題番号　18252001、研究代表　吉野諒三）の総合報告書である。

本調査研究は我々の2002-2005年度の「東アジア価値観国際比較調査」の拡大を意図して、「環太平洋」という言葉を用いたが、インドは環太平洋地域からは外れるので、時により本調査研究を「環太平洋（アジア・太平洋）価値観国際比較調査」と表記することもあるのでご了解願いたい。

この研究は、歴史的には統計数理研究所における1953年以来の「日本人の国民性」調査及び1971年以来の「意識の国際比較」調査の延長上にある。「日本人の国民性」調査は、戦後民主主義の基盤としての官民の世論調査発展と緊密に結びつき、「意識の国際比較」調査は、連鎖的調査分析（Cultural Linkage Analysis, CLA）の確立へとつながった。そしてさらに、最近行われた我々の他の国際比較調査研究とともに、この研究は、計量的文明論としての「文化多様体解析（Cultural Manifold Analysis, CULMAN）」という方法論の確立を目指す研究の一環としても位置づけられる。

本研究の背景と意義は、以下の通りである。

第二次世界大戦以降続いた冷戦が終了し、世界情勢のダイナミックな変動とともに、政治、経済、社会の伝統的枠組が大きく変わり、社会生活の基盤であった人々の信頼のあり方も大きな影響を受けている。伝統的な産業社会から高度情報化社会への過渡期と見られる現在、従来の家庭、学校、職場での人間関係のあり方にも崩壊が生じ、新たな時代の流れが確立するまでの混乱が続いてきた。

一方、政治経済の視点からは、欧州共同体や南北アメリカ圏のみならず、東アジア圏の再編成が唱えられている。東南アジアを含む東アジア圏は、欧州とは異なり、多様な文化、歴史を持つ国々や地域の集合であり、政治にせよ経済にせよ、それらの統合は必ずしも容易ではないであろうが、現実にはASEAN等の協力関係が推進されつつある。我々が前調査研究の申請時に、タイトルとして「東アジア」という言葉を用いた際には、この言葉はまだ一般には、地理的にあいまいなものでしかなかった。しかし、今日では「東アジア共同体」や「アジア・太平洋共同体」等々の国際協力の枠組みの検討が始まり、政治経済的に実体を持った言葉となっている。特に、2009年夏に政権を獲得した民主党は、「東アジア共同体」の旗を揚げている。

かつてMax Weberは、「プロテスタンティズムと資本主義の精神」の関係を論じた中で、儒教の影響がある中国などのアジアの国々に対して、そこでの資本主義の順調な発達に否定的な見解をのべていた。しかし、日本は明治維新以降、そして戦後においても目覚しい経済発展を見せてきた。その例外を説明するために、日本は儒学の影響はあったが、儒教が生活に入り込むことはなかったなどの議論がなされたこともあった。しかし、さらにその後のNICS、NIESなど台湾、韓国、東南アジアの国々の発展、そしてこの10年ほどの中国の目覚しい発展は、特定の宗教や倫理と経済発展との関係を単純に図式化することは

賢明ではないことを証明している。また、特に中国の過去数十年の急激な社会変化は、「社会体制と国民性（国民の意識構造）との相互関係」という社会学の主要テーマに対して、大きな示唆を与えるであろう。

こういった世界の流れを適格に把握し、将来を見通すための実証的基礎情報を収集すべく、各国、各機関が様々な社会調査、国際比較調査を遂行している。例えば、世界価値観調査（World Values Survey）は、世界の 20～30 数カ国で共通質問項目を用いた国際比較調査データや時系列比較可能なデータを提供し、学術研究にも行政施策にも資するところが大きい。しかしながら、過去の東アジア地域における調査の実情を詳細に調べてみると、その結果には疑いが隠せない。国際比較調査では、質問項目を各国の言語に適切に翻訳することが重要な手続きであるが、各国内の事情の差異を見過ごしたための誤訳が見受けられ、また、報告された回収率などから、計画された統計的無作為標本抽出の手続きが調査の現場でどこまで遵守されているのか、疑義を持つ調査研究者も少なくない。

以上のような背景があり、我々は、アジア・太平洋地域の調査は、やはり当該地域の人々によって慎重に推進されるべきであるという認識に至った。我々は、各国でどの程度統計学的に適正な標本抽出調査が遂行でき、また国際比較可能性が保てるのかという課題を自ら実証的に検討することを主眼にし、それを把握した上でアジア・太平洋諸国の人々の価値観や意識を比較分析する課題に取り組んできた。

今回の調査票は、一般社会意識調査としてのスタイルをとり、人々の生活一般に関する多様な項目を含んでいる。しかし、特に 21 世紀初頭の急変しつつある世界情勢、そしてその中でも、急速に変化する東アジア周辺の国々と、数々の問題を抱えながらも再秩序化されつつある国家間の関係を考慮して、日本と他の東アジア周辺諸国の人々の価値観、対人的信頼感や法意識を含む人間関係に関する意識、自然観や生命観の統計的解明に適切と思われる項目を検討して試行してきた。これらのテーマに関する項目は、一部、重複させながら、2004年度に日本０４Ａと日本０４Ｂの二つの調査票によって、調査が遂行された。重複部分は基本的な価値観や態度に関する項目であり、2 つの調査間での同項目に対する回答の安定性や、それぞれの調査内での人々の回答の多次元パターンを解析すること等が意図されていた。社会調査、特に国際比較調査では費用、時間、労力のみならず様々な技術的な限界が常に付き纏うものであり、目前の多様な問題解決へ直ちに繋がるような調査項目の選定は容易ではない。今後の各方面での調査データや情報を、相補的に考慮して研究を推進するのみである。

2004 年度の日本調査０４Ａにおける調査質問票は、これまでの国際比較調査で用いられてきた項目やそれらを一部修正した項目を取り入れ、さらに当該調査のために作成した新項目などで構成されている。これは、われわれの東アジア価値観国際比較調査の第１ラウンド(2002-2005 年度)とでも呼ぶべき科学研究費補助金・基盤研究 A(2)「東アジア価値観国際比較---信頼感の統計科学的解析」の成果に基づき、その拡張としてのアジア・太平洋地域の比較調査にふさわしい意識一般の調査票となることを意図した。今回のアジア・太

平洋国際比較の調査票は、この日本調査０４Ａ調査票を国際比較のために、各国の事情を勘案しながら最小限の修正を施し用いている。

アジア・太平洋諸国の社会状態は複雑であり、特にインドでは、多言語、多民族社会であり、社会的には環境や交通、経済などにも混乱が見られ、複数の言語の調査票の準備や、母集団を代表する統計的無作為標本抽出の困難などに直面した。また、調査開始時にも、ムンバイのテロの発生など、落ち着いた社会での調査からは程遠い。しかし、我々の基本方針は、現地で通常用いられている調査方法を尊重し、その実態を学ぶことである。回収データの質の低さの点で、これまで我々が遂行してきた国や地域と比較して、統計的方法論や実践的手続きなどの諸問題に憂いを抱かざるを得ないが、調査研究者としてはそのようなデータの中から、いかに信頼できる情報を抽出できるか考えていかねばならない。

国際比較としての詳細なデータ解析も、実際の調査では避けられない各国・各地域の言語の差異、調査方法の差異などを考慮し、単純に回答分布の皮相な数字の大小比較ではなく、今後収集されていく他の関連諸国・地域の調査データや資料、情報とともに、慎重に時間をかけて安定したパターン構造を浮かび上がらせるような分析がなされて行くべきである。それゆえ、本報告書は、国内外の多くの方々に速やかに基本情報を提供すべく、一次報告として刊行されている旨を御了解願いたい。

※なお、われわれの過去の国際比較調査等、関連情報として、次の統計数理研究所の Web ページも参考にして頂きたい（http://www.ism.ac.jp/~yoshino/）。今後、本報告書を含め、過去の調査報告書に誤謬が見つかった場合は、同 Web ページにてお知らせする予定である。

（文責　吉野諒三）

謝辞

本研究は**科学研究費補助金　基盤研究Ａ（課題番号　18252001、研究代表　吉野諒三）**の御支援により遂行されている。

今回の環太平洋（アジア・太平洋）価値観国際比較調査は、これまでの一連の調査研究の延長上にあり、これらの研究は、文部科学省研究振興局学術研究助成課、機関課、情報課、日本学術振興会、トヨタ財団、日本財団、笹川財団をはじめ、官民の多くの方々や団体の御支援を得て遂行されたものであり、深く感謝いたします。

また、本報告書の作成の作業は畿岩晶、角田弘子、二階堂晃祐、藤田泰昌、芝井清久、西舘崇、金森京子、加藤健成、山本洋、畿岩純枝、松本拓郎、田中幸奈、金澤安里、宮崎朱音、小宮ゆかり、宮本美季、武藤由貴、大木貴行、高橋紀貴、徳永智大、矢作祐太郎、山村めぐみ、吉田健人、宮崎淑女の諸氏にお手伝いいただきました。皆様に感謝いたします。

参考文献

Fujita, T., and Yoshino, R. (2009). Social values on international relationships in the Asia-Pacific region. *Behaviormetrika*, Vol.36, No.2, pp.148-165.

Hayashi, F. and Nikkaido K. (2009). Religious Faith and Religious Feelings in Japan: Analyses of Cross-Cultural and Longitudinal Surverys. *Behaviormetrika*, Vol.36, No.2, pp.167-180.

林知己夫 (2001). データの科学. 朝倉書店

林知己夫、鈴木達三、吉野諒三他 (1998). 国民性七か国比較. 出光書店

林知己夫他 (1992). 第五 日本人の国民性. 出光書店.

袈岩晶、吉野諒三、鄭躍軍 (2007). 国際比較における「データの安定性」に関する一考察 —中国調査データの検討を通した文化多様体解析の試行—. 統計数理. 第 55 巻第 2 号, pp.285-310.

Inkeles, A. (1997). *National character*. Transaction Publishers: New Brunswick. (吉野諒三 (2003) 訳「国民性論 — 精神社会的展望 —」出光書店)

松本渉 (2006). 東アジアにおける組織に対する信頼感— 国際比較のための信頼感の分析 —. 行動計量学. 第 33 巻第 1 号, pp.25-40.

三好美浩, 吉野諒三 (2005). 東アジアの職業観— 日本・中国・台湾・韓国の比較 —. 行動計量学. Vol.32, No.1, pp.173-189.

Tsunoda, H., Yoshino, R., & Yokoyama. (2008). Components of Social Capital and Socio-Psychological Factors That Worsen the Perceived Health of Japanese Males and Females. *The Tohoku Journal of Experimental Medicine*, Vol.216, No.2, pp.173-185.

吉野諒三 (2001). 心を測る — 個と集団の意識の科学 —. 朝倉書店.

Yoshino, R. (2002). A time to trust. *Behaviormetrika*. Vol.29 No.2, pp.231-260.

吉野諒三 (2003).「信の崩壊」— 世論調査方法論の今日の課題. 行動計量学, 展望「21 世紀の行動計量学」第 29 巻第 1 号, pp.45-54.

吉野諒三 (2003).「信頼の時代」. Eco-Forum, Vol.22, No.1, 特集号「ソーシャル・キャピタル Part II」,pp.42-51. 統計研究会.

吉野諒三 (2005). 東アジア価値観国際比較調査—文化多様体解析 (CULMAN) に基づく計量的文明論構築へ向けて—. 行動計量学. 第 32 巻 2 号, pp. 133-146.

吉野諒三 (2005). 富国信頼の時代へ—東アジア価値観国際比較調査における「信頼感」の統計科学的解析—. 行動計量学. 第 32 巻 2 号, pp. 147-160.

Yoshino, R. (2005). Trust and National Character··· Japanese sense of trust, Cross-national and longitudinal surveys-. *Comparative Sociology*, Vol.4, No.3-4, pp.417-450.

吉野諒三 (2005). 東アジア価値観調査－文化多様体解析 (CULMAN) に基づく計量文明論の構築へ向けて —. 行動計量学. 第 32 巻第 2 号, pp.133-146.

吉野諒三 (2005). 富国信頼の時代へ—— 東アジア価値観国際比較調査における信頼感の統計科学的解析 ——. 行動計量学. 第 32 巻第 2 号, pp.147-160.

Yoshino, R. (2006). A social value survey of China ··· on the change and stability in the Chinese globalization ···. *Behaviormetrika*. Vol.33, No.2, pp. 111-130.
吉野諒三編 (2007). 東アジア国民性比較 データの科学. 勉誠出版.
吉野諒三 (2008). 「科学的」世論調査の価値-歴史と理論と実践の三位一体. 日本統計学会誌、37,2,pp.279-290. (2008).
吉野諒三 (2008). 海外の標本抽出面接調査の方法. いんふぉるむ 第53回. 新情報、Vol.95. pp.7-12.
吉野諒三 (2008). 「国民性」と環境問題 ···文化の多様性を受け入れる政策立案のために ···. 環境情報科学 37,1,pp.21-26. (特集号)
吉野諒三 (2008). UFO は存在するか? ···お化け調査再考「合理と非合理の間」···. 市場調査、273、pp.4-13.
吉野諒三 (2008). 継続調査の課題と将来. 社会と調査、創刊号、pp.29-35.
吉野諒三. (2008). 信頼の国際比較. (所収「ソーシャル・キャピタルの潜在力」稲葉陽二編), 日本評論社, pp. 31-53.
Yoshino, R. (2009). Reconstruction of trust on a cultural manifold: sense of trust in longitudinal and cross-national surveys of national character. *Behaviormetrika*, Vol.36, No.2, pp.114-147.
Yoshino, R. & Hayashi, C. (2002). An overview of cultural link analysis of national character. *Behaviormetrika*. Vol.29 No.2, pp.125-141.
吉野諒三、鄭躍軍、朴承根 (2003). 東アジア諸国の人々の日本語観. 行動計量学, 第 30 巻第 1 号, pp.311-52.
吉野諒三・千野直仁・山岸侯彦. 数理心理学. 培風館. (2007).
鄭躍軍、吉野諒三、村上征勝 (2006). 東アジア諸国の人々の自然観・環境観の解析—環境意識形成に影響を与える要因の抽出—. 行動計量学. Vol.32, No.2, pp.55-68.
Yoshino, R., Nikaido, K., & Fujita, T. (2009). Cultural manifold analysis (CULMAN) of national character: paradigm of cross-national survey. *Behaviormetrika*, Vol.36, No.2, pp.89-114.

［統計数理研究所　研究リポート］
(http://www.ism.ac.jp/editsec/kenripo/index.html に一覧がある)

No. 54. 社会的態度基底構造についての国際比較方法の標準化に関する研究. (林知己夫編, 1981)
No. 59. 社会調査による国際比較方法の研究. (林知己夫編, 1984)
No. 70. 意識の国際比較方法論の研究：連鎖的比較方法の確立とその展開－1988 年ハワイ・ホノルル市民調査－. (林知己夫・鈴木達三編, 1991)
No. 71. 意識の国際比較方法論の研究－新しい統計的社会調査法の確立とその展開－. (林知己夫・鈴木達三編, 1991)
No. 72. 意識の国際比較方法論の研究　－５ヵ国調査共通ファイルコードブック－1987 年ドイツ調査　1987 年フランス調査　1987 年イギリス調査 1988 年アメリカ調査 1988 年日本調査. (林知己夫編, 1992)

No. 73. 意識の国際比較方法論の研究　－５ヵ国調査性別・年齢別集計－1987年ドイツ調査　1987年フランス調査　1987年イギリス調査1988年アメリカ調査　1988年日本調査.(林知己夫編, 1993)

No. 74. ブラジル日系人の意識調査　－1991～1992－.(山本勝造・河合武夫編, 1993)

No. 75. 国民性の研究　第9回全国調査　－1993年全国調査－.(日本人の国民性調査委員会編, 1994).

No. 76. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究－総合報告書－.(吉野諒三・鈴木達三編, 1995)

No. 77. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究－国民性の国際比較の為のマニュアル－.(吉野諒三・鈴木達三編, 1995)

No. 78. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究－イタリア調査の回答コードブック－.(吉野諒三・鈴木達三編, 1995)

No. 79. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究－イタリア調査の自由回答データ－.(吉野諒三・鈴木達三編, 1995)

No. 80. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究－オランダ調査の回答コードブック－.(吉野諒三・鈴木達三編, 1995)

No. 81. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究－オランダ調査の自由回答データ－.(吉野諒三・鈴木達三編, 1995)

No. 82. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究－共通ファイルコードブック－.(吉野諒三・鈴木達三編, 1995)

No. 83. 国民性の研究 第10次全国調査－1998年全国調査－.(日本人の国民性調査委員会編, 1998)

No. 84. 国民性に関する意識調査データに基づく文化の伝播変容のダイナミズムの統計科学的解析.(吉野諒三編, 2000)

No. 86. 文化の伝搬変容の統計科学的研究－ハワイ日系人・非日系人国際比較調査－.(吉野諒三編, 2001)

No. 89. 日本・中国の国民性比較のための基礎研究 － 中国北京市における意識調査 －.(鄭躍軍編, 2003)

No. 90. 日本・中国の国民性比較のための基礎研究 （２） － 中国上海市における意識調査 －.(鄭躍軍編, 2003)

No. 91. 東アジア価値観国際比較調査 － 「信頼感」の統計科学的解析 － 2002年日本調査報告書.(吉野諒三編, 2004)

［その他の統計数理研究所刊行のレポート］

東アジア価値観国際比較調査　2002年日本調査.(吉野諒三編, 2004)

東アジア価値観国際比較調査　2002－3年中国調査［北京, 上海, 香港］.(吉野諒三編, 2004)

東アジア価値観国際比較調査　2003年台湾調査.(吉野諒三編, 2005)

東アジア価値観国際比較調査　2003年韓国調査.(吉野諒三編, 2005)

東アジア価値観国際比較調査　2004年シンガポール調査.(吉野諒三編, 2005)

東アジア価値観国際比較調査　2004年日本A調査.(吉野諒三編, 2005)
東アジア価値観国際比較調査　2004年日本B調査.(吉野諒三編, 2005)
東アジア価値観国際比較調査 ——「信頼感」の統計科学的解析——.(吉野諒三編, 2006)
環太平洋価値観国際比較調査　2005年中国調査 [北京, 上海, 香港].(吉野諒三編, 2007)
環太平洋価値観国際比較調査　2006年台湾調査.(吉野諒三・袈岩晶編, 2007)
環太平洋価値観国際比較調査　2006年韓国調査.(吉野諒三・松本渉編, 2007)
環太平洋価値観国際比較調査　2006年USA 調査.(吉野諒三編, 2007)
環太平洋価値観国際比較調査　2007年シンガポール調査.(吉野諒三編, 2008)
環太平洋価値観国際比較調査　2007年オーストラリア調査.(吉野諒三・松本渉編, 2008)
環太平洋価値観国際比較調査　2008年インド調査.(吉野諒三編, 2009)
医療と文化の連関に関する統計科学的研究　——生命観の国際比較　2006 年米国 CATI 調査——.(山岡和枝・吉野諒三編, 2008)
医療と文化の連関に関する統計科学的研究　——生命観の国際比較　2007年ドイツ CATI 調査——.(山岡和枝・吉野諒三編, 2008)

※ 行動計量学32巻2号、33巻1号及びBehaviormetirka、Vol.29、No.2、Vol.30、No.1、Vol.36、No.2、Vol.37、No.1 の特集号も参照していただきたい。それらは，J-stage の無料オンライン・ジャーナルとしてダウンロードが可能である。

行動計量学　　http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jbhmk/
Behaviormetirka http://www.jstage.jst.go.jp/browse/bhmk/

The Asia - Pacific Values Survey (APVS)

Ryozo Yoshino
Cross-National Survey Team of National Character
The Institute of Statistical Mathematics
10-3, Midori-machi, Tachikawa-shi, Tokyo, Japan. 106-8562.

1. Introduction

This is a summary report on "The Asia - Pacific Values Survey" (2006-2009 fiscal year) by the cross-national survey team of the Institute of Statistical Mathematics (Chief: Ryozo Yoshino). We are developing this study in order to exemplify practical research of a new methodology for cross-national comparative survey, called CULMAN (Cultural Manifold Analysis) (See Yoshino, 2005; Yoshino, Nikaido & Fujita, 2009).

This brief monograph gives some historical background of the study. On the other hand, we would like to refer readers to Yoshino (2001, 2005c, 2006, 2009), Yoshino & Hayashi (2001), and Yoshino, Nikaido & Fujita (2009) for more detailed English explanation on the methodologies such as back-translation technique for questionnaire and statistical random sampling, a paradigm of cross-national comparability, etc. As for the information on our past surveys, see a series of ISM Research Reports published over decades, or our home page of the Institute of Statistical mathematics. **(http://www.ism.ac.jp/~yoshino/)**

2. Some History on Our National Character Survey

The Institute of Statistical Mathematics (ISM) has been conducting a longitudinal nationwide social survey on the Japanese national character every five years since 1953, using the same questionnaire items (Mizuno et al., 1992). The survey is called "Nihonjin no Kokuminsei Chosa" (Japanese National Character Survey). Although definition of the term "national character" may be very problematic, here it simply means the characteristic shown in people's response patterns to a questionnaire survey (Hayashi et al., 1998; cf. Inkeles, 1997). The question items cover various aspects of people's opinions about their culture and daily life. This survey was one of the foundations of the public opinion survey system based on the statistical sampling theory developed immediately after World War II in Japan. The significance of this survey was clear at the time when Japan was expected to shift from the military regime to a democratic system in the latter half of 1940s (Yoshino, 1994). This survey stimulated many countries to carry out the same sort of time series surveys such as the World Value Survey, Eurobarometer, General Social Survey (GSS) of USA, ALLBUS of Germany, CREDOC of France, etc. (There was a time that the post-war Japanese democracy had been criticized because it was not democratic from a viewpoint of the Western world. Interestingly, however, Japan conducts public-opinion polls based on a

statistically ideal sampling using an almost complete residential or voters' list whereas the other countries have to use other methods such as quota sampling or random-route sampling. The latter two sampling methods consider statistical randomness but do not yield the statistical estimate of sampling errors. As far as the system of public-opinion polls is concerned, therefore, Japan may be more democratic than the Western countries.)

Since 1971, the survey of ISM has been extended to a cross-national comparative study for more advanced understanding of Japanese national character (Hayashi, 1973). The focus of our cross-national surveys is the investigation of the statistical comparison of peoples' social values and their ways of thinking and feeling. More explicitly, our concern has been with cultural identities and people's attitudes toward economy, freedom of speech, interpersonal relationships, leadership, politics, public acceptance of science and technology, religion, social security, etc. These aspects may clarify certain similarities or dissimilarities that are represented by psychological distances between countries or races in certain statistical pattern analyses of responses (Hayashi, 2001a, 2001b; Hayashi et al., 1998; Yoshino, 1994, 2001c).

Table 1. List of Our Past Surveys on National Character.

1953 - present Japanese National Character Survey (every five years)
1971 Japanese Americans in Hawaii
1978 Honolulu residents, Americans in Mainland USA
1983 Honolulu residents
1988 Honolulu residents

1987-1993 Seven Country Survey
1987 Britain, Germany & France
1988 Americans in Mainland USA, Japanese in Japan
1992 Italy
1993 The Netherlands

1991-1999 Recent Overseas Japanese Surveys
1991 Japanese Brazilians in Brazil
1998 Americans of Japanese ancestry on the U.S. West Coast.
1999 Honolulu residents in Hawaii

2002-2005 East Asia Values Survey
(Japan, China [Beijing, Shanghai], Hong Kong, Taiwan, South Korea, & Singapore)

2004-2009 The Asia-Pacific Values Survey
(Japan, China [Beijing, Shanghai], Hong Kong, Taiwan, South Korea, USA, Singapore, Australia & India)

(All of these surveys are based on nationwide or sampling data, except for Hawaii, Brazil, Mainland China, i.e., Beijing and Shanghai [urban areas only]), Australia [Queensland, New South Wales, & Victoria]), and India [10 major cities]]

The cross-national survey, however, involves particular methodological problems. It is not simple to compare response data collected under different conditions. Different countries may use the same questionnaire but in different languages and employ different statistical sampling methods as well. There is no *a priori* knowledge as to how these different conditions influence peoples' responses even in the case where there is no substantive difference of opinions and social values between peoples (Yoshino, 2001c). Thus, an important problem of our study is to investigate those conditions under which meaningful ***cross-national comparability*** of social survey data is guaranteed. As our approach towards this problem over decades, we have been developing the methodology called **CLA (cultural link analysis)**. The main components of CLA are 1) a spatial link for cross-national comparison, 2) a temporal link inherent in longitudinal analysis, and 3) an item-structure link inherent in the commonalties and differences in item response patterns within and across different cultures (cf. Guttman, 1972). In CLA we utilize, for example, the back-translation technique and statistical pattern analyses such as Hayashi's Quantification Method (Hayashi, 1992) or Yoshino's (1992a, 1992b, 1994, 2001c) Super-culture Model. The utilization of those pattern analyses consists of an important part of our methodology. Namely, although a simple cross-national tabulation of people's responses with respect to a single item may not be reliable because people's responses may occasionally be sensitive to slight differences in the wording of certain questions, certain pattern analyses or scaling on a set of items can be reliable. (See Yoshino & Hayashi [2002] for an overview on our approach.)

On the other hand, in this cross-national study, we have found some response tendencies particular to certain countries. For example, the Japanese tend to avoid polar answer categories and to choose intermediate categories, whereas the French generally tend to give negative responses to any question. (Here I may be exaggerating these tendencies to make the points clearer.) I think that we should consider these response tendencies when we analyze not only people's sense of trust but public opinion polls or social survey data in general.

See Hayashi (2001a, 2001b), Hayashi et al. (1998), Yoshino (1994, 2001c, 2002, 2005, 2006) and Yoshino & Hayashi (2002) for results of our cross-national surveys.

3. Japanese national character survey (1953-present)

Our longitudinal survey of Japanese national character shows some stable aspects of attitudes and social values of the Japanese (Hayashi & Kuroda, 1997; Yoshino, 1994). Among others, the stability of interpersonal attitudes and religious attitudes may distinguish the Japanese from other countries. Namely, the Japanese show a higher score on the "Giri-Ninjyo scale" than the other countries. Moreover, while only one third of the Japanese have religious faith, but more than 60% of the Japanese support the opinion that religious attitudes are important (Yoshino & Hayashi, 2002; Yamaoka,

2000).

I will briefly explain certain fundamental dimensions of the Japanese social values as follows.

Fundamental dimensions of the Japanese social values

Hayashi (1993) has identified two important dimensions that underlie the Japanese national character in the survey. That is, 1) the dimension of interpersonal relationships ("Giri-Ninjyo" attitude, or a complicated sense of humanity and obligation that is particular to the Japanese interpersonal relationships) and 2) the dimension of a modern-traditional contrast in their way of thinking. On one hand, as mentioned before, the Japanese interpersonal attitude has been stable, at least over the last half century, and probably for much longer than our longitudinal survey. This corresponds to the first dimension. On the other hand, for over 100 years since the Meiji Restoration in 1868, Japan has been doing her best to overtake Western science and technology and to develop it into a Japanese adaptation. Probably this enduring effort has underlined the dimension of the tradition vs. modernity orientation in the Japanese way of thinking.

However, the Japanese way of thinking has been gradually changing, and there appeared a generation gap between people of 20-24 years old and those older than 25 years in our survey of 1978 (note that the younger generation was born more than 10 years after the end of World War II. In 1956, an economic white paper declared, "Japan is no longer in the post-war condition," and this symbolized the start of the high-speed development of industry and economy. On the other hand, however, Japan had to face many social problems concerning pollution because of the high-speed industrialization around 1970. Since the signs of the younger generation's changes appeared as early as 1978, their current way of thinking has become more complicated than ever.

Furthermore, the Japanese have been in the confusion of the transition period from the established social system to a system of a highly advanced information age. In this confusion, a Central Research Services, Inc. (2000) survey reports of the majority of Japanese people's distrust toward traditional systems such as banking, bureaucracy, as well as of congressmen, police, etc., in spite of the stereotype of the Japanese as a highly trustful nation (Fukuyama, 1995).

4. The World as a Cultural Manifold

The 20th century was the time of expansion of Western civilization. Differences of cultures occasionally prevented us from our understanding each other. In this time of globalization, I would like to emphasize the fact that there are various ways of successful social development, therefore, we should not impose one's own social value on any other country if we intend to develop a peaceful world.

The globalization necessarily changes some institutional systems and customs towards more universal ones under the influences of transnational exchange or

trade. On the other hand, some other systems are becoming more and more sensitive to cultural differences, as a reaction to the globalization.

In order to facilitate the mutual understanding between the East and the West, we need to keep in mind the differences of social values between them. The study on the scale of trust (Yoshino, 2005, 2006, 2008) may caution us on the applicability of a certain "single" scale invented by the Western cultures to the Eastern cultures, or vice versa. For example, it is not always the case in Asia that "the distrust is a culture of poverty" as Banfield (1958) once mentioned. A Chinese proverb says that "Fine manners need a full stomach" (or "The belly has no ears"), but another says "Be contended with honest poverty." Gallup (1977, p.461) reported that they could not find a very poor but still happy people in their global survey. I think that they missed the reality. For example, Brazilians were very optimistic even when Brazil fell down to the worst debtor nation in the world (Inkeles, 1997). Inglehart reported a correlation of .57 between economic development and life satisfaction for some 20 countries surveyed in 1980s (Inkeles, 1997, pp. 366-371). But the life satisfaction of Japan in the 1980's was lower than around 2000, although Japan was close to the top of the world economy in those days and now she has been suffering from depression over years. Thus, we need scales constructed from various perspectives or social values in order to understand various cultures in the age of globalization.

Although China had so many battles between small countries (within the area corresponding to the modern China) over thousands of years in their history, once they were synthesized as a large empire, their government employed peoples of various races as high-class bureaucrats. This made it possible for them to develop and maintain a large empire and their culture, often over centuries. This is analogous to the Roman Empire, but it is contrastive to the modern Western countries (and Japan during WWII) that colonized Asian and African countries in the 19th and 20th centuries. The history shows that trust between different races changes according to social conditions in the long run, although it is relatively stable over time.

After our previous China survey (China 2001 survey [Yoshino, 2006]), there occurred the problem of SARS spreading from Guang-Zhou in China. People inside and outside China criticized the local governments, suspecting that they attempted to hide the serious conditions. This seems to suggest a significant change of China, from secretive attitude to more open attitude for every matter. The secretive attitude was linked to the system of severe punishment on political responsibility. The open attitude is a key to democracy that is necessary for successful capitalism. The then mayor of Beijing got fired because of his mishandling of SARS. The government started encouraging people to inform of the presence of patients. This situation seems to show that China is changing rapidly, but in a Chinese way.

Here it may be important to quote Dogan (2000)'s statement"... Erosion of confidence is first of all a sign of political maturity. It is not so much that democracy has deteriorated, but rather the critical spirit of most citizens has improved..."

In spite of prevailing confusion in East Asia (actually in the entire world), I hope that East Asia will advance towards the peaceful development without serious conflicts. For the mutual understanding among Asian countries, one should keep in mind their ways of thinking such as "Mentsu (face)" and "Honne and Tatemae (real intension and principle)" of the Chinese, the Japanese, and the Korean. This is also the case with the Asian countries for their understanding of the West.

Once upon a time, Weber (1904-05) argued that Asian countries were not able to develop capitalism in his theory on religion and capitalism. Now we know so many counter-examples such as Japan, Korea, NIES, and China, against his argument. Some people argued that the Japanese adaptation of Confucius philosophy adapted to Japan functioned as a replacement of Protestant ethics and led Japan to a successful development of capitalism (Morishima, 1984). But the past decades have seen many examples to show that economic success is not linked to a particular ethics, ideology or religion. Now we have more and more data to consider the relationships between economic development, social systems and social values because of the rapid change of social systems in many countries of the world than before.

I hope that our survey data will be helpful for further constructive arguments, and the mutual understanding for the peaceful development and economic prosperity of the world.

Note: In the case we find some errors in our reports or data, we will list them in our home page: http://www.ism.ac.jp/~yoshino/, where you can see our past surveys too.

Acknowledgement

This study is financially supported by **the Japan Society for the Promotion of Science (JSPS): Grant-in-Aid for Scientific Research (A) No.18252001.** We are very grateful for their support over years.

REFERENCES

(For the convenience of readers, this list covers more books and papers than appeared in this introductory paper.)

Abbott, K. & Snidal, D. (2000). Hard law and soft law in international governance, *International Organization*, Vol. 54, No. 3, pp. 421-56.

Abramson, P.R. & Inglehart, R. (1995). *Value change in global perspectives*. Ann Arbor: The University of Michigan Press.

Fujimaki, M. & Segawa, M. eds. (2003). *Gendai tohnan ajia nyumon* [Introduction to Contemporary Southeast Asia]. Tokyo: Kokon Shoin.

Fujita, T., and Yoshino, R. (2009). Social values on international relationships in the Asia-Pacific region. *Behaviormetrika*, Vol.36, No.2, pp.148-165.

Fukuyama, F. (1999). *Trust.* Tokyo: Free Press Paperbacks.

Goldstein, J. and Martin, L. (2000). Legalization, Trade Liberalization, and Domestic Politics, *International Organization*, Vol. 54, No. 3, pp. 603-32.

Goodwin, J. (2001). *No other way out: states and revolutionary movements, 1945-1991.* Cambridge: Cambridge University Press.

Guttman, L. (1982). What is not what in theory construction. In R.M. Hauser, D. Mechanic and A. Haller (eds.), *Social structure and behavior* (pp. 331-48). New York: Academic Press.

Hayashi, C. (ed.) (1973). *Japanese Americans in Hawaii.* ISM Research Report, No. 33. Tokyo: The Institute of statistical mathematics.

Hayashi, C. (1992a). Quantitative Social Research－Belief Systems, the way of thinking and sentiments of five nations—. *Behaviormetrika*, Vol. 19, No.2, pp. 127- 170.

Hayashi, C. (1992b). Belief systems, Japanese way of thinking: Interchronological and international perspectives. Social, Educational and Clinical Psychology, *Proceedings of the 22nd International Congress of Applied Psychology*, 3, pp. 3-34. Lawrence Erlbaum Associates, Publishers.

Hayashi, C. (1993). *Suhryoka* [Theory and Methodology of Quantification]. Tokyo: Asakura-syoten.

Hayashi, C. (1998). The quantitative study of national character: Interchronological and international perspectives. In M. Sasaki (ed.), *Values and attitude across nations and time* (pp. 91-114). Boston: Brill.

Hayashi, C. (2000). The Future study on national character to quantitative study on civilization from comparative study of national character (in Japanese). *The proceeding of ISM*, Vol.48, No.1, pp. 33-66

Hayashi, C. & Kuroda, Y. (1997). *Japanese culture in comparative perspective.* London: Praeger.

Hayashi, C. & Suzuki, T. (1997). *Shakai-chosa to Suryo-ka* [Social Survey And Quantification Methods]. Tokyo: Iwanami-shoten.

Hayashi, C., Yoshino, R., Suzuki, T., Murakami, M., Hayashi, F., Kamano, S., Miyake, I., & Sasaki, M. (1998). *Kokumin-sei nanaka-koku hikaku* [Comparison of national character of seven countries]. Tokyo: Idemitu-syoten.

Hayashi. C., Yoshino, R., Yamamoto, K., Kawai, T., Wakisaka, K., Miyao, S., Mori, K., Mizuno, H., Suzuki, T., & Hayashi, F. (1991). *Research on Japanese Brazilians in 1991.* ISM Research Report, No.74.

Hirano et al. (2007) . Tai-nichi kkankei wo siru jiten（Encyclopedia for the relationship between Japan and other counries） . Heibonsha: Tokyo.

Inkeles, A. (1997). *National character.* Transaction Publications.

Itobayashi, Y. (2000). Singapore: tabunka shakai wo mezasu toshi-kokka [Singapore: a city-state trying to be a multicultural society]. Tokyo: Sanshusha.
Khilnani, S. (1997). The idea of India. New Delhi: Penguin Books. Reprint with a new introduction, New Delhi: Penguin Books, 2004.
Kuroda, M. (1990). Restrictions *by mother tongue and the international mutual Understanding —survey on Arabic college students.* Toyota foundation.
Kyodo News (2008). World year book. Tokyo: Kyodo News.
Lipson, C. (1991). Why are some international agreements informal?, International Organization Vol. 45, No. 4, pp. 495-538.
Matsumoto, W. (2006). Sense of trust on organizations in East Asia--- analysis for a cross-national comparative study---. The Japanese Journal of Behaviormetrika, 33, 1, pp.25-40.
Mizuno, K., Yoshino, R., Hayashi, C., Nishihira, S., Hayashi, F.(1992), Sakamoto, Y., Murakami, M., Nakamura, T. *Nihonnjin no Kokuminnsei* [Japanese national character], Vol. 5. Tokyo: Idemitu-Shoten.
Sakamoto, Y., Tsuchiya, T., Nakamura, T., Maeda, T., & Fouse, D. (2000). A survey of national character: the 10th nationwide survey (1998). ISM report No.85. The Institute of StatisticalMathematics:Tokyo.
Yamaoka, K. (2000). Variation in attitudes and values among Japanese Americans and Japanese Brazilians across generations. *Behaviormetrika*, 27, 2, pp. 125-151.
Yoshino, R. (1992a). Superculture as a frame of reference for cross-national comparison of national character. *Behaviormetrika*, 19, 1, 23-41.
Yoshino, R. (1992b). The unbiased BIGHT model and its application to the distinction of responses to a free-answer question in a social survey. *Behaviormetrika*, 19, 2, pp. 83-96.
Yoshino, R. (1995a). *Application of cultural link analysis for comparative social survey.* ISM Research Report, No.76. Tokyo: The Institute of Statistical Mathematics.
Yoshino, R. (1995b). *Application of cultural link analysis for comparative social survey — manual of cross-national social survey on national character —.* ISM Research Report, No.77. Tokyo: The Institute of Statistical Mathematics.
Yoshino, R. (1996). Degree of conformity for the cross-national comparative studies. In Hayashi. C. & Scheuch, E. K., *Quantitative Social Research.* Oplanden: Reske+Budrich.
Yoshino, R. (1997). Introduction to an institute of public opinion survey-the Institute of Statistical Mathematics. *The Journal of JAPOR, YORON*, 79, pp. 82-90.
Yoshino, R. (1998). A social quantum theory—for analysis the study of public Opinion survey—. *Behaviormetrika*, 25, 2, pp. 111-132.
Yoshino, R. (2000). *The Japanese American on the West coast survey.* ISM Research Report No.84. The Institute of Statistical Mathematics: Tokyo.
Yoshino, R. (2001). *Kokoro wo hakaru* [Measurement of Mind]. Tokyo: Asakura-syoten.
Yoshino, R. (2002). A time to trust – a study on peoples' sense of trust from a viewpoint of cross-national and longitudinal study on national character -. *Behaviormetrika.* Vol.29 No.2,pp.231-260.
Yoshino, R. (2005a). East Asia Values Survey –towards the development of a behaviormetric study on the cultural manifold analysis (CULMAN) —. *The Japanese Journal of Behaviormetrika*, 32, 1, pp.133-146.
Yoshino, R. (2005b) . For the development of trust and economic prosperity· A study of data science on East Asia Values Survey —. *The Japanese Journal of Behaviormetrika*, 32, 1, pp.147-160.
Yoshino, R. (2006). A social value survey of China --- on the change and stability in the Chinese globalization ---. *Behaviormetrika*, 33, 2, pp. 111-130.
Yoshino, R.(ed.) (2007). *Higashi-ajia kokusaihikakutyiya* [Easy Asia Value Survey – Science

of Data]. Tokyo: Bensei-syuppan.
Yoshino, R. (2009). Reconstruction of trust on a cultural manifold: sense of trust in longitudinal and cross-national surveys of national character. *Behaviormetrika*, Vol.36, No.2, pp.114-147.
Yoshino, R. (ed.) (2001). *Higasi-ajia no kokuminsei –dehta no kagaku* [East Asia Value Survey --- Science of Data---]. Bensei-syuppan: Tokyo.
Yoshino, R., Chino, N. & Yamagishi, K. (2007). *Ch.5 A Behaviormetirc study of civilization on Data Science*(in Jppanese). Baihuu-kan: Tokyo.
Yoshino, R., & Hayashi, C. (2002). An Overview of Cultural Link Analysis of National Character. *Behaviormetrika,* Vol. 29, No.2,pp.125-142.
Yoshino, R. & Khor, D. (1995). Complementary scaling for cross-national analyses of national character. *Behaviormetrika,* 22 (2), pp. 155-184.
Yoshino, R. Hayashi, C. Suzuki, T. (1995). Kokuminnsei no kokusai-hikaku-chousa no tame no situmon-bun no sakusei (Constrution of questionnaire for cross-national comparative social survey). *Japanese Journal of Behaviormetrika*, Vol. 22, No. 1, 62-79.
Yoshino, R., Nikaido, K., & Fujita, T. (2009). Cultural manifold analysis (CULMAN) of national character: paradigm of cross-national survey. *Behaviormetrika*, Vol.36, No.2, pp.89-114.
Yoshino, R., Zheng, Y., Phark, S. (2003). Japanese language census of the East Asia (in Japanese). *The Japanese Journal of Behaviormetrika*, 30, 1, pp.311-52.
Zheng, Y., Yoshino, R., & Murakami, M. (2006). The sense of natural environments- a comparative study of Japan and China--. *The Japanese Journal of Behaviormetrika*, 32, 2, pp.55-68.

The following is a list of ISM Research Report Series on our surveys.
(For the list of titles of all the reports in Japanese, see http://www.ism.ac.jp/editsec/kenripo/index.html)

No. 54. A Statistical Method for Comparative Study of Fundamental Structure of Social Attitude. (Hayashi, C. [ed.], 1981)
No. 59. Statistical Methods for Comparative Study of Social Attitude by Surveys. (Hayashi, C. [ed.], 1984)
No. 70. Toward the Establishment and Development of Statistical Analysis for the Study of Comparative Culture: The Fourth Attitudinal Survey of Honolulu Residents, 1988. (Hayashi, C. and Suzuki, T. [eds.], 1991[1988])
No. 71. Cultural Link Analysis for Comparative Social Research: A New Approach for the Exploration of Structure in Ways of Thinking Applied to Cross-National Analysis of General Social Attitudes. (Hayashi, C. and Suzuki, T. [eds.], 1991)
No. 72. Cultural Link Analysis for Comparative Social Research: A Codebook for A Common File of 1987's German Survey, 1987's French Survey, 1987's British Survey, 1988's U.S. Survey, and 1988's Japanese Survey. (Hayashi, C. [ed.], 1992)
No. 73. Cultural Link Analysis for Comparative Social Research: Cross-Tables by Sex and Age for 1987's German Survey, 1987's French Survey, 1987's British Survey, 1987's U.S. Survey, and 1988's Japanese Survey. (Hayashi, C. [ed.], 1993)
No. 74. Research on National Character of Japanese Brazilian: 1991~1992. (Yamamoto, K. and Mori, K. [eds.], 1993[1991~92])
No. 75. A Study of the Japanese National Character: The Ninth Nationwide Survey. (Research Committee on the Study of the Japanese National Character [ed.], 1994).

No. 76. Application of Cultural Link Analysis for Comparative Social Survey: A General Report. (Yoshino, R. and Suzuki, T. [eds.], 1995)

No. 77. Application of Cultural Link Analysis for Comparative Social Survey: A Manual for International Comparison of the National Character. (Yoshino, R. and Suzuki, T. [eds.], 1995)

No. 78. Application of Cultural Link Analysis for Comparative Social Survey: A Codebook of 1992 Italian Survey. (Yoshino, R. and Suzuki, T. [eds.], 1995)

No. 79. Application of Cultural Link Analysis for Comparative Social Survey: A List of Responses for Open-Ended Questions of 1992's Italian Survey. (Yoshino, R. and Suzuki, T. [eds.], 1995)

No. 80. Application of Cultural Link Analysis for Comparative Social Survey: A Codebook of 1993's Dutch Survey. (Yoshino, R, and Suzuki, T. [eds.], 1995)

No. 81. Application of Cultural Link Analysis for Comparative Social Survey: A List of Responses for Open-Ended Questions of 1993's Dutch Survey. (Yoshino, R. and Suzuki, T. [eds.], 1995)

No. 82. Application of Cultural Link Analysis for Comparative Social Survey: A Codebook for a Common File of 1992's Italian Survey, 1993's Dutch Survey. (Yoshino, R. and Suzuki, T. [eds.], 1995)

No. 83. A Study of the Japanese National Character: The Tenth Nationwide Survey. (Research Committee on the Study of the Japanese National Character [ed.], 1998)

No. 84. A Study of Statistical Science on Cultural Transmission: Japanese Americans on the West Coast Survey (JAWCS). (Yoshino, R.[ed.], 2000)

No. 86. Hawaii Resident Survey 1999-2000 by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2001)

No. 89. Researches on the National Character of Chinese and Japanese: A Sampling Survey in Beijing, China. (Zheng, Y. [ed.], 2003)

No. 90. Researches on the National Character of Chinese and Japanese: A Sampling Survey in Shanghai, China. (Zheng, Y. [ed.], 2003)

No. 91. East Asia Values Survey: Japan 2002 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2004)

The following reports have also been published by ISM.

The East Asia Value Survey: China 2002-03 Survey [Beijing, Shanghai & Hong-Kong] by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2004)

The East Asia Value Survey: Japan 2004A Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2005)

The East Asia Value Survey: Japan 2004B Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2005)

The East Asia Value Survey (2002-2005): Data Analysis on Peoples' Sense of Trust. (Yoshino, R. [ed.], 2006)

The Asia & Pacific Value Survey: China 2005 Survey [Beijing, Shanghai & Hong-Kong] by The Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2007)

The Asia & Pacific Value Survey: Taiwan 2006 by the Research Committee of Cross-National

Comparative Survey. (Yoshino, R. and Horoiwa, A. [eds.], 2007)

The Asia-Pacific Value Survey: South Korea 2006 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. and Matsumoto, W. [eds.], 2007)

The Asia-Pacific Value Survey: USA 2006 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2007)

The Asia & Pacific Value Survey: Singapore 2007 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2008)

The Asia & Pacific Value Survey: Australia 2007 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R., and Matsumoto, W. [eds.], 2008)

The Asia & Pacific Value Survey: India 2008 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2009)

A Study of Statistical Science on Health and Culture: Cross-National Comparative Survey on Life – 2006 America CATI Survey – (Yamaoka, K. and Yoshino, R. [eds.], 2008)

A Study of Statistical Science on Health and Culture: Cross-National Comparative Survey on Life – 2007 German CATI Survey – (Yamaoka, K. and Yoshino, R. [eds.], 2008)

Five volumes have been published as a series of "Japanese National Character Survey" by Shisei-dou (Vol.1, 2 & 3) and Idemitu-syoten (Vol.4 & 5).

Special issues on our longitudinal or cross-national surveys have been published in the following journals.

- The Japanese Journal of Statistical Mathematics, Vol.43, No.1. (1995)
  (on Japanese national character survey 1953-1993)
- The Japanese Journal of Statistical Mathematics, Vol.48, No.1. (2000)
  (on Japanese national character survey 1953-1998)
- The Japanese Journal of Statistical Mathematics, Vol.53, No.1. (2005)
  (on Japanese national character survey 1953-2003)
- Behaviormetrika Vol.29, No.2 (2002) & Vol.30, No.1 (2003)
  (on our past longitudinal and cross-national surveys of national character 1953-2001)
- The Japanese Journal of Behaviormetrika, No.32-1(2005) & 33-1 (2006).
  (on the East Asia Values Survey 2002-2005).

The papers of these special issues are available on a free online journal of the Journal of Behaviormetrika (http://www.jstage.jst.go.jp/browse/bhmk), the Japanese Journal of Behaviormetrika (http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jbhmk/).

As for our past surveys, see our home pages of the Institute of Statistical Mathematics **http://www.ism.ac.jp/~yoshino/** and **http://www.ism.ac.jp/ism_info_j/kokuminsei.html.**)

Note: In the case we find some errors in our reports or data, we will list them in our home page: http://www.ism.ac.jp/~yoshino/, where you can see our past surveys too.

目次　　ページ

1. 研究計画調書、交付申請書、実績報告書等 ・・・ 1

2. 環太平洋価値観国際比較･各国調査の
標本抽出計画と回収状況について ・・・ 44

3. 単純集計国際比較表
a. 環太平洋国際比較表
（日本、北京、上海、香港、台湾、USA、韓国、
オーストラリア、シンガポール、インド） ・・・ 133
b. 過去の国際比較調査データ比較表 ・・・ 154

4. 本研究関連の学会誌発表等（主要論文のみ） ・・・ 174

5. 調査票 ・・・ 287
a. 日本調査原票 ・・・ 288
b. 英語調査票（オーストラリア、USA、シンガポール、インド版）
（各地の英語調査票は表現が異なることに注意） ・・・ 322
c. 項目の出典履歴 ・・・ 436

The Asia - Pacific Values Survey

Content

		Page
1.	The Objective of This Survey	· · · 1
2.	On Sampling and Valid Questionnaire Returns in Each Area or Country	· · · 44
3.	Cross-National-Tabulation	
	a. The Asia - Pacific Cross-National Tabulation (Japan, Beijing, Shanghai, Hong-Kong, Taiwan, U.S.A., South Korea, Australia, Singapore, India)	· · · 133
	b. The Cross-National Tabulation of Our Past Surveys.	· · · 154
4.	Some Major Publication of Data Analyses	· · · 174
5.	Questionnaire	· · · 287
	a. The Japanese Questionnaire	· · · 288
	b. The English Questionnaires of Australia, USA, Singapore & India. (There are some variations of the wordings of questionnaires.)	· · · 322
	c. History of items.	· · · 436

1. 研究計画調書、交付申請書、実績報告書等

1頁目に限り端まで
「桃色」を塗ること。

機関番号	研究種目番号	審査区分番号	細目番号	分割番号	整理番号
62603	04	3	1010	—	0001

平成18年度（2006年度）基盤研究（A）（海外学術調査）研究計画調書

平成17年11月 7日
3版

新規

研究種目	基盤研究(A)		審査区分	海外学術調査			
審査希望分野	社会科学B						
関連する細目	統計科学						
研究代表者氏名	(フリガナ)	ヨシノ　リヨウゾウ					
	(漢字等)	吉野　諒三					
所属研究機関	統計数理研究所						
部　局	データ科学研究系						
職	教授						
研究課題名	環太平洋価値観国際比較－東アジア周辺諸国の「信頼感」の統計科学的解析－						
研究経費（千円未満の端数は切り捨てる）	年度	研究経費（千円）	使用内訳（千円）				
			設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
	平成18年度						
	平成19年度						
	平成20年度						
	平成21年度						
	総計						
分担金の配分	無						
開示希望の有無	審査結果の開示を希望する						
研究計画最終年度前年度応募	--						

研究組織（研究代表者及び研究分担者）

※ 研究分担者も応募資格を有する者であり、本研究計画に常時参加する者です。

	氏名（年齢）	所属研究機関 部局 職	現在の専門 学位 役割分担	平成18年度 研究経費 （千円）	エフォート （%）
研究代表者	ヨシノ　リヨウゾウ 吉野　諒三	（62603）統計数理研究所 （913）データ科学研究系 （20）教授	国際比較調査・数理心理学 Ph. D. in Psychology 総括、及び調査企画・監督		
研究分担者	ババ　ヤスマサ 馬場　康維	（62603）統計数理研究所 （913）データ科学研究系 （20）教授	行動計量学・官庁統計 理学博士 調査企画・データ解析		
研究分担者	マエダ　タダヒコ 前田　忠彦	（62603）統計数理研究所 （913）データ科学研究系 （21）助教授	計量心理学・社会調査 文学修士 計量心理学的データ解析		
研究分担者	ツチヤ　タカヒロ 土屋　隆裕	（62603）統計数理研究所 （913）データ科学研究系 （21）助教授	教育心理学・社会調査 教育学博士 教育統計的データ解析		
研究分担者	ハヤシ　フミ 林　文	（32718）東洋英和女学院大学 （314）人間科学部 （20）教授	社会心理学・行動計量学 学士 調査企画・社会心理学的データ解析		
研究分担者	ヤマオカ　カズエ 山岡　和枝	（82602）国立保健医療科学院 （999）技術評価部 （25）室長	医療統計学・行動計量学 医学博士 調査企画・医療文化人類学的データ解析		
研究分担者	ササキ　マサミチ 佐々木　正道	（14503）兵庫教育大学 （102）学校教育学部 （20）教授	国際社会学 Ph.D. in Sociology 社会学的データ解析		
研究分担者	ナカオ　ケイコ 中尾　啓子	（22601）東京都立大学 （207）人文学部 （21）助教授	社会学・ジェンダー研究 Ph.D. in Sociology 社会学的データ解析		
研究分担者	テイ　ヤクグン 鄭　躍軍	（64303）総合地球環境学研究所 （913）研究部 （21）助教授	環境調査 農学博士 調査監督・環境意識データ解析		
研究分担者	マツモト　ワタル 松本　渉	（62603）統計数理研究所 （913）データ科学研究系 （23）助手	ＮＰＯ学・社会調査 学術博士 社会心理学的データ解析		
合計　10　名		（うち他機関の分担者数　5　名）	研究経費合計		

62603-04-3-1010- -0001

研　究　目　的

（①研究の全体構想及びその中での本研究課題の具体的な目的について、科学研究費の交付を希望する期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか、
②当該分野におけるこの研究（計画）の学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義、
③国内外の関連する研究動向や自らのこれまでの研究実施状況を踏まえ、当該研究の独創性・特色などに関する位置付け（適宜、文献を引用しつつ説明する。文献の引用形式については研究業績欄に準ずること。）、
について焦点を絞り、具体的かつ明確に記入してください。）

1）今回の科学研究費の交付希望期間内には、以下のa)、 b)、 c)に重点をおいて研究を遂行する。

a) 文化の伝播変容を統計科学的に解明するために、**環太平洋諸国の人々の意識構造**について統計科学的「標本抽出法」に則った面接調査を遂行する。

b) 特に、21世紀における国際交流の中で、環太平洋諸国民の**「信頼感」のあり方**について焦点を当て、世界の政治・経済の平和的発展の一助となる基礎情報の収集を推進させる。

c) 収集した「環太平洋諸国民の意識調査」の情報を中心に、既存の「意識の国際比較調査データ」等を含むデータ・ベースを作成し、コンピューター・ネットワーク等を利用して世界へ一般公開する。

2）研究の背景（特色、予想される結果と意義）

統計数理研究所では、1953年以来、**「日本人の国民性」**に関する意識調査を継続してきた。これは、戦後導入された標本抽出理論の実践的応用の確立を目指すものであり、また戦後の民主主義の発展を目的とした官民の調査機関による**世論調査発展**の基盤の一つとなった。これに関連して多くの実験調査や様々な統計分析法の研究が生まれ、統計学における実証的データ解析の発展にも刺激を与えてきた（水野他，1992)。これは日本の独創であり、世界的にも海外の研究者達が例えば「一般社会調査(米国GSS)」、「世界価値観調査」(Inglehartら)、Eurobarometer（EU委員会）など様々な調査を遂行するようになる契機を与えたのであった(吉野，2003)。

この研究は、国民性をより深い観点から考察する目的で、1971年頃より海外の日系人調査を初めとして、**「意識の国際比較調査」**へと拡張されてきた(林他,1998)。調査された国・地域のいくつかは言語や文化を共有しているために全体として比較研究の興味深い対象となり、**「連鎖的比較の調査研究**（Cultural Link Analysis)」と呼ばれる方法論が発展し、蓄積されてきたデータは世界的にも貴重な資料として認められている。これは統計学としては、**「データの科学」**という新たな実践的パラダイムの展開へ結びついている（林，2001；吉野，2001)。

21世紀初頭の今日、世界秩序の再構成が進み、より大きな単位によって構成された国際社会が生まれつつある。この国際的潮流は、広義の民主主義の拡大として特徴づけられるであろうが、その成功には国家間、民族間の円滑な相互理解が重要である。しかし、現実には異なる文明圏の間での紛争が絶えず、今日の世界的武力緊張に至っている。各々の民族は長い歴史の中でそれぞれに必要な生活習慣、倫理、宗教、人間関係等、民族固有の文化を発展させてきた。この意味での文化が各国固有の政治・経済の基盤にある。各国の文化や国民性を各国が相互に深く理解することが、世界の平和的な政治・経済の発展を促進させる鍵となっている。

一方で、各国内部でも伝統的な社会システムが崩壊しつつあり、職場、家庭、教育現場における人間関係にも大きな変化が見られ、学級崩壊、家庭の崩壊、政治不信など、「信の崩壊」の時代となっている。しかし新たな社会の確立とともに**新たな時代の信頼感**が確立されるのであろう。そのための**基礎情報**として、現在の国内外の状況を適確に把握する必要がある。

日本は高齢化社会の中で労働人口が減少し、種々の社会問題を抱え、今日の世界経済での地位を保ち続けるのは困難となると予想されている。このために特に近隣諸国からの外国人労働者の積極的受けれを始めとして、国際交流がますます必然となろうが、これに伴い、日常生活の中でも異文化間摩擦が様々な形で現われて来る懸念がある。この状況を生産的な形へ方向転換するために、異文化間理解、文化変容の研究がますます重要となってくる。この意味で、本研究で統計科学的に適正に

研　究　目　的　（つづき）

収集された調査データが広く世界の人々に活用され、国内外での異文化間摩擦を回避し、世界の秩序の維持と発展の一助とすることの意義が了解されるであろう。また、調査データの一般公開により、世界の人文社会科学の研究者、統計学者の多様な実証的研究をも促進させることが期待されよう。

3)国内外の関連研究の中での本研究の位置づけ

上記2)のように、本研究は日本の独創の上にあり、国外ではInglehartらの「世界価値観調査」やミシガン大学のGSS（米国の一般社会調査）をはじめとする各国の様々な継続的国際比較調査研究に影響を与え、また国内では逆輸入の形で日本版GSSが社会学者達によって開始されている。さらにNHKのISSP（国際共同比較調査）等のマスコミによる調査や東京大学東洋文化研究所によるアジア・バロメターも、多様かつ広範に発展している。しかし、いずれも、統計数理研究所研究所を中心とした過去半世紀の「日本人の国民性」及び「意識の国際比較」研究における統計的方法論を基準とした上で、各自の工夫によって調査が展開されてきたのである。

我々自身の最新の研究では、特に日本、中国(北京、上海、香港)、台湾、韓国、シンガポールを含む東アジア諸国の人々の価値観調査を遂行し、かなり異なる各国の標調査環境の中で、各国の状況に適切な統計科学的標本抽出方法を検討、開発し、面接調査を実践してきた(吉野編，2003a,2003b，2005a,2005,b,2005c)。これは、他方では、我々の過去の「日米欧の7カ国比較調査」（林他，1998）の結果とあわせ、異なる文化圏を日本を軸として重複交差し、連鎖的比較を実践したのであった。

本研究の先駆となる研究の成果は、分析結果と開発された方法論を含めて、国内外の研究者、教育機関（教科書中の引用など)、行政、マスコミなどにより長年にわたり広く引用されてきた。また、統計数理研究所が発刊する研究リポートや報告書の形で国内外の大学や機関に配布され、活用されている。

このような研究経緯と現在の世界情勢の中で、本研究では「東アジア共同体」として新たな世界秩序の一つの極となりつつある東アジアが、この地域だけの枠内にとどまり発展を目指すのか、あるいはアメリカやオーストラリア、ニュージーランド等を含めた「環太平洋圏」の枠組みの中で発展を目指すのかという現実の世界的問題を念頭におき、当該地域の諸国民の意識構造、特に「信頼感」のあり方についての情報を日本や各国の研究者自らが的確に収集し、一般に提供することで、国内外で学術的にも行政的にも活用され得る成果が期待されよう。

参考文献

林知己夫．(2001)．データの科学シリーズ「心を測る」―個と集団の意識の科学―．朝倉書店.
林知己夫、鈴木達三、吉野諒三、三宅一郎、佐々木正道、村上征勝、林文（編集）(1998)．「国民性７ヶ国比較」出光書店.
水野欽司、鈴木達三、吉野諒三、林知己夫、西平重喜、林文他（編集）(1992)．「第五 日本人の国民性」戦後昭和期総集．第三章三節「宗教」執筆．出光書店.
吉野諒三．(2001)．データの科学シリーズ「心を測る」― 個と集団の意識の科学 ―　朝倉書店.
吉野諒三．(2003)．「日本における国民性研究」(「国民性論」---精神社会的展望---．A. Inkeles著　吉野諒三訳の附章，pp. 448-470，吉野原著部分.)　出光書店.
吉野諒三編(2003a)．　東アジア価値観国際比較調査「信頼感」の統計科学的解析2002年日本調査
吉野諒三編(2003b)．　東アジア価値観国際比較調査－2002年中国調査（北京・上海・香港）報告書－．統計数理研究所研究.
吉野諒三編（2005a)．東アジア価値観国際比較調査－2003年台湾調査報告書－．統計数理研究所.
吉野諒三編（2005b)．東アジア価値観国際比較調査－2003年韓国調査報告－．統計数理研究所.
吉野諒三編（2005c)．東アジア価値観国際比較調査－2004年シンガポール調査報告－　統計数理研究所.

従来の研究経過・研究成果　〈Ⅰ及びⅡを区別するため、Ⅰを記入後は点線を引いて分けてください。〉

Ⅰ．この研究課題又はこれに密接に関連した研究課題で、研究代表者が従来受けた科学研究費補助金の研究種目、期間（年度）、研究課題名、研究経費を記入のうえ、それぞれの当初の研究計画、研究経過及び研究成果等について、具体的かつ明確に記入してください。

Ⅱ．Ⅰ以外で、この研究課題又はこれに密接に関連した研究課題で受けた、科学研究費補助金以外の研究費（所属研究機関より措置された研究費、府省・地方公共団体・研究助成法人・民間企業等からの研究費を含む。）におけるそれぞれの研究経過・研究成果等について、名称、期間（年度）、研究課題名、研究者（研究代表者又は研究分担者）氏名、研究経費を記入のうえ、具体的かつ明確に記入してください。

なお、従来受けた研究費には現在遂行中の研究も含みます（ただし、４頁目の研究計画最終年度前年度の応募に記載のものは除く）。

本研究は、統計数理研究所による 1953 年以来の「日本人の国民性」調査及び 1971 年以来の「意識の国際比較調査」の一連の研究の流れの中にある。この間、機関研究としてのみならず、多方面からの財政的支援を受けている。以下は、本申請研究の代表者が直接携わった文部省科学研究費補助金による近年の主要な調査プロジェクトのみを列挙する。

1）特別推進研究　(1986-90)「意識の国際比較方法論の研究――新しい統計的社会調査方法の確立とその展開」(林知己夫[代表]、佐々木正道、林文、吉野諒三)　１２，９５０万円

2) 国際学術研究　(1988-90)「意識の国際比較方法論の研究　―連鎖的比較方法論の確立とその展開」(林知己夫[代表]、佐々木正道、林文、吉野諒三他)　１，７９１万円

3) 日本学術振興会・日米共同研究費　「日本人とアメリカ人」(1990) 林知己夫[代表]、吉野諒三、佐々木正道、林文、A. Inkeles、M. Lipset、H. Scheumann 他)　２５０万円

4)　試験研究 A(1)「意識の国際比較における連鎖的調査方法論の実用化に関する研究」(1992-94)(吉野諒三［代表]、鈴木達三、林知己夫、佐々木正道、林文)　３，８４０万円

5)　試験研究 A(1)　(1996-97)　「社会構造と国民性の形成過程に関する研究」(佐々木正道[代表]、吉野諒三、林知己夫、鈴木達三、林文、山岡和枝他)　２，２５０万円

6) 基盤研究 A(2)　(1998-2000)「国民性の意識調査データに基づく文化の伝播変容のダイナミズムの統計科学的解析」(吉野諒三［代表]、林知己夫、林文、山岡和枝、村上征勝他) ２，４２０万円

7)　基盤研究 A(2)(1999-2001)「文化の伝搬変容の統計科学的解析ーハワイ日系人･非日系人国際比較調査ー」(吉野諒三［代表]、林知己夫、林文、山岡和枝、F.Miyamoto 他)　１，８０８万円

8)　基盤研究 A(2)(2002-05)「東アジア価値観国際比較調査-「信頼感」の統計科学的解析-」(吉野諒三［代表)、村上征勝、馬場康維、土屋隆裕、林文、山岡和枝、鄭躍軍他 ３，２８０万円

上記の１)、２）では、文化の「連鎖的比較方法論 CLA」を開発し、３）では日米の比較研究の中で国際的かつ学際的研究テーマについて CLA の実践的検討を行い、、その有効性を確認した。5）は特定のテーマに焦点を当てた国内での実践的応用を示し、さらに 6）及び 7）では海外の日系人に焦点を当て、既存の「日本人の国民性調査」の時系列的データと「意識の国際比較調査データ」との関連の中で、「文化の伝播変容」に関して時間・空間的変化を追求した。この中で,日本人や日系人固有の対人関係（義理人情）や宗教意識（信心を持たない人々も「宗教的態度が大切」と考えている等)、回答傾向（極端な回答を避ける等）が計量的に明瞭になってきた。8)は CLA を東アジア圏に適用し、東アジアの人々の意識構造を探った。

広範にわたる調査結果や分析の詳細を、敢えて国際比較研究の統計学的な方法論に限って要点を述べれば、次の 3 点にまとめられる。即ち、１）各国や各地域では、異なる標本抽出調査が用いられており、単純な回答数値の比較のみで議論するのは危険であること。２）同一言語でも微妙な表現の差異で回答分布に 10～15%程度の差異を生み出すこともあること（バックトランスレーションによる検討)。３）このような問題点があるが、単一質問項目ではなく、複数の項目群に統計的尺度構成や多次元パターン解析を用いれば、各国の特徴を安定したパターンとして浮かび上がらすことができるのを確認した。我々はこれを、ノイズのある現実的データから、信頼性の高い情報を引き出す探索的データ解析の方法論と位置づけ、「データの科学」と称するに至った。これらの成果はその都度、統計数理研究所研究所リポート等として発刊され、国内外に広く配布され、また関連する近年の国内外での主要な出版物の一部は本申請書の研究目的の参考文献欄や、後述の業績表に記されている。

基盤研究(Ⓐ・B)	研究機関名	統計数理研究所	研究代表者氏名	吉野諒三

準備状況等 〈Ⅰ～Ⅲを区別するため、点線を引いて分けてください。〉

Ⅰ．この研究課題の準備状況等について、焦点を絞り、具体的かつ明確に記入してください。
なお、この研究課題に密接に関連した研究課題の成果を発展させる場合は、そのことについて記入しても差し支えありません。
Ⅱ．研究を実施するために使用する研究施設・設備等、現在の研究環境の状況について記入してください。
Ⅲ．海外共同研究者がいる場合の相手国研究者との連絡調整の状況など、研究着手に向けての状況について記入してください。

②準備状況

Ⅰ．本研究では、前記の一連の研究成果を踏まえて、特に、

１） 統計的標本調査（面接法）による環太平洋諸国の人々の意識構造の国際比較を遂行し、

２） 特に、「信頼感」に関する意識・認知構造の各国民の差違の分析を進め、

３） 調査データ及び分析結果をコンピューター・ネットワーク上で世界へ一般公開させる作業を推進させる。

上記の１）に関しては、大規模標本調査の実施可能性や時間・費用の限界等を考慮して調査地域を選定したが、各国々や地域では日本のように住民票や選挙人名簿を用いた比較的理想的な標本抽出調査は難しいことが多い。これに関して、各国調査機関の過去の調査実績を調べ、検討を進めている。例えば、中国でも全国的標本調査が遂行されているのだが、実際は、標本抽出・面接作業の信頼性に疑義がもたれている。韓国では、エリア・サンプル（実態はモニター調査）が用いられており、これも全く問題が無いわけではない。東南アジアの国々では、国情により統計的無作為標本調査は難しく、不確かな推定をせざるをえない場合が少なくない。我々は、こういった事情の下で、統計的理論に則り、かつ実践的に可能な標本抽出調査を検討・模索しているきた。特に、一部地域（中国・北京など）については、既に他調査により実験的標本調査を幾度か試行して、その信頼性を評価しているところである。

２）に関しては、「信頼感」を測定する尺度として、ミシガン大学の GSS 調査の尺度項目が用いられることも多く、我々の既存の調査でも利用されていた。しかし、L.G. Zucker らの批判のように、信頼感は直接には測定できないという主張もある。我々は、国際比較データの統計的分析の工夫により、GSS の信頼感尺度でも国々のパターンの差異が明確に現れることを確認してきたが、さらに a)対人関係における交流関係 b)性格、c)社会制度等を考慮した「信頼感」の多面的・多次元的な側面を、より統計的に安定して計測する尺度構成を検討、開発してきた。これにより、F. Fukuyama ら欧米の研究者の一元的なアジア諸国の「信頼感」理論を超越した実証的研究を志している。

３）については、前述のように、特にコンピュータ・ネットワーク上で既存のデータの公開を順次進めており、これに合わせて本研究で収集するデータを公開するのは問題ない。また、さらに世界の社会調査データ・アーカイヴ等の協力を通じて、有益な形式での公開へ発展させたいと考えている。

Ⅱ． 調査実施以外では、特別な施設を必要とせず、現有の研究環境で十分である。

Ⅲ. 海外調査のためには、既に、中国，台湾，香港などの現地研究者（中国統計学会副会長 Y. Wei，香港城市大学 L-K. Chan，輔仁大学 B-J. Shia， 中国国家統計局 Y-X. Kao、韓国統計庁朴承根ら）や、環太平洋各地の標本調査に詳しい国内外の研究者たち（鈴木達三、平野健一郎，F. Miyamoto，Y. Kuroda，A. Inkeles、M. Dogan ら）との連携を図り、関連資料収集、調査地域の一部視察、調査項目の候補選定、プリテスト調査票の作成等の検討・準備作業が開始されている。

研究分担者に分担金を配分する必要性 （公募要領８頁を参照）

（応募情報（Web入力項目）の「分担金の配分」欄で「有」に該当する場合は、必ずその理由を記入してください。）

分担金は配分せず

基盤研究（Ⓐ・B）	研究機関名	統計数理研究所	研究代表者氏名	吉野諒三

研究計画・方法　〈平成１８年度の計画と１９年度以降の計画に分けて記入してください。また、以下の事項について、焦点を絞り、具体的かつ明確に記入してください。その際、Ⅰ及びⅡを区別するため、Ⅰを記入後は点線を引いて分けてください。〉

Ⅰ．研究目的を達成するための研究計画（調査研究実施国・地域及び旅行経路を説明しながら）・方法について、経費と研究計画との関連性及び研究代表者、研究分担者の役割が明らかとなるように記入してください。なお、研究計画を遂行する上で、予期される問題点に対する配慮、問題が生じたときの対応策を含めて記入してください。
　また、①海外共同研究者や科学研究費への応募資格を有しない企業の研究者等（公募要領７頁を参照）とともに調査研究を行う場合には、その必要性及びこれらの者とどのように共同して調査研究を実施していくのかについて記入してください。②研究計画のいずれかの年度において、「設備備品費」、「旅費」又は「謝金等」のいずれかの経費が９０％を超える場合には、当該経費の研究遂行上の必要性について記入してください。
Ⅱ．社会的コンセンサスが必要とされている研究、生命倫理・安全対策に対する取組が必要とされている研究など関連する法令等を遵守しなければ行うことができない研究を含む場合については、対策としてどのような措置を講じようとしているのか具体的に記入してください。（該当者のみ）

研究計画・方法（平成１８年度）

Ⅰ.

平成１８年度は、環太平洋価値観調査のために、年度の前半（4月～9月前半）では、以下の1)~4)を遂行する。

1）基礎資料（環太平洋各国の関連調査データ、文献等）を収集・整理する。同時に、我々が過去に収集してきた一連の国際比較調査データや報告書の再整理、国内外の機関による関連する調査データや報告書の内容を整理、検討する。
2）環太平洋の各地域の調査環境について確認する。各地の現地調査研究者と連携しながら、統計的標本抽出の実践的検討を行い、その遂行可能性を確認し、同時に当該地域で国際比較の意味のある調査項目の候補を選定する。
3）国内外の調査関連の研究者との連携により、調査票のトピックの検討と、質問項目の具体案の作成、推敲をする。過去の関連項目の収集や、新問作成の検討を重ねる。
4）特に本年度後半の国際比較版・日本調査用の調査票の案を作成し、海外研究者のAlex Inkeles（スタンフォード大学), Mattei Dogan（UCLA及びパリ大学)Yuan Wei(中国人民大学副学長、中国統計学会副会長)、Chan Lai Kow(香港城市大学応用統計学科教授)、Shia Ben -Chang(台湾輔仁大学統計学センター長)、Yu-Xian Kao(国家統計局)等の協力の下で検討を重ね、日本調査のプリテスト用調査票を作成、確定する。
5)さらに、米国調査のために、日本調査のプリテスト調査票を複数のバイリンガルにより、翻訳、再翻訳の繰り返し、米国語のプリテスト調査票を作成をする（バック・トランスレーションによる検討)。

年度の後半（9月後半以降）では、 以下6）及び7）のように日本と米国本土における全国レベルの標本抽出による面接調査を遂行する。即ち、

6）日本調査
9月下旬　　都市部と地方部での小規模サンプルによるプリテスト実施
10月上旬　　プリテストの結果検討の後、必要ならば修正を加え、本調査用の調査票の最終版を確定
10月中旬　　日本全地域での本調査実施
調査対象：日本全国に居住し、日本国籍をもつ成人の男女。
　計画サンプル数は1800名（有効回収率60%程度、実数1000名以上を期待)。
調査法　：住民票や選挙人名簿等から無作為層別2段抽出した対象（個人）に、訪問面接により、調査票に基づいた聞き取り調査を遂行する。名簿閲覧が不能の場合は、エリア・サンプリング等を工夫する。(調査は各地域の大学の協力により、また場合によっては調査代理機関が遂行する。)

研究計画・方法（平成１８年度（つづき））

調査項目：過去の「日本人の国民性」、「意識の国際比較調査」、「東アジア価値観国際比較調査」を参考に、本研究で対照となる各国々や地域の比較の意義のある、人々の多面的・多次元な一般的意識構造（人間関係、宗教、教育、健康、家庭、男女の役割 etc.）とともに、特に対人関係、社会的ネットワーク（ソーシャル・キャピタル）、「信頼感」、集団内や集団間の「信頼感」、社会制度やリーダーに対する「信頼感」を主とした質問項目を作成する（約 60 項目）。但し、「信頼感」の測定可能性等の問題点に配慮し、多面的・多次元的な指標や尺度構成を考案する。

7） 米国調査

9 月下旬　都市部と地方部での小規模サンプルによるプリテスト実施

10 月上旬　プリテストの結果検討の後、必要ならば修正を加え、本調査用の調査票の最終版を確定する。この際、日本調査票との整合性と各国の特殊性の双方を勘案する。

10 月中旬　米国全地域での本調査実施

調査対象：米国本土（ハワイやアラスカを除く）に居住し、米国国籍をもつ成人の男女。計画サンプル数は有効回収数 800 名以上期待。（予算、コスト、現実的な回収率を考慮した。）

調査法　：まず、最新のセンサス・データに基づき、米国の該当する全地域から統計的に無作為に地点を抽出する。次に各地点では、住民票や選挙人名簿等から無作為に抽出した対象（個人）に、訪問面接により、調査票に基づいた聞き取り調査を遂行する。名簿閲覧が不能の場合は、エリア・サンプリングやランダム・ルート・サンプリング等を工夫する。（調査は、統計的に厳密な面接調査の遂行に十分な実績があり、信頼できる米国の調査代理機関に遂行を依頼する。）

11 月上旬～12 月

a) 日本及び米国の調査回答データのクリーニング作業と、問題点がある場合の検討と対処

b) 確定されたデータのコンピューター（磁気媒体）へのデータ入力　（入力は並行して、複数名が同じ作業を行い、入力結果を相互に対照させ、確認する。）

1 月　日本及び米国調査の回収データの属性別（性・年齢層）単純集計表作成

2 月　一次的データ分析　・・・過去の関連データ、特に本調査データと時系列的データとして比較できるデータと対照させ、傾向を吟味する。

3 月　現地研究者と連絡しあい、調査結果の解釈について検討し、第一次報告書（速報）をまとめる。印刷、出版の準備作業を進行させる。

基盤研究（A）B）	研究機関名	統計数理研究所研究所	研究代表者氏名	吉野諒三

研究計画・方法 （平成１９年度以降）

平成19年度-20年度は、18年度の日米調査を受けて、同様に各国･地域の面接調査を推進させる。

平成19年度

年度の前半（4月～9月前半）では、中国（北京･上海）およびオーストラリア調査のために、以下の1)~4)を遂行する。

1) 調査する国の関連基礎資料やデータを収集・整理する。

2) 調査する国の**標本抽出**の実践的検討を行い、その遂行可能性を確認し、同時に、18 年度の日米調査の調査項目の是非を）国内外の調査関連の研究者との連携により、検討、確認する。

4) **翻訳・再翻訳** (ﾊﾞｯｸﾄﾗﾝｽﾚｰｼｮﾝ)の手続きを経て、プリテスト用中国（北京･上海）およびオーストラリア調査票を作成する。

年度の後半（9月後半以降）では、 以下5）のように中国･オーストラリアの標本抽出による面接調査を遂行する。即ち、

5) 9月下旬　　各国での**プリテスト実施**

10月上旬　　プリテストの結果検討の後、必要ならば修正を加え、本調査用の調査票の最終版確定

10月中旬　　中国とオーストラリアでの**本調査実施**

調査対象：中国（北京、上海の限定）及びオーストラリアに居住し、それぞれの国の国籍をもつ成人段女。計画サンプル数は各地域で、それぞれ1800名づつ（有効回収数1000名以上を期待)。

調査法　：中国調査では過去の経験を生かし、現地当局の協力を得て、エリア・サンプリングを遂行する。オーストラリア調査は現地の調査代理機関と標本抽出法を検討し、確定する。

11月上旬～12 月　各国の回答データのクリーニングとコンピューターへのデータ入力

1月　単純集計表作成

2月　一次的データ分析

3月　現地研究者と連絡しあい、調査結果の解釈について検討し、第一次報告書をまとめる

平成20年度は韓国、インド、シンガポールでの全国レベルでの標本抽出調査、及びタイ、マレーシア、フィリピンの各国の都市と地方の一部における面接調査を遂行する。(注：タイ、マレーシア、フィリピンでは国勢調査すら完全には遂行されていないので、通常、全国レベルの標本抽出のもととなるリストが存在せず、一部地域の調査データからの推計に頼らざるを得ない。)

作業や時間的なスケジュールは、前年度に準じて、最終的に第1次報告書（速報） を作成する。

平成21年度は、18年～20年度に収集した各国の調査データを総合的に分析し、**最終報告書**の作成と**調査データ公開**を中心として作業する。

4月～9月　　1）「環太平洋価値観国際比較調査」最終報告書用分析を進める。

2）特に、各国の「信頼感」のあり方に焦点を当てた分析報告書をまとめる。

9月～12月　「環太平洋価値観国際比較調査」データのコンピューター・ネットワークを利用した公開作業を推進させる。同時に、国内外での学会やマスコミを通じて、最終的研究成果の発表を行う。

1月～3月　「環太平洋価値観国際比較調査」最終報告書をまとめ、統計数理研究所リポート等の形で発刊し、広く国内外に配布する。

・・・

研究業績

（最近５カ年間に学術誌等に発表した論文、著書のうち本計画に関連する重要なものを選定し、現在から順に発表年次を過去にさかのぼり、発表年（暦年）ごとに点線で区切り、かつ、研究組織欄に記入された研究者ごとに記入してください。なお、この頁で記入できない場合は、裏面を使用してください。また、学術誌へ投稿中の論文を記入する場合は、掲載が決定しているものに限ります。）

発表年	研究代表者・分担者氏名	発表論文名・著書名 （論文名、著書名、著者名、学協会誌名、巻(号)、最初と最後のページ、発表年(西暦)について記入してください。） （以上の各項目が記載されていれば、項目の順序を入れ替えても可。著者名が多数にわたる場合は、主な著者を数名記入し以下を省略（省略する場合、その員数と、掲載されている順番を○番目と記入）しても可。なお、研究代表者及び研究分担者にはアンダーラインを付すこと。）
2005以降	吉野諒三	・Trust and National Character: Japanese Sense of Cross-National & Longitudinal Surveys. Comparative Sociology. (Yoshino, R., in press). ・東アジア価値観国際比較調査-文化多様体解析(CULMAN)に基づく計量的文明論の構築に向けて-. 行動計量学, 32, 2, pp. 133-146. (吉野諒三, 2005) ・富国信頼の時代へ---東アジア価値観国際比較調査における「信頼感」の統計科学的解析---. 行動計量学, 32, 2, pp. 147-160. (吉野諒三, 2005) ・The Trust of East Asia. Proceeding of 37th World Congress of IIS, p. 15. (Yoshino, R., 2005). ・東アジアの職業観. 行動計量学, 32, 2, pp. 173-190. (三好美浩、吉野諒三, 2005). ・東アジア価値観国際比較調査－2003 年度台湾調査報告書－. 統計数理研究所. (吉野諒三編, 2005). ・東アジア価値観国際比較調査－2003 年度韓国調査報告書－. 統計数理研究所. (吉野諒三編, 2005). ・東アジア価値観国際比較調査－2004 年度シンガポール調査報告書－. 統計数理研究所. (吉野諒三編, 2005).
	山岡和枝	・東アジアの人々の「健康感」と社会・文化的要因. 行動計量学, 32, 2, pp. 191-200. (山岡和枝, 2005) ・Cross national study on health and culture in the East Asia. Proceeding of 37th World Congress of IIS, p. 39. (Yamaoka, K., 2005.)
	馬場康維	・言語データは取り扱い注意！連載「ことばで測る 4.」月刊言語, Vol. 34, No. 10, pp. 82-90. (馬場康維, 2005)
	鄭躍軍	・東アジア諸国の伝統的価値観の変遷に関する計量的分析. 行動計量学, 32, 2, pp. 161-172. (鄭躍軍, 2005)
2004	吉野諒三	・「国民性」の調査-計量的文明論に向けて-. 学際、No. 12, pp. 6-12. (吉野諒三, 2004). ・On the trust of nations. Abstracts: 36th World Congress of IIS, pp233-234. (Yoshino, R., 2004). ・「科学的」世論調査法の価値. 市場調査, 259, 4-13. (吉野諒三, 2004). ・東アジア価値観国際比較調査－2002 年日本調査報告－. 統計数理研究所研究リポート No. 91. (吉野諒三編, 2004). ・東アジア価値観国際比較調査－2003 年度中国調査（北京・上海・香港）報告書－統計数理研究所研究. (吉野諒三編, 2004).
	林文	・日本人の自然観と素朴な感情. 学際、No. 12, pp32-38. (財)統計研究会. (林文、2004) ・素朴な宗教感情に関する一考察-東アジア価値観調査から-. 日本分類学会21回研究報告予稿集, No. 12, pp. 6-12. (林文, 吉野諒三, 山岡和枝, 2004).

研 究 業 績（つづき）

発表年	研究代表者・分担者氏名	発表論文名・著書名 （論文名、著書名、著者名、学協会誌名、巻（号）、最初と最後のページ、発表年（西暦）について記入してください。）
2004の続き	山岡和枝	・国際比較調査データの安定性についての検証―2003年度韓国・台湾における「健康と文化調査」および「東アジア価値観国際比較調査」データの比較―, 行動計量学, 2004,31(2),125-135. (山岡和枝, 李相侖2004).
	中尾啓子	・Social resources and occupational status attainment. International Journal of Japanese Sociology, vol.13 pp.89-99. (Nakao, K.,2004) ・「社会階層とパーソナル・ネットワーク（11章）」,「ジェンダーとパーソナル・ネットワーク（12章）」及び「社会的資源としてのパーソナル・ネットワーク（13章）」森岡清志編『都市社会の人間関係』放送大学教育振興会. (中尾啓子, 2004).
	松本渉	・「組織への信頼と所属についての国際比較」日本行動計量学会32回大会発表論文抄録集, pp.44-47.(松本渉、吉野諒三, 2004)
2003	吉野諒三	・「信頼の時代」. Eco-Forum, 特集号「ソーシャル・キャピタルPart II」、Vol.22, No.1、pp.42-51. (財)統計研究会. (吉野諒三, 2003). ・「東アジア諸国の人々の日本語観.」行動計量学、第30巻第1号、pp.311-352.(吉野諒三、鄭躍軍、朴承根, 2003).
	馬場康維	・総合特性による地域の位置付け－時間的な変化と主成分分析－. エストレーラ、No. 116, pp.56-59 及び No.117, 54-58. (馬場康維, 2003).
	佐々木正道	・The Moral Fabric of Contemporary Societies: Presidential Address. The Annals of the International Institute of Sociology, Vol.9, pp.3-26. (IIS 会長就任講演.) (Sasaki, M., 2003) . ・Comparative Research. Encyclopedia of social research methods. Sage Publications, pp.96-111. (Sasaki, M, 2003).
	山岡和枝・林文	・Health-related quality of life in Japanese lung cancer patients as determined by two questionnaires: the HRQOL-20 and the EORTC QLQ-C30 Annals of Cancer Research and Therapy 11(1&2) (Yamaoka K, Hayashi F, Hayashi C.,他4名, 2003).
	土屋隆裕・前田忠彦	・「二種類の電話調査法の比較実験調査」行動計量学, Vol.30, No.1, pp.93-109. (土屋隆裕, 前田忠彦, 2003).
2002	吉野諒三	・An overview of cultural link analysis of national character Behaviormetrika,29,2, pp.125-141.(Yoshino, R. & Hayashi, C.,2002). ・A time to trust -a study on peoples' sense of trust from a view point of cross national & longitudinal study on national character-. Behaviormetrika、Vol. 29, No.2, pp. 231-260.(Yoshino,R.,2002).
	林文・山岡和枝	・調査の実際. 朝倉書店. (林文・山岡和枝, 2002)
	佐々木正道	・大学生とボランティアに関する実証的研究（科学研究費学術図書刊行補助出版）. ミネルヴァ書房. (佐々木正道、2002).
2001	吉野諒三	・心を測る ---個と集団の意識の科学---. 朝倉書店. (吉野諒三,2001). ・文化の伝播変容の統計科学的解析－ハワイ日系人・非日系人の国際比較－. 統計数理研究所研究リポートNo.86. (吉野諒三編、2001). ・「国民性に関する意識調査データに基づく文化の伝播変容のダイナミズムの統計科学的解析」基盤研究A(2)研究成果報告書(吉野諒三編, 2001).

様　式　A－2

平成１８年度科学研究費補助金交付申請書

平成　18　年　4　月　22　日

独立行政法人
日本学術振興会理事長　殿

所属研究機関の本部の所在地及び名称	〒106－8569 東京都港区南麻布　4－6－7
	名称　統計数理研究所
所属研究機関の長の職名・氏名	職名　所長　　氏名　北川源四郎　　職印
研究代表者の部局・職	部局　データ科学研究系　　職　教授
フリガナ	ヨシノ　リョウゾウ
研究代表者の氏名	吉野　諒三　　印

次のとおり研究を実施したいので、科学研究費補助金（　基盤研究A　）の交付を申請します。

研究課題名	環太平洋価値観国際比較－東アジア周辺諸国の「信頼感」の統計科学的解析－

補助金額（交付予定額）	直接経費①	間接経費②	直接経費と間接経費の合計（①+②）	分担金の有無
	10,600,000 円	3,180,000 円	13,780,000 円	無

直接経費の費目別内訳	物品費	旅費	謝金等	その他
	80,000 円	420,000 円	600,000 円	9,500,000 円

研究組織	研究者番号 / 氏名	機関番号 / 所属研究機関・部局・職	役割分担等（本年度の研究実施計画に対する分担事項等を具体的に記入すること。）	エフォート（%）	直接経費（分担金の研究者別内訳）（円）
研究代表者	吉野　諒三	6260391320 統計数理研究所・データ科学研究系・教授	総括	４０	10,600,000
研究分担者	馬場康維	6260391320 統計数理研究所・データ科学研究系・教授	行動計量学的データ解析	３０	0
	前田忠彦	6260391321 統計数理研究所・データ科学研究系・助教授	計量心理学的データ解析	３０	0
	土屋隆裕	6260391321 統計数理研究所・データ科学研究系・助教授	教育心理学的データ解析	３０	0
	林文	3271831420 東洋英和女学院・人間科学部・教授	調査企画・社会心理学的データ解析	２５	0
	山岡和枝	8260299925 国立保健医療科学院・技術評価部・室長	調査企画・医療文化人類学的データ解析	２０	0
	佐々木正道	3261420120 中央大学・文学部・教授	社会学的データ解析	２０	0
	中尾啓子	2260120721	社会学的データ解析	１５	0
	鄭躍軍	6430391321 総合地球環境学研究所・研究部・助教授	環境学的データ解析	３０	0
研究者合計（小計）		9　名		直接経費合計（小計）	10,600,000

キーワード	①国際比較調査	②東アジア	③環太平洋	④信頼感	⑤国民性

機関番号	62603	研究種目	基盤研究A	課題番号	18252001

（1）

研究の目的

1）本研究では、以下のa)、 b)、 c)に重点をおいて研究を遂行する。

2）a)文化の伝播変容を統計科学的に解明するために、**環太平洋諸国の人々の意識構造**について統計科学的「標本抽出法」に則った面接調査を遂行する。

b）特に、21世紀における国際交流の中で、環太平洋諸国民の**「信頼感」のあり方**について焦点を当て、世界の政治・経済の平和的発展の一助となる基礎情報の収集を推進させる。

c）収集した「環太平洋諸国民の意識調査」の情報を中心に、既存の「意識の国際比較調査データ」等等を含む**データ・ベース**を作成し、コンピューター・ネットワーク等を利用して世界へ一般公開する。

本年度（～平成１９年３月３１日）の研究実施計画

平成１８年度は、環太平洋価値観調査のために、**年度の前半**では、以下の1)~4)を遂行する。

1）環太平洋各国の関連調査データ、文献等を収集・整理する。同時に、我々が過去に収集してきた国際比較調査データや報告書の再整理、国内外の機関による関連調査データや報告書の内容を整理、検討する。

2）環太平洋の各地域の調査環境について確認する。各地の調査研究者と連携しながら、統計的**標本抽出**の実践的検討を行い、その遂行可能性を確認し、同時に当該地域で国際比較の意味のある調査項目の候補を選定する。

3）国内外の調査関連の研究者との連携により、調査票のトピックの検討と、**質問項目**の具体案の作成、推敲をする。過去の関連項目の収集や、新問作成の検討を重ねる。

4）**日本調査用の調査票**を確定する。さらに、日本調査票を複数のバイリンガルにより、**米国語の調査票**を作成をする（**バック・トランスレーション**）。

年度の後半には、 日本と米国本土における全国レベルの標本抽出による面接調査を遂行する。（ただし、効果対費用を勘案し、一部は、既存のデータで代替、補完すること等も考える。）

調査対象：日本及び米国全土に居住し、それぞれの国の国籍をもつ成人の女。

調査法　：住民票や選挙人名簿等から無作為層別多段抽出した個人に、調査票に基づいた面接調査を遂行する。名簿閲覧不能の場合は、エリア・サンプリング等を工夫する。

主要な設備備品の内訳（１品又は１組若しくは１式の価格が５０万円以上のもの）

品　　名	仕　　様 (製造会社名・型)	数量	単　価 (円)	金　額 (円)	納入予定時期
該当無し					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月

（2）

様 式 A－2 別紙

研究分担者	研究者番号 / 氏名	機関番号 / 所属研究機関・部局・職	所属番号	職番号	役割分担等（本年度の研究実施計画に対する分担事項等を具体的に記入すること。）	エフォート（%）	直接経費（分担金の研究者別内訳）（円）
	6 2 6 0 3 9 1 3 2 3 松本 渉	統計数理研究所・データ科学研究系 助手			社会心理学的データ解析	３０	0
研究者合計（~~小計~~）		10 名				直接経費合計（~~小計~~）	10,600,000

（3）

様　式　C－7－1

平成１８年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 6 2 6 0 3　　2. 研究機関名 統計数理研究所

3. 研究種目名 基盤研究　A　　4. 研究期間 平成１８年度　～　平成２１年度

5. 課題番号 1 8 2 5 2 0 0 1

6. 研究課題名 環太平洋価値観国際比較－東アジア周辺諸国の「信頼感」の統計科学的解析－

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
	フリガナ　ヨシノ　リョウゾウ 吉野，諒三	データ科学研究系	教授

8. 研究分担者（所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。）

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
	フリガナ　ハヤシ　フミ 林，　文	東洋英和女学院大学・人間科学部	教授
	フリガナ　ヤマオアカ　カズエ 山岡，和枝	国立保健医療科学院・技術評価部	室長
	フリガナ　テイ　ヤクグン 鄭，　躍軍	総合地球環境学研究所・研究部	助教授
	フリガナ　マツモト　ワタル 松本，　渉		助手
	フリガナ　ササキ　マサミチ 佐々木，正道	中央大学・文学部	教授

9. 研究実績の概要（国立情報学研究所でデータベース化するため、600字～800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。）

1）本研究では、以下の a)、 b)、 c)に重点をおいて研究を遂行する。
2）a)文化の伝播変容を統計科学的に解明するために、**環太平洋諸国の人々の意識構造**について統計科学的「標本抽出法」に則った面接調査を遂行する。
b）特に、21 世紀における国際交流の中で、環太平洋諸国民の**「信頼感」のあり方**について焦点を当て、世界の政治・経済の平和的発展の一助となる基礎情報の収集を推進させる。
c）収集した「環太平洋諸国民の意識調査」の情報を中心に、既存の「意識の国際比較調査データ」等等を含む**データ・ベース**を作成し、コンピューター・ネットワーク等を利用して世界へ一般公開する。

平成１８年度は、環太平洋価値観調査のために、以下の 1)~5)を遂行した。
1）環太平洋各国の関連調査データ、文献等を収集・整理し、同時に、我々が過去に収集してきた国際比較調査データや報告書の再整理、国内外の機関による関連調査データや報告書の内容を整理、検討した。
2）環太平洋の各地域の調査環境について確認し、各地の調査研究者と連携しながら、統計的標本抽出の実践的検討を行い、その遂行可能性を確認し、同時に当該地域で国際比較の意味のある調査項目の候補を選定を行った。
3）国内外の研究者との連携により、調査票のトピックの検討、**質問項目**の具体案の作成を検討した。
4）その結果、諸費用の条件を考慮して、我々の既存の日本調査データを活用することにして、その調査票を確定し、さらに、米国語の調査票を作成をした。
5）１１月から翌年1月にかけて、米国本土における全国レベルの面接調査を遂行した。（ＮＹの Kane & Parsons, Inc.利用）
調査対象：米国居住の米国籍をもつ成人の男女。
調査法　：割り当て法により、性別、年齢層(19歳刻み)、人種の分布を考慮し調査票に基づいた面接調査を遂行した。
回収されたデータをクリーニングして、第一次報告書を作成した。

※　成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4判縦長横書1枚)を添付すること。

10. キーワード

(1)信頼感	(2)国際比較調査	(3)アジア・太平洋
(4)環太平洋	(5)データの科学	(6)国民性
(7)統計的標本抽出調査	(8)文化多様体解析CULMAN	

（裏面に続く）

11. 研究発表(平成18年度の研究成果)

〔雑誌論文〕　計（25）件

著者名	論文標題			
Yoshino, R.	A social value survey of China--- on the change and stability in the Chinese globalization---.			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
Behaviormetrika		33・2	2006	111-130

著者名	論文標題			
鄭躍軍，吉野諒三，村上征勝	東アジア諸国の人々の自然観・環境観の解析－環境意識形成に影響を与える要因の抽出－.			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
行動計量学		32・2	2006	55-68

著者名	論文標題			
鄭躍軍，吉野諒三	標本抽出名簿がない場合の個人標本抽出			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
日本行動計量学会第34回大会　発表論文抄録集			2006	224-227

著者名	論文標題			
鄭躍軍	環境意識の多様性を理解			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
毎日新聞　地域ニュース　11月11日			2006	

著者名	論文標題			
Yuejun Zheng	Cross-national Comparison of Transitions of Traditional Values in Eastern Asian Countries			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
International Conference on Comparative Social Sciences			2006	1-2

著者名	論文標題			
Zheng. et. al.	China-Japan Environmental Survey: Is Social Capital Effective for Promoting Pro-Environmental Actions?"			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
Sustainable Consumption Prod.: Opportunities & Challenges			2006	

著者名	論文標題			
Zheng. et. al.	China-Japan Environmental Survey: Is Social Capital Effective for Promoting Pro-Environmental Actions?"			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
ISA, 1105			2006	

著者名	論文標題			
鄭躍軍　他	環境問題についての日本・中国調査結果から－Social Capitalは環境行動促進に有効か？-			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
第34回環境社会学会セミナー			2006	

著者名	論文標題			
鄭躍軍	大気環境変化と人びとの環境意識との関連性			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
早坂忠裕編「大気中の物質循環に及ぼす人間活動の影響の解明」最終報告書，総合地球環境学研究所			2007	29-33

著者名	論文標題			
鄭躍軍	家族・家庭・生活満足度の変化			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
永瀬伸子編「家族・仕事・家計に関する国際比較-中国パネル調査（第2年度報告書）-」，お茶ノ水女子大学			2007	101-112

著者名	論文標題			
林　文	宗教と素朴な宗教的感情			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
行動計量学		33・1	2006	13-24

著者名	論文標題			
林　文	林知己夫の数量化の立場から			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
日本行動計量学会第34回大会　発表論文抄録集			2006	136-137

著者名	論文標題			
林　文　他	緩和ケアへの移行時期の検討：QOL継続調査			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
日本行動計量学会第34回大会　発表論文抄録集			2006	326-327

著者名	論文標題			
Yamaoka. et. al.	Conceptual equivalence and health-reported quality of life: an exploratory study in Japanese and Dutch cancer patients.			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
Quality of life Research		15・6	2006	1091-1101

著者名	論文標題			
Yamaoka. et. al.	Effect of Apolipoprotein E Genotype on Association of Menopausal status with Lipid Level in Japanese Women.			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
Journal of Health Science		52	2006	532-539

著者名	論文標題			
Yamaoka, K.	Health and Social and Cultural Factors in East Asia Value Survey and the Health and Culture Survey.			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
National Institute of Public Health Abstract			2006	2-3

著者名	論文標題			
山岡和枝、吉野諒三	調査結果の安定性の検討：健康感関連項目に見る比率と構造の分析			
		巻・号	発行年	ページ
日本行動計量学会第34回大会　発表論文集			2006	222-223

著者名	論文標題			
角田弘子、横山和仁、山岡和枝	ソーシャルキャピタルが健康に及ぼす影響ー生活と文化に関する世論調査からー			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
第６５回公衆衛生学会　日本公衆衛生学雑誌		53・10	2006	391

著者名	論文標題			
松本　渉	NPOの存在理由と組織化との関係			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
日本経営学雑誌		18	2006	56-68

著者名	論文標題			
松本　渉	東アジアにおける組織に対する信頼感ー国際比較のための信頼感の分析ー			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
行動計量学		33・1	2006	25-40

著者名	論文標題			
松本　渉	ボランティア活動や非営利組織への参加と就労観-JSS-2005を用いたデータ分析			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
JGSS Research Series		3	2007	83-94

著者名	論文標題			
松本　渉	多言語・他民族国家としてのシンガポールの分析ー東アジア価値観国際比較調査における信頼感を中心にー			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
日本行動計量学会第34回大会　発表論文抄録集			2006	248-251

著者名	論文標題			
松本　渉	シンガポール調査に見る信頼比較の可能性と課題ー東アジア価値観国際比較調査からー			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
第17回国際開発学会全国大会報告論文集			2006	315-318

著者名	論文標題			
畏岩晶、吉野諒三	中国価値観調査回収データの再検討を通した「意識の国際比較調査」データの安定性について…　文化多様体解析（CULMAN）の方法論的基礎に関する一考察　…			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
統計数理研究所リサーチ・メモランダム		No.1026	2007	

著　者　名	論　文　標　題		
Tsunoda, H., Yoshino, R.	On the Japanese Social Capital, Spirituality and Health － Gender and Cultural Differences in the Relationships between Self-reported Health, Social Capital, and Spirituality. －		
雑　誌　名	巻・号	発 行 年	ページ
統計数理研究所リサーチ・メモランダム	No. 1027	2 0 0 7	

〔図　書〕　計（ 7）件

著　者　名	出　版　社	
吉野諒三　編	統計数理研究所 平成14-17年度科学研究費補助金　基盤研究（A）　研究成果報告書	
書　名	発 行 年	総ページ数
東アジア価値観国際比較調査－「信頼感」の統計科学的研究	2 0 0 6	657

著　者　名	出　版　社	
吉野諒三　編	統計数理研究所	
書　名	発 行 年	総ページ数
環太平洋（アジア太平洋地域）価値観国際比較調査　2005年度中国（北京・上海・香港）調査報告書	2 0 0 6	521

著　者　名	出　版　社	
吉野諒三　編	統計数理研究所	
書　名	発 行 年	総ページ数
環太平洋（アジア太平洋地域）価値観国際比較調査　2006年度USA調査報告書	2 0 0 6	238

著　者　名	出　版　社	
吉野諒三　編	統計数理研究所	
書　名	発 行 年	総ページ数
環太平洋（アジア太平洋地域）価値観国際比較調査　2006年度台湾調査報告書	2 0 0 6	192

著　者　名	出　版　社	
鄭　躍軍　編	総合地球環境学研究所　研究レポートNo. 2	
書　名	発 行 年	総ページ数
東アジア環境意識国際調査　-2005年度東京調査と北京調査-	2 0 0 7	329

著　者　名	出　版　社	
鄭　躍軍　編	総合地球環境学研究所　研究レポートNo. 3	
書　名	発 行 年	総ページ数
東アジア環境意識国際調査　-2006年度台北調査とソウル調査-	2 0 0 7	292

著　者　名	出　版　社	
Yamaoka, K.	Sage	
書　名	発 行 年	総ページ数
The Multicultural Psychology of Japanese Americans (In Y. Jackson (Ed.) Encyclopedia of Multicultural Psychology)	2 0 0 6	275-281

12. 研究成果による工業所有権の出願・取得状況

計（ 0）件

工業所有権の名称	発明者	権利者	工業所有権の種類、番号	出願年月日	取得年月日

様　式　Ａ－２－１

平成１９年度科学研究費補助金交付申請書

平成　１９　年　４　月　２７　日

独立行政法人
日本学術振興会理事長 殿

所属研究機関の本部の所在地及び名称	〒１０６－８５６９ 東京都港区南麻布　４－６－７
	名称　統計数理研究所
所属研究機関の長の職名・氏名	職名　所長　　氏名　北川源四郎
研究代表者の部局・職	部局　データ科学研究系　　職　教授
フリガナ	ヨシノ　リョウゾウ
研究代表者の氏名	吉野　諒三

次のとおり研究を実施したいので、科学研究費補助金（基盤研究Ａ）の交付を申請します。
なお、交付された補助金は、補助条件に従い適正に使用します。

研究課題名　環太平洋価値観国際比較－東アジア周辺諸国の「信頼感」の統計科学的解析－

補助金額（交付予定額）	直接経費①	間接経費②	直接経費と間接経費の合計（①+②）	分担金の有無
	10,100,000 円	3,030,000 円	13,130,000 円	無

直接経費の費目別内訳	物品費	旅費	謝金等	その他
	100,000 円	900,000 円	1,100,000 円	8,000,000 円

研究組織	研究者番号 氏名	機関番号 所属番号 職番号 所属研究機関・部局・職	役割分担等（本年度の研究実施計画に対する分担事項等を具体的に記入すること。）	エフォート（%）	直接経費（分担金の研究者別内訳）（円）
研究代表者	吉野諒三	62603913320 統計数理研究所・データ科学研究系・教授	総括	４０	10,100,000
研究分担者	馬場康維	62603913320 統計数理研究所・データ科学研究系・教授	行動計量学的データ解析	３０	0
	前田忠彦	62603913327 統計数理研究所・データ科学研究系・准教授	計量心理学的データ解析	３０	0
	土屋隆裕	62603913327 統計数理研究所・データ科学研究系・准教授	教育心理学的データ解析	３０	0
○	林文	32718314220 東洋英和女学院・人間科学部・教授	調査企画・社会心理学的データ解析	２５	0
	山岡和枝	82602999225 国立保健医療科学院・技術評価部・室長	調査企画・医療文化人類学的データ解析	２０	0
	佐々木正道	32614201220 中央大学・文学部・教授	社会学的データ解析	２０	0
	中尾啓子	22601207211 首都大学東京・都市教養学部・教授	社会学的データ解析	１５	0
	鄭躍軍	64303913327 総合地球環境学研究所・研究部・准教授	環境学的データ解析	３０	0
研究者合計（小計）		９　名		直接経費合計（小計）	

キーワード	①東アジア	②環太平洋	③信頼感	④国民性	⑤

機関番号	６２６０３	研究種目	基盤研究Ａ	課題番号	１８２５２００１

会計事務担当者・部局・職・氏名	部局・職　会計課・総務・監査係長	氏名　萩原　稔

（１）

研究の目的

本研究では、以下のa)、 b)、 c)に重点をおいて研究を遂行する。

a) 文化の伝播変容を統計科学的に解明するために、**環太平洋諸国の人々の意識構造**について統計科学的「標本抽出法」に則った面接調査を遂行する。

b)特に、21世紀における国際交流の中で、環太平洋諸国民の「**信頼感**」のあり方について焦点を当て、世界の政治・経済の平和的発展の一助となる基礎情報の収集を推進させる。

c)収集した「環太平洋諸国民の意識調査」の情報を中心に、既存の「意識の国際比較調査データ」等等を含むデータ・ベースを作成し、コンピューター・ネットワーク等を利用して世界へ一般公開する。

本年度（～平成２０年３月３１日）の研究実施計画

平成１９年度は、環太平洋価値観調査のために、年度の前半は、主として以下の1)~4)を遂行する。

1) 環太平洋各国の関連調査データ、文献等を収集・整理する。同時に、我々が過去に収集してきた国際比較調査データや報告書の再整理、国内外の機関による関連調査データや報告書の内容を整理、検討する。特に、昨年度遂行した米国調査のデータ整備と解析を遂行する。

2) 本年度予定しているオーストラリアの調査環境について確認する。同国の調査研究者等と連携しながら、統計的標本抽出の実践的検討を行い、その遂行可能性を確認する。

3) 調査票は昨年度の米国調査を基本とするが、当該地域で国際比較の意味のある調査項目の確定をする。必要に応じて、国内外の調査関連の研究者との連携により、調査票のトピックの検討と、質問項目の具体案の検討、推敲をする。過去の関連項目の収集や、新問作成の検討を重ねる。

4) **オーストラリア調査用の調査票**を作成する。必要に応じて、日本調査票や米国調査票を複数のバイリンガルによりバック・トランスレーションを重ね、**オーストラリア調査票**を確定をする。

年度の後半には、 オーストラリアにおける全国レベルの標本抽出による面接調査を遂行する。

調査対象：オーストラリアに居住し、オーストラリア国籍をもつ成人の男女。

調査法：住民票や選挙人名簿等から無作為層別多段抽出した個人に、調査票に基づいた面接調査を遂行する。ただし、名簿閲覧不能の場合は、エリア・サンプリング等を工夫する。

調査データ回収後、データ・クリーニングを経て、オーストラリア調査の第一次報告書を作成する。

主要な物品の内訳（１品又は１組若しくは１式の価格が５０万円以上のもの）

品　　名	仕　様 (製造会社名・型)	数量	単　価 (円)	金　額 (円)	納入予定時期
該当無し					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月

（2）

様　式　Ａ－２－１　別紙

研究者番号	機関番号	所属番号	職番号	役割分担等（本年度の研究実施計画に対する分担事項等を具体的に記入すること。）	エフォート（%）	直接経費（分担金の研究者別内訳）（円）
氏　名	所属研究機関・部局・職					
松本　渉	626039132 8			社会心理学的データ解析	３０	0
研究者合計（~~小計~~）	１０　名			直接経費合計（~~小計~~）		10,100,000

研究分担者

（3）

様 式 C－7－1

平成１９年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機 関 番 号 | 6 | 2 | 6 | 0 | 3 | 2. 研究機関名 統計数理研究所

3. 研 究 種 目 名 基盤研究 A 4. 研究期間 平成 18 年度 ～ 平成 21 年度

5. 課 題 番 号 | 1 | 8 | 2 | 5 | 2 | 0 | 0 | 1 |

6. 研 究 課 題 名 環太平洋価値観国際比較－東アジア周辺諸国の「信頼感」の統計科学的解析－

7. 研 究 代 表 者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
	フリガナ ヨシノ リョウゾウ 吉野, 諒三	データ科学研究系	教授

8. 研究分担者（所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。）

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
	フリガナ ハヤシ フミ 林, 文	東洋英和女学院大学・人間科学部	教授
	フリガナ ヤマオアカ カズエ 山岡, 和枝	国立保健医療科学院・技術評価部	室長
	フリガナ テイ ヤクグン 鄭, 躍軍	総合地球環境学研究所・研究部	准教授
	フリガナ マツモト ワタル 松本, 渉	データ科学研究系	助教
	フリガナ ササキ マサミチ 佐々木, 正道	中央大学・文学部	教授

9. 研究実績の概要（国立情報学研究所でﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ化するため、600 字～800 字で記入。図､ｸﾞﾗﾌ等は記載しないこと。）

（下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600 字～800 字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ化するため、図､ｸﾞﾗﾌ等は記載しないこと。）

1) 本研究では、以下の a)、 b)、 c)に重点をおいて研究を遂行する。

2) a) 文化の伝播変容を統計科学的に解明するために、**環太平洋諸国の人々の意識構造**について統計科学的「標本抽出法」に則った面接調査を遂行する。

b) 特に、21 世紀における国際交流の中で、環太平洋諸国民の**「信頼感」のあり方**について焦点を当て、世界の政治・経済の平和的発展の一助となる基礎情報の収集を推進させる。

c) 収集した「環太平洋諸国民の意識調査」の情報を中心に、既存の「意識の国際比較調査データ」等を含む**データ・ベース**を作成し、コンピューター・ネットワーク等を利用して世界へ一般公開する。

平成１９年度は、環太平洋価値観調査のために、以下の 1)~5)を遂行した。

1) 環太平洋各国の関連調査データ、文献等を収集・整理し、同時に、前年度の米国調査の結果を踏まえ、我々が過去に収集してきた国際比較調査データや報告書の再整理を行った。

2) 本年度の調査対象のオーストラリアの調査環境について確認し、現地の調査研究者と連携しながら、統計的標本抽出の実践的検討を行い、その遂行可能性を確認した。

3) 調査項目は前年度の米国調査に準ずるが、その際、気がついた翻訳の問題などは検討し、解決した。

4) 10 月初頭から 11 月末にかけて、 オーストラリアにおける面接調査を遂行した。（利用）
調査対象：オーストラリアの 3 大都市(シドニー、メルボルン、ブリスベン)を含む 3 州(ニューサウスウェールズ、ヴィクトリア、クィーンズランド)の都市及び周辺地域に居住するオーストラリア国籍の成人の男女。
調査法 ：各州の性別、年齢層、人種の分布を考慮して標本抽出し、調査票に基づく面接調査を遂行した。

5) 回収されたデータをクリーニングして、第一次報告書を作成した。

※ 成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書（A4 判縦長横書 1 枚）を添付すること。

10. キーワード

(1) 信頼感	(2) 国際比較調査	(3) アジア・太平洋
(4) 環太平洋	(5) データの科学	(6) 国民性
(7) 統計的標本抽出調査	(8) 文化多様体解析 (CULMAN)	

（裏面に続く）

11.研究発表（平成１９年度の研究成果）

〔雑誌論文〕　計（１２）件

著者名	論文標題			
吉野諒三	「科学的」世論調査の価値-歴史と理論と実践の三位一体-			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
日本統計学会誌	有	37.2	2008	279-290

著者名	論文標題			
吉野諒三	UFOは存在するか？　－オバケ調査再考「合理と非合理の間」-			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
市場調査	無	２７３	2008	4-13

著者名	論文標題			
吉野諒三	「国民性」と環境問題　－多様な価値観を受け入れる政策立案のために-			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
環境情報科学	有	３７・１	2008	21-26

著者名	論文標題			
畏岩晶・吉野諒三・鄭躍軍	国際比較における「データの安定性」に関する一考察　―中国調査データの検討を通した文化多様体解析の試行―			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
統計数理	有	55・2	2007	285-310

著者名	論文標題			
吉野諒三	不信のなかにも冷静な判断			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
朝日新聞　2008年3月21日朝刊（インタビュー記事）	有	12版	2008	8面

著者名	論文標題			
鄭躍軍	抽出の枠がない場合の個人標本抽出の新しい試み―東京都における意識調査を例として―			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
統計数理	有	55・2	2007	311-326

著者名	論文標題			
鄭躍軍	アジア・バロメーター　躍動するアジアの価値観－アジア世論調査（2004）の分析と資料－			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
よろん	無	101	2008	95-99

著者名	論文標題			
鄭躍軍	中国は科学技術、韓国は経済、日本は環境			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
朝日新聞　2007年6月8日朝刊(政策面)	無		2007	

著者名	論文標題			
Yamaoka, K	Social capital and health and well-being in East Asia: a population-based study			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
Social Science and Medicine	有	66	2008	885-899

著者名	論文標題			
Matsunoto, W	A study on technical and cultural differences in survey methodology between Japan and the United States.			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
International Journal of Japanese Sociology	有	16	2007	23-34

著者名	論文標題			
前田忠彦　他	インターネット調査の抱える課題―実験調査から見えてきたこと―（その1）			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
日本世論調査協会報	無	100	2007	58-70

著者名	論文標題			
前田忠彦　他	インターネット調査の抱える課題―実験調査から見えてきたこと―（その2）			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
日本世論調査協会報	無	101	2007	79-94

〔学会発表〕計（２６）件

発表者名	発表標題		
吉野諒三	「信頼」の文化多様体　―アジア・太平洋地域の各地域共同体について―		
学会等名	発表年月日	発表場所	
日本行動計量学会第35回大会	2007.9.5	同志社大学京田辺キャンパス	

発表者名	発表標題		
畿岩晶・吉野諒三	勤労観の国際比較　―文化多様体解析の視点から―		
学会等名	発表年月日	発表場所	
日本行動計量学会第35回大会	2007.9.5	同志社大学京田辺キャンパス	

発表者名	発表標題		
角田弘子・吉野諒三・横山和仁	健康、ソーシャル･キャピタルとスッピリチュアリティ		
学会等名	発表年月日	発表場所	
日本行動計量学会第35回大会	2007.9.5	同志社大学京田辺キャンパス	

発表者名	発表標題		
Yoshino, R.	CULMAN (Cultural Manifold Analysis) on the Cross-National Comparative Survey		
学会等名	発表年月日	発表場所	
IMPS2007	2007.7.10	タワーホール船堀	

発表者名	発表標題		
Yoshino, R.	From the East Asia Value Survey to the Asia-Pacific Value Survey -Cross-National Survey on CULMAN(Cultural Manifold Analysis)-		
学会等名	発表年月日	発表場所	
IMPS2007	2007.7.11	タワーホール船堀	

発表者名	発表標題	
Tsunoda, H., Yoshino, R., Yokoyama, K.	Gender and Cultural Differences in the Relationships between Self-reported Health, Social Capital and Spirituality	
学会等名	発表年月日	発表場所
IMPS2007	2007.7.11	タワーホール船堀

発表者名	発表標題	
鄭躍軍	東アジアにおける環境意識と環境配慮行動との関連性分析	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本行動計量学会第35回大会	2007.9.5	同志社大学京田辺キャンパス

発表者名	発表標題	
鄭躍軍	規範観の国際比較－東アジアの法意識を中心に	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本行動計量学会第35回大会	2007.9.5	同志社大学京田辺キャンパス

発表者名	発表標題	
鄭躍軍	意識国際比較の視点から見た東アジア環境協調可能性	
学会等名	発表年月日	発表場所
環境経済・政策学会2007年大会	2007.10.8	滋賀大学

発表者名	発表標題	
露木聡・鄭躍軍	Landsatデータによる浙江省杭州市周辺の土地被覆変化解析	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本森林学会2007年大会	2007.4.2	九州大学

発表者名	発表標題	
Zheng, Y.	Relationships between Human Activities and Atmospheric Environment in the East Asia	
学会等名	発表年月日	発表場所
Proc. of Sino-German Workshop on Study of Eurasian Forest as Pool of Carbon Dioxide	2007.5.21	Hangzhou, Zhejiang, China

発表者名	発表標題	
Zheng, Y.	Cross-national comparison of environmental consciousness on construction of harmonious society in East Asia	
学会等名	発表年月日	発表場所
Proc. of The 3rd East Asian Symposium on Environmental and Natural Resource Economics	2008.2.20	一橋大学

発表者名	発表標題	
林　文	宗教的な心について　―アジアと日本の比較に向けて―	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本行動計量学会第35回大会	2007.9.5	同志社大学京田辺キャンパス

発表者名	発表標題	
林　文	健康観・死生観と宗教的な心―横浜市民への輸送調査から-	
学会等名	発表年月日	発表場所
第24回QOL研究会	2007.11.17	ビラフォンテーヌ汐留

発表者名	発表標題	
宮崎貴久子・中山健夫・林文	家族の死：悲嘆のケアワーク　―患者療養中から死別後までの調査報告―	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本行動計量学会第35回大会	2007.9.4	同志社大学京田辺キャンパス

発表者名	発表標題	
Hayashi, F.	Research on Religious Faith and the Religious Mind Based on Cross-Cultural Surveys	
学会等名	発表年月日	発表場所
IMPS2007	2007.7.11	タワーホール船堀

発表者名	発表標題	
山岡和枝	米国における「生命観と文化」CATI調査報告	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本行動計量学会第35回大会	2007.9.5	同志社大学京田辺キャンパス

発表者名	発表標題	
山岡和枝, 他	体型認識の歪みと食生活およびQOLの関連ー男女の比較ー	
学会等名	発表年月日	発表場所
第66回日本公衆衛生学会	2007.10.25	愛媛大学

発表者名	発表標題	
Yamaoka K	Health and Culture in East Asia and the US: a Population-based Cross Cultural Surveys	
学会等名	発表年月日	発表場所
IMPS2007	2007.7.11	タワーホール船堀

発表者名	発表標題	
Yamaoka K, Tango T	Combining Multiple Endpoints in Meta-Analysis: Effects of Lifestyle Modification on Metabolic Syndrome	
学会等名	発表年月日	発表場所
International Society for Clinical Biostatistics	2007.7.30	アレキサンドロポリス、ギリシャ

発表者名	発表標題	
Yamaoka K, et al	Relationships between Dietary Intakes and Eating Behavior in Japanese Urban Adolescents	
学会等名	発表年月日	発表場所
10th Asian Congress of Nutrition	2007.9.11	台北、台湾

発表者名	発表標題	
松本渉	アジア・太平洋地域における組織に対する信頼　―国際比較と時系列比較―	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本行動計量学会第35回大会	2007.9.5	同志社大学京田辺キャンパス

発表者名	発表標題	
Matsumoto, W.	Cross-national comparability of trust in organizations in East Asia	
学会等名	発表年月日	発表場所
IMPS2007	2007.7.11	タワーホール船堀

発表者名	発表標題	
Maeda, T. et. al.	A brief overview of Japan Children's Study Project	
学会等名	発表年月日	発表場所
IMPS2007	2007.7.12	タワーホール船堀

発表者名	発表標題	
Tanaka, D., Maeda, T., JCS Research Group	Comparison among several methods of analysis on two sets of variables	
学会等名	発表年月日	発表場所
IMPS2007	2007.7.13	タワーホール船堀

発表者名	発表標題	
Cheng, S., Maeda, T., Hoshino, T.	Latent variable analysis of two wave cohort study data	
学会等名	発表年月日	発表場所
IMPS2007	2007.7.13	タワーホール船堀

〔図　書〕　計（１１）件

著者名	出版社	
吉野諒三　編著(林文・山岡和枝・松本渉・角田弘子・村上征勝・鄭躍軍他著)	勉誠出版	
書名	発行年	総ページ数
東アジア価値観国際比較調査　データの科学	2007	383

著者名	出版社	
吉野諒三　編	統計数理研究所	
書名	発行年	総ページ数
環太平洋（アジア太平洋地域）価値観国際比較調査2007年度シンガポール調査報告書	2007	311

著者名	出版社	
吉野諒三・山岡和枝　編	統計数理研究所	
書名	発行年	総ページ数
2006年度米国CATI調査報告書	2007	155

著者名	出版社	
吉野諒三・松本渉　編	統計数理研究所	
書名	発行年	総ページ数
環太平洋（アジア太平洋地域）価値観国際比較調査　2007年度オーストラリア調査報告書	2007	254

著者名	出版社	
吉野諒三・千野直仁・山岸侯彦	培風館	
書名	発行年	総ページ数
数理心理学	2007	282

著者名	出版社		
鄭躍軍	作品社		
書名		発行年	総ページ数
『少子化とエコノミー　パネル調査で描く東アジア』(篠塚英子・永瀬伸子編)、「伝統的価値観の社会的変遷」、209-225		2008	265

著者名	出版社		
鄭躍軍	昭和堂		
書名		発行年	総ページ数
『地球への処方箋』(総合地球環境学研究所編)、「みんなの意見はなぜ大切なのか」、134-137		2007	211

著者名	出版社		
鄭躍軍	お茶の水女子大学		
書名		発行年	総ページ数
『家族・仕事・家計に関する国際比較－中国パネル調査(第3年度報告書)－』(永瀬伸子編)、「家族、家庭・生活満足度の変化」、114-123		2007	245

著者名	出版社		
鄭躍軍	お茶の水女子大学		
書名		発行年	総ページ数
『家族・仕事・家計に関する国際比較－中国パネル調査(第4年度報告書)－』(永瀬伸子編)、「家族、家庭・生活満足度の時系列的変化」、101-108		2007	168

著者名	出版社		
鄭躍軍・金明哲・村上征勝	勉誠出版		
書名		発行年	総ページ数
データサイエンス入門		2007	229

著者名	出版社		
林文	鼎書房		
書名		発行年	総ページ数
『多角的に考える家族－社会・文化・福祉－』(与那覇恵子編)、「家族に関する価値観（日本を中心に調査データから)」		2008	印刷中

12. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出　願〕　計（ 0）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取　得〕　計（ 0）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別

13. 備考

※　研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するｗｅｂページがある場合は、ＵＲＬを記載すること。

「国際比較調査データアーカイブ」(http://www.ism.ac.jp/~yoshino/)

様　式　Ａ－２－１

平成２０年度科学研究費補助金交付申請書

平成２０年　５　月　７　日

独立行政法人
日本学術振興会理事長 殿

所属研究機関の本部の所在地及び名称	〒１０６－８５６ 東京都港区南麻布4-6-7 名称　統計数理研究所
所属研究機関の長の職名・氏名	職名　所長　氏名　北川源四郎
研究代表者の部局・職	部局　データ科学研究系　職　教授
フリガナ	ヨシノ　リョウゾウ
研究代表者の氏名	吉野諒三　印

次のとおり研究を実施したいので、科学研究費補助金（　基盤研究A　）の交付を申請します。
なお、交付された補助金は、補助条件に従い適正に使用します。

研究課題名	環太平洋価値観国際比較---東アジア周辺諸国の「信頼感」の統計科学的解析---

補助金交付予定額	直接経費①	間接経費②	直接経費と間接経費の合計（①＋②）
	7,500,000 円	2,250,000 円	9,750,000 円

直接経費の費目別内訳	物品費	旅費	謝金等	その他
	100,000 円	600,000 円	800,000 円	6,000,000 円

補助事業者	研究者番号 / 氏名	機関番号 / 所属研究機関・部局・職	役割分担等（本年度の研究実施計画に対する分担事項等を具体的に記入すること。）	エフォート（%）	直接経費（研究者別内訳）（円）
研究代表者	吉野諒三	6260391320 統計数理研究所・データ科学研究系・教授	総括	40	7,200,000
研究分担者	松本　渉	6260391328 統計数理研究所・データ科学研究系・助教	社会心理学的データ解析	30	300,000
	馬場康維	6260391326 統計数理研究所・データ科学研究系・名誉教授	連携研究者として研究に参画するため。本人承諾済み。		
	前田忠彦	6260391327 統計数理研究所・データ科学研究系・准教授	連携研究者として研究に参画するため。本人承諾済み。		
	土屋隆裕	6260391327 統計数理研究所・データ科学研究系・准教授	連携研究者として研究に参画するため。本人承諾済み。		
	林文	3271831420 東洋英和女学院・人間科学部・教授	連携研究者として研究に参画するため。本人承諾済み。		
	山岡和枝	8260299925 国立保健医療科学院・技評価部・室長	連携研究者として研究に参画するため。本人承諾済み。		
	佐々木正道	3261420120 中央大学・文学部・教授	連携研究者として研究に参画するため。本人承諾済み。		
	鄭躍軍	6430391327 総合地球環境学研究所・研究部・准教授	連携研究者として研究に参画するため。本人承諾済み。		
補助事業者合計（小計）		2 名		直接経費合計（小計）	7,500,000

キーワード	①東アジア	②環太平洋	③信頼感	④国民性	⑤文化多様体解析

機関番号	62603	研究種目	基盤研究A	課題番号	18252001

経費管理担当者・部局・職・氏名	部局・職　会計課・総務・監査係長	氏名　萩原　稔

（1）

研究の目的

本研究では、以下のa)、 b)、 c)に重点をおいて研究を遂行する。

a) 文化の伝播変容を統計科学的に解明するために、環太平洋諸国の人々の意識構造について統計科学的「標本抽出法」に則った面接調査を遂行する。

b)特に、21世紀における国際交流の中で、環太平洋諸国民の「信頼感」のあり方について焦点を当て、世界の政治・経済の平和的発展の一助となる基礎情報の収集を推進させる。

c)収集した「環太平洋諸国民の意識調査」の情報を中心に、既存の「意識の国際比較調査データ」等等を含むデータ・ベースを作成し、コンピューター・ネットワーク等を利用して世界へ一般公開する。

本年度（～平成２１年３月３１日）の研究実施計画

平成２０年度は、環太平洋価値観調査のために、主として年度の前半は以下の1)~4)を遂行する。

1) 環太平洋各国の関連調査データ、文献等を収集・整理する。過去2年間に遂行した米国調査、オーストラリア調査および、国内外の機関による関連調査データや報告書の内容を整理、検討する。

2) 本年度予定しているインド調査のために調査環境の情報収集をする。統計的標本抽出の実践的検討を行い、その遂行可能性を確認する。可能であれば同国の調査研究者等と連携を模索する。

3) 調査票は過去2年間に遂行した米国およびオーストラリア調査を基本とするが、当該地域で国際比較の意味のある調査項目の確定をする。必要に応じて、国内外の調査関連の研究者との連携により、調査票のトピックの検討と、質問項目の具体案の検討、推敲をする。過去の関連項目の収集や、新問作成の検討を重ねる。

4) インド調査用の調査票を作成する。必要に応じて、日本調査票やインド調査票を複数のバイリンガルによりバック・トランスレーションを重ね、インド調査票を確定する。

年度の後半には、インドにおける全国レベルの標本抽出による面接調査を遂行する。（ただし、現地の調査環境や費用を勘案して、調査地域を限定することも考慮する。）

調査対象：インドに居住し、インド国籍をもつ成人の男女。

調査法：住民票や選挙人名簿等から無作為層別多段抽出した個人に、調査票に基づいた面接調査を遂行する。ただし、名簿閲覧不能の場合は、エリア・サンプリング等を工夫する。

調査データ回収後、データ・クリーニングを経て、インド調査の第一次報告書を作成する。

主要な物品の内訳（１品又は１組若しくは１式の価格が５０万円以上のもの）

品　　名	仕　様 (製造会社名・型)	数量	単　価 (円)	金　額 (円)	納入予定時期
該当無し					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月

（2）

様　式　Ａ－２－１　別紙

研究分担者	研究者番号 / 氏名	機関番号 / 所属研究機関・部局・職	所属番号	職番号	役割分担等（本年度の研究実施計画に対する分担事項等を具体的に記入すること。）	エフォート（%）	直接経費（研究者別内訳）（円）
○	中尾啓子	22601207211 首都大学東京・都市教養学部・教授			連携研究者として研究に参画するため。本人承諾済み。		
○							
補助事業者合計（小計）		0 名				直接経費合計（小計）	0

様 式 C－7－1

平成20年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機 関 番 号 | 6 | 2 | 6 | 0 | 3 | 2. 研究機関名 統計数理研究所

3. 研 究 種 目 名 基盤研究 A 4. 研究期間 平成 18 年 度 ～ 平成 21 年 度

5. 課 題 番 号 | 1 | 8 | 2 | 5 | 2 | 0 | 0 | 1 |

6. 研 究 課 題 名 環太平洋価値観国際比較－東アジア周辺諸国の「信頼感」の統計科学的解析－

7. 研 究 代 表 者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
	フリガナ ヨシノ リョウゾウ 吉野，諒三	データ科学研究系	教授

8. 研究分担者（所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。）

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
	フリガナ マツモト ワタル 松本，渉	データ科学研究系	助教

9. 研究実績の概要（国立情報学研究所でﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ化するため、600 字～800 字で記入。図、ｸﾞﾗﾌ等は記載しないこと。）

（下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600 字～800 字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ化するため、図、ｸﾞﾗﾌ等は記載しないこと。）

1) 本研究では、以下の a)、 b)、 c)に重点をおいて研究を遂行する。
2) a) 文化の伝播変容を統計科学的に解明するために、環太平洋諸国の人々の意識構造について統計科学的「標本抽出法」に則った面接調査を遂行する。
b) 特に、21 世紀における国際交流の中で、環太平洋諸国民の「信頼感」のあり方について焦点を当て、世界の政治・経済の平和的発展の一助となる基礎情報の収集を推進させる。
c) 収集した「環太平洋諸国民の意識調査」の情報を中心に、既存の「意識の国際比較調査データ」等を含むデータ・ベースを作成し、コンピューター・ネットワーク等を利用して世界へ一般公開する。

平成２０年度は、環太平洋価値観調査のために、以下の 1)~5)を遂行した。
1) 環太平洋各国の関連調査データ、文献等を収集・整理し、同時に、過去 2 年間の米国調査、オーストラリア調査の結果を踏まえ、我々が過去に収集してきた国際比較調査データや報告書の再整理を行った。
2) 本年度の調査対象のインドの調査環境について確認し、現地の調査研究者と連携しながら、統計的標本抽出の実践的検討を行い、その遂行可能性を確認した。
3) 調査項目は過去の米国とオーストラリア調査に準ずるが、その際、気がついた翻訳の問題などは検討し、解決した。
4) 12 月初頭から 1 月中旬にかけて、 オーストラリアにおける面接調査を遂行した。
調査対象：インドの 10 大都市(Mumbai, New Dehli など)に居住するオーストラリア国籍の成人の男女。
調査法 ：各州の性別、年齢層、人種の分布を考慮して標本抽出し、調査票に基づく面接調査を遂行した。
5) 回収されたデータをクリーニングして、第一次報告書を作成した。

※ 成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4 判縦長横書 1 枚)を添付すること。

10. キーワード

(1) 信頼感	(2) 国際比較調査	(3) アジア・太平洋
(4) 環太平洋	(5) データの科学	(6) 国民性
(7) 統計的標本抽出調査	(8) 文化多様体解析 (CULMAN)	

（裏面に続く）

11.研究発表（平成２０年度の研究成果）

〔雑誌論文〕　計（１１）件

著者名	論文標題								
吉野諒三	「科学的」世論調査の価値-歴史と理論と実践の三位一体								
雑誌名	査読の有無	巻	発行年					最初と最後の頁	
日本統計学会誌	有	37(2)	2	0	0	8		279-290	

著者名	論文標題								
吉野諒三	「国民性」と環境問題　---文化の多様性を受け入れる政策立案のために---								
雑誌名	査読の有無	巻	発行年					最初と最後の頁	
環境情報科学	有	37,1	2	0	0	8		21-26	

著者名	論文標題								
吉野諒三	継続調査の課題と将来								
雑誌名	査読の有無	巻	発行年					最初と最後の頁	
社会と調査	有	創刊号	2	0	0	8		29-35	

著者名	論文標題								
袰岩晶・吉野諒三・鄭躍軍	国際比較における「データの安定性」に関する一考察---中国調　データの検討を通した文化多様体解析の試行---								
雑誌名	査読の有無	巻	発行年					最初と最後の頁	
統計数理	有	55(2)	2	0	0	8		285-310	

著者名	論文標題								
Tsunoda, H., Yoshino, R & Yokoyama	Components of Social Capital and Socio-Psychological Factors That Worsen the Perceived Health of Japanese Males and Females								
雑誌名	査読の有無	巻	発行年					最初と最後の頁	
The Tohoku Journal of Experimental Medicine	有	216(2)	2	0	0	8		173-185	

著者名	論文標題								
袰岩晶・吉野諒三・鄭躍軍	国際比較における「データの安定性」に関する一考察---中国調調査データの検討を通した文化多様体解析の試行---								
雑誌名	査読の有無	巻	発行年					最初と最後の頁	
統計数理	有	55(2)	2	0	0	8		285-310	

著者名	論文標題								
林文	健康観・死生観と宗教的な心								
雑誌名	査読の有無	巻	発行年					最初と最後の頁	
Waves	無	55(2)	2	0	0	8		35-38	

著者名	論文標題								
林文・川崎末美・長谷川かおり・有田富美子	東洋英和女学院大学卒業生のキャリア形成の実態と意識調査報告								
雑誌名	査読の有無	巻	発行年					最初と最後の頁	
人文・社会科学論集(東洋英和女学院大学)	有	26	2	0	0	9		87-150	

著者名	論文標題							
林文	回答者の安全に対する配慮の必要な調査例－WHO「女性の健康とドメスティックバイオレンスに関する国際比較調査							
雑誌名	査読の有無	巻	発行年					最初と最後の頁
社会と調査	有	2	2	0	0	9		96-96

著者名	論文標題							
鄭　躍軍	国家観の国際比較－東アジアの政治意識を中心に－							
雑誌名	査読の有無	巻	発行年					最初と最後の頁
第36回日本行動計量学会大会発表論文抄録集	無	36	2	0	0	8		61-62

著者名	論文標題							
大坪浩一, 山岡和枝, 横山徹爾, 高橋邦彦, 西川正子, 丹後俊郎	標準化死亡比の経験的ベイズ推定量に基づく医療資源と死亡との関連：全国の市区町村を対象として							
雑誌名	査読の有無	巻	発行年					最初と最後の頁
日本公衆衛生雑誌	有	56(2)	2	0	0	8		101-110

〔学会発表〕計（２１）件

発表者名	発表標題		
吉野諒三	オバケ調査再考　―環太平洋地域の人々の「合理」と「非合理」―		
学会等名	発表年月日	発表場所	
日本行動計量学会第36回大会	2008.9.3	成蹊大学、東京	

発表者名	発表標題		
Yoshino, Ryozo	CULMAN (Cultural Manifold Analysis) -- Methodology of Longitudinal & Cross-National Comparative Survey of National Character		
学会等名	発表年月日	発表場所	
International Conference on Survey Methods in Multinational, Multiregional, and Multicultural Contexts (3MC)	2008.6.27	Berlin-Brandenburg Academy of Sciences and Humanities, Berlin, Germany	

発表者名	発表標題		
吉野諒三	世論調査の課題		
学会等名	発表年月日	発表場所	
日本世論調査協会2008年度研究大会	2008.11.13	中央大学駿河台記念館、東京	

発表者名	発表標題		
吉野諒三	Change and stability of social values		
学会等名	発表年月日	発表場所	
「現代における価値観の変容」シンポジウム、青山学院国際会議	2008.9.3	青山学院大学、東京	

発表者名	発表標題		
畏岩晶・吉野諒三	階層意識と勤労観に関する文化多様体解析　―環太平洋地域を中心に―		
学会等名	発表年月日	発表場所	
日本行動計量学会第36回大会	2008.9.3	成蹊大学、東京	

発表者名	発表標題	
角田弘子・吉野諒三	社会心理的要因と健康について　―「信頼感」、「宗教」、「霊性」―	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本行動計量学会第36回大会	2008.9.3	成蹊大学、東京

発表者名	発表標題	
Matsumoto, Wataru	Cultural linkage analysis to compare trust in organizations in East Asia	
学会等名	発表年月日	発表場所
International Conference on Survey Methods in Multinational, Multiregional, and Multicultural Contexts (3MC)	2008.6.27	Berlin-Brandenburg Academy of Sciences and Humanities, Berlin, Germany

発表者名	発表標題	
松本渉	多母集団間の等値条件と連鎖的な比較分析　ーアジア・太平洋地域の繰り返し調査における組織に対する信頼を中心にー	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本行動計量学会第36回大会	2008.9.3	成蹊大学、東京

発表者名	発表標題	
西舘崇・芝井清久・松本渉	市民社会調査のデータ分析から考える安全保障政策に対する意識形成の要因	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本行動計量学会第36回大会	2008.9.5	成蹊大学、東京

発表者名	発表標題	
芝井清久・西舘崇・松本渉	日本人の安全保障観と投票行動　―市民社会調査の結果から―	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本行動計量学会第36回大会	2008.9.5	成蹊大学、東京

発表者名	発表標題	
林文・小谷みどり	宗教的な心について　―環太平洋価値観調査から―	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本行動計量学会第36回大会	2008.9.5	成蹊大学、東京

発表者名	発表標題	
鄭　躍軍	Comparability and Equivalence in Cross-national Survey-Practices in the East Asian Countries	
学会等名	発表年月日	発表場所
International Conference on Survey Methods in Multinational, Multiregional and Multicultural Contexts	2008年6月27日	Berlin, Germany

発表者名	発表標題	
鄭　躍軍	規範意識と環境配慮行動ー東アジア四都市環境意識調査を中心に	
学会等名	発表年月日	発表場所
第36回日本行動計量学会大会	2008年9月3日	成蹊大学，東京

発表者名	発表標題	
鄭　躍軍	国家観の国際比較－東アジアの政治意識を中心に－	
学会等名	発表年月日	発表場所
第36回日本行動計量学会大会	2008年9月3日	成蹊大学，東京

発表者名	発表標題	
鄭　躍軍	エネルギー、環境問題、そして経済安全	
学会等名	発表年月日	発表場所
現代中国研究拠点国際シンポジウム「改革開放から３０年」	2009年2月7日	早稲田大学，東京

発表者名	発表標題	
山岡和枝	生命観と文化：米国・ドイツCATI調査結果	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本行動計量学会第36回大会	2008.9.3	成蹊大学、東京

発表者名	発表標題	
山岡和枝	アメリカ・ドイツにおける自覚的健康感と社会文化的要因の関連	
学会等名	発表年月日	発表場所
第67回日本公衆衛生学会	2008.11.7	福岡市

発表者名	*発表標題*	
Yamaoka K	Health and Culture in East Asia and Pan Pacific: a Population-based Cross Cultural Surveys	
学会等名	発表年月日	発表場所
International Conference on Survey Methods in Multinational, Multiregional, and Multicultural Contexts (3MC)	June, 26, 2008	Berlin, Germany

発表者名	発表標題	
Yamaoka K, Tango T	Multivariate multilevel analyses of the influence of social capital on self-rated perceptions of health: Multivariate response models with missing data	
学会等名	発表年月日	発表場所
The 24th International Biometrics Conference	July 17, 2008	Dublin, Ireland

発表者名	発表標題	
Yamaoka K, Tango T, Kobayashi K, Inoue K ,Kaptein A A, Nortier J WR , Kleijn W Chr	Evaluation of cross-cultural equivalence of QOL measures in clinical trials settings: a mixture model.	
学会等名	発表年月日	発表場所
International Society for Clinical Biostatistics	August 19, 2008	Copenhagen, Denmark

発表者名	発表標題	
桜井桂子、川上憲人、橋本英樹、山岡和枝、石川ひろの	全国代表サンプルにおける社会階層と心理的ストレスとの関連	
学会等名	発表年月日	発表場所
第67回日本公衆衛生学会	2008.11.7	福岡市

〔図　書〕　計（１１）件

著　者　名	出　版　社				
吉野諒三	日本評論社				
書　　名	発 行 年				総ページ数
ソーシャル・キャピタルの潜在力(稲葉編) 第1章「信頼の国際比較」(pp. 31-53)	2	0	0	8	247

著　者　名	出　版　社				
吉野諒三編	統計数理研究所				
書　　名	発 行 年				総ページ数
環太平洋価値観国際比較調査（アジア・太平洋地域）―2008年度インド調査報告書	2	0	0	9	763

著　者　名	出　版　社				
吉野諒三・山岡和枝編	統計数理研究所				
書　　名	発 行 年				総ページ数
「医療と文化の連関移管する統計科学的研究」―生命観の国際比較―ドイツCATI調査	2	0	0	8	140

著　者　名	出　版　社				
松本渉・吉野諒三（編著）	統計数理研究所				
書　　名	発 行 年				総ページ数
市民の政治参加と社会貢献の国際比較―米国調査報告書―	2	0	0	9	166

著　者　名	出　版　社				
松本渉・前田忠彦	統計数理研究所				
書　　名	発 行 年				総ページ数
市民の政治参加と社会貢献の国際比較―日本調査報告書―	2	0	0	8	144

著　者　名	出　版　社				
Matsumoto, Wataru & Maeda, Tadahiko	統計数理研究所				
書　　名	発 行 年				総ページ数
Cross-National Comparison of Political Participation and Social Contribution: Japan Survey Report -English Edition-	2	0	0	8	165

著　者　名	出　版　社				
鄭躍軍	昭和堂				
書　　名	発 行 年				総ページ数
なぜみんなの意見は大切か？『地球の処方箋』(総合地球環境学研究所編)	2	0	0	8	211

著　者　名	出　版　社				
鄭躍軍	作品社				
書　　名	発 行 年				総ページ数
伝統的価値観の変遷，『少子化とエコノミー　パネル調査で描く東アジア』(篠塚英子・永瀬伸子編)	2	0	0	8	265

著　者　名	出　版　社				
鄭躍軍	勉誠出版				
書　　名	発 行 年				総ページ数
統計的社会調査―心を測る理論と方法	2	0	0	8	315

著者名	出版社					
中尾正義・銭新・鄭躍軍編	勉誠出版					
書名				発行年		総ページ数
中国の水環境問題―開発のもたらす水不足―				2009		223

著者名	出版社					
与那覇恵子・林文編	鼎書房					
書名				発行年		総ページ数
多角的にみた家族－社会・文化・福祉 担当部分「家族に関する価値観－日本を中心に調査データから－」(pp. 11-34)				2008		220

〔出　願〕　計（ 0）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取　得〕　計（ 0）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別

13. 備考

※　研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するｗｅｂページがある場合は、ＵＲＬを記載すること。

国際比較調査データアーカイブ（http://www.ism.ac.jp/~yoshino/）

様　式　Ａ－２－１

平成２１年度科学研究費補助金交付申請書

平成２１年　４　月　１７　日

独立行政法人
日本学術振興会理事長 殿

所属研究機関の本部の所在地及び名称	〒１０６－８５６９ 東京都港区南麻布4-6-7 名称　統計数理研究所
所属研究機関の長の職名・氏名	職名　所長　　氏名　北川源四郎
研究代表者の部局・職	部局　データ科学研究系　　職　教授
フ リ ガ ナ	ヨシノ　リョウゾウ
研究代表者の氏名	吉野諒三　　印

次のとおり研究を実施したいので、科学研究費補助金（　基盤研究A　）の交付を申請します。
なお、交付された補助金は、補助条件に従い適正に使用します。

研究課題名	環太平洋価値観国際比較…東アジア周辺諸国の「信頼感」の統計科学的解析…

補助金額（交付予定額）	直接経費①	間接経費②	直接経費と間接経費の合計（①+②）
	3,900,000 円	1,170,000 円	5,070,000 円

直接経費の費目別内訳	物品費	旅費	謝金等	その他
	100,000 円	600,000 円	800,000 円	2,400,000 円

補助事業者	研究者番号	機関番号	所属番号	職番号	役割分担等（本年度の研究実施計画に対する分担事項等を具体的に記入すること。）	エフォート（%）	直接経費（研究者別内訳）（円）
	氏　名	所属研究機関・部局・職					
研究代表者		6 2 6 0 3 9 1 3 2 0					
	吉野諒三	統計数理研究所・データ科学研究系・教授			総括	40	3,600,000
研究分担者		6 2 6 0 3 9 1 3 2 8					
	松本　渉	統計数理研究所・データ科学研究系・助教			社会心理学的データ解析	30	300,000
補助事業者合計（小計）		2 名				直接経費合計（小計）	3,900,000

キーワード	①東アジア	②環太平洋	③信頼感	④国民性	⑤文化多様体解析

機関番号	６２６０３	研究種目	基盤研究Ａ	課題番号	１８２５２００１

経費管理担当者・部局・職・氏名	部局・職　会計課・総務・監査係長	氏名　萩原　稔

（1）

研究の目的

本研究では、以下のa)、 b)、 c)に重点をおいて研究を遂行する。

a) 文化の伝播変容を統計科学的に解明するために、環太平洋諸国の人々の意識構造について統計科学的「標本抽出法」に則った面接調査を遂行する。

b)特に、21世紀における国際交流の中で、環太平洋諸国民の「信頼感」のあり方について焦点を当て、世界の政治・経済の平和的発展の一助となる基礎情報の収集を推進させる。

c)収集した「環太平洋諸国民の意識調査」の情報を中心に、既存の「意識の国際比較調査データ」等等を含むデータ・ベースを作成し、コンピューター・ネットワーク等を利用して世界へ一般公開する。

本年度（～平成２１年３月３１日）の研究実施計画

平成２１年度は、過去３年間の環太平洋価値観調査の実査の総まとめとして、主として以下の1)~3)を遂行する。

1) 環太平洋各国の関連調査データ、文献等を収集・整理する。過去３年間に遂行した米国調査、オーストラリア調査、インド調査のデータの細部の確認、単純集計表、および国際比較単純集計表などの整備をする。特に、標本抽出の実践的手続きの詳細を確認し、国際比較をまとめる。

2) 総合報告書の作成
本調査研究と密接に展開された統計数理研究所の機関研究「日本人の国民性調査及び国際比較調査」における関連調査データと総合し、比較表などをまとめる。
これまでに、調査ごとに発刊してきた第一次調査報告書を、総合的にまとめる報告書を作成する。

3) データ公開
これまでも、調査ごとに、ホームページ上で調査結果や集計表などを公開してきたが、それらを総合的に整備する。
また、最終的には、個票レベルの調査データは、個人情報の保護などの法的、倫理的観点から慎重の取り扱いながらも、適切な情報公開システムの中で、一般公開して、官民学等の有効な活用に供する準備を進める。これについては、国立情報学研究所や一般社団法人社会調査協会等の関連機関とも、連携し、本調査研究のみならず、一般に日本の社会調査データの公開システムの促進に向けての検討に結びつける努力を推進させる。

主要な物品の内訳（１品又は１組若しくは１式の価格が５０万円以上のもの）

品　　名	仕　様 (製造会社名・型)	数量	単　価 (円)	金　額 (円)	納入予定時期
該当無し					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月
					平成　年　月

（2）

様　式　Ａ－２－１　別紙

研究分担者

研究者番号 / 氏名	機関番号 / 所属研究機関・部局・職	所属番号	職番号	役割分担等（本年度の研究実施計画に対する分担事項等を具体的に記入すること。）	エフォート（%）	直接経費（研究者別内訳）（円）
補助事業者合計（小計）	0 名				直接経費合計（小計）	0

（3）

2. 環太平洋価値観国際比較･各国調査の標本抽出計画と回収状況について

平成 16 年 12 月 24 日

「生活と文化に関する世論調査」（東アジア調査０４Ａ・Ｂ）の概要

社団法人　新情報センター

1　調査の設計

（1）調査地域　　全国

（2）調査対象　　満２０歳以上の男女個人

（3）標本数　　０４Ａ：1,800 人、０４Ｂ：1,200 人

（4）抽出方法　　層化二段無作為抽出法

（5）調査地点　　１２０

（6）調査方法　　調査員による個別面接聴取法

（7）調査時期　　平成 16 年 11 月 18 日～12 月 7 日（04B 調査で２地点 12 月 12 日まで実施）

2　回収結果　０４Ａ（1）有効回収数（率）　1,140 人（63.3%）

（2）調査不能数（率）　660 人（36.7%）

０４Ｂ（1）有効回収数（率）　785 人（65.4%）

（2）調査不能数（率）　415 人（34.6%）

3　回収不能内容

０４Ａ調査

転　　居	４８人 （７．３%）
長期不在	３０人 （４．５%）
一時不在	２０４人 （３０．９%）
住所不明	１９人 （２．９%）
拒　　否	３３７人 （５１．１%）
そ の 他	２２人 （３．３%）

０４Ｂ調査

転　　居	２７人 （６．５%）
長期不在	２１人 （５．１%）
一時不在	１３６人 （３２．８%）
住所不明	９人 （２．２%）
拒　　否	２１８人 （５２．５%）
そ の 他	４人 （１．０%）

(注)回収不能数を１００%とする

NO.4376／4382　生活と文化に関する世論調査（東アジア調査04A・B共通）

調査地域…全国
標本数…　1，800（04Bは1，200）
地点数…　120
調査対象…20歳以上の男女個人

上段…標本数、中段…地点数、下段…地点番号

	東京23区	他の政令指定市	10万以上の市	10万未満の市	郡部	計
北海道		30 (2) 0121～0122	30 (2) 0141～0142	15 (1) 0161	15 (1) 0181	90 (6)
東北		15 (1) 0221	45 (3) 0241～0243	30 (2) 0261～0262	45 (3) 0281～0283	135 (9)
関東	120 (8) 0301～0308	90 (6) 0321～0326	240 (16) 0341～0356	75 (5) 0361～0365	60 (4) 0381～0384	585 (39)
北陸			30 (2) 0441～0442	30 (2) 0461～0462	30 (2) 0481～0482	90 (6)
東山			30 (2) 0541～0542	30 (2) 0561～0562	15 (1) 0581	75 (5)
東海		30 (2) 0621～0622	75 (5) 0641～0645	30 (2) 0661～0662	30 (2) 0681～0682	165 (11)
近畿		75 (5) 0721～0725	135 (9) 0741～0749	45 (3) 0761～0763	30 (2) 0781～0782	285 (19)
中国		15 (1) 0821	45 (3) 0841～0843	30 (2) 0861～0862	30 (2) 0881～0882	120 (8)
四国			30 (2) 0941～0942	15 (1) 0961	15 (1) 0981	60 (4)
九州		30 (2) 1021～1022	60 (4) 1041～1044	45 (3) 1061～1063	60 (4) 1081～1084	195 (13)
計	120 (8)	285 (19)	720 (48)	345 (23)	330 (22)	1800 (120)

住民基本台帳等で抽出が不可能な場合の抽出

調査対象の抽出は原則として、住民基本台帳または選挙人名簿から抽出を行うが、いずれも使用できない場合は、次の手順により、まず世帯を抽出し、次に抽出された世帯から個人を抽出する。

〔手　順〕

１．対象世帯の抽出

市町村役場または図書館で、調査地点の「住宅地図」がコピーできるか確認する。
コピーが入手できれば、（A）の方法で対象世帯を抽出する。
コピーが入手できない場合は、（B）の方法で対象世帯を抽出する。

（A）「住宅地図」のコピーが入手できる場合

指定地域内の一番若い番地の任意の一軒を赤ペンで囲い、対象番号「０１」を記入する。

「０１」の家を起点に番地を追って２軒置き（抽出間隔３）に「０２」「０３」‥‥と対象数分の家を定める。番地の整理がされていない地域については、道路沿いの家並み順でよく、番地は前後してもよい。いずれにせよ、現地へ行く前に対象世帯を決めてしまう。

（B）「住宅地図」のコピーが入手できない場合

調査地点に行き、指定地域内の一番若い番地の家を探し、任意の一軒を選び、「０１」の対象世帯とする。「０１」の家を訪問し、後述の『個人の抽出』を行う。「０１」の家を起点に番地を追って２軒置き（抽出間隔３）に訪問する。番地の整理がされていない地域では家並み順でよい。

２．個人の抽出

抽出世帯を訪問したら調査に関する説明を行い、以下の個人抽出をする。

（１）抽出世帯で、適格者（調査対象に該当する人）が何人いるかを聞く。
例えば、２０歳以上男女個人が対象の場合、その世帯内で２０歳以上の人数を聞く。
（これは調査によって調査対象が異なるので、調査要領にしたがって決める）
特に注意することは、訪問時にいた人数ではなく、通常当該世帯で起居を共にしている人数で、下宿人や住み込みの従業員等も含めて答えてもらう。

（２）世帯内での適格者人数がわかったら、次に『抽出表』（別表）を見て、『対象番号』に該当する行を横に見て行き、『世帯内での適格者人数』に該当する列と交差する位

置にある数字を見つける。この数字は、その世帯内で適格者だけを上から（年上から順に）数えて、何番目の人を対象として抽出するかを決める数である。

例えば、対象番号「０９」の世帯に適格者５人の場合、適格者だけを年齢の上から順に数え、４番目の人を対象者として抽出することとなる。

（３）この抽出方法を用いた場合に限って、「対象者名簿」の生年月日の欄への記入は特に必要はないが、性別・満年齢は必ず記入しなければならない。

〔注　意〕

１．住所と対象者氏名も「対象者名簿」に記入する。

２．この方法は最初に対象者を確定しているため、その対象者で完了できない場合は欠票とし、補充対象者はとらない。

３．アパート・マンションは部屋番号の順に数える。

４．使用した住宅地図のコピーも提出する。

4376／4382　生活と文化に関する世論調査（東アジア調査04A・B）
抽出不能地点

地点番号	都道府県	市区町村	住 or 選	状　況	対　処
0349	千葉県	柏　市	住	官公庁の公印がない文書は一般閲覧扱いとされ、対象者に事前依頼ハガキを出さないと閲覧できな	下記参照
0326	神奈川県	川崎市中原区	住	一般閲覧扱いとされ、調査期間中に閲覧できない	〃

【対処】
住宅地図により住宅（世帯）を抽出し、その世帯から調査の対象となる世帯人数と対象番号により発生する乱数から対象者抽出した(ランダム・ルート・サンプリング)。

生活と文化に関する世論調査（東アジア価値観調査 04A）
地点別回収数および不能内訳

地点No.	県名	調査地点名	標本数	完了数	事故数	転居	長期不在	一時不在	住所不明	拒否	その他
0121	北海道	札幌市 白石区	15	10	5			2		3	
0122	北海道	札幌市 手稲区	15	10	5	2	1			2	
0141	北海道	旭川市	15	10	5			2		2	1
0142	北海道	苫小牧市	15	10	5		1	1		3	
0161	北海道	紋別市	15	10	5	1		1		3	
0181	北海道	十勝支庁 幕別町	15	10	5					5	
0241	青森県	青森市	15	11	4		1	2		1	
0281	青森県	三戸郡 五戸町	15	9	6			1		4	1
0261	岩手県	花巻市	15	11	4		2	1		1	
0221	宮城県	仙台市 太白区	15	12	3		1			2	
0282	宮城県	栗原郡 志波姫町	15	9	6	1		2		3	
0242	秋田県	秋田市	15	11	4	2				1	1
0262	山形県	米沢市	15	12	3					3	
0243	福島県	郡山市	15	10	5	1				4	
0283	福島県	伊達郡 伊達町	15	13	2			1		1	
0341	茨城県	水戸市	15	9	6			1	1	4	
0361	茨城県	守谷市	15	9	6		1	3		1	1
0381	茨城県	新治郡 霞ケ浦町	15	12	3					3	
0342	栃木県	宇都宮市	15	14	1			1			
0382	栃木県	下都賀郡 大平町	15	10	5		1			4	
0343	群馬県	高崎市	15	11	4	2	1			1	
0383	群馬県	利根郡 月夜野町	15	8	7	1	1	1	1	3	
0321	埼玉県	さいたま市 浦和区	15	6	9					9	
0344	埼玉県	川口市	15	10	5			2		2	1
0362	埼玉県	飯能市	15	10	5					5	
0345	埼玉県	春日部市	15	7	8			4		4	
0346	埼玉県	越谷市	15	9	6			5		1	
0363	埼玉県	蓮田市	15	7	8			5		3	
0384	埼玉県	児玉郡	15	6	9	1		2		5	1
0322	千葉県	千葉市	15	8	7			4	2	1	
0347	千葉県	市川市	15	9	6			4		2	
0348	千葉県	木更津市	15	11	4	1		1	1	1	
0349	千葉県	柏 市	15	5	10	1		3		4	2
0350	千葉県	我孫子市	15	10	5			4		1	
0364	千葉県	四街道市	15	12	3			1		2	
0301	東京都	新宿区	15	2	13			7		6	
0302	東京都	江東区	15	9	6			3		3	
0303	東京都	大田区	15	11	4	1		2	1		
0304	東京都	世田谷区	15	10	5			1		4	
0305	東京都	杉並区	15	7	8	2		1		4	1
0306	東京都	板橋区	15	11	4					4	
0307	東京都	足立区	15	9	6			3		2	1
0308	東京都	江戸川区	15	10	5	2	2			1	
0351	東京都	武蔵野市	15	9	6					5	1
0352	東京都	調布市	15	8	7		1			6	
0353	東京都	東村山市	15	10	5			2		3	
0323	神奈川県	横浜市 中 区	15	10	5			1		3	1
0324	神奈川県	横浜市 港北区	15	10	5			3		2	
0325	神奈川県	横浜市 栄 区	15	3	12	1		9		2	
0326	神奈川県	川崎市 中原区	15	7	8			3		5	
0354	神奈川県	横須賀市	15	8	7			1		6	
0355	神奈川県	小田原市	15	8	7		2	3		1	1
0356	神奈川県	秦野市	15	7	8			4		4	
0365	神奈川県	伊勢原市	15	9	6			3		3	
0441	新潟県	新潟市	15	8	7	2		1		2	2
0461	新潟県	加茂市	15	12	3			2		1	
0481	新潟県	岩船郡 荒川町	15	8	7	1	2	2		1	1
0442	富山県	富山市	15	11	4			2		2	
0462	石川県	加賀市	15	8	7		1	4		2	
0482	福井県	今立郡 今立町	15	15	0						
0581	山梨県	笛吹市（旧一宮町）	15	9	6	2	1			3	
0541	長野県	長野市	15	6	9	2	1	1		5	
0561	長野県	岡谷市	15	11	4		1	2		1	
0542	岐阜県	岐阜市	15	10	5		1	1		3	
0562	岐阜県	瑞浪市	15	5	10		1	3	1	5	
0641	静岡県	静岡市	15	11	4			3	1		

地点No.	県名	調査地点名	標本数	完了数	事故数	転居	長期不在	一時不在	住所不明	拒否	その他
0642	静岡県	三島市	15	10	5		1	2		2	
0661	静岡県	袋井市	15	11	4			2		2	
0621	愛知県	名古屋市 西 区	15	11	4	1			1	1	1
0622	愛知県	名古屋市 南 区	15	11	4	1		1		2	
0643	愛知県	岡崎市	15	11	4	1		1		2	
0644	愛知県	刈谷市	15	9	6	1				5	
0662	愛知県	尾張旭市	15	13	2			1		1	
0681	愛知県	西春日井郡 師勝町	15	12	3					3	
0645	三重県	四日市市	15	11	4					4	
0682	三重県	一志郡 嬉野町	15	12	3					2	1
0741	滋賀県	大津市	15	9	6			2		3	1
0721	京都府	京都市 右京区	15	11	4			4			
0761	京都府	京田辺市	15	9	6			3		3	
0722	大阪府	大阪市 大正区	15	10	5	1				4	
0723	大阪府	大阪市 住吉区	15	10	5			1		4	
0742	大阪府	堺 市	15	12	3			2		1	
0743	大阪府	吹田市	15	9	6			1		5	
0744	大阪府	枚方市	15	10	5			1		4	
0745	大阪府	寝屋川市	15	11	4			1		2	1
0746	大阪府	東大阪市	15	10	5			1		4	
0781	大阪府	泉北郡 忠岡町	15	10	5			4		1	
0724	兵庫県	神戸市 東灘区	15	9	6	1		3		2	
0725	兵庫県	神戸市 北 区	15	10	5			2		3	
0747	兵庫県	尼崎市	15	10	5			2		3	
0748	兵庫県	西宮市	15	10	5			2	1	2	
0762	兵庫県	龍野市	15	11	4					4	
0749	奈良県	奈良市	15	10	5	1		2		2	
0782	奈良県	北葛城郡 広陵町	15	10	5			3	1	1	
0763	和歌山県	田辺市	15	13	2					2	
0881	鳥取県	八頭郡 智頭町	15	6	9		1	3	3	2	
0861	島根県	平田市	15	6	9	1		2		6	
0841	岡山県	岡山市	15	7	8	1		4		3	
0882	岡山県	久米郡 中央町	15	13	2			1		1	
0821	広島県	広島市 安佐南区	15	6	9			4		5	
0842	広島県	福山市	15	9	6			2		4	
0862	広島県	大竹市	15	4	11	2		2		7	
0843	山口県	山口市	15	11	4	2			1	1	
0981	徳島県	板野郡 上板町	15	7	8		2	1		5	
0961	香川県	丸亀市	15	12	3		1	1		1	
0941	愛媛県	松山市	15	5	10	1		3	1	4	1
0942	高知県	高知市	15	9	6			2		4	
1021	福岡県	北九州市 八幡西区	15	12	3	1				2	
1022	福岡県	福岡市 西 区	15	10	5				1	4	
1061	福岡県	宗像市	15	10	5			3		2	
1081	福岡県	嘉穂郡 桂川町	15	12	3					2	1
1041	佐賀県	佐賀市	15	11	4	2				2	
1082	長崎県	西彼杵郡 香焼町	15	11	4	1		1		2	
1042	熊本県	熊本市	15	9	6		1			5	
1083	熊本県	球磨郡 球磨村	15	10	5			3		2	
1062	大分県	臼杵市	15	5	10	1		1	1	7	
1043	宮崎県	宮崎市	15	7	8	1		2	1	4	
1044	鹿児島県	鹿児島市	15	12	3			2		1	
1084	鹿児島県	姶良郡 姶良町	15	12	3			2		1	
1063	沖縄県	豊見城市	15	6	9	2	1	3		3	
		合 計	1800	1140	660	48	30	204	19	337	22

中国２００５調査（北京･上海･香港）における標本抽出計画と回収状況

1　北京・上海調査の概要

中国本土における調査では、北京と上海の都市部（各市とも全域ではない）を対象とし、確率標本抽出法に基づき個人を抽出し、面接調査を遂行した（2005 年 11 月～12 月）。

調査対象となった都市部では、「区」の下に「街道」、その下に「居民委員会･村民委員会」という行政区分となっている。国家体制が日本とは異なり、調査地域において住民基本台帳や選挙人名簿は一般には非公開のため、それらに基づく標本抽出は望めず、2002 年中国調査同様に、本節で説明するような 3 段抽出法を適用した。

注意すべきは、中国調査では費用や調査日数などの様々なコストを勘案し、地点により、やむを得ず代替個人標本（サンプル）を用いるなど、厳密な無作為標本抽出にはなっておらず、どちらかといえば、「地点抽出は無作為抽出で、各地点でのサンプル抽出は、恣意性は排除しているが、あらかじめ定められた調査対象者数が達成されるまで調査」する割当法（クォータ）に近い調査となっていることである。

理想的には、各地･各国で厳密な無作為抽出法（回答者個人レベルの確率比例抽出）によるデータ収集が望ましいことは勿論だが、費用や時間の制限など、各地での種々の制限を勘案すると、不慣れな無作為抽出法にこだわるよりも現地調査員に理解されやすい方法を用いた方が無難という判断もあろう。ただし、データ解析の時点では、この点を十分に考慮した地域比較･国際比較の可能性の程度が追求されねばならない。

割当法については、無作為標本抽出のような標本抽出誤差の推定理論はないが、無作為標本抽出との比較やデータの安定性については、「七カ国国際比較（出光書店, 1998, p. 17）」や「データの科学」（林知己夫, 朝倉書店, 2001, pp. 74-81）、「心を測る」（吉野諒三、朝倉書店、2001）が実践的データ解析上の参考となろう。

その要点を簡約すると、

1）単純集計表での一つ一つの質問項目毎の回答分布の比較では、標本抽出法の差異や、翻訳過程の微妙な表現の差異で回答結果に 10-15%程度の差が生じることもあり、その程度の差異では直ちには本質的な意味のある差異とは結論できないこと、

しかしながら、

２）複数の質問項目群に対応する回答データのパターン解析（数量化 3 類や多次元解析）の国際比較では、標本抽出法の差異、質問項目の表現の差異、一部の項目の入れ替えなどに対しても、かなり安定した結果が得られることも多い。

したがって、

３）単純集計表を用いた比較でも、一度、複数の項目群のクロス集計や多次元データ解析などでデータの安定性を確認してから、当該の単純集計表に戻り、差の有無を論ずる慎重さが必要であろう。

中国調査では、予定されている北京オリンピックや上海万国博覧会に向けて、政治経済の目覚しい発展とともに、社会の様々な状況も著しく変化している途上でもあり、これは標本抽出の条件、社会調査の環境についても同様である。将来のことはともかく、以下は、われわれがこの調査時点において種々の条件を勘案して採用した標本抽出の「操作的手続き」についての記録として、考えていただきたい。

これまで日本では、比較的完全な住民基本台帳や選挙人名簿による標本抽出が可能であり、他国と比較すれば理想に近い世論調査ができていた。しかし、調査を装った犯罪への危惧や、プライバシーの保護、近年導入された個人情報保護法の強い影響のために、有効回収率が著しく落ち（全国調査でも 50%台、場合によってはそれ以下）、そもそも名簿閲覧を規制する地方公共団体も多くなり、官公の機関ですらも、いつでも直ちに調査が遂行できるとは限らなくなってしまった。これを受けて、日本でも閲覧名簿に頼らない、いわゆるエリア・サンプリングの採用が検討され始めているが、本節の中国での標本抽出の実践は、今後の日本の調査にも参考になるであろう。

1.1　3段抽出の概略

北京と上海では、まず単純無作為抽出または人口規模に比例した無作為抽出により、居民委員会・村民委員会（日本の自治会のようなもの、以下、居民委員会と通称する）を調査地点（第1次抽出単位）として抽出した。次いで、選ばれた調査地点（居民委員会）を訪ね、各々の総世帯数を確認し、すべての世帯に番号をつけ住宅配置図を作成した上で、確認できた調査地点の世帯全体より、無作為に世帯（第2次抽出単位）を抽出した。最後に、抽出された世帯より、調査地点ごとに乱数表を利用して、標本世帯番号の最後の1桁と世帯別の成人構成員数から、個人（第3次抽出単位）を無作為に抽出した（Kish法）。

中国本土における標本計画の具体手的な手続きは、次の通りである。

第1次抽出単位の抽出

北京では完全な居民委員会別の世帯・人口に関する最新情報は不備であるため、計1824の居民委員会から無作為に50抽出した。なお、居民委員会の抽出数は調査地域の居民委員会の異動や調査不能に備え、最初に計画標本の大きさの4倍にあたる数の居民委員会を抽出しておくことにした。そして、その中から計画標本の居民委員会を第1次抽出単位として選び、残りは予備標本とした。

一方、上海では、調査地域の居民委員会リストから世帯規模に比例して居民委員会の抽出作業を行った。調査地域の約2400の居民委員会から50を計画標本として抽出した。同時に、各々の計画標本に対して、あらかじめ2つの予備標本も抽出した。

実際調査の段階で何らかの理由（注．北京オリンピックや上海万国博覧会の準備に関連する住居の強制大移動や新住居の建設などをはじめ、行政的にも地理的にも中国大都市部は大変動している）で、調査不能となった居民委員会に対しては、その居民委員会に地理的に最も近い予備標本を指示して代替させるようにした。

次に、計画標本として抽出した居民委員会に、調査監督者（複数）が現地へ赴き、総世帯数を調査し、同居民委員会が管轄するすべての世帯に住所番号をつけ、実際の世帯数の確認作業を行った。さらに、居民委員会ごとに住宅配置図を作成し、戸数や交通でのアクセス方法などを明記するようにした。

実際には、北京と上海の計画標本の50居民委員会のうち、それぞれ40と48に対する調査が完遂された。

第2次抽出単位の抽出

第2次抽出単位(世帯)の抽出については、調査地点として抽出した各居民委員会より、あらかじめ特定した数の世帯を無作為に選ぶ方法か、計画標本の各居民委員会の世帯総数から等間隔で選ぶ方法のどちらかの方法で、世帯を抽出した。(いずれにせよ、結果として、該当する居民委員会の全体を偏らずにカバーするようにした。)調査対象世帯の位置は住宅配置略図の上に番号で示し、調査実施の進行順を矢印で明記することにした。

北京では、各居民委員会の世帯に通し番号を付けた上で、無作為にその順番を決めた上、最初の40世帯を計画標本として抽出した。何らかの理由で計画された20世帯分の回収票が得られなかった場合は、あらかじめ抽出されていた予備標本40世帯のセットを新たに追加し、その名簿の順番に調査を試みることにした。これは、各居民委員会に割り当てた20世帯が調査できるまで繰り返してそのような追加標本を導入した。

一方、上海では、各居民委員会から22世帯の計画標本を等間隔に選んだ上、あらかじめ各計画世帯に対して2つの予備世帯も抽出しておいた。計画標本が調査不能となった場合には、それらを順次に予備標本として導入することにした。各居民委員会において標本抽出員が調査責任者によって無作為に決められた起算世帯住所（スタート点）より、住宅配置図上に次々と等間隔で抽出した世帯に 1、2、3、･･･のように世帯番号をつけ、訪問面接調査のための調査対象世帯リストを作成した。

第3次抽出単位の抽出

調査対象世帯に直接に面接調査を行う調査員は、表1のような標本世帯番号の下1桁数字と対応する世帯の成人の家族構成員数（生年月日の降順）をもとに定める調査対象抽出乱数表により特定された個人を、最終的に第3次抽出単位として面接の調査対象にした(Kish法)。

たとえば次の表では、15番の標本世帯に成人構成員が4人いる場合、乱数表の第3行（成人構成員数）と第5列（世帯番号の下1桁の数字）が交差するセルの数字が3となっているため、調査対象は1番目の構成員Cと決定される。なお、各居民委員会において、世帯番号の下1桁の数1,2,3,･･･,9,0は一様に分布していない可能性があり、例えば1,2,3,･･･,9,0の順で生起する確率が減少していくようなこともあるかもしれない。したがって、調査対象抽出用の乱数表については、世帯番号の分布と家族構成の特性を考慮した上で、合わせてA、B、Cの3種類の乱数表を作成し、調査票全体に均等に割り当てるようにした。

表1 調査対象抽出用乱数表の例

構成員	条件に合う家族構成員				標本世帯番号（15）									
番　号	氏名	生年月日	性別	選択	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
1	A	1932.01.02	男		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	B	1934.10.05	女		2	1	1	2	1	2	2	1	1	2
3	C	1960.08.22	男	✓	3	2	1	2	1	3	1	2	3	2
4	D	1965.04.10	女		4	1	2	3	3	4	1	2	4	2
5					5	4	3	2	1	2	3	4	5	1
6					6	5	1	2	4	3	1	4	5	6
7					5	3	2	1	6	7	2	4	3	7
8					7	6	5	4	3	2	1	8	1	2
9					8	9	7	6	5	4	3	2	1	6
10					9	8	7	6	5	4	3	2	1	0

注* 調査対象抽出用乱数表の利用手順：

1. 家族構成員の登記は年齢の高い方から低い方へ順番に記入する。
2. 条件に合う家族構成員とは下記の条件を全て満たすものである。①成人（18歳以上）である。②調査対象地域に戸籍を置いて1年以上居住している。③毎週平均5日以上この家で暮らしている。
3. サンプリングは抽出された世帯の世帯番号下1桁の数字と条件に合う家族構成員の人数を考慮した数字によって乱数表から該当家族構成員に該当する番号を確定し、その家族構成員の行の“選択”欄に調査対象個人として“✓”をつける。

本調査では、この調査に先立ち実施した2001年北京市・上海市民意識調査(統計数理研究リポートNo.89とNo.90)及び中国2002調査の経験を踏まえ、上記の都市が管轄する都市中心部の区に限って3段抽出の確率サンプリングを意図する標本抽出計画を立案した。

1.2 北京市における標本回収状況

調査対象は、居民委員会に在住する世帯の成人（18歳以上）の男女とした。

北京市が管轄する13区5県のうち、人口稠密地帯の中心部8区（東城区・西城区・崇文区・宣武区・朝陽区・豊台区・石景山区・海淀区）を調査地域とし、次のような手順で標本抽出した。

居民委員会の抽出

まず北京市人口統計データに基づき、居民委員会の人口規模に比例して、50の居民委員会を選んだ。計画標本として抽出した50の居民委員会に対して、まず、現在の世帯分布状況を調査するために、標本抽出員が各居民委員会の所在地をそれぞれ訪ね、同居民委員会が管轄するすべての世帯に住所番号（世帯番号）をつけ、実際の世帯数の確認作業を行った。この

結果に基づき、居民委員会ごとに住宅配置図を作成し、戸数や交通でのアクセス方法などを明記するようにした。

世帯の抽出

世帯の抽出については、調査地点として抽出した各居民委員会より世帯を等間隔で選ぶことにした。具体的には、抽出した各居民委員会において標本抽出員が調査責任者によって無作為に決められた起算世帯住所より、等間隔で世帯を抽出し、訪問調査用の調査対象世帯リストを作成した。50 の居民委員会の各々で等間隔に訪問計画の世帯を選んだ。なお、過去の調査経験から回答拒否率が高いことが予測されていたため、各居民委員会における計画標本世帯を 80 世帯抽出しておき、まずそのうちの先頭から 40 世帯を本来の計画標本として訪問(不在の場合でも少なくとも 3 回訪問)し、それらすべてに訪問し協力を依頼しても回答協力者が 20 名に満たない場合は、残りの 40 世帯のリストの先頭から順番に予備サンプルとして調査協力を依頼することとした。)

(この意味で、完全な無作為抽出標本というよりも、恣意性を排し、各地点のサンプルサイズを指定した割り当て標本に近くなったが、これは、はじめから 80 世帯のリストから、20 世帯調査できるまで調査する方法とは異なる。)

個人の抽出

調査対象となった世帯に訪問面接調査を行う調査員は、表 1 のような世帯リスト番号(最下位 1 桁数字)と家族成人構成員数(生年月日の降順)を基に発生させた調査対象抽出乱数表により、調査対象個人を第 3 次抽出単位として抽出した。

本調査では、予備標本の導入分を含め、実際に 8176 世帯を訪ね、調査を試みた。回収した有効数は 1,049 名であった。敢えて日本における無作為抽出法の場合のような計算をすると、回収率は 12.8%に留まり、回答拒否率は 87.17%にのぼった。

(有効数については、事後の調査で「1053」名の可能性があるので注意。)

実際の訪問記録の詳細は次ページ以下の表を参照せよ。

国民意识调查样本抽取方法及实施情况

本次调查项目覆盖北京城八区，计划完成样本量1000份，分三阶段完成抽样。实施过程为：第一阶段在北京城八区范围内抽选 50 个居委会作为首选样本点；第二阶段在每个居委会抽选20户作为访问居民户；第三阶段根据KISH随机数表在每个居民户中抽选个人样本。

一． 具体的抽样方法如下：

1． 样本居委会的抽选

在调查启动前，首先通过现场核实统计，以及在海淀区、宣武区、石景山三区社区办获得的最新数据，基本了解每个居委会的规模、性质，最后充分掌握了北京市城区内所有居委会共计1824个，及各社区的居民户数。

根据该名单，参照随机原则抽选五十个样本居委会，作为首选居委会，然后根据随机样表，再为每一个首选居委会抽取三个备用样本居委会。

当首选计划居委会无法进行访问时，则依次使用备用居委会进行替代。在实际访问过程中，40个首选样本居委会成功完成访问。

2． 样本户的抽选

在确定样本居委会后，对所有的首选居委会进行现场实地勘测，绘制抽样图，主要了解每个居委会能否进入，及居民户分布情况，并逐户登记门牌号。

然后根据一定的顺序，将每个居委会中所有的居民户住址生成一个完整的列表，并进行编号；例如一个居委会有 5000 户，则编为 1－5000 号。再生成一个随机的编号序列，将所有居民户重新排列，并赋予新的编号；

根据新的居民户列表，按地址逐户进行访问，因考虑到实际拒访率较高，在现场周期内无法有效完成访问，遂一次发放前40个样本作为首选访问地址，当依次完成20个样本后，后续的成功样本将作为废卷处理。当首选样本无法访问时，依次使用后面的样本替换。

3. 个人样本完成情况：

本次调查共计完成有效问卷1052份，拒访率为87.17%。其中一个居委会在访问过程中，遭到社区治安干涉无法继续，对其已成功访问的样本在数据库中作了保留（将居委编号命名为51）。

各居委会样本详细分布情况：

居委会	频数(人)	百分比(%)
安华里社区	21	2.00
吉庆里社区	24	2.28
西北门散居社区	22	2.09
八里庄第二社区	22	2.09
和平家园社区	20	1.90
798社区	23	2.19
电子球场路社区	20	1.90
碧水园社区	27	2.57
松榆东里社区	21	2.00
中纺里社区	21	2.00
南北里社区	22	2.09
西坝河西里社区	21	2.00
三源里社区	20	1.90
忠实里社区	19	1.81
葱店社区	22	2.09
分司厅社区	20	1.90
正义路社区	20	1.90
交通社区	21	2.00
交东社区	20	1.90
车辆厂社区	19	1.81
东高地社区	18	1.71
芳星园三区社区	27	2.57
新华街北社区	20	1.90
望园社区	18	1.71
西新华社区	21	2.00
西罗园第三社区	20	1.90
东滨河社区	22	2.09
蓟门里社区	20	1.90
志强南园社区	18	1.71
1201社区	20	1.90
芙蓉里社区	20	1.90
挂甲屯社区	20	1.90
毛纺南小区社区	20	1.90

居委会	频数(人)	百分比(%)
青云北社区	18	1.71
朱各庄社区	21	2.00
航材院社区	19	1.81
六道口社区	24	2.28
永红社区	27	2.57
科煦社区	21	2.00
永乐东小区北社区	21	2.00
模式口中里社区	19	1.81
重聚园社区	21	2.00
双旗杆社区	20	1.90
平安里社区	20	1.90
西交民巷社区	21	2.00
白云观社区	21	2.00
卯区社区	21	2.00
平原里社区	20	1.90
长椿西街社区	25	2.38
红莲中里社区	21	2.00
丰汇园社区	3	0.29
有效样本量(人)	1052	100.00

二. 受访者的性别和年龄比例

受访者性别：

性别	频数(人)	百分比(%)
男	514	48.86
女	538	51.14
有效样本量(人)	1052	100.00

受访者年龄：

年龄	频数(人)	百分比(%)
18-19 岁	30	2.85
20-24 岁	115	10.93
25-29 岁	128	12.17
30-34 岁	77	7.32
35-39 岁	88	8.37
40-44 岁	112	10.65
45-49 岁	90	8.56

年龄	频数(人)	百分比(%)
50-54 岁	92	8.75
55-59	78	7.41
60-64	44	4.18
65-69	87	8.27
70 岁及以上	111	10.55
有效样本量(人)	1052	100.00

北京　抽出居民委員会一覧

样本编号	使用顺序	区属	街道	社区	社区户数	成功样本数	备注
1	1	朝阳区	安贞街道	安华里社区	5,340	21	
2	1	朝阳区	朝外街道	吉庆里社区	2,874	24	
3	1	朝阳区	东坝乡	西北门散居社区	1,017	22	
4	1	朝阳区	高碑店地区	八里庄第二社区	976	22	
5	1	朝阳区	和平街街道	和平家园社区	4,618	20	
6	1	朝阳区	将台地区	798社区	2,300	23	
7	1	朝阳区	酒仙桥街道	电子球场路社区	4,011	20	
8	1	朝阳区	六里屯街道	碧水园社区	5,200	27	
9	1	朝阳区	潘家园街道	松榆东里社区	4,041	21	
10	1	朝阳区	三里屯街道	中纺里社区	2,967	21	
11	1	朝阳区	团结湖街道	南北里社区	1,629	22	
12	1	朝阳区	香河园街道	西坝河西里社区	2,531	21	
13	2	朝阳区	左家庄街道	三源里社区	4,512	20	原计划样本点封闭管理，抽样时无法进入，放弃
14	1	崇文区	东花市街道	忠实里社区	3,000	19	
15	1	崇文区	体育馆路街道	葱店社区	2,967	22	
16	1	东城区	安定门街道	分司厅社区	2,084	20	
17	1	东城区	东华门街道	正义路社区	2,195	20	
18	1	东城区	和平里街道	交通社区	390	21	
19	1	东城区	交道口街道	交东社区	2,700	20	
20	1	丰台区	长辛店街道	车辆厂社区	2,853	19	
21	1	丰台区	东高地街道	东高地社区	4,533	18	
22	2	丰台区	方庄街道	芳星园三区社区	3,144	27	原计划样本点为封闭社区，抽样时多次与物业管理人员协商仍无法进入，放弃
23	1	丰台区	丰台街道	新华街北社区	2,978	20	
24	1	丰台区	卢沟桥街道	望园社区	2,592	18	
25	1	丰台区	南苑街道	西新华社区	1,924	21	
26	1	丰台区	西罗园街道	西罗园第三社区	2,400	20	
27	1	丰台区	右安门街道	东滨河社区	1,500	22	
28	2	海淀区	北太平庄街道	蓟门里社区	3,248	20	计划样本点为新建小区，多有防盗门。抽样时混入，但访问时遭到干涉，放弃
29	1	海淀区	北太平庄街道	志强南园社区	2,768	18	

北京　抽出居民委員会一覧

样本编号	使用顺序	区属	街道	社区	社区户数	成功样本数	备注
31	3	海淀区	花园路街道	1201社区	1,228	20	计划样本点为封闭小区，保安管理，访问时遭到干涉，放弃。第二备用样本点楼房无法进入，平房正在拆迁。
31	1	海淀区	海淀街道	芙蓉里社区	1,220	20	
32	2	海淀区	青龙桥街道	挂甲屯社区	1,274	20	计划样本点物业管理，抽样拒绝入内，放弃
33	1	海淀区	清河街道	毛纺南小区社区	2,738	20	
34	1	海淀区	双榆树街道	青云北社区	1,458	18	
35	5	海淀区	万寿路街道	朱各庄社区	1,272	21	抽选出的4个样本点，全部为军区，无法进入抽样，以同一街道内在原样本点附近社区替换
36	1	海淀区	温泉镇	航材院社区	2,457	19	
37	1	海淀区	学院路街道	六道口社区	1,244	24	
38	1	海淀区	羊坊店街道	永红社区	1,026	27	
39	2	海淀区	中关村街道	科煦社区	754	21	计划样本点中科院家属院，无法进入抽样，入弃
40	1	石景山	八宝山街道	永乐东小区北社区	1,311	21	
41	2	石景山	金顶街街道	模式口中里社区	768	19	原计划样本点正在拆迁，并且多为外地租住户
42	1	石景山	鲁谷	重聚园社区	1,016	21	
43	1	西城区	德胜街道	双旗杆社区	1,800	20	
44	2	西城区	什刹海街道	平安里社区	1,269	20	计划样本点多有防盗门，访问员入内访问时遭到小区管理人员干涉，无法继续
45	1	西城区	西长安街街道	西交民巷社区	3,692	21	
46	1	西城区	月坛街道	白云观社区	1,641	21	
47	1	西城区	展览路街道	卯区社区	1,153	21	
48	1	宣武	白纸坊街道	平原里社区	4,800	20	
49	1	宣武	广内街道	长椿西街社区	1,987	25	
50	2	宣武	广外街道	红莲中里社区	2,599	21	计划样本点封闭管理，无法入内抽样

北京 訪問記錄表

居委编号	实际使用样本户	最终完成有效样本	三天无人	拒访					无法预约			无法接触		无适合		长期不在		无此户		中止调查
				没兴趣	没时间	不接受	其它原因	干涉	外出	晚归	其它	病衰	高龄	年龄	其它	外地	生病/住院	无人居住	拆迁	
1	160	21	0	10	29	16	16	4	6	11	24	1	4	2	7	4	0	4		1
2	240	24	16	42	75	56	7	0	4	3	1	0	2	2	7	0	0	0	0	0
3	80	22	2	9	15	4	7	0	2	1	11	0	0	0	5	2	0	0	0	0
4	300	22	16	25	28	31	31	33	4	7	17	0	0	1	59	3	1	0	20	2
5	146	20	0	10	23	8	24	0	5	0	26	1	4	6	13	4	1	0	1	0
6	320	23	22	51	106	78	10	0	0	14	1	0	0	3	12	0	0	0	0	0
7	115	20	9	15	18	21	15	0	2	7	0	0	5	0	1	0	0	2	0	0
8	116	27	15	6	17	10	14	0	1	3	11	0	2	0	5	2	2	1	0	0
9	40	21	4	3	5	3	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0
10	114	21	7	6	23	15	2	6	8	7	13	1	0	1	4	1	0	0	0	0
11	115	22	0	23	34	13	8	7	0	0	1	0	4	0	3	0	0	0	0	0
12	80	21	4	1	5	6	2	18	12	0	7	0	1	0	0	1	0	0	0	1
13	240	20	12	46	93	30	10	0	0	0	6	0	2	5	11	3	1	0	0	1
14	100	19	6	11	20	8	4	1	12	0	9	1	2	0	4	0	0	2	0	1
15	80	22	9	6	11	9	9	0	1	0	3	0	0	0	8	1	1	0	0	0
16	76	20	6	9	15	9	0	0	1	1	5	0	3	3	3	0	0	0	0	1
17	294	20	15	33	77	47	24	0	2	24	1	3	16	0	15	7	0	7	0	2
18	160	21	4	33	46	31	4	0	6	0	0	0	0	0	0	4	2	6	0	2
19	180	20	21	20	27	20	32	0	1	1	7	0	2	1	23	1	0	0	4	0
20	200	19	3	42	61	48	12	1	0	2	1	0	0	1	2	0	0	1	7	
21	92	18	1	12	33	21	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	0	0
22	80	27	0	11	14	10	7	0	0	3	1	0	1	0	5	0	0	1	0	0
23	139	20	10	30	42	29	0	0	2	0	1	0	1	1	3	0	0	0	0	0
24	108	18	14	6	26	25	3	0	0	4	4	1	0	0	2	0	0	0	6	0
25	199	21	15	8	45	30	0	41	0	2	20	1	1	6	4	1	0	2	0	1
26	120	20	3	21	31	28	2	0	2	1	0	0	1	0	0	5	1	4	0	0
27	182	22	1	17	30	11	22	16	7	3	14	0	10	3	10	7	1	1	7	0
28	260	20	20	20	36	24	25	50	4	4	30	4	7	1	13	1	0	0	0	0
29	200	18	13	22	37	29	26	7	1	6	14	0	3	2	12	1	1	5	3	0
30	112	20	1	14	43	13	11	3	0	1	2	0	1	0	0	0	1	2	0	0
31	76	20	1	16	23	8	6	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
32	279	20	17	25	35	29	25	41	0	1	32	0	0	1	47	3	0	0	3	0
33	160	20	3	35	38	27	15	3	4	1	1	1	0	0	0	3	0	4	4	1

北京 訪問記録表

居委编号	实际使用样本户	最终完成有效样本	三天无人	拒访					无法预约			无法接触		无适合		长期不在		无此户		中止调查
				没兴趣	没时间	不接受	其它原因	干涉	外出	晚归	其它	病衰	高龄	年龄	其它	外地	生病/住院	无人居住	拆迁	
34	320	18	19	40	68	42	18	10	0	2	42	0	11	2	37	3	0	8	0	0
35	160	21	6	41	52	29	3	0	3	0	1	0	0	1	0	1	1	1	0	0
36	240	19	14	12	49	34	19	25	3	0	28	0	8	2	7	3	0	8	9	0
37	160	24	16	14	35	27	1	0	3	3	19	1	6	4	4	1	0	1	0	1
38	320	27	7	18	45	31	16	167	0	2	1	0	1	0	1	2	0	1	0	1
39	198	21	3	20	40	14	13	0	0	3	75	1	3	0	2	1	0	1	0	1
40	180	21	4	42	56	39	1	0	0	0	2	0	1	0	7	5	0	2	0	0
41	200	19	22	22	31	22	34	0	8	1	13	0	6	2	7	1	0	0	4	0
42	120	21	11	12	18	12	9	0	1	2	16	0	3	0	1	6	1	3	0	0
43	278	20	25	10	79	37	21	17	0	3	34	2	6	2	15	7	0	0	0	0
44	114	20	6	10	18	14	0	25	0	2	8	0	5	3	2	1	0	0	0	0
45	93	21	3	0	14	11	4	7	0	0	3	0	0	0	1	1	0	1	27	0
46	80	21	2	12	16	18	1	1	3	1	1	0	0	0	0	1	1	0	2	0
47	79	21	9	7	16	8	3	5	0	0	4	1	1	1	3	1	0	0	0	0
48	79	20	5	8	8	8	6	3	0	1	2	0	0	0	1	0	0	0	18	0
49	192	25	2	14	32	13	8	25	9	10	16	5	9	1	18	3	0	2	0	0
50	200	21	16	32	62	34	3	22	0	0	0	1	0	0	9	0	0	0	0	0
总计	8176	1049	440	952	1800	1140	536	538	117	137	529	26	134	57	394	91	15	72	117	16
访问拒访率	**87.17**		**5.38**	**11.64**	**22.02**	**13.94**	**6.56**	**6.58**	**1.43**	**1.68**	**6.47**	**0.32**	**1.64**	**0.70**	**4.82**	**1.11**	**0.18**	**0.88**	**1.43**	**0.20**

北京市民生活及文化意识调查技能指南

一、简介

以下是一份为帮助你做好[北京市民生活及文化意识调查]访问调查的指南，其中包括该项调查的说明，访问被访者时的注意事项，怎样才能成为一名成功的调查访问员以及调查中经常遇到的问题。

由于此项调查的所有数据都是通过提问方式进行收集，所以调查访员将扮演非常重要的角色。请务必在调查之前仔细阅读指南的每一个细节。

二、调查说明

此项调查旨在分析掌握一般北京市民的日常生活及文化等的态度。我们必须通过统计抽样调查来客观地收集有关信息。此项调查问卷的访问调查时间需要 30 至 40 分钟，调查要求在被访者家庭中进行。调查问卷包括 52 项选择性问题及 7 项个人属性问题。督导员将安排你要访问的住户及通知你选定访问个人的方法。

三、怎样才能成为一个成功的调查员

1、 调查目标是尽可能地获得被访者的真实感情和态度。

2、 保持放松和礼貌的态度。对被访者所述内容表现出真正的兴趣，同时让被访者感到安心。

3、 敲门之后要先进行自我介绍，告诉被访者你的来访目的及你的调查重点所在。

4、 保证你对每个问题非常熟悉，不能对所提问题感到踌躇。要耐心正确的解答被访者的各种问题，但对任何问题都要按事先规定的方式进行提问，不得自行作主进行解释。

5、 要严格按问卷的问题进行提问，以防止出现用词不当而引起的调查偏差。

6、 当被防者的回答内容不十分清楚时，要确认其真正的回答是什么。实在不清楚时，要将被访者的原话记录下来。

四、经常遇到的询问

为什么要访问我家或找到我？

解答：住户是通过严格的统计方法从您所在的居委会中选出的。而被访者个人也是根据家庭成员构成情况随机抽出的。即调查对象的抽取完全是随机的。为了获得北京市民的总体意识情况，必须进行随机抽取，如果对你的访问调查失败的话将会导致破坏调查结果的偏差。

五、访问调查

1、 列出家庭的适合者名单（问卷第 2 页）按随机表确定被选家庭成员，确认所选家庭成员是否在家。如果本人在家的话，选择一个比较安静的场所进行调查，若本人不在要预约下次访问的时间。

2、 访员也找一个便于进行记录的位置坐下来，确认被访者所在的居民委员会号码并记入调查表。

3、 开放题要清楚地填写，在访问时可速记被访者的回答内容，但访问终了后要立即誊写。

4、 要使被访者理解所问内容，注意回答方式（单选，复选），不要漏掉任何提问项目。

5、 访问结束后，立即确认是否每一提问都得到了清楚的回答，记录结果是否都清晰易懂

6、 访问结束后及时赠送礼品并表谢意。请被访者在问卷第 1 页底部留下联系地址及联系方式。

7、 离开之前再次确认有无遗漏等。如果发现有遗漏或疑问的地方，应该请被访者配合补充完整。

8、 在入户情况登记表及向问卷的第 1 页上，添写每一户及每位被访者的调查经过概要，最后上交督导。

9、调查完成的调查问卷应尽快转交给督导员以便进行检查。

六、 问卷内容的注意点

1、封皮

居委会编号：领取样本名单时，每个居委会都会给定一个编号个人编号：入户访问情况登记表中，第一列前的序号

访问对象编号：底部表格上方的“访问对象编号”一项填写第 2 页随机抽样表中的成员编号

地址编号：问卷第 2 页随机数表中的“地址编号”与封皮上的“个人编号”同。

2、 问卷主体部分

提问 3：当被访者回答的国家为非亚洲国家时可以给予指出。

提问 5：此问是针对被访者对自己祖先的态度。重点强调被访者在与人相比较时的态度。

提问 6：提问对通过领养没有血缘关系的孩子来传宗接代的看法态度。

提问 7：是指不考虑计划生育政策的前提下。

提问 9：要注意对 7 项中的各项分别进行提问，不要忘记任何一项。

提问 10：尽可能让被访者回答具体的职业名称。

提问 11：要求分别从给定的 11 项中选出[最重要]的 3 项来。

提问 13：这里注意不要向被访者解释根据什么标准划分社会阶层，而是由被者自己进行综合判断。

提问 14：请受访者从中选择一项

提问 15 里的“工作”包括伴随收入的劳动及志愿者活动。

提问 20：这里泛指被访者个人对自己目前的生活状况的满意程度。

提问 40：是针对 a、b、c、d 这四种观点，受访者是否赞同。而不是询问能不能实现的问题。

提问 25：指科学技术的进步对人的感情价值有无负面影响。

提问 27：也可以把[家庭]解释成中国常说的“家”。其他提问也如此。

提问 32：机械化或信息化替代人作业的程度越高，人情味是否越来越淡薄。

提问 39：a 的父母相继去世和 b 的假设有矛盾。这里只是一种场景假设，不需要推理。

提问 48：此问要求二者择其一，避免两全的回答。

提问 49：包括有形或无形的范畴。

1、 问卷的属性部分

F2：要求统一填写周岁。

F4【职业】[退休]包括在[无职也者]的拦内，但要具体记录。

F6【家庭人数】指与被访者生活在一起的家庭成员，并且包括受访者本人在内的人口数。

F7【居住形态】指现在与被访者一起维持生计的家庭。

七、关于抽样

抽出方法：

1）调查范围：北京市城八区（东城、西城、崇文、宣武、朝阳、丰台、石景山、海淀）

2）居民委员会：按照居民委员会的住户数或人口数规模，按概率比例法抽取部分居民委员会作为调查样本点。

3）样本户：根据随机原则抽选出 20 户做为我们需要访问的样本户。

4）个人：使用随机数表（KISH）进行抽选，要求访问员必须严格按照随机表选择的家庭成员进行访问，不可由其家人替答或私自更换样本。

调查员基础知识

一、 社会调查的概念和调查员的任务

1、基本概念

是为某一个特定问题面向指定群体进行的信息收集的过程。其目的是揭示社会成员全体的意识倾向及影响意识因素，掌握群体对衣、食、住、行等的态度。从而为决策部门提供有益的参考信息。主要的社会调查方法包括：（1）入户调查：（2）邮寄调查：（4）电话访问（5）网上调查，等等。

2、调查访员的任务：对信息进行客观、真实的记录。

（1）所有访问员均须经过培训并确认合格。

（2）按要求对符合条件的被访者进行当面提问，并对回答结果进行详细记录。

（3）结束后必须按时上交完成的问卷，以便督导确认是否合格。

二、 访问纪律

访问员须服从调查主管的安排，未经督导同意，不得擅自缺席，不得随意变动调查程序及项目，或以各种理由拒绝所安排的调查内容。

1、访问日常纪律

（1） 不论任何时候都应该维护调查主体（中国人民大学）的形象和声誉。

（2） 访员不得迟到、早退，有事要预先向督导请假。并保证按时完成任务。

（3） 所有访问员均应保证：所完成的问卷皆由本人依照培训规定的作业程序和标准完成，绝对真实无若有一份作假，全部问卷作废，并赔偿项目组的损失，其中作弊行为主要有：

A、没有访问／没有派发产品或礼品。

B、随机表、地址表作弊。

C、访问两两相识及不合格的被访者。

D、访问速度太快；快于平均访问速度的 1／2。

E、没有按题目要求询问被访者或误导被访者作答。

（4） 在做调查过程中不能与调查无关的人一起去访问或由他人代访。

（5） 入户调查时，不能在被访者家门口进行访问或电话访问。

（6） 访问员在开展调查之前，要带齐所需访问工具：完成调查工作后，要亲自将有关工具交回。

2、访员的保密纪律

（1） 在任何情况下，不能泄露调查内容、问卷项目及被访者个人情况。

（2） 不能私自复制任何调查工具（包括问卷、提问卡等）。

三、 调查结果的记录

（1） 在填写调查问卷时，请使用蓝色圆珠笔在被选中的选项序号上画圈表示。不得使用铅笔。

（2） 开放题要添写在准确的位置上。确保做出的记录容易辨认并且不会引起误解。

（3） 记录中出现书写错误，不要擦掉，更不要涂改，选择题时用双斜线划去，删除后仍想恢复可在序号的左侧划“√”表示。开放题时直接以单线条划去即可。

（4） 访员认为对一些事项需要进行特别说明时，在问卷的顶部、底部、左边写下。

（5） 完成的调查问卷不要忘记了签上自己的名字。

四、 访问工具

（1） 统一发放：问卷、提问卡、地址表、入户情况登记表、介绍信、胸卡及其它工具

（2） 访员自备：圆珠笔、时间工具（手表/手机）、文件夹、证件（校徽/身份证/学生证）

五、 各种题型及询问原则

1、 封闭题（既选择题）

a 单选题：所有答案已在问卷中给出，只须让被访者在给出的答案中选一个。

询问原则：读题时应一次读出所有的答案，让被访者准确选出答案中的一个。

例：假如您只要一个孩子的话，那么您希望是男孩儿，还是女孩（限选一项）？

（1）男孩儿　　（2）女孩儿

（3）无所谓女孩儿都可以）　　（9）不知道

b. 复选题：所有答案已在问卷中给出，只须让被访者在所给的答案中选择。

询问原则：读题时每读一个答案确认一次，追问到没有为止。例：人们对于子女的将来不同的期望。请在下列项目中选出您认为子女最应有的品质（限选三项）

（1）彬彬有礼　　（2）遵守公共规则

（3）公正无私　　（4）宽容心（尊重别人的意见）

（5）沉着冷静、有正义感　　（6）责任感

（7）想象力、创作力　　（8）节约心（珍惜金钱及东西）

（9）决策能力、忍耐性

2、开放题

只有问题，没有预先准备的答案供选择，必须按照被访者的原话进行记录。

询问原则：a.先广度，后深度 b.一次提问，二次确认：c.原话记录：d..不可诱导：

例：（1）包括有价及无价的，对您来说，您认为最宝贵的东西是什么？请列举出一个来

_____

（2）除此之外，您认为非常宝贵的东西请列举出几项来。

_____

六、入户情况登记表的使用方法

1、 敲门次数 1.2.3.在敲门次数列注明敲门日期和时间。

敲门方法　　A 敲门时间相隔两小时以上，同一天多次敲门时，只记录第一次敲门时间即可。

B.第二天敲门时，应尽量避开第一天敲门时间。

时间记录方法：要求记录日期（月日）、时间

2、 预约时间：被访者不在，与其家人预约访问时间并记录，经三次预约仍未成功时 预约失败。

3、次无人：三天里三次敲门家里均无人。

4、 无法接触：找到被访者地址，因为健康等原因无法与受访者直接沟通。

5、拒访：被访者住户拒绝访问（包括甄别出的被访者拒访）注明拒访者性别。

6、无适合者：无适合年龄，家庭成员中无适合该项目要求年龄段的被访者。

7、 无法预约：在我们的访问期间内无法与其接触

1．3 上海市における回収状況

2005年度上海調査の調査地点および訪問記録表

番号	区	街道	居委会	实际使用样本	应完成样本	实际完成样本	无法预约	三次无人	无法接触	拒访原因						无适合者	一时不在	长期不在	中止调查	已搬家	备注
										性别		对调查内容没兴趣	没时间	不接受任何调查	其它原因						
										男性	女性										
1	闸北	芷江西路	中华新路	35	22	22	0	7	0	0	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0
2	闸北	北站	799弄	61	22	21	0	0	2	8	11	4	5	7	3	0	0	0	0	0	0
3	闸北	彭浦新村共康三村	共康三村	20	22	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	闸北	天目西	蕃瓜弄	30	22	20	0	0	0	3	2	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0
5	闸北	大宁路	505弄	39	22	20	0	2	0	3	4	0	0	0	7	0	0	1	0	2	0
6	闵行	江川路	红旗二村	20	22	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	闵行	古美	古美四村	22	22	20	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
8	长宁	虹桥路	虹西	32	22	20	0	0	0	0	4	3	0	1	0	0	0	0	4	0	0
9	长宁	天山	紫云	45	22	20	0	0	0	3	6	1	5	3	0	1	6	0	0	0	0
10	长宁	新华路	牛桥	80	22	20	0	0	0	8	14	6	11	4	1	0	13	1	0	2	0
11	杨浦	长白新村	图门	34	22	20	4	0	0	2	3	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0
12	杨浦	殷行	闸殷路81弄	27	22	20	0	0	0	1	2	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0
13	杨浦	殷行	工农二村第一	54	22	20	0	0	0	7	10	1	6	9	1	0	0	0	0	0	0
14	杨浦	平凉路	德路里	50	22	20	0	0	0	5	10	1	8	6	0	0	0	0	0	0	0
15	杨浦	定海路	定海路	26	22	20	0	0	0	2	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	杨浦	四平路	铁岭路20弄	40	22	20	0	0	0	4	6	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0
17	杨浦	五角场镇	民京路第一	26	22	19	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	1	1	0
18	杨浦	五角场镇	国顺路第二(北茶园居	32	22	20	1	2	0	1	1	1	0	0	1	1	0	2	1	1	0
19	卢湾	打铺桥	建一	33	22	20	1	3	2	1	2	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0
20	卢湾	五里桥	龙华	34	22	20	0	0	0	5	2	1	1	5	0	0	0	0	0	0	0
21	普陀	长风新村	长风二村第二	29	22	20	0	0	1	1	3	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0
22	普陀	长寿路	光复里	54	22	20	0	4	0	13	2	2	1	11	1	0	0	0	0	0	0
23	普陀	曹杨新村	曹杨三村第四	48	22	20	0	0	0	7	7	4	3	7	0	0	0	0	0	0	0
24	普陀	石泉路	和平新村	48	22	22	0	0	0	5	8	2	6	3	2	0	0	0	0	0	0
25	普陀	真如镇	曹杨花苑(南块)	33	22	20	1	0	0	1	4	2	3	0	0	0	0	0	1	1	0
26	虹口	广东路	灵工	27	22	20	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	1	1	0
27	虹口	凉城新村	锦二	41	22	20	1	0	2	3	6	2	3	4	0	0	0	0	0	0	0
28	虹口	提篮桥	新建	29	22	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	2	0
29	浦东	上钢新村	上钢七村	35	22	20	0	3	1	1	3	0	1	2	1	0	2	1	0	0	0
30	浦东	梅轩新村	光辉	21	22	20	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31	浦东新	浦兴路	凌五	27	22	21	0	0	0	0	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0
32	浦东新	金杨新村	香山新村第五	43	22	20	0	0	1	3	5	2	4	1	1	1	1	1	0	3	0

33	浦东新	川沙	川沙镇新德	34	22	20	0	0	0	4	1	1	4	0	0	0	0	0	0	4	0
34	静安	静安寺	景华	22	22	21	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
35	静安	江宁	东麻里	28	22	20	0	0	0	2	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
36	虹口	欧阳路	大连西	45	22	22	0	0	0	2	8	3	4	3	0	0	2	1	0	0	0
37	虹口	四川北路	街道新乡	38	22	20	0	0	0	2	7	1	1	4	3	0	0	0	0	0	0
38	徐汇	枫林	宛三	28	22	20	0	0	0	2	2	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0
39	徐汇	凌云	金塘	53	22	20	0	0	0	5	11	0	3	13	0	1	0	0	0	0	0
40	徐汇	田林	田林十三村	20	22	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
41	徐汇	漕河泾	梦蝶苑	20	22	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
42	徐汇	徐家汇	徐汇新村	46	22	21	0	0	0	5	6	1	8	2	0	0	0	0	0	3	0
43	徐汇	斜土路	肇一	35	22	20	0	0	2	1	4	2	1	2	0	1	2	0	0	0	0
44	黄浦	老西门	小桃园	35	22	20	0	0	0	3	2	2	0	3	0	0	5	0	0	0	0
45	黄浦	半淞园路	西三	51	22	20	0	0	0	8	7	0	4	11	0	0	0	1	0	0	0
46	黄浦	小东门	西姚	31	22	20	0	0	0	3	1	2	0	2	0	0	3	0	0	0	0
47	黄浦	南京东路	龙泉	43	22	20	1	0	2	5	5	2	2	1	5	0	0	0	0	0	0
48	浦东新	沪东新村	沪南	23	22	20	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
49	浦东新	北蔡镇	绿川小区第二	58	22	22	0	0	3	3	12	0	2	13	0	0	3	0	0	0	0
50	浦东新	南码头路	塘南	32	22	22	5	0	2	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
合計	合計			1817	1100	1013	15	24	19	133	192	55	95	148	27	7	41	20	8	20	0

訪問詳細記録

番号	区名	街道名	居民委员会	1回訪問成功数	2回訪問成功数	3回訪問成功数	无法预约	三次无人	无法接触		拒访						无适合者		一时不在		长期不在		中止调查	已搬家	备　注
									病衰	高龄	性别		理由				年龄	其它	外出	晚归	外地	住院			
											男性	女性	1	2	3	4									
1	闸北	芷江西路	中华新路	21	1			7				3	2		1										
2	闸北	北站	799弄	21						2	8	11	4	5	7	3									
3	闸北	彭浦新村共康三村	共康三村	20																					
4	闸北	天目西	蕃瓜弄	20							3	2		1	4										
5	闸北	大宁路	505弄	20				2			3	4				7					1			2	
6	闵行	江川路	红旗二村	20																					
7	闵行	古美	古美四村	20								1			1										
8	长宁	虹桥路	虹西	10	10							4	3		1								4		
9	长宁	天山	紫云	20							3	6	1	5	3		1		6						
10	长宁	新华路	牛桥	13	7						8	14	6	11	4	1			13		1			2	
11	杨浦	长白新村	图门	13	7		4				2	3		2	3										
12	杨浦	殷行	闸殷路81弄	11	9						1	2		2	1						1				
13	杨浦	殷行	工农二村第一	20							7	10	1	6	9	1									
14	杨浦	平凉路	德路里	9	11						5	10	1	8	6										
15	杨浦	定海路	定海路	20							2	1	3												
16	杨浦	四平路	铁岭路20弄	11	9						4	6			10										
17	杨浦	五角场镇	民京路第一	9	10		1										1				2	1	1	1	
18	杨浦	五角场镇	国顺路第二(北茶园居委会)	10	10		1	2			1	1	1			1		1			2		1	1	
19	卢湾	打铺桥	建一	20			1	3	1	1	1	2	1	1	1				1						
20	卢湾	五里桥	龙华	20							5	2	1	1	5										
21	普陀	长风新村	长风二村第二	20						1	1	3		1	3										
22	普陀	长寿路	光复里	20				4			13	2	2	1	11	1									
23	普陀	曹杨新村	曹杨三村第四	12	8						7	7	4	3	7										
24	普陀	石泉路	和平新村	22							5	8	2	6	3	2									
25	普陀	真如镇	曹杨花苑（南块）	12	8		1				1	4	2	3									1	1	
26	虹口	广东路	灵工	20				1										1	3				1	1	
27	虹口	凉城新村	锦二	11	9		1		1	1	3	6	2	3	4										
28	虹口	提篮桥	新建	20																	6	1		2	
29	浦东	上钢新村	上钢七村	20				3		1	1	3		1	2	1			2		1				
30	浦东	梅轩新村	光辉	20				1																	
31	浦东新	浦兴路	凌五	21								3	2		1										
32	浦东新	金杨新村	香山新村第五	20						1	3	5	2	4	1	1	1		1		1			3	
33	浦东新	川沙	川沙镇新德	20							4	1	1	4										4	
34	静安	静安寺	景华	17	4			1																	
35	静安	江宁	东麻里	19	1						2	2			4										
36	虹口	欧阳路	大连西	13	9						2	8	3	4	3				2		1				
37	虹口	四川北路	街道新乡	20							2	7	1	1	4	3									

38	徐汇	枫林	宛三	20							2	2	1	2	1										
39	徐汇	凌云	金塘	20							5	11		3	13		1								
40	徐汇	田林	田林十三村	20																					
41	徐汇	漕河泾	梦蝶苑	17	3																				
42	徐汇	徐家汇	徐汇新村	21							5	6	1	8	2									3	
43	徐汇	斜土路	肇一	15	5				1	1	1	4	2	1	2		1		2						
44	黄浦	老西门	小桃园	20							3	2	2		3				5						
45	黄浦	半淞园路	西三	20							8	7		4	11						1				
46	黄浦	小东门	西姚	20							3	1	2		2				3						
47	黄浦	南京东路	龙泉	20			1		1	1	5	5	2	2	1	5									
48	浦东新	沪东新村	沪南	15	5					1	1				1										
49	浦东新	北蔡镇	绿川小区第二	22					1	2	3	12		2	13				3						
50	浦东新	南码头路	塘南	16	5	1	5		2			1				1					1				
	合計			881	131	1	15	24	7	12	133	192	55	95	148	27	5	2	41	0	18	2	8	20	0

調査協力拒否者総数		325
（内訳）	男	133
	女	192

調査協力拒否理由総数		325
（内訳）	1	55
	2	95
	3	148
	4	27

2　香港 2006 調査の概要と回収状況

2.1 香港 2006 調査の概要

香港調査は、2006 年春から初夏（2 月から 7 月末頃）にかけて遂行された。調査現場の詳細についての監督は　Dr. Agnes Law が担当した。

香港における標本抽出計画

1．香港全体の 283TPU (Territory Planning Unit)から世帯数に比例させて 50 の TPUs を統計的無作為抽出する　(現地統計局の協力による).
2．抽出された各 TPU から 4000 の LQ (living quarter)を単純無作為抽出する.
3．各 LQ より世帯を無作為に選ぶ
4．各世帯の中で成人家族が複数いる場合は、個人を Kish グリッドで選ぶ
（注意　香港調査では提示カードは作成されなかったようである）
(注意. 実際は、上記の計画に厳密に従わずに、手続き 1 は現地統計局に任せ[単純無作為か、人口数[世帯数]比例か不明]、50 ではなく 90 の TPU を抽出し、また 2 では抽出された 90TPU 全体の LQ から、4000 の LQ を抽出したようである。もし、1 において人口数や世帯数に比例した TPU 抽出であったとしたら、全体として、3 における各世帯の抽出確率は、世帯や人口の数のウェイトが 2 重にかかってしまった懸念がある。これは北京調査も同様の懸念があるが、標本抽出法としては不適切である。しかし、一方で、この手続きによる回答データのバイアスやデータの安定性については、畏岩・吉野・鄭[2007、原稿投稿中]が元のデータとバイアス補正を考慮したデータの回答分布を単純集計表および多次元データ解析を施行して、大きな影響はないことを確認している。)

2.2　香港 2006 調査の回収状況

調査完了した有効回答票数は、849 名であった。回収率は、849/(849+2799) = 約 23.3%である。

調査不能理由のまとめ

理由		事例数
Busy	回答者多忙のため協力不能	19
Empty	空き家	135
Mid-Term	調査中途で中止	4
NA	抽出された個人に接触不能	16
NC	抽出された世帯に接触不能	969
NQ	調査対象外であった	84
Refuse	拒否	1393
Returned Mail	抽出世帯に連絡不能	40
Security	治安のため接触不能	122
Void	無効票	17
	合計	2,799

TPUs の基本状況と調査実施中の不能状況の詳細は、次ページ以下を参照せよ。

Scheduled Statistical Sampling of Hong Kong 2005-06 Survey

1. Selection of 50 TPUs out of 282 TPUs proportionate to the household sizes in Hong Kong.
2. Selection of 4,000 living quarters from the selected TPUs by simple random sampling. The number of living quarters selected in each TPU will be in proportion to the sizes of the living quarters.
3. The selected living quarters will be divided into two halves. The first half will be used as original samples to conduct the survey. The second half is reserved for the event that a response rate lower than 50% occurs.
4. Selection of a household from each living quarter by the Kish grid method.
5. Selection of a household member from each chosen household by Kish grid method as a respondent.
6. The total number of successful interviews is expected to be at least 1000.

(**Note.** In practice, a slightly different sampling, rather than the above-mentioned scheduled method, seemed to have adopted. At Step 1, 90 TPUs were selected by the Governmental Agency of Statistics in Hong Kong. It was unsure as to whether it was a simple random sampling or population-proportional sampling. Then, at Step 2, 4000 living quarter were selected by simple randomization from the total of 90 TPUs. If the selection of TPUs at Step 1 was proportional to population (or the numbers of living quarters), the selection probability of households at Step 4 were doubly proportional to population, which is a mistake. Horoiwa, Yoshino, & Zheng [2007, in press], however, investigated the possible biases of valid questionnaire returns and confirmed the reliability, comparing the response distributions of original data and the weight -backed data both in the simple tabulation and in multi-dimensional analysis.)

The number of valid questionnaire returns was 849, and the reasons and numbers of non-returns are as follows.

Disposition	Count
Busy	19
Complete	849
Empty	135
Mid-Term	4
NA	16
NC	969
NQ	84
Refuse	1393
Returned Mail	40
Security	122
Void	17

Term	Meaning
Busy	The respondent was busy, he /she could not conduct the survey at that time
Complete	Questionnaire completed
Empty	Empty unit
Mid-term	Mid-terminated interview
NA	Selected member unavailable - not at home
NC	Non-contact household
NQ	Not qualified unit
Refuse	Respondents refused to conduct the survey
Returned Mail	Mail returned - unavailable to reach the Households
Security	Security guard refused to enter the building
Void	Completed questionnaire but voided

Number of Quarters by Tertiary Planning Unit (TPU) (as at 13 Dec 2005)

TPU*	No. of Quarters** in built-up areas
111	23861
112	21767
113	12196
114	5099
115	1154
116	6090
121	196
122	3985
123	165
124	682
131	14362
132	7550
133	5594
134	594
135	896
140	2562
141	8049
142	15328
143	3982
144	13817
145	4488
146	8735
147	6
148	3938
149	2355
151	17553
152	6176
153	26184
154	4940
155	8751
156	18446
157	19070
158	1
161	30150
162	6759
163	13909
164	31
165	19004
166	13027
167	18528
171	5938
172	20321
173	18121
174	28611
175	8999
176	50
181	185
182	1459
183	106
184	1449
190	349
191	1063
192	3695
193	183
194	0
195	4860
196	1437
197	143
198	0
211	6917
212	7383
213	3944
214	2692
215	213
216	518

TPU*	No. of Quarters** in built-up areas
220	720
221	31532
222	8618
225	14399
226	4130
227	7768
228	5698
229	6550
231	1983
232	1413
233	1156
234	4231
235	6077
236	10444
237	5850
241	15449
242	17343
243	11317
244	11126
245	17015
246	5926
247	818
251	5623
252	0
253	10306
254	3745
255	19759
260	14270
261	4325
262	11553
263	19452
264	17514
265	7976
266	17586
267	12903
268	10594
269	4
271	5420
272	3613
280	15731
281	69075
282	19896
283	20944
284	4349
285	6655
286	0
287	7469
288	19206
289	0
290	13001
291	21860
292	18143
293	24884
294	59313
295	75
296	0
297	32449
298	14225
310	2
320	1
321	1321
322	1165
323	28506
324	34609
325	19822

TPU*	No. of Quarters** in built-up areas
326	53487
327	35372
328	18810
329	10
331	0
332	0
333	0
334	230
335	8864
336	3606
340	0
350	38545
351	26488
411	0
412	0
413	0
414	0
415	0
416	0
421	0
422	31767
423	65121
424	38034
425	23944
426	6295
427	1136
428	0
431	0
432	0
433	0
434	0
441	2622
442	365
510	88527
511	205
512	725
513	0
514	2
515	923
516	0
517	0
518	0
519	3384
521	317
522	149
523	412
524	20071
525	245
526	0
527	20841
528	732
529	3321
531	3
532	144
533	112
541	5523
542	1434
543	322
544	0
545	140
546	0
610	0
620	0
621	286
622	18

TPU*	No. of Quarters** in built-up areas
623	0
624	15503
625	17906
626	8503
627	3070
628	28422
629	25
631	0
632	0
633	0
634	104
641	0
642	16
651	0
652	927
653	11
711	0
712	0
720	1119
721	0
722	14113
723	25002
724	1
725	332
726	35877
727	14
728	778
729	2478
731	0
732	0
733	0
741	2
742	88
743	0
744	0
751	0
753	15279
754	18549
755	23389
756	31901
757	59626
758	16830
759	37242
761	18
762	0
811	215
812	21
813	0
814	0
815	0
820	34
821	79
822	204
823	607
824	0
825	132
826	2407
827	1052
828	147
829	84
831	4903
832	226
833	17480
834	0
835	7830
836	30818

TPU*	No. of Quarters** in built-up areas
835	7830
836	30818
837	27336
838	29791
839	1
911	129
912	850
913	0
920	9312
931	457
932	129
933	6
934	0
941	254
942	0
943	0
944	1350
950	26528
951	2
961	1
962	1085
963	258
971	7768
972	0
973	0
974	0
975	4492
976	2799
Overall	**2313967**

Notes:

(1) Based on revised set of Tertiary Planning Unit/Street Block boundaries for 2006 Population By-census

(2) These figures only cover those quarters in built-up areas either for residential purpose or for non-residential purpose but usually with people residing therein. All sub-mergers are excluded.

台湾調査の概要

1. 調査計画の概要

環太平洋(アジア・太平洋)価値観比較国際調査の一環として、台湾全土に在住している20歳以上の台湾人を母集団とした標本調査を、個別面接聴取法で行った。標本抽出と実査については、台湾天主教輔仁大学謝邦昌教授の協力を得て、Trendgo社に委託した。調査の概要は以下の通りである。

(1)調査内容

台湾居民生活および文化意識調査(計52項目)

(2)調査対象母集団

台湾在住の満20歳以上の成人住民

(3)調査地点数

120地点(都市部104地点, 非都市部16地点)

(4)計画標本

1,800名(120地点 × 15名 / 1地点 = 1,800名)

(5)回収標本サイズ

有効回収標本603名

(6)調査時期

2006年11月3日～12月10日

2. 個人標本抽出の概要

この調査では、以下のような個人標本抽出の方法、手順にしたがって調査対象者個人を抽出した。

2-1. 台湾全土のブロック区分と都市化地域の分類の概要

台湾全土は、北部、中部、南部と東部の4つの地域に分けられている。なお、同じブロックにおいて以下の2つの要件のいずれかを満たす地域を都市化地域と呼ぶ。(1)居住人口は2万人以上で、人口密度は300人/km²に達する。(2)2つ以上の異なる市、鎮、郷が隣接し、かつその居住人口は2万人以上に達し、平均人口密度300人/km²以上に達す。この場合、地域名の命名原則としては、隣接する市、鎮、郷の内、人口が最も多い自治体にする。表1は、台湾全土におけるブロック区分と都市化地域の分類を示している。

2-2. 台湾における個人標本抽出計画

この調査では、20歳以上の台湾一般住民を母集団とした層別多段無作為標本抽出し、面接聴取調査法を遂行した。台湾全土の地域を層別し、第1次抽出で調査地点(エリア)を抽出し、そしてランダムルート法により第2次抽出で調査世帯を選び、さらに、Kish法により第3次抽出で各調査世帯から一人の個人を抽出した。具体的には、以下のようになる。

(1) 都市化程度と地理位置に基づき、台湾全島を北部都市化地域、北部非都市化地域、中部都市化地域、中部非都市化地域、南部都市化地域、南部非都市化地域、東部都市化地域、東部非都市化地域の８つの層に分けた。都市化程度に関する具体的な区分方法は表１を参照されたい。

表 1. 台湾全土におけるブロック区分と都市化地域の分類

区域暨都市化分類	包含之都市化地区
北部都市化地域	臺北都市化地区、新竹都市化地区、羅東都市化地区、宜蘭都市化地区、蘇澳都市化地区
北部非都市化地域	屬台北縣、桃園縣、新竹縣、宜蘭縣、基隆市、新竹市、台北市，且非屬上述都市化地区者。
中部都市化地域	臺中都市化地区、沙鹿都市化地区、員林都市化地区、南投都市化地区、苗栗都市化地区、頭份都市化地区、斗六都市化地区、大甲都市化地区、埔里都市化地区、竹山都市化地区、北港都市化地区、虎尾都市化地区、東勢都市化地区、田中都市化地区、北斗都市化地区、后里都市化地区
中部非都市化地域	屬苗栗縣、台中縣、彰化縣、雲林縣、南投縣、台中市，且非屬上述都市化地区者。
南部都市化地域	高雄都市化地区、臺南都市化地区、嘉義都市化地区、新營都市化地区、佳里都市化地区、馬公都市化地区、潮州都市化地区、東港都市化地区、內埔都市化地区、朴子都市化地区、旗山都市化地区、新化都市化地区、麻豆都市化地区、善化都市化地区
南部非都市化地域	屬嘉義縣、台南縣、高雄縣、屏東縣、澎湖縣、嘉義市、台南市、高雄市，且非屬上述都市化地区者
東部都市化地域	花蓮都市化地区、臺東都市化地区
東部非都市化地域	屬花蓮縣、台東縣，且非屬上述都市化地区者。

(2) 各層において複数の市、鎮、郷によって新たにエリア(Area)を区分した。全体で 358 個のエリアに区分され、それらに１～358 までの番号を振り分けた。

(3) 調査地点を 120 カ所と計画したため、人口分布を勘案した上で、人口規模に比例して各層から選ぶエリアの数を計算し、エリア番号を基に各層から無作為に調査地点を抽出した。各地域から抽出したエリアの数は表 2 の通りである。

(4) 各調査地点(エリア)の範囲は電話場番号の局番に対応しているため、抽出した 120 カ所のエリアに対して、それぞれ無作為に電話番号の最後４桁の乱数をひとつ発生させる。この乱数に基づき、各エリアの調査開始世帯を決める。なお、直接電話をかけることによって当該世帯の詳しい住所に関する情報を入手した(RDD 法)。

(5) 各エリアにおいて、調査員は抽出された調査開始世帯を直接訪問し、20歳以上の家族構成員からKish法により選んだ1人を調査対象に面接調査を行った。そして、調査開始世帯に接する道路の左方向に沿い、1軒おきに計15軒を訪問し、同じくKish法により選んだ個人を対象に調査を続けた。つまり、調査員は調査開始世帯を1番とし、次に3番、5番、7番、・・・のように各エリアの15調査世帯を選び、あわせて1800世帯を訪問調査した。

(6) 抽出された世帯は無人在宅や回答拒否となった場合は、必ず3回までは再訪問することにした。もし、3回訪問しても調査が成功できなかった場合、すべての訪問記録と結果を詳しく記録した上で、該当世帯を調査不能と見なした。

表2　台湾における層別、調査地点の抽出概要

層名	20歳以上人口数	総人口に占める割合(%)	エリア総数	抽出エリア数	エリア抽出率(%)	計画訪問標本世帯(戸)
(1)北部都市化地域	7219016	42.56	70	51	72.86	765
(2)北部非都市化地域	226093	1.33	19	2	10.53	30
(3)中部都市化地域	3287669	19.38	59	23	38.98	345
(4)中部非都市化地域	914533	5.39	47	7	14.89	105
(5)南部都市化地域	3865518	22.79	63	27	42.86	405
(6)南部非都市化地域	1009143	5.95	71	7	9.86	105
(7)東部都市化地域	250934	1.48	5	2	40.00	30
(8)東部非都市化地域	189664	1.12	24	1	4.17	15
合　計	16962570	100.00	358	120	33.52	1800

3. 調査地点別有効回収数および回収率

各調査地点における有効回収数および回収率は、以下の表3のとおりである。

表3　台湾調査における地点別回収数および回収率

調査地点	回収数	回収率
台北縣板橋市中正路39巷1號	6	40.0%
台北縣永和市永享路67號	10	66.7%
台北縣中和市南山路164號	5	33.3%
台北縣新莊市中華路一段31巷3號	7	46.7%
台北縣三重市中山路21號	5	33.3%
台北縣泰山鄉福興街22號	4	26.7%
台北縣新店市行政街8號之1	3	20.0%
台北縣淡水鎮自強路104號	5	33.3%

調查地点	回收数	回收率
台北縣林口鄉寶林路 36 號	5	33.3%
台北縣三芝鄉中山路 23 號	6	40.0%
台北縣汐止市新興路 3 號	6	40.0%
台北縣三峽鎮大同路 37 號	6	40.0%
台北縣鶯歌鎮信義街 119 號	7	46.7%
台北縣蘆洲市信義路 30 巷 32 號	6	40.0%
台北縣五股鄉工商路 152 號	4	26.7%
台北縣八里鄉中山路 2 段 162 號	7	46.7%
台北縣金山鄉民生路 388 號	5	33.3%
台北縣樹林市保安街 2 段 31 巷 1 號	5	33.3%
台北縣土城市千歲路 45 巷 1 號	6	40.0%
宜蘭縣宜蘭市民權路 2 段 211 巷 8 號	8	53.3%
宜蘭縣員山鄉員山路一段 205 號	6	40.0%
宜蘭縣羅東鎮公正路 228 號	6	40.0%
宜蘭縣礁溪鄉中山路一段 169 號	5	33.3%
桃園縣桃園市民安路 131 號	4	26.7%
桃園縣中壢市德育路 139 號	4	26.7%
桃園縣大溪鎮康莊路 187-1 號	6	40.0%
桃園縣楊梅鎮永美路 168 號	5	33.3%
桃園縣蘆竹鄉南崁路 182 號	5	33.3%
桃園縣龜山鄉萬壽路一段 302 號	6	40.0%
桃園縣八德市廣福路 16 號	5	33.3%
桃園縣平鎮市振平街 2 號	4	26.7%
桃園縣新屋鄉中山路 290 號	5	33.3%
新竹縣竹北市國強街 4 號	5	33.3%
新竹縣竹東鎮信義街 2 號	6	40.0%
新竹縣新埔鎮中正路 142 號	4	26.7%
新竹縣湖口鄉中興街 1 號	4	26.7%
新竹縣新豐鄉新庄路 204 號	3	20.0%
苗栗縣苗栗市復興路 4 段 82 號	2	13.3%
苗栗縣苑裡鎮和平路 126 號	5	33.3%
苗栗縣公館鄉仁愛路 1 段 22 號	2	13.3%
台中縣豐原市中正路 378 號	3	20.0%
台中縣大雅鄉中清路二段 65 巷	2	13.3%
台中縣清水鎮光華路 62 號	2	13.3%
台中縣沙鹿鎮星河路 368-1 號	4	26.7%
台中縣霧峰鄉中正路 524 號	7	46.7%

調查地点	回收数	回收率
台中縣太平市振福路 525 號	6	40.0%
台中縣大里市大新街 51 號	5	33.3%
台中縣烏日鄉光日路 256 號	5	33.3%
台中縣大肚鄉營埔巷口	3	20.0%
彰化縣永靖鄉中山路 3 段 17 號	4	26.7%
彰化縣大村鄉新興巷 6-9 號	6	40.0%
彰化縣溪湖鎮二溪路一段 182 號	4	26.7%
彰化縣埔鹽鄉彰化路二段 103 號	2	13.3%
彰化縣北斗鎮光復路 312 號	6	40.0%
彰化縣鹿港鎮東隆路 190 號	4	26.7%
彰化縣秀水鄉番花路 302-1 號	5	33.3%
彰化縣二林鎮斗苑路 4 段 385 巷 4 號	3	20.0%
彰化縣社頭鄉員集路二段 537 號	4	26.7%
南投縣埔里鎮中山路 1 段 188 巷 1 號	9	60.0%
南投縣竹山鎮竹山路 110 號	5	33.3%
南投縣名間鄉豐柏路 51 號	5	33.3%
雲林縣莿桐鄉中正路 68 號	4	26.7%
雲林縣虎尾鎮林森路一段 2 號	4	26.7%
雲林縣崙背鄉西安路 55 號	3	20.0%
嘉義縣太保市中正路 46 號	5	33.3%
嘉義縣朴子市應菜埔 28-1 號	7	46.7%
嘉義縣水上鄉正義路 125 號	5	33.3%
嘉義縣竹崎鄉灣橋 383 號	5	33.3%
台南縣新營市台南縣新市鎮成功路 13 號	7	46.7%
台南縣佳里鎮佳里興 209-29 號	4	26.7%
台南縣學甲鎮自強路 7 巷 14 號	6	40.0%
台南縣善化鎮中和街 22 號	3	20.0%
台南縣新市鎮中正路 142 號	4	26.7%
台南縣歸仁鄉中正南路一段 135 號	6	40.0%
台南縣永康市大民街 58 巷 20 號	4	26.7%
高雄縣鳳山市文衡路 90 巷 1 弄 29 號	4	26.7%
高雄縣大寮鄉上寮路 40-1 號	6	40.0%
高雄縣仁武鄉仁怡街 81 號	3	20.0%
高雄縣鳥松鄉中正路 353 號	4	26.7%
高雄縣岡山鎮嘉興路 222 號	6	40.0%
高雄縣橋頭鄉橋頭路 92 號	3	20.0%
高雄縣阿蓮鄉復安路 187-3 號	3	20.0%

調查地点	回收数	回收率
屏東縣屏東市豐榮街 115 號	6	40.0%
屏東縣潮州鎮天祥路 67 號	6	40.0%
屏東縣九如鄉林森路 271 號	4	26.7%
屏東縣里港鄉和平路 171 號	3	20.0%
屏東縣內埔鄉勝利路 13 號	6	40.0%
台東縣台東市志航路一段 96 號	12	80.0%
台東縣成功鎮中華路 97 號	7	46.7%
花蓮縣花蓮市仁愛街 2-3 號	7	46.7%
基隆市七堵區南興路 79 號	4	26.7%
基隆市仁愛區愛五路 6 巷 12 號	3	20.0%
基隆市安樂區安一路 278 巷 6 號	4	26.7%
新竹市東區民族路 146 號	4	26.7%
新竹市北區延平路一段 527 號	6	40.0%
新竹市香山區牛埔東路 253 號	4	26.7%
台中市東區練武路 295 號	3	20.0%
台中市南區大慶街 2 段 277 號	5	33.3%
台中市西屯區河南路 2 段 58 號	5	33.3%
台中市北屯區后庄 1 街 136 號 9 樓	5	33.3%
嘉義市西區民生南路 416 號	5	33.3%
台南市中西區城隍街 22 號	4	26.7%
台南市安平區平通路 460 號	4	26.7%
台南市北區民德路 105 巷 55 號	5	33.3%
台北市松山區八德路 4 段 692 號	5	33.3%
台北市信義區莊敬路 325 巷 56 號	3	20.0%
台北市大安區和平東路一段 199 巷 2-1 號	4	26.7%
台北市中山區農安街 180 號	6	40.0%
台北市大同區昌吉街 57 號	7	46.7%
台北市萬華區大理街 90 號	5	33.3%
台北市文山區木柵路 3 段 104 號	5	33.3%
台北市內湖區民權東路 6 段 81 巷 16 號 4 樓	6	40.0%
台北市士林區福德路 74 號	6	40.0%
台北市北投區實踐街 2 號	4	26.7%
高雄市左營區富國路 462 巷 12 號	7	46.7%
高雄市楠梓區和光街 11 號	5	33.3%
高雄市鼓山區九如四路 892 號	6	40.0%
高雄市苓雅區義勇路 178 號	6	40.0%
高雄市前鎮區鎮華街 87 號	7	46.7%

調査地点	回収数	回収率
高雄市小港區平和路 162 號	5	33.3%
高雄市三民區三民街 115 號	6	40.0%
全体	603	33.5%

4. 全有効回収標本に対する訪問履歴

全有効回収標本に対する訪問履歴（訪問回数）を、以下の表 4 に示す。なお、1-2-2. (6) にあるように、3 回の訪問で調査できなかった場合は調査不能とした。それらのケースは、表 4 にはのせていない。(ID は地点の ID 番号、No. は地点内での通し番号を意味しており、サンプル番号とのつながりはない。)

表 4　台湾調査における全有効回収標本に対する訪問回数

ID	No	地点	回数
101	1	台北縣板橋市中正路 39 巷 1 號	1
101	2	台北縣板橋市中正路 39 巷 1 號	1
101	3	台北縣板橋市中正路 39 巷 1 號	2
101	4	台北縣板橋市中正路 39 巷 1 號	2
101	5	台北縣板橋市中正路 39 巷 1 號	3
101	6	台北縣板橋市中正路 39 巷 1 號	3
102	1	台北縣永和市永享路 67 號	1
102	2	台北縣永和市永享路 67 號	1
102	3	台北縣永和市永享路 67 號	1
102	4	台北縣永和市永享路 67 號	1
102	5	台北縣永和市永享路 67 號	2
102	6	台北縣永和市永享路 67 號	1
102	7	台北縣永和市永享路 67 號	2
102	8	台北縣永和市永享路 67 號	3
102	9	台北縣永和市永享路 67 號	3
102	10	台北縣永和市永享路 67 號	3
103	1	台北縣中和市南山路 164 號	1
103	2	台北縣中和市南山路 164 號	1
103	3	台北縣中和市南山路 164 號	2
103	4	台北縣中和市南山路 164 號	2
103	5	台北縣中和市南山路 164 號	3
104	1	台北縣新莊市中華路一段 31 巷 3 號	3
104	2	台北縣新莊市中華路一段 31 巷 3 號	2
104	3	台北縣新莊市中華路一段 31 巷 3 號	2
104	4	台北縣新莊市中華路一段 31 巷 3 號	2
104	5	台北縣新莊市中華路一段 31 巷 3 號	2
104	6	台北縣新莊市中華路一段 31 巷 3 號	1
104	7	台北縣新莊市中華路一段 31 巷 3 號	3
105	1	台北縣三重市中山路 21 號	1
105	2	台北縣三重市中山路 21 號	1
105	3	台北縣三重市中山路 21 號	2
105	4	台北縣三重市中山路 21 號	2
105	5	台北縣三重市中山路 21 號	3
106	1	台北縣泰山鄉福興街 22 號	1
106	2	台北縣泰山鄉福興街 22 號	1
106	3	台北縣泰山鄉福興街 22 號	2
106	4	台北縣泰山鄉福興街 22 號	3
107	1	台北縣新店市行政街 8 號之 1	1
107	2	台北縣新店市行政街 8 號之 1	2
107	3	台北縣新店市行政街 8 號之 1	3
112	1	台北縣淡水鎮自強路 104 號	1
112	2	台北縣淡水鎮自強路 104 號	1
112	3	台北縣淡水鎮自強路 104 號	2
112	4	台北縣淡水鎮自強路 104 號	2
112	5	台北縣淡水鎮自強路 104 號	3
113	1	台北縣林口鄉寶林路 36 號	1
113	2	台北縣林口鄉寶林路 36 號	1
113	3	台北縣林口鄉寶林路 36 號	1
113	4	台北縣林口鄉寶林路 36 號	2
113	5	台北縣林口鄉寶林路 36 號	3
114	1	台北縣三芝鄉中山路 23 號	1
114	2	台北縣三芝鄉中山路 23 號	1
114	3	台北縣三芝鄉中山路 23 號	1
114	4	台北縣三芝鄉中山路 23 號	2
114	5	台北縣三芝鄉中山路 23 號	2
114	6	台北縣三芝鄉中山路 23 號	3
115	1	台北縣汐止市新興路 3 號	3
115	2	台北縣汐止市新興路 3 號	1
115	3	台北縣汐止市新興路 3 號	1
115	4	台北縣汐止市新興路 3 號	2
115	5	台北縣汐止市新興路 3 號	2
115	6	台北縣汐止市新興路 3 號	1
120	1	台北縣三峽鎮大同路 37 號	1
120	2	台北縣三峽鎮大同路 37 號	2
120	3	台北縣三峽鎮大同路 37 號	2
120	4	台北縣三峽鎮大同路 37 號	2

ID	No	地点	回数
120	5	台北縣三峽鎮大同路 37 號	3
120	6	台北縣三峽鎮大同路 37 號	3
121	1	台北縣鶯歌鎮信義街 119 號	1
121	2	台北縣鶯歌鎮信義街 119 號	1
121	3	台北縣鶯歌鎮信義街 119 號	2
121	4	台北縣鶯歌鎮信義街 119 號	2
121	5	台北縣鶯歌鎮信義街 119 號	2
121	6	台北縣鶯歌鎮信義街 119 號	3
121	7	台北縣鶯歌鎮信義街 119 號	3
122	1	台北縣蘆洲市信義路 30 巷 32 號	1
122	2	台北縣蘆洲市信義路 30 巷 32 號	1
122	3	台北縣蘆洲市信義路 30 巷 32 號	2
122	4	台北縣蘆洲市信義路 30 巷 32 號	2
122	5	台北縣蘆洲市信義路 30 巷 32 號	3
122	6	台北縣蘆洲市信義路 30 巷 32 號	3
123	1	台北縣五股鄉工商路 152 號	1
123	2	台北縣五股鄉工商路 152 號	1
123	3	台北縣五股鄉工商路 152 號	2
123	4	台北縣五股鄉工商路 152 號	3
124	1	台北縣八里鄉中山路 2 段 162 號	1
124	2	台北縣八里鄉中山路 2 段 162 號	2
124	3	台北縣八里鄉中山路 2 段 162 號	2
124	4	台北縣八里鄉中山路 2 段 162 號	2
124	5	台北縣八里鄉中山路 2 段 162 號	3
124	6	台北縣八里鄉中山路 2 段 162 號	3
124	7	台北縣八里鄉中山路 2 段 162 號	3
125	1	台北縣金山鄉民生路 388 號	1
125	2	台北縣金山鄉民生路 388 號	1
125	3	台北縣金山鄉民生路 388 號	2
125	4	台北縣金山鄉民生路 388 號	2
125	5	台北縣金山鄉民生路 388 號	3
128	1	台北縣樹林市保安街 2 段 31 巷 1 號	1
128	2	台北縣樹林市保安街 2 段 31 巷 1 號	1
128	3	台北縣樹林市保安街 2 段 31 巷 1 號	1
128	4	台北縣樹林市保安街 2 段 31 巷 1 號	3
128	5	台北縣樹林市保安街 2 段 31 巷 1 號	3
129	1	台北縣土城市千歲路 45 巷 1 號	1
129	2	台北縣土城市千歲路 45 巷 1 號	2
129	3	台北縣土城市千歲路 45 巷 1 號	2
129	4	台北縣土城市千歲路 45 巷 1 號	3
129	5	台北縣土城市千歲路 45 巷 1 號	3
129	6	台北縣土城市千歲路 45 巷 1 號	3
201	1	宜蘭縣宜蘭市民權路 2 段 211 巷 8 號	1
201	2	宜蘭縣宜蘭市民權路 2 段 211 巷 8 號	1
201	3	宜蘭縣宜蘭市民權路 2 段 211 巷 8 號	1
201	4	宜蘭縣宜蘭市民權路 2 段 211 巷 8 號	2
201	5	宜蘭縣宜蘭市民權路 2 段 211 巷 8 號	2
201	6	宜蘭縣宜蘭市民權路 2 段 211 巷 8 號	2

ID	No	地点	回数
201	7	宜蘭縣宜蘭市民權路 2 段 211 巷 8 號	3
201	8	宜蘭縣宜蘭市民權路 2 段 211 巷 8 號	3
202	1	宜蘭縣員山鄉員山路一段 205 號	1
202	2	宜蘭縣員山鄉員山路一段 205 號	2
202	3	宜蘭縣員山鄉員山路一段 205 號	2
202	4	宜蘭縣員山鄉員山路一段 205 號	2
202	5	宜蘭縣員山鄉員山路一段 205 號	3
202	6	宜蘭縣員山鄉員山路一段 205 號	3
203	1	宜蘭縣羅東鎮公正路 228 號	1
203	2	宜蘭縣羅東鎮公正路 228 號	1
203	3	宜蘭縣羅東鎮公正路 228 號	2
203	4	宜蘭縣羅東鎮公正路 228 號	2
203	5	宜蘭縣羅東鎮公正路 228 號	3
203	6	宜蘭縣羅東鎮公正路 228 號	3
206	1	宜蘭縣礁溪鄉中山路一段 169 號	1
206	2	宜蘭縣礁溪鄉中山路一段 169 號	2
206	3	宜蘭縣礁溪鄉中山路一段 169 號	2
206	4	宜蘭縣礁溪鄉中山路一段 169 號	3
206	5	宜蘭縣礁溪鄉中山路一段 169 號	3
301	1	桃園縣桃園市民安路 131 號	1
301	2	桃園縣桃園市民安路 131 號	1
301	3	桃園縣桃園市民安路 131 號	2
301	4	桃園縣桃園市民安路 131 號	3
302	1	桃園縣中壢市德育路 139 號	1
302	2	桃園縣中壢市德育路 139 號	1
302	3	桃園縣中壢市德育路 139 號	2
302	4	桃園縣中壢市德育路 139 號	3
303	1	桃園縣大溪鎮康莊路 187-1 號	1
303	2	桃園縣大溪鎮康莊路 187-1 號	1
303	3	桃園縣大溪鎮康莊路 187-1 號	1
303	4	桃園縣大溪鎮康莊路 187-1 號	2
303	5	桃園縣大溪鎮康莊路 187-1 號	2
303	6	桃園縣大溪鎮康莊路 187-1 號	2
304	1	桃園縣楊梅鎮永美路 168 號	1
304	2	桃園縣楊梅鎮永美路 168 號	1
304	3	桃園縣楊梅鎮永美路 168 號	1
304	4	桃園縣楊梅鎮永美路 168 號	3
304	5	桃園縣楊梅鎮永美路 168 號	2
305	1	桃園縣蘆竹鄉南崁路 182 號	1
305	2	桃園縣蘆竹鄉南崁路 182 號	1
305	3	桃園縣蘆竹鄉南崁路 182 號	2
305	4	桃園縣蘆竹鄉南崁路 182 號	2
305	5	桃園縣蘆竹鄉南崁路 182 號	3
307	1	桃園縣龜山鄉萬壽路一段 302 號	1
307	2	桃園縣龜山鄉萬壽路一段 302 號	2
307	3	桃園縣龜山鄉萬壽路一段 302 號	2
307	4	桃園縣龜山鄉萬壽路一段 302 號	3
307	5	桃園縣龜山鄉萬壽路一段 302 號	3

ID	No	地点	回数
307	6	桃園縣龜山鄉萬壽路一段 302 號	3
308	1	桃園縣八德市廣福路 16 號	1
308	2	桃園縣八德市廣福路 16 號	2
308	3	桃園縣八德市廣福路 16 號	2
308	4	桃園縣八德市廣福路 16 號	1
308	5	桃園縣八德市廣福路 16 號	2
310	1	桃園縣平鎮市振平街 2 號	1
310	2	桃園縣平鎮市振平街 2 號	2
310	3	桃園縣平鎮市振平街 2 號	3
310	4	桃園縣平鎮市振平街 2 號	3
311	1	桃園縣新屋鄉中山路 290 號	1
311	2	桃園縣新屋鄉中山路 290 號	1
311	3	桃園縣新屋鄉中山路 290 號	2
311	4	桃園縣新屋鄉中山路 290 號	2
311	5	桃園縣新屋鄉中山路 290 號	3
401	1	新竹縣竹北市國強街 4 號	1
401	2	新竹縣竹北市國強街 4 號	1
401	3	新竹縣竹北市國強街 4 號	2
401	4	新竹縣竹北市國強街 4 號	2
401	5	新竹縣竹北市國強街 4 號	3
402	1	新竹縣竹東鎮信義街 2 號	1
402	2	新竹縣竹東鎮信義街 2 號	1
402	3	新竹縣竹東鎮信義街 2 號	2
402	4	新竹縣竹東鎮信義街 2 號	2
402	5	新竹縣竹東鎮信義街 2 號	3
402	6	新竹縣竹東鎮信義街 2 號	3
403	1	新竹縣新埔鎮中正路 142 號	1
403	2	新竹縣新埔鎮中正路 142 號	1
403	3	新竹縣新埔鎮中正路 142 號	2
403	4	新竹縣新埔鎮中正路 142 號	3
405	1	新竹縣湖口鄉中興街 1 號	1
405	2	新竹縣湖口鄉中興街 1 號	1
405	3	新竹縣湖口鄉中興街 1 號	2
405	4	新竹縣湖口鄉中興街 1 號	3
406	1	新竹縣新豐鄉新庄路 204 號	1
406	2	新竹縣新豐鄉新庄路 204 號	2
406	3	新竹縣新豐鄉新庄路 204 號	3
501	1	苗栗縣苗栗市復興路 4 段 82 號	2
501	2	苗栗縣苗栗市復興路 4 段 83 號	3
502	1	苗栗縣苑裡鎮和平路 126 號	2
502	2	苗栗縣苑里鎮和平路 126 號	2
502	3	苗栗縣苑里鎮和平路 126 號	2
502	4	苗栗縣苑里鎮和平路 126 號	3
502	5	苗栗縣苑里鎮和平路 126 號	3
509	1	苗栗縣公館鄉仁愛路 1 段 22 號	1
509	2	苗栗縣公館鄉仁愛路 1 段 22 號	2
601	1	台中縣豐原市中正路 378 號	1
601	2	台中縣豐原市中正路 378 號	2

ID	No	地点	回数
601	3	台中縣豐原市中正路 378 號	2
604	1	台中縣大雅鄉中清路二段 65 巷	1
604	2	台中縣大雅鄉中清路二段 65 巷	3
605	1	台中縣清水鎮光華路 62 號	1
605	2	台中縣清水鎮光華路 62 號	1
606	1	台中縣沙鹿鎮星河路 368-1 號	2
606	2	台中縣沙鹿鎮星河路 368-1 號	2
606	3	台中縣沙鹿鎮星河路 368-1 號	2
606	4	台中縣沙鹿鎮星河路 368-1 號	3
612	1	台中縣霧峰鄉中正路 524 號	1
612	2	台中縣霧峰鄉中正路 525 號	1
612	3	台中縣霧峰鄉中正路 526 號	2
612	4	台中縣霧峰鄉中正路 527 號	2
612	5	台中縣霧峰鄉中正路 528 號	2
612	6	台中縣霧峰鄉中正路 529 號	2
612	7	台中縣霧峰鄉中正路 530 號	3
613	1	台中縣太平市振福路 525 號	1
613	2	台中縣太平市振福路 526 號	1
613	3	台中縣太平市振福路 527 號	2
613	4	台中縣太平市振福路 528 號	2
613	5	台中縣太平市振福路 529 號	3
613	6	台中縣太平市振福路 530 號	3
614	1	台中縣大里市大新街 51 號	1
614	2	台中縣大里市大新街 51 號	1
614	3	台中縣大里市大新街 51 號	2
614	4	台中縣大里市大新街 51 號	3
614	5	台中縣大里市大新街 51 號	3
615	1	台中縣烏日鄉光日路 256 號	1
615	2	台中縣烏日鄉光日路 256 號	1
615	3	台中縣烏日鄉光日路 256 號	2
615	4	台中縣烏日鄉光日路 256 號	2
615	5	台中縣烏日鄉光日路 256 號	3
616	1	台中縣大肚鄉營埔巷口	1
616	2	台中縣大肚鄉營埔巷口	3
616	3	台中縣大肚鄉營埔巷口	3
705	1	彰化縣永靖鄉中山路 3 段 17 號	1
705	2	彰化縣永靖鄉中山路 3 段 17 號	1
705	3	彰化縣永靖鄉中山路 3 段 17 號	2
705	4	彰化縣永靖鄉中山路 3 段 17 號	3
706	1	彰化縣大村鄉新興巷 6-9 號	1
706	2	彰化縣大村鄉新興巷 6-9 號	1
706	3	彰化縣大村鄉新興巷 6-9 號	2
706	4	彰化縣大村鄉新興巷 6-9 號	2
706	5	彰化縣大村鄉新興巷 6-9 號	3
706	6	彰化縣大村鄉新興巷 6-9 號	3
707	1	彰化縣溪湖鎮二溪路一段 182 號	1
707	2	彰化縣溪湖鎮二溪路一段 182 號	2
707	3	彰化縣溪湖鎮二溪路一段 182 號	3

ID	No	地点	回数
707	4	彰化縣溪湖鎮二溪路一段 182 號	3
709	1	彰化縣埔鹽鄉彰化路二段 103 號	1
709	2	彰化縣埔鹽鄉彰化路二段 103 號	2
710	1	彰化縣北斗鎮光復路 312 號	1
710	2	彰化縣北斗鎮光復路 312 號	1
710	3	彰化縣北斗鎮光復路 312 號	1
710	4	彰化縣北斗鎮光復路 312 號	2
710	5	彰化縣北斗鎮光復路 312 號	3
710	6	彰化縣北斗鎮光復路 312 號	3
714	1	彰化縣鹿港鎮東隆路 190 號	1
714	2	彰化縣鹿港鎮東隆路 190 號	1
714	3	彰化縣鹿港鎮東隆路 190 號	2
714	4	彰化縣鹿港鎮東隆路 190 號	3
716	1	彰化縣秀水鄉番花路 302-1 號	1
716	2	彰化縣秀水鄉番花路 302-1 號	1
716	3	彰化縣秀水鄉番花路 302-1 號	2
716	4	彰化縣秀水鄉番花路 302-1 號	2
716	5	彰化縣秀水鄉番花路 302-1 號	3
720	1	彰化縣二林鎮斗苑路 4 段 385 巷 4 號	1
720	2	彰化縣二林鎮斗苑路 4 段 385 巷 4 號	2
720	3	彰化縣二林鎮斗苑路 4 段 385 巷 4 號	3
726	1	彰化縣社頭鄉員集路二段 537 號	1
726	2	彰化縣社頭鄉員集路二段 537 號	2
726	3	彰化縣社頭鄉員集路二段 537 號	3
726	4	彰化縣社頭鄉員集路二段 537 號	3
802	1	南投縣埔里鎮中山路 1 段 188 巷 1 號	1
802	2	南投縣埔里鎮中山路 1 段 188 巷 1 號	1
802	3	南投縣埔里鎮中山路 1 段 188 巷 1 號	1
802	4	南投縣埔里鎮中山路 1 段 188 巷 1 號	2
802	5	南投縣埔里鎮中山路 1 段 188 巷 1 號	2
802	6	南投縣埔里鎮中山路 1 段 188 巷 1 號	2
802	7	南投縣埔里鎮中山路 1 段 188 巷 1 號	3
802	8	南投縣埔里鎮中山路 1 段 188 巷 1 號	3
802	9	南投縣埔里鎮中山路 1 段 188 巷 1 號	3
804	1	南投縣竹山鎮竹山路 110 號	1
804	2	南投縣竹山鎮竹山路 110 號	1
804	3	南投縣竹山鎮竹山路 110 號	2
804	4	南投縣竹山鎮竹山路 110 號	3
804	5	南投縣竹山鎮竹山路 110 號	3
806	1	南投縣名間鄉豐柏路 51 號	1
806	2	南投縣名間鄉豐柏路 51 號	1
806	3	南投縣名間鄉豐柏路 51 號	2
806	4	南投縣名間鄉豐柏路 51 號	3
806	5	南投縣名間鄉豐柏路 51 號	3
903	1	雲林縣莿桐鄉中正路 68 號	1
903	2	雲林縣荊桐鄉中正路 68 號	1
903	3	雲林縣荊桐鄉中正路 68 號	2
903	4	雲林縣荊桐鄉中正路 68 號	3

ID	No	地点	回数
907	1	雲林縣虎尾鎮林森路一段 2 號	1
907	2	雲林縣虎尾鎮林森路一段 2 號	1
907	3	雲林縣虎尾鎮林森路一段 2 號	2
907	4	雲林縣虎尾鎮林森路一段 2 號	3
913	1	雲林縣崙背鄉西安路 55 號	1
913	2	雲林縣崙背鄉西安路 55 號	2
913	3	雲林縣崙背鄉西安路 55 號	3
1001	1	嘉義縣太保市中正路 46 號	1
1001	2	嘉義縣太保市中正路 46 號	1
1001	3	嘉義縣太保市中正路 46 號	2
1001	4	嘉義縣太保市中正路 46 號	2
1001	5	嘉義縣太保市中正路 46 號	3
1002	1	嘉義縣朴子市應菜埔 28-1 號	1
1002	2	嘉義縣朴子市應菜埔 28-1 號	1
1002	3	嘉義縣朴子市應菜埔 28-1 號	1
1002	4	嘉義縣朴子市應菜埔 28-1 號	2
1002	5	嘉義縣朴子市應菜埔 28-1 號	2
1002	6	嘉義縣朴子市應菜埔 28-1 號	2
1002	7	嘉義縣朴子市應菜埔 28-1 號	3
1012	1	嘉義縣水上鄉正義路 125 號	1
1012	2	嘉義縣水上鄉正義路 125 號	1
1012	3	嘉義縣水上鄉正義路 125 號	3
1012	4	嘉義縣水上鄉正義路 125 號	3
1012	5	嘉義縣水上鄉正義路 125 號	3
1014	1	嘉義縣竹崎鄉灣橋 383 號	1
1014	2	嘉義縣竹崎鄉灣橋 383 號	1
1014	3	嘉義縣竹崎鄉灣橋 383 號	2
1014	4	嘉義縣竹崎鄉灣橋 383 號	2
1014	5	嘉義縣竹崎鄉灣橋 383 號	3
1101	1	台南縣新營市台南縣新市鎮成功路 13 號	1
1101	2	台南縣新營市台南縣新市鎮成功路 13 號	1
1101	3	台南縣新營市台南縣新市鎮成功路 13 號	1
1101	4	台南縣新營市台南縣新市鎮成功路 13 號	2
1101	5	台南縣新營市台南縣新市鎮成功路 13 號	1
1101	6	台南縣新營市台南縣新市鎮成功路 13 號	3
1101	7	台南縣新營市台南縣新市鎮成功路 13 號	3
1112	1	台南縣佳里鎮佳里興 209-29 號	1
1112	2	台南縣佳里鎮佳里興 209-29 號	1
1112	3	台南縣佳里鎮佳里興 209-29 號	1
1112	4	台南縣佳里鎮佳里興 209-29 號	2
1113	1	台南縣學甲鎮自強路 7 巷 14 號	1
1113	2	台南縣學甲鎮自強路 7 巷 14 號	1
1113	3	台南縣學甲鎮自強路 7 巷 14 號	1
1113	4	台南縣學甲鎮自強路 7 巷 14 號	1
1113	5	台南縣學甲鎮自強路 7 巷 14 號	2
1113	6	台南縣學甲鎮自強路 7 巷 14 號	3
1119	1	台南縣善化鎮中和街 22 號	1
1119	2	台南縣善化鎮中和街 22 號	1

ID	No	地点	回数
1119	3	台南縣善化鎮中和街 22 號	2
1120	1	台南縣新市鎮中正路 142 號	2
1120	2	台南縣新市鎮中正路 142 號	2
1120	3	台南縣新市鎮中正路 142 號	3
1120	4	台南縣新市鎮中正路 142 號	3
1128	1	台南縣歸仁鄉中正南路一段 135 號	1
1128	2	台南縣歸仁鄉中正南路一段 135 號	1
1128	3	台南縣歸仁鄉中正南路一段 135 號	2
1128	4	台南縣歸仁鄉中正南路一段 135 號	3
1128	5	台南縣歸仁鄉中正南路一段 135 號	3
1128	6	台南縣歸仁鄉中正南路一段 135 號	3
1131	1	台南縣永康市大民街 58 巷 20 號	1
1131	2	台南縣永康市大民街 58 巷 20 號	1
1131	3	台南縣永康市大民街 58 巷 20 號	2
1131	4	台南縣永康市大民街 58 巷 20 號	3
1201	1	高雄縣鳳山市文衡路 90 巷 1 弄 29 號	1
1201	2	高雄縣鳳山市文衡路 90 巷 1 弄 29 號	1
1201	3	高雄縣鳳山市文衡路 90 巷 1 弄 29 號	2
1201	4	高雄縣鳳山市文衡路 90 巷 1 弄 29 號	2
1203	1	高雄縣大寮鄉上寮路 40-1 號	1
1203	2	高雄縣大寮鄉上寮路 40-1 號	1
1203	3	高雄縣大寮鄉上寮路 40-1 號	2
1203	4	高雄縣大寮鄉上寮路 40-1 號	2
1203	5	高雄縣大寮鄉上寮路 40-1 號	3
1203	6	高雄縣大寮鄉上寮路 40-1 號	3
1206	1	高雄縣仁武鄉仁怡街 81 號	1
1206	2	高雄縣仁武鄉仁怡街 82 號	2
1206	3	高雄縣仁武鄉仁怡街 83 號	3
1207	1	高雄縣鳥松鄉中正路 353 號	1
1207	2	高雄縣鳥松鄉中正路 353 號	1
1207	3	高雄縣鳥松鄉中正路 353 號	2
1207	4	高雄縣鳥松鄉中正路 353 號	3
1208	1	高雄縣岡山鎮嘉興路 222 號	1
1208	2	高雄縣岡山鎮嘉興路 222 號	2
1208	3	高雄縣岡山鎮嘉興路 222 號	2
1208	4	高雄縣岡山鎮嘉興路 222 號	2
1208	5	高雄縣岡山鎮嘉興路 222 號	2
1208	6	高雄縣岡山鎮嘉興路 222 號	3
1209	1	高雄縣橋頭鄉橋頭路 92 號	1
1209	2	高雄縣橋頭鄉橋頭路 92 號	1
1209	3	高雄縣橋頭鄉橋頭路 92 號	2
1212	1	高雄縣阿蓮鄉復安路 187-3 號	1
1212	2	高雄縣阿蓮鄉復安路 187-3 號	2
1212	3	高雄縣阿蓮鄉復安路 187-3 號	3
1301	1	屏東縣屏東市豐榮街 115 號	1
1301	2	屏東縣屏東市豐榮街 115 號	2
1301	3	屏東縣屏東市豐榮街 115 號	2
1301	4	屏東縣屏東市豐榮街 115 號	2

ID	No	地点	回数
1301	5	屏東縣屏東市豐榮街 115 號	3
1301	6	屏東縣屏東市豐榮街 115 號	3
1302	1	屏東縣潮州鎮天祥路 67 號	1
1302	2	屏東縣潮州鎮天祥路 67 號	1
1302	3	屏東縣潮州鎮天祥路 67 號	2
1302	4	屏東縣潮州鎮天祥路 67 號	2
1302	5	屏東縣潮州鎮天祥路 67 號	3
1302	6	屏東縣潮州鎮天祥路 67 號	3
1308	1	屏東縣九如鄉林森路 271 號	1
1308	2	屏東縣九如鄉林森路 271 號	2
1308	3	屏東縣九如鄉林森路 271 號	2
1308	4	屏東縣九如鄉林森路 271 號	1
1309	1	屏東縣里港鄉和平路 171 號	1
1309	2	屏東縣里港鄉和平路 171 號	1
1309	3	屏東縣里港鄉和平路 171 號	2
1313	1	屏東縣內埔鄉勝利路 13 號	1
1313	2	屏東縣內埔鄉勝利路 13 號	1
1313	3	屏東縣內埔鄉勝利路 13 號	2
1313	4	屏東縣內埔鄉勝利路 13 號	2
1313	5	屏東縣內埔鄉勝利路 13 號	3
1313	6	屏東縣內埔鄉勝利路 13 號	3
1401	1	台東縣台東市志航路一段 96 號	1
1401	2	台東縣台東市志航路一段 96 號	1
1401	3	台東縣台東市志航路一段 96 號	1
1401	4	台東縣台東市志航路一段 96 號	1
1401	5	台東縣台東市志航路一段 96 號	2
1401	6	台東縣台東市志航路一段 96 號	2
1401	7	台東縣台東市志航路一段 96 號	2
1401	8	台東縣台東市志航路一段 96 號	2
1401	9	台東縣台東市志航路一段 96 號	3
1401	10	台東縣台東市志航路一段 96 號	3
1401	11	台東縣台東市志航路一段 96 號	3
1401	12	台東縣台東市志航路一段 96 號	3
1414	1	台東縣成功鎮中華路 97 號	1
1414	2	台東縣成功鎮中華路 97 號	1
1414	3	台東縣成功鎮中華路 97 號	1
1414	4	台東縣成功鎮中華路 97 號	2
1414	5	台東縣成功鎮中華路 97 號	2
1414	6	台東縣成功鎮中華路 97 號	3
1414	7	台東縣成功鎮中華路 97 號	3
1501	1	花蓮縣花蓮市仁愛街 2-3 號	1
1501	2	花蓮縣花蓮市仁愛街 2-3 號	1
1501	3	花蓮縣花蓮市仁愛街 2-3 號	1
1501	4	花蓮縣花蓮市仁愛街 2-3 號	2
1501	5	花蓮縣花蓮市仁愛街 2-3 號	2
1501	6	花蓮縣花蓮市仁愛街 2-3 號	3
1501	7	花蓮縣花蓮市仁愛街 2-3 號	3
1702	1	基隆市七堵區南興路 79 號	1

ID	No	地点	回数
1702	2	基隆市七堵區南興路 79 號	1
1702	3	基隆市七堵區南興路 79 號	2
1702	4	基隆市七堵區南興路 79 號	3
1704	1	基隆市仁愛區愛五路 6 巷 12 號	1
1704	2	基隆市仁愛區愛五路 6 巷 12 號	2
1704	3	基隆市仁愛區愛五路 6 巷 12 號	3
1706	1	基隆市安樂區安一路 278 巷 6 號	1
1706	2	基隆市安樂區安一路 278 巷 6 號	1
1706	3	基隆市安樂區安一路 278 巷 6 號	2
1706	4	基隆市安樂區安一路 278 巷 6 號	3
1801	1	新竹市東區民族路 146 號	1
1801	2	新竹市東區民族路 146 號	2
1801	3	新竹市東區民族路 146 號	3
1801	4	新竹市東區民族路 146 號	3
1802	1	新竹市北區延平路一段 527 號	1
1802	2	新竹市北區延平路一段 527 號	1
1802	3	新竹市北區延平路一段 527 號	2
1802	4	新竹市北區延平路一段 527 號	2
1802	5	新竹市北區延平路一段 527 號	3
1802	6	新竹市北區延平路一段 527 號	3
1803	1	新竹市香山區牛埔東路 253 號	1
1803	2	新竹市香山區牛埔東路 253 號	1
1803	3	新竹市香山區牛埔東路 253 號	2
1803	4	新竹市香山區牛埔東路 253 號	3
1902	1	台中市東區練武路 295 號	1
1902	2	台中市東區練武路 295 號	2
1902	3	台中市東區練武路 295 號	1
1903	1	台中市南區大慶街 2 段 277 號	1
1903	2	台中市南區大慶街 2 段 277 號	1
1903	3	台中市南區大慶街 2 段 277 號	2
1903	4	台中市南區大慶街 2 段 277 號	2
1903	5	台中市南區大慶街 2 段 277 號	3
1906	1	台中市西屯區河南路 2 段 58 號	1
1906	2	台中市西屯區河南路 2 段 58 號	1
1906	3	台中市西屯區河南路 2 段 58 號	2
1906	4	台中市西屯區河南路 2 段 58 號	2
1906	5	台中市西屯區河南路 2 段 58 號	3
1908	1	台中市北屯區后庄 1 街 136 號 9 樓	1
1908	2	台中市北屯區后庄 1 街 136 號 9 樓	2
1908	3	台中市北屯區后庄 1 街 136 號 9 樓	2
1908	4	台中市北屯區后庄 1 街 136 號 9 樓	3
1908	5	台中市北屯區后庄 1 街 136 號 9 樓	3
2001	1	嘉義市西區民生南路 416 號	1
2001	2	嘉義市西區民生南路 416 號	1
2001	3	嘉義市西區民生南路 416 號	2
2001	4	嘉義市西區民生南路 416 號	2
2001	5	嘉義市西區民生南路 416 號	3
2102	1	台南市中西區城隍街 22 號	1

ID	No	地点	回数
2102	2	台南市中西區城隍街 22 號	1
2102	3	台南市中西區城隍街 22 號	2
2102	4	台南市中西區城隍街 22 號	3
2104	1	台南市安平區平通路 460 號	1
2104	2	台南市安平區平通路 460 號	1
2104	3	台南市安平區平通路 460 號	2
2104	4	台南市安平區平通路 460 號	2
2105	1	台南市北區民德路 105 巷 55 號	2
2105	2	台南市北區民德路 105 巷 55 號	2
2105	3	台南市北區民德路 105 巷 55 號	3
2105	4	台南市北區民德路 105 巷 55 號	1
2105	5	台南市北區民德路 105 巷 55 號	1
6301	1	台北市松山區八德路 4 段 692 號	1
6301	2	台北市松山區八德路 4 段 692 號	1
6301	3	台北市松山區八德路 4 段 692 號	3
6301	4	台北市松山區八德路 4 段 692 號	2
6301	5	台北市松山區八德路 4 段 692 號	2
6302	1	台北市信義區莊敬路 325 巷 56 號	1
6302	2	台北市信義區莊敬路 325 巷 56 號	2
6302	3	台北市信義區莊敬路 325 巷 56 號	3
6303	1	台北市大安區和平東路一段 199 巷 2-1 號	1
6303	2	台北市大安區和平東路一段 199 巷 2-1 號	1
6303	3	台北市大安區和平東路一段 199 巷 2-1 號	2
6303	4	台北市大安區和平東路一段 199 巷 2-1 號	3
6304	1	台北市中山區農安街 180 號	1
6304	2	台北市中山區農安街 180 號	1
6304	3	台北市中山區農安街 180 號	2
6304	4	台北市中山區農安街 180 號	2
6304	5	台北市中山區農安街 180 號	3
6304	6	台北市中山區農安街 180 號	3
6306	1	台北市大同區昌吉街 57 號	1
6306	2	台北市大同區昌吉街 57 號	1
6306	3	台北市大同區昌吉街 57 號	2
6306	4	台北市大同區昌吉街 57 號	2
6306	5	台北市大同區昌吉街 57 號	2
6306	6	台北市大同區昌吉街 57 號	3
6306	7	台北市大同區昌吉街 57 號	3
6307	1	台北市萬華區大理街 90 號	1
6307	2	台北市萬華區大理街 90 號	1
6307	3	台北市萬華區大理街 90 號	1
6307	4	台北市萬華區大理街 90 號	2
6307	5	台北市萬華區大理街 90 號	3
6308	1	台北市文山區木柵路 3 段 104 號	1
6308	2	台北市文山區木柵路 3 段 104 號	1
6308	3	台北市文山區木柵路 3 段 104 號	2
6308	4	台北市文山區木柵路 3 段 104 號	2
6308	5	台北市文山區木柵路 3 段 104 號	3
6310	1	台北市內湖區民權東路 6 段 81 巷 16 號 4	1

ID	No	地点	回数
6310	2	台北市內湖區民權東路 6 段 81 巷 16 號 4	1
6310	3	台北市內湖區民權東路 6 段 81 巷 16 號 4	2
6310	4	台北市內湖區民權東路 6 段 81 巷 16 號 4	2
6310	5	台北市內湖區民權東路 6 段 81 巷 16 號 4	3
6310	6	台北市內湖區民權東路 6 段 81 巷 16 號 4	3
6311	1	台北市士林區福德路 74 號	2
6311	2	台北市士林區福德路 74 號	1
6311	3	台北市士林區福德路 74 號	2
6311	4	台北市士林區福德路 74 號	2
6311	5	台北市士林區福德路 74 號	3
6311	6	台北市士林區福德路 74 號	3
6312	1	台北市北投區實踐街 2 號	1
6312	2	台北市北投區實踐街 2 號	2
6312	3	台北市北投區實踐街 2 號	3
6312	4	台北市北投區實踐街 2 號	3
6404	1	高雄市左營區富國路 462 巷 12 號	1
6404	2	高雄市左營區富國路 462 巷 12 號	1
6404	3	高雄市左營區富國路 462 巷 12 號	2
6404	4	高雄市左營區富國路 462 巷 12 號	2
6404	5	高雄市左營區富國路 462 巷 12 號	2
6404	6	高雄市左營區富國路 462 巷 12 號	3
6404	7	高雄市左營區富國路 462 巷 12 號	3
6405	1	高雄市楠梓區和光街 11 號	1
6405	2	高雄市楠梓區和光街 11 號	1
6405	3	高雄市楠梓區和光街 11 號	2
6405	4	高雄市楠梓區和光街 11 號	2
6405	5	高雄市楠梓區和光街 11 號	3
6406	1	高雄市鼓山區九如四路 892 號	1
6406	2	高雄市鼓山區九如四路 892 號	1

ID	No	地点	回数
6406	3	高雄市鼓山區九如四路 892 號	2
6406	4	高雄市鼓山區九如四路 892 號	2
6406	5	高雄市鼓山區九如四路 892 號	3
6406	6	高雄市鼓山區九如四路 892 號	3
6408	1	高雄市苓雅區義勇路 178 號	1
6408	2	高雄市苓雅區義勇路 178 號	1
6408	3	高雄市苓雅區義勇路 178 號	1
6408	4	高雄市苓雅區義勇路 178 號	2
6408	5	高雄市苓雅區義勇路 178 號	2
6408	6	高雄市苓雅區義勇路 178 號	2
6409	1	高雄市前鎮區鎮華街 87 號	1
6409	2	高雄市前鎮區鎮華街 87 號	1
6409	3	高雄市前鎮區鎮華街 87 號	1
6409	4	高雄市前鎮區鎮華街 87 號	2
6409	5	高雄市前鎮區鎮華街 87 號	2
6409	6	高雄市前鎮區鎮華街 87 號	3
6409	7	高雄市前鎮區鎮華街 87 號	3
6410	1	高雄市小港區平和路 162 號	1
6410	2	高雄市小港區平和路 162 號	1
6410	3	高雄市小港區平和路 162 號	2
6410	4	高雄市小港區平和路 162 號	2
6410	5	高雄市小港區平和路 162 號	3
6411	1	高雄市三民區三民街 115 號	1
6411	2	高雄市三民區三民街 115 號	2
6411	3	高雄市三民區三民街 115 號	2
6411	4	高雄市三民區三民街 115 號	3
6411	5	高雄市三民區三民街 115 號	3
6411	6	高雄市三民區三民街 115 號	3

USA2006年調査の概要

1 調査計画の概要

本調査は、平成18年度科学研究費補助金・基盤研究A（研究代表者、吉野諒三）の研究課題「環太平洋価値観国際比較調査－東アジア周辺諸国の「信頼感」の統計科学解析－」の一環として、2006年度に、米国全土に在住している米国籍の成人を母集団し、性別･年齢層別(10歳刻み)および人種別の割り当て法(クォータ法)に基づいて、個別面接聴取法による標本調査を行ったものである。標本抽出と実査については、(財) 新情報センターを通じて、Kane, Parsons & Associates Inc.社(New York)に委託した。

ただし、今回の「割り当て」は、指定した3属性の3重クロス表を考慮したものではなく、それらの属性を各個別に、米国全体での国勢調査データの人口分布に合うよう調整し、調査が進められたという経緯が事後に明らかになった。したがって、個別の属性としては人口分布に沿っているとしても、それらのクロス集計では母集団に整合しているとは限らない可能性がある。

同時期に行った韓国2006年調査では、人種別を考慮する必要はなく、性別・年齢層別に関してだけの割り当て法であったため、性別は概略として各地点で1対1と考え、年齢層別だけの分布に配慮すればよかった。韓国での一般的な調査の場合、事後に国勢調査データと対照し、ウェイト付けで全体の分布を補正するらしい。われわれは、この種の補正が想定外の要因の交互作用を生み、予期せぬバイアスを導入すると危惧するため、ウェイト付け補正を避けることが多い。また、韓国'2006年調査では、各地点での標本抽出はランダムウォークで遂行されていたが、USA2006年調査の場合は、必ずしもそうではなかったようである。

データ解析は、以上の点に留意して進める必要がある。

Kane, Parsons & Associates Inc.社から報告された調査の概要は以下の通りである。

(1)調査内容

一般意識調査項目：52項目、基本属性質問項目：7項目、回答パネル：36項目

（調査票は当研究所が設計したものを現地調査者が必要部数を印刷製本）

(2)調査対象母集団

米国籍でアメリカ合衆国在住の18歳以上の男女

(3)調査地点数

90地点（アメリカ合衆国内から現地調査者が無作為抽出法によって算出した）

(4)計画標本

900名(90地点 × 10名 / 1地点 = 900名、地点内での抽出は割り当て法)

(5)回収標本

有効回収標本901名　（実査は個別面接聴取法）

(6)調査時期

2006年11月～2007年1月

2 事前の標本抽出計画

現地調査会社である Kane, Parsons & Associates Inc. 社による事前の標本抽出計画の資料として提出されたものは、以下の資料 1 と表 1 である。

資料 1. Kane, Parsons & Associates Inc. 社による標本抽出計画

USA (Kane , Parsons & Associates, Inc.)

The country is stratified into nine sub-regions as defined by the U.S. Bureau of the Census: New England, Middle Atlantic, East North Central, West North Central, South Atlantic, East South Central, West South Central, Mountain and Pacific.

A quota is determined for each region according to the distribution of the population you wish to survey (aged 18 and over).

A total of 100 sample points will be used. Sample points are distributed according to the size of the community and whether the area is an urbanized area an urban fringe area, or outside an urbanized area, as follows:

Urbanized Areas
Central City
1. 500,000+
2. 100,000-500,000
3. Less than 100,000

Urban Fringe
4. 50,000+
5. 25,000-50,000
6. 10,000-25,000
7. Less than 10,000

Non-urban Area
8. Rural
9. Other

Within each sample point, interviewers will be given quotas of completed interviews, usually 9-10 interviews per sample point. Respondents must meet quotas based on 1) sex (male vs. female, in accordance with the age appropriate population), 2) age categories within sex, and 3) race/ethnicity.

※文面そのママ

表１．USA2006 調査における地点抽出

Region	Regional Quota Size	Population Distribution
Northeast	50	5%
Middle Atlantic	130	14%
East North Central	150	16%
West North Central	60	7%
South Atlantic	170	19%
East South Central	50	6%
West South Central	100	11%
Mountain	50	6%
Pacific	140	16%
Total	900	100%

City Size	City Size Quota	Population Distribution
Urban 500,000+	100	11%
Urban 100,000-500,000	120	13%
Urban under 100,000	70	8%
Urban Fringe 50,000+	90	10%
Urban Fringe 25,000-50,000	80	9%
Urban Fringe 10,000-25,000	100	11%
Urban Fringe under 10,000	40	5%
Rural	180	20%
Misc. other	120	13%
Total	900	100%

3 実際の調査手順

また、実際の調査で用いられた調査手順書と割り当て票、割り当て票の文例は、次の資料2、表2、3のとおりである。いずれもKane, Parsons & Associates Inc.社が作成したものである。

KANE, PARSONS & ASSOCIATES
3188
19 WEST 44TH ST., SUITE 812B
Fall 2006
NEW YORK, NY 10036
800-761-1948

P.N.

SENSE OF VALUES
INTERVIEWER INSTRUCTIONS

Introduction

This is a multinational study of persons who are aged 18+ in the U.S., Japan and Korea. The questioning format is similar to those of earlier studies. As you can see, the focus of the study is on important issues that relate to personal values.

Our firm will not be analyzing the findings, but will be sending the data to Tokyo to be analyzed by the Japanese researchers. As a result, we are very concerned that the data we send to Tokyo be only of the highest quality. This means that we reserve the right not to accept any completed questionnaire containing errors that cannot be corrected in our office by simple editing techniques. Especially relevant here are items that should have been asked but were omitted and failing to note that a respondent refused or was unable to answer a question. Every questionnaire submitted to us will be edited in its entirety to determine if there are any reasons that it cannot be accepted. Be sure to record multiple answers when required and try to limit responses to single answers when instructed to do so.

Sampling and Locating Eligible Respondents

All persons aged 18+ are eligible for this study provided they are capable of responding to the questionnaire, but your assignment notes specific quotas for gender, age and race.

Your sampling unit is recorded on your interviewer report form. You have been assigned a specific locational starting point with a city type and size in your geographic region. This information is also noted on the report form. It is important that you keep track of every attempted interview as well as those actually completed, based on your assigned quotas. The report form must document all of your activities and will be returned to our client in Japan. Failure to submit a completed report form may result in non-acceptance of your interviews.

Since show cards are used in the interview, all interviews must be conducted in person. Respondents will live in residential dwelling units (house, apartment, furnished room, etc.).

Schedule

You are to start interviewing immediately upon receipt of these materials.

Detailed Questionnaire Instructions

Please check each questionnaire to make sure that it is complete.

The questionnaire is straightforward and not difficult; you should have no problem in administering it correctly, but be sure to observe the skip patterns. Although in one or two places they may seem complicated, they are logical and make sense in terms of the questionnaire content.

Insert your name at the top of page 1 of each questionnaire. Leave the box at the top of the questionnaire blank. You should also fill in the information about the respondent on the last page. **WE WILL BE VALIDATING YOUR INTERVIEWS, SO RESPONDENT NAMES AND PHONE NUMBERS ARE NECESSARY.** Sign your name at the end of the questionnaire and insert the date of the interview.

Most questions contain a "don't know/refused" option. If you get such an answer for a question without such an option, note this in the margin rather than leaving the item blank (in which case we would assume you erroneously failed to ask the question).

The study uses 36 show cards, 1 through 36. They simplify the interview, but be alert to possible reading problems (resulting either from poor vision or illiteracy) and render whatever assistance is necessary if this occurs.

Do not read "Other" or "Don't know" responses, but be sure to record "other" responses in the precise words of the respondent.

表 2. 実際の調査における割り当て票

REGION		CITY SIZE			QUOTA	# OF ATTEMPTS	# OF COMPLETES
Northeast		Urban 500,000+		MALE			
Middle Atlantic		Urban 100,000-500,000		18-29			
East North Central		Urban under 100,000		30'S			
West North Central		Urban Fringe 50,000+		40'S			
South Atlantic		Urban Fringe 25,000-50,000		50'S			
East South Central		Urban Fringe 10,000-25,000		60+			
West South Central		Urban Fringe under 10,000					
Mountain		Rural					
Pacific		Misc. other					

	QUOTA	# OF ATTEMPTS	# OF COMPLETES
FEMALE			
18-29			
30'S			
40'S			
50'S			
60+			

Success or Failure	Reason for Refusal	# of Attempts	Sub Total
Success			
Refusal	Busy		
	Refused interview		
	Refused to provide personal information		
	Terminated		
	Did not qualify		
Absence	Return visit required		
	An unoccupied house		
	Grand Total		

RACE	QUOTA	# OF ATTEMPTS	# OF COMPLETES
African-American			
Latino/ Hispanic			
Asian			
White			
Other (Please Specify)			

REGION		CITY SIZE			QUOTA	# OF ATTEMPTS	# OF COMPLETES
Northeast		Urban 500,000+		MALE	5		
Middle Atlantic		Urban 100,000-500,000		18-29	1		
East North Central		Urban under 100,000		30'S	1		
West North Central	X	Urban Fringe 50,000+		40'S	1		
South Atlantic		Urban Fringe 25,000-50,000		50'S	1		
East South Central		Urban Fringe 10,000-25,000		60+	1		
West South Central		Urban Fringe under 10,000					
Mountain		Rural	X				
Pacific		Misc. other					

	QUOTA	# OF ATTEMPTS	# OF COMPLETES
FEMALE	5		
18-29			
30'S	1		
40'S	1		
50'S	2		
60+	1		

Success or Failure	Reason for Refusal	# of Attempts	Sub Total
Success			
Refusal	Busy		
	Refused interview		
	Refused to provide personal information		
	Terminated		
	Did not qualify		
Absence	Return visit required		
	An unoccupied house		
	Grand Total		

RACE	QUOTA	# OF ATTEMPTS	# OF COMPLETES
African-American			
Latino/ Hispanic			
Asian			
White	10		
Other (Please Specify)			

表 3. 割り当て票の記入例

4 有効回答者の属性分布

実際の調査結果における各地方ごとの有効回答者の属性（性別、人種）について、Kane, Parsons & Associates Inc.社による報告は、以下の表4のとおりである。

表4. 有効回答者の属性

	Total U.S.	Northeast	Midwest	South	West
	%	%	%	%	%
Males					
Black	10	9	8	16	5
Hispanic	11	9	5	10	21
White	75	78	85	72	67
All other	4	4	2	2	7
Females					
Black	11	10	9	18	4
Hispanic	10	8	4	8	19
White	75	78	85	71	68
All other	4	4	2	2	9

韓国 2006 年調査の概要

1. 標本抽出の手続き等

本調査は，19 歳以上の韓国在住の一般国民を母集団とした標本調査であり，訪問面接法を用いて行われたものである。韓国では，政府機関の調査でない場合，標本抽出の際に住民基本台帳を利用することはできないとされる。そこで，調査地点を 2005 年国勢調査の人口分布に基づいて多段層別無作為抽出し，各調査地点では，あらかじめ計画された数の世帯を系統抽出した（一種の多段エリアサンプリング）。個人については，抽出された世帯から，割り当てられた条件に適格な対象者を誕生日法によって抽出するという方式（一種の割当法）をとった。具体的な標本抽出と訪問調査は韓国 Gallup 社に委託し，調査遂行の詳細は同社との検討の上で一任した。同社は，長年にわたり韓国の世論調査に携わっている。

本調査の概要は以下の通りである。

a. 調査対象（母集団）　全国の班および村に居住する満 19 歳以上（満年齢）の一般市民

b. 調査地域　大韓民国全土（済州道 jeju-do を除く）

c. 標本サイズ　有効回収標本　1,030 名

d. 地点数　126 地点（特別市 62 地点，道 64 地点）

e. 調査時期　2006 年 10 月 26 日～11 月 12 日

f. 抽出の方法と手順　都市規模により地域を層別後，次の手順で個人を抽出した。

① 第 1 次抽出単位の層別は，2005 年の韓国国勢調査結果の人口分布（韓国統計庁，2005，Advance Report of 2005 Residents Population Census）に基づき，都市規模で計 23 層（最大行政単位：大都市（7 市）×1 部[都市部]と道（8 道）×2 部[市部，郡部]）し，人口規模に比例させて，割り当てるべき標本サイズを決定した。その際，済州島は標本から除かれた（済州島の人口は全人口の 1.2%で，標本サイズが 1,000 の場合，12 ケースであるが，通常の全国調査でもサンプリングの際に対象外とされることが多い。）

② 各々の割り当てられた標本の大きさに応じて洞・邑・面（図 1）を無作為に抽出し，そこから第 1 次抽出単位の調査地点（班・村）を無作為に抽出した。なお，第 1 次抽出単位が抽出されれば，それより上位の行政単位（区，市，郡）はおのずと決まる。

③ 各調査地点から，計画された世帯数（班：3～11 世帯，村：7～14 世帯）を系統（等間隔）抽出した。この際，マーケットや商店の世帯は除外した（最終的な地点数および有効標本サイズは表 1 に記載）。

④ 調査員は，センサスデータに基づいた性・年齢の比率を反映した割当計画表（4 節参照）に基づき，抽出地点別の面接済み人数が割り当てられた人数＋1 に達するまで訪問面接を行う。割り当てられた性･年齢の条件を満たす対象者が，抽出された世帯の中に 2 名以上いる場合は，誕生日法に基づき，調査時点から先 12 ヶ月以内で最初に誕生日が訪れる人を選択する。ただし，この際，一時的な在宅者，および軍隊への入隊，長期的な出張，海外出張の者は除外されている。

g. 訪問調査員の訓練

訪問調査は韓国 Gallup 社に登録している調査員が行った。調査概要，一般面接調査要領と調査票の

質問方法などに関する1日間のオリエンテーションを行い，3回のロールプレイがなされた。

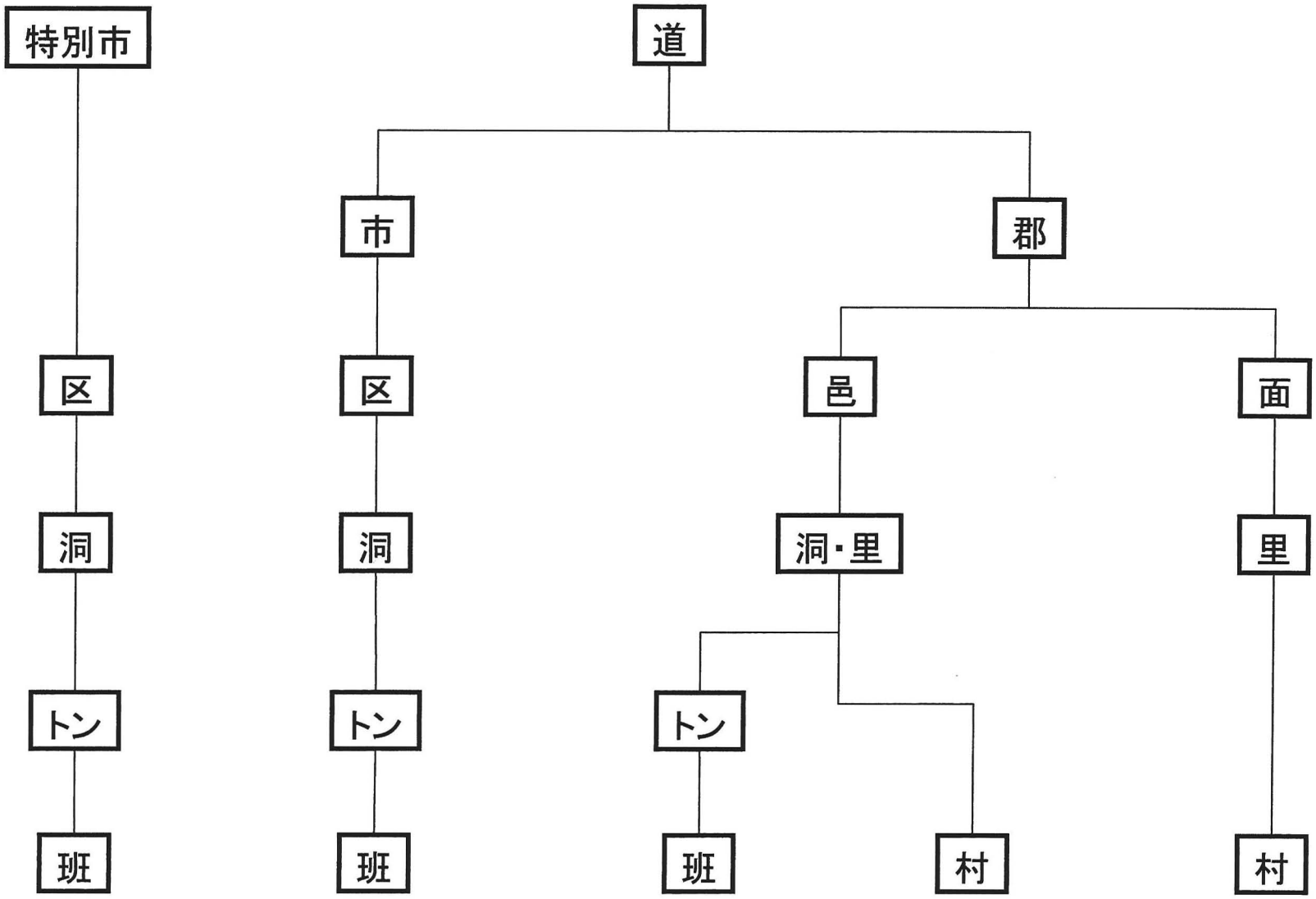
h. 有効回収標本

成功した面接調査（1123 名）のうち，事後チェックで不審な点がある質問紙は除外され，残ったものだけが有効回収標本（1030名）とされた。

表1　全国の地域と都市規模ごとの地点数および有効標本サイズ

	地域		合計地点数	都市規模			合計人数（地点数）
				都市部（地点数）	市部（地点数）	郡部（地点数）	
特別市							
1	ソウル	Seoul	27	220 (27)	0 (0)	0 (0)	220 (27)
2	釜山	Busan	10	78 (10)	0 (0)	0 (0)	78 (10)
3	大邱	Daegu	7	52 (7)	0 (0)	0 (0)	52 (7)
4	仁川	Incheon	7	60 (7)	0 (0)	0 (0)	60 (7)
5	光州	Gwangju	4	28 (4)	0 (0)	0 (0)	28 (4)
6	大田	Daejeon	4	31 (4)	0 (0)	0 (0)	31 (4)
7	蔚山	Ulsan	3	22 (3)	0 (0)	0 (0)	22 (3)
道							
8	京畿道	Gyeonggi-do	27	0 (0)	217 (26)	9 (1)	226 (27)
9	江原道	Gangwon-do	4	0 (0)	24 (3)	8 (1)	32 (4)
10	忠清北道	Chungcheong-buk-do	4	0 (0)	24 (3)	10 (1)	34 (4)
11	忠清南道	Chungcheong-nam-do	5	0 (0)	26 (3)	17 (2)	43 (5)
12	全羅北道	Jeollabuk-do	5	0 (0)	25 (4)	15 (1)	40 (5)
13	全羅南道	Jeollanam-do	5	0 (0)	23 (3)	19 (2)	42 (5)
14	慶尚北道	Gyeongsang-buk-do	6	0 (0)	43 (5)	14 (1)	57 (6)
15	慶尚南道	Gyeongsang-nam-do	8	0 (0)	56 (7)	9 (1)	65 (8)
	合計		126	491	438	101	1030

図1　韓国の行政区画



2. 韓国調査 2006 における回収状況

総アタック数　3789 名

上記の内訳

1. 成功　1123 名
   （ただし，有効回収標本は，そのうち　1030 名）

2. 拒否等　1979 名
   1. 忙しい　630 名
   2. 面倒だ　447 名
   3. 個人情報を漏らしたくない　247 名
   4. 家屋への入場が困難　161 名
   5. 面接途中で中断　177 名
   6. 不適格（調査対象者ではない）　317 名

3. 不在　687 名
   1. 一時不在　221 名
   2. 空き家　466 名

うち，接触成功数（「1.成功」＋「2.拒否」の合計）　3102 名

内訳

・男女別
   男性　1506 名
   女性　1596 名

・年齢別
   1. 19～29　580 名
   2. 30 代　710 名
   3. 40 代　720 名
   4. 50 代　575 名
   5. 60 歳以上　517 名

接触成功率　＝　接触成功数／総アタック数　＝　3102／3789　＝　約 81.9%

面接成功率　＝　面接成功数／総アタック数　＝　1123／3789　＝　約 29.6%

有効回収率　＝　有効回収人数／総アタック数　＝　1030／3789　＝　約 27.1%
（注意：　一般的な意味での回収率とは意味が違う。）

3. 韓国の全土各地における割当の計画と実際の結果

3.1 割当の計画

全国計

quota	male	female	total	nationwide
1000	115	108	223	19~29
	121	117	238	30's
	115	111	226	40's
	71	71	142	50's
	71	99	170	over 60
	494	506	1000	total

特別市

quota	male	female	total	Seoul
218	26	26	53	19~29
	27	26	53	30's
	23	24	47	40's
	16	17	33	50's
	14	18	32	over 60
	107	111	217	total
quota	male	female	total	Busan
78	9	9	18	19~29
	8	8	16	30's
	9	9	18	40's
	7	7	13	50's
	5	7	13	over 60
	38	40	78	total
quota	male	female	total	Daegu
52	6	6	12	19~29
	6	6	12	30's
	6	6	12	40's
	4	4	8	50's
	3	5	8	over 60
	25	27	52	total

quota	male	female	total	Incheon
53	6	6	12	19~29
	7	7	13	30's
	7	6	13	40's
	4	3	7	50's
	3	4	7	over 60
	26	27	53	total
quota	male	female	total	Gwangju
28	4	3	7	19~29
	3	4	7	30's
	3	3	6	40's
	2	2	4	50's
	2	2	4	over 60
	14	14	28	total
quota	male	female	total	Daejeon
29	4	3	7	19~29
	4	4	7	30's
	3	3	7	40's
	2	2	4	50's
	2	2	4	over 60
	14	15	29	total
quota	male	female	total	Ulsan
22	3	2	5	19~29
	3	3	6	30's
	3	3	6	40's
	2	1	3	50's
	1	1	2	over 60
	11	11	22	total

道

quota	male	female	total	Gyeonggi
215	24	23	47	19~29
	30	29	59	30's
	27	25	52	40's
	14	13	27	50's
	13	17	30	over 60
	107	108	215	total
quota	male	female	total	Gwangwon
32	3	3	6	19~29
	3	3	7	30's
	4	3	7	40's
	2	2	5	50's
	3	4	7	over 60
	16	16	32	total
quota	male	female	total	Chungbuk
31	4	3	7	19~29
	3	3	7	30's
	4	3	7	40's
	2	2	4	50's
	3	4	6	over 60
	15	15	31	total
quota	male	female	total	Chungnam
41	5	4	9	19~29
	4	4	9	30's
	4	4	8	40's
	3	3	6	50's
	4	6	10	over 60
	20	21	41	total

quota	male	female	total	Jeonbuk
39	4	4	8	19~29
	4	4	8	30's
	4	4	8	40's
	3	3	6	50's
	4	5	9	over 60
	19	20	39	total
quota	male	female	total	Jeonnam
42	4	4	8	19~29
	4	4	8	30's
	4	4	8	40's
	3	3	6	50's
	5	7	11	over 60
	20	21	42	total
quota	male	female	total	Gyeongbuk
57	6	5	11	19~29
	6	6	12	30's
	6	6	12	40's
	4	4	8	50's
	6	8	13	over 60
	28	29	57	total
quota	male	female	total	Gyeongnam
65	7	6	13	19~29
	8	7	15	30's
	8	7	15	40's
	5	5	9	50's
	5	7	12	over 60
	32	33	65	total

3.2. 実際の有効回収標本の分布

全国計

quota	male	female	total	nationwide
1030	114	111	225	19~29
	124	124	248	30's
	117	113	230	40's
	77	75	152	50's
	78	97	175	over 60
	510	520	1030	total

特別市

quota	male	female	total	Seoul
220	27	26	53	19~29
	27	27	54	30's
	24	24	48	40's
	16	17	33	50's
	14	18	32	over 60
	108	112	220	total
quota	male	female	total	Busan
78	9	9	18	19~29
	7	8	15	30's
	9	9	18	40's
	7	7	14	50's
	6	7	13	over 60
	38	40	78	total
quota	male	female	total	Daegu
52	6	6	12	19~29
	5	7	12	30's
	6	6	12	40's
	4	4	8	50's
	3	5	8	over 60
	24	28	52	total

quota	male	female	total	Incheon
60	6	6	12	19~29
	9	9	18	30's
	7	6	13	40's
	5	3	8	50's
	5	4	9	over 60
	32	28	60	total
quota	male	female	total	Gwangju
28	3	4	7	19~29
	4	3	7	30's
	3	3	6	40's
	2	2	4	50's
	2	2	4	over 60
	14	14	28	total
quota	male	female	total	Daejeon
31	4	3	7	19~29
	4	4	8	30's
	4	4	8	40's
	2	2	4	50's
	2	2	4	over 60
	16	15	31	total
quota	male	female	total	Ulsan
22	3	2	5	19~29
	3	3	6	30's
	3	3	6	40's
	2	1	3	50's
	1	1	2	over 60
	12	10	22	total

道

quota	male	female	total	Gyeonggi
226	25	25	50	19~29
	31	29	60	30's
	27	26	53	40's
	15	16	31	50's
	15	17	32	over 60
	113	113	226	total
quota	male	female	total	Gwangwon
32	3	3	6	19~29
	3	4	7	30's
	4	3	7	40's
	3	2	5	50's
	2	5	7	over 60
	15	17	32	total
quota	male	female	total	Chungbuk
34	4	3	7	19~29
	4	4	8	30's
	4	4	8	40's
	2	2	4	50's
	3	4	7	over 60
	17	17	34	total
quota	male	female	total	Chungnam
43	4	4	8	19~29
	5	5	10	30's
	4	4	8	40's
	4	3	7	50's
	4	6	10	over 60
	21	22	43	total

quota	male	female	total	Jeonbuk
40	3	5	8	19~29
	4	4	8	30's
	4	4	8	40's
	3	4	7	50's
	4	5	9	over 60
	18	22	40	total
quota	male	female	total	Jeonnam
42	4	4	8	19~29
	4	4	8	30's
	4	4	8	40's
	3	3	6	50's
	5	7	12	over 60
	20	22	42	total
quota	male	female	total	Gyeongbuk
57	6	5	11	19~29
	6	6	12	30's
	6	6	12	40's
	4	4	8	50's
	6	8	14	over 60
	28	29	57	total
quota	male	female	total	Gyeongnam
65	7	6	13	19~29
	8	7	15	30's
	8	7	15	40's
	5	5	10	50's
	5	7	12	over 60
	33	32	65	total

シンガポール調査の概要

1. 標本抽出の詳細

シンガポール調査は、シンガポール在住の成人（20 歳以上）のシンガポール国籍の人を対象とした全国調査である。本調査では、世帯を層別 2 段無作為標本抽出し、さらに抽出された各世帯で誕生日法（バースデイ法）により標本（個人）を決定し、個別面接聴取法（訪問面接法）により回答を得た。目標計画標本のサイズは、有効回収標本が 1000 を越えることとした。標本抽出方法の具体的な詳細は、シンガポールの Media Research Consultants Pte Ltd（MRC）社と直接検討、確認し、調査遂行は同社に一任した。その概要は以下の通りである。

a．母集団：シンガポールの全国に居住する成人（20 歳以上）のシンガポール国籍の人

b．調査票：シンガポール調査は、シンガポールの人口センサス調査による民族の比率、および調査会社（MRC）との打ち合わせから、3 種類の調査票を用意した。3 種類のすべてに公用語である英語質問項目を記載し、その英語文に、それぞれ中国語（Mandarin）、マレー語、タミル語訳のいずれかを各項目ごとに並列表記した。調査票の内容は、「東アジア価値観国際比較」調査の 2004 年日本 A 調査票と同じであり、バック・トランスレーションを経てシンガポール調査票とした（但し、一部、項目の内容を考え、シンガポールに合わせて表現を変更している）。実際の調査では、各調査員が 3 種類の調査票と提示カードを携帯して面接調査を行い、回答結果は英語 - 中国語調査票のみに記入した。

c．標本の大きさ：（有効）回収標本　1032 名

d．調査時期：2007 年 11 月 6 日～2007 年 12 月 17 日

e．標本抽出の方法と手続き：

① 個人（標本）の抽出にいたるまでの手続きとしては、前段階として層別 2 段抽出法による世帯抽出、最終段階として抽出された各世帯での成人すべてから誕生日法により個人を抽出する。

② 世帯の抽出台帳として、シンガポールの通商産業省統計局（the Department of Statistics, Ministry of Trade and Industry）のサンプリング・フレームを用いる。このサンプリング･フレームには、層別 2 段無作為標本抽出に合わせ、指定された抽出基準に則ったデジタル化された世帯名簿（Master List of Houses）を使う。

③ 世帯名簿は、2000 年の人口センサスにおけるすべての世帯の記録から作成されたもの

であり、更に、家計調査の包括的なサンプリング・フレームを提供するために毎月更新されているものである。

④ 世帯抽出には、第1段が投票区(Polling Districts:PDs)、第2段が住宅ユニット(housing units) による層別2段無作為標本抽出を行う。

⑤ 第 1 段の投票区 (PDs) は、3 つの主だった家屋タイプ、すなわち「公営住宅(HDB [Housing and Development Board])」、「私有住宅、及び私有アパート」、「その他(Attap/Zincroofed houses and Shophouses)」に層別化されている。投票区は、各投票区の世帯数などに準じた確率比例抽出によって選ばれる。(第1段サンプリング)

⑥ 第 2 段の住宅ユニット (housing units) は、「一戸建て(detached)」、「二軒建て(semi-detached)」、「連続住宅(terrace houses)」と、一部屋から五部屋、エグゼクティブといった間取りの公営住宅 (シンガポール公営住宅など) に住宅形態が層別されている。すべての選択された選挙区において、住宅ユニットから無作為に出発点 (ランダム・ウォークのスタート地点) となる住宅ユニットを決め、系統 (等間隔世帯毎) 抽出によって抽出世帯となる住宅ユニットを選択する。(第2段サンプリング)

⑦ 回答者 (標本) の抽出には、前段階で抽出された各世帯において、20 歳以上で調査日に最も誕生日が近く、かつすでに誕生日を迎えた人を抽出する誕生日法を用いている。

f. 調査員:本シンガポール調査で、調査にあたった調査員の総数は24名である。中国系、マレー系、インド系の調査員によって、さまざまな母語を話す各回答者に対応した。調査は個別面接聴取法で行われ、調査にかかった時間は一人あたり平均約 40 分であった。

g. 調査状況:調査員が各世帯に赴き、世帯において調査協力への同意が得られた割合は、約 21%であった。そのうち、さらに誕生日法によって抽出された個人レベルでの調査成功率は約 32%であった。

Total Number of attempts		15636	100%
Refused to participate		12409	79.4%
Agree to participate		3227	20.7%
Targeted respondent Not In (Last birthday)	2195		
Successfully completed	**1032**		

※ 次節からの現地調査に関連する資料の一部には、調査対象者を「20-69 years old」としている記述があるが、その部分は調査会社の標準の資料であり、本調査では「成人全体」を対象としている。単純集計表に 70 歳以上の者は載っていないが、現地調査会社によれば、何名かは調査対象者に選ばれたが、調査員との質疑応答が困難なため面接を打ち切ったと報告されている。

Shin Joho Centre's East Asia Survey 2007
Survey Methodology

1. INTRODUCTION

Shin Joho Centre has commissioned Media Research Consultants Pte Ltd (MRC), to undertake a personal interview survey among a representative national sample of the Singaporean public on their social awareness and everyday consciousness on social, economic, political and international issues.

2. SAMPLING DESIGN

- The sample consisted of n=1032 adults, aged 20 years old and above.
- MRC used the sample frame from the Department of Statistics (DOS), Ministry of Trade and Industry.
- The Sampling frame adopted a stratified two-stage sample design, using a computerized Master List of Houses in accordance with the specified sampling criteria.
- This Master List of Houses was derived from the records of all the houses listed during the 2000 Census of Population, and updated monthly to provide a comprehensive sampling frame for household surveys. MRC used the most updated sampling frame when the survey was commissioned.
- The sampling units for the first stage were the Polling Districts (PDs).
- The PDs were stratified by three predominant house types, namely Public Housing (HDB), Private Houses and Apartments, and Others (Attap/Zinc-roofed houses and Shophouses). The PDs were selected with probability proportional to size (i.e., number of houses within each PD).
- The sampling unit for the second stage was the housing units. Within each selected PD, housing units were stratified by detailed housing types such as detached, semi-detached, terrace houses and the various HDB (i.e., Singapore's public housing) room types, e.g., 1 to 5 rooms, Executive flats, etc. For every selected PD, housing units were selected by systematic sampling with a random start.
- This method of two-stage stratified sampling yielded an overall equal probability and self-weighting sample besides ensuring good control over the sample size.
- The age of the respondent was one who was from 20 years old and above, and had most recently celebrated his/her birthday within the selected household.

3. SURVEY EQUIPMENT

The following documentation(s) will be provided for the interviewer:

- MRC Identification Card and Authorization Letter
- Information Worksheets, containing information about each household to be surveyed
- Survey Forms (with translation versions)
- Show Cards (1 to 36)

Please be reminded that **NO INTERVIEW** should be conducted unless you are carrying the MRC identification card.

4. FIELDWORK

- All the interviewers were briefed on how to administer the questionnaire and show card prior to the commencement of the fieldwork. An interviewer's instruction guide had been drafted and allocated to every interviewer to serve as a reference.

- The fieldwork began on 6th November 2007 and ended on 17th December 2007. Data entry and validation commenced concurrently with the fieldwork.

- A total of 24 interviewers were engaged in conducting this survey with a good mix of Chinese, Malay and Indian interviewers to ensure there would be sufficient interviewers to conduct the survey in various mother tongue languages.

- The questionnaire was administered using face-to-face methodology. The average time taken to administer a questionnaire was about 40 minutes.

- The response rate was about 21% in getting participant to agree in taking part in the survey. However, because the target respondent was to be the one who most recently celebrated his or her birthday, the success rate in getting the right person was around 32% from those who agreed to take part.

Interviewers' Instructions Guide

1. INTRODUCTION

Shin Joho Centre has commissioned Media Research Consultants Pte Ltd (MRC), to undertake a personal interview survey among a representative national sample of the Singaporean public on their social awareness and everyday consciousness on social, economic, political and international issues.

2. SURVEY EQUIPMENT

The following documentation(s) will be provided for the interviewer:

- MRC Identification Card
- Information Worksheets, containing information about each household to be surveyed
- Survey Forms (with translation versions)
- Show Cards (1 to 36)

Please be reminded that **NO INTERVIEW** should be conducted unless you are carrying the MRC identification card.

Important:

When selecting for the respondent, ask for the person in the household who is aged between *20-69 years old* and who has *most recently* celebrated his or her birthday. This person will be selected as the respondent for the survey.

3. THE SURVEYING PROCESS

3.1 At all times of the interview, make the respondent feel that his/her contributions are valuable.

3.2 Speak slowly but clearly. Do adjust the pace of the interview to suit your respondent.

3.3 Do not skip any questions in the questionnaire. Follow the question sequence without fail.

3.4 Ask the questions exactly as they appear on the questionnaire, without attempting to add or omit any word or phrase. Remember that a change in the wording of questions may introduce bias. If your respondent has not fully understood a survey question, simply repeat the question slowly and clearly. Never try to suggest answers or express your personal opinions.

3.5 Ask the questions in the order as they appear in the questionnaire.

3.6 Record the responses legibly and neatly.

3.7 Contact your field supervisor or MRC office via telephone if you have any queries or clarifications to make.

3.8 Be tactful to lead the respondent through the questionnaire and do not engage in conversation that digress from the questionnaire.

3.9 Do not reveal the questionnaire to the respondent.

3.10 Always interview a respondent alone. The presence of other people may influence the respondent's answers. The interviewer should explain to the other members that it is the respondent's view, and his or her only, which is required.

3.11 When it is required to present respondents with show cards, always allow the respondents sufficient time to view through the show card or exhibit in full. Only read out the contents in the show card if the respondent is illiterate.

3.12 For respondents you have made appointment to re-visit them again, do keep strictly to your appointment with the respondent without fail. Also treat respondents who break their appointment with as much patience as you can.

4. INFORMATION ABOUT THE QUESTIONNAIRE

This section explains to you how to administer the survey and record the answers for the questionnaire.

Please display the appropriate show card for each question to the respondent accordingly during the survey process.

You are advised to read through the questionnaire thoroughly and be familiarized with it before conducting the survey.

Question	Instruction(s)
Q1.	Show card 1. Circle one answer.
Q2	Show card 2. Circle one answer.
Q3.	Show card 3. Circle one answer
Q4.	Circle one answer.
Q5.	Circle one answer.
Q6.	Circle one answer.
Q7.	Record down the answer
Q8.	Show card 4. Circle one answer.
Q9a to g.	Show card 5. Circle one answer for each.
Q10a to b.	Record the answer clearly.

Question	Instruction(s)
Q11.	Show card 6. Circle 3 answers where appropriate.
Q12.	Show card 7 Circle one answer.
Q13.	Show card 8. Circle one answer.
Q14.	Show card 9. Circle one answer.
Q15.	Circle one answer.
Q16.	Show card 10. Circle one answer.
Q17.	Show card 11. Circle one answer. If "other", record the answer clearly.
Q18.	Show card 12. Circle one answer. If "other", record the answer clearly.
Q19.	Show card 13. Circle one answer. If "other", record the answer clearly.
Q20.	Show card 14: Circle one answer.
Q21a to e	Circle one answer. If "other", record the answer clearly.
Q22.	Show card 15. Circle one answer.
Q23.	Show card 16. Circle one answer.
Q24a to d.	Show card 17. Circle one answer for each.
Q25.	Circle one answer.
Q26.	Circle one answer.
Q27.	Circle one answer.
Q28.	Show card 18. Circle one answer.
Q29.	Show card 19. Circle one answer.
Q30.	Show card 20. Circle one answer.
Q31.	Circle one answer.
Q32a to c.	Show card 21. Circle one answer for each
Q33.	Show card 22. Circle one answer for each statement
Q34.	Show card 23. Circle one answer
Q34b	Show card 24. Circle one answer
Q35.	Show card 25. Circle one answer
Q36.	Circle one answer
Q37.	Circle one answer
Q38.	Circle one answer
Q39a.	Show card 26. Circle one answer

Question	Instruction(s)
Q39b.	Circle one answer
Q40a to d	Show card 27. Circle one answer for each statement
Q41.	Record the answer clearly
Q42a to b	Circle one answer.
Q43	Circle one answer
Q44.	Circle one answer
G45.	Circle one answer
Q46.	Show card 28. Circle one answer
Q47.	Show card 29. Circle one answer.
Q48.	Show card 30. Circle one answer.
Q49.	Record the answer clearly
Q50.	Show card 31. Circle one answer for each statement.
Q51.	Show card 32. Circle one answer.
Q52.	Show card 33. Circle one answer for each statement

Demographics

F1.	Do not ask but record only. (You already know)
F2.	Record the answer clearly.
F3a to b.	Circle one answer.
F4.	Show card 34. Circle one answer.
F5.	Record the answer clearly.
F6.	Show card 35. Circle one answer.
F7.	Record the answer clearly.
F8.	Show card 36. Circle one answer.

5. End of Survey

Before leaving, check to ensure that you have asked all the questions and have recorded all the answers. Never leave any questionnaire or other survey materials (i.e. show cards) behind with the respondent.

At the end of the survey, do remember to thank the respondent for his/her co-operation, time and effort to agree to undertake the survey. Please make the respondent feel that the interview has really been worth his/her time, and that you have enjoyed talking to him/her. Leave him/her with the feeling that he/she would like to be interviewed again.

Resident Households by Dwelling Type and Ethnic Group of Head

	Dwelling Type	Total	Chinese	Malays	Indians	Others	Total
HDB	1 - 2 rooms	5.0	4.5	6.5	8.1	4.4	46165
	3 room	25.7	25.6	28.4	24.2	17.8	237288
	4 room	33.2	32.3	41.1	32.0	20.3	306536
	5 room / executive	23.7	23.8	22.3	24.9	22.7	218822
	Others	0.4	0.4	0.0	0.2	0.1	3693
Private	Condominium / private flats	6.0	6.7	0.7	4.9	21.3	55398
	Private houses	5.1	5.7	0.7	4.4	10.7	47088
	Others*	0.9	1.0	0.3	1.3	2.7	8310
		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	923300

* includes non-HDB shop houses, attap / zinc-roofed houses and other public flats

Singapore Census of Population 2000 / advance data release #6

Resident Households by Dwelling Type and Ethnic Group of Head

Dwelling Type		n	Total	%
HDB	1 - 2 rooms	50	46,165	5
	3 room	257	237,288	25.7
	4 room	332	306,536	33.2
	5 room / executive	237	218,822	23.7
	Others	4	3,693	0.4
Private	Condominium / private flats	60	55,398	6
	Private houses	51	47,088	5.1
	Others*	9	8,310	0.9
		1,000	923,300	100

REGION		CITY SIZE		GENDER	QUOTA	# OF ATTEMPTS	# OF COMPLETES
Northeast	NA	Urban 500,000+	NA	MALE	NA	8191	485
Middle Atlantic	NA	Urban 100,000-500,000	NA	FEMALE	NA	7445	547
East North Central	NA	Urban under 100,000	NA				
West North Central	NA	Urban Fringe 50,000+	NA				
South Atlantic	NA	Urban Fringe 25,000-50,000	NA				
East South Central	NA	Urban Fringe 10,000-25,000	NA				
West South Central	NA	Urban Fringe under 10,000	NA				
Mountain	NA	Rural	NA				
Pacific	NA	Misc. other	NA				

AGE	QUOTA	# OF ATTEMPTS	# OF COMPLETES
18-29	NA	3887	220
30'S	NA	3988	260
40'S	NA	3877	271
50'S	NA	2308	185
60+	NA	1576	96

Success or Failure	Reason for Refusal	# of Attempts	Sub Total
Success			
Refusal	Busy	5156	
	Refused interview	3209	
	Refused to provide personal information	NA	
	Terminated	47	
	Did not qualify	2195	
Absence	Return visit required	3904	
	An unoccupied house	93	
	Total (Refused/Unsuccessful)	14604	
	TOTAL SUCCESSFULLY COMPLETED	1032	
	TOTAL ATTEMPTS	15636	

RACE	QUOTA	# OF ATTEMPTS	# OF COMPLETES
Chinese	NA	13086	781
Malay	NA	1209	122
Indian	NA	987	97
Others	NA	354	32

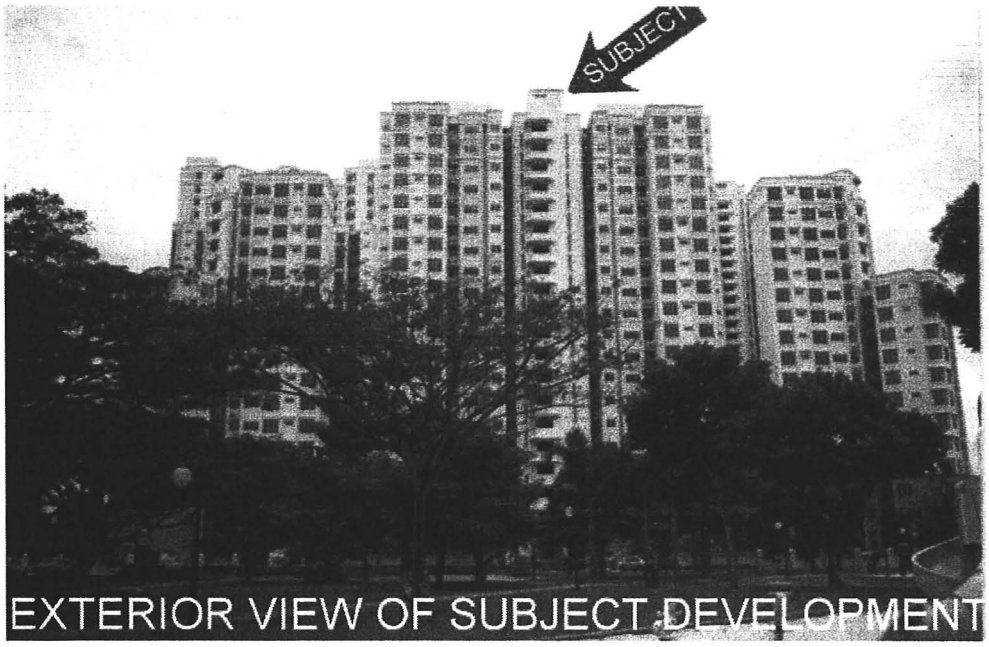
SNO	Street Name	HOUSE TYPE	Households Attempted (PER PSU)	Households Successfully completed (PER PSU)
1	ANG MO KIO AVENUE 4	1 room	30	10
2	ANG MO KIO AVENUE 4	2 room	15	5
3	ANG MO KIO AVENUE 10	3 room	18	5
4	ANG MO KIO AVENUE 10	3 room	15	6
5	ANG MO KIO AVENUE 10	3 room	15	6
6	ANG MO KIO AVENUE 1	3 room	20	6
7	ANG MO KIO AVENUE 4	3 room	15	10
8	ANG MO KIO AVENUE 4	3 room	15	6
9	ANG MO KIO AVENUE 5	4 room	30	5
10	ANG MO KIO AVENUE 3	4 room	35	5
11	ANG MO KIO AVENUE 4	4 room	55	10
12	ANG MO KIO AVENUE 5	5 room	25	6
13	ANG MO KIO AVENUE 9	5 room	25	6
14	YIO CHU KANG ROAD	condo	40	5
15	BEDOK ROAD	landed	45	5
16	BEDOK SOUTH ROAD	2 room	12	5
17	CHAI CHEE ROAD	3 room	20	5
18	BEDOK NORTH STREET 3	3 room	22	5
19	BEDOK NORTH STREET 1	3 room	22	5
20	BEDOK SOUTH AVENUE 1	3 room	18	5
21	NEW UPPER CHANGI ROAD	3 room	18	5
22	BEDOK RESERVOIR ROAD	4 room	33	5
23	CHAI CHEE ROAD	4 room	33	5
24	BEDOK NORTH STREET 2	4 room	35	5
25	BEDOK SOUTH AVENUE 2	4 room	40	5
26	JALAN TENAGA	5 room	30	5
27	CHAI CHEE ROAD	5 room	35	5
28	BEDOK NORTH AVENUE 4	5 room	25	5
29	LENGKONG TIGA	exec/man	30	5
30	MARINE VISTA	hudc	30	5
31	BEDOK RESERVOIR VIEW	condo	40	5
32	STILL ROAD SOUTH	condo	45	5
33	SIGLAP ROAD	condo	50	5
34	LORONG M TELOK KURAU	condo	40	5
35	BUKIT BATOK STREET 33	3 room	20	5
36	BUKIT BATOK STREET 52	3 room	20	
37	BUKIT BATOK EAST AVE 4	3 room	25	5
38	BUKIT BATOK STREET 33	4 room	28	5
39	BUKIT BATOK WEST AVE 6	4 room	28	5
40	BUKIT BATOK EAST AVE 4	4 room	25	5
41	BUKIT BATOK EAST AVE 3	5 room	28	5
42	BUKIT BATOK EAST AVE 5	condo	35	
43	BUKIT MERAH VIEW	1 room	10	5
44	LENGKOK BAHRU	2 room	12	5
45	TELOK BLANGAH HEIGHTS	3 room	24	5
46	BUKIT PURMEI ROAD	3 room	18	5
47	JALAN RUMAH TINGGI	3 room	24	5
48	DEPOT ROAD	4 room	28	5
49	BUKIT PURMEI ROAD	4 room	30	5
50	HOY FATT ROAD	4 room	20	
51	DEPOT ROAD	5 room	28	5
52	REDHILL LANE	5 room	28	5
53	SENJA ROAD	4 room	42	5
54	FAJAR ROAD	4 room	30	5

SNO	Street Name	HOUSE TYPE	Households Attempted (PER PSU)	Households Successfully completed (PER PSU)
55	PETIR ROAD	4 room	30	5
56	GANGSA ROAD	4 room	30	5
57	BUKIT PANJANG RING ROAD	5 room	30	5
58	BUKIT PANJANG RING ROAD	5 room	30	5
59	GANGSA ROAD	5 room	24	5
60	LOMPANG ROAD	exec/man	30	5
61	SOO CHOW WAY	landed	45	5
62	SHUNFU ROAD	3 room	25	5
63	BISHAN STREET 24	4 room	25	5
64	BISHAN STREET 12	4 room	25	5
65	MARYMOUNT TERRACE	condo	35	1
66	CHOA CHU KANG AVE 3	4 room	20	
67	CHOA CHU KANG CENTRAL	4 room	20	
68	CHOA CHU KANG CRESCENT	4 room	28	5
69	CHOA CHU KANG AVENUE 2	5 room	33	5
70	CHOA CHU KANG STREET 51	5 room	25	
71	CHOA CHU KANG CRESCENT	5 room	35	5
72	CHOA CHU KANG NORTH 6	5 room	35	5
73	CHOA CHU KANG NORTH 6	exec/man	28	5
74	CLEMENTI AVENUE 4	3 room	25	5
75	CLEMENTI AVENUE 4	3 room	25	5
76	WEST COAST ROAD	3 room	15	
77	CLEMENTI STREET 13	4 room	28	5
78	CLEMENTI AVENUE 1	4 room	20	5
79	CLEMENTI AVENUE 6	5 room	35	5
80	DUNMAN ROAD	landed	45	5
81	EUNOS CRESCENT	2 room	15	5
82	CIRCUIT ROAD	3 room	22	5
83	ALJUNIED CRESCENT	3 room	24	5
84	EUNOS CRESCENT	3 room	24	5
85	SIMS DRIVE	4 room	20	5
86	EUNOS CRESCENT	4 room	25	5
87	IPOH LANE	condo	40	5
88	HOUGANG AVENUE 10	3 room	15	5
89	HOUGANG AVENUE 8	3 room	15	
90	HOUGANG AVENUE 1	3 room	15	5
91	HOUGANG AVENUE 8	4 room	28	5
92	HOUGANG STREET 51	4 room	27	5
93	HOUGANG AVENUE 4	4 room	25	5
94	HOUGANG STREET 51	4 room	30	5
95	HOUGANG AVENUE 1	4 room	32	5
96	HOUGANG AVENUE 1	4 room	20	
97	HOUGANG STREET 51	5 room	20	5
98	HOUGANG STREET 51	5 room	35	5
99	HOUGANG AVENUE 10	exec/man	35	5
100	JURONG EAST STREET 31	3 room	15	
101	BOON LAY DRIVE	3 room	25	6
102	BOON LAY AVENUE	3 room	25	5
103	BOON LAY PLACE	3 room	20	5
104	JURONG WEST STREET 52	3 room	20	5
105	YUNG KUANG ROAD	3 room	18	5
106	BOON LAY DRIVE	4 room	30	5
107	JURONG WEST AVENUE 1	4 room	23	5
108	YUNG SHENG ROAD	4 room	25	5

SNO	Street Name	HOUSE TYPE	Households Attempted (PER PSU)	Households Successfully completed (PER PSU)
109	JURONG WEST AVENUE 5	4 room	20	5
110	JURONG WEST STREET 73	4 room	25	5
111	JURONG WEST CENTRAL 1	4 room	25	5
112	BOON LAY DRIVE	5 room	33	5
113	YUNG LOH ROAD	5 room	35	5
114	JURONG WEST STREET 73	5 room	35	5
115	JURONG WEST STREET 61	5 room	28	5
116	JURONG WEST CENTRAL 1	5 room	20	
117	JURONG WEST STREET 71	exec/man	30	5
118	BENDEMEER ROAD	1 room	10	5
119	BENDEMEER ROAD	3 room	15	5
120	UPPER BOON KENG ROAD	3 room	15	5
121	BOON KENG ROAD	4 room	30	5
122	BOON KENG ROAD	5 room	25	5
123	TANJONG RHU ROAD	condo	40	5
124	RHU CROSS	condo	40	5
125	AMBER GARDENS	condo	45	5
126	ARTHUR ROAD	condo	40	5
127	PASIR RIS DRIVE 6	4 room	22	5
128	PASIR RIS DRIVE 4	4 room	20	5
129	ELIAS ROAD	5 room	30	5
130	PASIR RIS STREET 12	5 room	20	5
131	PASIR RIS STREET 71	exec/man	28	5
132	ELIAS ROAD	condo	45	5
133	DOVER ROAD	2 room	10	5
134	GHIM MOH ROAD	3 room	15	5
135	DOVER ROAD	3 room	10	5
136	COMMONWEALTH	3 room	25	6
137	GHIM MOH ROAD	4 room	25	5
138	STRATHMORE AVENUE	4 room	20	5
139	DOVER CRESCENT	5 room	28	5
140	DOVER RISE	condo	38	5
141	CANBERRA ROAD	5 room	30	5
142	SEMBAWANG CLOSE	exec/man	28	5
143	RIVERVALE CRESCENT	4 room	25	5
144	RIVERVALE DRIVE	4 room	23	5
145	COMPASSVALE WALK	4 room	23	5
146	SENGKANG EAST WAY	4 room	20	5
147	FERNVALE LANE	4 room	20	
148	RIVERVALE CRESCENT	5 room	20	5
149	RIVERVALE DRIVE	5 room	20	5
150	COMPASSVALE STREET	5 room	25	
151	COMPASSVALE LANE	5 room	25	5
152	ANCHORVALE LINK	5 room	24	4
153	RIVERVALE DRIVE	exec/man	25	5
154	ANCHORVALE ROAD	exec/man	25	5
155	SARACA DRIVE	landed	35	
156	STRATTON DRIVE	landed	40	5
157	JALAN RIANG	landed	30	
158	SERANGOON AVENUE 2	3 room	15	
159	SERANGOON CENTRAL	4 room	20	
160	TAMPINES STREET 81	2 room	16	5
161	TAMPINES STREET 23	3 room	33	5
162	TAMPINES STREET 41	3 room	25	5
163	TAMPINES STREET 91	3 room	20	5
164	TAMPINES STREET 23	4 room	23	5
165	TAMPINES STREET 33	4 room	25	5
166	TAMPINES STREET 71	4 room	18	6
167	TAMPINES AVENUE 4	4 room	20	5
168	TAMPINES STREET 91	4 room	20	5
169	SIMEI STREET 1	4 room	20	5
170	TAMPINES STREET 21	5 room	24	5
171	TAMPINES STREET 32	5 room	24	5
172	TAMPINES STREET 71	5 room	23	5
173	SIMEI STREET 1	5 room	25	5
174	TAMPINES AVENUE 5	exec/man	30	5
175	TAMPINES AVENUE 5	exec/man	20	5
176	TAMPINES STREET 11	condo	45	5
177	SIMEI STREET 3	condo	50	5
178	LORONG 5 TOA PAYOH	2 room	15	5
179	LORONG 1 TOA PAYOH	3 room	18	5
180	LORONG 5 TOA PAYOH	3 room	24	5
181	TOA PAYOH EAST	3 room	18	5
182	LORONG 4 TOA PAYOH	4 room	20	5
183	LORONG 4 TOA PAYOH	4 room	25	5
184	LORONG 1 TOA PAYOH	5 room	25	5
185	LORONG 8 TOA PAYOH	5 room	25	5
186	WOODLANDS STREET 31	3 room	23	6
187	MARSILING DRIVE	3 room	16	6
188	WOODLANDS STREET 81	4 room	23	5
189	WOODLANDS CIRCLE	4 room	27	5
190	WOODLANDS AVENUE 6	4 room	20	5
191	WOODLANDS DRIVE 42	4 room	27	5
192	WOODLANDS DRIVE 14	4 room	27	5
193	WOODLANDS STREET 32	4 room	25	6
194	WOODLANDS STREET 13	4 room	25	6
195	WOODLANDS AVENUE 4	5 room	25	5
196	WOODLANDS AVENUE 4	5 room	25	5
197	WOODLANDS AVENUE 4	5 room	34	5
198	WOODLANDS DRIVE 14	5 room	25	5
199	MARSILING RISE	5 room	28	5
200	WOODLANDS STREET 82	exec/man	35	5
201	WOODLANDS AVENUE 1	exec/man	45	10
202	YISHUN AVENUE 6	3 room	16	6
203	YISHUN RING ROAD	3 room	16	6
204	YISHUN AVENUE 5	3 room	15	6
205	YISHUN STREET 72	3 room	18	6
206	YISHUN STREET 22	4 room	25	6
207	YISHUN RING ROAD	4 room	25	6
208	YISHUN STREET 61	4 room	25	6
209	YISHUN RING ROAD	4 room	20	5
210	YISHUN AVENUE 7	4 room	32	6
211	YISHUN AVENUE 5	4 room	18	5
212	YISHUN AVENUE 3	4 room	18	5
213	YISHUN STREET 81	5 room	25	5
214	YISHUN RING ROAD	exec/man	35	6
215	YISHUN STREET 81	condo	60	10
		GRAND TOTAL	**5622**	**1032**

Housing type





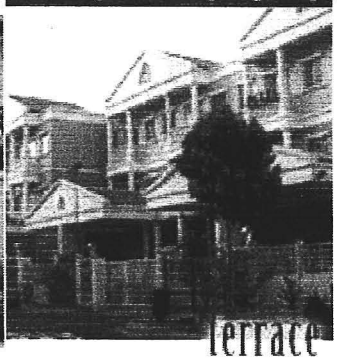
EXTERIOR VIEW OF SUBJECT DEVELOPMENT



description of property



bungalows



terrace



オーストラリア調査の概要

1. 標本抽出の手続き等

本調査は，オーストラリア連邦におけるニューサウスウェールズ州，ヴィクトリア州，クイーンズランド州の三州に在住する 18 歳以上 70 歳以下の男女を母集団とした標本調査であり，訪問面接法（Door to Door）を用いて行われたものである。具体的な標本抽出と訪問調査は I-view 社に委託し，調査遂行の詳細は同社との検討の上で一任した。

同社の報告による本調査の概要は以下の通りであった。

a. 調査対象（母集団）　18 歳以上 70 歳以下の男女
b. 調査地域　ニューサウスウェールズ州，ヴィクトリア州，クイーンズランド州の三州
c. 調査時期　2008 年 10 月 6 日～11 月 30 日
d. 地点数　70 地点
e. 標本サイズ　回収標本　700 名
f. 抽出の方法と手順

① 2006 年国勢調査（ABS Census 2006）の人口分布に基づいて各州（都市と郊外）を層化した。

Total pop	15,386,133	
NSW	6,549,177	42.6%
VIC	4,932,422	32.1%
QLD	3,904,534	25.4%

2006 ABS Figures

By Gender		By CITY/State		By Age (18+)		By Age (15+)		By State	
Gender	ABS Actual *	City/State	ABS Actual *	Age	ABS Actual *	Age	ABS Actual *	State	ABS Actual *
Male	49.7	Sydney	20.7	18-24	12.9	15-17	5.1	NSW	32.9
Female	50.3	Melbourne	18.1	25-29	8.9	18-24	12.2	VIC	24.8
		Brisbane	8.8	30-34	9.4	25-29	8.4	QLD	19.8
		Adelaide	5.5	35-39	9.7	30-34	9.0	SA	7.6
		Perth	7.3	40-44	9.7	35-39	9.2	WA	9.9
		Hobart	1.0	45-49	9.5	40-44	9.2	TAS	2.4
		Other NSW	12.2	50-54	8.6	45-49	9.0	ACT	1.6
		Other VIC	6.7	55-59	8.0	50-54	8.2	NT	1.0
		Other QLD	11.0	60-64	6.3	55-59	7.6		
		Other SA	2.0	65-69	4.9	60-64	5.9		
		Other WA	2.6	70-74	4.0	65-69	4.7		
		Other TAS	1.4	75+	8.1	70-74	3.8		
		ACT	1.6			75+	7.7		
		NT	1.0						

* Source: ABS 2006 Census of Population and Housing (as at 30 June 2006)

② 地点は，どの地域が標本に含まれる必要があるか確かめられた上で，地図から抽出された。カバレ

ッジを確保するための地域の特定にあたっては，以下の資料が用いられた。

③ 抽出された各地点で，計画された世帯数（10 世帯）を回収するために，統計的に無作為に選ばれたスタート点からクローバーリーフ法（Clover Leaf Method）を用いて標本世帯を抽出した。

※ Clover Leaf Method

you stand on one street corner, left shoulder to the wall, and walk all the way around that block back to where you started (you do not cross the road) - then once you complete walking that block - you cross the road and do the same around that block.

④ 調査員は，必要な調査対象者に面接を終えるまで，スタート点から定められた道順をたどった。各協力世帯においては，適格な対象者を誕生日法（last birthday person methodology）によって抽出した。

g. 標本の管理

同社では，毎週調査員に調査を完了した対象者をクォータ表（性・年齢のクロス表）に記入させて進行を管理している。センサスとの照合の結果，標本の性や年齢が偏っていると判断した場合には，途中からクォータを指示して管理することがあるが，本調査での遂行課程ではその必要性はないと判断され，厳格なクォータ管理を課すことはなされなかった。

2. オーストラリア調査 2007 における訪問状況

・ 手順

i-views 社の報告によれば，以下の通り行われた。

At Each start point we wish to achieve 10 interviews. For each start point you should use one call sheet for each start point which will be sent in with the questionnaires for that start point.

For our first weekend of interviewing we will make 1 call to each residence to find out what kind of response we achieve – if it seems that we would benefit from call-backs then we will apply the following: Up to 3 calls are to be made to a residence. 2 of these calls can be daytime one MUST be out of business hours (weekend). The address sheet is to be used as a call sheet with a code result for every door that you knock on.

・ 訪問状況

訪問状況	NSW	QLD	VIC	調査全体
面接完了	300	170	230	700
拒否	1033	584	820	2437
再訪問	321	74	450	845
年齢対象外	302	96	216	614
その他の不適切な接触 注1)	278	154	261	693
接触合計数	**2045**	**1078**	**1977**	**5100**
不在等 注2)	2117	1193	3098	6408
総アタック数	**4162**	**2271**	**5075**	**11508**

注 1）英語を話せる人がいない。老衰，酔っ払い等。
注 2）二回ノックした後に返事がない。（およそ 30 秒待つ）

インド調査の概要

1. 調査計画と標本抽出法の概要　　（吉野諒三　記述）

今回のインド調査は、われわれがこれまで遂行してきた国際比較調査の各国の統計的標本抽出とはかなり異なり、母集団を推定する厳密な統計学の視点からは、そのデータの質の点で問題が多い。しかし、われわれの基本方針は、飽くまでも現地の調査機関が通常活用している方法を尊重し、それを学ぶことである。現地の社会的、歴史的背景から実践的に遂行されている調査方法は、狭義の統計学の視点だけではなく、政治や経済、歴史、文化などの社会的条件を総合して、なおかつ、採用されているものと信じ、その方法を学ぶこと自体が、その社会の様相を理解するのに、大いに役立つと信じるからである。

現地の調査会社に詳細な標本抽出設計の説明書を求めたが得られなかったので、以下では、現地調査会社からの資料や打ち合わせで、われわれが把握していることを記す。また、現地でわれわれが随伴するプリテストを行うことは、準備不足という理由で拒絶されたので、調査の実践で何が行われたかは、回収データのクリーニングなどから推察するしかなかった。

現地調査会社 IMRB international は、事実上、日本側で代理店となった（社団法人）新情報センターがインドのいくつかの機関から見積もりをとり、適切なものと思われる機関として選択した。日本側でインドの社会調査や世論調査の機関を詳細に把握している者はいないので、我々の選択の幅は狭かった。調べていくうちに、業務として世論調査を主としている機関はほとんど見当たらず、市場調査を主とするものがほとんどのようである。民間企業として利潤をあげなければ成立しないので当然であろうが、これは、日本の戦後民主主義を発展させるために各調査機関が生まれてきた歴史（吉野、2008）とは著しく異なり、その調査の方法論にも影響しているようである。

つまり、常にそうであるわけではないが、日本の市場調査では、日本全体の成人を対象にするときは、基本的に、世論調査と同じような厳密でコストのかかる標本抽出調査を用いることも多かった。しかし、市場調査の最終目的を考えると、世論調査とは異なり、必ずしも日本全体から偏らずに得られたデータが絶対に必要というわけではなく、絶対数として十分に多数の顧客の嗜好や特定の製品に対する満足度が把握できればよいので、費用対効果を考慮して、それなりの標本抽出調査の方法が工夫されることもある。しかし、これは逆に言うと、「一人一票の民主主義」を標榜する世論調査では、そのようなことは許されないということも、日本の調査関係者の了解事項である。

しかし、インドでは調査会社自体は目新しくはないが（英国の植民地であった影響か）、市場調査が主体で、その巨大な人口から考えて「世界一大きな民主主義国」といわれる国の母集団を偏らずに標本抽出する方法はとられていないようである。これは、あまりにも多様な宗教や言語(公用語だけでも 18 言語、英語とヒンドゥー語が国語)や階層の構造、経済格差などから、精度の高い国勢調査のデータに基づき、整った住民基本台帳などから個人を抽出できる統計調査からはほど遠い現状なので、やむを得ないことなのであろう。

ホームレスの人々だけでも、日本の人口を超えるともいわれている。選挙に関しては、社会階層のすべてに議員の適正な割り当てがあり、ホームレスの人々にも選挙権があり、公務員の腐敗が目立つ中で、選挙管理委員会だけは厳正にことを遂行しているといわれる。もしそうであれば、ホームレスの人々を含めた世論調査も可能なはずであるが、調査会社の説明では、インド全体の識字率を考慮し、さらに下の方の階層の人の識字率や収入を考えると調査に値しないという。私には、それは「市場調査」主体の機関の意見であり、「一人一票の民主主義」を標榜する世論調査の機関の意見ではないと思えたが、しかし、現実にそれらの人々を統計学的

に適正に標本抽出し、面接調査が遂行できるかと言われれば、著しい困難や極端なコストが想像できる。

このような状況で、われわれは、現地の調査会社が遂行する作業を学ぶ態度に徹することにした。この過程で、あまりに統計学的に厳密な遂行不能なことを押し付けると、われわれが直接検証できない状況の中で、事実を隠蔽されることを一番に怖れた。

調査の実際

1）調査対象は、インド国籍でインド在住の 18 歳以上-69 歳までの男女である。

2）調査実施地点は、インド国内の 10 都市(表 1　参照)より無作為抽出法により算出した地点である。（まず、都市部だけの調査となっていること、また各地の地点数や標本数の選定が国勢調査データにそろえたわけでもなく、統計学的には厳密ではない。）

各地点（都市）をブロックに分け、各ブロックで統計的に無作為にランダム。スタート地点を決め、**ライトハンド・メソッド**と称する、いわゆるランダムルート・サンプリングにより、世帯を訪問し、訪問世帯で年齢と SEC（社会経済階層）の割当表に従い、個人を抽出する。この方法で、合計 2000 名になるまで有効回答者を抽出する。

実際には、各都市を 4 ブロック(ムンバイは 5 ブロック)に分け、SEC の対象となる回答者が多く住む居住区を考慮して、各都市で 25 地点を抽出する。各地点でランダムスタート地点から道路に沿って右手周り(ライトハンド・メソッド)で 3 軒ごとの世帯等間隔系統抽出で 14 人の面接を行う。各世帯では、調査対象となりえる者が複数のときは、誕生日法で回答者を抽出した。各地点では約 25 回（世帯）の接触を行う。もし、25 回までの接触で 14 人の回答者が得られなかった場合は、さらに回答者を求めて続ける。

表 1 .調査 10 都市、サンプルサイズ、及び調査票の言語（英語との対となる言語）

都市	サンプルサイズ(人)	言語(英語と各地の言語)
Mumbai	250	*Hindi*
Delhi	250	*Hindi*
Kolkata	225	*Bengali*
Chennai	225	*Tamil*
Bangalore	225	*Kannada*
Hyderabad	225	*Telugu*
Ahmedabad	225	*Gujarati*
Pune	125	*Marathi*
Ludhiana	125	*Hindi*
Kochi	125	*Malayalam*
合計	2000	

母集団は社会経済指標により 5 段階（A から E）に分類されるが、今回の調査対象は上の 3 段階のみとされている。

表 2　年齢の割り当て

年齢	Mum	Del	Kol	Chen	Blr	Hyd	Ah'bad	Pune	Kochi	Ludh
18-29	90	100	60	75	85	85	85	50	50	50
30-39	70	70	65	60	60	60	60	30	30	30
40-49	50	40	50	40	40	40	40	20	20	20
50-59	20	20	30	30	25	25	25	15	15	15
60-69	20	20	20	20	15	15	15	10	10	10
合計	**250**	**250**	**225**	**225**	**225**	**225**	**225**	**125**	**125**	**125**

表 3　SEC（社会経済指標）の割り当て

SEC	Mum	Del	Kol	Chen	Blr	Hyd	Ah'bad	Pune	Kochi	Ludh
A	60	80	75	60	70	90	55	30	30	30
B	70	90	80	75	60	65	75	40	40	40
C	120	80	70	90	95	70	95	55	55	55
合計	**250**	**250**	**225**	**225**	**225**	**225**	**225**	**125**	**125**	**125**

（参考）　調査において用いた **SEC** の割り当て確認表（調査票のフェースシート項目）

以下のように、SEC は A から E の 5 段階に分類され、さらに A1, A2 などの小分類もある。しかし、実際の調査対象としては、上記のように A, B, C の 3 段階のみとされた。現地の調査会社によると、「文盲の人が多い D,E 層を調査してもしようがない」という回答であった。

		Illiterate	School Up to 4 years	School 5-9 years	SSC/ HSC	Some college but not graduate	Graduate/ Post Graduate	
							General	Professional
		1	2	3	4	5	6	7
Unskilled	**01**	**E2**	**E2**	**E1**	**D**	**D**	**D**	**D**
Skilled worker	**02**	**E2**	**E1**	**D**	**C**	**C**	**B2**	**B2**
Petty trader	**03**	**E2**	**D**	**D**	**C**	**C**	**B2**	**B2**
Shop owner	**04**	**D**	**D**	**C**	**B2**	**B1**	**A2**	**A2**
Businessmen/Industrialist (No. of employees)								
None	**05**	**D**	**C**	**B2**	**B1**	**A2**	**A2**	**A1**
- 1-9	**06**	**C**	**B2**	**B2**	**B1**	**A2**	**A1**	**A1**
- 10+	**07**	**B1**	**B1**	**A2**	**A2**	**A1**	**A1**	**A1**
Self employed professional	**08**	**D**	**D**	**D**	**B2**	**B1**	**A2**	**A1**
Clerical/Salesman	**09**	**D**	**D**	**D**	**C**	**B2**	**B1**	**B1**
Supervisory level	**10**	**D**	**D**	**D**	**C**	**B2**	**B1**	**A2**

Officers/Executive								
- Junior	**11**	**C**	**C**	**C**	**B1**	**B1**	**A2**	**A2**
-Middle/ Senior	**12**	**B1**	**B1**	**C**	**A2**	**A2**	**A1**	**A1**

3）調査方法

訪問による個別面接聴取法。

4）調査票

当研究所が設計した別紙調査票を、請負者が必要部数を印刷製本した。

英語と他の7言語の各々の対となる合計7種の調査票を用意した。

われわれの過去のシンガポール調査とは異なり、これらの7種の調査票は、全地点で用意され回答者の主言語によって使い分けられたのではなかった。表1のように、10都市それぞれで1種類の調査票を用いて面接調査が遂行された。

回収データの結果からみると、表4のように、確かに、大方の都市では回答者の主言語と用意された調査票としては言語が大方は一致しているが、われわれが用意したか否かは別にしてみると、調査会社の本部のあるムンバイ（旧ボンベイ）では、むしろ、回答者の主言語は「Marathi」の方が多く、Ludhianaでは用意しなかった言語の方がはるかに多い。ここでは、

	主言語										
	Hindi	Bengali	Tamil	Kannada	Telugu	Gujarati	Marathi	Malayalam	English	他	D K
Mumbai	18.0	.4	.4	1.2	2.0	21.6	50.8	.4	.8	2.0	2.4
Delhi	88.0		.4	.8			.4	1.6		6.8	2.0
Kolkata	4.9	92.9									2.2
Chennai	.9	.4	90.7	.4	5.8			.4			1.3
Bangalore	4.4		8.0	70.2	8.4		1.3	1.8		5.3	.4
Hyderabad	23.1		1.3	.9	68.0		.9			3.1	2.7
Ahmedabad	4.0		.4	.4		88.9	2.2			2.7	1.3
Pune	8.7		.8	1.6		4.0	83.3	.8		.8	
Ludhiana	32.5									65.9	1.6
Kochi				.8				97.6			1.6
全体	20.0	10.5	11.4	8.5	9.5	12.9	12.1	6.6	.1	6.5	1.6

回答者の「主言語」の程度や英語力、さらに面接調査員に他言語の能力がどの程度あり、調査現場で問題をカヴァーできているのか、不明である。

表4　10都市ごとの回答者の「主言語」の割合　%

特に、「English & Hindi版」は、日本側でインド人のヒンドゥー語・日本語のバイリンガルを探し翻訳させ、それを日本人の日・ヒンドゥー語のバイリンガルに再翻訳させて、当方で確認し、最終版を作製した。ただし、このプロセスの中でも、先方の調査会社とのやり取りの中で、しばしば、誤謬が紛れ込んだ。

他の6種の調査票は、先方で用意させたため、われわれの側では詳細な確認はできていない。

こちらが確認できる「English & Hindi 版」では、対応する 3 か所で異なる印刷が行われたらしく、調査地点 Ludhiana では Q33 の脱落などが見られた。（こちらが脱落を指摘した直後に、該当する部分は、別紙に印刷し調査を遂行したといい、別にデータが送られてきた。）さらに調査地点 Mumbai と Delhi と Ludhiana の「English & Hindi 版」では Q22 の英語質問部分の脱落があった。（ただし、表 4 のように、回答者のほとんどの主言語は英語ではなかった。しかし、Delhi はともかく、主言語が Hindi ですらない人が Mumbai と Ludhiana では多い。調査員が口頭で、他の言語で質問したのだろうか?あるいは、主言語ではないものの、英語やヒンドゥー語で受け答えしたのであろうか？）。

5）調査日程

平成 20 年末から 21 年 1 月にかけて調査を遂行した。調査開始予定はそれよりも早かったが、われわれが現地調査会社との打ち合わせをした 11 月上旬の直後に、ムンバイで大きなテロが起こり、遂行に影響を与えた。（ただし、テロ自体は、これまでもインドの各地でかなり頻繁にあった。）

参考文献

吉野諒三　(2008). 「科学的」世論調査の価値-歴史と理論と実践の三位一体. 日本統計学会誌、37, 2, pp. 279-290.　(2008).

2. 標本抽出の関連資料
見積もり段階で、現地調査会社から送付されてきた仕様書（サンプルサイズ N＝2000）

Research Methodology:

Method: **PAPI** (Paper and Pencil) – Door to Door
Questionnaire length: 40-50 mins**
** Inclusive of open ended responses.

Research Design:

Centers, Sample size and Language of interview

Center	Sample size	Language
Mumbai	250	*Hindi*
Delhi	250	*Hindi*
Kolkata	225	*Bengali*
Chennai	225	*Tamil*
Bangalore	225	*Kannada*
Hyderabad	225	*Telugu*
Ahmedabad	225	*Gujarati*
Pune	125	*Marathi*
Ludhiana	125	*Hindi*
Kochi	125	*Malayalam*
TOTAL	2000	

Respondent profile:

- Age 18 - 69

SEC:

- Sec A
- Sec B
- Sec C

Quotas:
Age Quotas:

Age	Mum	Del	Kol	Chen	Blr	Hyd	Ah'bad	Pune	Kochi	Ludh
18-29	90	100	60	75	85	85	85	50	50	50
30-39	70	70	65	60	60	60	60	30	30	30
40-49	50	40	50	40	40	40	40	20	20	20
50-59	20	20	30	30	25	25	25	15	15	15
60-69	20	20	20	20	15	15	15	10	10	10
Total	**250**	**250**	**225**	**225**	**225**	**225**	**225**	**125**	**125**	**125**

SEC Quotas:

SEC	Mum	Del	Kol	Chen	Blr	Hyd	Ah'bad	Pune	Kochi	Ludh
A	60	80	75	60	70	90	55	30	30	30
B	70	90	80	75	60	65	75	40	40	40
C	120	80	70	90	95	70	95	55	55	55
Total	**250**	**250**	**225**	**225**	**225**	**225**	**225**	**125**	**125**	**125**

Sampling:

The sampling would be random and would be geographically representative. Each centre would be divided into blocks, with starting points selected within each block and households will be contacted around each starting address selected from electoral rolls. Within a household, age and SEC eligibility will be ascertained and then the selected respondent will be interviewed.

Process:

- Divide the city into 4 zones (5 zones for Mumbai)
- Select 25 areas in total which predominantly belong to the target SEC
- Conduct 14 interviews per area following RHR (skip 3 households after every successful interview)
- Do about 25 contacts (mention termination point in contact sheet) in each area
- If you do not get 14 interviews till 25 contacts, conduct boosters in the same area

Responsibilities in India:

- Research design / Sampling
- Adaption of Questionnaire
- 2000 Field interviews
- Raw Data in SPSS format
- Correction of errors in the raw data
- Questionnaire printing
- Preparation of stimulus – showcards, stimulus etc.
- Written/personal briefing of interviewers by local supervisors
- Practice interviews among interviewers after the briefing before field begins
- Feeding back on achievement of interviews as requested
- Sending back a summary of achieved quotas at the end of the fieldwork period
- Valid questionnaire returns

Requirements from the client:

- Master English questionnaire in .doc format
- Datamap for India
- Qre's instructions in English if necessary
- Approval on Hindi version of the qre's

Deliverables / Output:

- Adapt the q're as per our country
- Translation of fieldwork material e.g. Questionnaire and prompt material
- Printing of fieldwork material
- Fieldwork
- Progress reports on weekly basis
- Sending back a summary of achieved quotas on weekly basis
- Data entry of paper & pencil questionnaire
- Data in SPSS format
- Verbatim text file (Excel) for al the open ended or "others" responses in English

Timelines:

Activity	Timing
Set Up - Qre CC, translations, preparation of stimulus / show cards	0-10
Piloting and changes post piloting (if any)	11-15
Fieldwork set up (briefing and mock calls)	16-20
Fieldwork	21-65
Data punching & Tabulation	65-76
Data Delivery	77th Day

見積もり段階での説明

Sampling Methodology:

A multi-stage, stratified, national random sampling procedure will be utilized in selecting the sample.

Sample Design:

As the first design element, we would like to outline that we would treat Urban and Rural as two distinct strata. as is obvious, given their known and empirically established sharply divergent characteristics.

We believe that the diversity of Urban as a stratum is more dependent on town class (population) than on geography or socio-cultural factors. Hence, the next stage for Urban would be the creation of town class strata that are fairly homogenous within.

We assume that the end objective is to provide a representative sample of the study states in terms of urban / rural, regions, gender.

The sampling design for these two strata will be different as will be explained subsequently.

NOTE: ***Although only a quarter of India's population resides in Urban, usually, this universe gets allocated a disproportionately higher sample size by sheer virtue of its heterogeneity in any similar study. We therefore suggest the urban-rural allocation to be 70%(urban): 30%(rural).***

Sample Size Distribution (proposed)

Urban	Rural	Total
630	270	**900**

Coverage:
The geographical coverage is both urban and rural aiming to covering states of India from each geographical zone (North, South, East and West)

Delhi (having no real rural areas) would only be considered for the urban sample. Hence, the rural sample would be drawn from the remaining states.

We would recommend conducting the study in 8 states (2 from each zone).

States	*Zone*	Total Population
WEST BENGAL	East	80176197
KERALA	South	31841374
UTTAR PRADESH	North	166197921
DELHI	North	13850507
MAHARASHTRA	West	96878627
GUJARAT	West	50671017
TAMIL NADU	South	62405679
ORISSA	East	36804660

Source: Census - 2001

Urban Sampling:

The following sample design

Proposed urban sampling scheme (from our selected states)

	Pop class
Mega Metros	4,000,000
Mini Metros	1000000 - 3999999
Large Towns	500000 - 999999
Small Towns	100000 - 499999
Class II and below towns	20000 - 99000

URBAN			
Center	**Zone**	**State**	**Classification**
Delhi	NORTH	**Delhi**	Mega Metros
Lucknow	NORTH	**Uttar Pradesh**	Mini Metros
Pune	WEST	**Maharashtra**	Mini Metros
Bhubaneswar	EAST	**Orissa**	Large Towns
Trivandrum	SOUTH	**Kerala**	Large Towns
Asansol	EAST	**West Bengal**	Small Towns
Vellore	SOUTH	**Tamil Nadu**	Small Towns
Mahesana	WEST	**Gujarat**	Class II and below towns

Sampling within town

We propose the Random Route Technique (Cluster Sampling) which is the standard method used for urban surveys in India.
This method is based on a systematic sampling of clusters that ensures, by the very process, an **implicit stratification** of the possible heterogeneity within a city.

The key steps are:

- The Electoral Rolls (or the Polling Booth Registers) will serve as the sampling frame
- A fixed number of addresses or starting points (SPs) will be selected via systematic sampling with random start. This entails arriving at an interval by dividing the universe size (in this case total number of households) by the required number of SPs, generating a random starting number, and selecting (pages or serial numbers) by the intervals thereafter.
- Around each selected SP, a fixed number of households (in our case 5) will be contacted by the interviewer via the Right Hand Rule of Field Movement. This obviates any bias on the part of the interviewer in the selection of a household.

Sampling within household:

To ensure that the principles of randomness are not compromised we recommend the Next Birthday Method technique of selecting the individual respondent within a household. The method entails listing all eligible members (18 + years in our case) of a household and note down tier respective ages. We would be speaking to the person who has the next birthday and present at home.

Rural Sampling
The rural universe is classified (Basis Census Figures – 2001)

Rural	Population
Village Class I	5000 +
Village Class II	1000 - 5000
Village Class III	Less than 1000

The following steps would be involved during the rural sampling:

Step 1: Listing of all states within which towns were sampled within each Region.

Step 2: Listing of all districts within those states.

Step 3: Adopting the PPS method for selecting Districts and villages

The PPS method adopted would entail:

- Arranging all the districts (except the districts where town were sampled) by increasing or decreasing population
- Working out cumulative population (rural) totals
- Deriving the population interval (total cumulative pop / number of districts to be selected)
- Generating a random number, and selecting the district against which this random number falls in the cumulative total
- Selecting subsequent districts likewise by adding the derived population interval, systematically

Sampling within a district:

Within each selected district, we would randomly select 2 villages using the PPS methodology. Within each village we would interview 15 individuals. Hence each chosen district would be represented by a sample of 30 respondents.

Sampling within a village:

Ideally, all households in a village should be enumerated / listed to serve as a rigorous sampling frame. Demographic studies follow this method. However, it has a substantive budget implication, and hence we are suggesting an alternative.

The team will draw up a rough map of a village in consultation with an opinion leader / functionary. This map will indicate the clusters of households in terms of localities / caste or religious or social groups.

Based on this frame, 5 clusters will be selected systematically. In each cluster 3 interviews would be carried out with a gap of 5 households between every two contacted ones, to yield 5 X 3= 15 interviews.

Within a household, the actual respondent will be selected by the Next Birthday method, as described under urban sampling.

3. 単純集計国際比較表

a. 環太平洋国際比較表

（日本、北京、上海、香港、台湾、USA、韓国、オーストラリア、シンガポール、インド）

				2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004
APVS	Common code	Item	category	Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*
Q1	#7.31	Living Conditions	1)Much better	26.6	35.6	4.5	2.3	32.7	3.1	19.4	24.4	44.5	0.3
			2)Slightly better	61.3	54.4	53.5	24.4	32.7	36.6	32.1	31.3	36.6	12.7
			3)About the same	6.3	5.4	19.6	28.2	25.3	30.1	23.0	30.4	11.5	48.2
			4)Slightly worse	2.7	1.1	17.4	24.7	6.1	21.9	17.1	8.0	4.3	29.7
			5)Much worse	0.7	0.4	3.1	13.6	1.1	5.4	6.5	4.0	2.0	5.4
			8)Other	1.7	0.3	0.2	–	–	–	–	0.7	0.1	–
		*NA含む	9)DK	0.9	*2.8	1.8	6.8	2.0	2.8	2.0	1.1	1.0	3.8
Q2		Country for Friendship	USA	1)35.4	1)47.6	1)41.1	1)35.0		1)53.2	1)14.3	1)19.7	1)59.8	1)35.0
		※【国別質問】	EU(European Union)	2)38.3	2)26.9	2)27.6	2) 8.3	1)12.7	2) 6.5	2) 3.5	2)15.7	2) 4.9	2) 6.3
		ブランクは、各調査票で設定されていない回答肢	Japan	3) 2.8	3) 6.3	3) 7.8	4)11.3	3)10.4	4) 3.2	4) 6.4	3) 8.4	3) 9.8	
			South Korea	4)10.7	4) 7.3	4) 6.1	5) 0.5	6)10.4		5) 1.5	6) 3.1	6) 10.5	4) 5.4
			Mainland of China				6)23.2		3)22.1				3)28.3
		※ 中国と中国大陸は別回答肢	China					4)30.3		3)36.2	4)27.7	5) 6.5	
			Australia				3) 2.2	2) 9.7	5) 2.1	6) 7.3		4) 0.6	
			India				7) 0.5	5) 4.6	6) 1.0	7) 5.8	5) 6.4		
			The Other Asian than China and South Korea										5)11.9
			The Other Asian than Japan and South Korea	5) 7.2	5) 4.8	5) 9.8							
			Country other than China and Japan										
			Asian country other than China, Japan and India						7) 6.5				
			Asian country other than China, India, Japan and South Korea				8) 5.3	7) 9.2		8)18.0	7)11.9	7) 1.4	
			Other	8) 3.4	8) 1.0	8) 1.5	88) 0.7	8) 2.7	8) 1.3	88) 0.6	8) 2.1	88)2.1	8) 1.0
			DK	9) 2.2	9) 6.1	9) 6.1	99)13.1	9)10.1	9) 4.1	99) 6.4	9) 4.9	99)4.2	9)12.0

APVS	Common code	Item	category	2005 Beijing	2005 Shang-hai	2005 Hong Kong	2006 Taiwan	2006 USA	2006 South Korea	2007 Singapore	2007 Australia	2008 India	2004 Japan A
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*
Q3		Country to be Born again	Japan	1) 5.2	1) 8.3	1)24.1	1)42.1	2)12.9	1)10.7	2)12.5	1)26.6	2)15.2	
		※【国別質問】	South Korea	2)11.4	2) 7.3	2) 4.9	2) 3.2	4) 1.1		3) 1.9	3) 1.9	3) 1.5	2) 9.4
		ブランクは、各調査票で設定されていない回答肢	China										
			Mainland of China			4)28.5	3) 9.3	3) 4.6	2) 7.0	1)13.4	2) 5.1	4) 2.3	1) 9.7
		※ 中国と中国大陸は別回答肢	Taiwan	3) 8.9	3) 5.8	3) 3.5		5) 0.9	3) 1.0	4) 4.7	4) 1.4	5) 0.4	3) 5.5
		※ 韓国調査は、台湾の代わりにタイが含まれている	Hong Kong	4)25.5	4)24.5		4) 2.0	6) 2.3	4) 2.2	5) 6.3	5) 9.1	6) 3.3	4)11.4
			India	5) 0.8	5) 0.8	5) 0.4	6) 0.2	7) 1.7	5) 1.4	6) 3.8	6) 7.6		5) 2.2
		※ 各国調査票での中国、中国大陸、香港、台湾の分類の違いに注意	Philippines	6) 0.6	6) 0.6	6) 0.4	7) –	8) 3.3	6) 0.6	7) 0.8	7) 5.3	7) 0.4	6) 0.5
			Singapore	7)33.0	7)39.2	7)30.7	8)10.1	9) 1.6	7)10.9		8)22.0	8)22.9	7)24.5
			Thailand										
			Australia				5)14.6	1)47.1	8)50.4	8)32.5		1)34.5	
			U.S.						9) 2.5				
			None					10)19.1	98) 1.8				
			Other	8)10.3	8) 1.8	8) 1.4	88) 3.2	88) 0.6	88) 2.5	88) 8.8	11.9	88) 8.2	8) 8.3
		*NA含む	DK	9) 4.3	9)11.9	9) 6.0	99)15.4	99) 5.0	99) 9.0	99)15.3	9.3	99)11.0	9)28.5
Q4		Boy or Girl to be Born again	1)A Boy	53.4	53.4	52.4	59.7	53.4	63.2	56.0	56.1	54.3	54.8
			2)A Girl	33.4	34.2	35.8	28.4	45.3	32.8	37.6	39.9	41.8	40.7
			8)Other	10.7	4.0	8.6	3.2	–	0.8	–	1.9	0.6	1.1
		*NA含む	9)DK	2.5	*8.4	3.2	8.8	1.3	3.2	6.4	2.1	3.3	3.3
Q5	#4.11	Respect for Ancestors	1)More Than the Average	55.7	50.0	33.7	27.5	56.2	56.1	49.0	62.1	62.9	49.1
			2)Less Than the Average	3.3	4.0	6.7	6.1	5.7	9.9	16.0	7.6	11.9	8.0
			3)Average	39.9	43.7	58.5	66.3	37.4	33.2	33.8	28.7	24.2	41.3
			8)Other	0.6	–	–	–	–	–	–	0.1	0.0	0.1
			9)DK	0.5	2.3	1.1	–	0.8	0.8	1.2	1.4	0.9	1.6
Q6	#4.10	Child Adoption	1)Would Adopt	23.5	22.2	19.2	22.2	44.7	27.4	42.9	51.9	59.4	14.7
			2)Would Not Adopt	59.0	50.8	66.4	59.9	23.0	47.4	33.8	30.9	14.1	55.6
			3)Depends	15.4	22.5	13.0	16.7	28.6	23.6	22.8	15.3	22.6	24.7
			8)Other	1.0	0.3	–	–	0.3	0.2	–	1.3	0.3	0.3
			9)DK	1.1	4.2	1.4	1.2	3.3	1.5	0.5	0.7	3.5	4.7

APVS	Common code	Item	category	2005 Beijing	2005 Shang-hai	2005 Hong Kong	2006 Taiwan	2006 USA	2006 South Korea	2007 Singapore	2007 Australia	2008 India	2004 Japan A
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*
Q7	#4.80	Ideal Number of Children	0	3.6	1.2	2.9	3.0	–	0.1	0.6	0.7	–	0.1
			1	22.1	29.8	10.5	8.1	3.2	3.9	4.1	2.7	15.2	1.4
			2	68.0	62.5	70.1	63.7	49.2	48.8	49.8	49.3	73.7	43.8
			3	4.7	3.6	10.2	17.6	27.0	36.9	29.7	29.0	5.1	48.1
			4	0.7	0.4	4.4	3.6	14.8	6.7	12.0	13.4	1.4	3.2
		Taiwan 6が0.5%、8が0.2%	5	0.2	0.3	0.7	0.3	1.4	2.5	2.1	2.0	0.7	0.5
		South Korea 6が0.3%、10が0.2%	6 or Over	0.2	–	0.4	0.7	2.1	0.5	0.8	1.1	0.3	0.1
		*NA含む	9)DK	0.5	*2.3	0.8	3.0	2.3	0.6	0.9	1.7	3.9	2.8
			Others										
Q8	#2.4	Attitudes towards Life	1)Make no offense and lead a serious life	31.0	38.7	26.9	39.6	8.8	41.3	11.3	12.9	27.5	46.2
			2)Active in volunteer work and make a social commitment	8.9	12.3	4.6	9.8	12.0	11.2	7.8	11.6	18.4	8.8
			3)Work hard and get rich	8.0	14.1	8.5	15.8	14.7	16.4	22.9	9.4	27.8	5.4
			4)Study earnestly and make a name for yourself	3.3	4.8	4.4	6.0	8.0	2.2	5.9	3.3	8.8	0.8
			5)Don't think about money or fame; just live a life that suits your own taste	29.7	17.4	20.1	15.1	25.6	10.1	19.5	30.9	5.7	23.0
			6)Live each day as it comes, cheerfully and without worrying	17.5	10.6	34.6	12.8	28.4	17.9	29.8	30.4	11.0	14.3
			8)Other	1.4	0.3	0.5	–	1.2	0.2	–	0.7	0.0	0.2
		*NA含む	9)DK	0.2	*1.7	0.5	1.0	1.3	0.8	2.8	0.9	0.6	1.3
Q9a		Confucius Teaching – We should respect our ancestors	1)Strongly Agree	51.9	54.2	41.2	39.8	54.8	24.5	41.0	49.4	84.5	40.5
			2)Agree	44.6	42.3	57.6	58.2	41.6	59.9	55.7	46.4	15.1	50.4
			3)Disagree	2.4	1.2	0.9	1.3	1.3	10.7	1.2	3.1	0.2	6.1
			4)Strongly Disagree	0.3	–	0.1	0.3	0.4	1.8	0.8	0.3	0.0	1.4
			8)Other	0.6	0.4	–	–	0.6	0.7	–	–	0.0	0.1
		*NAを含む	9)DK	*0.3	*1.9	0.1	0.3	1.2	2.4	1.2	0.7	0.1	1.6
Q9b		Confucius Teaching – The eldest son should look after his aging parents	1)Strongly Agree	28.9	18.5	26.9	18.2	12.7	11.3	2.0	14.3	55.5	8.1
			2)Agree	41.3	42.6	48.6	47.4	31.9	33.7	25.8	29.9	21.7	24.2
			3)Disagree	25.4	32.6	20.8	31.0	38.3	46.0	62.0	43.6	10.2	54.0
			4)Strongly Disagree	1.3	1.2	1.5	2.5	7.1	7.9	7.5	10.3	11.9	12.2
			8)Other	2.8	2.6	0.8	0.3	4.7	0.3	1.3	0.7	0.4	0.4
		*NAを含む	9)DK	*0.3	*2.5	1.3	0.5	5.4	0.9	1.5	1.3	0.2	1.1

				2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004
APVS	Common code	Item	category	Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*
Q9c		Confucius Teaching – A wife should follow her husband	1)Strongly Agree	4.6	3.8	6.1	9.1	12.4	11.6	10.6	6.3	50.6	6.1
			2)Agree	16.5	16.2	35.0	35.5	39.4	48.3	49.5	22.7	31.6	29.4
			3)Disagree	61.8	60.5	47.3	45.9	28.7	33.4	34.8	37.1	10.8	46.4
			4)Strongly Disagree	13.2	14.3	8.1	8.5	15.2	5.2	3.0	30.7	6.3	15.5
			8)Other	3.3	2.3	0.9	0.8	2.1	0.8	1.6	1.0	0.3	1.0
		*NAを含む	9)DK	*0.6	*2.9	2.5	0.2	2.1	0.7	0.6	2.1	0.3	1.7
Q9d		Confucius Teaching – Not to marry someone whom your parents object to	1)Strongly Agree	0.7	2.2	1.3	2.0	6.2	7.0	2.0	2.9	51.0	3.5
			2)Agree	6.2	10.0	6.0	9.6	30.3	36.6	25.8	14.9	24.9	24.0
			3)Disagree	74.4	66.2	62.3	63.2	47.1	45.0	62.0	57.1	15.9	53.3
			4)Strongly Disagree	17.3	16.8	29.4	24.9	10.4	8.2	7.5	22.6	7.1	15.4
			8)Other	1.1	1.9	–	0.2	2.1	0.8	1.3	0.4	0.3	0.6
		*NAを含む	9)DK	*0.4	*3.0	0.9	0.2	3.9	2.5	1.5	2.1	0.7	3.2
Q9e		Confucius Teaching – We should follow older people	1)Strongly Agree	3.5	8.0	4.5	8.8	14.5	9.0	4.1	8.0	72.4	6.7
			2)Agree	39.5	42.0	49.4	56.9	42.0	62.5	46.9	35.9	24.0	47.4
			3)Disagree	46.0	38.2	36.5	31.2	29.2	23.2	42.9	45.4	2.8	32.8
			4)Strongly Disagree	1.7	1.7	2.1	2.8	4.3	2.6	2.1	8.0	0.7	9.1
			8)Other	8.2	5.5	2.5	0.3	4.2	1.0	2.9	1.1	0.0	1.8
		*NAを含む	9)DK	*1.1	*4.6	5.1	–	5.8	1.7	1.1	1.6	0.0	2.2
Q9f		Confucius Teaching – It is important to have a son to keep the family line going	1)Strongly Agree	3.1	4.1	4.5	6.5	10.2	8.6	7.7	7.9	46.8	5.9
			2)Agree	17.5	20.7	29.8	32.8	34.5	25.6	35.0	27.3	27.4	24.1
			3)Disagree	64.8	60.3	56.5	51.1	41.3	51.3	49.8	45.9	13.6	52.9
			4)Strongly Disagree	9.8	7.8	7.7	8.8	9.8	12.5	6.3	17.6	11.5	14.7
			8)Other	4.2	2.1	0.2	0.2	2.0	0.5	0.6	0.1	0.3	0.8
		*NAを含む	9)DK	*0.7	*5.0	1.3	0.7	2.2	1.5	0.7	1.3	0.3	1.8
Q9g		Confucius Teaching – Men shoule work outside and woman should tend to housekeeping	1)Strongly Agree	3.4	4.2	3.4	6.0	3.9	7.7	3.3	4.0	36.1	6.1
			2)Agree	18.0	15.8	25.4	34.2	12.7	18.3	24.4	11.3	20.2	20.1
			3)Disagree	62.9	60.2	58.9	48.4	51.5	54.3	55.8	47.6	22.1	50.4
			4)Strongly Disagree	13.2	13.7	10.4	10.6	27.7	19.3	14.8	35.9	20.7	21.4
			8)Other	2.2	2.5	0.5	0.3	2.2	0.3	0.9	0.3	0.6	0.4
		*NAを含む	9)DK	0.3	*3.6	1.4	0.5	2.0	0.1	0.8	1.0	0.2	1.6
Q10		The Most Respectable Occupation/ Occupation to											

APVS	Common code	Item	category	2005 Beijing	2005 Shang-hai	2005 Hong Kong	2006 Taiwan	2006 USA	2006 South Korea	2007 Singapore	2007 Australia	2008 India	2004 Japan A
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*
Q11		Leader's Qualifications ※South Koreaは報告書と集計の方法が異なるため若干、数値が変わっている	1)Technical competence	54.7	62.8	26.6	38.1	35.5	29.9	23.8	32.6	36.0	23.4
			2)Fair in treating subordinates	48.3	45.9	55.8	40.1	52.9	38.2	46.9	49.4	37.3	49.3
			3)Being liked and respected by subordinates	19.8	20.8	25.0	33.0	24.2	55.0	22.2	23.6	29.0	42.5
			4)Serious attitude toward work	29.7	29.1	29.0	30.3	43.7	18.9	35.7	35.7	42.4	44.3
			5)Have many friends/acquaintances	14.1	22.4	10.8	22.4	10.7	36.6	38.7	5.3	18.1	18.7
			6)Sincere in attitudes toward co-workers	33.0	34.0	35.3	38.5	35.5	38.4	35.9	47.3	31.0	37.3
			7)Decisive and determined	26.5	22.0	33.0	15.3	37.0	34.1	24.9	20.3	26.6	24.4
			8)Good judgment	34.4	26.0	42.5	33.5	62.0	35.7	43.2	61.1	33.1	45.1
			9)Ability to bring great benefit to subordinates	36.6	30.8	28.5	38.5	21.9	12.4	18)20.2	14.4	15.2	5.4
			10)Seniority	1.0	1.5	9.9	1.2	7.5	3.0	9) 20.2	3.1	8.8	1.8
			11)come from good family background	0.8	0.9	1.4	1.3	4.7	0.8	10) 5.4	6.0	4.3	0.4
			Other					–	–				
		*NA	DK		*0.3	*0.4	12) 1.7	0.3	0.3			0.2	
			missing										99) 0.4
Q12	#2.3g	Health Satisfaction	1)Very Satisfied	14.3	14.7	11.1	12.6	40.6	14.2	37.3	34.9	63.3	15.3
			2)Fairly Satisfied	56.5	56.3	67.3	68.0	45.6	54.2	55.8	50.7	32.1	57.8
			3)Fairly Dissatisfied	20.8	18.9	15.8	13.1	9.1	25.3	4.7	9.3	2.8	20.0
			4)Very Dissatisfied	8.1	7.3	5.4	6.0	4.6	5.8	2.0	4.9	1.7	5.7
			8)Other	0.2	1.1	–	–	–	–	0.1	–	–	0.1
		*NA含む	9)DK	0.1	*1.6	0.5	0.3	0.1	0.5	–	0.3	0.0	1.1
Q13	#1.8	Social Stratification	1)Upper	1.7	1.3	0.7	1.3	2.2	0.6	0.8	1.9	11.0	1.1
			2)Upper Middle	9.4	10.6	6.7	11.9	17.9	6.4	11.0	18.0	24.8	9.2
			3)Middle	49.6	47.4	46.5	66.0	56.9	48.7	72.8	58.1	57.9	55.2
			4)Lower Middle	27.5	26.9	34.0	16.3	19.3	29.6	12.3	15.9	5.3	27.0
			5)Lower	11.0	10.9	11.3	1.7	3.4	14.3	2.7	5.7	0.8	5.4
			8)Other	0.4	0.1	–	–	–	–	–	–	–	–
		*NA含む	9)DK	0.4	*2.7	0.7	2.8	0.2	0.4	0.4	0.4	0.1	2.1
Q14	#7.81	Money or Free Time	1)More Money	69.6	75.6	61.4	72.8	61.4	63.0	46.0	54.4	75.2	52.5
			2)More Free Time	27.9	17.3	35.7	24.5	36.6	34.7	40.5	41.6	21.9	41.1
			8)Other	1.8	1.6	0.7	0.5	0.4	0.7	–	2.9	1.7	1.6
		*NA含む	9)DK	0.7	*5.5	2.2	2.2	1.6	1.7	13.5	1.1	1.2	4.8

				2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004
APVS	Common code	Item	category	Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*
Q15	#2.8	Continuing Work or Retire	1)Continue to Work	72.1	66.7	67.7	75.8	51.6	77.7	73.4	61.7	87.2	57.1
			2)Stop Working	24.4	26.8	31.0	22.9	44.7	21.0	25.1	30.1	12.2	33.6
			8)Other	2.7	2.2	0.2	0.5	0.6	0.8	–	7.0	0.1	1.9
		*NA含む	9)DK	0.9	*4.3	1.1	0.8	3.1	0.6	1.5	1.1	0.5	7.4
Q16	#7.24	The First Condition for one's own Work	1)Good Salary	14.7	35.3	18.5	35.0	37.7	33.8	31.5	23.9	41.1	15.4
			2)Safe Job	16.6	17.5	13.3	18.4	14.8	23.1	25.8	17.7	30.1	18.8
			3)People You Like	27.5	23.2	36.5	20.6	10.9	21.3	18.8	12.3	10.0	26.3
			4)Doing an Important Job	40.4	21.1	30.7	25.4	35.2	21.6	22.1	44.7	18.4	36.0
			8)Other	0.8	0.2	–	–	0.2	–	–	0.7	0.1	0.2
		*NA含む	9)DK	–	*2.7	0.9	0.7	1.2	0.3	1.8	0.7	0.3	3.3
Q17a	#2.30	Anxiety — Serious illness	1)Very Much	44.5	43.9	65.7	32.8	35.3	3.7	72.1	43.7	71.2	17.8
			2)Somewhat	22.7	19.9	21.2	31.7	29.9	14.7	17.6	29.3	14.8	24.2
			3)Slightly	21.8	23.4	9.9	21.7	24.4	50.9	5.1	19.7	3.5	45.7
			4)Not at All	10.5	10.3	2.9	13.4	10.3	30.0	5.0	7.1	10.3	11.6
			8)Other	0.1	0.5	–	–	–	0.1	0.1	0.1	–	0.2
		*NA含む	9)DK	0.3	*2.1	0.2	0.3	0.1	0.7	–	–	0.1	0.5
Q17b	#2.30d	Anxiety — Car accident	1)Very Much	48.4	39.1	71.8	37.3	19.5	4.5	59.3	31.6	66.9	12.6
			2)Somewhat	20.3	22.4	18.3	29.2	26.9	16.5	18.6	26.6	16.8	27.9
			3)Slightly	16.7	22.4	6.9	20.9	32.1	48.2	11.6	27.7	3.8	49.1
			4)Not at All	12.4	11.5	2.1	12.6	21.4	29.2	10.3	14.1	12.1	9.3
			8)Other	1.2	0.5	0.1	–	0.1	0.2	0.2	–	–	0.3
		*NA含む	9)DK	0.9	*4.1	0.7	–	–	1.5	–	–	0.3	0.9
Q17c	#2.30e	Anxiety — Unemployment	1)Very Much	20.9	29.8	32.7	28.7	16.5	9.2	48.2	21.6	53.0	8.6
			2)Somewhat	17.6	22.1	25.4	27.9	25.1	19.8	29.5	24.3	24.1	18.7
			3)Slightly	32.4	26.5	34.9	26.4	30.6	34.7	13.8	27.3	9.6	37.9
			4)Not at All	26.8	17.1	6.2	16.7	27.2	32.6	8.5	26.7	12.8	30.3
			8)Other	1.5	0.8	–	–	0.4	0.7	0.1	–	–	1.4
		*NA含む	9)DK	0.9	*3.7	0.7	0.3	0.1	3.0	–	0.1	0.4	3.1

				2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004
APVS	Common code	Item	category	Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*
Q17d	#2.30f	Anxiety — War	1)Very Much	35.6	37.2	67.4	29.5	20.4	4.7	57.2	32.6	51.6	17.6
			2)Somewhat	11.6	14.8	16.0	19.6	22.5	10.2	9.9	19.9	22.7	22.2
			3)Slightly	16.3	16.1	9.9	18.7	29.3	37.0	11.0	23.0	8.6	39.9
			4)Not at All	34.1	23.4	6.0	31.2	26.7	43.5	21.2	24.0	16.3	17.0
			8)Other	1.3	1.0	–	–	0.1	0.6	0.2	–	–	0.4
		*NA含む	9)DK	1.0	*7.4	0.7	1.0	0.9	4.1	0.5	0.6	0.7	3.0
Q18a	#5.81a modified 変更	Importance – Immediate family and children	1 (Not important at all)	1.2	1.5	0.7	0.2	0.3	0.1	–	0.9	0.9	0.9
			2	0.6	1.0	0.5	–	0.2	0.4	0.3	0.1	0.3	0.3
			3	1.1	1.0	0.6	0.2	0.3	0.6	0.3	1.0	0.4	0.7
			4	3.6	1.7	5.2	2.7	1.3	1.7	0.7	1.0	1.6	4.0
			5	5.9	4.4	7.1	5.6	1.2	3.8	2.0	1.4	6.2	6.2
			6	9.2	7.7	13.2	15.9	4.4	20.7	7.4	5.3	17.9	12.6
			7 (Very important)	77.5	79.9	71.6	75.1	85.3	72.6	86.3	85.4	71.7	74.0
			8)Other	0.6	0.3	–	–	0.4	0.1	0.6	0.1	–	–
		*NA含む	9)DK	0.3	*2.4	1.2	0.3	6.3	0.1	2.4	4.7	0.9	1.3
Q18b	#5.81b	Importance – Career and job	1 (Not important at all)	5.2	2.3	2.5	1.0	1.9	–	1.5	4.6	1.7	2.7
			2	2.5	1.0	1.4	0.2	3.4	0.4	1.6	3.0	0.8	2.4
			3	3.8	2.4	2.9	2.5	3.7	0.1	2.5	5.6	0.7	2.8
			4	10.4	6.5	11.7	7.0	12.2	3.6	7.6	15.7	3.3	16.3
			5	14.4	10.1	26.7	15.8	23.1	9.5	14.8	29.0	10.3	20.1
			6	26.1	24.3	23.0	32.0	23.1	30.9	23.0	17.1	29.9	17.5
			7 (Very important)	36.6	50.7	30.4	41.5	30.5	55.1	48.2	20.0	52.7	34.9
			8)Other	0.7	0.8	–	–	0.6	0.1	0.3	–	0.0	0.3
		*NA含む	9)DK	0.4	*2.1	1.4	0.2	1.6	0.3	0.7	5.0	0.3	3.1
Q18c	#5.81c	Importance – Free time and relaxation	1 (Not important at all)	6.6	6.2	2.5	0.2	0.7	0.2	0.1	0.9	7.8	0.6
			2	5.0	2.7	1.5	1.0	1.2	0.1	0.7	1.4	4.9	1.1
			3	7.5	5.2	5.8	3.0	3.6	1.0	1.4	4.6	5.7	4.0
			4	21.2	13.3	17.3	10.4	11.8	4.7	10.6	12.7	12.6	22.9
			5	21.3	19.2	29.2	22.1	23.4	19.1	18.0	28.4	18.9	23.8
			6	17.9	22.3	23.3	34.7	24.8	38.4	29.7	25.6	22.1	23.5
			7 (Very important)	19.5	28.0	20.1	28.7	34.1	36.3	39.3	26.3	27.1	23.1
			8)Other	0.8	1.4	–	–	0.2	–	0.1	–	0.0	–
		*NA含む	9)DK	0.4	*1.7	0.2	–	0.3	0.2	0.1	0.1	0.8	1.1

				2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004
APVS	Common code	Item	category	Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*
Q18d	#5.81d	Importance - Friends and people you know	1 (Not important at all)	2.9	2.5	1.6	0.2	0.1	0.1	0.7	0.9	1.9	0.5
			2	2.8	1.2	0.9	0.2	1.0	0.2	0.9	1.3	1.3	0.9
			3	8.8	3.7	5.3	4.3	2.1	1.5	1.7	4.0	3.1	1.9
			4	17.2	10.5	17.6	15.3	8.4	7.4	10.5	11.1	11.3	15.4
			5	24.2	17.5	30.4	31.3	15.5	21.8	18.0	21.3	21.0	25.0
			6	22.9	27.6	24.3	30.5	28.3	40.3	36.1	28.1	30.2	27.8
			7 (Very important)	20.3	34.5	19.8	18.2	44.1	28.5	32.0	33.1	30.6	27.8
			8)Other	0.6	0.8	-	-	0.4	-	0.1	-	-	-
		*NA含む	9)DK	0.3	*1.8	0.1	-	-	0.2	-	0.1	0.5	0.6
Q18e	#5.81e	Importance - Parents, brothers, sisters, and other relatives	1 (Not important at all)	1.4	1.3	1.2	-	0.4	0.2	0.1	1.6	0.7	0.4
			2	0.8	0.9	0.7	-	1.2	0.2	0.5	1.7	0.6	0.6
			3	2.0	2.1	1.4	0.7	1.1	0.4	0.4	1.9	2.7	1.2
			4	5.9	3.7	6.5	4.1	3.6	3.1	2.2	5.1	2.7	8.6
			5	9.6	8.0	11.2	12.4	6.3	9.4	7.4	8.4	10.2	14.0
			6	22.7	20.5	24.7	34.7	16.3	30.5	19.3	22.7	29.9	27.0
			7 (Very important)	57.0	60.8	53.9	47.9	70.7	56.1	70.1	58.1	53.0	47.7
			8)Other	0.6	0.9	-	-	0.2	-	0.1	-	-	-
		*NA含む	9)DK	0.1	*1.7	0.4	0.2	0.1	0.1	-	0.4	0.2	0.4
Q18f	#5.81f	Importance - Religion	1 (Not important at all)	56.6	29.6	21.4	6.5	4.9	10.6	4.7	28.0	3.0	25.7
			2	12.1	12.3	10.6	10.6	6.8	8.8	3.7	12.4	3.1	14.6
			3	9.4	9.6	14.7	13.9	7.3	10.9	4.5	9.0	6.5	14.2
			4	6.5	13.7	17.1	30.5	12.4	21.6	17.6	13.7	6.1	21.1
			5	4.9	7.8	11.5	19.7	16.2	13.3	13.1	10.9	14.4	9.1
			6	4.2	7.8	8.4	11.6	17.9	15.7	20.0	7.7	25.7	5.8
			7 (Very important)	4.9	12.0	10.8	7.0	33.9	18.0	35.8	17.6	40.8	6.5
			8)Other	0.6	1.5		-	0.6	0.1	0.2	-	-	0.1
		*NA含む	9)DK	0.9	5.6	5.4	0.2	0.1	1.1	0.5	0.7	0.3	2.9

				2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004
APVS	Common code	Item	category	Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*
Q18g	#5.81g	Importance - Politics	1 (Not important at all)	20.3	10.5	24.0	19.7	11.1	8.7	10.9	24.6	21.7	4.8
			2	11.5	6.8	10.7	17.2	12.0	9.5	8.6	15.6	10.7	5.6
			3	10.2	10.3	18.1	21.1	18.6	13.0	13.2	14.0	15.7	11.4
			4	14.5	15.7	21.4	22.1	22.4	23.7	27.5	16.6	13.9	26.6
			5	14.6	14.3	14.0	10.8	18.6	16.6	17.2	15.1	11.7	21.3
			6	10.3	12.5	4.9	5.5	9.2	14.7	13.5	6.4	12.9	11.9
			7 (Very important)	17.8	23.8	4.2	3.2	7.3	12.0	8.2	7.1	12.3	15.4
			8)Other	0.3	1.0	-	-	0.2	-	0.1	-	-	-
		*NA含む	9)DK	0.6	*5.0	2.5	0.5	0.4	1.7	0.7	0.6	1.0	2.9
Q19	#2.3c	Family Life Satisfaction	1)Satisfied	73.5	61.1	61.2	49.3	50.3	35.3	38.8	55.3	73.1	43.4
			2)Somewhat Satisfied	15.1	26.7	27.6	43.3	33.2	32.9	48.5	27.6	24.4	36.1
			3)Neutral	5.1	6.5	4.9	3.6	8.5	24.1	9.8	9.0	1.5	14.2
			4)Somewhat Dissatisfied	2.8	2.6	4.1	2.3	5.1	5.9	2.3	6.1	0.5	4.7
			5)Dissatisfied	2.8	1.6	1.6	0.8	2.2	1.4	0.3	1.7	0.3	1.1
			8)Other	0.4	0.2	-	-	-	-	-	0.1	-	-
		*NA含む	9)DK	*0.3	*1.2	0.5	0.7	0.7	0.4	0.3	0.1	0.2	0.5
Q20	#2.82	Life Satisfaction	1)Satisfied	41.6	38.7	39.8	40.0	43.0	24.7	31.6	46.7	67.7	27.5
			2)Somewhat Satisfied	27.7	35.8	36.7	50.1	39.8	32.2	52.1	37.1	29.1	43.1
			3)Neutral	7.7	9.4	4.8	4.1	7.7	27.7	11.9	9.7	2.0	17.5
			4)Somewhat Dissatisfied	13.5	7.6	13.9	4.3	6.4	12.1	3.4	4.0	0.7	8.8
			5)Dissatisfied	9.5	7.0	4.6	1.3	2.8	2.8	0.6	2.4	0.2	2.9
			8)Other	-	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-
			9)DK	-	1.3	0.1	0.2	0.3	0.5	0.4	-	0.1	0.3
Q21a	#2.80a modified 変更	Health Problems - Headaches/migraines	1)Yes	28.6	34.6	32.0	29.5	34.5	41.4	20.7	32.3	43.5	25.4
			2)No	71.4	63.3	68.0	70.5	65.5	58.6	79.2	67.7	55.6	74.5
		※問の最後にまとめて回答	8)Other	-	-	-	※1.6	※0.3	-	-	-	※0.7	-
		*NA、missing含む	9)DK	-	*2.2	-	-	※32.6	-	※0.1	-	#0.9	0.1
Q21b	#2.80b modified 変更	Health Problems - Backaches	1)Yes	43.0	42.9	46.3	41.8	42.6	45.9	23.7	39.9	26.7	45.8
			2)No	57.0	54.8	53.7	58.2	57.4	54.1	76.2	60.1	72.4	54.1
		※問の最後にまとめて回答	8)Other	-	-	-	※1.6	※0.3	-	-	-	※0.7	-
		*NA、missing含む	9)DK	-	*2.3	-	-	※32.6	-	※0.1	-	#0.9	0.1

APVS	Common code	Item	category	2005 Beijing	2005 Shang-hai	2005 Hong Kong	2006 Taiwan	2006 USA	2006 South Korea	2007 Singapore	2007 Australia	2008 India	2004 Japan A
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*
Q21c	#2.80c	Health Problems - Nervousness	1)Yes	39.6	28.4	33.5	16.3	25.2	20.6	10.4	22.0	16.1	33.6
			2)No	60.4	69.1	66.5	83.7	74.8	79.4	89.5	78.0	83.0	66.3
		※問の最後にまとめて回答	8)Other	-	-	-	※1.6	※0.3	-	-	-	※0.7	-
		*NA、missing含む	9)DK	-	*2.4	-	-	※32.6	-	※0.1	-	#0.9	0.1
Q21d	#2.80d modified	Health Problems - Depression	1)Yes	35.3	25.7	28.9	14.4	25.5	23.0	10.3	20.7	16.5	12.5
			2)No	64.6	71.6	71.1	85.6	74.5	77.0	89.6	79.3	82.5	87.4
	変更	※問の最後にまとめて回答	8)Other	-	-	-	※1.6	※0.3	-	-	-	※0.7	-
		*NA、missing含む	9)DK	0.1	*2.7	-	-	※32.6	-	※0.1	-	#0.9	0.1
Q21e	#2.80e modified	Health Problems - Insomnia	1)Yes	31.5	31.2	36.3	25.7	26.9	18.6	14.0	26.3	16.2	14.6
			2)No	68.5	65.9	63.7	74.3	73.1	81.4	85.9	73.7	82.9	85.3
	変更	※問の最後にまとめて回答	8)Other	-	-	-	※1.6	※0.3	-	-	-	※0.7	-
		*NA、missing含む	9)DK	-	*2.9	-	-	※32.6	-	※0.1	-	#0.9	0.2
Q22		Adviser	Father	1) 6.3	1) 8.0	1) 2.2	1) 4.0	1) 7.7	1) 2.3	1) 3.4	1) 5.9	1)12.3	1) 1.9
			Mother	2) 8.1	2) 8.6	2) 4.9	2) 9.8	2)14.5	2) 6.5	2)11.2	2)15.7	2)19.9	2) 7.3
			Brother or Sister	3) 6.6	3) 8.8	3)10.0	3) 7.0	3) 9.4	3) 7.5	3) 8.4	3) 9.9	3) 6.3	3) 7.4
			Spouse or partner	4)44.3	4)46.8	4)43.6	4)47.3	4)40.1	4)44.6	4)44.1	4)43.7	4)43.3	4)60.4
			The Other Family Member or Relatives	5) 6.0	5) 3.2	5) 9.0	5) 4.8	5) 7.9	5) 5.8	5) 7.6	5) 6.3	5) 7.1	5) 5.9
		ブランクは、各国調査票にない回答項目	Teacher of Your School				6) 0.5						
			Friend	6)17.5	6)14.1	6)20.8	7)16.7	6)14.7	6)23.6	6)15.5	6)12.7	6) 8.1	6)10.4
			Person to consult anonymously	7) 0.9	7) 1.1	7) 0.5		7) 0.6	7) -	7) 0.2	7) 1.9	7) 0.3	7) 0.6
			Other	8) 4.7	8) 1.8	8) 0.5	8) 0.5	8) 2.0	8) 1.2	8) 2.8	8) 2.4	8) 1.3	8) 0.9
		*NA含む	I don't have anyone	9) 3.8	9) *3.5	9) 6.8	9) 6.5	9) 2.3	9) 7.0	9) 5.3	9) 1.3	9) 0.5	9) 2.4
			I don't have any problems	10)1.7	10)4.0	10) 1.6	10) 3.0	10) 0.9	10) 1.6	10) 1.5	10) 0.3	10) 0.6	10) 2.8
Q23	#7.19 modified	Ability, Luck or Relationship?	1)Ability and Effort	52.2	50.5	64.2	67.0	67.5	66.0	71.1	69.6	63.4	62.6
			2)Luck and Chance	36.3	36.6	23.4	24.4	11.4	12.8	15.5	11.9	30.3	22.1
	変更		3)Personal connections	8.3	8.3	10.6	5.5	19.2	20.4	9.4	15.1	4.6	11.6
			8)Other	2.8	1.5	1.1	1.0	0.6	0.1	-	1.9	0.1	0.6
		*NA含む	9)DK	0.5	*3.1	0.7	2.2	1.3	0.7	4.0	1.6	1.4	3.1

				2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004
APVS	Common code	Item	category	Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*
Q24a		Supernatural Phenomena – Super natural power or psychokinesis	1)Boring	23.5	23.0	19.7	9.6	9.8	7.7	3.1	11.0	9.6	15.2
			2)would like to be	9.8	14.0	10.2	11.8	4.6	19.7	5.1	4.3	18.4	12.9
			3)Exist	26.2	18.5	28.3	35.8	18.8	14.7	32.0	20.9	25.9	16.4
			4)Dreadful, Scary	0.6	0.8	2.1	1.3	1.3	2.5	2.9	1.0	8.1	1.9
			5)Would not like to be	4.4	5.0	3.3	9.0	2.2	4.9	3.9	2.4	8.2	4.3
		※South Koreaのみ番号が異なる	6)Interesting, amusing	9.0	5.1	11.3	8.0	21.5	7)16.1	17.6	30.1	10.0	21.7
			7)Nonsense / Dose not exist	16.3	13.4	18.5	9.8	29.0	6)23.4	30.0	22.6	9.2	15.9
			8)Not dreadful / Not scary	6.0	2.8	3.2	7.5	4.8	1.3	2.1	4.0	3.3	3.7
			80)other	0.8	0.9	0.2	0.2	0.8	9) 0.4	0.7	0.6	98) –	0.4
		*NA含む	99)DK	*3.5	*16.6	3.2	7.1	7.3	0) 9.4	2.5	3.1	7.1	7.6
Q24b		Supernatural Phenomena – UFO or alien	1)Boring	13.1	16.3	18.4	12.6	8.7	8.3	4.9	9.7	7.0	13.1
			2)would like to be	14.3	18.3	9.9	12.1	1.0	9.5	1.4	2.0	18.5	9.0
			3)Exist	24.4	15.9	20.8	22.6	17.1	10.7	14.1	15.9	14.5	12.3
			4)Dreadful, Scary	1.6	1.7	2.9	3.3	2.1	2.5	2.5	1.3	7.7	3.4
			5)Would not like to be	6.1	7.0	5.3	15.6	1.4	8.0	4.9	2.7	10.5	9.1
			6)Interesting, amusing	11.4	6.7	8.4	5.0	19.9	7)14.4	20.5	29.6	14.4	19.5
			7)Nonsense / Dose not exist	18.2	13.1	25.7	10.6	36.7	6)31.3	43.6	28.3	13.9	22.3
			8)Not dreadful / Not scary	5.7	3.2	3.4	8.5	4.8	1.1	2.8	6.0	3.1	3.0
			80)other	0.9	0.9	0.1	0.3	0.6	9) 0.9	0.5	0.4	98)0.0	0.2
		*NA含む	99)DK	*4.2	*16.9	5.1	9.5	7.8	0)13.5	4.7	4.1	10.2	8.1
Q24c		Supernatural Phenomena – Specter or ogre	1)Boring	31.7	25.3	14.0	9.0	10.5	8.0	4.7	11.3	6.7	14.3
			2)would like to be	2.0	2.6	1.4	1.5	0.9	3.3	0.9	1.0	6.0	3.2
			3)Exist	4.7	5.2	24.5	24.2	6.0	3.7	20.2	2.4	10.7	3.8
			4)Dreadful, Scary	6.4	8.2	11.8	19.1	2.8	4.7	11.0	1.0	18.8	11.9
			5)Would not like to be	8.4	13.4	16.6	25.4	5.1	9.2	5.1	3.1	14.5	18.3
			6)Interesting, amusing	3.3	1.4	0.9	0.3	8.3	7)12.7	9.4	13.9	6.2	9.7
			7)Nonsense / Dose not exist	35.8	26.2	23.8	7.6	45.4	6)48.0	39.4	56.9	23.1	29.3
			8)Not dreadful / Not scary	5.1	4.0	4.0	8.8	5.0	2.3	3.0	5.1	6.2	4.0
			80)other	0.7	0.6	0.1	0.3	1.0	9) 0.5	0.7	0.4	98)0.2	–
		*NA含む	99)DK	*1.9	*13.1	2.8	3.8	15.0	0) 7.7	5.5	4.9	7.4	5.4

				2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004
APVS	Common code	Item	category	Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*
Q24d		Supernatural Phenomena – Ghost or apparition, curse	1)Boring	33.8	27.1	14.7	10.4	7.4	6.1	2.8	5.9	6.5	10.5
			2)would like to be	1.5	1.9	1.4	0.8	0.8	2.0	0.6	1.3	6.7	2.7
			3)Exist	7.6	5.1	23.8	23.9	23.0	11.9	45.9	26.0	10.7	14.0
			4)Dreadful, Scary	5.1	8.7	10.7	18.4	3.1	8.5	12.5	3.7	18.5	14.8
			5)Would not like to be	7.7	12.6	18.0	27.2	3.7	12.1	2.9	1.4	15.7	28.4
			6)Interesting, amusing	2.6	1.0	0.8	0.3	14.9	7) 7.2	6.9	24.6	4.5	2.4
			7)Nonsense / Dose not exist	33.4	24.8	22.7	6.3	34.0	6)38.6	22.6	30.3	22.7	18.3
			8)Not dreadful / Not scary	5.7	3.7	4.6	7.8	5.9	3.7	1.7	4.9	7.4	3.5
			80)other	0.7	0.9	0.1	0.5	1.2	9) 0.6	0.6	0.4	98)0.2	0.4
		*NA含む	99)DK	*1.9	*14.2	3.1	4.3	6.1	0) 9.1	3.5	1.6	7.0	5.0
Q25	#7.1	Science and Human Feeling/ Humanity	1)Agree	58.2	45.1	71.4	81.1	66.4	74.8	57.0	66.9	65.7	52.0
			2)Disagree	17.7	17.0	12.8	13.4	20.0	13.4	27.1	26.0	28.8	23.2
			3)Undecided/It Depends	23.6	34.7	15.3	5.1	11.9	10.2	12.4	6.1	4.7	20.6
			8)Other	0.5	0.1	–	–	–	–	–	–	0.0	–
		*NA含む	9)DK	–	*3.0	0.5	0.3	1.8	1.7	3.5	1.0	0.7	4.2
Q26	#8.1b	Political Leaders	1)Agree	32.4	24.5	38.4	33.8	11.8	35.2	27.7	12.6	56.2	16.2
			2)Disagree	44.3	31.6	41.6	42.5	77.1	45.1	50.5	82.1	37.9	61.5
			3)Undecided/It Depends	20.0	35.7	17.0	19.1	8.9	17.8	18.9	4.6	4.9	18.4
			8)Other	1.5	0.2	–	0.3	0.1	–	–	–	–	–
		*NA含む	9)DK	1.7	*8.0	3.1	4.3	2.1	1.8	2.9	0.7	1.0	3.9
Q27	#4.30	Home is Relaxing Place	1)Yes	70.8	65.8	80.7	91.4	53.4	92.9	84.2	49.4	88.3	76.6
			2)No	27.3	26.9	19.0	7.8	45.5	6.6	14.6	49.1	10.0	19.1
			8)Other	1.6	1.4	0.2	0.3	0.2	0.1	–	1.3	1.0	1.4
		*NA含む	9)DK	0.3	*5.8	0.1	0.5	0.9	0.4	1.2	0.1	0.7	2.9
Q28	#4.32	Marriage is Permanent	1)Permanent	22.8	23.9	16.7	17.7	30.3	38.7	51.7	34.3	79.4	24.3
			2)Broken only under Serious Circumstances	42.3	43.0	46.2	56.7	50.1	38.1	35.7	42.4	12.8	44.7
			Partners	32.5	25.9	34.7	23.2	17.6	21.7	10.0	22.6	6.9	26.9
			8)Other	1.5	0.7	–	0.2	0.2	0.1	–	0.4	–	0.3
		*NA含む	9)DK	0.9	*6.5	2.4	2.2	1.8	1.4	2.6	0.3	0.8	3.9

				2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004
APVS	Common code	Item	category	Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*
Q29	#2.5	Man and Nature	1)Follow Nature	39.3	41.3	43.6	48.9	29.5	58.9	48.1	42.0	64.1	46.1
			2)Make Use of Nature	35.3	32.7	39.0	30.7	56.6	32.7	36.5	52.7	27.8	40.2
			3)Conquer Nature	24.2	20.9	13.8	18.1	5.7	5.8	10.0	3.0	7.3	5.6
			8)Other	0.9	1.0	0.8	0.2	1.3	0.3	–	0.9	–	0.5
		*NA含む	9)DK	0.3	4.0	2.8	2.2	6.9	2.2	5.4	1.4	0.7	7.6
Q30	#7.4	Individuals or Country	1)Making Individuals Happy	4.7	11.5	8.2	12.8	29.4	37.1	24.6	30.4	44.8	26.1
			2)Improving the Country	45.5	52.6	22.4	27.9	32.0	28.0	32.0	24.3	38.3	23.7
			3)Same Thing	49.8	33.4	68.1	57.2	28.5	33.9	38.2	38.6	15.9	45.5
			8)Other	–	0.2	0.4	0.2	0.7	0.1	–	2.1	0.0	–
		*NA含む	9)DK	0.1	*2.3	0.9	2.0	9.4	1.0	5.2	4.6	0.9	4.7
Q31	#7.2 modified 変更	Mechanization and Human Feeling	1)Disagree	28.8	30.1	36.6	72.5	33.7	71.0	38.8	27.4	47.8	32.6
			2)Agree	42.5	31.4	45.9	17.2	48.7	18.8	45.3	65.3	46.6	43.6
			3)Undecided/It Depends	27.7	33.1	17.0	8.1	15.3	8.8	12.9	6.4	4.9	18.5
			8)Other	0.4	0.1	–	0.2	0.1	–	–	–	–	–
		*NA含む	9)DK	*0.7	*5.4	0.5	2.0	2.1	1.4	3.1	0.9	0.7	5.3
Q32a		Spirituality – Buddha, God, or gods	1)Exists	17.9	17.8	43.0	47.4	70.7	25.5	72.1	48.9	86.5	40.5
			2)May exist	24.7	37.9	33.5	42.5	20.8	28.4	20.0	28.9	9.4	40.9
			3)Dose not exist	54.8	31.6	22.0	8.6	5.4	35.5	6.2	19.0	2.6	14.8
			8)Other	0.8	0.1					1.2	0.3	–	0.4
		*NA含む	9)DK	1.9	*12.6	1.5	1.5	3.1	10.5	0.6	3.0	1.4	3.4
Q32b		Spirituality – Life after death	1)Exists	9.1	7.0	32.2	35.3	50.3	23.4	52.8	37.0	30.4	18.8
			2)May exist	21.3	30.7	32.5	45.4	32.6	27.7	27.5	35.6	34.8	44.9
			3)Dose not exist	64.4	41.9	29.3	14.1	13.2	35.7	16.5	23.4	24.9	26.2
			8)Other	0.6	–					1.4	0.3	0.2	0.2
		*NA含む	9)DK	4.7	*20.4	6.0	5.1	3.9	13.2	1.8	3.7	9.8	10.0
Q32c		Spirituality – A soul or a spirit	1)Exists	17.0	10.0	41.8	40.6	64.4	26.3	56.5	53.0	43.8	32.4
			2)May exist	23.4	34.2	28.7	45.4	27.4	33.7	29.4	30.7	29.0	43.2
			3)Dose not exist	56.3	36.2	25.0	9.3	5.9	28.7	10.7	13.1	21.0	17.9
			8)Other	0.7	0.1					1.4	0.4	0.1	0.2
		*NA含む	9)DK	*2.7	*19.6	4.5	4.6	2.3	11.3	2.1	2.7	6.2	6.3

注意：2005年香港のQ31 では１）Disagreeと２）Agreeの数値が逆で、１）４５．９%、２）３６．６%が正しい。これは、調査票の段階で香港のみDisagreeとAgreeの順番が逆であった事に総合報告書作成段階で気づかなかったため。なお以下も参照。

				2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004
APVS	Common code	Item	category	Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*
Q33	#5.1d	Social Values	1)Filial piety	86.7	88.8	83.5	82.4	58.0	83.7	86.3	60.9	88.1	73.5
			2)Repaying obligations	62.5	65.0	53.1	64.5	43.7	63.1	53.4	28.3	44.1	66.1
			3)Individual rights	28.5	26.6	23.4	27.7	56.2	29.2	39.3	65.7	27.8	26.0
			4)Individual freedom	21.7	19.1	39.8	24.7	39.5	24.1	18.6	41.4	15.6	33.1
			8)Other	0.4	0.1	–	–	–	–	–	0.4	–	0.3
		*NA含む	9)DK	–	*0.5	–	0.3	1.1	–	1.2	0.3	0.2	1.3
Q34a	#5.1c1	Employment Examination – Relative	1)One with the Highest Grade	80.4	70.3	69.0	74.8	65.5	79.9	76.1	76.0	85.0	69.4
			2)Your Relative	16.4	18.7	26.7	20.4	29.5	17.0	18.3	19.7	12.9	20.2
			8)Other	1.9	1.1	1.2	0.3	1.2	0.7	–	2.3	0.1	1.4
		*NA含む	9)DK	1.2	*9.8	3.1	4.5	3.8	2.4	5.6	2.0	2.0	9.0
Q34b	#5.1c2	Employment Examination – Benefactor	1)One with the Highest Grade	60.6	52.8	52.5	52.9	63.8	50.1	60.4	67.1	79.2	46.2
			2)Son of Your Benefactor	35.9	36.1	43.1	42.1	29.9	45.9	33.9	27.4	18.1	42.2
			8)Other	2.5	1.4	0.8	0.2	1.4	0.8	–	2.0	0.6	1.9
		*NA含む	9)DK	1.0	*9.7	3.5	4.8	4.9	3.2	5.7	3.4	2.1	9.7
Q35	#5.6	Preferred Type of Boss	1)Never Does Anything for You Personally	21.7	19.1	10.1	22.9	28.6	11.1	31.3	30.0	58.9	13.6
			2)Looks after You Personally	74.2	64.6	87.2	69.8	68.9	85.3	61.9	67.6	40.1	79.0
			8)Other	2.8	2.4	0.8	0.3	0.6	–	–	0.4	0.1	0.4
		*NA含む	9)DK	1.4	*13.9	1.9	7.0	1.9	3.6	6.8	2.0	0.9	7.0
Q36	#2.12	People's Help	1)Try to Be Helpful	67.3	65.3	41.0	45.9	56.4	56.7	50.4	54.0	61.1	34.8
			2)Look out for Themselves	29.2	26.8	53.1	51.2	41.1	40.7	44.4	42.6	37.6	53.6
			8)Other	2.8	1.5	2.2	0.3	0.2	–	–	1.7	0.1	1.4
		*NA含む	9)DK	0.7	*6.4	3.7	2.5	2.3	2.6	5.2	1.7	1.2	10.2
Q37	#2.12b	People's Fairness	1)Take Advantage	34.6	23.5	52.2	35.0	41.0	47.6	44.7	37.4	69.5	29.9
			2)Try to be Fair	51.4	53.4	42.3	61.0	56.5	45.0	50.6	59.0	29.4	58.6
			8)Other	9.5	3.5	1.1	–	0.4	0.5	–	2.1	0.0	0.9
		*NA含む	9)DK	4.6	*19.6	4.5	4.0	2.1	7.0	4.7	1.4	1.0	10.5
Q38	#2.12c	General Interpersonal Trust	1)Can Be Trusted	36.6	34.4	18.8	18.7	41.2	30.4	25.8	42.9	51.4	37.4
			2)Can't Be Too Careful	61.3	59.9	79.7	80.6	55.8	65.6	67.3	53.9	46.9	51.9
			8)Other	1.6	1.5	0.8	–	0.4	0.3	–	1.9	0.1	2.2
		*NA含む	9)DK	0.6	*4.2	0.6	0.7	2.6	3.7	6.9	1.4	1.5	8.5

				2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004
APVS	Common code	Item	category	Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*
Q39a	#5.1	Meeting or Benefactor	1) Go Back Home	44.5	45.9	55.6	53.2	72.3	53.5	68.4	76.9	69.0	44.6
			2)Go to the Meeting	53.4	45.3	42.2	43.6	21.5	40.4	25.8	17.1	30.2	45.4
			3)Other	1.6	1.3	0.8	0.2	0.9	0.2	–	4.0	0.2	0.5
			4)DK	0.5	7.5	1.4	3.0	5.3	5.9	5.8	2.0	0.5	9.5
Q39b	#5.1b	Meeting or Parent	1) Go Back Home	47.5	50.0	69.3	56.2	70.1	67.6	69.3	72.6	72.0	44.1
			2)Go to the Meeting	50.2	41.9	28.7	40.8	24.2	29.7	24.8	20.0	27.2	45.4
			3)Other	1.7	1.0	0.8	–	0.8	–	–	4.0	0.2	0.7
			4)DK	0.6	7.1	1.2	3.0	4.9	2.7	5.9	3.4	0.6	9.8
Q40a	#7.83	Science and Technology – Illness treatment	1)Strongly Agree	10.1	16.4	10.1	12.9	24.0	9.1	17.1	26.9	59.3	17.7
			2)Agree to Some Extent	58.0	46.6	64.4	59.2	57.7	61.7	68.0	54.9	32.8	54.0
			3)Disagree to Some Extent	25.3	20.7	18.3	19.1	11.8	19.5	11.9	8.9	4.7	15.1
			4)Strongly Disagree	3.5	4.2	4.2	3.2	3.1	5.7	1.4	6.9	2.1	5.8
			8)Other	1.2	1.3	–	0.2	–	0.1	–	–	–	0.1
			9)DK	1.9	10.7	2.9	5.5	3.4	3.9	1.6	2.6	0.9	7.3
Q40b	#7.84	Science and Technology – Understanding the Human Mind	1)Strongly Agree	4.4	8.3	3.1	4.5	16.8	3.7	9.8	18.7	50.8	1.5
			2)Agree to Some Extent	36.1	28.5	31.8	37.5	46.5	24.9	54.9	46.6	37.7	9.5
			3)Disagree to Some Extent	44.0	34.3	46.8	37.8	22.4	45.0	26.0	20.1	6.2	56.5
			4)Strongly Disagree	11.7	12.0	15.0	12.9	8.0	21.7	6.8	12.0	4.0	26.1
			8)Other	1.3	0.8	–	–	0.2	–	–	–	–	–
			9)DK	2.6	16.2	3.4	7.3	6.1	4.9	2.5	2.6	1.2	6.5
Q40c	#7.85	Science and Technology – Social and Economic Problems	1)Strongly Agree	9.3	9.5	3.7	6.0	9.4	4.6	8.6	7.3	50.2	0.9
			2)Agree to Some Extent	46.2	39.7	36.3	47.4	38.5	38.4	52.4	33.6	37.2	10.3
			3)Disagree to Some Extent	34.9	30.0	46.5	37.1	31.7	42.0	31.1	33.9	6.4	59.9
			4)Strongly Disagree	7.2	7.8	11.3	4.5	13.2	10.2	5.0	23.0	4.7	21.0
			8)Other	1.2	0.8	–	–	–	–	–	–	–	0.1
			9)DK	1.1	12.1	2.2	5.0	7.1	4.8	2.8	2.3	1.4	7.9
Q40d		Science and Technology – Living on the Mars	1)Strongly Agree	6.5	8.9	3.1	4.0	5.5	3.0	4.7	3.3	37.2	1.6
			2)Agree to Some Extent	42.4	37.7	44.2	42.3	19.3	41.4	41.1	28.0	34.1	23.8
			3)Disagree to Some Extent	37.1	21.4	34.2	33.2	22.6	33.8	31.7	26.1	12.3	41.6
			4)Strongly Disagree	7.7	4.9	10.4	9.5	39.7	10.9	17.0	35.7	12.0	16.3
			8)Other	1.2	0.9	–	–	0.1	–	–	–	–	0.3
			9)DK	5.1	26.2	8.2	11.1	12.7	11.0	5.6	6.9	4.3	16.4

APVS	Common code	Item	category	2005 Beijing	2005 Shang-hai	2005 Hong Kong	2006 Taiwan	2006 USA	2006 South Korea	2007 Singapore	2007 Australia	2008 India	2004 Japan A
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*
Q41	#9.8	Regional Culture											
Q42a	#3.1a	Religious Faith	1)Yes	13.8	27.8	38.4	64.8	79.5	53.6	78.9	54.3	92.4	28.4
			2)No	86.2	72.1	61.6	35.2	20.0	46.4	21.1	45.7	7.6	71.6
			8)Other										
		*NA	9)DK		*0.1			0.6					
Q42b	#3.1b	Religions	Buddhism	1) 8.5	1)20.4	1)16.8	1) 27.6	1) 0.7	1)21.9	1)39.4	8) 2.9	4) 0.8	1)22.9
		※【国別質問】	Shintoism										2) 1.8
		ブランクは、各調査票で設定されていない回答肢	Christianity							3)19.9		3) 3.7	3) 1.3
			Catholic	4) 0.5	4) 0.8	2) 4.0	2) 1.5	3)36.7	3) 6.7	※1.4	1)18.4		
		※ 日本はキリスト教は一回答肢、その他はカトリックとプロテスタント(キリスト教)は二回答時	Protestant	3) 2.1	3) 2.5	3)12.2	3) 6.9	2)50.3	2)22.9				
			Islam	5) 1.1	5) 0.1	–	4) –	5) 0.3		4)16.5	6) 3.4	2) 2.8	
			Taoism	2) 0.8	2) 0.5		5)42.2			2)14.9			
			I-Kuan-Tao				6) 2.0						
		※South Koreaは報告書と集計の方法が異なるため数値が変わっている	Confucianism						4) 0.2				
			Folk religion				7)17.6						
			Chondo-Gyo						5) 0.1				
			Won-Buddism						6) 0.5				
		※Singaporeはキリスト教は一回答肢であったがその他にCatholicがあった	Judaism					4) 4.5					
			Hinduism					6) 0.3		5) 7.6		1)85.1	
			Anglican								2) 8.6		
			United Church								3) 4.0		
			Presbyterian								4) 1.6		
			Baptist								5) 1.1		
			Greek Orthodox								7) 1.0		
			Lutheran								9) 0.4		
			Other	8) 0.5	8) 1.2	8) 5.3	8) 1.8	8) 5.9	8) 0.8	8) 0.5	98)12.9	2.5	8) 1.8
		*NA含む	DK	*0.3	9) 2.5	–	9) 0.3	9) 1.4	9) 0.5			99)4.8	9) 0.5
			missing	99)86.2	99)71.9	99)61.6			46.4				99)71.6
Q43	#3.2b	Rligious Mind/ Heart	1)Important	39.4	32.7	63.6	78.4	76.2	78.1	74.4	53.1	78.5	72.2
			2)Not Important	50.4	40.3	26.6	17.9	19.0	15.0	20.4	40.7	19.8	15.8
			8)Other	4.8	3.8	1.3	0.3	0.2	–	0.1	3.7	–	1.7
		*NA含む	9)DK	*5.3	*23.3	8.5	3.3	4.6	7.0	5.0	2.4	1.7	10.4

				2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004
APVS	Common code	Item	category	Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*
Q44	#3.3	Commonality of Religions	1)Agree	59.6	47.5	71.3	84.2	48.1	65.0	76.0	62.6	87.4	48.1
			2)Disagree	30.7	16.4	23.3	14.3	46.3	25.9	19.4	33.6	12.2	27.4
			8)Other	1.4	0.3	–	–	0.3	0.2	–	0.7	–	1.1
		*NA含む	9)DK	8.3	*35.9	5.4	1.5	5.3	8.8	4.7	3.1	0.4	23.4
Q45		Observation of Law	1)Always Obey	64.5	70.6	59.7	57.0	65.8	55.0	72.8	59.7	73.8	37.0
			2)Excusable to Break	33.4	22.6	37.6	39.3	29.3	43.0	22.2	37.3	26.0	50.9
			8)Other	1.2	0.8	0.1	–	1.3	–	–	1.7	–	1.1
		*NA含む	9)DK	0.9	*5.9	2.6	3.6	3.6	2.0	5.0	1.3	0.2	11.0
Q46		Written Contract and Trust	1)A's Opinion(Trust)	5.2	12.2	7.8	12.3	9.3	6.9	14.1	10.4	35.3	2.9
			2)B's Opinion(Contract)	93.9	81.3	91.2	86.6	86.6	92.1	83.8	88.4	61.7	94.0
			8)Other	0.4	0.2	–	–	0.1	0.2	–	0.6	–	0.2
		*NA含む	9)DK	0.5	*6.3	1.1	1.2	4.0	0.8	2.1	0.6	2.9	2.9
Q47		Style of Contract	1)A's Opinion(Flexibility)	4.7	11.9	11.2	13.3	12.3	8.1	14.4	12.0	37.4	5.4
			2)B's Opinion(Clearly in Detail)	94.3	82.3	88.1	85.6	83.8	91.5	83.4	86.4	60.7	90.8
			8)Other	0.7	0.4	–	–	0.4	–	–	0.6	–	0.3
			9)Don't Know	0.3	5.5	0.7	1.2	3.4	0.5	2.1	1.0	1.9	3.5
Q48		Environment or Economy	1)Protecting the Environment	89.0	70.6	60.7	54.9	69.9	53.3	73.4	86.0	74.0	67.9
			2)Economic Growth	8.7	17.7	33.0	36.0	22.4	38.3	20.6	11.4	23.8	17.2
			8)Other	1.8	2.4	2.7	1.3	2.2	1.2	–	0.4	0.2	1.7
		*NA含む	9)DK	0.5	*9.2	3.7	7.8	5.4	7.3	6.0	2.1	2.0	13.3
Q49	#2.7	The Most Important Thing											
Q50a		Trust in Organization – Religious organization	1)Very Confident	5.6	9.0	11.7	9.3	23.2	9.0	25.4	9.9	60.7	2.4
			2)Somewhat Confident	18.7	23.0	48.4	56.6	46.1	36.9	58.1	38.1	29.4	12.4
			3)Not Confident	40.3	34.3	27.2	24.5	19.4	37.5	13.8	31.6	5.1	47.8
			4)Not Confident at all	30.9	20.7	9.7	7.1	9.5	13.2	1.6	18.3	4.5	31.9
		*NA含む	9)DK	*4.6	*13.0	3.1	2.5	1.8	3.4	1.1	2.1	0.2	5.6
Q50b		Trust in Organization – The law and the legal system	1)Very Confident	36.8	41.2	36.5	5.8	15.3	3.0	47.1	11.6	42.0	8.9
			2)Somewhat Confident	46.8	44.4	50.5	57.2	63.3	53.5	48.9	60.4	48.2	69.9
			3)Not Confident	14.1	11.4	11.1	30.3	17.6	37.1	3.8	20.3	6.5	16.4
			4)Not Confident at all	1.6	0.7	1.4	5.1	3.0	5.2	–	7.6	3.1	1.5
			9)DK	0.8	2.4	0.5	1.5	0.8	1.2	0.2	0.1	0.2	3.3

				2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004
APVS	Common code	Item	category	Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*
Q50c		Trust in Organization - The press and television	1)Very Confident	11.0	14.6	4.9	1.5	3.6	3.2	18.8	2.7	31.7	6.6
			2)Somewhat Confident	50.1	51.4	41.1	30.8	40.1	55.8	62.7	28.9	49.8	67.5
			3)Not Confident	32.0	27.9	45.7	54.4	43.2	36.4	17.4	44.0	14.3	23.8
			4)Not Confident at all	6.4	4.0	7.8	11.9	12.3	4.0	0.7	23.6	3.8	0.9
		*NA含む	9)DK	0.5	*2.2	0.5	1.3	0.9	0.6	0.4	0.9	0.3	1.2
Q50d		Trust in Organization - The police	1)Very Confident	20.5	28.4	16.4	3.2	17.8	1.7	40.5	20.9	20.1	7.6
			2)Somewhat Confident	51.6	48.1	61.5	53.9	62.0	48.6	54.3	61.9	43.7	61.7
			3)Not Confident	23.4	18.5	19.3	36.0	16.1	39.8	4.8	10.4	22.0	27.2
			4)Not Confident at all	3.8	2.1	2.6	5.8	3.3	9.1	0.1	6.9	13.3	2.2
		*NA含む	9)DK	0.8	*2.8	0.2	1.2	0.8	0.8	0.3	-	0.9	1.3
Q50e		Trust in Organization - National government bureaucracy	1)Very Confident	34.5	42.4	12.8	3.5	5.3	0.9	38.5	4.7	18.0	2.4
			2)Somewhat Confident	47.0	42.9	49.9	38.1	39.7	27.7	53.3	41.3	40.2	38.2
			3)Not Confident	14.7	10.0	29.3	43.1	39.8	49.8	6.3	32.9	25.3	48.5
			4)Not Confident at all	2.4	1.1	4.4	10.8	12.8	20.5	0.7	18.4	12.5	6.3
		*NA含む	9)DK	*1.4	*3.6	3.5	4.5	2.3	1.2	1.3	2.7	4.0	4.7
Q50f		Trust in Organization - Congress / Diet	1)Very Confident	42.5	49.8	11.3	2.3	5.0	0.3	36.3	5.0	23.3	1.9
			2)Somewhat Confident	39.4	36.3	49.5	22.7	45.8	10.8	53.4	45.9	41.1	29.8
			3)Not Confident	13.6	9.2	30.9	50.2	36.3	45.0	6.7	30.4	21.2	51.8
			4)Not Confident at all	3.1	1.4	5.8	19.9	10.2	42.2	1.3	17.1	10.9	11.0
		*NA含む	9)DK	*1.4	*3.2	2.6	4.8	2.7	1.7	2.3	1.6	3.5	5.5
Q50g		Trust in Organization - NPO / NGO	1)Very Confident	7.3	13.8	11.1	1.8	6.5	0.9	11.6	12.3	25.8	2.7
			2)Somewhat Confident	32.4	32.5	52.9	38.5	58.6	29.9	58.1	62.0	43.1	42.3
			3)Not Confident	36.1	28.1	27.2	37.6	23.1	48.5	24.4	18.6	18.6	34.8
			4)Not Confident at all	18.5	8.3	5.5	13.6	7.1	13.6	2.0	4.3	9.7	5.4
		*NA含む	9)DK	*5.7	*17.3	3.3	8.5	4.7	7.1	3.8	2.9	2.9	14.7
Q50h		Trust in Organization - Social welfare facilities	1)Very Confident	19.9	25.4	19.0	4.8	5.3	4.1	15.6	10.4	38.4	6.7
			2)Somewhat Confident	52.6	49.1	61.8	50.7	56.4	54.7	62.7	63.4	44.4	63.5
			3)Not Confident	22.4	17.6	17.7	28.0	28.3	34.0	18.7	18.9	10.9	23.0
			4)Not Confident at all	2.8	2.1	1.1	9.8	6.3	4.9	1.3	5.7	5.3	1.1
		*NA含む	9)DK	2.2	*5.8	0.5	6.6	3.7	2.4	1.7	1.6	0.9	5.7

				2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004
APVS	Common code	Item	category	Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*
Q50i		Trust in Organization - The United Nations	1)Very Confident	17.9	23.1	18.0	4.5	7.0	5.6	12.5	8.6	34.0	5.7
			2)Somewhat Confident	40.9	36.3	46.8	42.0	47.7	52.0	61.0	50.4	40.7	50.0
			3)Not Confident	27.9	21.6	24.4	28.9	28.0	31.1	17.9	24.7	15.4	27.9
			4)Not Confident at all	7.5	4.5	5.5	12.8	13.2	5.4	2.5	12.3	5.7	2.1
		*NA含む	9)DK	5.7	*14.5	5.3	11.9	4.1	5.8	6.0	4.0	4.2	14.3
Q50j		Trust in Organization - Science and technology	1)Very Confident	73.0	58.8	30.3	15.1	16.9	10.1	27.7	21.1	58.1	12.5
			2)Somewhat Confident	23.4	34.7	57.6	58.4	69.7	65.0	64.8	67.1	34.8	63.8
			3)Not Confident	2.2	2.1	8.6	17.6	9.0	19.4	4.8	8.9	4.6	13.2
			4)Not Confident at all	0.8	0.3	1.1	4.3	1.8	2.0	0.6	2.0	1.8	0.8
		*NA含む	9)DK	0.7	*4.1	2.5	4.6	2.7	3.4	2.0	0.9	0.9	9.7
Q51		Religions and the World	1)Spread one's own Religion	1.2	1.6	1.6	13.3	5.5	4.9	5.7	3.4	29.9	0.6
			2)Make others Understand one's own Religion	4.1	7.5	5.3	11.1	6.4	15.2	8.3	3.3	26.1	3.4
			3)Understand Each Other's Religion	16.9	17.4	8.5	11.9	20.1	16.6	15.9	14.9	21.1	21.1
			4)Respect Each Other's Religion	74.1	50.8	82.1	62.0	64.3	56.9	66.6	76.4	22.2	58.9
			8)Other	1.2	1.1	0.5	-	0.8	0.5	-	0.6	0.1	1.1
		*NA含む	9)DK	*2.5	*21.6	2.0	1.7	2.9	5.9	3.5	1.4	0.5	14.9

				2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004
APVS	Common code	Item	category	Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*
Q52		Social Participation	Neighborhood organization					1)17.1	1) 6.2	1) 4.9	1)15.6	1)26.6	1)53.6
			PTA					2)13.8	2) 5.3	2) 2.6	2) 6.4	2)19.9	2)12.6
			Women's club, Seniors' club, young people's club					3)11.7	3) 5.1	3) 2.0	3) 8.7	3)17.7	3)11.7
			Fire-fighters' association, voluntary neighborhood watch group					4) 6.1	4) 2.1		4) 4.1	4)15.3	4) 2.5
			Farmers' association, fishermen's association, forester's association					5) 4.9	5) 1.2	5) 0.3	5) 1.4	5)16.9	5) 4.6
			Chamber of commerce and industry and other industrial association	6) 7.1	6) 2.6	6) 4.4	6) 0.5	6) 6.5	6) 1.7	6) 1.7	6) 3.7	6)14.1	6) 4.1
			Labor Union					7) 8.4	7) 1.5	7) 6.5	7)12.6	7)12.9	7) 5.7
			Club for sports, recreation, hobby or cultural activities					8)28.9	8)18.4	8)11.2	8)40.6	8)20.1	8)22.1
			Regional association, class reunion association, alumni association					9)15.6	9)20.0	9) 3.0	9) 6.6	9)11.9	9)12.5
			Religious organization	7) 2.1	7) 3.8	7)14.3	7) 9.0	10)36.1	10)19.2	10) 9.5	10)15.1	10)28.5	10) 5.7
			Coops, consumer union					11) 4.4	11) 0.4	11) 0.5	11) 1.4	11) 6.5	11)10.5
			Political group, election campaign organization	8)11.6	8)11.1	8) 0.5	8) 1.3	12) 9.3	12) 3.0	12) 0.5	12) 2.0	12) 5.6	12) 2.4
			Citizen group, resident movement group, environment protection group					13) 7.2	13) 3.6	13) 1.3	13) 7.1	13)10.1	13) 2.5
			watch							4) 0.8			
			Family service centres							14) 1.3			
			Sports club	1)15.8	1) 7.6	1) 8.6	1) 3.8						
			Cultural club	2)13.4	2)10.6	2) 3.8	2) 3.0						
			Leisure club	3)11.2	3) 5.6	3) 5.3	3) 2.5						
			Country men club	4) 4.2	4) 2.4	4) 0.9	4) 1.0						
			Alumni association	5)17.3	5)10.1	5) 9.1	5) 2.7						
			Environment protection group	9) 5.1	9) 1.6	9) 1.9	9) 1.8						
			Student organization	10) 6.9	10) 4.7	10) 3.9	10) 1.0						
			Women's club				11) 2.8						
			Academic association				12) 1.8						
			Medical association				13) 1.2						
			Philanthropic association				14) 7.0						
			Financial association				15) 0.7						
			Other	88) 1.5	88) 1.1	88)3.4	88) 1.2	-	88) 1.9	88) 0.5	88) 2.1	88) 3.9	88) 1.1
			None	99)48.1	99)58.1	99)65.0	99)70.1	99)32.3	99)45.2	99)70.7	99)33.3	99)13.1	99)27.7
			DK				99) 3.3					99)18.3	

				2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004
APVS	Common code	Item	category	Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singapore	Australia	India	Japan A
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*
F1		Gender	1)Male	48.8	41.7	47.5	44.4	49.8	49.5	47.0	48.1	39.1	47.1
			2)Female	51.2	58.3	52.5	55.6	50.2	50.5	53.0	51.9	60.9	52.9
			missing										
F2		Age	※18～19yrs	2.8	1.9	4.1		4.0	2.3		4.1	6.7	
		※【国別質問】	20～24yrs	10.9	8.9	8.7	7.6	8.3	9.4	10.7	9.4	15.4	1) 4.1
		ブランクは、各国調査票で設定されていない回答肢	25～29yrs	12.2	5.6	5.9	10.0	9.9	10.1	10.7	8.7	14.2	2) 5.6
			30～34yrs	7.2	4.4	7.9	11.3	12.4	9.7	11.9	8.4	13.3	3) 7.7
			35～39yrs	8.5	3.4	12.4	17.2	7.8	14.4	13.3	10.7	13.4	4) 8.1
			40～44yrs	10.7	8.9	12.8	14.3	11.1	11.4	13.9	11.6	10.0	5) 7.6
		※ 成人年齢が各国で異なる場合あり	45～49yrs	8.5	17.1	13.3	12.8	9.5	11.0	12.4	9.7	8.0	6) 8.5
			50～54yrs	8.7	18.9	11.4	9.3	8.3	8.6	10.0	7.7	6.8	7) 9.2
			55～59yrs	7.4	11.7	7.1	6.3	7.2	6.1	7.9	8.9	4.2	8)12.6
			60～64yrs	4.2	7.2	3.9	3.5	9.3	8.6	5.4	10.4	4.6	9)11.9
			65～69yrs	8.3	4.0	3.3	2.7	5.8	8.0	3.9	10.3	3.1	10) 9.2
			70yrs & over	10.5	8.0	9.0	5.1	6.3	0.4				11)15.4
			missing			0.2							

b. 過去の国際比較調査データ比較表

比較表では各調査での対応する項目の回答分布（%）を示しているが、対応する質問項目や回答カテゴリーは、研究目的に関連して、それぞれの調査票において必ずしも厳密に同じ表現、数、順番ではないことがあるので注意する。また、それらが同じ場合でも、避けられない各国・各地域の言語の違い、固有の標本抽出方法、データ収集法の差異のために、単純な回答分布の数値の大小比較には十分な注意が必要である。（「国民性七カ国比較」林、吉野他、1998、p.17;「データの科学」,2001,pp.74-81 ;「心を測る」, 2001）等を参照せよ。）

また、表の各調査のデータ数値は以下の統計数理研究所・研究リポート等に掲載されているので、利用する際は再確認していただきたい。（但し、修正され、些少な数値の差が出ている可能性に注意。）

・ハワイ調査 1978, 1983, 1988, 1999…研究リポート No.47, No.63, No.64, No.70, No.86
・ブラジル調査 1991…研究リポート No.72, No.74 にあるが、本表は再集計によった
・米国西海岸日本人調査（JAWCS）1998…研究リポート No.84
・日本人の国民性調査 1953-1998 までのデータ…研究リポート No.83。但し、1953-1988 までのデータは「日本人の国民性」水野他(1992).出光書店
　これらの表では%が四捨五入された整数値で表わされていることに注意
・日, 米, 仏, 独, 英(1987-1988) 及び 伊(1992)、蘭(1993)調査…特別推進研究、及び試験研究による「国民性七か国比較」林, 吉野他(1998). 出光書店 及び 研究リポート No71, No.72, No.73, No.76, No.77, No.78, No.79, No.80, No.81, No.82
・東アジア価値観調査、環太平洋価値観国際比較調査については、以下のレポートを参照

東アジア価値観国際比較調査　2002 年日本調査. (吉野諒三編, 2004)
東アジア価値観国際比較調査　2002 - 3 年中国調査 [北京, 上海, 香港]. (吉野諒三編, 2004)
東アジア価値観国際比較調査　2003 年台湾調査. (吉野諒三編, 2005)
東アジア価値観国際比較調査　2003 年韓国調査. (吉野諒三編, 2005)
東アジア価値観国際比較調査　2004 年シンガポール調査. (吉野諒三編, 2005)
東アジア価値観国際比較調査　2004 年日本 A 調査. (吉野諒三編, 2005)
東アジア価値観国際比較調査　2004 年日本 B 調査. (吉野諒三編, 2005)
東アジア価値観国際比較調査 ――「信頼感」の統計科学的解析――. (吉野諒三編, 2006)
環太平洋価値観国際比較調査　2005 年中国調査 [北京, 上海, 香港]. (吉野諒三編, 2007)
環太平洋価値観国際比較調査　2006 年台湾調査. (吉野諒三・畏岩晶編, 2007)
環太平洋価値観国際比較調査　2006 年韓国調査. (吉野諒三・松本渉編, 2007)
環太平洋価値観国際比較調査　2006 年 USA 調査. (吉野諒三編, 2007)
環太平洋価値観国際比較調査　2007 年シンガポール調査. (吉野諒三編, 2008)
環太平洋価値観国際比較調査　2007 年オーストラリア調査. (吉野諒三・松本渉編, 2008)
環太平洋価値観国際比較調査　2008 年インド調査. (吉野諒三編, 2009)

【記号の説明】

・Japan A(2004), Beijing(2005), Shanghai(2005), Hong Kong(2005), Taiwan(2006), USA(2006), South Korea(2006), Singapore(2007), Australia(2007), India(2008)…環太平洋価値観調査のうち日本、北京、上海、香港、台湾、USA、韓国、シンガポール、オーストラリア、インド

・Japan(2002), Beijing(2002), Shanghai(2002), Hong Kong(2002), Taiwan(2003) ,South Korea(2003),Singapore(2004)…東アジア価値観調査のうち日本、北京、上海、香港、台湾、韓国、シンガポール

・Kunming, Hangzhou…14 共研-2059 日中国民性データの統計的解析（代表 鄭躍軍）の調査のうち昆明、杭州

・JAWCS…米国西海岸日系人調査

・JPN - A…特別推進研究による日本調査 A（国際比較用）

・HA - JA…ハワイ日系人

・HA - NJ…ハワイ非日系人

なお、78 - 88 は 1978 年, 1983 年, 1988 年の 3 回の調査データの平均値であるが、一部の年度の調査で用いられなかった項目については、＊と表示した。

・USA, FRA, UK, FRG…特別推進研究（1987-1988）の 5 ヶ国調査のうち米、仏、英、独

・ITA, HOL…試験研究 A (2)（1992-1993）によるイタリアとオランダ

・BRZ - JB…ブラジル日系人

「地点抽出」と「世帯から一人を抽出」するためのウェイトがかかっていることに注意。また、「世代不明」及び「性別不明」の回答が数名分含められていた。

・JPN - B…特別推進研究による日本調査 B（本来の日本語らしい表現）

・J - KS8, J - KS9, J - KS10…「日本人の国民性」調査第 8 次(1988)、第 9 次(1993)、第 10 次(1998)。但し、これには K（継続）型調査と M（未来）型調査とがあり、その一方のみで用いられた項目、両方で用いられた項目があり、後者の場合は K+M のデータについて記した。各項目先頭の K, M,＋ はこれを示す。

・Omni JPa, Omni JPb, Omni JPc…日本オムニバス調査　JPa は 1993、JPb は 1998 年、JPc は 2003 年

・Omni U.S.A.…オムニバス調査米国 1998 年実施

【表中の記法】

空白…… 該当する項目やカテゴリーがもともとたてられなかった場合

－ …… 0.0%（該当者が一人もいない）の意味

0.0 …… 四捨五入の 0.0%の意味、

特別の場合を除き、DK には missing も含まれている

（この記法については、他の研究リポートとは必ずしも一致していないことに注意する。）

APVS	Common code	Item	category	2005 Beijing	2005 Shang-hai	2005 Hong Kong	2006 Taiwan	2006 USA	2006 South Korea	2007 Singa-pore	2007 Australia	2008 India	2004 Japan A	2004 JapanB	2002 Japan	2002 Beijing	2002 Shang-hai	2003 Kunming	2002 Hang-zhou	2002 Hong Kong	2003 Taiwan
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*	*785*	*787*	*1062*	*1053*	*1018*	*911*	*1057*	*732*
Q1	#7.31	Living Condition	1)Much bette	26.6	35.6	4.5	2.3	32.7	3.1	19.4	24.4	44.5	0.3	0.5							
			2)Slightly bet	61.3	54.4	53.5	24.4	32.7	36.6	32.1	31.3	36.6	12.7	12.2							
			3)About the	6.3	5.4	19.6	28.2	25.3	30.1	23.0	30.4	11.5	48.2	46.0							
			4)Slightly wo	2.7	1.1	17.4	24.7	6.1	21.9	17.1	8.0	4.3	29.7	32.2							
			5)Much wors	0.7	0.4	3.1	13.6	1.1	5.4	6.5	4.0	2.0	5.4	6.1							
			8)Other	1.7	0.3	0.2	–	–	–	–	0.7	0.1	–	–							
		*NA含む	9)DK	0.9	*2.8	1.8	6.8	2.0	2.8	2.0	1.1	1.0	3.8	2.9							
Q2		Country for Fri	USA	1)35.4	1)47.6	1)41.1	1)35.0		1)53.2	1)14.3	1)19.7	1)59.8	1)35.0		1)38.5	1) 53.1	1)61.7	1) 34.9	1) 43.6	1)49.1	1) 47.4
		※【国別質問】	EU(European	2)38.3	2)26.9	2)27.6	2) 8.3	1)12.7	2) 6.5	2) 3.5	2)15.7	2) 4.9	2) 6.3		2) 8.0	2) 27.1	2)22.3	2) 22.1	2) 18.9	2)24.6	2) 8.5
		ブランクは、各調査票で設定されていない回答肢	Japan	3) 2.8	3) 6.3	3) 7.8	4)11.3	3)10.4	4) 3.2	4) 6.4	3) 8.4	3) 9.8				3) 2.5	3) 4.0	3) 1.5	3) 2.4	3) 3.7	3) 8.5
			South Korea	4)10.7	4) 7.3	4) 6.1	5) 0.5	6)10.4		5) 1.5	6) 3.1	6) 10.5	4) 5.4		4) 8.0	4) 4.0	4) 2.4	4) 3.6	4) 1.9	4) 1.4	4) 0.7
			Mainland of China				6)23.2		3)22.1				3)28.3								6) 14.2
			China					4)30.3		3)36.2	4)27.7	5) 6.5			3)22.4						
		※ 中国と中国大陸は別回答肢	Australia				3) 2.2	2) 9.7	5) 2.1	6) 7.3		4) 0.6									
			India				7) 0.5	5) 4.6	6) 1.0	7) 5.8	5) 6.4										
			The Other Asian than China and South Korea										5)11.9		5) 6.7						
			The Other A	5) 7.2	5) 4.8	5) 9.8										5) 6.3	5) 4.3	5) 7.4	5) 6.4	5) 9.0	5) 4.4
			Country other than China and Japan																		
			Asian country other than China, Japan and India						7) 6.5												
			Asian country other than China, India, Jap				8) 5.3	7) 9.2		8)18.0	7)11.9	7) 1.4									
			Other	8) 3.4	8) 1.0	8) 1.5	88) 0.7	8) 2.7	8) 1.3	88) 0.6	8) 2.1	88)2.1	8) 1.0		8) 1.4	8) 3.4	8) 1.2	8) 14.2	8) 3.7	8) 0.5	8) 0.4
			DK	9) 2.2	9) 6.1	9) 6.1	99)13.1	9)10.1	9) 4.1	99) 6.4	9) 4.9	99)4.2	9)12.0		9)15.0	9) 3.6	9) 4.1	9) 16.3	9) 23.2	9)11.7	9) 16.0
Q3		Country to be B	Japan	1) 5.2	1) 8.3	1)24.1	1)42.1	2)12.9	1)10.7	2)12.5	1)26.6	2)15.2				1) 9.2	1)12.6	1) 6.7	1) 8.3	1)24.5	1) 37.7
		※【国別質問】	South Korea	2)11.4	2) 7.3	2) 4.9	2) 3.2	4) 1.1		3) 1.9	3) 1.9	3) 1.5	2) 9.4		2) 5.2	2) 7.4	2) 4.9	2) 5	2) 3.7	2) 3.1	2) 1.4
			China												1)10.8						
		※ 中国と中国大陸は別回答肢	Mainland of China			4)28.5	3) 9.3	3) 4.6	2) 7.0	1)13.4	2) 5.1	4) 2.3	1) 9.7							4)26.5	3) 8.9
			Taiwan	3) 8.9	3) 5.8	3) 3.5		5) 0.9	3) 1.0	4) 4.7	4) 1.4	5) 0.4	3) 5.5		3) 5.6	3) 4.4	3) 4.1	3) 3.1	3) 2.7	3) 4.2	
			Hong Kong	4)25.5	4)24.5		4) 2.0	6) 2.3	4) 2.2	5) 6.3	5) 9.1	6) 3.3	4)11.4		4)13.0	4)21.5	4)24.3	4) 14.9	4) 19.4		4) 3.0
		※ 韓国調査は、台湾の代わりにタイが含まれている	India	5) 0.8	5) 0.8	5) 0.4	6) 0.2	7) 1.7	5) 1.4	6) 3.8	6) 7.6		5) 2.2		5) 2.7	5) 0.5	5) 0.5	5) 0.3	5) 0.3	5) 0.6	5) 0.7
			Philippines	6) 0.6	6) 0.6	6) 0.4	7) –	8) 3.3	6) 0.6	7) 0.8	7) 5.3	7) 0.4	6) 0.5		6) 0.4	6) 0.6	6) 0.6	6) 0.5	6) 0.9	6) 0.2	6) 0.1
			Singapore	7)33.0	7)39.2	7)30.7	8)10.1	9) 1.6	7)10.9		8)22.0	8)22.9	7)24.5		7)18.9	7)39.4	7)39.9	7) 28.2	7) 27.8	7)30.4	7) 20.2
			Thailand																		
		※ 各国調査票での中国、中国大陸、香港、台湾の分類の違いに注意	Australia				5)14.6	1)47.1	8)50.4	8)32.5		1)34.5									
			U.S.						9) 2.5												
			None					10)19.1	98) 1.8												
			Other	8)10.3	8) 1.8	8) 1.4	88) 3.2	88) 0.6	88) 2.5	88) 8.8	11.9	88) 8.2	8) 8.3		8)10.2	8) 8.8	8) 5.4	8) 26.6	8) 9.9	8) 0.8	8) 6.3
		*NA含む	DK	9) 4.3	9)11.9	9) 6.0	99)15.4	99) 5.0	99) 9.0	99)15.3	9.3	99)11.0	9)28.5		9)33.3	9) 8.3	9) 7.7	9) 14.6	9) 26.9	9) 9.8	9) 21.7
Q4		Boy or Girl to b	1)A Boy	53.4	53.4	52.4	59.7	53.4	63.2	56.0	56.1	54.3	54.8		52.1	60.9	58.1	49.5	48.6	55.3	53.1
			2)A Girl	33.4	34.2	35.8	28.4	45.3	32.8	37.6	39.9	41.8	40.7		38.5	26.6	27.9	17.5	25.0	35.6	29.0
			8)Other	10.7	4.0	8.6	3.2	–	0.8	–	1.9	0.6	1.1		1.3	8.3	9.5	21.1	10.6	2.2	5.5
		*NA含む	9)DK	2.5	*8.4	3.2	8.8	1.3	3.2	6.4	2.1	3.3	3.3		8.1	4.2	4.5	11.9	15.7	7.0	12.4
Q5	#4.11	Respect for An	1)More Than	55.7	50.0	33.7	27.5	56.2	56.1	49.0	62.1	62.9	49.1	43.2	41.2	41.4	43.5	43.2	37.7	27.4	27.3
			2)Less Than	3.3	4.0	6.7	6.1	5.7	9.9	16.0	7.6	11.9	8.0	9.3	9.3	3.8	2.8	4.1	3.0	9.1	4.2
			3)Average	39.9	43.7	58.5	66.3	37.4	33.2	33.8	28.7	24.2	41.3	45.4	47.6	54.0	52.8	49.8	56.6	61.1	68.0
			8)Other	0.6	–	–	–	–	–	–	0.1	0.0	0.1	–	0.1	–	0.1	0.7	0.2	0.1	–
			9)DK	0.5	2.3	1.1	–	0.8	0.8	1.2	1.4	0.9	1.6	2.2	1.8	0.8	0.8	2.2	2.5	2.3	0.4
Q6	#4.10	Child Adoption	1)Would Ado	23.5	22.2	19.2	22.2	44.7	27.4	42.9	51.9	59.4	14.7		12.6	17.9	28.1	20.4	21.4	16.7	17.9
			2)Would Not	59.0	50.8	66.4	59.9	23.0	47.4	33.8	30.9	14.1	55.6		49.7	61.3	54.0	51.1	49.5	69.9	66.8
			3)Depends	15.4	22.5	13.0	16.7	28.6	23.6	22.8	15.3	22.6	24.7		32.0	18.5	15.4	19.5	23.5	9.4	11.1
			8)Other	1.0	0.3	–	–	0.3	0.2	–	1.3	0.3	0.3		0.3	–	0.7	2.4	0.5	–	–
			9)DK	1.1	4.2	1.4	1.2	3.3	1.5	0.5	0.7	3.5	4.7		5.4	2.4	1.8	6.6	5.0	4.0	4.2
Q7	#4.80	Ideal Number of	0	3.6	1.2	2.9	3.0	–	0.1	0.6	0.7	–	0.1		–	5.7	1.4	2.0	1.1	1.6	1.8
			1	22.1	29.8	10.5	8.1	3.2	3.9	4.1	2.7	15.2	1.4		2.2	38.5	38.4	39.1	35.2	9.6	6.1
			2	68.0	62.5	70.1	63.7	49.2	48.8	49.8	49.3	73.7	43.8		45.4	50.9	56.1	53.7	57.3	75.8	60.1
		Taiwan 6が0.5%、8が0.2%	3	4.7	3.6	10.2	17.6	27.0	36.9	29.7	29.0	5.1	48.1		45.1	3.4	1.7	2.1	2.0	7.2	24.3
			4	0.7	0.4	4.4	3.6	14.8	6.7	12.0	13.4	1.4	3.2		3.0	0.7	0.6	0.2	0.2	2.3	5.1
		South Korea 6が0.3、10が0.2	5	0.2	0.3	0.7	0.3	1.4	2.5	2.1	2.0	0.7	0.5		0.6	–	0.1	0.2	–	0.6	0.3
			6 or Over	0.2	–	0.4	0.7	2.1	0.5	0.8	1.1	0.3	0.1		–	–	–	0.1	0.1	0.6	0.7
		*NA含む	9)DK	0.5	*2.3	0.8	3.0	2.3	0.6	0.9	1.7	3.9	2.8		3.7	0.8	1.7	2.5	3.6	2.4	1.6
			Others															0.2	0.4		
Q8	#2.4	Attitudes towar	1)Make no of	31.0	38.7	26.9	39.6	8.8	41.3	11.3	12.9	27.5	46.2								
			2)Active in v	8.9	12.3	4.6	9.8	12.0	11.2	7.8	11.6	18.4	8.8								
			3)Work hard	8.0	14.1	8.5	15.8	14.7	16.4	22.9	9.4	27.8	5.4								
			4)Study earn	3.3	4.8	4.4	6.0	8.0	2.2	5.9	3.3	8.8	0.8								
			5)Don't think	29.7	17.4	20.1	15.1	25.6	10.1	19.5	30.9	5.7	23.0								
			6)Live each	17.5	10.6	34.6	12.8	28.4	17.9	29.8	30.4	11.0	14.3								
			8)Other	1.4	0.3	0.5	–	1.2	0.2	–	0.7	0.0	0.2								
		*NA含む	9)DK	0.2	*1.7	0.5	1.0	1.3	0.8	2.8	0.9	0.6	1.3								
Q9a		Confucius Teac	1)Strongly A	51.9	54.2	41.2	39.8	54.8	24.5	41.0	49.4	84.5	40.5		34.7	41.1	53.8	39.7	47.9	44.7	46.9
			2)Agree	44.6	42.3	57.6	58.2	41.6	59.9	55.7	46.4	15.1	50.4		57.3	54.8	43.2	53.6	46.3	52.4	52.7
			3)Disagree	2.4	1.2	0.9	1.3	1.3	10.7	1.2	3.1	0.2	6.1		5.2	3.2	2.6	4.7	4.1	2.3	0.3
			4)Strongly Di	0.3	–	0.1	0.3	0.4	1.8	0.8	0.3	0.0	1.4		1.4	0.2	0.2	0.3	0.3	0.2	–
			8)Other	0.6	0.4	–	–	0.6	0.7	–	–	0.0	0.1		–	0.2	–	0.5	0.4	0.1	–
		*NAを含む	9)DK	*0.3	*1.9	0.1	0.3	1.2	2.4	1.2	0.7	0.1	1.6		1.4	0.6	0.3	1.2	1.0	0.4	0.1
Q9b		Confucius Teac	1)Strongly A	28.9	18.5	26.9	18.2	12.7	11.3	2.0	14.3	55.5	8.1		6.6	13.2	14.8	15.1	18.4	24.6	22.1
			2)Agree	41.3	42.6	48.6	47.4	31.9	33.7	25.8	29.9	21.7	24.2		24.7	36.3	36.0	35.5	40.7	39.2	45.2
			3)Disagree	25.4	32.6	20.8	31.0	38.3	46.0	62.0	43.6	10.2	54.0		54.6	45.5	42.8	42.1	36.6	32.4	28.8
			4)Strongly Di	1.3	1.2	1.5	2.5	7.1	7.9	7.5	10.3	11.9	12.2		11.9	3.6	5.5	2.8	2.0	3.0	3.3
			8)Other	2.8	2.6	0.8	0.3	4.7	0.3	1.3	0.7	0.4	0.4		0.4	0.9	0.6	3.9	1.3	0.4	0.3
		*NAを含む	9)DK	*0.3	*2.5	1.3	0.5	5.4	0.9	1.5	1.3	0.2	1.1		1.8	0.5	0.3	0.5	1.0	0.5	0.3

注意：作成時に他のデータと取り違えたため間違い。正しい数値は(1)から順に14.1、41.1、40.8、2.3、0.9、0.8。なお、以下も参照。

Item	category	2003 South Korea	2004 Singa-pore	1998 JAWCS	1999 HA JA	1999 HA NJ	1988 JPN-A	1988 HA JA	1988 HA NJ	1988 USA	1987 FRA	1987 UK	1987 FRG	†992 ITA	1993 HOL	1991 BRZ JB	1988 JPN-B	1988 J-KS8	1993 J-KS9	1998 J-KS10	2003 J-KS11	1993 Omni JPa	1998 Omni JPb	2003 Omni JPc	1998 Omni USA
	#sample	*1006*	*1037*	*344*	*206*	*294*	*2265*	*180*	*319*	*1563*	*1013*	*1043*	*1000*	*1048*	*1083*	**492*	*1017*					*1507*	*1442*	*1431*	*985*
Living Condition	1)Much bette				15.5	22.8	2.6	18.3	19.4	17.1	6.7	11.8	3.8	8.2	5.0		7.7								
	2)Slightly bet				34.0	28.9	22.4	35.0	32.0	29.9	25.1	28.2	27.4	18.5	17.2		20.1								
	3)About the				39.3	35.7	52.2	34..4	31.0	35.0	28.5	38.6	47.6	43.0	40.8		50.3								
	4)Slightly wo				8.7	6.8	14.8	8.3	10.3	8.6	27.4	12.8	15.6	15.9	26.8		10.3								
	5)Much wors				1.0	2.4	1.5	1.1	1.9	3.7	6.4	3.1	1.0	6.2	6.2		4.3								
	8)Other				0.5	0.7	0.0	2.2	2.5	–	–	–	–	–	–		0.2								
*NA含む	9)DK				1.0	2.7	6.5	0.6	2.8	5.7	5.8	5.5	4.6	8.1	4.1		7.1								
Country for Frie	USA	1) 55.9	1) 23.7																						
※【国別質問】	EU(European	2) 7.9	2) 7.9																						
ブランクは、各調査票で設定されていない回答肢	Japan	4) 3.9	4) 5.7													BRZ_JB1991はWeight補正した値									
	South Korea		5) 1.1																						
	Mainland of C																								
	China	3) 21.8	3) 32.9																						
※ 中国と中国大陸は別回答肢	Australia																								
	India																								
	The Other A																								
	The Other A																								
	Country othe	5) 5.4																							
	Asian countr																								
	Asian countr																								
	Other	8) 0.9	15.3																						
	DK	9) 4.4	9) 13.5																						
Country to be E	Japan	2) 29.4	2) 22.2																						
※【国別質問】	South Korea		3) 3.3																						
	China	1) 16.8	1) 13.9																						
※ 中国と中国大陸は別回答肢	Mainland of C																								
	Taiwan		4) 3.1																						
	Hong Kong	4) 7.7	5) 7.2																						
※ 韓国調査は、台湾の代わりにタイが含まれている	India	5) 1.5	6) 4.7																						
	Philippines	6) 1.1	7) 0.5																						
	Singapore	7) 20.9																							
	Thailand	3) 1.9																							
※ 各国調査票での中国、中国大陸、香港、台湾の分類の違いに注意	Australia																								
	U.S.																								
	None																								
	Other	8) 2.0	8) 26.1																						
*NA含む	DK	9) 18.8	9) 19.0																						
Boy or Girl to b	1)A Boy	63.8	48.2																						
	2)A Girl	33.6	37.8																						
	8)Other	0.2	3.1																						
*NA含む	9)DK	2.4	10.9																						
Respect for An	1)More Than	59.6	54.4	84.0	49.0	44.6	47.5	51.7	45.5	73.1	29.0	41.9	9.1	36.5	40.9	55.3	55.5	K 66	K 65	K 60	K 59	64.5	58.7	55.8	
	2)Less Than	11.1	12.0	2.6	10.2	16.3	8.4	14.4	20.1	8.1	16.5	8.7	15.7	9.2	4.2	6.1	8.1	12	7	12	31	4.4	6.9	8.5	
	3)Average	28.8	31.1	11.9	38.8	36.4	42.5	31.7	29.2	17.0	49.8	45.7	64.7	49.5	44.5	34.4	35.5	21	27	27	9	30.4	32.6	33.3	
	8)Other	–	–	0.6	1.5	1.4	0.0	0.6	2.5	0.2	1.4	0.3	0.4	–	1.7	2.1	–	1	0	0	0	–	0.1	0.1	
	9)DK	0.4	2.5	0.9	0.5	1.4	1.5	1.7	2.8	1.7	3.4	3.4	10.1	4.8	8.8	2.2	1.0	1	1	1	0	0.7	1.7	2.3	
Child Adoption	1)Would Ado	28.2	36.0	25.9	34.0	38.4	19.1	32.8	44.5	52.3	63.9	34.3	39.5	59.3	14.4	51.9	20.3	K 28	K 22	K 22	K 18	21.9	18.3	14.3	40.6
	2)Would Not	49.5	38.8	55.2	47.6	39.1	42.4	44.4	35.4	34.5	21.1	44.6	28.8	14.6	63.0	26.7	42.9	52	56	58	57	45.2	45.1	49.1	31.5
	3)Depends	19.8	20.8	11.6	8.7	12.6	30.5	13.3	13.2	8.2	9.6	11.9	24.0	22.1	10.7	12.6	26.1	15	16	16	19	22.0	25.2	24.8	17.1
	8)Other	0.3	–	6.1	6.3	9.2	0.2	4.4	5.6	1.8	2.7	5.8	1.0	0.1	5.0	2.6	0.2	2	1	0	1	0.2	–	0.3	0.4
	9)DK	2.2	4.4	1.2	3.4	0.7	7.8	5.0	1.3	3.1	2.8	3.4	6.7	3.9	6.9	6.1	10.6	3	5	4	5	10.7	11.4	11.5	10.5
Ideal Number of	0	0.8	0.7				–			0.8	–	1.3	4.2	0.2	1.8		–								
	1	5.9	3.0				0.9			2.1	2.8	1.5	13.3	5.2	3.0		0.6								
	2	55.5	51.4				35.6			49.6	45.7	60.8	60.4	55.6	49.7		33.2								
Taiwan 6が0.5%、8が0.2%	3	27.9	26.0				55.4			24.3	42.6	18.6	15.2	28.7	24.2		55.4								
	4	6.7	13.7				3.6			13.2	5.2	9.6	2.2	3.9	8.3		4.6								
South Korea 6が0.3、10が0.2	5	2.0	1.8				1.0			2.1	0.9	1.1	0.2	0.8	1.3		1.1								
	6 or Over	0.5	1.6				0.1			2.3	0.2	0.9	0.1	0.3	0.8		0.3								
*NA含む	9)DK	0.8	1.8	※DK&Other			3.4			5.6	2.6	6.2	4.4	5.3	11.0		4.8								
	Others																								
Attitudes towar	1)Make no of	※JAWCS以前は回答の順番が異なる		5)6.7	5.3	7.1	5.9	10.6	7.5	11.2	8.9	5.0	15.6	24.0	19.1	19.2	10.2								
	2)Active in v			6)2.0	1.9	1.7	2.9	2.2	2.5	2.8	3.7	1.7	2.1	3.0	1.7	2.4	2.3								
	3)Work hard			1)6.7	6.8	9.2	13.8	9.4	10.3	6.1	8.1	7.3	2.8	9.1	3.9	8.0	6.4								
	4)Study earn			2)4.9	3.4	5.8	1.7	3.9	6.0	7.2	5.5	3.6	15.6	11.0	3.3	4.8	1.3								
	5)Don't think			3)45.1	33.5	33.3	37.3	29.4	35.4	33.2	36.9	38.0	32.4	35.4	43.8	35.9	47.5								
	6)Live each			4)28.2	38.8	32.3	32.0	42.8	32.3	37.1	29.3	42.0	21.5	13.3	21.1	25.5	28.8								
	8)Other			5.2	8.7	9.2	1.2	1.1	5.6	0.8	3.4	1.3	1.6	1.0	4.0	3.4	0.4								
*NA含む	9)DK			1.2	1.5	1.4	5.2	0.6	0.3	1.5	4.2	1.1	8.4	3.3	3.2	0.7	3.1								
Confucius Teac	1)Strongly A	24.6	45.3																						
	2)Agree	63.3	50.2																						
	3)Disagree	10.1	2.1																						
	4)Strongly Di	1.4	1.3																						
	8)Other	–	0.2																						
*NAを含む	9)DK	0.6	0.9																						
Confucius Teac	1)Strongly A	9.0	14.0																						
	2)Agree	36.1	27.1																						
	3)Disagree	46.2	51.6																						
	4)Strongly Di	7.7	5.4																						
	8)Other	0.4	1.1																						
*NAを含む	9)DK	0.6	0.9																						

APVS	Common code	Item	category	2005 Beijing	2005 Shang-hai	2005 Hong Kong	2006 Taiwan	2006 USA	2006 South Korea	2007 Singa-pore	2007 Australia	2008 India	2004 Japan A	2004 JapanB	2002 Japan	2002 Beijing	2002 Shang-hai	2003 Kunming	2002 Hang-zhou	2002 Hong Kong	2003 Taiwan
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*	*785*	*787*	*1062*	*1053*	*1018*	*911*	*1057*	*732*
Q9c		Confucius Teac	1)Strongly Ag	4.6	3.8	6.1	9.1	12.4	11.6	10.6	6.3	50.6	6.1		5.1	1.9	2.1	2.2	2.5	8.0	9.4
			2)Agree	16.5	16.2	35.0	35.5	39.4	48.3	49.5	22.7	31.6	29.4		27.1	10.4	8.9	12.6	11.0	31.8	45.5
			3)Disagree	61.8	60.5	47.3	45.9	28.7	33.4	34.8	37.1	10.8	46.4		51.5	66.0	64.9	67.6	65.9	50.7	38.9
			4)Strongly Di	13.2	14.3	8.1	8.5	15.2	5.2	3.0	30.7	6.3	15.5		14.4	20.8	23.8	14.0	17.0	7.9	4.8
			8)Other	3.3	2.3	0.9	0.8	2.1	0.8	1.6	1.0	0.3	1.0		0.4	0.8	0.3	2.8	1.9	0.8	0.8
		*NAを含む	9)DK	*0.6	*2.9	2.5	0.2	2.1	0.7	0.6	2.1	0.3	1.7		1.7	0.2	–	0.9	1.8	0.9	0.5
Q9d		Confucius Teac	1)Strongly Ag	0.7	2.2	1.3	2.0	6.2	7.0	2.0	2.9	51.0	3.5		3.0	0.4	0.5	0.7	1.0	1.6	2.2
			2)Agree	6.2	10.0	6.0	9.6	30.3	36.6	25.8	14.9	24.9	24.0		19.1	2.9	5.1	4.6	5.4	4.9	16.0
			3)Disagree	74.4	66.2	62.3	63.2	47.1	45.0	62.0	57.1	15.9	53.3		57.1	68.1	64.5	67.6	71.2	53.5	56.0
			4)Strongly Di	17.3	16.8	29.4	24.9	10.4	8.2	7.5	22.6	7.1	15.4		15.9	28.4	29.6	25.1	19.5	39.6	24.2
			8)Other	1.1	1.9	–	0.2	2.1	0.8	1.3	0.4	0.3	0.6		0.4	0.2	0.3	1.4	1.5	0.1	0.7
		*NAを含む	9)DK	*0.4	*3.0	0.9	0.2	3.9	2.5	1.5	2.1	0.7	3.2		4.6	–	–	0.6	1.3	0.3	1.0
Q9e		Confucius Teac	1)Strongly Ag	3.5	8.0	4.5	8.8	14.5	9.0	4.1	8.0	72.4	6.7		3.7	2.8	3.7	2.3	3.2	6.1	10.5
			2)Agree	39.5	42.0	49.4	56.9	42.0	62.5	46.9	35.9	24.0	47.4		39.0	34.0	36.3	27.6	28.8	43.0	57.0
			3)Disagree	46.0	38.2	36.5	31.2	29.2	23.2	42.9	45.4	2.8	32.8		45.4	57.0	49.1	56.9	56.6	43.9	28.6
			4)Strongly Di	1.7	1.7	2.1	2.8	4.3	2.6	2.1	8.0	0.7	9.1		7.6	3.3	7.3	5.2	4.4	4.7	1.8
			8)Other	8.2	5.5	2.5	0.3	4.2	1.0	2.9	1.1	0.0	1.8		0.6	2.0	2.8	7.3	5.0	0.9	1.5
		*NAを含む	9)DK	*1.1	*4.6	5.1	–	5.8	1.7	1.1	1.6	0.0	2.2		3.7	0.9	0.8	0.8	2.0	1.3	0.7
Q9f		Confucius Teac	1)Strongly Ag	3.1	4.1	4.5	6.5	10.2	8.6	7.7	7.9	46.8	5.9		4.8	1.6	1.4	2.4	2.9	5.7	9.2
			2)Agree	17.5	20.7	29.8	32.8	34.5	25.6	35.0	27.3	27.4	24.1		23.3	13.0	9.7	12.5	14.1	24.0	43.4
			3)Disagree	64.8	60.3	56.5	51.1	41.3	51.3	49.8	45.9	13.6	52.9		54.3	68.4	66.2	67.7	68.2	56.7	40.8
			4)Strongly Di	9.8	7.8	7.7	8.8	9.8	12.5	6.3	17.6	11.5	14.7		15.4	15.5	21.8	13.2	11.2	12.4	5.5
			8)Other	4.2	2.1	0.2	0.2	2.0	0.5	0.6	0.1	0.3	0.8		0.1	0.7	0.7	3.0	1.0	0.3	0.5
		*NAを含む	9)DK	*0.7	*5.0	1.3	0.7	2.2	1.5	0.7	1.3	0.3	1.8		2.1	0.9	0.2	1.3	2.7	0.9	0.5
Q9g		Confucius Teac	1)Strongly Ag	3.4	4.2	3.4	6.0	3.9	7.7	3.3	4.0	36.1	6.1		3.7	1.6	2.4	1.7	2.6	4.9	6.0
			2)Agree	18.0	15.8	25.4	34.2	12.7	18.3	24.4	11.3	20.2	20.1		19.4	10.7	11.8	14.3	9.0	19.6	40.3
			3)Disagree	62.9	60.2	58.9	48.4	51.5	54.3	55.8	47.6	22.1	50.4		55.1	63.7	59.4	64.9	67.6	57.0	44.8
			4)Strongly Di	13.2	13.7	10.4	10.6	27.7	19.3	14.8	35.9	20.7	21.4		20.2	22.7	25.9	16.3	18.1	17.5	7.9
			8)Other	2.2	2.5	0.5	0.3	2.2	0.3	0.9	0.3	0.6	0.4		–	0.9	0.5	2.2	1.4	0.3	0.5
		*NAを含む	9)DK	0.3	*3.6	1.4	0.5	2.0	0.1	0.8	1.0	0.2	1.6		1.5	0.4	–	0.6	1.2	0.7	0.4
Q10		The Most Respectable Occupation/ Occupation to Take																			
Q11		Leader's Qualifi	1)Technical c	54.7	62.8	26.6	38.1	35.5	29.9	23.8	32.6	36.0	23.4	17.7	21.7	64.7	62.1	65.1	59.2	36.1	31.7
			2)Fair in trea	48.3	45.9	55.8	40.1	52.9	38.2	46.9	49.4	37.3	49.3	52.9	49.0	48.6	43.9	48.9	43.1	54.4	52.9
			3)Being liked	19.8	20.8	25.0	33.0	24.2	55.0	22.2	23.6	29.0	42.5	44.2	41.7	17.0	21.2	18.1	23.3	21.2	29.0
			4)Serious att	29.7	29.1	29.0	30.3	43.7	18.9	35.7	35.7	42.4	44.3	46.8	48.0	31.4	27.9	30.5	27.9	31.0	20.5
		South Koreaは報告書と集計の方法が異なるため若干、数値が変わって	5)Have many	14.1	22.4	10.8	22.4	10.7	36.6	38.7	5.3	18.1	18.7	13.5	14.4	9.0	10.3	6.9	12.8	7.5	14.6
			6)Sincere in	33.0	34.0	35.3	38.5	35.5	38.4	35.9	47.3	31.0	37.3	42.5	36.5	31.8	33.7	32.7	30.5	30.6	42.3
			7)Decisive ar	26.5	22.0	33.0	15.3	37.0	34.1	24.9	20.3	26.6	24.4	23.3	23.5	29.5	24.8	29.0	31.9	35.4	10.2
			8)Good judgm	34.4	26.0	42.5	33.5	62.0	35.7	43.2	61.1	33.1	45.1	47.6	49.2	33.4	23.4	24.6	30.8	47.9	30.7
			9)Ability to b	36.6	30.8	28.5	38.5	21.9	12.4	18)20.2	14.4	15.2	5.4	5.2	5.7	32.6	51.4	41.6	35.3	20.6	42.2
			10)Seniority	1.0	1.5	9.9	1.2	7.5	3.0	9) 20.2	3.1	8.8	1.8	1.1	0.8	0.8	0.8	0.8	3.6	10.8	2.5
			11)come fron	0.8	0.9	1.4	1.3	4.7	0.8	10) 5.4	6.0	4.3	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	0.3	1.4	1.3	2.7
			Other					–	–												
		*NA	DK		*0.3	*0.4	12) 1.7	0.3	0.3			0.2									
			missing										99) 0.4	12) 0.3	0.8	0.1		0.2		0.7	–
Q12	#2.3g	Health Satisfac	1)Very Satisf	14.3	14.7	11.1	12.6	40.6	14.2	37.3	34.9	63.3	15.3	11.6	13.5	11.9	14.4	9.6	14.2	8.4	8.6
			2)Fairly Satis	56.5	56.3	67.3	68.0	45.6	54.2	55.8	50.7	32.1	57.8	60.4	62.6	62.1	61.0	62.6	57.5	70.7	67.3
			3)Fairly Dissa	20.8	18.9	15.8	13.1	9.1	25.3	4.7	9.3	2.8	20.0	21.7	16.1	19.3	20.4	19.2	20.7	17.4	18.3
			4)Very Dissa	8.1	7.3	5.4	6.0	4.6	5.8	2.0	4.9	1.7	5.7	5.6	6.0	6.7	4.0	7.8	6.3	3.0	5.1
			8)Other	0.2	1.1	–	–	–	–	0.1	–	–	0.1	–	0.5	–	0.1	0.8	0.4	0.2	–
		*NA含む	9)DK	0.1	*1.6	0.5	0.3	0.1	0.5	–	0.3	0.0	1.1	0.8	1.3	0.1	0.1	0.1	0.9	0.3	0.7
Q13	#1.8	Social Stratifica	1)Upper	1.7	1.3	0.7	1.3	2.2	0.6	0.8	1.9	11.0	1.1	1.1	1.3	2.3	0.4	0.9	1.1	0.1	0.4
			2)Upper Midd	9.4	10.6	6.7	11.9	17.9	6.4	11.0	18.0	24.8	9.2	8.5	10.4	10.6	10.0	8.8	15.8	5.7	8.9
			3)Middle	49.6	47.4	46.5	66.0	56.9	48.7	72.8	58.1	57.9	55.2	56.7	56.2	51.2	56.4	47.3	55.9	49.6	64.5
			4)Lower Midd	27.5	26.9	34.0	16.3	19.3	29.6	12.3	15.9	5.3	27.0	26.2	23.3	25.7	24.6	27.7	19.3	32.9	18.6
			5)Lower	11.0	10.9	11.3	1.7	3.4	14.3	2.7	5.7	0.8	5.4	4.5	5.7	9.0	7.6	10.9	4.3	10.9	3.1
			8)Other	0.4	0.1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	0.1	–	0.2	0.4	0.1	–	–
		*NA含む	9)DK	0.4	*2.7	0.7	2.8	0.2	0.4	0.4	0.4	0.1	2.1	2.9	3.0	1.1	0.9	3.9	3.5	0.9	4.5
Q14	#7.81	Money or Free	1)More Mone	69.6	75.6	61.4	72.8	61.4	63.0	46.0	54.4	75.2	52.5		55.1	72.3	72.8	69.3	68.4	65.6	71.2
			2)More Free	27.9	17.3	35.7	24.5	36.6	34.7	40.5	41.6	21.9	41.1		33.8	24.0	23.5	19.8	22.7	29.3	26.9
			8)Other	1.8	1.6	0.7	0.5	0.4	0.7	–	2.9	1.7	1.6		4.7	1.7	1.8	6.4	2.3	2.4	–
		*NA含む	9)DK	0.7	*5.5	2.2	2.2	1.6	1.7	13.5	1.1	1.2	4.8		6.4	2.0	1.9	4.5	6.6	2.7	1.9
Q15	#2.8	Continuing Wor	1)Continue t	72.1	66.7	67.7	75.8	51.6	77.7	73.4	61.7	87.2	57.1		54.3	72.3	71.3	69.5	64.3	66.0	71.9
			2)Stop Worki	24.4	26.8	31.0	22.9	44.7	21.0	25.1	30.1	12.2	33.6		34.8	25.1	26.9	21.3	26.5	31.7	26.1
			8)Other	2.7	2.2	0.2	0.5	0.6	0.8	–	7.0	0.1	1.9		1.7	0.4	0.9	5.0	3.5	0.3	0.1
		*NA含む	9)DK	0.9	*4.3	1.1	0.8	3.1	0.6	1.5	1.1	0.5	7.4		9.2	2.2	0.9	4.1	5.7	2.0	1.9
Q16	#7.24	The First Condi	1)Good Salar	14.7	35.3	18.5	35.0	37.7	33.8	31.5	23.9	41.1	15.4		14.9	17.9	31.1	16.1	23.2	22.6	33.1
			2)Safe Job	16.6	17.5	13.3	18.4	14.8	23.1	25.8	17.7	30.1	18.8		23.6	18.6	20.1	20.4	15.5	18.0	16.3
			3)People You	27.5	23.2	36.5	20.6	10.9	21.3	18.8	12.3	10.0	26.3		27.7	26.8	23.8	22.0	20.7	29.2	22.5
			4)Doing an In	40.4	21.1	30.7	25.4	35.2	21.6	22.1	44.7	18.4	36.0		25.7	33.5	23.6	34.3	33.0	26.4	24.9
			8)Other	0.8	0.2	–	–	0.2	–	–	0.7	0.1	0.2		1.8	1.4	0.2	3.2	1.4	0.6	–
		*NA含む	9)DK	–	*2.7	0.9	0.7	1.2	0.3	1.8	0.7	0.3	3.3		6.4	1.7	1.2	3.9	6.1	3.2	3.3
Q17a	#2.30	Anxiety – Seri	1)Very Much	44.5	43.9	65.7	32.8	35.3	3.7	72.1	43.7	71.2	17.8	13.0	12.8	34.6	25.1	33.6	25.2	55.8	23.8
			2)Somewhat	22.7	19.9	21.2	31.7	29.9	14.7	17.6	29.3	14.8	24.2	24.6	22.7	23.2	18.6	20.6	22.8	25.4	30.5
			3)Slightly	21.8	23.4	9.9	21.7	24.4	50.9	5.1	19.7	3.5	45.7	47.9	47.1	24.0	29.4	27.0	33.0	12.6	33.2
			4)Not at All	10.5	10.3	2.9	13.4	10.3	30.0	5.0	7.1	10.3	11.6	14.1	16.6	17.3	26.0	15.8	16.4	4.9	11.6
			8)Other	0.1	0.5	–	–	–	0.1	0.1	0.1	–	0.2	–	–	0.1	0.2	1.0	0.1	0.3	–
		*NA含む	9)DK	0.3	*2.1	0.2	0.3	0.1	0.7	–	–	0.1	0.5	0.4	0.6	0.9	0.7	2.0	2.4	0.9	1.0
Q17b	#2.30d	Anxiety – Car	1)Very Much	48.4	39.1	71.8	37.3	19.5	4.5	59.3	31.6	66.9	12.6	11.2	14.9	28.2	16.8	26.2	20.9	58.4	24.0
			2)Somewhat	20.3	22.4	18.3	29.2	26.9	16.5	18.6	26.6	16.8	27.9	26.1	26.9	21.3	17.0	23.4	23.4	21.4	29.4
			3)Slightly	16.7	22.4	6.9	20.9	32.1	48.2	11.6	27.7	3.8	49.1	51.3	48.0	23.8	27.4	24.7	29.9	11.7	35.5
			4)Not at All	12.4	11.5	2.1	12.6	21.4	29.2	10.3	14.1	12.1	9.3	11.0	8.9	25.4	37.7	20.7	21.8	6.9	10.1
			8)Other	1.2	0.5	0.1	–	0.1	0.2	0.2	–	–	0.3	–	–	0.5	–	1.3	0.3	0.1	–
		*NA含む	9)DK	0.9	*4.1	0.7	–	–	1.5	–	–	0.3	0.9	0.4	1.3	0.8	1.0	3.7	3.7	1.5	1.0

Item	category	2003 South Korea	2004 Singa-pore	1998 JAWS	1999 HA JA	1999 HA NJ	1988 JPN-A	1988 HA JA	1988 HA NJ	1988 USA	1987 FRA	1987 UK	1987 FRG	1992 ITA	1993 HOL	1991 BRZ JB	1988 JPN-B	1988 J-KS8	1993 J-KS9	1998 J-KS10	2003 J-KS11	1993 Omni JPa	1998 Omni JPb	2003 Omni JPc	1998 Omni USA
	#sample	*1006*	*1037*	*344*	*206*	*294*	*2265*	*180*	*319*	*1563*	*1013*	*1043*	*1000*	*1048*	*1083*	**492*	*1017*					*1507*	*1442*	*1431*	*985*
Confucius Teac	1)Strongly A	9.6	17.8																						
	2)Agree	54.7	47.0																						
	3)Disagree	30.5	28.4																						
	4)Strongly Di	4.1	4.1																						
	8)Other	0.3	1.5																						
*NAを含む	9)DK	0.8	1.3																						
Confucius Teac	1)Strongly A	4.1	4.1																						
	2)Agree	27.8	20.4																						
	3)Disagree	56.2	60.6																						
	4)Strongly Di	9.4	8.3																						
	8)Other	0.5	1.6																						
*NAを含む	9)DK	2.0	4.9																						
Confucius Teac	1)Strongly A	4.1	6.5																						
	2)Agree	57.6	39.0																						
	3)Disagree	32.6	45.2																						
	4)Strongly Di	4.3	3.3																						
	8)Other	0.5	3.1																						
*NAを含む	9)DK	1.0	3.0																						
Confucius Teac	1)Strongly A	7.8	10.5																						
	2)Agree	33.4	31.3																						
	3)Disagree	45.6	50.3																						
	4)Strongly Di	12.5	6.4																						
	8)Other	0.1	0.8																						
*NAを含む	9)DK	0.6	0.7																						
Confucius Teac	1)Strongly A	6.1	6.1																						
	2)Agree	29.0	22.7																						
	3)Disagree	48.4	56.4																						
	4)Strongly Di	15.8	13.0																						
	8)Other	0.1	1.2																						
*NAを含む	9)DK	0.6	0.7																						
The Most Respectable Occu																									
Leader's Qualifi	1)Technical	38.5	21.9	45.3																					
	2)Fair in trea	40.0	48.1	49.1																					
	3)Being liked	47.3	29.4	38.7																					
	4)Serious att	16.3	30.2	26.2																					
South Koreaは報告書と集計の方法が異なるため若干、数値が変わって	5)Have many	36.6	37.4	5.2																					
	6)Sincere in	35.2	45.4	20.9																					
	7)Decisive ar	34.9	24.1	28.2																					
	8)Good judgn	33.4	35.4	77.3																					
	9)Ability to b	10.1	18.4	7.3																					
	10)Seniority	3.3	3.0	0.6																					
	11)come fror	1.1	3.4	0.3																					
	Other																								
*NA	DK			0.3																					
	missing	0.4	0.3																						
Health Satisfac	1)Very Satisf	8.1	32.1				13.6	37.8	42.3	46.1	22.6	40.2	19.2	28.6	48.9		15.4								
	2)Fairly Satis	46.6	58.9				57.5	57.2	47.0	41.0	64.4	47.2	61.3	57.5	40.4		57.4								
	3)Fairly Dissa	33.0	6.7				21.1	5.0	8.8	8.4	11.4	8.4	14.2	9.8	5.8		20.1								
	4)Very Dissa	11.6	2.1				5.4	–	0.9	4.3	1.6	4.0	2.6	3.6	3.5		5.2								
	8)Other	–	–				0.1	–	0.6	–	–	–	–	–			0.1								
*NA含む	9)DK	0.7	0.2				2.3	–	0.3	0.2	0.1	0.2	2.7	0.4	1.4		1.8								
Social Stratifica	1)Upper	0.7	0.9				1.1	1.7	3.8	1.5	1.8	0.4	0.9	1.9	11.2		0.4							0.4	
	2)Upper Midd	6.2	5.5				10.9	21.7	31.0	16.7	10.8	7.2	15.9	12.3	32.5		10.0							7.3	
	3)Middle	45.9	76.5				53.6	66.7	53.6	54.5	61.2	53.6	53.7	70.9	44.4		61.3							52.9	
	4)Lower Mid	29.7	12.2				26.9	8.9	9.4	21.6	18.9	28.1	21.5	10.9	6.5		20.2							28.4	
	5)Lower	16.7	4.2				5.4	0.6	1.3	5.2	6.3	8.1	3.4	3.0	3.8		4.4							8.5	
	8)Other	–	–				–	–	0.6	–	–	–	–	–			0.2							–	
*NA含む	9)DK	0.8	0.7				2.1	0.6	0.3	0.5	1.1	2.6	4.6	1.0	1.7		3.5							2.4	
Money or Free	1)More Mone	63.7	47.7		49.5	48.6	60.6	49.4	43.9	65.3	66.8	66.0	43.9	53.6	45.9		37.9								
	2)More Free	33.6	41.4		39.8	44.2	32.7	43.9	50.8	30.1	25.0	27.2	40.7	39.9	37.3		47.9								
	8)Other	1.1	8.4		8.3	4.8	1.5	5.0	3.8	–	–	–	–	–			2.5								
*NA含む	9)DK	1.6	2.5		2.4	2.4	5.3	1.7	1.6	4.7	8.2	6.8	15.4	6.5	16.8		11.8								
Continuing Wor	1)Continue t	71.8	67.7	55.5	46.1	50.3	64.1	49.4	61.1	57.8	55.2	55.7	39.4	56.3	52.4	83.3	60.3	+ 65	M 60	M 64	M 59	65.7	64.0	59.5	
	2)Stop Worki	27.1	27.6	36.0	33.5	34.7	24.1	44.4	30.4	30.4	33.7	34.1	47.7	35.2	20.3	12.1	27.3	28	33	31	35	25.6	26.4	29.2	
	8)Other	0.1	2.5	7.6	11.7	11.9	1.5	5.0	8.2	8.7	7.4	6.3	4.3	0.6	23.9	3.9	1.4	5	2	1	3	0.6	1.1	1.7	
*NA含む	9)DK	1.0	2.2	0.9	8.7	3.1	10.4	1.1	0.3	3.1	3.8	3.8	8.6	7.9	3.4	0.7	11.0	3	5	4	3	8.1	8.5	9.5	
The First Condi	1)Good Salar	30.4	27.3	16.9	16.5	16.7	19.8	14.4	13.2	20.9	16.7	16.5	12.9	20.5	11.6	16.3	15.9	+ 10	M 12	+ 7	K 8	9.8	8.5	7.8	43.2
	2)Safe Job	19.5	28.6	7.3	15.0	10.5	15.4	16.7	11.3	21.6	40.4	29.1	36.0	35.9	17.2	21.2	14.8	15	20	23	19	16.5	20.9	21.7	23.2
	3)People You	28.3	18.3	18.6	23.8	14.6	29.2	21.7	12.5	11.3	6.6	14.9	20.2	9.9	11.8	12.2	30.2	36	31	29	26	33.9	33.1	31.3	9.1
	4)Doing an In	21.3	23.0	55.2	40.8	51.0	29.4	45.6	60.2	43.6	35.0	37.0	23.2	32.1	56.3	40.9	30.8	36	33	36	45	33.6	32.6	33.9	18.9
	8)Other	0.2	0.8	1.5	2.4	6.5	0.5	1.7	2.5	0.4				0.1		7.8	0.5	1	0	0	0	0.2	0.5	0.6	0.9
*NA含む	9)DK	0.3	2.0	0.6	1.5	0.7	5.7	–	0.3	2.1	1.3	2.6	7.7	1.5	3.0	1.7	7.8	2	3	4	2	6.0	4.4	4.8	4.6
Anxiety – Seri	1)Very Much	4.5	66.2		38.3	26.2	21.9	37.8	27.0	32.3	50.5	31.7	16.8	76.4	7.7	56.9	20.7								
	2)Somewhat	14.8	18.5		43.2	33.0	24.9	32.8	32.3	33.5	24.6	17.6	21.8	16.2	16.0	9.0	26.1								
	3)Slightly	51.9	8.4		13.1	26.9	38.7	17.8	27.0	22.3	17.7	30.7	35.4	5.2	36.2	18.5	39.0								
	4)Not at All	27.8	6.1		5.3	11.9	13.6	10.6	13.2	11.5	7.0	19.7	25.5	1.5	36.1	15.6	13.0								
	8)Other	–	0.4		–	1.4	0.0	0.6	0.3	–	–	–	–	–			0.1								
*NA含む	9)DK	1.0	0.4		–	0.7	1.0	0.6	0.3	0.4	0.2	0.3	0.5	0.6	4.1	0.1	1.1								
Anxiety – Car	1)Very Much	5.5	51.7		20.9	12.6	26.0	39.4	32.3	21.9	43.7	23.6	8.5	58.9	6.2	51.3	21.9								
	2)Somewhat	17.1	23.7		40.3	27.6	31.1	32.8	32.6	29.0	27.6	16.1	13.6	26.0	13.7	13.1	31.8								
	3)Slightly	47.3	12.0		31.1	39.1	32.4	21.1	25.4	28.9	20.5	33.1	40.5	11.0	33.1	20.3	35.9								
	4)Not at All	28.8	10.6		6.3	18.4	9.2	5.6	8.5	19.8	8.0	26.7	35.7	3.9	43.4	12.5	8.8								
	8)Other	0.5	1.0		1.0	1.4	–	1.1	0.3	–	–	–	–	–			0.1								
*NA含む	9)DK	0.8	1.1		0.5	1.0	1.3	–	0.9	0.4	0.1	0.5	1.7	0.3	3.7	2.7	1.5								

APVS	Common code	Item	category	2005 Beijing	2005 Shang-hai	2005 Hong Kong	2006 Taiwan	2006 USA	2006 South Korea	2007 Singa-pore	2007 Australia	2008 India	2004 Japan A	2004 JapanB	2002 Japan	2002 Beijing	2002 Shang-hai	2003 Kunming	2002 Hang-zhou	2002 Hong Kong	2003 Taiwan
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*	*785*	*787*	*1062*	*1053*	*1018*	*911*	*1057*	*732*
Q17c	#2.30e	Anxiety — Une	1)Very Much	20.9	29.8	32.7	28.7	16.5	9.2	48.2	21.6	53.0	8.6	11.6							
			2)Somewhat	17.6	22.1	25.4	27.9	25.1	19.8	29.5	24.3	24.1	18.7	15.3							
			3)Slightly	32.4	26.5	34.9	26.4	30.6	34.7	13.8	27.3	9.6	37.9	40.4							
			4)Not at All	26.8	17.1	6.2	16.7	27.2	32.6	8.5	26.7	12.8	30.3	29.0							
			8)Other	1.5	0.8	–	–	0.4	0.7	0.1	–	–	1.4	0.5							
		*NA含む	9)DK	0.9	*3.7	0.7	0.3	0.1	3.0	–	0.1	0.4	3.1	3.2							
Q17d	#2.30f	Anxiety — War	1)Very Much	35.6	37.2	67.4	29.5	20.4	4.7	57.2	32.6	51.6	17.6	15.5	10.7	19.9	12.0	21.5	15.4	44.8	23.2
			2)Somewhat	11.6	14.8	16.0	19.6	22.5	10.2	9.9	19.9	22.7	22.2	21.1	16.5	12.7	9.9	17.0	14.3	22.3	21.6
			3)Slightly	16.3	16.1	9.9	18.7	29.3	37.0	11.0	23.0	8.6	39.9	41.3	41.9	18.9	14.8	24.6	28.2	18.4	25.0
			4)Not at All	34.1	23.4	6.0	31.2	26.7	43.5	21.2	24.0	16.3	17.0	19.0	25.4	46.0	60.1	32.2	36.1	11.3	28.0
			8)Other	1.3	1.0	–	–	0.1	0.6	0.2	–	–	0.4	–	0.4	0.3	0.6	1.7	1.0	0.3	–
		*NA含む	9)DK	1.0	*7.4	0.7	1.0	0.9	4.1	0.5	0.6	0.7	3.0	3.1	5.1	2.3	2.7	3.0	5.0	2.9	2.2
Q18a	#5.81a	Importance – In	1 (Not impor	1.2	1.5	0.7	0.2	0.3	0.1	–	0.9	0.9	0.9		1.1	0.9	0.4	0.8	0.5	0.4	–
	modified		2	0.6	1.0	0.5	–	0.2	0.4	0.3	0.1	0.3	0.3		0.4	0.5	–	0.8	0.2	0.1	0.7
	変更		3	1.1	1.0	0.6	0.2	0.3	0.6	0.3	1.0	0.4	0.7		0.5	0.4	0.2	0.6	0.9	0.4	0.3
			4	3.6	1.7	5.2	2.7	1.3	1.7	0.7	1.0	1.6	4.0		3.6	2.3	1.2	3.1	2.3	4.3	1.8
			5	5.9	4.4	7.1	5.6	1.2	3.8	2.0	1.4	6.2	6.2		4.7	4.5	5.2	3.4	2.6	10.4	5.9
			6	9.2	7.7	13.2	15.9	4.4	20.7	7.4	5.3	17.9	12.6		9.1	6.4	11.4	7.3	11.2	15.9	11.7
			7 (Very impo	77.5	79.9	71.6	75.1	85.3	72.6	86.3	85.4	71.7	74.0		80.1	84.5	81.2	82.3	81.7	67.9	79.4
			8)Other	0.6	0.3	–	–	0.4	0.1	0.6	0.1	–	–		–	0.1	–	0.2	–	–	–
		*NA含む	9)DK	0.3	*2.4	1.2	0.3	6.3	0.1	2.4	4.7	0.9	1.3		0.5	0.5	0.4	1.5	0.5	0.7	0.3
Q18b	#5.81b	Importance – C	1 (Not impor	5.2	2.3	2.5	1.0	1.9	–	1.5	4.6	1.7	2.7		1.7	3.5	1.2	2.5	1.5	2.2	0.5
			2	2.5	1.0	1.4	0.2	3.4	0.4	1.6	3.0	0.8	2.4		1.4	1.1	0.6	1.0	1.5	0.9	0.7
			3	3.8	2.4	2.9	2.5	3.7	0.1	2.5	5.6	0.7	2.8		2.0	2.0	0.9	3.2	1.3	3.5	2.3
			4	10.4	6.5	11.7	7.0	12.2	3.6	7.6	15.7	3.3	16.3		12.6	6.1	5.4	7.4	4.9	11.0	7.4
			5	14.4	10.1	26.7	15.8	23.1	9.5	14.8	29.0	10.3	20.1		16.1	12.9	9.9	6.8	11.5	24.1	18.9
			6	26.1	24.3	23.0	32.0	23.1	30.9	23.0	17.1	29.9	17.5		17.2	26.6	34.1	21.8	25.6	25.4	26.8
			7 (Very impo	36.6	50.7	30.4	41.5	30.5	55.1	48.2	20.0	52.7	34.9		44.9	47.0	47.2	55.8	52.6	31.8	42.8
			8)Other	0.7	0.8	–	–	0.6	0.1	0.3	–	0.0	0.3		0.3	0.4	–	0.3	0.1	0.2	0.1
		*NA含む	9)DK	0.4	*2.1	1.4	0.2	1.6	0.3	0.7	5.0	0.3	3.1		3.9	0.5	0.7	1.3	0.9	1.0	0.5
Q18c	#5.81c	Importance – F	1 (Not impor	6.6	6.2	2.5	0.2	0.7	0.2	0.1	0.9	7.8	0.6		0.8	4.6	1.5	3.7	1.5	1.2	0.3
			2	5.0	2.7	1.5	1.0	1.2	0.1	0.7	1.4	4.9	1.1		0.9	3.2	1.9	2.9	2.0	1.1	0.8
			3	7.5	5.2	5.8	3.0	3.6	1.0	1.4	4.6	5.7	4.0		2.2	7.1	6.3	4.6	6.0	5.5	2.3
			4	21.2	13.3	17.3	10.4	11.8	4.7	10.6	12.7	12.6	22.9		18.7	16.3	16.3	17.7	11.7	18.0	12.3
			5	21.3	19.2	29.2	22.1	23.4	19.1	18.0	28.4	18.9	23.8		20.5	24.9	26.0	16.1	18.6	28.9	23.1
			6	17.9	22.3	23.3	34.7	24.8	38.4	29.7	25.6	22.1	23.5		20.3	20.8	30.8	22.7	27.2	20.2	25.7
			7 (Very impo	19.5	28.0	20.1	28.7	34.1	36.3	39.3	26.3	27.1	23.1		36.2	22.5	16.8	30.9	32.5	24.4	35.5
			8)Other	0.8	1.4	–	–	0.2	–	0.1	–	0.0	–		–	0.2	0.1	0.5	0.1	0.2	–
		*NA含む	9)DK	0.4	*1.7	0.2	–	0.3	0.2	0.1	0.1	0.8	1.1		0.5	0.5	0.3	0.8	0.3	0.6	–
Q18d	#5.81d	Importance – F	1 (Not impor	2.9	2.5	1.6	0.2	0.1	0.1	0.7	0.9	1.9	0.5		0.8	1.9	0.2	1.3	0.5	0.5	0.1
			2	2.8	1.2	0.9	0.2	1.0	0.2	0.9	1.3	1.3	0.9		0.5	1.5	1.1	1.9	1.6	0.9	0.4
			3	8.8	3.7	5.3	4.3	2.1	1.5	1.7	4.0	3.1	1.9		2.2	5.0	3.6	4.9	2.9	5.2	4.4
			4	17.2	10.5	17.6	15.3	8.4	7.4	10.5	11.1	11.3	15.4		10.9	16.0	12.6	13.9	10.2	17.2	19.0
			5	24.2	17.5	30.4	31.3	15.5	21.8	18.0	21.3	21.0	25.0		18.2	24.9	26.1	17.1	16.9	30.7	28.0
			6	22.9	27.6	24.3	30.5	28.3	40.3	36.1	28.1	30.2	27.8		27.7	26.2	36.7	24.1	31.7	25.3	23.4
			7 (Very impo	20.3	34.5	19.8	18.2	44.1	28.5	32.0	33.1	30.6	27.8		38.8	24.5	19.6	36.0	35.8	20.0	24.7
			8)Other	0.6	0.8	–	–	0.4	–	0.1	–	–	–		–	–	–	0.5	0.2	0.1	–
		*NA含む	9)DK	0.3	*1.8	0.1	–	–	0.2	–	0.1	0.5	0.6		1.0	0.1	0.1	0.4	0.1	0.3	–
Q18e	#5.81e	Importance – P	1 (Not impor	1.4	1.3	1.2	–	0.4	0.2	0.1	1.6	0.7	0.4		1.3	0.7	0.5	1.3	0.7	0.4	–
			2	0.8	0.9	0.7	–	1.2	0.2	0.5	1.7	0.6	0.6		0.5	0.8	0.6	0.3	0.4	0.4	0.1
			3	2.0	2.1	1.4	0.7	1.1	0.4	0.4	1.9	2.7	1.2		0.3	2.3	0.8	1.9	1.3	0.9	0.7
			4	5.9	3.7	6.5	4.1	3.6	3.1	2.2	5.1	2.7	8.6		5.8	4.3	4.1	4.3	3.0	6.1	5.2
			5	9.6	8.0	11.2	12.4	6.3	9.4	7.4	8.4	10.2	14.0		11.8	10.5	10.5	8.6	9.9	14.4	15.4
			6	22.7	20.5	24.7	34.7	16.3	30.5	19.3	22.7	29.9	27.0		22.6	23.4	28.5	19.2	20.7	26.5	24.9
			7 (Very impo	57.0	60.8	53.9	47.9	70.7	56.1	70.1	58.1	53.0	47.7		57.2	57.3	54.8	63.7	63.8	51.1	53.7
			8)Other	0.6	0.9	–	–	0.2	–	0.1	–	–	–		–	0.5	0.2	0.3	0.1	0.2	–
		*NA含む	9)DK	0.1	*1.7	0.4	0.2	0.1	0.1	–	0.4	0.2	0.4		0.5	0.2	0.1	0.5	0.1	–	–
Q18f	#5.81f	Importance – R	1 (Not impor	56.6	29.6	21.4	6.5	4.9	10.6	4.7	28.0	3.0	25.7		20.8	56.7	40.1	47.6	35.0	23.6	5.5
			2	12.1	12.3	10.6	10.6	6.8	8.8	3.7	12.4	3.1	14.6		12.3	11.9	17.5	12.1	13.3	11.4	8.6
			3	9.4	9.6	14.7	13.9	7.3	10.9	4.5	9.0	6.5	14.2		13.3	11.1	11.8	8.6	11.4	13.9	15.4
			4	6.5	13.7	17.1	30.5	12.4	21.6	17.6	13.7	6.1	21.1		24.5	7.5	12.3	10.3	13.2	21.2	26.4
			5	4.9	7.8	11.5	19.7	16.2	13.3	13.1	10.9	14.4	9.1		11.1	4.6	8.8	4.1	8.5	10.7	19.1
			6	4.2	7.8	8.4	11.6	17.9	15.7	20.0	7.7	25.7	5.8		5.3	3.7	5.4	5.1	7.4	8.1	11.9
			7 (Very impo	4.9	12.0	10.8	7.0	33.9	18.0	35.8	17.6	40.8	6.5		8.0	2.6	3.5	7.8	7.8	9.5	12.3
			8)Other	0.6	1.5		–	0.6	0.1	0.2	–	–	0.1		0.3	–	0.1	0.5	0.5	0.1	–
		*NA含む	9)DK	0.9	5.6	5.4	0.2	0.1	1.1	0.5	0.7	0.3	2.9		4.3	1.9	0.6	3.8	3.0	1.5	0.8
Q18g	#5.81g	Importance – P	1 (Not impor	20.3	10.5	24.0	19.7	11.1	8.7	10.9	24.6	21.7	4.8		4.4	17.5	11.5	17.7	13.7	21.9	19.8
			2	11.5	6.8	10.7	17.2	12.0	9.5	8.6	15.6	10.7	5.6		4.8	10.5	10.1	8.9	8.9	12.8	16.1
			3	10.2	10.3	18.1	21.1	18.6	13.0	13.2	14.0	15.7	11.4		9.5	12.4	12.3	7.6	12.4	18.0	20.2
			4	14.5	15.7	21.4	22.1	22.4	23.7	27.5	16.6	13.9	26.6		29.2	17.3	21.6	16.9	17.5	25.8	20.5
			5	14.6	14.3	14.0	10.8	18.6	16.6	17.2	15.1	11.7	21.3		19.6	14.3	21.5	12.2	15.0	11.7	11.2
			6	10.3	12.5	4.9	5.5	9.2	14.7	13.5	6.4	12.9	11.9		12.6	11.7	14.5	13.0	14.6	4.9	5.1
			7 (Very impo	17.8	23.8	4.2	3.2	7.3	12.0	8.2	7.1	12.3	15.4		16.0	15.3	8.3	20.5	15.6	3.0	5.3
			8)Other	0.3	1.0	–	–	0.2	–	0.1	–	–	–		0.1	0.1	0.1	0.5	0.4	0.1	–
		*NA含む	9)DK	0.6	*5.0	2.5	0.5	0.4	1.7	0.7	0.6	1.0	2.9		3.7	0.8	0.3	2.8	1.9	1.8	1.8
Q19	#2.3c	Family Life Sati	1)Satisfied	73.5	61.1	61.2	49.3	50.3	35.3	38.8	55.3	73.1	43.4	38.1	47.9	73.2	64.4	70.8	65.4	55.9	55.2
			2)Somewhat	15.1	26.7	27.6	43.3	33.2	32.9	48.5	27.6	24.4	36.1	45.5	33.5	17.0	26.6	11.5	21.0	31.0	38.4
			3)Neutral	5.1	6.5	4.9	3.6	8.5	24.1	9.8	9.0	1.5	14.2	肢無し	11.2	4.9	5.0	8.8	8.0	6.5	2.9
			4)Somewhat	2.8	2.6	4.1	2.3	5.1	5.9	2.3	6.1	0.5	4.7	12.5	5.6	2.9	2.4	4.3	3.0	5.3	2.3
			5)Dissatisfie	2.8	1.6	1.6	0.8	2.2	1.4	0.3	1.7	0.3	1.1	2.9	1.4	1.7	1.3	3.2	1.6	1.1	1.1
			8)Other	0.4	0.2	–	–	–	–	–	0.1	–	–	–	0.1	–	0.1	0.4	0.1	–	–
		*NA含む	9)DK	*0.3	*1.2	0.5	0.7	0.7	0.4	0.3	0.1	0.2	0.5	1.0	0.3	0.3	0.2	0.9	0.9	0.1	0.1

Item	category	2003 South Korea	2004 Singa-pore	1998 JAWS	1999 HA JA	1999 HA NJ	1988 JPN-A	1988 HA JA	1988 HA NJ	1988 USA	1987 FRA	1987 UK	1987 FRG	1992 ITA	1993 HOL	1991 BRZ JB	1988 JPN-B	1988 J-KS8	1993 J-KS9	1998 J-KS10	2003 J-KS11	1993 Omni JPa	1998 Omni JPb	2003 Omni JPc	1998 Omni USA
	#sample	*1006*	*1037*	*344*	*206*	*294*	*2265*	*180*	*319*	*1563*	*1013*	*1043*	*1000*	*1048*	*1083*	**492*	*1017*					*1507*	*1442*	*1431*	*985*
Anxiety — Une	1)Very Much				15.0	16.0	8.2	15.0	15.4	22.3	54.2	31.6	13	47.2	13.3	48.0	7.7								
	2)Somewhat				22.3	23.5	14.4	30.0	26.0	19.3	19.8	13.6	16.3	30.5	17.5	12.5	13.4								
	3)Slightly				27.7	21.8	30.7	28.3	23.2	22.8	14.7	22.3	25.2	14.8	23.3	16.1	31.9								
	4)Not at All				29.1	34.7	41.1	23.9	33.2	33.9	10.1	31.9	43.2	6.8	39.9	22.8	41.8								
	8)Other				1.5	3.1	0.5	1.7	0.9	–	–	–	–	–	–		0.6								
*NA含む	9)DK				4.4	1.0	5.0	1.1	1.3	1.7	1.2	0.5	2.3	0.7	6.0	0.6	4.7								
Anxiety — War	1)Very Much	2.9	45.2		19.9	14.6	11.3	32.8	24.1	21.8	30.9	24.9	19.9	53.1	10.9	56.5	10.8								
	2)Somewhat	10.3	16.9		20.9	20.4	13.3	27.8	25.7	25.2	16.7	15.2	20.5	21.6	16.9	8.1	13.9								
	3)Slightly	38.1	14.1		26.7	32.0	36.4	27.8	25.4	27.4	28.2	26.1	32.4	15.5	26.5	14.9	34.7								
	4)Not at All	44.6	21.6		30.6	29.9	32.9	8.9	22.6	24.3	23.4	33.0	26.1	9.4	44.0	18.9	34.4								
	8)Other	0.7	0.9		0.5	2.4	0.1	1.1	0.9	–	–	–	–	–			0.3								
*NA含む	9)DK	3.4	1.4		1.5	0.7	5.9	1.7	1.3	1.2	0.8	0.8	1.1	0.5	1.7	1.6	5.9								
Importance – In	1 (Not impor	0.7	0.5	–	–	1.7	0.6	1.1	0.9	0.6	2.0	1.2	1.6	0.6	0.8	2.3	1.0								
d	2	0.5	0.2	–	–	1.0	0.2	–	–	–	1.0	0.2	1.2	–	0.5	–	0.3								
	3	0.5	0.3	–	–	0.3	0.4	1.1	0.3	0.4	0.5	0.3	0.9	0.5	1.4	0.4	0.6								
	4	1.4	0.8	0.3	0.5	1.0	2.6	–	1.6	0.9	1.6	1.1	4.6	1.0	2.1	2.8	3.3								
	5	3.6	1.8	0.9	0.5	1.7	4.4	1.1	3.8	2.0	4.1	2.2	5.4	1.8	4.5	2.6	3.9								
	6	6.0	7.4	2.3	1.5	4.8	7.5	4.4	6.6	3.9	8.6	4.5	14.8	5.4	9.0	1.1	8.1								
	7 (Very impo	87.4	85.3	89.8	96.6	87.4	82.6	89.4	83.1	91.6	80.1	88.9	66.9	90.4	80.1	90.3	82.1								
	8)Other	–	0.3	6.7			0.2										0.3								
*NA含む	9)DK	–	3.4	–	1.0	2.0	1.5	2.8	3.8	0.6	2.2	1.6	4.6	0.4	1.6	0.6	0.4								
Importance – C	1 (Not impor	0.4	3.4	1.7	3.9	3.1	1.4	6.1	2.8	10.4	4.7	16.5	8.5	5.4	6.0	2.5	2.0								
	2	0.4	2.6	–	2.9	2.4	0.9	0.6	1.9	2.3	1.8	2.9	7.3	3.3	3.4	0.2	1.9								
	3	0.6	2.1	1.7	3.4	3.4	1.3	2.8	2.5	6.0	1.8	4.1	10.7	5.0	5.2	0.2	2.3								
	4	3.4	7.2	12.2	10.2	9.2	8.4	11.1	8.8	11.5	4.7	14.2	20.0	10.4	15.1	2.1	9.0								
	5	9.1	12.2	21.8	21.4	22.8	12.3	21.7	23.2	18.1	15.2	15.1	22.3	21.1	22.9	3.5	12.3	*							
	6	19.0	21.3	25.3	19.9	22.8	17.6	19.4	21.6	17.4	26.7	15.5	17.1	22.9	22.8	12.6	17.6								
	7 (Very impo	66.9	47.9	26.5	24.3	31.6	54.6	32.2	34.8	29.8	43.5	26.4	12.0	30.8	16.1	78.9	52.6								
	8)Other	–	0.1	10.8			0.5										0.1								
*NA含む	9)DK	0.2	3.2	–	14.1	4.8	3.1	6.1	4.4	4.7	1.6	5.4	2.1	1.0	8.5	–	2.3								
Importance – F	1 (Not impor	0.5	0.4	0.6	1.0	0.7	0.6	0.6	1.9	1.9	1.5	3.4	0.3	2.1	0.6	4.1	0.9								
	2	0.8	0.7	1.5	1.0	2.4	1.1	0.6	2.8	2.4	2.0	3.1	1.5	3.5	1.4	2.8	1.2								
	3	0.5	2.6	3.2	4.4	5.4	3.1	3.9	5.0	5.7	6.5	6.8	2.7	7.1	2.2	8.8	3.3								
	4	4.6	8.2	11.6	13.1	11.2	17.0	16.7	14.4	15.0	16.2	19.0	11.8	16.1	10.7	20.9	15.5								
	5	15.1	18.7	21.5	27.2	28.2	24.2	26.1	22.9	24.6	23.6	25.9	25.4	25.0	23.9	12.6	23.0								
	6	23.2	28.4	22.4	27.2	23.5	20.8	20.6	19.7	22.5	23.9	19.0	30.1	23.1	30.0	17.9	21.7								
	7 (Very impo	55.1	40.8	39.0	25.7	27.9	31.2	31.1	32.6	27.0	25.8	21.5	27.0	21.9	29.2	32.8	33.4								
	8)Other	0.2	0.1	0.3			0.1										0.2								
*NA含む	9)DK	0.1	0.2	–	0.5	0.7	1.9	0.6	0.6	0.8	0.6	1.4	1.2	1.2	1.9	0.1	0.7								
Importance – F	1 (Not impor	0.4	0.6	–	0.5	1.0	0.4	0.6	0.9	1.0	1.7	1.2	0.4	1.2	0.8	1.9	0.6						0.3		1.1
	2	0.3	1.2	–	1.0	1.4	0.7	0.6	1.9	1.7	3.5	1.9	0.5	2.0	1.1	1.3	0.8						0.5		1.3
	3	1.4	2.3	2.3	2.4	3.4	1.5	0.6	3.8	4.0	7.0	5.8	4.2	4.4	1.9	1.2	2.2						2.8		1.6
	4	5.1	8.3	5.8	4.9	11.2	8.7	10.6	12.5	10.4	14.7	15.3	9.4	12.0	7.8	8.1	10.7						14.9		5.3
	5	14.3	18.5	20.1	25.2	25.2	20.4	22.2	22.3	20.0	23.7	21.7	21.2	22.5	18.1	9.4	19.0						23.4		12.3
	6	23.5	28.2	29.1	28.6	26.5	27.5	30.0	25.7	26.6	24.7	27.1	34.2	29.9	35.1	18.3	28.4						20.9		19.1
	7 (Very impo	54.8	40.8	42.7	36.9	31.0	39.4	35.0	32.0	36.0	24.7	26.7	29.0	27.7	34.4	59.8	38.0						35.6		58.8
	8)Other	0.2	0.1	–			0.0										0.1						0.1		–
*NA含む	9)DK	0.1	0.1	–	0.5	0.3	1.5	0.6	0.9	0.3	0.1	0.3	1.1	0.3	0.6	–	0.3						1.5		0.5
Importance – P	1 (Not impor	0.6	0.1	–	–	2.0	0.5	0.6	2.5	1.2	1.8	3.3	1.7	0.6	1.4	1.7	0.9								
	2	0.4	0.6	–	–	2.0	0.4	0.6	1.6	0.8	2.0	2.4	2.1	0.7	1.6	0.6	0.4								
	3	0.4	0.6	1.5	1.0	1.7	1.0	2.2	1.6	2.4	4.2	3.4	4.9	1.4	3.0	0.2	1.2								
	4	1.5	1.4	1.7	1.5	4.8	5.1	0.6	7.8	4.2	8.5	6.5	9.3	3.3	5.7	1.6	5.9								
	5	5.5	8.3	4.7	5.8	6.8	10.6	9.4	7.5	9.5	14.4	10.6	17.1	8.7	13.7	1.4	10.1								
	6	15.3	16.4	16.6	17.0	21.4	22.6	18.3	16.9	18.0	24.1	19.4	29.9	20.9	25.7	7.4	23.1								
	7 (Very impo	76.2	72.5	75.0	74.3	60.2	58.1	66.1	60.2	62.3	44.1	52.6	33.6	63.8	46.5	86.8	58.0								
	8)Other	0.1	0.1	0.6			0.0										–								
*NA含む	9)DK	–	–	–	0.5	1.0	1.6	2.2	1.9	1.6	0.9	1.8	1.4	0.6	2.4	0.2	0.4								
Importance – R	1 (Not impor	12.7	4.7	10.5	6.3	12.2	12.4	11.1	12.9	5.7	25.8	20.4	15.6	10.1	33.0	5.9	14.2								
	2	8.1	4.9	9.0	8.3	8.8	8.7	3.9	6.3	4.2	11.8	12.8	13.8	6.5	11.4	3.7	9.1								
	3	11.1	4.6	11.9	8.7	8.8	13.1	6.1	7.8	5.3	12.2	15.0	15.3	8.2	9.8	5.4	12.0								
	4	17.2	12.9	18.6	16.5	13.9	24.5	17.8	14.4	8.8	14.7	15.5	16.6	11.1	11.7	10.9	24.4								
	5	13.6	14.6	16.3	18.0	11.6	15.9	23.3	11.6	13.5	12.2	11.8	16.4	18.3	9.0	9.4	14.9								
	6	12.2	17.4	13.1	12.1	13.9	7.8	13.3	11.9	15.0	11.1	10.5	11.9	19.5	8.9	12.9	8.7								
	7 (Very impo	22.7	40.1	17.4	28.2	29.9	13.8	24.4	34.8	47.2	11.9	13.8	9.4	25.8	14.8	51.9	13.1								
	8)Other	0.5	0.1	3.2			0.2										0.2								
*NA含む	9)DK	1.9	0.7	–	1.9	0.7	3.6	–	0.3	0.3	0.2	0.2	1.0	0.6	1.4	0.0	3.4								
Importance – P	1 (Not impor	8.0	12.7	13.1	14.6	15.0	2.8	8.3	8.8	11.5	36.2	24.2	9.8	25.1	14.8	14.2	2.3								
	2	9.1	14.0	13.1	12.1	15.6	5.3	8.3	8.5	8.0	14.7	13.6	11.1	14.0	10.4	10.5	4.3								
	3	12.6	12.9	20.1	18.4	15.3	8.9	13.9	14.4	12.2	13.5	16.9	17.0	14.3	16.8	8.5	10.1								
	4	19.0	22.2	26.5	18.9	22.4	24.5	30.6	29.2	21.9	12.0	19.3	21.3	17.1	24.1	15.5	26.5								
	5	12.1	17.8	18.9	21.8	13.9	20.9	20.6	16.9	21.2	11.7	13.9	21.2	12.3	16.8	12.8	21.0								
	6	12.0	9.5	4.1	6.8	10.5	15.0	11.1	9.4	12.3	6.3	5.8	12.9	9.4	9.6	12.2	14.4								
	7 (Very impo	21.0	9.3	2.9	5.8	6.8	18.2	7.2	12.2	12.2	5.0	6.0	5.9	6.1	5.6	24.2	17.7								
	8)Other	0.7	0.1	1.2			0.1										0.3								
*NA含む	9)DK	5.5	1.5	0.3	1.5	0.3	4.4	–	0.6	0.7	0.4	0.4	0.8	1.7	1.8	2.2	3.3								
Family Life Sati	1)Satisfied	45.2	42.7	46.2	49.5	38.8	43.5	45.0	43.3	42.8	40.7	50.1	30.2	38.1	48.3		45.3		M 51	M 44	M 35		* KSでは4		
	2)Somewhat	29.6	47.9	42.7	38.3	43.5	38.7	47.8	41.7	38.3	26.9	39.2	51.2	50.5	39.3		38.8		* 40	* 44	* 52		カテゴリー		
	3)Neutral	11.2	6.1	7.0	6.3	8.2	10.4	5.6	7.2	11.2	16.6	6.1	12.7	8.2	4.8		11.2		*	*	*		であった		
	4)Somewhat	9.9	2.7	3.5	3.9	4.8	4.6	0.6	4.4	6.0	7.5	2.4	2.9	2.1	2.1		3.6		* 7	* 10	* 10				
	5)Dissatisfied	3.7	0.6	0.6	0.5	0.7	1.2	–	1.6	1.2	7.2	0.9	0.3	0.7	0.9		0.5		* 1	* 1	* 2				
	8)Other	–	–	–	0.5	1.7	0.1	–	1.9	0.1							–		* 0	* 0	* 0				
*NA含む	9)DK	0.3	–	–	1.0	2.4	1.4	1.1	–	0.5	1.1	1.2	2.7	0.5	4.5		0.5		* 0	* 1	* 1				

				2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004	2004	2002	2002	2002	2003	2002	2002	2003
APVS	Common code	Item	category	Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singa-pore	Australia	India	Japan A	JapanB	Japan	Beijing	Shang-hai	Kunming	Hang-zhou	Hong Kong	Taiwan
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*	*785*	*787*	*1062*	*1053*	*1018*	*911*	*1057*	*732*
Q20	#2.82	Life Satisfactio	1)Satisfied	41.6	38.7	39.8	40.0	43.0	24.7	31.6	46.7	67.7	27.5	15.7	33.7	37.1	34.4	32.5	38.2	37.7	48.1
			2)Somewhat	27.7	35.8	36.7	50.1	39.8	32.2	52.1	37.1	29.1	43.1	44.7	40.5	28.5	36.8	23.8	32.8	38.7	42.1
			3)Neutral	7.7	9.4	4.8	4.1	7.7	27.7	11.9	9.7	2.0	17.5	肢無し	14.9	7.0	7.3	8.1	9.4	6.5	3.3
			4)Somewhat	13.5	7.6	13.9	4.3	6.4	12.1	3.4	4.0	0.7	8.8	29.0	8.3	14.5	11.4	14.8	9.8	12.9	3.8
			5)Dissatisfie	9.5	7.0	4.6	1.3	2.8	2.8	0.6	2.4	0.2	2.9	10.1	2.4	12.8	10.0	20.0	7.9	4.0	2.6
			8)Other	–	0.2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	0.1	–	–	0.5	0.4	0.1	–
			9)DK	–	1.3	0.1	0.2	0.3	0.5	0.4	–	0.1	0.3	0.5	0.1	0.1	0.1	0.3	1.4	0.1	0.1
Q21a	#2.80a	Health Problem	1)Yes	28.6	34.6	32.0	29.5	34.5	41.4	20.7	32.3	43.5	25.4	25.0	20.5	30.4	29.2	24.8	22.5	32.1	25.0
	modifie	※問の最後にまとめて回答	2)No	71.4	63.3	68.0	70.5	65.5	58.6	79.2	67.7	55.6	74.5	74.9	79.0	69.6	70.7	73.6	73.9	67.9	74.9
	変更		8)Other	–	–	–	※1.6	※0.3	–	–	–	※0.7	–	–	0.3	0.5	0.4	0.7	3.6	1.1	1.0
		*NA、missing含	9)DK	–	*2.2	–	–	※32.6	–	※0.1	–	#0.9	0.1	*0.1	0.9	–	0.4	1.0		0.2	0.3
Q21b	#2.80b	Health Problem	1)Yes	43.0	42.9	46.3	41.8	42.6	45.9	23.7	39.9	26.7	45.8	38.2	33.8	41.9	34.2	32.0	29.4	36.1	36.2
	modifie	※問の最後にまとめて回答	2)No	57.0	54.8	53.7	58.2	57.4	54.1	76.2	60.1	72.4	54.1	61.7	65.7	58.1	65.5	66.3	67.0	63.9	63.7
	変更		8)Other	–	–	–	※1.6	※0.3	–	–	–	※0.7	–	–	0.3	0.5	0.4	0.7	3.6	1.1	1.0
		*NA、missing含	9)DK	–	*2.3	–	–	※32.6	–	※0.1	–	#0.9	0.1	*0.1	0.9	–	0.5	1.0		0.2	0.3
Q21c	#2.80c	Health Problem	1)Yes	39.6	28.4	33.5	16.3	25.2	20.6	10.4	22.0	16.1	33.6	26.5	20.6	30.4	20.8	26.5	18.0	29.4	12.6
	modifie	※問の最後にまとめて回答	2)No	60.4	69.1	66.5	83.7	74.8	79.4	89.5	78.0	83.0	66.3	73.4	78.9	69.6	79.0	71.8	78.4	70.6	87.3
	変更		8)Other	–	–	–	※1.6	※0.3	–	–	–	※0.7	–	–	0.3	0.5	0.4	0.7	3.6	1.1	1.0
		*NA、missing含	9)DK	–	*2.4	–	–	※32.6	–	※0.1	–	#0.9	0.1	*0.1	0.9	–	0.4	1.0		0.2	0.3
Q21d	#2.80d	Health Problem	1)Yes	35.3	25.7	28.9	14.4	25.5	23.0	10.3	20.7	16.5	12.5	9.9	6.9	29.0	19.4	25.1	16.8	28.5	12.3
	modifie	※問の最後にまとめて回答	2)No	64.6	71.6	71.1	85.6	74.5	77.0	89.6	79.3	82.5	87.4	89.9	92.5	71.0	80.4	73.2	79.6	71.5	87.4
	変更		8)Other	–	–	–	※1.6	※0.3	–	–	–	※0.7	–	–	0.3	0.5	0.4	0.7	3.6	1.1	1.0
		*NA、missing含	9)DK	0.1	*2.7	–	–	※32.6	–	※0.1	–	#0.9	0.1	*0.1	1.0	–	0.4	1.0		0.2	0.4
Q21e	#2.80e	Health Problem	1)Yes	31.5	31.2	36.3	25.7	26.9	18.6	14.0	26.3	16.2	14.6	15.2	11.1	33.8	31.6	31.4	22.9	32.3	27.5
	modifie	※問の最後にまとめて回答	2)No	68.5	65.9	63.7	74.3	73.1	81.4	85.9	73.7	82.9	85.3	84.7	88.1	66.2	68.2	66.9	73.4	67.6	72.3
	変更		8)Other	–	–	–	※1.6	※0.3	–	–	–	※0.7	–	–	0.3	0.5	0.4	0.7	3.6	1.1	1.0
		*NA、missing含	9)DK	–	*2.9	–	–	※32.6	–	※0.1	–	#0.9	0.2	*0.1	1.3	–	0.4	1.0		0.3	0.4
Q22		Adviser	Father	1) 6.3	1) 8.0	1) 2.2	1) 4.0	1) 7.7	1) 2.3	1) 3.4	1) 5.9	1)12.3	1) 1.9	※選択肢が異なる	1) 3.6	9.6	9.6	11.2	11.6	3.3	7.7
			Mother	2) 8.1	2) 8.6	2) 4.9	2) 9.8	2)14.5	2) 6.5	2)11.2	2)15.7	2)19.9	2) 7.3		2) 8.5	12.1	9.2	10.1	7.2	6.7	9.8
			Brother or S	3) 6.6	3) 8.8	3)10.0	3) 7.0	3) 9.4	3) 7.5	3) 8.4	3) 9.9	3) 6.3	3) 7.4		3)14.2	15.7	13.8	11.2	13.5	12.7	11.6
			Spouse or pa	4)44.3	4)46.8	4)43.6	4)47.3	4)40.1	4)44.6	4)44.1	4)43.7	4)43.3	4)60.4		この問の東アジア調査の選択肢はJapanと同じ						
			The Other Fa	5) 6.0	5) 3.2	5) 9.0	5) 4.8	5) 7.9	5) 5.8	5) 7.6	5) 6.3	5) 7.1	5) 5.9		4)44.0	25.8	31.2	22.6	18.3	32.9	40.6
			Teacher of Your School				6) 0.5								5) 0.4	0.3	0.2	0.7	0.5	0.6	–
			Friend	6)17.5	6)14.1	6)20.8	7)16.7	6)14.7	6)23.6	6)15.5	6)12.7	6) 8.1	6)10.4		6)18.3	29.8	28.3	27.7	23.9	35.8	22.5
			Person to co	7) 0.9	7) 1.1	7) 0.5		7) 0.6	7) –	7) 0.2	7) 1.9	7) 0.3	7) 0.6								
			Other	8) 4.7	8) 1.8	8) 0.5	8) 0.5	8) 2.0	8) 1.2	8) 2.8	8) 2.4	8) 1.3	8) 0.9	※0.5	7) 1.7	1.0	1.4	3.3	12.1	0.9	0.3
		*NA含む	I don't have	9) 3.8	9) *3.5	9) 6.8	9) 6.5	9) 2.3	9) 7.0	9) 5.3	9) 1.3	9) 0.5	9) 2.4	※2.9	8) 3.3	4.5	5.2	10.3	5.9	5.7	4.0
			I don't have	10)1.7	10)4.0	10) 1.6	10) 3.0	10) 0.9	10) 1.6	10) 1.5	10) 0.3	10) 0.6	10) 2.8	※	9) 6.1	1.1	1.0	2.8	6.8	1.5	3.6
Q23	#7.19	Ability, Luck or	1)Ability and	52.2	50.5	64.2	67.0	67.5	66.0	71.1	69.6	63.4	62.6		60.1	52.8	52.6	49.2	48.7	67.1	69.4
	modified		2)Luck and C	36.3	36.6	23.4	24.4	11.4	12.8	15.5	11.9	30.3	22.1		23.1	34.3	34.6	25.7	31.8	22.7	23.5
	変更		3)Personal c	8.3	8.3	10.6	5.5	19.2	20.4	9.4	15.1	4.6	11.6		10.3	7.7	7.9	10.5	6.6	7.8	3.3
			8)Other	2.8	1.5	1.1	1.0	0.6	0.1	–	1.9	0.1	0.6		1.1	4.5	3.5	11.6	8.2	0.2	0.8
		*NA含む	9)DK	0.5	*3.1	0.7	2.2	1.3	0.7	4.0	1.6	1.4	3.1		5.4	0.7	1.4	2.9	4.6	2.3	3.0
Q24a		Supernatural Pl	1)Boring	23.5	23.0	19.7	9.6	9.8	7.7	3.1	11.0	9.6	15.2	13.2							
			2)would like t	9.8	14.0	10.2	11.8	4.6	19.7	5.1	4.3	18.4	12.9	14.1							
			3)Exist	26.2	18.5	28.3	35.8	18.8	14.7	32.0	20.9	25.9	16.4	17.2							
			4)Dreadful, S	0.6	0.8	2.1	1.3	1.3	2.5	2.9	1.0	8.1	1.9	2.0							
			5)Would not	4.4	5.0	3.3	9.0	2.2	4.9	3.9	2.4	8.2	4.3	4.5							
		South Koreaのみ番号が異なる	6)Interesting	9.0	5.1	11.3	8.0	21.5	7)16.1	17.6	30.1	10.0	21.7	21.3							
			7)Nonsense	16.3	13.4	18.5	9.8	29.0	6)23.4	30.0	22.6	9.2	15.9	17.8							
			8)Not dreadf	6.0	2.8	3.2	7.5	4.8	1.3	2.1	4.0	3.3	3.7	2.3							
			80)other	0.8	0.9	0.2	0.2	0.8	9) 0.4	0.7	0.6	98) –	0.4	0.3							
		*NA含む	99)DK	*3.5	*16.6	3.2	7.1	7.3	0) 9.4	2.5	3.1	7.1	7.6	7.3							
Q24b		Supernatural Pl	1)Boring	13.1	16.3	18.4	12.6	8.7	8.3	4.9	9.7	7.0	13.1	12.4							
			2)would like t	14.3	18.3	9.9	12.1	1.0	9.5	1.4	2.0	18.5	9.0	10.2							
			3)Exist	24.4	15.9	20.8	22.6	17.1	10.7	14.1	15.9	14.5	12.3	12.4							
			4)Dreadful, S	1.6	1.7	2.9	3.3	2.1	2.5	2.5	1.3	7.7	3.4	3.6							
			5)Would not	6.1	7.0	5.3	15.6	1.4	8.0	4.9	2.7	10.5	9.1	9.3							
			6)Interesting	11.4	6.7	8.4	5.0	19.9	7)14.4	20.5	29.6	14.4	19.5	21.3							
			7)Nonsense	18.2	13.1	25.7	10.6	36.7	6)31.3	43.6	28.3	13.9	22.3	21.8							
			8)Not dreadf	5.7	3.2	3.4	8.5	4.8	1.1	2.8	6.0	3.1	3.0	1.8							
			80)other	0.9	0.9	0.1	0.3	0.6	9) 0.9	0.5	0.4	98)0.0	0.2	0.1							
		*NA含む	99)DK	*4.2	*16.9	5.1	9.5	7.8	0)13.5	4.7	4.1	10.2	8.1	7.3							
Q24c		Supernatural Pl	1)Boring	31.7	25.3	14.0	9.0	10.5	8.0	4.7	11.3	6.7	14.3	10.7							
			2)would like t	2.0	2.6	1.4	1.5	0.9	3.3	0.9	1.0	6.0	3.2	3.4							
			3)Exist	4.7	5.2	24.5	24.2	6.0	3.7	20.2	2.4	10.7	3.8	2.4							
			4)Dreadful, S	6.4	8.2	11.8	19.1	2.8	4.7	11.0	1.0	18.8	11.9	9.3							
			5)Would not	8.4	13.4	16.6	25.4	5.1	9.2	5.1	3.1	14.5	18.3	22.2							
			6)Interesting	3.3	1.4	0.9	0.3	8.3	7)12.7	9.4	13.9	6.2	9.7	10.2							
			7)Nonsense	35.8	26.2	23.8	7.6	45.4	6)48.0	39.4	56.9	23.1	29.3	31.7							
			8)Not dreadf	5.1	4.0	4.0	8.8	5.0	2.3	3.0	5.1	6.2	4.0	3.9							
			80)other	0.7	0.6	0.1	0.3	1.0	9) 0.5	0.7	0.4	98)0.2	–	0.1							
		*NA含む	99)DK	*1.9	*13.1	2.8	3.8	15.0	0) 7.7	5.5	4.9	7.4	5.4	6.0							
Q24d		Supernatural Pl	1)Boring	33.8	27.1	14.7	10.4	7.4	6.1	2.8	5.9	6.5	10.5	6.5							
			2)would like t	1.5	1.9	1.4	0.8	0.8	2.0	0.6	1.3	6.7	2.7	1.4							
			3)Exist	7.6	5.1	23.8	23.9	23.0	11.9	45.9	26.0	10.7	14.0	13.1							
			4)Dreadful, S	5.1	8.7	10.7	18.4	3.1	8.5	12.5	3.7	18.5	14.8	16.3							
			5)Would not	7.7	12.6	18.0	27.2	3.7	12.1	2.9	1.4	15.7	28.4	34.3							
			6)Interesting	2.6	1.0	0.8	0.3	14.9	7) 7.2	6.9	24.6	4.5	2.4	2.8							
			7)Nonsense	33.4	24.8	22.7	6.3	34.0	6)38.6	22.6	30.3	22.7	18.3	16.4							
			8)Not dreadf	5.7	3.7	4.6	7.8	5.9	3.7	1.7	4.9	7.4	3.5	3.3							
			80)other	0.7	0.9	0.1	0.5	1.2	9) 0.6	0.6	0.4	98)0.2	0.4	0.1							
		*NA含む	99)DK	*1.9	*14.2	3.1	4.3	6.1	0) 9.1	3.5	1.6	7.0	5.0	5.7							

Item	category	2003 South Korea	2004 Singa-pore	1998 JAWS	1999 HA JA	1999 HA NJ	1988 JPN-A	1988 HA JA	1988 HA NJ	1988 USA	1987 FRA	1987 UK	1987 FRG	1992 ITA	1993 HOL	1991 BRZ JB	1988 JPN-B	1988 J-KS8	1993 J-KS9	1998 J-KS10	2003 J-KS11	1993 Omni JPa	1998 Omni JPb	2003 Omni JPc	1998 Omni USA
	#sample	*1006*	*1037*	*344*	*206*	*294*	*2265*	*180*	*319*	*1563*	*1013*	*1043*	*1000*	*1048*	*1083*	**492*	*1017*					*1507*	*1442*	*1431*	*985*
Life Satisfactio	1)Satisfied	29.9	34.7				32.8	30.0	31.7	31.2	21.0	31.1	17.2	16.6	34.4	63.5	32.2								
	2)Somewhat	35.5	53.6				41.4	57.8	55.8	48.6	30.8	54.5	59.3	55.4	52.5	17.7	44.9								
	3)Neutral	9.4	6.4				13.2	9.4	8.2	12.3	31.5	7.5	16.5	18.4	6.8	11.0	12.6								
	4)Somewhat	18.4	4.2				9.6	1.7	3.4	6.7	10.3	4.7	4.3	6.9	4.1	6.1	8.2								
	5)Dissatisfie	6.6	1.0				2.7	0.6	0.6	0.8	5.8	1.8	0.8	2.4	1.0	1.8	2.1								
	8)Other	–	–				–	–	0.3	0.1	–	–	–	–		0.0	–								
	9)DK	0.2	0.1				0.3	0.6	–	0.4	0.6	0.5	1.9	0.3	1.1		0.1								
Health Problem ※問の最後にまとめて回答	1)Yes	45.2	24.1	26.2	27.7	32.7	21.9			34.6	35.8	36.1	40.6	44.7	40.4		22.5		M 25	M 28	M 28			23.4	
	2)No	54.8	75.1	73.8	71.8	67.0	76.9			64.8	63.9	63.5	58.3	54.5	58.0		77.0		75	72	71			75.9	
	8)Other	0.8	3.0				1.1										0.5		0	–	–			0.6	
*NA、missing含	9)DK	–	0.8	–	0.5	0.3	–			0.6	0.3	0.4	1.1	0.9	1.7		–		0	–	0			1.4	
Health Problem ※問の最後にまとめて回答	1)Yes	49.2	20.6	36.0	39.3	44.2	19.1			37.8	46.3	35.5	32.9	45.8	34.0		19.2		M 25	M 27	M 26			37.8	
	2)No	50.8	78.6	63.7	60.7	55.4	79.8			61.7	53.6	64.0	65.8	53.1	64.5		80.3		74	73	71			61.5	
	8)Other	0.8	3.0				1.1										0.5		0	0	0			0.6	
*NA、missing含	9)DK	–	0.8	0.3	–	0.3	–			0.5	0.1	0.6	1.3	1.0	1.5		–		0	0	0			1.4	
Health Problem ※問の最後にまとめて回答	1)Yes	24.7	7.2	20.1	11.7	20.7	25.7			30.3	55.8	19.7	25.1	55.0	34.3		26.2		M 38	M 46	M 45			29.5	
	2)No	75.2	92.0	79.4	88.3	77.9	73.2			69.0	44.0	79.7	72.7	43.9	64.1		73.4		62	54	55			69.8	
	8)Other	0.8	3.0				1.1										0.5		0	–	0			0.6	
*NA、missing含	9)DK	0.1	0.8	0.6	–	1.4	–			0.8	0.2	0.7	2.2	1.1	1.7		–		0	–	0			1.4	
Health Problem ※問の最後にまとめて回答	1)Yes	27.6	9.2	14.5	6.3	22.4	5.4			20.7	19.5	20.9	7.7	24.5	14.2		5.7		M 8	M 10	M 35			18.5	
	2)No	72.4	90.1	83.7	92.2	76.9	93.4			78.2	80.2	78.4	90.6	73.9	83.8		93.8		92	90	65			80.8	
	8)Other	0.8	3.0				1.1										0.5		0	–	0			0.6	
*NA、missing含	9)DK	–	0.8	1.7	1.5	0.7	–			1.0	0.3	0.7	1.7	1.6	1.9		–		0	0	0			1.4	
Health Problem ※問の最後にまとめて回答	1)Yes	24.8	11.1	21.8	13.6	22.8	12.0			16.9	31.9	18.5	25.9	24.4	25.0		12.2		M 15	M 18	M 22			12.6	
	2)No	75.2	88.1	77.6	86.4	76.2	86.8			82.4	67.9	80.4	72.5	74.2	73.8		87.3		85	82	78			86.7	
	8)Other	0.8	3.0				1.1										0.5		0	–	–			0.6	
*NA、missing含	9)DK	–	0.8	0.6	–	1.0	–			0.7	0.2	1.1	1.6	1.3	1.2		–		0	–	0			1.4	
Adviser	Father	3.0	3.6																						
	Mother	6.8	8.8																						
	Brother or S	17.1	11.2																						
	Spouse or pa																								
	The Other F	34.7	47.1																						
	Teacher of Y	0.2	–																						
	Friend	27.8	18.9																						
	Person to co																								
	Other	2.0	5.7																						
*NA含む	I don't have	7.3	3.1																						
	I don't have	1.2	1.7																						
Ability, Luck or d	1)Ability and	60.2	67.1																						
	2)Luck and C	14.8	15.4																						
	3)Personal c	22.7	10.4																						
	8)Other	0.3	4.5																						
*NA含む	9)DK	2.0	2.5																						
Supernatural Ph	1)Boring																								
	2)would like t																								
	3)Exist																								
	4)Dreadful, S																								
	5)Would not																								
South Koreaのみ番号が異なる	6)Interesting																								
	7)Nonsense																								
	8)Not dreadf																								
	80)other																								
*NA含む	99)DK																								
Supernatural Ph	1)Boring																								
	2)would like t																								
	3)Exist																								
	4)Dreadful, S																								
	5)Would not																								
	6)Interesting																								
	7)Nonsense																								
	8)Not dreadf																								
	80)other																								
*NA含む	99)DK																								
Supernatural Ph	1)Boring																								
	2)would like t																								
	3)Exist																								
	4)Dreadful, S																								
	5)Would not																								
	6)Interesting																								
	7)Nonsense																								
	8)Not dreadf																								
	80)other																								
*NA含む	99)DK																								
Supernatural Ph	1)Boring																								
	2)would like t																								
	3)Exist																								
	4)Dreadful, S																								
	5)Would not																								
	6)Interesting																								
	7)Nonsense																								
	8)Not dreadf																								
	80)other																								
*NA含む	99)DK																								

APVS	Common code	Item	category	2005 Beijing	2005 Shang-hai	2005 Hong Kong	2006 Taiwan	2006 USA	2006 South Korea	2007 Singa-pore	2007 Australia	2008 India	2004 Japan A	2004 JapanB	2002 Japan	2002 Beijing	2002 Shang-hai	2003 Kunming	2002 Hang-zhou	2002 Hong Kong	2003 Taiwan
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*	*785*	*787*	*1062*	*1053*	*1018*	*911*	*1057*	*732*
Q25	#7.1	Science and Hu	1)Agree	58.2	45.1	71.4	81.1	66.4	74.8	57.0	66.9	65.7	52.0		53.2	54.9	60.2	57.6	45.6	75.9	83.5
			2)Disagree	17.7	17.0	12.8	13.4	20.0	13.4	27.1	26.0	28.8	23.2		18.3	23.2	24.1	16.7	23.7	12.5	10.5
			3)Undecided	23.6	34.7	15.3	5.1	11.9	10.2	12.4	6.1	4.7	20.6		23.6	21.7	14.3	23.6	26.9	10.1	4.9
			8)Other	0.5	0.1	–	–	–	–	–	–	0.0	–		0.1	–	0.3	1.2	0.4	–	–
		*NA含む	9)DK	–	*3.0	0.5	0.3	1.8	1.7	3.5	1.0	0.7	4.2		4.7	0.3	1.0	1.0	3.4	1.5	1.1
Q26	#8.1b	Political Leader	1)Agree	32.4	24.5	38.4	33.8	11.8	35.2	27.7	12.6	56.2	16.2	16.7	13.5	34.2	30.2	37.1	26.3	36.7	34.7
			2)Disagree	44.3	31.6	41.6	42.5	77.1	45.1	50.5	82.1	37.9	61.5	56.4	60.1	32.1	38.9	27.7	32.4	45.2	35.1
			3)Undecided	20.0	35.7	17.0	19.1	8.9	17.8	18.9	4.6	4.9	18.4	21.9	20.8	31.3	26.8	25.7	31.0	11.7	22.1
			8)Other	1.5	0.2	–	0.3	0.1	–	–	–	–	–	0.1	–	–	–	1.0	0.7	–	–
		*NA含む	9)DK	1.7	*8.0	3.1	4.3	2.1	1.8	2.9	0.7	1.0	3.9	4.8	5.6	2.4	4.1	8.4	9.7	6.3	8.1
Q27	#4.30	Home is Relaxir	1)Yes	70.8	65.8	80.7	91.4	53.4	92.9	84.2	49.4	88.3	76.6		74.8	70.4	73.8	65.8	63.0	78.7	89.8
			2)No	27.3	26.9	19.0	7.8	45.5	6.6	14.6	49.1	10.0	19.1		19.9	28.5	24.7	28.3	31.1	19.3	9.4
			8)Other	1.6	1.4	0.2	0.3	0.2	0.1	–	1.3	1.0	1.4		1.3	–	0.9	3.1	1.1	0.5	–
		*NA含む	9)DK	0.3	*5.8	0.1	0.5	0.9	0.4	1.2	0.1	0.7	2.9		3.9	1.0	0.6	2.8	4.8	1.5	0.8
Q28	#4.32	Marriage is Per	1)Permanent	22.8	23.9	16.7	17.7	30.3	38.7	51.7	34.3	79.4	24.3		23.5	16.7	13.6	19.0	17.5	16.3	21.2
			2)Broken onl	42.3	43.0	46.2	56.7	50.1	38.1	35.7	42.4	12.8	44.7		43.3	50.1	52.2	52.0	47.1	46.4	53.7
			3)Broken by	32.5	25.9	34.7	23.2	17.6	21.7	10.0	22.6	6.9	26.9		26.8	30.6	32.0	21.2	20.6	34.2	19.9
			8)Other	1.5	0.7	–	0.2	0.2	0.1	–	0.4	–	0.3		0.9	0.8	0.5	2.8	1.0	0.3	–
		*NA含む	9)DK	0.9	*6.5	2.4	2.2	1.8	1.4	2.6	0.3	0.8	3.9		5.5	1.8	1.7	5.0	13.8	2.9	5.2
Q29	#2.5	Man and Nature	1)Follow Nat	39.3	41.3	43.6	48.9	29.5	58.9	48.1	42.0	64.1	46.1		40.3	34.8	26.1	40.8	20.3	35.4	43.6
			2)Make Use	35.3	32.7	39.0	30.7	56.6	32.7	36.5	52.7	27.8	40.2		38.9	38.5	45.6	32.1	45.3	44.7	30.7
			3)Conquer N	24.2	20.9	13.8	18.1	5.7	5.8	10.0	3.0	7.3	5.6		5.7	24.5	25.5	20.8	23.6	14.1	15.7
			8)Other	0.9	1.0	0.8	0.2	1.3	0.3	–	0.9	–	0.5		1.9	1.1	0.4	3.4	1.3	0.1	–
		*NA含む	9)DK	0.3	4.0	2.8	2.2	6.9	2.2	5.4	1.4	0.7	7.6		13.2	1.0	2.5	2.8	9.4	5.8	10.0
Q30	#7.4	Individuals or C	1)Making Ind	4.7	11.5	8.2	12.8	29.4	37.1	24.6	30.4	44.8	26.1		30.1	4.7	4.8	5.3	7.9	8.6	8.7
			2)Improving t	45.5	52.6	22.4	27.9	32.0	28.0	32.0	24.3	38.3	23.7		19.8	49.2	55.6	49.4	49.3	27.2	25.1
			3)Same Thin	49.8	33.4	68.1	57.2	28.5	33.9	38.2	38.6	15.9	45.5		41.6	45.4	38.9	42.7	35.9	62.1	60.8
			8)Other	–	0.2	0.4	0.2	0.7	0.1	–	2.1	0.0	–		0.4	0.4	0.3	0.5	0.3	–	–
		*NA含む	9)DK	0.1	*2.3	0.9	2.0	9.4	1.0	5.2	4.6	0.9	4.7		8.1	0.4	0.4	2.1	6.6	2.2	5.3
Q31	#7.2	Mechanization	1)Disagree	28.8	30.1	36.6	72.5	33.7	71.0	38.8	27.4	47.8	32.6	東アジア以前はJapan2002と同じ	2)33.4	36.5	45.1	38.3	30.0	40.6	66.9
	modifie	他の調査とは	2)Agree	42.5	31.4	45.9	17.2	48.7	18.8	45.3	65.3	46.6	43.6		1)36.5	37.0	34.7	34.7	34.7	44.7	21.7
	変更	1)と2)が逆	3)Undecided	27.7	33.1	17.0	8.1	15.3	8.8	12.9	6.4	4.9	18.5		25.2	25.6	18.7	23.6	30.5	11.9	8.1
			8)Other	0.4	0.1	–	0.2	0.1	–	–	–	–	–		0.1	–	0.1	0.3	0.1	–	–
		*NA含む	9)DK	*0.7	*5.4	0.5	2.0	2.1	1.4	3.1	0.9	0.7	5.3		4.8	0.9	1.4	3.1	4.7	2.7	3.3
Q32a		Spirituality – Bu	1)Exists	17.9	17.8	43.0	47.4	70.7	25.5	72.1	48.9	86.5	40.5	36.9	30.7	12.1	13.9	14.6	13.4	42.7	48.1
			2)May exist	24.7	37.9	33.5	42.5	20.8	28.4	20.0	28.9	9.4	40.9	43.1	43.6	20.3	26.1	21.5	22.8	33.2	38.1
			3)Dose not e	54.8	31.6	22.0	8.6	5.4	35.5	6.2	19.0	2.6	14.8	17.2	20.8	65.7	58.2	56.6	56.2	21.6	9.7
			8)Other	0.8	0.1					1.2	0.3	–	0.4	0.3							
		*NA含む	9)DK	1.9	*12.6	1.5	1.5	3.1	10.5	0.6	3.0	1.4	3.4	2.5	4.8	1.8	1.8	7.3	7.6	2.6	4.1
Q32b		Spirituality – Lif	1)Exists	9.1	7.0	32.2	35.3	50.3	23.4	52.8	37.0	30.4	18.8	17.3	15.5	5.9	7.5	8.3	8.3	31.8	31.0
			2)May exist	21.3	30.7	32.5	45.4	32.6	27.7	27.5	35.6	34.8	44.9	40.5	39.3	14.8	22.8	15.7	17.5	28.2	44.1
			3)Dose not e	64.4	41.9	29.3	14.1	13.2	35.7	16.5	23.4	24.9	26.2	33.9	33.2	76.8	64.5	63.2	64.2	30.0	15.8
			8)Other	0.6	–					1.4	0.3	0.2	0.2	–							
		*NA含む	9)DK	4.7	*20.4	6.0	5.1	3.9	13.2	1.8	3.7	9.8	10.0	8.3	12.1	2.5	5.2	12.9	10.0	10.0	9.0
Q32c		Spirituality – A	1)Exists	17.0	10.0	41.8	40.6	64.4	26.3	56.5	53.0	43.8	32.4	27.0	27.1	13.1	9.4	13.9	10.3	40.4	39.6
			2)May exist	23.4	34.2	28.7	45.4	27.4	33.7	29.4	30.7	29.0	43.2	44.5	42.3	19.0	25.3	20.4	20.3	28.9	39.9
			3)Dose not e	56.3	36.2	25.0	9.3	5.9	28.7	10.7	13.1	21.0	17.9	21.3	21.9	66.0	61.4	56.2	59.8	25.0	13.9
			8)Other	0.7	0.1					1.4	0.4	0.1	0.2	–							
		*NA含む	9)DK	*2.7	*19.6	4.5	4.6	2.3	11.3	2.1	2.7	6.2	6.3	7.3	8.8	1.9	3.9	9.5	9.5	5.7	6.6
Q33	#5.1d	Social Values	1)Filial piety	86.7	88.8	83.5	82.4	58.0	83.7	86.3	60.9	88.1	73.5		77.4	87.9	89.4	86.4	85.7	80.2	89.5
			2)Repaying o	62.5	65.0	53.1	64.5	43.7	63.1	53.4	28.3	44.1	66.1		58.6	56.5	55.9	56.4	54.7	44.9	61.5
			3)Individual r	28.5	26.6	23.4	27.7	56.2	29.2	39.3	65.7	27.8	26.0		25.5	32.2	34.9	29.9	32.4	29.2	25.8
			4)Individual fi	21.7	19.1	39.8	24.7	39.5	24.1	18.6	41.4	15.6	33.1		33.9	23.4	19.5	24.9	24.1	43.4	20.2
			8)Other	0.4	0.1	–	–	–	–	–	0.4	–	0.3		0.3	–	0.3	0.9	2.2	0.6	–
		*NA含む	9)DK	–	*0.5	–	0.3	1.1	–	1.2	0.3	0.2	1.3		4.6	0.1	0.3	0.7		1.2	1.0
Q34a	#5.1c1	Employment Ex	1)One with th	80.4	70.3	69.0	74.8	65.5	79.9	76.1	76.0	85.0	69.4		67.3	79.2	79.0	70.9	60.2	66.2	70.4
			2)Your Relati	16.4	18.7	26.7	20.4	29.5	17.0	18.3	19.7	12.9	20.2		18.8	15.9	18.7	17.7	23.5	30.5	20.6
			8)Other	1.9	1.1	1.2	0.3	1.2	0.7	–	2.3	0.1	1.4		1.9	1.9	0.9	5.5	2.9	0.8	0.4
		*NA含む	9)DK	1.2	*9.8	3.1	4.5	3.8	2.4	5.6	2.0	2.0	9.0		11.9	3.0	1.3	5.9	13.5	2.6	8.6
Q34b	#5.1c2	Employment Ex	1)One with th	60.6	52.8	52.5	52.9	63.8	50.1	60.4	67.1	79.2	46.2		44.1	59.3	54.4	57.4	47.4	46.7	52.9
			2)Son of You	35.9	36.1	43.1	42.1	29.9	45.9	33.9	27.4	18.1	42.2		39.9	35.7	43.2	30.6	37.2	48.4	38.4
			8)Other	2.5	1.4	0.8	0.2	1.4	0.8	–	2.0	0.6	1.9		1.9	2.2	1.1	4.7	3.2	0.9	0.4
		*NA含む	9)DK	1.0	*9.7	3.5	4.8	4.9	3.2	5.7	3.4	2.1	9.7		14.1	2.8	1.2	7.4	12.2	4.0	8.3
Q35	#5.6	Preferred Type	1)Never Doe	21.7	19.1	10.1	22.9	28.6	11.1	31.3	30.0	58.9	13.6	13.5	14.2	21.8	18.7	15.2	19.3	11.1	19.3
			2)Looks after	74.2	64.6	87.2	69.8	68.9	85.3	61.9	67.6	40.1	79.0	81.5	75.9	72.4	76.3	69.9	59.3	86.0	67.1
			8)Other	2.8	2.4	0.8	0.3	0.6	–	–	0.4	0.1	0.4	0.4	0.5	2.8	1.2	6.8	4.0	0.3	0.3
		*NA含む	9)DK	1.4	*13.9	1.9	7.0	1.9	3.6	6.8	2.0	0.9	7.0	4.6	9.4	2.9	3.8	8.1	17.5	2.6	13.4
Q36	#2.12	People's Help	1)Try to Be H	67.3	65.3	41.0	45.9	56.4	56.7	50.4	54.0	61.1	34.8	36.7	35.8	61.6	58.9	47.8	60.7	36.4	38.4
			2)Look out fo	29.2	26.8	53.1	51.2	41.1	40.7	44.4	42.6	37.6	53.6	55.2	45.7	36.1	37.3	43.6	28.1	58.5	57.2
			8)Other	2.8	1.5	2.2	0.3	0.2	–	–	1.7	0.1	1.4	0.9	2.4	0.7	2.1	5.7	2.7	0.9	0.1
		*NA含む	9)DK	0.7	*6.4	3.7	2.5	2.3	2.6	5.2	1.7	1.2	10.2	7.3	16.0	1.7	1.7	2.8	8.5	4.2	4.2
Q37	#2.12b	People's Fairne	1)Take Advar	34.6	23.5	52.2	35.0	41.0	47.6	44.7	37.4	69.5	29.9		30.5	33.5	21.6	30.6	19.9	49.2	30.2
			2)Try to be F	51.4	53.4	42.3	61.0	56.5	45.0	50.6	59.0	29.4	58.6		54.5	53.0	64.8	41.4	54.8	45.6	57.5
			8)Other	9.5	3.5	1.1	–	0.4	0.5	–	2.1	0.0	0.9		1.4	8.2	5.8	13.0	7.9	0.6	0.4
		*NA含む	9)DK	4.6	*19.6	4.5	4.0	2.1	7.0	4.7	1.4	1.0	10.5		13.6	5.3	7.9	15.0	17.5	4.6	11.9
Q38	#2.12c	General Interpe	1)Can Be Tru	36.6	34.4	18.8	18.7	41.2	30.4	25.8	42.9	51.4	37.4		40.5	35.5	33.0	32.4	38.5	18.6	13.5
			2)Can't Be T	61.3	59.9	79.7	80.6	55.8	65.6	67.3	53.9	46.9	51.9		44.5	62.5	65.3	62.9	55.0	80.2	82.9
			8)Other	1.6	1.5	0.8	–	0.4	0.3	–	1.9	0.1	2.2		2.8	1.0	1.0	2.8	2.3	0.1	0.3
		*NA含む	9)DK	0.6	*4.2	0.6	0.7	2.6	3.7	6.9	1.4	1.5	8.5		12.2	0.9	0.7	2.0	4.2	1.0	3.3
Q39a	#5.1	Meeting or Ben	1) Go Back H	44.5	45.9	55.6	53.2	72.3	53.5	68.4	76.9	69.0	44.6								
			2)Go to the H	53.4	45.3	42.2	43.6	21.5	40.4	25.8	17.1	30.2	45.4								
			3)Other	1.6	1.3	0.8	0.2	0.9	0.2	–	4.0	0.2	0.5								
			4)DK	0.5	7.5	1.4	3.0	5.3	5.9	5.8	2.0	0.5	9.5								

注意：145ｐ（表３aの15ｐ）と同じく、香港のDisagreeとAgree の数値は逆。以下も参照。

Item	category	2003 South Korea	2004 Singa-pore	1998 JAWGS	1999 HA JA	1999 HA NJ	1988 JPN-A	1988 HA JA	1988 HA NJ	1988 USA	1987 FRA	1987 UK	1987 FRG	1992 ITA	1993 HOL	1991 BRZ JB	1988 JPN-B	1988 J-KS8	1993 J-KS9	1998 J-KS10	2003 J-KS11	1993 Omni JPa	1998 Omni JPb	2003 Omni JPc	1998 Omni USA
	#sample	*1006*	*1037*	*344*	*206*	*294*	*2265*	*180*	*319*	*1563*	*1013*	*1043*	*1000*	*1048*	*1083*	**492*	*1017*					*1507*	*1442*	*1431*	*985*
Science and Hu	1)Agree	80.3	75.5	69.2	74.8	70.7	44.6	80.6	58.3	69.0	60.6	69.8	68.6	60.0	68.5	67.3	44.4	K 47	K 51	K 54	K 54	49.2	48.8	45.2	
	2)Disagree	11.1	13.7	25.6	18.9	20.7	9.9	10.6	30.7	24.2	29.0	20.2	14.5	22.2	17.5	15.7	11.9	26	19	17	13	16.5	14.3	14.0	
	3)Undecided	6.8	7.8	4.4	4.4	4.8	39.3	6.1	8.5	5.6	7.0	6.6	13.2	13.4	10.8	11.3	37.8	24	26	25	29	29.0	32.5	37.6	
	8)Other	–	–	0.9	1.5	2.7	0.0	0.6	0.9	0.1						0.8	–	1	0	0	0	–	0.1	0.1	
*NA含む	9)DK	1.8	3.0	–	0.5	1.0	6.1	2.2	1.6	1.1	3.4	3.4	3.7	4.4	3.2	4.8	5.9	3	3	3	3	5.2	4.4	3.0	
Political Leader	1)Agree	36.3	36.5	7.6	5.3	5.8	13.1	10.0	9.1	7.4	37.9	13.0	7.7	50.1	8.3	38.4	12.0	K 30	K 24	K 26	K 21	15.4	17.4	14.6	
	2)Disagree	51.6	45.2	90.4	88.8	85.0	61.6	77.2	82.4	88.2	42.1	80.2	73.4	34.7	83.1	51.3	63.0	* 61	* 68	* 67	* 69	61.6	59.2	57.9	
	3)Undecided	9.8	13.9	1.5	5.8	9.2	19.0	11.7	8.2	3.0	12.1	5.3	16.2	9.5	5.7	6.7	18.7					17.5	18.5	23.0	
	8)Other	–	–	0.3	–	–	0.1	–	0.3	0.3						1.8	0.2	* 4	* 1	* 1	* 2	–	0.1	0.1	
*NA含む	9)DK	2.3	4.4	0.3	–	–	6.2	1.1	–	1.2	7.9	1.4	2.7	5.6	2.9	1.8	6.1	* 5	* 7	* 6	* 9	–	4.8	4.4	
Home is Relaxir	1)Yes	91.8	85.6	30.2	44.7	27.6	80.3	50.6	40.8	44.8	65.4	50.7	56.1	73.6	31.6	76.7	78.5								
	2)No	7.5	13.5	69.5	54.9	71.1	16.3	48.3	57.7	54.4	29.7	48.0	37.5	24.7	65.5	22.0	18.2						＊ KSでは3		
	8)Other	0.1	0.3	0.3	0.5	1.4	0.6	1.1	1.6	0.1	3.3	0.4	2.0		0.8	1.2	0.3						カテゴリー		
*NA含む	9)DK	0.6	0.6	–	–	–	2.8	–	–	0.7	1.6	0.9	4.4	1.7	2.1	0.2	3.0						であった		
Marriage is Per	1)Permanent	42.4	57.6				35.4	46.1	42.0	45.2	25.9	43.1	9.9	24.8	24.2	42.8	35.2								
	2)Broken onl	33.9	31.5				37.7	37.8	37.3	41.3	33.3	39.3	36.5	39.0	29.6	22.9	38.5								
	3)Broken by	22.4	5.6				19.5	13.9	18.2	12.2	37.4	16.6	44.7	34.4	42.8	33.5	19.0								
	8)Other	–	0.8				0.7	1.7	1.9	–	–	–	–	–		0.7	0.6								
*NA含む	9)DK	1.3	4.5				6.8	0.6	0.6	1.3	3.5	1.0	8.9	1.7	3.4	0.2	6.7								
Man and Nature	1)Follow Nat	54.3	49.7	38.7	49.0	50.7	36.6	50.6	46.4	25.5	22.0	22.5	36.8	66.7	20.5	44.9	36.6	K 42	K 48	K 49	K 45	43.9	44.9	44.0	
	2)Make Use	33.1	33.6	57.8	35.0	33.0	47.9	38.9	44.5	66.2	66.0	67.1	46.6	24.2	64.4	14.4	46.4	44	38	39	43	41.7	40.1	43.3	
	3)Conquer N	8.8	4.4	0.9	3.4	3.1	5.3	6.7	3.1	4.5	6.4	4.5	6.7	4.8	1.8	33.6	6.8	9	7	6	5	5.7	6.9	4.3	
	8)Other	0.1	1.3	1.5	9.7	10.5	0.7	1.7	4.7	1.0	2.5	0.7	1.4	0.2	6.6	5.7	0.7	1	0	1	2	0.7	1.1	0.3	
*NA含む	9)DK	3.7	11.1	1.2	2.9	2.7	9.5	2.2	1.3	2.8	3.1	5.2	8.5	4.1	6.7	1.5	9.5	4	7	5	6	8.0	7.0	8.1	
Individuals or C	1)Making Ind	36.3	25.9	30.5	27.2	24.8	34.0	29.4	27.6	27.1	23.8	24.8	23.0	29.2	34.0	17.6	32.6	K 29	K 30	K 28	K 29	27.7	28.5	29.1	
	2)Improving t	26.7	33.5	23.0	22.8	19.7	22.4	33.3	26.0	28.3	23.3	31.6	37.4	31.6	20.6	49.7	22.1	25	26	28	24	26.3	25.7	23.4	
	3)Same Thin	35.4	32.6	40.7	35.0	30.6	36.0	31.7	38.9	36.7	46.8	37.7	28.4	33.3	32.0	26.5	37.5	42	40	40	42	39.9	40.6	42.8	
	8)Other	–	0.1	4.4	11.2	21.1	0.2	2.8	6.0	2.3				0.4		1.8	–	0	0	0	1	0.3	0.4	0.2	
*NA含む	9)DK	1.6	7.9	1.5	3.9	3.7	7.3	2.8	1.6	5.6	6.1	5.8	11.2	5.5	13.4	4.3	7.8	4	4	3	5	5.7	4.9	4.5	
Mechanization a	1)Disagree	47.1	15.2	10.2	10.7	14.6	31.3	12.2	15.7	19.0	22.1	19.8	52.7	22.9	37.2	32.8	30.2	K 33	K 25	K 30	K 27	29.9	29.3	39.4	
他の調査とは	2)Agree	43.8	72.2	84.9	85.4	77.2	29.6	80.6	77.1	76.1	69.0	71.9	20.8	62.1	45.3	52.7	32.4	42	47	44	42	41.2	39.4	28.8	
1)と2)が逆	3)Undecided	7.8	8.3	2.9	3.4	7.1	32.4	5.6	4.4	3.5	4.6	5.6	19.1	9.9	9.6	9.6	30.9	22	24	22	27	23.2	25.2	26.6	
	8)Other	–	–	0.9	–	0.3	0.0	1.1	0.3	0.1						1.6	–	1	0	0	0	0.1	0.3	0.1	
*NA含む	9)DK	1.3	4.2	1.2	0.5	0.7	6.6	0.6	2.5	1.3	4.2	2.7	7.4	5.1	7.8	3.3	6.6	3	4	3	3	5.7	5.8	5.0	
Spirituality – Bu	1)Exists	28.8	70.4																						
	2)May exist	29.8	17.8																						
	3)Dose not e	34.7	7.1																						
	8)Other																								
*NA含む	9)DK	6.7	4.6																						
Spirituality – Lit	1)Exists	20.5	47.8																						
	2)May exist	30.9	24.1																						
	3)Dose not e	36.8	16.5																						
	8)Other																								
*NA含む	9)DK	11.8	11.6																						
Spirituality – A	1)Exists	28.0	54.8																						
	2)May exist	36.9	24.1																						
	3)Dose not e	27.3	13.6																						
	8)Other																								
*NA含む	9)DK	7.8	7.5																						
Social Values	1)Filial piety	84.4	90.3	71.8	79.1	71.8	77.7	78.3	69.3	69.4	52.4	63.4	55.0	78.6	66.5	82.3	73.2	K 71	K 69	K 70	K 73	71.4	68.9	70.4	79.7
	2)Repaying o	51.1	53.6	33.4	16.0	15.0	56.8	22.8	16.3	27.6	38.2	49.6	15.0	30.2	14.6	42.4	45.0	47	43	43	47	44.9	–	46.8	30.2
	3)Individual r	30.9	32.8	63.7	69.9	74.5	25.2	72.2	78.4	62.3	47.8	46.4	65.9	46.9	58.9	33.6	37.7	36	38	40	37	37.5	39.0	37.4	50.7
	4)Individual fi	28.2	21.2	30.2	28.6	33.3	32.8	25.6	33.9	33.1	57.7	36.1	57.4	42.3	55.3	32.5	36.6	42	42	43	37	38.4	40.2	37.9	25.1
	8)Other	–	0.3	–	1.9	3.1	–	0.6	1.3	0.5	0.3	1.4	1.8	0.3	1.6		–	0	3	0	0	0.2	0.4	0.2	0.3
*NA含む	9)DK	0.6	1.6	–	1.5	0.7	–	1.8	–	–	2.1	1.4	2.3	0.6	0.9	2.9	–	1	2	1	1	3.4	1.2	4.2	2.2
Employment Ex	1)One with th	77.3	73.5	74.1	63.6	66.7	60.4	68.3	67.1	65.9	58.8	72.6	44.5	67.3	60.6	75.6	62.1	K 70	K 67	K 70	K 73	64.7	68.7	66.0	67.5
	2)Your Relati	19.5	18.0	23.3	26.2	22.8	22.8	26.7	26.0	29.5	34.9	21.3	39.8	24.7	28.5	16.2	21.8	24	24	22	18	21.9	20.1	21.5	20.3
	8)Other	0.7	2.4	2.6	8.7	9.5	1.0	3.3	5.3	1.7	1.2	2.0	2.1	0.6	3.2	7.2	1.4	3	1	1	1	1.1	0.8	1.7	2.3
*NA含む	9)DK	2.5	6.1	–	1.5	1.0	15.8	1.7	1.6	2.9	5.0	4.1	13.6	7.4	7.7	1.1	14.7	3	8	7	8	12.3	10.4	10.9	9.8
Employment Ex	1)One with th	55.2	55.3	57.0	58.3	61.9	40.6	51.7	62.4	64.9	50.2	68.6	36.2	62.9	68.2	50.3	43.4	K 45	K 45	K 49	K 54	45.1	51.4	47.4	67.4
	2)Son of You	41.1	36.5	40.1	31.6	24.5	42.3	42.2	30.7	30.4	43.2	23.9	46.9	27.6	19.4	42.3	40.2	49	44	42	35	40.3	35.2	40.0	20.1
	8)Other	1.0	2.1	1.7	8.7	11.9	1.2	3.9	4.4	1.5	1.0	2.1	3.4	0.7	3.0	4.0	1.4	3	2	1	2	1.2	0.5	1.3	1.7
*NA含む	9)DK	2.8	6.2	1.2	1.5	1.7	15.9	2.2	2.5	3.3	5.5	5.5	13.5	8.9	9.3	3.4	15.0	4	9	8	10	13.5	13.0	11.3	10.8
Preferred Type	1)Never Doe	15.3	23.4	41.9	34.0	42.2	9.0	40.6	40.8	44.9	30.9	39.9	22.8	45.0	16.8	24.7	10.7	+ 10	K 12	K 16	K 18	12.6	14.5	13.4	49.4
	2)Looks after	82.9	70.9	57.0	62.6	52.7	80.3	59.4	56.7	51.4	64.1	56.7	68.6	48.2	78.1	67.5	77.8	87	82	80	77	79.0	79.5	80.1	41.3
	8)Other	0.1	1.0	0.3	1.9	4.1	0.1	–	1.9	0.4				0.1	0.4	3.2	0.6	1	0	0	0	0.4	0.1	0.3	0.3
*NA含む	9)DK	1.7	4.7	0.9	1.5	1.0	10.6	–	0.6	3.3	5.0	3.5	8.6	6.7	4.7	4.5	10.9	2	5	4	5	8.0	5.8	6.2	8.9
People's Help	1)Try to Be H	58.4	51.2	66.0	67.5	65.0	31.2	58.3	65.5	53.6	19.2	52.9	42.8	20.7	31.9	40.9	29.4		K 29	K 30	K 34				
	2)Look out fo	39.1	43.6	30.2	28.6	27.9	54.2	38.3	30.4	43.6	77.2	42.8	48.2	75.4	54.4	50.5	56.5		58	60	51				
	8)Other	0.1	1.2	2.6	3.9	5.8	1.5	2.8	3.1	1.1	2.2	2.3	2.2	–	6.8	5.6	1.1		5	3	6				
*NA含む	9)DK	2.4	4.1	1.2	–	1.4	13.2	0.6	0.9	1.7	1.4	2.0	6.8	3.9	6.8	3.0	13.0		7	6	9				
People's Faime	1)Take Advar	49.1	41.5				32.3	28.3	29.8	40.4	57.7	37.5	29.9	61.1	42.9	57.6	28.1		K 25	K 28	K 25				
	2)Try to be F	44.7	52.3				52.8	67.8	65.8	56.0	35.8	57.8	54.9	30.2	48.1	35.8	56.0		65	61	62				
	8)Other	0.1	1.4				0.9	2.8	4.4	1.2	3.0	1.9	2.6	0.1	2.5	2.9	0.7		2	2	3				
*NA含む	9)DK	6.1	4.8				14.0	1.1	–	2.4	3.6	2.8	12.6	8.7	6.5	3.6	15.1		8	9	9				
General Interpe	1)Can Be Tru	28.1	33.3	60.8	55.8	58.5	39.1	60.0	45.8	42.4	22.8	36.3	37.8	13.9	47.5	6.1	34.2		K 38	K 33	K 33				
	2)Can't Be T	69.2	59.5	35.8	41.3	33.3	46.0	38.9	49.8	54.5	73.8	60.0	47.0	83.9	44.4	90.7	53.4		55	62	59				
	8)Other	0.6	1.5	2.6	2.9	6.5	2.8	1.1	3.1	1.3	1.8	1.5	4.6	–	3.8	2.8	1.8		3	2	3				
*NA含む	9)DK	2.1	5.7	0.9	–	1.7	12.1	–	1.3	1.8	1.6	2.1	10.6	2.2	4.3	0.3	10.6		4	4	5				
Meeting or Ben	1) Go Back H			74.4	61.7	52.7	45.7	60.0	59.2	66.3	62.6	62.4	58.0	74.8	70.1	69.6	42.7	K 52	K 49	K 46	K 41	46.6	45.4		63.0
	2)Go to the F			20.6	18.9	18.7	37.7	33.9	29.2	24.4	22.8	27.4	22.2	16.4	13.9	22.7	40.5	41	42	45	48	40.5	44.0		20.6
	3)Other			4.4	17.0	27.6	1.3	5.6	9.7	5.0	7.2	4.7	4.6	1.3	8.5	4.9	1.5	3	1	1	2	0.7	1.0		4.1
	4)DK			0.6	2.4	1.0	15.4	0.6	1.9	4.4	7.4	5.5	15.2	7.4	7.5	2.8	15.3	4	8	8	9	12.2	9.6		12.3

				2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004	2004	2002	2002	2002	2003	2002	2002	2003
APVS	Common code	Item	category	Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singa-pore	Australia	India	Japan A	JapanB	Japan	Beijing	Shang-hai	Kunming	Hang-zhou	Hong Kong	Taiwan
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*	*785*	*787*	*1062*	*1053*	*1018*	*911*	*1057*	*732*
Q39b	#5.1b	Meeting or Pare	1) Go Back H	47.5	50.0	69.3	56.2	70.1	67.6	69.3	72.6	72.0	44.1								
			2)Go to the I	50.2	41.9	28.7	40.8	24.2	29.7	24.8	20.0	27.2	45.4								
			3)Other	1.7	1.0	0.8	–	0.8	–	–	4.0	0.2	0.7								
			4)DK	0.6	7.1	1.2	3.0	4.9	2.7	5.9	3.4	0.6	9.8								
Q40a	#7.83	Science and Te	1)Strongly Ag	10.1	16.4	10.1	12.9	24.0	9.1	17.1	26.9	59.3	17.7	12.1	18.4	11.8	9.4	13.3	14.7	12.8	17.2
			2)Agree to S	58.0	46.6	64.4	59.2	57.7	61.7	68.0	54.9	32.8	54.0	51.3	49.3	56.0	50.1	50.0	48.8	60.4	54.0
			3)Disagree to	25.3	20.7	18.3	19.1	11.8	19.5	11.9	8.9	4.7	15.1	20.6	16.8	26.3	27.6	21.5	22.6	18.4	19.9
			4)Strongly Di	3.5	4.2	4.2	3.2	3.1	5.7	1.4	6.9	2.1	5.8	7.8	6.5	4.0	8.1	3.4	3.8	3.1	2.5
			8)Other	1.2	1.3	–	0.2	–	0.1	–	–	–	0.1	–	1.1	–	1.2	4.7	1.4	0.2	–
			9)DK	1.9	10.7	2.9	5.5	3.4	3.9	1.6	2.6	0.9	7.3	8.2	7.9	2.0	3.5	7.1	8.6	5.2	6.4
Q40b	#7.84	Science and Te	1)Strongly Ag	4.4	8.3	3.1	4.5	16.8	3.7	9.8	18.7	50.8	1.5	1.0	1.9	4.3	5.6	4.0	8.1	3.3	8.9
			2)Agree to S	36.1	28.5	31.8	37.5	46.5	24.9	54.9	46.6	37.7	9.5	10.1	9.5	35.0	26.1	26.7	36.3	30.7	36.3
			3)Disagree to	44.0	34.3	46.8	37.8	22.4	45.0	26.0	20.1	6.2	56.5	54.0	52.9	45.7	49.7	43.9	34.0	44.3	35.4
			4)Strongly Di	11.7	12.0	15.0	12.9	8.0	21.7	6.8	12.0	4.0	26.1	27.3	28.6	12.1	11.5	14.7	9.4	15.0	9.4
			8)Other	1.3	0.8	–	–	0.2	–	–	–	–	–	0.1	0.1	0.1	1.5	1.9	0.8	0.2	–
			9)DK	2.6	16.2	3.4	7.3	6.1	4.9	2.5	2.6	1.2	6.5	7.5	7.0	2.8	5.6	8.7	11.3	6.5	10.0
Q40c	#7.85	Science and Te	1)Strongly Ag	9.3	9.5	3.7	6.0	9.4	4.6	8.6	7.3	50.2	0.9	0.6	1.4	7.3	6.9	7.1	10.3	3.8	5.2
			2)Agree to S	46.2	39.7	36.3	47.4	38.5	38.4	52.4	33.6	37.2	10.3	11.3	9.1	47.7	37.4	35.9	39.3	32.7	39.3
			3)Disagree to	34.9	30.0	46.5	37.1	31.7	42.0	31.1	33.9	6.4	59.9	59.5	59.6	38.7	41.3	42.2	30.6	47.5	40.3
			4)Strongly Di	7.2	7.8	11.3	4.5	13.2	10.2	5.0	23.0	4.7	21.0	20.5	21.9	4.9	8.9	7.4	6.0	11.0	6.8
			8)Other	1.2	0.8	–	–	–	–	–	–	–	0.1	–	0.4	0.3	0.9	2.3	1.3	0.3	–
			9)DK	1.1	12.1	2.2	5.0	7.1	4.8	2.8	2.3	1.4	7.9	8.0	7.6	1.0	4.5	5.2	12.4	4.7	8.3
Q40d		Science and Te	1)Strongly Ag	6.5	8.9	3.1	4.0	5.5	3.0	4.7	3.3	37.2	1.6	0.9	1.9	5.1	8.1	4.2	10.1	4.6	4.9
			2)Agree to S	42.4	37.7	44.2	42.3	19.3	41.4	41.1	28.0	34.1	23.8	13.0	18.9	45.3	42.1	33.4	44.3	36.4	39.5
			3)Disagree to	37.1	21.4	34.2	33.2	22.6	33.8	31.7	26.1	12.3	41.6	55.0	41.8	35.6	31.9	35.6	19.5	32.1	32.8
			4)Strongly Di	7.7	4.9	10.4	9.5	39.7	10.9	17.0	35.7	12.0	16.3	23.4	18.7	7.6	4.2	9.5	4.8	13.5	6.8
			8)Other	1.2	0.9	–	–	0.1	–	–	–	–	0.3	–	0.3	0.1	2.1	2.8	1.4	0.1	–
			9)DK	5.1	26.2	8.2	11.1	12.7	11.0	5.6	6.9	4.3	16.4	7.6	18.4	6.3	11.7	14.4	19.8	13.2	16.0
Q41	#9.8	Regional Culture																			
Q42a	#3.1a	Religious Faith	1)Yes	13.8	27.8	38.4	64.8	79.5	53.6	78.9	54.3	92.4	28.4		24.4	9.2	19.1	19.9	20.2	34.0	74.9
			2)No	86.2	72.1	61.6	35.2	20.0	46.4	21.1	45.7	7.6	71.6		75.6	90.7	80.9	80.1	79.8	66.0	25.1
			8)Other																		
		*NA	9)DK		*0.1			0.6								0.1					
Q42b	#3.1b	Religions	Buddhism	1) 8.5	1)20.4	1)16.8	1) 27.6	1) 0.7	1)21.9	1)39.4	8) 2.9	4) 0.8	1)22.9		1)20.5	1) 5.3	1)15.5	1) 14.8	1) 14.3	1)16.0	1) 33.7
		※【国別質問】	Shintoism										2) 1.8		2) 1.1						
		ブランクは、各	Christianity							3)19.9		3) 3.7	3) 1.3		3) 1.0						
		調査票で設定	Catholic	4) 0.5	4) 0.8	2) 4.0	2) 1.5	3)36.7	3) 6.7	※1.4	1)18.4					2) 0.6	2) 0.8	2) –	2) 0.8	2) 4.2	2) 0.5
		されていない回	Protestant	3) 2.1	3) 2.5	3)12.2	3) 6.9	2)50.3	2)22.9							3) 1.3	3) 2.4	3) 1.6	3) 4.0	3)12.3	3) 3.1
		答肢	Islam	5) 1.1	5) 0.1	4) –	4) –	5) 0.3		4)16.5	6) 3.4	2) 2.8				4) 1.5	4) 0.4	4) 2.6	4) –	4) –	4) –
			Taoism	2) 0.8	2) 0.5		5)42.2			2)14.9											5) 34.2
		※ 日本はキリ	I-Kuan-Tao				6) 2.0														6) 2.0
		スト教は一回	Confucianism						4) 0.2												
		答肢、その他	Folk religion				7)17.6														
		はカトリックとプ	Chondo-Gyo						5) 0.1												
		ロテスタント(キ	Won-Buddism						6) 0.5												
		リスト教)は二	Judaism					4) 4.5													
		回答肢	Hinduism					6) 0.3		5) 7.6		1)85.1									
		South Koreaは	Anglican								2) 8.6										
		報告書と集計	United Church								3) 4.0										
		の方法が異な	Presbyterian								4) 1.6										
		るため数値が	Baptist								5) 1.1										
		変わっている	Greek Orthodox								7) 1.0										
			Lutheran								9) 0.4										
		※Singaporeは	Other	8) 0.5	8) 1.2	8) 5.3	8) 1.8	8) 5.9	8) 0.8	8) 0.5	98)12.9	2.5	8) 1.8		8) 1.4	8) 0.4	8) 0.1	8) 1.0	8) 1.1	8) 1.3	8) 0.5
		キリスト教は一	DK	*0.3	9) 2.5	–	9) 0.3	9) 1.4	9) 0.5			99)4.8	9) 0.5		9) 0.4	9) 0.2	9) –	9) 0.1	9) 0.1	9) 0.2	9) 0.5
		回答肢であっ	missing	99)86.2	99)71.9	99)61.6			46.4				99)71.6		75.6	90.8	80.9	80.0	79.8	66.0	25.2
		たがその他に	1)Important	39.4	32.7	63.6	78.4	76.2	78.1	74.4	53.1	78.5	72.2		66.5	34.6	42.4	34.9	34.4	60.5	73.9
		Catholicがあっ	2)Not Import	50.4	40.3	26.6	17.9	19.0	15.0	20.4	40.7	19.8	15.8		16.8	58.9	41.3	41.7	38.2	31.7	19.1
		た	8)Other	4.8	3.8	1.3	0.3	0.2	–	0.1	3.7	–	1.7		2.3	1.0	2.8	5.7	2.9	0.6	0.3
		*NA含む	9)DK	*5.3	*23.3	8.5	3.3	4.6	7.0	5.0	2.4	1.7	10.4		14.5	5.6	13.5	17.7	24.6	7.3	6.7
Q43	#3.2b	Rligious Mind/ I	1)Important	39.4	32.7	63.6	78.4	76.2	78.1	74.4	53.1	78.5	72.2		66.5	34.6	42.4	34.9	34.4	60.5	73.9
			2)Not Import	50.4	40.3	26.6	17.9	19.0	15.0	20.4	40.7	19.8	15.8		16.8	58.9	41.3	41.7	38.2	31.7	19.1
			8)Other	4.8	3.8	1.3	0.3	0.2	–	0.1	3.7	–	1.7		2.3	1.0	2.8	5.7	2.9	0.6	0.3
		*NA含む	9)DK	*5.3	*23.3	8.5	3.3	4.6	7.0	5.0	2.4	1.7	10.4		14.5	5.6	13.5	17.7	24.6	7.3	6.7
Q44	#3.3	Commonality of	1)Agree	59.6	47.5	71.3	84.2	48.1	65.0	76.0	62.6	87.4	48.1		47.1	55.2	58.1	52.3	52.6	60.6	76.1
			2)Disagree	30.7	16.4	23.3	14.3	46.3	25.9	19.4	33.6	12.2	27.4		23.3	30.4	24.3	19.5	16.9	30.9	17.1
			8)Other	1.4	0.3	–	–	0.3	0.2	–	0.7	–	1.1		0.6	–	0.9	2.5	1.2	0.4	–
		*NA含む	9)DK	8.3	*35.9	5.4	1.5	5.3	8.8	4.7	3.1	0.4	23.4		29.0	14.4	16.6	25.7	29.3	8.0	6.8
Q45		Observation of	1)Always Ob	64.5	70.6	59.7	57.0	65.8	55.0	72.8	59.7	73.8	37.0		32.5	65.9	72.0	73.1	54.2	54.0	55.2
			2)Excusable	33.4	22.6	37.6	39.3	29.3	43.0	22.2	37.3	26.0	50.9		52.6	33.1	25.9	20.7	33.9	41.7	36.5
			8)Other	1.2	0.8	0.1	–	1.3	–	–	1.7	–	1.1		1.0	0.1	1.3	2.8	1.3	–	0.1
		*NA含む	9)DK	0.9	*5.9	2.6	3.6	3.6	2.0	5.0	1.3	0.2	11.0		13.9	0.9	0.8	3.3	10.5	4.3	8.2
Q46		Written Contrac	1)A's Opinion	5.2	12.2	7.8	12.3	9.3	6.9	14.1	10.4	35.3	2.9		3.8	5.2	7.1	5.9	13.1	8.8	11.7
			2)B's Opinion	93.9	81.3	91.2	86.6	86.6	92.1	83.8	88.4	61.7	94.0		92.8	93.9	91.2	91.4	77.6	89.3	83.9
			8)Other	0.4	0.2	–	–	0.1	0.2	–	0.6	–	0.2		0.3	–	0.1	0.5	0.5	–	–
		*NA含む	9)DK	0.5	*6.3	1.1	1.2	4.0	0.8	2.1	0.6	2.9	2.9		3.2	0.9	1.6	2.3	8.8	1.9	4.4
Q47		Style of Contra	1)A's Opinion	4.7	11.9	11.2	13.3	12.3	8.1	14.4	12.0	37.4	5.4		5.8	3.4	7.7	6.5	13.8	10.9	11.3
			2)B's Opinion	94.3	82.3	88.1	85.6	83.8	91.5	83.4	86.4	60.7	90.8		90.2	95.7	90.3	90.6	76.5	86.7	83.7
			8)Other	0.7	0.4	–	–	0.4	–	–	0.6	–	0.3		0.4	–	0.3	0.5	0.4	–	0.1
			9)Don't Know	0.3	5.5	0.7	1.2	3.4	0.5	2.1	1.0	1.9	3.5		3.5	0.9	1.7	2.5	9.2	2.5	4.8
Q48		Environment or	1)Protecting	89.0	70.6	60.7	54.9	69.9	53.3	73.4	86.0	74.0	67.9		63.4	87.8	75.0	78.9	64.3	51.9	47.0
			2)Economic	8.7	17.7	33.0	36.0	22.4	38.3	20.6	11.4	23.8	17.2		16.0	10.0	18.0	10.1	13.9	42.4	36.2
			8)Other	1.8	2.4	2.7	1.3	2.2	1.2	–	0.4	0.2	1.7		3.6	1.7	5.7	8.1	4.8	0.5	1.9
		*NA含む	9)DK	0.5	*9.2	3.7	7.8	5.4	7.3	6.0	2.1	2.0	13.3		17.0	0.6	1.2	2.9	16.9	5.2	14.9
Q49	#2.7	The Most Important Thing																			

				2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004	2004	2002	2002	2002	2003	2002	2002	2003
APVS	Common code	Item	category	Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singa-pore	Australia	India	Japan A	JapanB	Japan	Beijing	Shang-hai	Kunming	Hang-zhou	Hong Kong	Taiwan
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*	*785*	*787*	*1062*	*1053*	*1018*	*911*	*1057*	*732*
Q50a		Trust in Organi:	1)Very Confi	5.6	9.0	11.7	9.3	23.2	9.0	25.4	9.9	60.7	2.4		2.8	3.1	7.8	6.3	6.6	9.7	11.1
			2)Somewhat	18.7	23.0	48.4	56.6	46.1	36.9	58.1	38.1	29.4	12.4		9.4	16.9	20.9	17.5	17.9	49.2	53.3
			3)Not Confid	40.3	34.3	27.2	24.5	19.4	37.5	13.8	31.6	5.1	47.8		45.0	42.3	43.8	33.0	42.6	28.5	29.2
			4)Not Confid	30.9	20.7	9.7	7.1	9.5	13.2	1.6	18.3	4.5	31.9		35.1	33.7	22.7	31.6	23.7	8.6	4.4
			*NA含む 9)DK	*4.6	*13.0	3.1	2.5	1.8	3.4	1.1	2.1	0.2	5.6		7.8	4.0	4.8	11.6	9.2	4.0	2.0
Q50b		Trust in Organi:	1)Very Confi	36.8	41.2	36.5	5.8	15.3	3.0	47.1	11.6	42.0	8.9		11.1	34.9	52.0	36.3	29.7	31.9	12.8
			2)Somewhat	46.8	44.4	50.5	57.2	63.3	53.5	48.9	60.4	48.2	69.9		62.5	47.5	40.2	41.4	50.7	53.6	52.5
			3)Not Confid	14.1	11.4	11.1	30.3	17.6	37.1	3.8	20.3	6.5	16.4		18.3	14.7	6.5	17.7	13.7	11.4	30.6
			4)Not Confid	1.6	0.7	1.4	5.1	3.0	5.2	–	7.6	3.1	1.5		3.3	2.1	0.8	2.0	1.8	1.2	3.0
			9)DK	0.8	2.4	0.5	1.5	0.8	1.2	0.2	0.1	0.2	3.3		4.8	0.9	0.6	2.7	4.1	1.8	1.1
Q50c		Trust in Organi:	1)Very Confi	11.0	14.6	4.9	1.5	3.6	3.2	18.8	2.7	31.7	6.6		6.5	8.3	14.5	11.4	11.9	4.2	1.9
			2)Somewhat	50.1	51.4	41.1	30.8	40.1	55.8	62.7	28.9	49.8	67.5		67.6	48.8	56.5	44.0	48.5	36.7	35.5
			3)Not Confid	32.0	27.9	45.7	54.4	43.2	36.4	17.4	44.0	14.3	23.8		22.7	37.2	26.2	37.7	32.7	49.1	51.4
			4)Not Confid	6.4	4.0	7.8	11.9	12.3	4.0	0.7	23.6	3.8	0.9		1.7	5.0	2.6	5.6	3.8	9.1	9.8
			*NA含む 9)DK	0.5	*2.2	0.5	1.3	0.9	0.6	0.4	0.9	0.3	1.2		1.5	0.8	0.2	1.3	3.1	0.9	1.4
Q50d		Trust in Organi:	1)Very Confi	20.5	28.4	16.4	3.2	17.8	1.7	40.5	20.9	20.1	7.6		7.5	18.6	25.9	19.0	21.8	14.7	6.6
			2)Somewhat	51.6	48.1	61.5	53.9	62.0	48.6	54.3	61.9	43.7	61.7		56.8	52.5	47.6	45.4	51.3	60.5	43.9
			3)Not Confid	23.4	18.5	19.3	36.0	16.1	39.8	4.8	10.4	22.0	27.2		30.2	22.6	23.2	27.6	20.4	21.5	41.7
			4)Not Confid	3.8	2.1	2.6	5.8	3.3	9.1	0.1	6.9	13.3	2.2		3.4	5.5	2.9	5.9	3.1	2.3	7.0
			*NA含む 9)DK	0.8	*2.8	0.2	1.2	0.8	0.8	0.3	–	0.9	1.3		2.0	0.8	0.4	2.2	3.4	1.0	1.0
Q50e		Trust in Organi:	1)Very Confi	34.5	42.4	12.8	3.5	5.3	0.9	38.5	4.7	18.0	2.4		2.9	36.9	45.3	27.3	34.0	9.1	1.9
			2)Somewhat	47.0	42.9	49.9	38.1	39.7	27.7	53.3	41.3	40.2	38.2		38.5	47.1	43.1	44.0	47.3	46.5	40.6
			3)Not Confid	14.7	10.0	29.3	43.1	39.8	49.8	6.3	32.9	25.3	48.5		45.7	12.4	10.2	21.8	13.1	32.9	43.3
			4)Not Confid	2.4	1.1	4.4	10.8	12.8	20.5	0.7	18.4	12.5	6.3		7.6	2.5	0.5	3.0	1.8	6.4	9.0
			*NA含む 9)DK	*1.4	*3.6	3.5	4.5	2.3	1.2	1.3	2.7	4.0	4.7		5.3	1.0	0.9	3.8	3.8	5.1	5.2
Q50f		Trust in Organi:	1)Very Confi	42.5	49.8	11.3	2.3	5.0	0.3	36.3	5.0	23.3	1.9		1.9	45.8	51.9	36.9	37.0	9.6	2.5
			2)Somewhat	39.4	36.3	49.5	22.7	45.8	10.8	53.4	45.9	41.1	29.8		31.8	38.7	35.5	35.2	44.6	44.9	27.2
			3)Not Confid	13.6	9.2	30.9	50.2	36.3	45.0	6.7	30.4	21.2	51.8		48.7	11.0	10.6	18.4	12.4	33.2	48.9
			4)Not Confid	3.1	1.4	5.8	19.9	10.2	42.2	1.3	17.1	10.9	11.0		11.9	3.6	0.8	5.0	2.2	7.1	16.4
			*NA含む 9)DK	*1.4	*3.2	2.6	4.8	2.7	1.7	2.3	1.6	3.5	5.5		5.7	0.9	1.1	4.5	3.8	5.1	5.1
Q50g		Trust in Organi:	1)Very Confi	7.3	13.8	11.1	1.8	6.5	0.9	11.6	12.3	25.8	2.7		6.2	5.7	12.3	9.7	10.1	8.7	2.6
			2)Somewhat	32.4	32.5	52.9	38.5	58.6	29.9	58.1	62.0	43.1	42.3		48.5	30.7	40.6	29.6	38.2	49.8	35.4
			3)Not Confid	36.1	28.1	27.2	37.6	23.1	48.5	24.4	18.6	18.6	34.8		24.7	42.5	34.2	32.7	31.8	29.3	39.3
			4)Not Confid	18.5	8.3	5.5	13.6	7.1	13.6	2.0	4.3	9.7	5.4		3.6	14.3	3.8	12.9	6.1	6.2	8.6
			*NA含む 9)DK	*5.7	*17.3	3.3	8.5	4.7	7.1	3.8	2.9	2.9	14.7		17.1	6.8	9.0	15.1	13.7	6.0	14.1
Q50h		Trust in Organi:	1)Very Confi	19.9	25.4	19.0	4.8	5.3	4.1	15.6	10.4	38.4	6.7		5.6	17.1	28.1	19.0	17.2	14.8	4.2
			2)Somewhat	52.6	49.1	61.8	50.7	56.4	54.7	62.7	63.4	44.4	63.5		62.0	52.4	51.7	41.6	51.9	61.8	47.7
			3)Not Confid	22.4	17.6	17.7	28.0	28.3	34.0	18.7	18.9	10.9	23.0		21.1	23.7	17.5	28.7	23.4	18.2	35.2
			4)Not Confid	2.8	2.1	1.1	9.8	6.3	4.9	1.3	5.7	5.3	1.1		2.3	3.6	0.7	4.9	2.4	2.4	4.9
			*NA含む 9)DK	2.2	*5.8	0.5	6.6	3.7	2.4	1.7	1.6	0.9	5.7		9.1	3.1	2.1	5.9	5.0	2.9	7.9
Q50i		Trust in Organi:	1)Very Confi	17.9	23.1	18.0	4.5	7.0	5.6	12.5	8.6	34.0	5.7		6.9	19.0	21.0	13.4	13.8	16.3	5.2
			2)Somewhat	40.9	36.3	46.8	42.0	47.7	52.0	61.0	50.4	40.7	50.0		55.1	39.5	40.9	31.9	42.2	46.4	45.2
			3)Not Confid	27.9	21.6	24.4	28.9	28.0	31.1	17.9	24.7	15.4	27.9		19.9	27.2	28.4	29.4	25.9	24.4	33.1
			4)Not Confid	7.5	4.5	5.5	12.8	13.2	5.4	2.5	12.3	5.7	2.1		2.0	7.5	3.4	11.8	6.0	4.8	6.6
			*NA含む 9)DK	5.7	*14.5	5.3	11.9	4.1	5.8	6.0	4.0	4.2	14.3		16.0	6.8	6.3	13.6	12.1	8.1	10.0
Q50j		Trust in Organi:	1)Very Confi	73.0	58.8	30.3	15.1	16.9	10.1	27.7	21.1	58.1	12.5		11.8	78.4	76.8	77.0	54.4	26.2	15.8
			2)Somewhat	23.4	34.7	57.6	58.4	69.7	65.0	64.8	67.1	34.8	63.8		61.6	18.7	20.3	18.2	35.8	58.0	60.5
			3)Not Confid	2.2	2.1	8.6	17.6	9.0	19.4	4.8	8.9	4.6	13.2		11.9	1.6	2.1	2.2	6.0	10.0	15.6
			4)Not Confid	0.8	0.3	1.1	4.3	1.8	2.0	0.6	2.0	1.8	0.8		0.4	0.3	0.1	0.8	0.5	1.6	1.8
			*NA含む 9)DK	0.7	*4.1	2.5	4.6	2.7	3.4	2.0	0.9	0.9	9.7		14.2	0.9	0.7	1.9	3.2	4.2	6.3
Q51		Religions and th	1)Spread one	1.2	1.6	1.6	13.3	5.5	4.9	5.7	3.4	29.9	0.6		1.1	0.2	1.3	1.0	1.9	1.6	8.6
			2)Make other	4.1	7.5	5.3	11.1	6.4	15.2	8.3	3.3	26.1	3.4		3.7	7.0	8.2	4.8	8.9	6.6	9.6
			3)Understand	16.9	17.4	8.5	11.9	20.1	16.6	15.9	14.9	21.1	21.1		18.0	11.6	8.5	7.6	10.9	8.0	9.4
			4)Respect Ea	74.1	50.8	82.1	62.0	64.3	56.9	66.6	76.4	22.2	58.9		57.9	76.2	71.2	71.1	55.7	77.9	66.0
			8)Other	1.2	1.1	0.5	–	0.8	0.5	–	0.6	0.1	1.1		1.3	0.3	0.5	1.8	0.8	0.2	–
			*NA含む 9)DK	*2.5	*21.6	2.0	1.7	2.9	5.9	3.5	1.4	0.5	14.9		18.0	4.8	10.3	13.8	22.0	5.7	6.4

Item	category	2003 South Korea	2004 Singa-pore	1998 JAWS	1999 HA JA	1999 HA NJ	1988 JPN-A	1988 HA JA	1988 HA NJ	1988 USA	1987 FRA	1987 UK	1987 FRG	1992 ITA	1993 HOL	1991 BRZ JB	1988 JPN-B	1988 J-KS8	1993 J-KS9	1998 J-KS10	2003 J-KS11	1993 Omni JPa	1998 Omni JPb	2003 Omni JPc	1998 Omni USA
	#sample	*1006*	*1037*	*344*	*206*	*294*	*2265*	*180*	*319*	*1563*	*1013*	*1043*	*1000*	*1048*	*1083*	**492*	*1017*					*1507*	*1442*	*1431*	*985*
Meeting or Pare	1) Go Back H			65.7	58.3	53.4	45.4	64.4	64.9	64.4	65.6	73.5	61.5	79.4	69.3	76.1	47.2	K 53	K 48	K 44	K 40	49.3	50.3		57.3
	2)Go to the I			28.5	23.8	24.1	40.6	27.2	23.8	25.7	20.0	18.7	18.3	13.2	14.0	18.6	39.0	41	44	47	51	39.4	41.0		25.9
	3)Other			5.2	14.6	20.1	1.2	6.7	9.7	4.7	6.8	4.1	4.5	1.3	8.5	2.9	0.9	2	1	1	1	0.3	1.0		3.6
	4)DK			0.6	3.4	2.4	12.8	1.7	1.6	5.2	7.5	3.6	15.7	6.1	8.1	2.4	12.9	4	7	8	8	10.9	7.8		13.3
Science and Te	1)Strongly Ag	7.0	21.1	19.2			21.6			20.7	23.0	22.7	29.1	13.9	30.1		21.7								
	2)Agree to S	63.5	63.5	56.4			50.0			50.9	39.1	53.0	48.1	35.5	40.2		47.7								
	3)Disagree to	19.7	7.9	11.6			17.3			17.3	15.5	11.4	13.4	27.3	11.1		18.1								
	4)Strongly Di	6.3	2.2	7.0			4.9			6.9	19.2	6.2	5.9	12.0	8.9		6.0								
	8)Other	–	–				0.1										0.2								
	9)DK	3.6	5.3	5.8			6.1			4.2	3.2	6.6	3.5	11.3	9.8		6.3								
Science and Te	1)Strongly Ag	2.5	10.7	12.2	17.5	17.0	2.5			18.6	26.8	12.4	9.1	15.5	11.1		2.6								
	2)Agree to S	25.0	45.7	41.6	53.9	47.6	11.3			39.2	37.9	37.3	25.3	36.8	20.9		11.3								
	3)Disagree to	47.3	20.3	17.7	17.0	20.1	54.1			23.2	17.0	22.3	26.2	24.1	18.8		52.5								
	4)Strongly Di	20.9	12.8	21.5	10.2	15.0	24.0			15.1	14.1	21.2	32.4	14.7	41.6		25.8								
	8)Other	–	–				0.1										0.0								
	9)DK	4.3	10.4	7.0	1.5	0.3	8.0			3.9	4.2	6.8	7.0	8.9	7.7		7.9								
Science and Te	1)Strongly Ag	4.2	7.1	4.7	5.3	7.1	2.7			12.2	15.5	9.5	7.3	13.5	7.7		2.4								
	2)Agree to S	35.1	48.7	23.5	43.2	37.8	12.4			34.7	33.8	33.3	36.7	38.8	27.5		11.7								
	3)Disagree to	46.6	25.1	34.6	35.0	31.3	55.1			30.5	25.4	28.5	27.8	28.8	22.4		57.6								
	4)Strongly Di	9.5	11.0	36.0	15.0	22.4	18.8			19.7	21.7	23.2	23.0	11.2	35.4		18.3								
	8)Other	0.1	–				0.1										0.0								
	9)DK	4.5	8.1	1.2	1.5	1.4	10.9			2.9	3.7	5.6	5.2	7.6	7.0		10.0								
Science and Te	1)Strongly Ag	3.2	5.3																						
	2)Agree to S	39.5	36.8																						
	3)Disagree to	36.2	20.3																						
	4)Strongly Di	11.9	27.3																						
	8)Other	–	–																						
	9)DK	9.2	10.3																						
Regional Culture																									
Religious Faith	1)Yes	50.5	79.5	74.4	69.4	77.2	36.5	71.1	76.2	85.3	64.4	64.2	74.8	87.8	57.1	89.4	34.7	K 31	K 33	K 29	K 30	37.8	32.9	29.8	82.8
	2)No	49.5	20.5	25.0	28.6	20.1	63.5	27.8	21.0	13.9	34.8	34.3	21.8	12.0	38.7	10.3	65.3	69	67	71	70	62.2	67.1	70.2	16.0
	8)Other				0.5	2.7																			
*NA	9)DK			0.6	1.5	–		1.1	2.8	0.8	0.8	1.4	3.4	0.2	4.2	0.3	–								1.1
Religions	Buddhism	1) 21.0	1) 32.8	33.4	24.8	3.7	28.5	28.3	1.6	–	–	0.1	–	–		20.4	26.2								
※【国別質問】	Shintoism						2.1			–	–	–	–	–		2.6	1.5								
ブランクは、各	Christianity		3) 15.7		9.2	11.2	1.2			–	–	–	–	–			1.7								
調査票で設定	Catholic	3) 6.2	6) 1.8	2.3	5.8	29.6		7.8	30.7	24.4	60.3	8.4	38.3	86.9	23.3									*	
されていない回	Protestant	2) 21.6		27.3	20.9	17.3		25.0	27.0	54.8	1.6	50.0	33.7	0.2	22.7	2.8									
答肢	Islam		4) 13.7							–	0.9	0.9	–	–		50.6									
※ 日本はキリ	Taoism		2) 7.7																						
スト教は一回	I-Kuan-Tao																								
答肢、その他	Confucianism	4) 0.6																							
はカトリックとプ	Folk religion																								
ロテスタント(キ	Chondo-Gyo	5) 0.2																							
リスト教)は二	Won-Buddism																								
回答肢	Judaism			–	–	1.0		–	2.5	1.2	0.5	0.2	–	0.1											
South Koreaは	Hinduism																								
報告書と集計	Anglican																								
の方法が異な	United Churc																								
るため数値が	Presbyterian																								
変わっている	Baptist																								
※Singaporeは	Greek Ortho																								
キリスト教は一	Lutheran																								
回答肢であっ	Other	8) 0.9	7.7	11.3	9.2	16.0	3.2	11.1	15.7	2.5	0.8	4.2	2.6	0.6	7.4	13.6	3.5								
たがその他に	DK	9) 0.1	9) 0.1		30.1	21.2	1.5	–	0.9	2.5	0.3	0.4	0.2	–	3.7		1.9								
Catholicがあっ	missing	49.5	20.5	25.6			63.5	28.9	23.8	14.7	35.6	35.8	25.2	12.2	42.9	9.2	65.3								
た																									
*NA含む																									
Rligious Mind/ I	1)Important	74.2	75.6	77.9	78.6	75.5	75.5	80.0	79.6	87.3	62.5	58.5	57.6	86.0	49.6	91.0	76.6	K 72	K 72	K 68	K 70	79.5	69.2	69.3	82.0
	2)Not Import	18.3	16.4	17.2	10.7	15.6	11.1	13.3	12.9	10.4	33.2	36.3	34.3	10.0	39.2	6.0	10.4	15	14	20	15	9.9	15.7	15.2	13.8
	8)Other	–	2.9	4.1	9.2	6.5	1.1	5.6	6.9	1.0	2.2	3.4	1.6	0.2	3.8	2.5	0.6	8	3	2	3	0.9	0.8	1.5	0.7
*NA含む	9)DK	7.6	5.1	0.9	1.5	2.4	12.4	1.1	0.6	1.3	2.2	1.8	6.5	3.8	7.4	0.4	12.4	5	11	10	12	9.8	14.2	14.0	3.5
Commonality of	1)Agree	72.8	77.7	72.1	62.6	58.8	63.3	75.0	64.6	56.5	57.8	71.2	61.8	60.9	70.1	64.6	62.4								
	2)Disagree	19.6	17.7	23.8	30.6	35.0	16.4	22.8	27.9	39.9	33.0	24.5	20.7	27.7	22.3	29.6	14.3								
	8)Other	–	–	2.9	3.4	4.4	0.5	1.1	5.6	1.0	1.0	0.9	0.4	–	1.5	2.2	0.3								
*NA含む	9)DK	7.7	4.5	1.2	3.4	1.7	19.9	1.1	1.9	2.7	8.2	3.4	17.1	11.5	6.1	3.6	23.0								
Observation of	1)Always Ob	48.2	58.9																						
	2)Excusable	50.3	36.3																						
	8)Other	0.1	–																						
*NA含む	9)DK	1.4	4.8																						
Written Contrac	1)A's Opinior	6.3	14.8																						
	2)B's Opinior	93.3	82.4																						
	8)Other	–	0.1																						
*NA含む	9)DK	0.4	2.7																						
Style of Contra	1)A's Opinior	10.0	12.8																						
	2)B's Opinior	89.8	84.4																						
	8)Other	–	–																						
	9)Don't Knov	0.2	2.8																						
Environment or	1)Protecting	64.1	59.2																						
	2)Economic I	27.0	27.8																						
	8)Other	1.1	2.5																						
*NA含む	9)DK	7.8	10.5																						
The Most Important Thing																									

		2003	2004	1998	1999	1999	1988	1988	1988	1988	1987	1987	1987	1992	1993	1991	1988	1988	1993	1998	2003	1993	1998	2003	1998
Item	category	South Korea	Singa-pore	JAWC S	HA JA	HA NJ	JPN-A	HA JA	HA NJ	USA	FRA	UK	FRG	ITA	HOL	BRZ JB	JPN-B	J-KS8	J-KS9	J-KS10	J-KS11	Omni JPa	Omni JPb	Omni JPc	Omni USA
	#sample	*1006*	*1037*	*344*	*206*	*294*	*2265*	*180*	*319*	*1563*	*1013*	*1043*	*1000*	*1048*	*1083*	**492*	*1017*					*1507*	*1442*	*1431*	*985*
Trust in Organi:	1)Very Confi	8.4	23.9																						
	2)Somewhat	40.1	57.6																						
	3)Not Confid	38.4	9.5																						
	4)Not Confid	11.9	2.4																						
*NA含む	9)DK	1.2	6.7																						
Trust in Organi:	1)Very Confi	3.0	38.3																						
	2)Somewhat	55.8	54.6																						
	3)Not Confid	35.2	3.5																						
	4)Not Confid	4.8	0.2																						
	9)DK	1.3	3.5																						
Trust in Organi:	1)Very Confi	2.7	20.6																						
	2)Somewhat	57.8	61.4																						
	3)Not Confid	34.9	13.0																						
	4)Not Confid	4.5	1.4																						
*NA含む	9)DK	0.2	3.5																						
Trust in Organi:	1)Very Confi	2.4	35.6																						
	2)Somewhat	46.6	56.9																						
	3)Not Confid	41.7	4.9																						
	4)Not Confid	8.6	0.1																						
*NA含む	9)DK	0.7	2.5																						
Trust in Organi:	1)Very Confi	1.4	29.2																						
	2)Somewhat	28.2	59.6																						
	3)Not Confid	51.2	4.3																						
	4)Not Confid	17.5	0.2																						
*NA含む	9)DK	1.7	6.7																						
Trust in Organi:	1)Very Confi	0.6	26.3																						
	2)Somewhat	12.9	59.5																						
	3)Not Confid	46.6	5.0																						
	4)Not Confid	37.0	0.3																						
*NA含む	9)DK	2.9	8.9																						
Trust in Organi:	1)Very Confi	1.5	15.9																						
	2)Somewhat	39.9	60.1																						
	3)Not Confid	43.1	13.3																						
	4)Not Confid	10.1	2.0																						
*NA含む	9)DK	5.4	8.7																						
Trust in Organi:	1)Very Confi	3.7	19.6																						
	2)Somewhat	58.0	64.3																						
	3)Not Confid	29.7	9.8																						
	4)Not Confid	6.3	0.7																						
*NA含む	9)DK	2.4	5.6																						
Trust in Organi:	1)Very Confi	2.6	15.2																						
	2)Somewhat	47.9	55.4																						
	3)Not Confid	36.5	11.9																						
	4)Not Confid	5.0	2.3																						
*NA含む	9)DK	8.1	15.2																						
Trust in Organi:	1)Very Confi	8.3	22.1																						
	2)Somewhat	69.5	65.1																						
	3)Not Confid	16.6	4.3																						
	4)Not Confid	1.5	0.6																						
*NA含む	9)DK	4.1	7.9																						
Religions and th	1)Spread one	5.3	1.9																						
	2)Make other	15.3	3.6																						
	3)Understand	18.8	20.3																						
	4)Respect Ea	54.1	70.0																						
	8)Other	0.1	0.5																						
*NA含む	9)DK	6.5	3.7																						

APVS	Common code	Item	category	2005 Beijing	2005 Shang-hai	2005 Hong Kong	2006 Taiwan	2006 USA	2006 South Korea	2007 Singa-pore	2007 Australia	2008 India	2004 Japan A	2004 JapanB	2002 Japan	2002 Beijing	2002 Shang-hai	2003 Kunming	2002 Hang-zhou	2002 Hong Kong	2003 Taiwan
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*	*785*	*787*	*1062*	*1053*	*1018*	*911*	*1057*	*732*
Q52		Social Participation	Neighborhood organization					1)17.1	1) 6.2	1) 4.9	1)15.6	1)26.6	1)53.6								
			PTA					2)13.8	2) 5.3	2) 2.6	2) 6.4	2)19.9	2)12.6								
			Women's club, Seniors' club, young people's club					3)11.7	3) 5.1	3) 2.0	3) 8.7	3)17.7	3)11.7								
			Fire-fighters' association, voluntary neighborhood v					4) 6.1	4) 2.1		4) 4.1	4)15.3	4) 2.5								
			Farmers' association, fishermen's association, fores					5) 4.9	5) 1.2	5) 0.3	5) 1.4	5)16.9	5) 4.6								
			Chamber of	6) 7.1	6) 2.6	6) 4.4	6) 0.5	6) 6.5	6) 1.7	6) 1.7	6) 3.7	6)14.1	6) 4.1								
			Labor Union					7) 8.4	7) 1.5	7) 6.5	7)12.6	7)12.9	7) 5.7								
			Club for sports, recreation, hobby or cultural activit					8)28.9	8)18.4	8)11.2	8)40.6	8)20.1	8)22.1								
			Regional association, class reunion association, alu					9)15.6	9)20.0	9) 3.0	9) 6.6	9)11.9	9)12.5								
			Religious org	7) 2.1	7) 3.8	7)14.3	7) 9.0	10)36.1	10)19.2	10) 9.5	10)15.1	10)28.5	10) 5.7								
			Coops, consumer union					11) 4.4	11) 0.4	11) 0.5	11) 1.4	11) 6.5	11)10.5								
			Political grou	8)11.6	8)11.1	8) 0.5	8) 1.3	12) 9.3	12) 3.0	12) 0.5	12) 2.0	12) 5.6	12) 2.4								
			Citizen group, resident movement group, environme					13) 7.2	13) 3.6	13) 1.3	13) 7.1	13)10.1	13) 2.5								
			Clivil defence volunteer group, neighbouhood watch							4) 0.8											
			Family service centres							14) 1.3											
			Sports club	1)15.8	1) 7.6	1) 8.6	1) 3.8														
			Cultural club	2)13.4	2)10.6	2) 3.8	2) 3.0														
			Leisure club	3)11.2	3) 5.6	3) 5.3	3) 2.5														
			Country men	4) 4.2	4) 2.4	4) 0.9	4) 1.0														
			Alumni assoc	5)17.3	5)10.1	5) 9.1	5) 2.7														
			Environment	9) 5.1	9) 1.6	9) 1.9	9) 1.8														
			Student orga	10) 6.9	10) 4.7	10) 3.9	10) 1.0														
			Women's club				11) 2.8														
			Academic association				12) 1.8														
			Medical association				13) 1.2														
			Philanthropic association				14) 7.0														
			Financial association				15) 0.7														
			Other	88) 1.5	88) 1.1	88)3.4	88) 1.2	–	88) 1.9	88) 0.5	88) 2.1	88) 3.9	88) 1.1								
			None	99)48.1	99)58.1	99)65.0	99)70.1	99)32.3	99)45.2	99)70.7	99)33.3	99)13.1	99)27.7								
			DK				99) 3.3					99)18.3									
Q52		Social Participation_Numbers	0	48.1	58.1	65.0	70.1	32.3	45.2	70.7	33.3	13.1	27.7		21.3	9.2	53.6	56.9	25.8	68.8	73.2
			1	25.5	28.6	21.1	18.7	23.8	33.1	19.4	31.4	20.3	30.1		34.2	69.2	34.7	29.2	61.6	20.7	19.1
			2	14.8	9.2	9.3	5.0	18.9	13.8	6.1	19.3	15.7	21.2		21.2	14.4	7.4	8.3	7.2	7.1	5.3
		※Otherは1団体として計算	3	7.1	2.8	3.2	1.2	11.2	4.5	1.9	9.4	11.4	10.6		13.1	5.3	3.1	3.5	3.2	2.7	1.4
			4	3.1	0.8	0.6	0.7	6.5	2.0	1.1	5.1	6.5	7.0		6.0	1.3	0.5	1.1	1.3	0.3	0.7
			5	1.3	0.2	0.6	0.3	2.9	0.9	0.3	0.9	5.0	1.8		3.0	0.3	0.5	0.9	0.7	0.4	0.3
			6	0.1	0.2	0.2	0.5	1.7	0.3	0.3	0.1	2.1	1.0		0.8	0.2	0.2	0.2	0.1	–	–
			7	–	0.1	–	–	1.6	0.1	0.1	0.3	1.5	0.4		0.1	–	0.1	–	0.1	–	–
			8	–	–	–	–	0.2	0.1	–	–	4.8	0.2		–	–	–	–	–	–	–
			9	–	–	–	–	0.2	–	–	–	0.8	–		–	–	–	–	–	–	–
			10	–	–	–	0.2	–	–	–	–	0.3	–		–	–	–	–	–	–	–
			11	–	–	–	–	0.1	–	0.1	0.1	0.0	–		–	–	–	–	–	–	–
			12	–	–	–	–	0.2	–	–	–	0.0	–		–	–	–	–	–	–	–
			13	–	–	–	–	0.4	–	–	–	–	–		–	–	–	–	–	–	–
			DK	–	–	–	3.3	–	–	–	–	18.3	–		0.3	0.1	–	–	–	–	–
F1		Gender	1)Male	48.8	41.7	47.5	44.4	49.8	49.5	47.0	48.1	39.1	47.1	47.4	47.5	46.1	49.9	51.8	50.4	47.4	46.3
			2)Female	51.2	58.3	52.5	55.6	50.2	50.5	53.0	51.9	60.9	52.9	52.6	52.5	53.4	50.1	48.2	49.6	52.6	53.7
			missing													0.5						–
F2		Age	※18～19yrs	2.8	1.9	4.1		4.0	2.3		4.1	6.7				1) 4.3	1) 3.8	1) 2.8	1) 2.4	1) 4.8	
		※【国別質問】	20～24yrs	10.9	8.9	8.7	7.6	8.3	9.4	10.7	9.4	15.4	1) 4.1	1) 3.7	1) 2.9	2) 10.5	2) 10.3	2) 7.1	2) 8.6	2) 7.6	2) 6.6
		ブランクは、各国調査票で設定されていない回答肢	25～29yrs	12.2	5.6	5.9	10.0	9.9	10.1	10.7	8.7	14.2	2) 5.6	2) 5.2	2) 5.5	3) 7.8	3) 6.8	3) 12.7	3) 8.3	3) 7.6	3) 9.0
			30～34yrs	7.2	4.4	7.9	11.3	12.4	9.7	11.9	8.4	13.3	3) 7.7	3) 9.3	3) 9.5	4) 8.6	4) 6.1	4) 13.7	4) 9.9	4) 12.4	4) 14.1
			35～39yrs	8.5	3.4	12.4	17.2	7.8	14.4	13.3	10.7	13.4	4) 8.1	4) 7.0	4) 6.9	5) 9.5	5) 6.1	5) 10.1	5) 11.3	5) 15.1	5) 13.3
			40～44yrs	10.7	8.9	12.8	14.3	11.1	11.4	13.9	11.6	10.0	5) 7.6	5) 9.2	5) 9.5	6) 12.1	6) 13.7	6) 9.2	6) 9.3	6) 17.9	6) 13.5
		※ 成人年齢が各国で異なる場合あり	45～49yrs	8.5	17.1	13.3	12.8	9.5	11.0	12.4	9.7	8.0	6) 8.5	6) 7.9	6) 8.1	7) 13.0	7) 18.8	7) 9.2	7) 8.8	7) 10.5	7) 11.6
			50～54yrs	8.7	18.9	11.4	9.3	8.3	8.6	10.0	7.7	6.8	7) 9.2	7) 9.0	7) 13.7	8) 7.9	8) 10.2	8) 7.7	8) 9.4	8) 7.9	8) 10.5
			55～59yrs	7.4	11.7	7.1	6.3	7.2	6.1	7.9	8.9	4.2	8)12.6	8)12.2	8) 10.3	9) 5.1	9) 6.6	9) 5.4	9) 7.7	9) 3.2	9) 6.8
			60～64yrs	4.2	7.2	3.9	3.5	9.3	8.6	5.4	10.4	4.6	9)11.9	9)13.6	9) 11.7	10) 7.3	10) 6.1	10) 6.8	10) 6.4	10) 3.8	10) 5.6
			65～69yrs	8.3	4.0	3.3	2.7	5.8	8.0	3.9	10.3	3.1	10) 9.2	10) 8.2	10) 9.4	11) 6.2	11) 3.2	11) 5.3	11) 6.6	11) 2.8	11) 4.5
			70yrs & over	10.5	8.0	9.0	5.1	6.3	0.4				11)15.4	11)14.6	11)12.5	12) 7.5	12) 8.4	12)10.1	12)11.3	12) 6.2	12) 4.4
			missing			0.2										0.2				0.1	0.1
F1xQ4		F1_Male	Q4_Boy	71.2	68.6	74.4	83.2	93.1	83.5	89.5	86.6	85.5	90.3		96.5	※91.4	85.0	88.7	83.5	90.8	84.2
			Q4_Girl	14.2	16.3	11.4	4.5	5.8	13.7	3.9	9.8	9.0	5.6		3.5	8.6	15.0	11.3	16.5	9.2	15.8
		※F1がmissingの者を除く	Other/DK…	14.6	15.1	14.1	12.3	1.1	2.7	6.6	3.6	5.5	4.1		–	–	–	–	–	–	–
		F1_Female	Q4_Boy	36.4	42.5	32.5	40.9	13.9	43.3	26.3	27.8	34.3	23.1		21.1	※51.4	50.7	59.4	48.2	33.8	48.0
			Q4_Girl	51.8	47.0	57.8	47.5	84.5	51.5	67.5	67.8	62.8	72.1		78.9	48.6	49.3	40.6	51.8	66.0	52.0
			Other/DK…	11.9	10.5	9.6	11.6	1.5	5.2	6.2	4.4	3.0	4.8		–	–	–	–	–	0.2	–
Q34axQ34b		Q34a_Highes&Q34b_Highest		58.1	49.7	49.1	51.2	57.6	47.7	57.4	62.1	74.7	44.9		52.2	61.6	54.9	64.5	56.0	47.2	57.6
		Q34a_Relative&Q34b_Highest		2.1	2.0	3.2	1.7	5.8	2.2	2.5	4.6	3.6	0.7		1.6	1.6	1.2	1.6	1.5	2.3	0.9
		Q34a_Highest&Q34b_Benefac		20.7	18.5	18.7	22.2	6.4	30.7	17.6	11.9	9.4	21.3		25.8	21.5	25.8	15.3	16.3	21.0	19.7
		Q34a_Relative&Q34b_Benefac		14.1	16.3	23.2	18.7	23.0	14.4	15.5	14.7	8.6	19.1		20.5	15.3	18.1	18.5	26.2	29.5	21.8
		Other/DK…		5.0	13.6	5.8	6.1	7.2	5.0	7.0	6.7	3.7	14.0		–	–	–	–	–	–	–
Q39axQ39b		Q39a_Home&Q39b_Home		36.5	38.6	52.1	46.8	62.5	47.2	64.3	68.6	64.6	34.7								
		Q39a_Meeting&Q39b_Home		10.4	10.1	17.0	9.0	5.2	16.4	4.7	3.9	7.3	8.3								
		Q39a_Home&Q39b_Meeting		7.8	6.4	3.5	6.3	7.5	6.3	3.6	6.3	4.3	8.7								
		Q39a_Meeting&Q39b_Meeting		42.3	34.7	25.0	34.5	16.0	23.1	20.9	13.0	22.8	36.0								
		Other/DK…		3.1	10.2	2.5	3.5	8.8	7.0	6.4	8.3	1.0	12.4								

		2003	2004	1998	1999	1999	1988	1988	1988	1988	1987	1987	1987	1992	1993	1991	1988	1988	1993	1998	2003	1993	1998	2003	1998
Item	category	South Korea	Singa-pore	JAWCS	HA JA	HA NJ	JPN-A	HA JA	HA NJ	USA	FRA	UK	FRG	ITA	HOL	BRZ JB	JPN-B	J-KS8	J-KS9	J-KS10	J-KS11	Omni JPa	Omni JPb	Omni JPc	Omni USA
	#sample	*1006*	*1037*	*344*	*206*	*294*	*2265*	*180*	*319*	*1563*	*1013*	*1043*	*1000*	*1048*	*1083*	**492*	*1017*					*1507*	*1442*	*1431*	*985*
Social Participation	Neighborhoo																								
	PTA																								
	Women's clu																								
	Fire-fighters																								
	Farmers' ass																								
	Chamber of																								
	Labor Union																								
	Club for spor																								
	Regional ass																								
	Religious org																								
	Coops, consu																								
	Political grou																								
	Citizen group																								
	Clivil defence																								
	Family servic																								
	Sports club																								
	Cultural club																								
	Leisure club																								
	Country mem																								
	Alumni assoc																								
	Environment																								
	Student orga																								
	Women's clu																								
	Academic as																								
	Medical asso																								
	Philanthropic																								
	Financial ass																								
	Other																								
	None																								
	DK																								
Social Participation_Numbers	0	41.7	74.7																						
	1	34.0	17.9																						
	2	15.5	4.8																						
※Otherは1団体として計算	3	6.0	1.0																						
	4	1.9	0.5																						
	5	0.4	0.3																						
	6	0.3	0.3																						
	7	0.1	0.1																						
	8	0.1	0.2																						
	9	–	0.1																						
	10	–	–																						
	11	–	–																						
	12	–	0.1																						
	13	–	–																						
	DK	–	–																						
Gender	1)Male	50.4	43.4	56.4	53.2	52.9	46.2	47.2	48.6	50.5	46.6	47.6	44.4	47.8	44.7	53.6	45.3	+ 45	+ 46	+ 45	+ 46			48.5	
	2)Female	49.6	56.6	43.6	46.8	47.1	53.8	52.8	51.4	49.5	53.4	52.4	55.6	52.2	55.3	46.0	54.7	55	54	55	54			51.5	
	missing	–	–													0.4									
Age	※18～19yrs			0.6	–	–	2.8	1.7	0.6	3.3	4.4	4.2	3.9	4.3	3.5	1.6	3.3								
※【国別質問】	20～24yrs	1) 9.6	1) 9.4	3.8	2.4	4.1	7.0	3.3	3.8	6.8	10.8	9.8	9.7	10.7	8.0	12.8	5.8	+ 10	+ 8	+ 7	+ 5			14.9	
ブランクは、各国調査票で設定されていない回答肢	25～29yrs	2) 7.8	2) 9.9	3.8	7.3	6.1	6.1	3.3	7.5	10.0	11.6	9.4	12.6	9.3	11.1	5.5	7.7	8	7	7	6				
	30～34yrs	3) 16.3	3) 12.7	5.5	3.9	5.4	9.0	7.8	8.2	9.9	12.5	10.0	9.7	9.2	11.9	8.8	10.3	9	8	8	8			17.1	
	35～39yrs	4) 14.4	4) 15.4	9.0	5.3	8.8	10.4	6.7	12.5	10.3	10.8	8.9	11.4	8.4	11.1	11.3	11.3	13	9	8	8				
	40～44yrs	5) 14.3	5) 14.4	17.2	6.3	8.2	10.9	10.0	11.3	9.0	8.4	8.9	8.4	8.0	11.3	11.3	11.4	10	13	8	8			15.9	
※ 成人年齢が各国で異なる場合あり	45～49yrs	6) 8.3	6) 11.7	10.8	12.1	9.5	10.9	7.2	7.5	7.5	5.8	8.6	9.9	8.7	9.1	8.6	9.7	10	11	11	8				
	50～54yrs	7) 7.6	7) 8.4	9.0	8.3	12.2	9.9	5.6	6.0	6.1	7.1	7.5	8.6	8.9	6.1	10.7	10.1	9	10	10	12			19.1	
	55～59yrs	8) 6.5	8) 5.4	7.0	7.3	12.9	10.1	10.6	5.6	7.0	7.1	6.3	7.0	7.4	6.0	9.1	9.1	9	10	10	10				
	60～64yrs	9) 6.1	9) 3.8	6.4	6.8	9.2	8.3	13.3	10.3	6.8	6.7	7.4	6.5	8.1	6.5	4.6	8.0	8	10	11	11			17.7	
	65～69yrs	10) 5.9	10) 3.9	8.4	10.7	8.2	6.1	11.1	9.7	8.3	5.2	5.8	5.2	7.4	5.2	4.7	6.6	6	7	8	10				
	70yrs & over	11) 3.4	11) 5.1	18.6	29.6	15.3	8.6	19.4	16.3	15.0	9.5	13.2	7.1	9.6	10.2	11.1	6.6	8	7	12	14			15.4	
	missing		–						0.6							0.1									
F1_Male	Q4_Boy	84.9	91.2																						
	Q4_Girl	15.1	8.8																						
	Other/DK…	–	–																						
F1_Female	Q4_Boy	45.7	29.4																						
	Q4_Girl	54.3	70.6																						
	Other/DK…	–	–																						
Q34a_Highes&Q34b_Highest		56.0	60.0	53.8	53.9	56.5	39.2	47.2	56.1	56.4	44.8	62.5	32.5	57.4	54.1	*53.5	41.4	K 42	K 43	K 47	K 52	43.7	49.4	45.8	61.7
Q34a_Relative&Q34b_Highest		2.0	1.1	3.2	3.4	4.1	1.2	3.3	5.3	7.5	4.7	5.8	2.9	4.6	12.3	*3.7	1.4	2	2	2	2	1.3	1.7	1.2	4.9
Q34a_Highest&Q34b_Benefac		24.1	20.0	18.9	9.2	7.5	18.4	18.9	9.4	8.4	12.7	8.5	9.8	7.1	4.2	*16.9	18.1	26	21	21	18	18.0	15.5	17.3	4.4
Q34a_Relative&Q34b_Benefac		17.9	18.9	20.1	21.8	17.0	21.4	22.8	20.1	21.0	29.7	14.5	34.2	19.6	14.2	*14.8	19.9	21	22	20	16	20.1	18.1	20.1	14.4
Other/DK…		–	–	4.0	11.7	14.9	19.8	7.8	9.1	6.7	8.0	8.6	20.6	11.4	15.1	*11.1	19.2	9	12	10	12	16.9	15.3	15.6	14.6
Q39a_Home&Q39b_Home				59.6	48.5	41.8	34.7	50.6	54.2	57.5	60.4	59.4	53.3	73.8	60.4	*63.8	34.7	K 41	K 40	K 36	K 31	39.3	38.8		50.4
Q39a_Meeting&Q39b_Home				5.8	4.4	6.5	8.3	13.3	8.2	6.3	3.8	10.4	5.3	3.6	5.7	*5.5	8.8	10	6	6	7	7.4	8.5		4.6
Q39a_Home&Q39b_Meeting				13.4	9.7	8.5	8.7	7.8	4.1	7.4	1.7	2.2	3.2	0.6	6.2	*3.3	7.1	10	9	9	9	6.2	5.7		9.1
Q39a_Meeting&Q39b_Meeting				14.8	13.6	11.9	36.0	19.4	19.1	17.7	18.2	16.4	14.6	12.5	7.1	*14.4	30.4	30	35	38	41	32.1	34.8		15.1
Other/DK…				6.4	23.8	31.3	12.4	8.9	14.4	11.2	16.0	11.6	23.6	9.5	20.6	*13.0	19.0	9	10	11	12	15.0	11.2		20.8

				2005	2005	2005	2006	2006	2006	2007	2007	2008	2004	2004	2002	2002	2002	2003	2002	2002	2003
APVS	Common code	Item	category	Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	USA	South Korea	Singa-pore	Australia	India	Japan A	JapanB	Japan	Beijing	Shang-hai	Kunming	Hang-zhou	Hong Kong	Taiwan
			#sample	*1053*	*1062*	*849*	*603*	*901*	*1030*	*1032*	*700*	*2002*	*1139*	*785*	*787*	*1062*	*1053*	*1018*	*911*	*1057*	*732*
Q52xmale		Social Participation_Numbers	0	45.5	57.8	63.8	66.8	35.2	39.0	70.1	32.3	10.2	29.6		27.0	9.4	52.6	53.5	22.9	70.1	66.4
			1	25.9	29.1	23.1	19.8	23.4	34.9	19.6	36.8	24.6	31.8		33.7	67.3	33.1	30.4	61.9	19.4	23.0
			2	15.6	9.7	8.7	5.2	17.6	16.3	7.2	17.5	16.6	19.6		19.0	16.5	9.0	11.4	10.2	7.0	7.4
※Beijin2002はF1がmissingの者を除く		※Otherは1団体として計算	3	8.0	2.5	3.0	2.2	10.9	5.3	1.9	8.6	11.0	9.1		12.0	5.3	4.0	2.8	2.4	2.8	1.8
			4	3.9	0.7	0.2	0.7	5.6	2.7	0.4	4.5	7.3	6.1		3.7	0.8	0.6	0.9	2.0	0.2	1.2
			5	1.2	0.2	1.0	0.4	2.7	1.0	0.2	0.3	5.8	2.0		3.5	0.4	0.6	0.8	0.4	0.6	0.3
			6	–	–	0.2	0.7	2.4	0.6	0.2	–	1.4	0.9		0.8	0.2	0.2	0.2	–	–	–
			7	–	–	–	0.0	0.7	0.2	0.2	–	1.0	0.4		–	–	–	–	0.2	–	–
			8	–	–	–	0.0	0.4	–	–	–	3.8	0.4		–	–	–	–	–	–	–
			9	–	–	–	0.0	0.2	–	–	–	0.6	–		–	–	–	–	–	–	–
			10	–	–	–	0.4	–	–	–	–	0.4	–		–	–	–	–	–	–	–
			11	–	–	–	–	0.2	–	–	–	0.1	–		–	–	–	–	–	–	–
			12	–	–	–	–	0.2	–	–	–	–	–		–	–	–	–	–	–	–
			13	–	–	–	–	0.4	–	–	–	–	–		–	–	–	–	–	–	–
			DK	–	–	–	3.7	–	–	–	–	17.1	–		0.3	–	–	–	–	–	–
Q52xfemale		Social Participation_Numbers	0	50.5	58.3	66.1	72.8	29.4	51.3	71.3	34.2	14.9	26.1		16.2	9.2	54.5	60.5	28.8	67.6	79.1
			1	25.0	28.3	19.3	17.9	24.1	31.3	19.2	26.4	17.6	28.6		34.6	70.7	36.2	27.9	61.3	21.9	15.8
			2	14.1	8.9	9.9	4.8	20.1	11.3	5.1	20.9	15.1	22.6		23.2	12.7	5.9	4.9	4.2	7.2	3.6
※Beijin2002はF1がmissingの者を除く		※Otherは1団体として計算	3	6.3	3.1	3.4	0.3	11.5	3.7	2.0	10.2	11.6	12.0		14.0	5.1	2.3	4.3	4.0	2.7	1.0
			4	2.4	0.8	0.9	0.6	7.5	1.3	1.6	5.8	6.1	7.8		8.0	1.8	0.4	1.2	0.7	0.4	0.3
			5	1.5	0.2	0.2	0.3	3.1	0.8	0.4	1.4	4.5	1.5		2.7	0.2	0.4	1.0	0.9	0.2	0.3
			6	0.2	0.3	0.2	0.3	0.9	–	0.4	0.3	2.5	1.0		0.7	0.2	0.2	0.2	0.2	–	–
			7	–	0.2	–	–	2.4	–	–	0.6	1.8	0.5		0.2	–	0.2	–	–	–	–
			8	–	–	–	–	–	0.2	–	–	5.5	–		–	–	–	–	–	–	–
			9	–	–	–	–	0.2	–	–	–	0.9	–		–	–	–	–	–	–	–
			10	–	–	–	–	–	–	–	–	0.2	–		–	–	–	–	–	–	–
			11	–	–	–	–	–	–	–	0.3	–	–		–	–	–	–	–	–	–
			12	–	–	–	–	0.2	–	–	–	0.1	–		–	–	–	–	–	–	–
			13	–	–	–	–	0.4	–	–	–	–	–		–	–	–	–	–	–	–
			DK	–	–	–	3.0	–	–	–	–	19.1	–		0.2	0.2	–	–	–	–	–

		2003	2004	1998	1999	1999	1988	1988	1988	1988	1987	1987	1987	1992	1993	1991	1988	1988	1993	1998	2003	1993	1998	2003	1998
Item	category	South Korea	Singa-pore	JAWCS	HA JA	HA NJ	JPN-A	HA JA	HA NJ	USA	FRA	UK	FRG	ITA	HOL	BRZ JB	JPN-B	J-KS8	J-KS9	J-KS10	J-KS11	Omni JPa	Omni JPb	Omni JPc	Omni USA
	#sample	*1006*	*1037*	*344*	*206*	*294*	*2265*	*180*	*319*	*1563*	*1013*	*1043*	*1000*	*1048*	*1083*	**492*	*1017*					*1507*	*1442*	*1431*	*985*
Social Participation_Numbers ※Otherは1団体として計算	0	36.1	71.8																						
	1	38.3	19.1													*BRZ_JB1991のクロス集計では、Weight補正をしていない									
	2	16.0	5.8																						
	3	6.3	1.1																						
	4	2.2	0.7																						
	5	0.4	0.2																						
	6	0.4	0.4																						
	7	0.2	–																						
	8	0.2	0.4																						
	9	–	0.2																						
	10	–	–																						
	11	–	–																						
	12	–	0.2																						
	13	–	–																						
	DK	–	–																						
Social Participation_Numbers ※Otherは1団体として計算	0	47.5	77.0																						
	1	29.7	17.0																						
	2	15.0	4.1																						
	3	5.6	0.9																						
	4	1.6	0.3																						
	5	0.4	0.3																						
	6	0.2	0.2																						
	7	–	0.2																						
	8	–	–																						
	9	–	–																						
	10	–	–																						
	11	–	–																						
	12	–	–																						
	13	–	–																						
	DK	–	–																						

4. 本研究関連の学会誌発表等（主要論文のみ）

信頼感と基本的価値観
---アジア太平洋価値観国際比較調査における文化多様体解析---

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所
吉野諒三

1. 新たな時代への過渡期における「信頼感」の崩壊

本発表では、我々の「国民性」に関する意識調査で遂行された人々の意識、態度、価値観等に関する回答データに映し出された「信頼感」について、時系列的比較や国際比較のデータ解析の一端を紹介することである。特に活用するのは、数理研究所による1953年以来、半世紀に及ぶ「日本人の国民」調査、1985-93年における「意識の国際比較調査」,そして2002-2005年度の「東アジア価値観国際比較調査（East Asia Values Survey [EAVS]）」及び2004-2009年度の「アジア太平洋価値観国際比較調査(Asia-Pacific Values Survey [APVS])における対人関係における信頼感や、社会制度に関する信頼感を探る項目のデータである。

冷戦終了以降の急激な世界的再編が進む中で、文化や歴史的背景の多様性のために統合は難しいとされてきた東アジアでも、急速に経済を中心とする協力関係が模索され、実現されつつある。その成功には人々の「信頼」が一つの鍵となっており、その鍵を見出すための基礎情報としての当該地域の人々の「信頼感」に関する意識の国際比較データの収集と解析の意義が了解されよう。

この20年ほど、「信頼」について、国内外の学会、学術雑誌等で盛んに議論が展開されてきた。特に、日系人歴史経済学者F.Fukuyama（1995)の著書「TRUST」が出版されて以降、このテーマについてマスコミも含め、広く論じられるようになった。Fukuyama(1989)は米国政府のブレインとして、著書「歴史の終わり」の中で、冷戦後の世界の流れを人々の気概（guts）が重要な要素となる民主主義の発展として位置づけたことで有名である。Fukuyamaは、例えば米国やドイツ、日本、韓国は地域共同体やボランティア組織など国家と各家庭との中間にある組織が発達しているため人々の間の信頼性が高く、大企業が発達し経済的にも豊かな国となっている一方、イタリア、フランス、中国は中央集権が強い歴史が長かったために血族間の結束は強いが、それを越えた一般の対人関係では信頼性が低く、大企業が発達しがたく、経済的にも成功しがたい社会であるとした。

2．対人的「信頼」を測る　--- GSS項目による「信頼感」尺度 ---

冷戦時代、その世界情勢を背景に社会心理学では「信頼感」尺度の構成が種々試みられたが、米国のGSS（一般社会調査）の中には以下の問26、問27、問28のような人々の「信頼感」を尋ねる3項目が含まれている。

問26　たいての人は、他人の役にたとうとしていると思いますか、それとも自分のことだけ考えていると思いますか。　1.他人の役にたとうとしている　2.自分のことだけ考えている

問27　他人は、機会があれば、あなたを利用しようとしていると思いますか、それともそんなことはないと思いますか。　1.他人は機会があれば利用しようとしていると思う　2.そんなことはないと思う

問28　たいていの人は信用できると思いますか、それとも、常に用心した方がよいと思いますか。

1.信頼できると思う　2.常に用心した方がよい

吉野(2005b)は、これら3項目全てに楽観的回答（問26は1、問27は2、問28は1）をした日本人の割合を、この四半世紀にわたり示し、概して、この指標に関しては、日本人の「信頼感」は安定していることを示す一方で、米国人の回答パターンは、経済変動との連関を想定させるような変化を示した。

さらに、国際比較調査データではYoshino（2002a）のFig.6のようになるが、海外調査の一部では、GSS3項目中問26と問28のみ採用した場合もあり、それらの国や地域も含めると図(発表時に提示)のようになる。特に、各地の日系人や中国人を含めたデータなので、先述のFukuyama（1995）の高信頼性の国々と低信頼性の国々に関する主張や、GSS項目のように一つの尺度で広い範囲の国々の「信頼感」の国際比較可能性(global standard)を追求することの是非に関する議論のために、参考となろう。例えば、中国人の「信頼感」はそれほど低くなく、Fukuyamaの主張と矛盾するようである。これは、1)このような尺度では「信頼感」が直接には測定できないからか、あるいは2)中国人が国際的信用回復のために努力した結果なのか、あるいは3)そもそも各国の信頼感はFukuyamaの言うようにはなってはいないということなのか。今後、それぞれの視点から検討が必要であろう。

参考文献

Yoshino, R. (2002). A time to trust - a study on peoples' sense of trust from a viewpoint of cross-national and longitudinal study on national character -. Behaviormetrika. Vol.29 No.2, pp.231-260.

吉野諒三. (2005a). 東アジア価値観調査－文化多様体解析（CULMAN）に基づく計量文明論の構築へ向けて－. 行動計量学、Vol.32, No.1, pp.133-146.

吉野諒三. (2005b). 富国信頼の時代へ－－ 東アジア価値観国際比較調査における信頼感の統計科学的解析－－. 行動計量学、Vol.32, No.1, pp.147-160.

Yoshino, R. (2006). A social value survey of China --- on the change and stability in the Chinese globalization ---. Behaviormetrika, Vol.33, No.2, 111-130.

Yoshino, R. (in press). Reconstruction of Trust on a Cultural Manifold --- A study of interpersonal trust in the longitudinal and cross-national surveys of national character ---. A special issue of Behaviormetrika.

吉野諒三編 (2007). 東アジア国民性比較 ---データの科学---. 勉誠出版.

吉野諒三・千野直仁・山岸侯彦 (2007). 数理心理学 第5章「データの科学」としての計量的文明論. 培風館.

宗教的な心の国際比較に向けて

－2008年インド調査を踏まえ、環太平洋価値観調査から－

林　文
（東洋英和女学院大学人間科学部）

二階堂晃祐
（統計数理研究所）

１．はじめに

日本における宗教に対する考え方が、欧米とは異なっていることが指摘されており、これまでの国際比較調査からもそれが示されてきた。例えば、１９９０年前後の「7カ国調査」により、信仰を持っている日本人は３割程度であるが、信仰を持たなくても宗教的な心が大切だという回答を合わせると７割になること、一方、欧米では信仰を持っている人が多く、持っていない人の中で宗教的な心が大切という人は少ないことがわかっている。東アジア価値観調査の目的の一つは、これらの特徴がアジアの特徴なのか日本の特徴なのかを考察することであった。そして、いくつかの点では日本は欧米とも異なるがアジア各国とも異なる特徴を持っていることが示唆されたが、その中で中国の特殊性も明示された。環太平洋価値観調査は、新たに調査票を検討し、アメリカとオーストラリア、シンガポールを加えて、アジア各国と西欧への比較の連鎖を念頭に計画実施された。この過程でも、宗教、宗教的な心とは何か、またその国際比較の可能性や日本の独自性について、興味深い点が示唆されてきた。例えば、宗教を信じたり、宗教的な心が大切という考えと、先祖を尊ぶこととの関連については、特に日本での相関性が高く、これがひとつの日本における宗教意識の特徴である可能性が述べられてきた。

今回、新たに２００８年に実施されたインド調査の結果を踏まえることで、ヒンズー文化圏という欧米とも、また狭義の意味での東アジア文化圏とも違う地域の実情の分析を開始し、宗教的な心の国際比較に向けて新しい側面を付加していきたい。

２．インド調査の概要

環太平洋価値観調査の一環としてのインド調査は２００８年１１月から２００９年２月にかけて現地調査会社に委託して行われ、N＝２００２である。サンプルが主要都市部とその周辺に限定されているため、必ずしも母集団が全国レベルではない、といった制約はあるものの、それでも国外の調査主体が行った総合的世論調査としては質、量ともに現時点で最も充実した内容のものと言えるだろう。宗派上での内訳は以下の通りである：

ヒンズー教＝84.9%、イスラム教＝2.9%、キリスト教＝3.7%、仏教＝0.8%、
シーク教＝1.8%、ジャイナ教＝0.7%、DK＝5%

３．初期段階分析

信仰の有無	はい			いいえ		
宗教的な心大切	大切	大切ではない	分からない	大切	大切ではない	分からない
India 2008	74.4	16.7	1.4	4.3	3.0	0.2
ITALY 1992	80.7	4.9	2.4	5.3	5.2	1.6
USA 1988	79.8	4.8	1.4	7.8	5.5	0.7
USA 2006	69.4	7.7	2.4	6.9	11.3	2.3
Singapore 2004	69.2	5.9	4.3	6.4	10.5	3.7
Singapore 2007	67.4	8.1	3.3	7.0	12.3	1.8
FRG 1987	55.6	16.8	5.1	3.2	17.2	2.2
Taiwan 2003	62.2	8.3	4.4	11.7	10.8	2.6
Taiwan 2006	58.0	5.5	1.3	20.4	12.4	2.3
UK 1987	48.0	14.2	3.0	10.5	22.3	2.0
FRNCE 1988	51.9	10.9	2.0	10.9	22.3	1.9
NL 1993	41.4	13.5	4.7	9.0	25.9	5.5
South Korea 2003	47.0	2.4	1.1	27.1	15.9	6.5
South Korea 2006	51.1	1.5	1.1	27.0	13.5	5.9
Hong Kong 2002	29.0	3.4	1.5	31.4	28.3	6.3
Hong Kong 2006	31.2	5.1	2.1	32.4	21.6	7.7
JPN 1988	34.5	0.8	1.1	40.9	10.2	12.3
Japan(KS) 2003	28.5	0.5	1.3	41.5	14.3	13.8
Japan 2004	27.3	0.5	0.5	44.9	15.3	11.5
Hangzhou 2002	14.8	2.5	2.9	19.5	35.7	24.6
Kuming 2002	13.5	4.0	2.5	21.4	37.7	20.9
Shanghai 2002	14.6	3.4	1.0	27.7	37.9	15.3
Shanghai 2006	17.1	5.2	5.5	15.5	35.1	21.6
Beijing 2002	6.9	1.3	1.0	27.6	57.6	5.6
Beijing 2006	9.4	3.1	1.2	30.0	47.3	8.9

右の表からも分かるように、インド人は全体としては信仰を持っている人の割合は非常に高いように見える。一方で、信仰はあると答えているが、宗教的な心は大切ではない、と答えている人の割合が高いのも興味深い。ヒンズー教が世俗的、形式的な傾向が強い宗教だろうか、今後のさらなる分析が期待される側面である。一方、インドでは、「先祖を尊ぶべきか」の質問に否定的な回答をした者はほぼ皆無で、実質的に「強く肯定」か「弱い肯定」の違いだけである。そして、この違いに対しては、信仰、宗教的な心ともにまったく相関関係は見られず、この意味では日本よりは多くの東アジアの国に近いパターンといえるかもしれない。また、インドでは「いろいろな宗教の教えは結局は同じ」の設問に対し、肯定が８７％、否定が１２％と肯定の割合が極めて高い。宗教対立が激しい国としては意外な結果にも思えるが、この設問に対しては懐疑的な人が多い日本とは対照的といえよう。さらに、「死後の世界」を「ある」、もしくは「あるかもしれない」とする人の割合は、６５％とかなり高めである。信仰心は死後の世界の認識と関連があるのに対し、宗教的な心はまったく相関性が見られない。全体としてみると、現段階ではインドの状況は日本よりは東アジア、もしくは場合により欧米に近い印象を受けるが、今後のさらなる分析、検討が必要となるだろう。

参考文献

林文(2006)　宗教と素朴な宗教的感情，行動計量学，33-1，pp13-22.

林文(2007)　社会調査からみる宗教・素朴な宗教的感情と死生観，「死生学年報」第３号，pp129-154，リトン.

統計数理研究所国民性国際調査委員会 ： 国民性七カ国調査，出光書店，1998.

吉野諒三 編(2004a)，東アジア価値観国際比較調査―「信頼感」の統計科学的解析― 2002 年度日本調査報告書 統計数理研究所 研究リポート91.

吉野諒三 編(2004b)，東アジア価値観国際比較調査―「信頼感」の統計科学的解析― 2002 年度中国[北京・上海・香港]調査報告書 統計数理研究所.

健康感から捉えた文化的連鎖

山岡和枝
国立保健医療科学院技術評価部

1　はじめに

これまで自覚的健康度（自覚症状、健康満足度、生活満足度、自覚的健康度、幸福感）と社会・生活関連要因（属性、信頼感、ソーシャルキャピタル（SC）の指標）との関連を分析し、健康関連指標の性差はアメリカ、ドイツではあまり顕著ではなく、社会階層意識が高い、SC（人的資源）があることが自覚的健康度を高めることと関連したことを報告してきた。本研究では、環太平洋価値観国際比較研究の一環として、健康感として上記自覚的健康度に近年多くなっている不眠の訴えを加え、これらの健康感の質問への回答傾向の関連性から文化的連鎖について検討し、その特徴を明らかにすることを目的とした。

2．方法

両国における調査は、母集団として各国在住の成人男女（各国の成人の定義に順ずるが、ほとんどの国・地域で18歳以上もしくは20歳以上）で母国語を理解し話すことができる者とした。本研究で用いたデータは環太平洋価値観国際比較調査(PAC)(2004-2008年)、東アジア価値観比較調査（EA）(2002-2004年)（代表　吉野諒三）を中心として用いたが、一部、これらにこれまでに実施された7カ国国際比較調査(7N)（1987-1993年）、日系ブラジル人調査(1991)（代表　林知己夫）、ハワイ日系人調査(JA)（2000年）（代表　吉野諒三）、医療と文化調査(HC)（2003年）および生命感と文化調査(LC)（2006-2007年）（代表　山岡和枝）を用いた。なお、生命感と文化調査はRDD　CATI調査として実施し、他はすべて面接調査として実施されたものである。

本報告では健康指標として自覚症状の個数（SRHS）、健康満足度（HS）、生活満足度（LS）、幸福感、健康状態（DS）、不眠に関する指標を取り上げ、共通する質問について数量化Ⅲ類によるパターン分類（SAS CORRESP プロシージャ）により国・地域グループ別および全データについて、祖データのまま、サンプル数が同等となるように重みをつけた場合、および比率の差を項目間の距離として定義して（Yamaoka、Hayashi、2003）、多次元尺度法（ALSCAL）により国･地域グループ間の関連性を検討した。

3　結果と考察

調査結果の分析にあたっては、調査方法、調査年度、質問票の相違などに留意して解釈する必要がある(表1参照)。回答分布から捉えたとき、年齢効果が一部逆向きになっていた地域もあるため、年齢調整を行わずに、生データで比較検討した。さらに、数量化3類でパターン分類を行う際に、国・地域グループ間でサンプル数の相違の影響を受ける可能性がある。そこで、分析にあたってはまず、性別と総数の場合について個別に分析し、関連性の相違を確認した。その後、散布図から視覚的にではあるが項目間の関連性はほぼ同様とみなせたため、すべての利用可能なデータを合わせて分析を行った場合、およびサンプル数が同等となるように解析の時に重みをつけた場合について分析し、国・地域グループの関連性の検討を行った。さらに、比率の差を項目間の距離として定義してALSCALにより国･地域グループ間の関連性を検討した。以下にこれらの検討のうち、特徴的なものについて示す。図1には重みなしの場合のPAC、EA、7N、HC、LCのデータでの分析結果である。この結果からは調査時期を越えて、同じ地域・国は比較的近くに布置されており、シンガポール（健康感・高）と韓国（健康感・低）が両極端に布置されていた。また、7N時点での

フランス、イタリア、およびPACでの北京、香港は、不安感が高い回答傾向を示すという点で類似していた。図2に日系人に共通して質問されていた生活満足度と健康満足度の比率の差からALSCALにより国・地域グループ間の関連性を検討した結果を示す。ここでは特に日系米国人と関係の深いと考えられる日本、アメリカおよび日系ブラジル人とラテン民族という点で関係があると考えられるフランス、イタリアのデータを取り上げた。この結果からも年代、調査方法は異なるが、国際比較として粗い目で捉えた場合にはCATI, 面接という調査法の相違(アメリカ)よりも国際間の関連性の相違の方がより顕著に現れており、1根目(横軸)でみるとアメリカにはハワイの非日系人、日系人2世・3世の順で日本よりに布置されており、日系ブラジル人は2根目(縦軸)でみると1世、2世、3世の順で日本からはフランス、イタリアのほうに布置されており、健康感から捉えた場合にも文化の連鎖といったものが垣間見られていた。

4 まとめ

国際比較調査で国・地域グループの関連性を検討する場合には、問題によって異なるものの、少なくとも本研究で検討した項目については、年次や調査方法の相違よりも、国際間の関連性の相違が大きいことが示唆された。問題とする項目における文化の連鎖を検討していくことは、その特徴を把握する上でも意味があると考える。

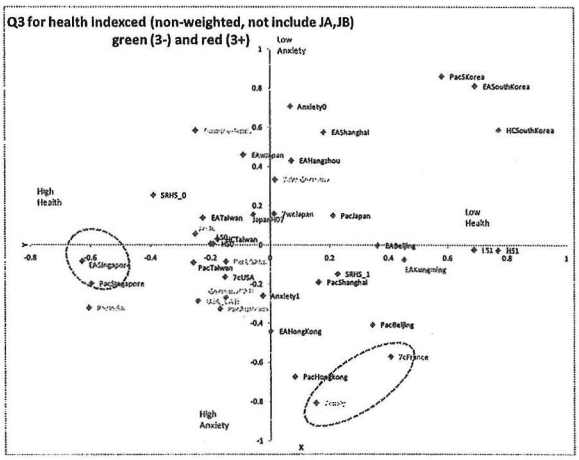
表1 用いた調査データ

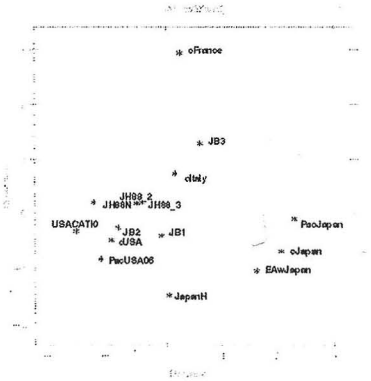
Country?Area	Type	Survey Year	Men	Women	Total	Average age	Completed Qeustisonn	Population
W.Germany	7N	1987	444	556	1000	43.0	completed	Aged 18
France	7N	1987	472	541	1013	43.2	completed	Aged 18
UK	7N	1987	496	547	1043	45.9	completed	Aged 18
USA	7N	1988	790	773	1563	47.5	completed	Aged 18
Japan	7N	1988	1046	1219	2265	46.6	73.2%	Aged 20
7cNetherlands	7N	1993	484	599	1083	44.1	completed	Aged 18
7cItaly	7N	1992	501	547	1048	45.2	completed	Aged 18
Japan	EA	2002	374	413	787	51.4	65.6%	Aged 20
Beijing	EA	2002	490	567	1062	46.8	29.2%	Aged 18
Shanghai	EA	2002	525	528	1053	44.9	54.9%	Aged 18
HongKong	EA	2003	501	556	1057	45.6	35.2%	Aged 18
Taiwan	EA	2003	339	393	732	46.8	40.7%	Aged 18
SouthKorea	EA	2003	507	499	1006	44.9	completed	Aged 19
Singapore	EA	2004	450	587	1037	45.6	completed	Aged 20
Kunming	EA	2002	527	491	1018	42.4	36.2%	Aged 18
Hangzhou	EA	2002	459	452	911	43.5	46.4%	Aged 18
Taiwan	HC	2003	332	453	785	44.1	43.6%	Aged 18
SouthKorea	HC	2003	500	507	1007	43.1	completed	Aged 18
Japan	PAC	2004	537	602	1139	54.7	63.3%	Aged 20
Beijing	PAC	2005	514	539	1053	47.6	13.0%	Aged 18
Shanghai	PAC	2005	443	619	1062	50.6	--	Aged 18
Hongkong	PAC	2006	403	446	849	47.1	23.3%	Aged 18
Taiwan	PAC	2006	268	335	603	45.5	33.5%	Aged 18
SKorea	PAC	2006	510	520	1030	45.4	27.1%	Aged 19
Singapore	PAC	2007	485	547	1032	44.3	completed	Aged 20
USA06	PAC	2006	449	452	901	46.8	completed	Aged 18
Australia	PAC	2007	337	363	700	46.6	completed	Aged 18
India	PAC	2008	782	1220	2002	39.5	completed	Aged 18
USA	LCCATI	2006	478	522	1000	53.7	completed	Aged 20
Germany	LCCATI	2007	411	589	1000	49.2	completed	Aged 20
Japan	HYOGO	2007	419	444	863	53.6	47.9%	Aged 20
Japanese Brazilian	BJA	1991	63	40	104	61.1	74%	Aged 18
JB 2sei	BJA		119	118	239	46.1		
JB 3sei	BJA		70	72	144	31.8		
Hawaii Japanese	HA2000	2000	109	97	206	56.4	21%(24%)	Aged 20
JA 2sei			36	34	70	69.5		
JA 3-5sei			43	48	91	52.2		
Hawaii non JA			155	139	294	52.1		

本研究の一部は，文部省科学研究補助金・基盤研究B(2)(課題番号21402001(H21，代表　山岡和枝)の財政的援助を受けた。

引用文献

Yamaoka, K., & Hayashi, C. (2003). Cultural link analysis of Japanese Americans., *Behaviormetrika* 30(1), 7-19, 2003





文化観の国際比較
－東アジアの伝統文化と現代文化を中心に－

鄭　躍軍
同志社大学　文化情報学部

1. はじめに

文化は、社会を構成する人びとによって習得・共有・伝達される行動様式ないし生活様式の総称で、人間が長年にわたって創造してきた慣習や振舞いの体系を指す。文化は明確な分類はないが、衣、食、住などの日常生活にかかわる言語や習俗から、これにより支えられる芸能、道徳、宗教、政治、経済といった社会構造まで幅広く捉えている。今日では、それぞれの集団が個別の文化をもち、種々の文化が独自の価値をもっており、その間に高低・優劣の差はなく、平等に尊ばれるべきと主張する文化相対主義が広く支持を集めている。このような意味で、自らの考え方を他人や多集団に強要することはなく、異文化の交流を通じて自分と異なる人、社会の価値観、習慣や行動様式などを理解し、尊重しあうことが大切である。

一方で、東アジア文化圏において、儒教が歴史的に大きな影響を与え、文化的な主軸の役割を果たしてきたと言っても過言ではない。その一方で、時代変化や各国の近代化による固有の性質を帯び、様々な文化の違いを生じているのも事実である。特に、EUや北米に比べ、東アジア共同体の形成が困難になっているのは政治的な壁があることは否定できないが、文化的な変容による影響は看過できない。したがって、東アジアにおける相互交流をより一層促進するためには、今日の日本、韓国と中国において自国文化に対する理解、いわゆる文化観がどこまで共通しているか、そして相違点が何かを客観的に分析することが重要である。

本報では、東アジアの伝統文化および現代文化に主眼を置きながら、現代社会の人びとにとって常に考えている「成功の鍵」、「メンツ」と「子供を育てる目的」を取り上げ、実際の調査データを用いてその異同を計量的に分析してみた。なお、性別、年齢、学歴、世帯収入などの人口統計学的属性による影響についても考察した。一連の分析を通して、東アジア文化圏の相互理解と協調関係形成の一助となる情報を模索した。

2. 研究方法

本報では、東アジア価値観国際比較調査(2002～2004年度)から収集してきた日本・韓国・北京・上海・香港・台湾のデータを中心に、統計科学的分析を行った。各調査地域の標本抽出、標本の大きさ、調査票の詳細については関連の調査報告書を参照いただきたい。本研究では文化観に関連する調査内容として、以下の質問項目を取り上げた。

(1)「自国文化」:「自国文化と聞いて、まず思い浮かべることは何ですか。」という自由回答質問
(2)「成功の鍵」:いまの社会で成功している人をみて、その人の成功には、個人の才能や努力と、運やチャンス、あるいは血縁・地縁・学閥などの人のつながりの、どれが一番大きな役割をはたしていると思いますかという質問
(3)「メンツ」:今日の我々の社会では、「メンツ（面子)」を立てることが重要だとあなたは思いますか、という質問
(4)「子供を育てる目的」:現在あなたに子供がいる、いないに関わらず、子供を育てる主な目的は何だとお考えですか、という質問

自国文化という質問項目では、それぞれの国・地域の伝統文化と現代文化を問わずに、人びとの文化観を聞くものであるが、他の３つの項目は、いずれも日常生活に関わる事柄で、歴史的に継承してきた伝統文化がどのように変容したかを捉えるものである。なお、属性変数として性別、年齢層(若年層・壮年層・高年層)、学歴層(低・中・高)、世帯収入(低・中・高)などを用いた。

データ分析の方法として、各質問の単純集計を中心に東アジアの文化観の全貌を分析すると同時に、取り上げた項目間の関連、人口統計学的要因による影響の分析に数量化Ⅲ類を用いてパターン分類を行った。なお、一部の分析では、同時期に調査を行った中国本土の杭州、昆明及びシンガポールのデータも用いた。

3. 結果と考察

(1) 誇りに思う「自国文化」

自国文化について、まず思い浮かべるは何かという質問では、複数の項目を挙げた回答者もあるが、一番目の内容を基に、集計した上位10位までの結果は、表1の通りである。括弧内の数字はそれぞれ国・地域別の回収標本数(732～1062名)に占める百分比を示している。日本では、能や歌舞伎、寺院、着物などの伝統文化にかかわる事柄が上位3位に入っているが、韓国では、礼儀、韓服、キムチなどの現代文化と思われる内容が最も多く挙げられている。北京、上海、香港、台湾に共通するのは、儒家思想が上位3位に入っており、歴史、漢字文学、万里の長城が上位ランキングとなっていることである。日韓中はともに東アジア文化圏に属しているが、国別に見れば誇りに思う自国文化には共通点が少ないことが明らかになった。一方で、中国本土、香港と台湾では、いろいろな歴史的な攪乱があったが、伝統文化に対する意識は差は見られないのが特徴的である。また、今日の韓国では儒教の影響が未だに残っているが、日本では言葉すら殆ど挙げられていない状況が浮かび上がった。

表1. 思い浮かべる自国文化のランキング

順位	日　本	韓　国	北　京	上　海	香　港	台　湾
1	能・歌舞伎(6.6)	礼儀(9.1)	歴史(10.5)	儒家思想(9.8)	儒家思想(11.2)	儒家思想(12.7)
2	寺院 (6.4)	韓服(6.5)	四大発明(8.2)	長城(9.4)	伝統(8.9)	歴史(7.2)
3	着物(5.8)	キムチ(4.6)	儒家思想(8.1)	漢字文学(8.7)	漢字文学(6.7)	古跡(5.5)
4	芸能(5.0)	芸能(4.2)	芸能(6.8)	四大発明(8.7)	長城(6.5)	長城(4.1)
5	茶道(3.9)	先祖を尊ぶ(4.1)	漢字文学(6.1)	歴史(8.4)	歴史(6.5)	漢字文学(2.6)
6	京都(2.5)	親孝行(2.2)	長城(6.0)	芸能(8.3)	書画(4.6)	宗教(2.6)
7	祭り(2.5)	祭り(1.8)	古跡(4.5)	書画(4.8)	古跡(3.3)	帝制(2.2)
8	歴史(2.5)	伝統(1.8)	礼儀(3.9)	古跡(4.2)	龍文化(3.2)	伝統(2.0)
9	伝統(2.3)	儒教(1.7)	伝統(3.0)	故宮(1.9)	芸能(3.0)	芸能(2.0)
10	料理(1.5)	料理(1.5)	故宮(2.1)	伝統(1.8)	料理(3.0)	書画(1.4)

(2) 日常生活に見られる現代文化

成功の鍵については、各国・地域に共通するのは、半数以上の回答者が「個人の才能や努力」を選んだが、「運やチャンス」および「血縁・地縁・学閥」に対する回答には大きな差がみられた。また、日本以外の国・地域では、「メンツが重要である」と主張する回答者が多い。さらに、子供を育てる目的については、中国本土で「社会的責任」が広く支持されたが、それ以外の国・地域で「子孫を伝わる」という選択肢を選んだ割合が高い。

一方で、数量化Ⅲ類によるパターン分類の結果は図1に示している。これによれば、質問項目(2)～(4)回答については、地域別、属性別の特徴がはっきりと見られている。日本、韓国とシンガポールでは、「子供を育てる目的が子孫を伝わったり、生活を改善するため」と「成功の鍵が血縁・地縁・学閥である」と主張する傾向がある。また香港と台湾では「メンツが重要である」が支持されている。一方で、中国本土は「成功の鍵が運やチャンスである」と「子供を育てる目的が社会的責任である」という見方が強い。

以上の分析結果から、東アジア文化圏といっても、時代とともに各国・地域の文化観が変容しつつあることが浮き彫りになった。これは、東アジア文化圏の再検討に大きな意味をもつだろう。

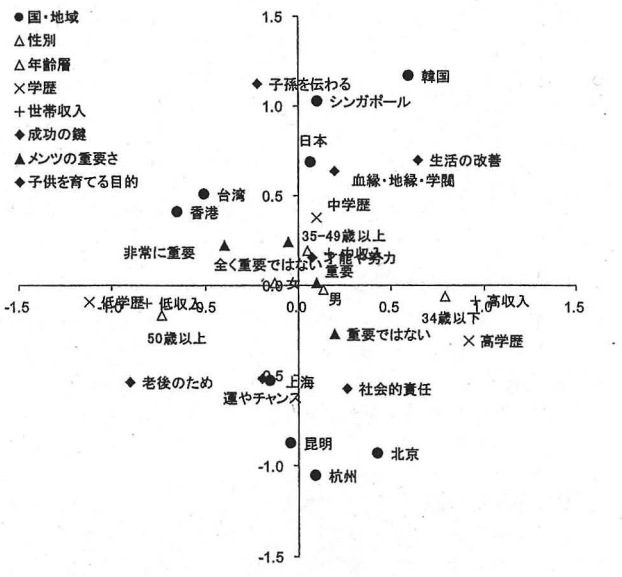


図1　文化観に対する回答のパターン分類

4. おわりに

国際比較調査データを分析した結果、日本人、韓国人と中国人は歴史的に同じ儒教文化の影響を受けたとは言え、文化観には大きな隔たりがあると言わざるをえない。つまり、東アジアにおいても異文化理解に取り込む必要性があると言えよう。

連絡先(E-mail: yzheng@mail.doshisha.ac.jp, 会員番号0963441679)

組織に対する信頼の文化多様体解析

－東アジア価値観国際比較調査とアジア・太平洋価値観国際比較調査から－

○松本渉
（情報・システム研究機構　統計数理研究所）

1．はじめに

1953 年以来，5 年ごとに統計数理研究所で実施されてきた「日本人の国民性」調査は，1971 年頃から，国際比較調査へと拡張された。近年では，東アジア価値観国際比較調査[1]，その第二ラウンドにも位置づけられるアジア・太平洋価値観調査が実施されている[2]（表 1 参照）。この異なる時期に行われた二つの調査プロジェクトでは，7 つの国・地域が共通の調査地域となっている。そのため横断的な国際比較分析だけでなく，異なる時点間の調査として縦断的に分析することも可能となっている。

ところで，これまで国際比較調査を積み重ねてきたことで，文化の連鎖的調査分析（CLA，Cultural Linkage Analysis；当初は Cultural Link Analysis）（林・鈴木，1997，pp.4-7; 吉野，2005）と呼ばれる国際比較調査の連鎖的な比較分析法が提案されてきた。意味がある比較を連鎖のように徐々につなげる「比較の環」によって，グローバルな比較の実現を目指すアプローチである。しかし，この CLA は，本来国際比較調査の方法論として提案されてきたものであるので，調査後の統計分析手続きとしては，どのような比較の方法論を考えれば良いかは明確でなかった。そこで，近年に入り，この CLA の考え方を拡張させ，時系列，空間，項目による階層構造を得ることによって全体の傾向を把握することを目指すアプローチが提案されてきた[3]。これが，文化多様体解析（Cultural Manifold Analysis, CULMAN）である（吉野，2005）。

表 1　東アジア価値観調査とアジア・太平洋価値観調査（実施時期・地域と標本サイズ）

年	日本	北京	上海	香港	杭州	昆明	台湾	韓国	米国	新嘉坡	豪州	印度
2002 年	787	1062	1052	1057								
2003 年					911	1020	732	1006				
2004 年	A 1139 B 785									1037		
2005 年		1053	1062	849								
2006 年							603	1030	901			
2007 年										1032	700	
2008 年												2002

（注）　の網掛けが，該当する時期・地域において調査が実施されたことを示す。数字は，回収標本の大きさ。

2．分析の方法と結果

国際比較分析では，構造分析と単純集計の相補的な活用が重要であることも知られている。これは，データの構造分析の結果から国々の類似性や相互関係を把握し，その知見を前提として単純集計から有益な知見を得ることであるが（林，2001，p.105），同時に Robinson（1950）の指摘に由来するような集計データ・個票データの示す結果の齟齬の有無（生態学的推論の問題）を確認することもできる。

---

[1] 2002 年の日本調査に始まり，2004 年のシンガポール調査を最後の調査とする一連の国際比較調査である。本稿では，杭州市と昆明市における生活・文化意識調査（杭州市・昆明市民生活文化意識調査）を含めている。（総称して，東アジア価値観調査（East Asia Value Survey, EAVS）と呼ぶこともある）

[2] 本稿では，日本調査 04A，北京調査 2005，上海調査 2005，香港調査 2005，台湾調査 2006，韓国調査 2006，USA 調査 2006，シンガポール調査 2007，オーストラリア調査 2007，インド調査 2008 を含むアジア・太平洋地域の調査を総称してアジア・太平洋価値観調査（Asia-Pacific Value Survey, APVS）と呼ぶ。日本調査 04B は調査内容が他と異なるので，本稿では分析対象としていない。また，インド調査 2008 の結果は，十分な検証を踏まえ，慎重に分析される必要がある。

[3] もっとも CLA においても地域の連鎖，質問の連鎖，時間の連鎖が構想されていた。

そこで，本稿では，文化多様体解析の立場から，集計データ・個票データ両方において，各国地域の「組織に対する信頼」（a. 宗教団体，b. 法律や裁判の制度，c. 新聞・テレビ，d. 警察，e. 国の行政，f. 国会，g. NPO・NGO，h. 社会福祉施設，i. 国連）のデータ構造の把握を行った。

その結果，集計レベル・個票レベルからほぼ同様の示唆が得られた（図 1，2[4]）。すなわち各地域の時系列のデータ構造は安定的であり，同じ地域の異なる調査年の間のデータが近似していること，相対的に調査年の違いよりも地域の違いの方がはっきり出ること等である。ただし，シンガポールについては 3 年間で大きな変化が見られた。これは，宗教団体への信頼をはじめ，組織に対する信頼そのものの低下を反映している。しかし，この場合でも構造そのものは安定していたことが確認されている（表 2，3）[5]。

図 1　組織に対する信頼の CATPCA（地域の重心座標）

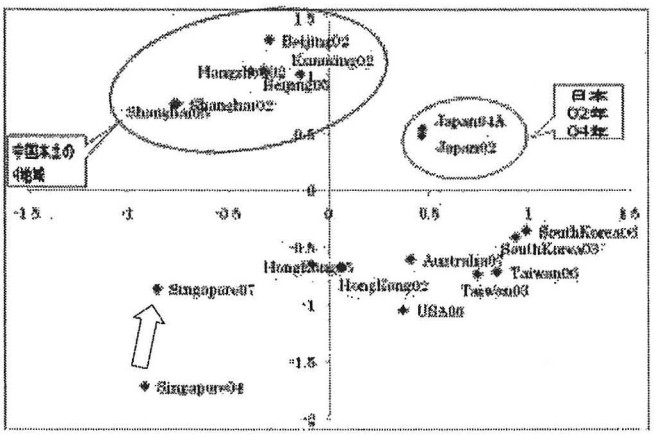
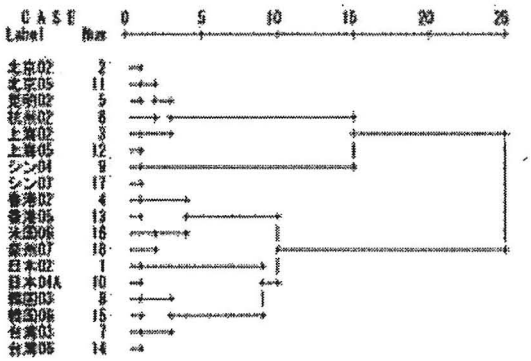


図 2　集計レベルの近接性の階層



（クラスター分析のデンドログラム，群平均法）

表 2　調査（地域・時期）別の CFA モデルの適合度

地域・時期	CFI	TLI	RMSEA	地域・時期	CFI	TLI	RMSEA
日本 02	**0.96**	**0.977**	0.137	日本 04a	**0.959**	**0.97**	0.111
北京 02	0.934	**0.956**	0.105	北京 05	**0.967**	**0.977**	0.08
上海 02	**0.952**	**0.962**	0.093	上海 05	**0.966**	**0.975**	0.081
香港 02	**0.961**	**0.972**	0.091	香港 05	**0.969**	**0.981**	0.081
昆明 02	**0.973**	**0.981**	0.077	台湾 06	0.94	**0.956**	0.103
杭州 02	**0.988**	**0.991**	0.067	韓国 06	0.904	0.919	0.129
台湾 03	0.876	0.907	0.126	USA06	0.927	**0.965**	0.138
韓国 03	0.941	**0.956**	0.098	新嘉坡 07	**0.975**	**0.985**	0.101
新嘉坡 04	0.967	**0.983**	0.118	豪州 07	**0.96**	**0.975**	0.083

CFI(Comparative Fit Index)：0.9 以上に下線，0.95 以上にはさらに太字。

TLI(Tucker-Lewis Index): 0.9 以上に下線，0.95 以上にはさらに太字。

RMSEA(Root Mean Square Error of Approximation):0.05 以上 0.1 未満に下線。

表 3　地域別同時分析：因子負荷量一定

7地域における調査（二つのデータセット）	CFI	TLI	RMSEA
日本(2002 と 2004)	**0.967**	**0.983**	0.098
北京(2002 と 2005)	**0.968**	**0.98**	0.072
上海(2003 と 2005)	**0.961**	**0.976**	0.076
香港(2002 と 2005)	**0.975**	**0.987**	0.065
台湾(2003 と 2006)	0.92	**0.954**	0.097
韓国(2003 と 2006)	0.93	**0.96**	0.092
シンガポール(04 と 07)	**0.974**	**0.989**	0.091

表記方法の詳細は，表 2 に準じている。

参考文献

林知己夫・鈴木達三 (1997)『社会調査と数量化―国際比較におけるデータの科学―（増補版）』岩波書店。

林知己夫（2001）『データの科学』朝倉書店。

Robinson, William S. (1950) "Ecological Correlations and the Behavior of Individuals." *American Sociological Review*, Vol. 15, No. 3, pp. 351-357.

吉野諒三 (2005)「東アジア価値観国際比較調査　―文化多様体解析（CULMAN）に基づく計量的文明論構築へ向けて―」『行動計量学』32(2), 133-146。

[4] 図 2 のクラスター分析は，各地域の各対組織信頼項目（順序尺度）の集計レベルの数値に適用したものだが，その数値はノンパラメトリックな方法によって得たものである。

[5] なお，信仰する宗教の質問，一般的信頼の三質問といった関連する質問も，三年間での低信仰化，低信頼化を示唆する結果となっていた。

国際政治観

藤田泰昌　上智大学
吉野諒三　統計数理研究所

1　はじめに

アジア太平洋地域の人々は、国際政治や外交に関してどのような意識をもっているのだろうか。国際政治に関する先行研究の分析単位は、国家レベルや国内の省庁や利益集団といった組織レベルにとどまり、国民個人レベルを分析対象としたものは少なかった。しかし、諸国の外交政策は、国民の価値観を反映したものとなる可能性がある。本研究は、国際政治に関連する価値観・国民性においてアジア太平洋地域にどのようなパターンがみられるかについて検討することを目的とする。その際、吉野をはじめとする研究者が発展させてきた文化多様体分析に基づいて見出されるパターンに着目する。

2　方法

本研究で主に用いるデータは環太平洋価値観国際比較調査(PAC)(2004-2008年)(代表　吉野諒三)であり、可能な場合には東アジア価値観比較調査（EA）(2002-2004 年)（代表　吉野諒三）も用いて分析を行う。本報告では、イデオロギーに関する２つの質問（すぐれた政治家に任せることに賛成か、個人の幸福と国全体とどちらが先か）と、対組織信頼に関する２つの質問（国の行政と国連に対する信頼）を取り上げる。イデオロギーに関する質問を取り上げるのは、政権政党と外交政策の間に関連性があるように、イデオロギーが外交政策ひいては国際組織への態度に関連すると予測されるからである。対組織信頼として（国連のみならず）中央政府に対する信頼を取り上げたのは、対組織信頼を測った指標を複数取り上げることによって、より信憑性の高い分析結果を得るためである。クロス集計や数量化Ⅲ類の手法を用いて、これらの質問項目に関する国民性のパターンとして浮かび上がる特徴を検討する。

3　結果と考察

クロス集計で、対国連信頼の質問について単独で検討してみると、予測通りアメリカと台湾では信頼すると回答した割合が低く（57.1%と 52.7%)、シンガポールでは高い（78.2%)。ただしシンガポールでは、多くの組織に対する信頼が高い中、国連に対する信頼は相対的に低いことに注意する必要がある（吉野 2005)。したがって他の国に比べて国連への信頼が高いかどうかは一概に言えない。また、中国国内の複数の都市で比較してみると、北京では対国連信頼が比較的低い一方（62.4%)、上海や香港では高く（69.5%と 68.4%)、小さからぬ差異が認められた。ここで述べた傾向は、PAC でも EA でも同様に観察される。従来、ある国の国際組織に対する態度は、当該国の国際的な地位による説明が図られてきたが、ここで観察された結果は、国内に起因する意識要因が重要なことを示唆しているかもしれない。

クロス集計で得られた結果は、国家（地域）間で相対的な差異はそれなりにあることを示しているが、いずれの国（地域）でも６割以上が信頼すると回答しており、絶対値で見ると大きな違いはないとも解釈できる。また、「考え方の筋道」を考慮するならば、異なるパターンが浮かび上がるかもしれない。そこで、イデオロギーに関する質問も含めて数量化Ⅲ類によるパターン分析を行うことにする。まず、イデオロギーに関する２つの質問だけで分析にかけたところ、分析対象諸国（地域）は、中華圏の地域（北京、上海、香港、台湾）と非中華圏の諸国（アメリカ、オーストラリア、日本、韓国)、そしてその中間に位置するシンガポールと、３つのグループに分かれた。

「インド調査」の衝撃

吉野　諒三
（統計数理研究所）

1．インドの人と社会

昨年11月上旬、インドのムンバイのタジマハール・ホテル等で悲惨なテロが生じ、日本人の被害者も出た。ムンバイは、昔は「ボンベイ」と呼ばれたが、現在、インドでは各地の地名を英国の植民地時代の呼称から本来の呼び方へ戻している。

テロ事件の2週間ほど前に、われわれの国際比較調査チームも、現地調査の打ち合わせや視察のために、当地を訪れ、タジマハール・ホテルにも立ち寄った。公費で旅行している身では、一泊、最低でも7万円の、お城のような高級ホテル宿泊はかなわず、せめてレストランで紅茶を飲もうと、ホテルの中を少し見て回っただけであった。入り口では、ものものしく銃器をもった警備員がホテルに入ろうとする者の荷物の検査をしている。鉄道など、街のあちこちで同様の警備の体制があるのだが、どこもバックの中身を開けさせてみるだけなので、「本当に効果あるのか？」と疑問であった。

テロ発生のあとでの報道で分かったことだが、われわれの訪問のすぐ後に、当地の人間も警備の効果に疑問を感じ、それをやめたところ、例のテロが発生したという。テロの計画は突然ではなく、少なくとも数カ月の準備を進めていたらしいので、その警備の有無とテロの計画との関係はあったのか、偶然の一致かは知らない。欧米の国際空港などでも、ものものしい警備や検査が続いているが、いつも感じていたのはテロリストが本気になればそのような警備をくぐるのはそんなに難しくはなさそうであるということだ。しかし、実は警備担当者たちも警備の物理的効果の限界は知っていながら、それでも心理的効果は必ずしも小さくはないということで、続けているように見える。他方で、各国の景気低迷の中で、警備の費用の支出が失業対策、景気対策の一部となっているという見方もあった。

さて、われわれのインド訪問の主目的は、「アジア・太平洋価値観国際比較調査」と称して2006－09年度までの日本、韓国、中国（北京、上海、香港）、台湾、シンガポール、アメリカ、オーストラリア、インドの一連の調査の最後を完成させるために、まず、現地の様子を観察し、現地の調査担当会社と標本抽出法の詳細や調査票の項目の確定のために打ち合わせをすることであった（Yoshino, 2009; Yoshino, Nikaido & Fujita, 2009）。

この過程で、これまでの人生では経験しなかったタイプの衝撃をうけた。誤解を恐れずに一言で言えば、「不信」である。

それは、人々の間の不信、社会のシステムへの不信、男女の平等やカースト制や民族・言語の違う人々の間の不信であり、それに関わるわれわれの側に生じる不信である。

今回の調査に関連していろいろと経験した後で考えると、それは、まず、日本で調査票のヒンドゥー語への翻訳者を探し出すところから始まっていた。インドでは、英語を

次に、対組織信頼をも加えて数量化Ⅲ類による検討を行ったところ、４つのグループが現れた。ここで注目されるのは、中華圏のグループは先と同様の地域で構成される一方、非中華圏のグループは２つに分かれたと解釈できる点である。そしてこの両グループの間に、シンガポールが位置している。すなわち、分析の際の変数（尺度）の数を増やすことで、サブ・グループの数があらわれた。ここには、文化多様体分析の想定する形が見出されたとも言えよう。

４　まとめ

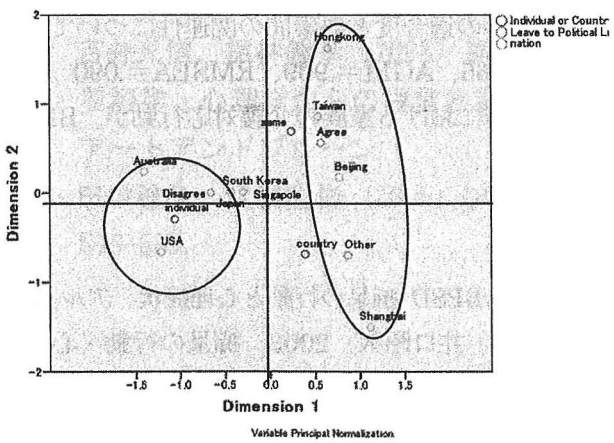
国際政治に関する価値観においても、文化多様体分析の観点の重要性が確認されるような結果が見出された。すなわち、中華圏と非中華圏との区分で把握できるようなパターンや、どの範囲の国（地域）でグループが形成されるかは分析の変数（尺度）の数によって異なるといったパターンが見出された。従来、ある国の外交政策や国際政治現象に対しては、とかく当該国の国際的な地位や国内政治体制等による説明が図られてきた。しかし、ここで見出されたことは、それらとは独立の国民の価値観や意識という要因を探ることの重要性を示唆しているかもしれない。

引用文献
吉野諒三(2005).「富国信頼の時代へ」. 行動計量学, 第 32 巻第 2 号, pp. 147-160.

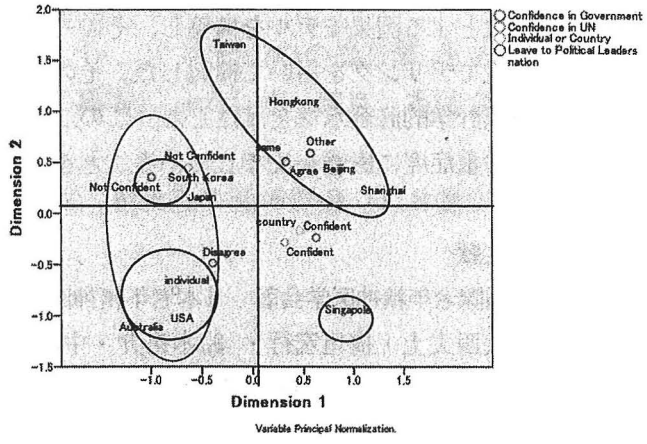
Table: Ratio of Confidence in the UN

			nation								
			Japan	Beijing	Shanghai	Hong Kong	Taiwan	South Korea	USA	Singapore	Australia	Total
Confidenc e in UN	Confident	Count	634	620	631	550	280	594	493	759	413	4974
		% within nation	65.0%	62.4%	69.5%	68.4%	52.7%	61.2%	57.1%	78.2%	61.5%	64.7%
		Std. Residual	.1	-.9	1.8	1.3	-3.4	-1.3	-2.8	5.2	-1.0	
	Not Confident	Count	342	373	277	254	251	376	371	211	259	2714
		% within nation	35.0%	37.6%	30.5%	31.6%	47.3%	38.8%	42.9%	21.8%	38.5%	35.3%
		Std. Residual	-.1	1.2	-2.4	-1.8	4.6	1.8	3.8	-7.1	1.4	
Total		Count	976	993	908	804	531	970	864	970	672	7688
		% within nation	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Joint Plot of Category Points



Joint Plot of Category Points



含め、ヒンドゥー語、ベンガル語など、公用語だけでも18ある。私は、その18言語すべて調査票を用いるのかと思っていたが、調査会社は、英語を含めた9言語だけを用いるという。にわかには理解はできなかったが、われわれの国際比較調査研究は、まず、現地で通常用いられている調査方法を尊重し、その問題点を把握しながらも、それで調査を遂行させるのが基本方針であるので、それに従い、英語と他の8言語各々の対で表現された8種類の調査票を作成することとした。日本では、英語とヒンドゥー語との対で構成された調査票のみを翻訳・再翻訳（バックトランスレーション）の技法で作成、検討するようにした。

ヒンドゥー語への翻訳者を募集し、応募してきた東京大学の研究生という女性はネパール人であるが、教育はすべてインドの学校であり、現地の大学の講師をつとめたと言った。調査票作成のための翻訳や再翻訳は、ただ言語が分かる程度の人ではだめで、現地に生まれ育ち、なおかつ英語や日本語がわかり、それらから現地語に翻訳できる人が必要である。英語で会話していても、ヒンドゥー語の問題以前に英語の能力にも疑問を感じたが、本人は問題ないと強く主張した。不審には思ったが、おそらく、ネパールとインドの国境に住み、近隣のインドの学校に通ったのだと了解した。とにかくこの人にも作業させて、並行して他のバイリンガルにも作業させ、その結果を比較検討することを思い描いた。

しかし、翻訳の作業をその場ですぐに進めるのかと思ったら、入力に時間がかかる家でやるという。さらには現地の調査は自分の親戚に手伝わせろというようなことを言い出す。また、われわれの場合は、翻訳費用は定められた公費の使用規則にのっとり支払うのであるが、それを担当の先生の判断で決めてもっと寄こすようにと、くどくどと繰り返す。法で定められた支払いなので、そうはできないといっても、繰り返す。最後には堪忍袋の緒が切れて、それでは仕事は頼まないというと、承知した。その後で聞いたことであったが、私のアシスタントに、交通費と用いた時間に対する支払いを要求したそうである。それをきいてさらに憤慨した。無用な労力と時間を浪費させられたのはこちらであったのだから。

調査票で用いられる文章は日常の平易な言葉であり、その翻訳作業など、そのような要求をくどくど繰り返す間に、どんどん仕事をすればその日のうちにかたづいた話である。

だいぶ後になり、気がついたことであるが、このエピソードがインド人とのビジネスのすべてを象徴していたようである。仕事本体よりもその報酬についての要求の時間の方が長い。家族・親戚の利益へつなげようとする、仕事では責任よりも言いわけ、駄目でもともとでも、とりあえず要求してみる。法律や規則ではなく、すべて担当者のその場の思いで物事が決められる。議論好き、自己主張の強さ、毎日のように様々な理由をつけて賃上げを要求してくる。インド人のビジネスの在り方に関するマニュアル本の基本知識らしい。

私が思い描いていた、東洋哲学の深さからは遙かに遠い。いや、現実がそうだから、

むしろ、概念の上で立派な話が展開されたのだと解釈する人もいる。政治でも、「ガンジー主義者」とは、非暴力の善意の政治活動家のことかと思っていたら、いまでは、政治的利権をむさぼる人々のことを指す場合があるらしい。

現地調査会社は「仕事本体よりもその報酬についての要求の時間の方が長い」ことはなかったが、それは後でよく考えると、日本と比べ名目上でも10分の一、生活実感では50分の一という人もいる現地の物価を考えると、暴利を貪っていたのかもしれない。

NHKでは、昨年あたりから、「インドの衝撃」や「続・インドの衝撃」を放送し、21世紀半ばまでには、中国と並び、さらには追い越すと予想されている国の目覚ましい変貌ぶりをドキュメントしている。しかし、その一方で、書籍として発刊されたNHKスペシャル取材班の「続・インドの衝撃」の冒頭にチーフ・プロデューサーが書いているように、海外取材経験の豊富で屈強なカメラマンですら「海外の仕事で初めて早く帰りたいと思った」といったエピソードの方が、私の実感にも近い。

ホームレスの数は、全体で、日本の人口に比肩するくらいという。ニューデリーやムンバイで、あの恐ろしい交通渋滞の中でなおかつハリウッド映画のカーチェイス並のスピードで動くタクシーの間を縫うようにして、ホームレスの子たちが、客に物乞いをし続ける姿の衝撃は忘れがたい。彼らは、いつ事故にあっても不思議ではなく、事故にあわずとも、あの恐ろしいほどの空気汚染の中で長生きできるとは思えない。

日本に戻ってきてから、アジア経済研究所で、インドの農村の児童労働の問題の研究発表会があり、インドの農村ではほとんど子供たちが学校にも行けず、非合法に農家の納屋に押し込められて、マッチ製造などの仕事している状況が報告された。しかし、大都市部のホームレスの子供たちを見た後では、その話の子供たちの方が幸せに思えてしまった。

誰か、インド全体を向上させるリーダーの登場を期待する。

人口から考えて、「世界最大の民主主義の国」といわれるが、その政治の実態を知っているものは、本当にそう思うだろうか？　中国を牽制するために、一方で「民主主義」の価値観を共有すると唄いあげ、他方で核拡散禁止を唱えながらインドの核開発を援助するというダブルスタンダードをみせてきた近年のアメリカの外交の稚拙さと見るのは穿ちすぎだろうか？　多様な文化社会の中から生まれたオバマ大統領へは期待が高まる。

2．調査の理念

日本の世論調査関係者であれば、皆、日本の世論調査の方法が戦後の「一人一票の民主主義」の理念を具現してきたことは了解している。その目から見て、「世界最大の民主主義の国」といわれるインドの世論調査の方法はどうなっているのかは、興味深いに違いない。

結論から言うと、「一人一票の民主主義」の理念からは失望、最近の国政選挙の選挙結果予想が大きく外れたのは不思議ではない。他方であれほど腐敗している政府や警察、公務員の

国の中で、ホームレスの人々さえ把握している選挙管理委員会の公正さは参考になろう。

ここでは調査の標本抽出法について触れよう。

今回のインド調査は、われわれがこれまで遂行してきた国際比較調査の各国の統計的標本抽出とはかなり異なり、母集団を推定する厳密な統計学の視点からは、そのデータの質の点で問題が多かった。しかし、われわれの基本方針は、飽くまでも現地の調査機関が通常活用している方法を尊重し、それを学ぶことである。現地の社会的、歴史的背景から実践的に遂行されている調査方法は、狭義の統計学の視点だけではなく、政治や経済、歴史、文化などの社会的条件を総合して、なおかつ、採用されているものと信じ、その方法を学ぶこと自体が、その社会の様相を理解するのに、大いに役立つと考えるからである。

現地の調査会社に詳細な標本抽出設計の説明書を求めたが、結局、得られなかったので、以下では、現地調査会社からの資料や打ち合わせで、われわれが把握していることを記す。また、現地でわれわれが随伴するプリテストを行うことは、準備不足という理由で拒絶されたので、調査の実践で何が行われたかは、回収データのクリーニングなどから推察するしかなかった。もっとも、プリテストができるといわれても、あの街中に出かけて、調査に随伴するのは勇気のいることであったろう。

現地調査会社IMRB internationalは、日本側の仲介会社がインドのいくつかの会社から見積もりをとり、適切なものと思われるものとして選択した。日本側でインドの社会調査や世論調査の機関を詳細に把握している者はいないので、我々の選択の幅は狭かった。調べていくうちに、業務として世論調査を主としている機関はほとんど見当たらず、市場調査を主とするものがほとんどのようである。民間企業として利潤をあげなければ成立しないので当然であろうが、これは、日本の戦後民主主義を発展させるために各調査機関が生まれてきた歴史（吉野、2008）とは著しく異なり、その調査の方法論にも影響しているようである。

つまり、常にそうであるわけではないが、日本の市場調査では、日本全体の成人を対象にするときは、基本的に、世論調査と同じような厳密でコストのかかる標本抽出調査を用いることも多かった。しかし、市場調査の最終目的を考えると、世論調査とは異なり、必ずしも日本全体から偏らずに得られたデータが絶対に必要というわけではなく、絶対数として十分に多数の顧客の嗜好や特定の製品に対する満足度が把握できればよいので、費用対効果を考慮して、それなりの標本抽出調査の方法が工夫されることもある。しかし、これは逆に言うと、「一人一票の民主主義」を標榜する世論調査では、そのようなことは許されないということも、日本の調査関係者の了解事項である。

しかし、インドでは調査会社自体は目新しくはないが（英国の植民地であった影響か）、市場調査が主で、その巨大な人口から考えて母集団を偏らずに標本抽出する方法はとられていないようである。これは、あまりにも多様な宗教や言語(公用語だけでも18言語、

英語とヒンドゥー語が国語)や階層の構造、経済格差などから、精度の高い国勢調査のデータに基づき、整った住民基本台帳などから個人を抽出できる統計調査からはほど遠い現状なので、やむを得ないことなのであろう。

先述のように、ホームレスの人々だけでも日本の人口を超えるともいわれているが、選挙に関しては、社会階層のすべてに議員数の割り当てがあり、ホームレスの人々にも選挙権があり、公務員の腐敗が目立つ中で、選挙管理委員会だけは厳正にことを遂行しているといわれる。もしそうであれば、ホームレスの人々を含めた世論調査も可能なはずであるが、調査会社の説明では、インド全体の識字率を考慮し、さらに下の方の階層の人の識字率や収入を考えると調査に値しないという。私には、それは「市場調査」主体の機関の意見であり、「一人一票の民主主義」を標榜する世論調査の機関の意見ではないと思えた。しかし、現実にそれらの人々を統計学的に適正に標本抽出し、面接調査が遂行できるかと言われれば、著しい困難や極端なコストが想像できる。

このような状況で、われわれは、現地の調査会社が遂行する作業を学ぶ態度に徹することにした。この過程で、あまりに統計学的に厳密な遂行不能なことを押し付けると、われわれが直接検証できない状況の中で、事実を隠蔽されることを一番に怖れた。

3．調査の実際

調査対象はインド国籍でインド在住の18歳以上－69歳までの男女であり、個別訪問面接を行った。この調査は、平成20年末から21年1月にかけて遂行された。調査開始予定はそれよりも早かったが、われわれが現地調査会社との打ち合わせをした11月上旬の直後に、ムンバイのテロが起こり、遂行に影響を与えたのだった。(ただし、テロ自体は、それまでもインドの各地でかなり頻繁にあった。)

調査実施地点は、インド国内の10都市(表1　参照)より抽出した地点である。(まず、都市部だけの調査となっていること、また各地の地点数や標本数の選定が国勢調査データにそろえたわけでもなく、母集団に対する代表性は崩れている。)各都市をブロックに分け、各ブロックで統計的に無作為にランダム・スタート地点を決め、ライトハンド・メソッドと称する、いわゆるランダムルート・サンプリングにより、道に沿って角では右手周りし、世帯を訪問し、訪問世帯で年齢とSEC（社会経済階層）の割当表に従い、個人を抽出する。この方法で、合計2000名になるまで有効回答者を抽出する。

実際には、各都市を4ブロック（ムンバイは5ブロック）に分け、SECの対象となる回答者が多く住む居住区を考慮して、各都市で25地点を抽出する。各地点でランダム・スタート地点から道路に沿ってライトハンド・メソッドで3軒ごとの世帯等間隔系統抽出で14人の面接を行う。各世帯では、調査対象となりえる者が複数のときは、誕生日法で回答者を抽出した。各地点では約25回（世帯）の訪問を行う。もし、25回までの訪問で

14人の回答者が得られなかった場合は、さらに回答者を求めて続ける。(このあたりの数字の整合性も怪しい。)

表1　調査10都市、サンプルサイズ、及び調査票の言語(英語との対となる言語)

都市	サンプルサイズ(人)	調査票言語(英語と各地の言語)
Mumbai	250	*Hindi*
Delhi	250	*Hindi*
Kolkata	225	*Bengali*
Chennai	225	*Tamil*
Bangalore	225	*Kannada*
Hyderabad	225	*Telugu*
Ahmedabad	225	*Gujarati*
Pune	125	*Marathi*
Ludhiana	125	*Hindi*
Kochi	125	*Malayalam*
合計	2000	

表2　年齢の割り当て

年齢	Mum	Del	Kol	Chen	Blr	Hyd	Ah'bad	Pune	Kochi	Ludh
18-29	90	100	60	75	85	85	85	50	50	50
30-39	70	70	65	60	60	60	60	30	30	30
40-49	50	40	50	40	40	40	40	20	20	20
50-59	20	20	30	30	25	25	25	15	15	15
60-69	20	20	20	20	15	15	15	10	10	10
合計	**250**	**250**	**225**	**225**	**225**	**225**	**225**	**125**	**125**	**125**

表3　SEC(社会経済階層)の割り当て

SEC	Mum	Del	Kol	Chen	Blr	Hyd	Ah'bad	Pune	Kochi	Ludh
A	60	80	75	60	70	90	55	30	30	30
B	70	90	80	75	60	65	75	40	40	40
C	120	80	70	90	95	70	95	55	55	55
合計	**250**	**250**	**225**	**225**	**225**	**225**	**225**	**125**	**125**	**125**

(参考)　調査において用いたSECの割り当て確認表（調査票のフェースシート項目）

以下のように、SECはAからEの5段階に分類され、さらにA1,A2などの小分類もある。しかし、実際の調査対象としては、表3のようにA,B,Cの3段階のみとされた。現地の調査会社によると、「文盲の人が多いD,E層を調査してもしようがない」という回答であった。

		Illiterate	School Up to 4 years	School 5-9 years	SSC/ HSC	Some college but not graduate	Graduate/ Post Graduate	
							General	Professional
		1	2	3	4	5	6	7
Unskilled	01	E2	E2	E1	D	D	D	D
Skilled worker	02	E2	E1	D	C	C	B2	B2
Petty trader	03	E2	D	D	C	C	B2	B2
Shop owner	04	D	D	C	B2	B1	A2	A2
Businessmen/ Industrialist (No. of employees)								
None	05	D	C	B2	B1	A2	A2	A1
- 1-9	06	C	B2	B2	B1	A2	A1	A1
- 10+	07	B1	B1	A2	A2	A1	A1	A1
Self employed professional	08	D	D	D	B2	B1	A2	A1
Clerical/Salesman	09	D	D	D	C	B2	B1	B1
Supervisory level	10	D	D	D	C	B2	B1	A2
Officers/Executive								
- Junior	11	C	C	C	B1	B1	A2	A2
-Middle Senior	12	B1	B1	C	A2	A2	A1	A1

4．調査票

統計数理研究所が設計した英語・ヒンドゥー語調査票をもとに、英語と他の8言語の各々の対となる合計8種の調査票を用意させた。われわれの過去のシンガポール調査とは異なり、これらの8種の調査票が全地点で用意され回答者の主言語によって使い分けられたのではなかった。表1のように、10都市それぞれで1種類の調査票を用いて面接調査が遂行された。

回収データの結果からみると、表４のように、確かに、大方の都市では回答者の主言語と用意された調査票としては言語が一致しているが、調査会社の本部のあるムンバイでは、むしろ、回答者の主言語はMarathiの方が多く、Ludhianaでは用意しなかった調査票の言語の方がはるかに多い。ここでは、回答者の「主言語」の程度や英語力、さらに面接調査員に多言語の能力がどの程度あり、調査現場で問題をカヴァーできているのか、不明である。

また提示カードも各言語で用意したのだが、本当に現場で使用されたのかは不明である。(調査終了後に、回収調査票のコピーや使用した提示カードを送らせたのだが、それらを送らせる際のやり取り、送られたものの筆跡鑑定や各都市での整合性チェックで、様々な点で不信を深めた。)

「English & Hindi版」は、日本側でインド人のヒンドゥー語・日本語のバイリンガルを探し翻訳させ、それを日本人の日本語・ヒンドゥー語のバイリンガルに再翻訳させて、当方で確認し、最終版を作製した。ただし、このプロセスの中でも、先方の調査会社とのやり取りの中で、しばしば、誤謬が紛れ込んだ。他の７種の調査票は、先方で用意させたため、われわれの側では詳細な確認はできていない。

こちらが確認できる「English & Hindi版」は、対応する３か所で異なる印刷が行われたらしく、調査地点LudhianaではQ33の脱落などが見られた。こちらが脱落を指摘した直後に、「該当する部分は別紙に印刷し調査を遂行した」といい、それが後で送られてきたが、対応する回収調査票の筆跡とは明らかに異なっていた。先に送ってあったSPSSデータに合わせて新たに記入した書類を送付しただけと推察した。その後のすべてのやり取りから、先方は回収調査原票ではなく、そのコピーのみを保有しているだけなのが推察された。おそらく各都市の調査支局が原票のコピーのみを送付し、SPSSデータファイルに数値入力後に原票は失われ、われわれのデータ・クリーニングの際に発見した問題解決に対応できない状態になったと推察され、その都度その場しのぎの作業で、むしろこちらを混乱させた。

さらに調査地点MumbaiとDelhiとLudhianaの「English & Hindi版」ではQ22の英語質問部分の脱落があった。表４のように、回答者のほとんどの主言語は英語ではなかった。しかし、Delhiはともかく、MumbaiとLudhianaでは主言語がHindiですらない人が多い。調査員が口頭で、他の言語で質問したのだろうか?あるいは、主言語ではないものの、英語やヒンドゥー語で受け答えしたのであろうか?

表４　10都市ごとの回答者の「主言語」の割合　％

	言語										
都市	Hindi	Bengali	Tamil	Kannada	Telugu	Gujarati	Marathi	Malayalam	English	他	D K
Mumbai	18.0	0.4	0.4	1.2	2.0	21.6	50.8	0.4	0.8	2.0	2.4
Delhi	88.0		0.4	0.8			0.4	1.6		6.8	2.0
Kolkata	4.9	92.9									2.2
Chennai	0.9	0.4	90.7	0.4	5.8			0.4			1.3
Bangalore	4.4		8.0	70.2	8.4		1.3	1.8		5.3	0.4
Hyderabad	23.1		1.3	0.9	68.0		0.9			3.1	2.7
Ahmedabad	4.0		0.4	0.4		88.9	2.2			2.7	1.3
Pune	8.7		0.8	1.6		4.0	83.3	0.8		0.8	
Ludhiana	32.5									65.9	1.6
Kochi				0.8				97.6			1.6
全体	20.0	10.5	11.4	8.5	9.5	12.9	12.1	6.6	0.1	6.5	1.6

５．結びにかえて

インドについて、かなり悲観的なことを書き連ねてしまった。難しい政治や経済については、全くの素人が書いた、的はずれの文章と読み流してくだされればありがたい。

私が短期間に視察したり、経験したりしたことは、あの大きな国のほんの一部にしか過ぎないのであろう。きっと、世の中の多くの方々が着目している多様な魅了や潜在力のある国なのに違いない。

実証的証拠に基づいた政策立案が唱えられて久しい。経済や政治の専門家の方々も、統計数字の独り歩きの机上の学問ではなく、日本の調査研究で確立してきた、まず「現場でどのように統計データが得られるか」を十分に認識する態度を身につけ、データの質の評価能力を持ち、その上で、各国や世界の将来の平和と繁栄に資する本当の学問へとつなげていただきたい。これが政治や経済の素人の願いである。

参考文献

吉野諒三　(2008).「科学的」世論調査の価値－歴史と理論と実践の三位一体.日本統計学会誌、37,2,pp.279-290.(2008).
吉野諒三 編(2009). 環太平洋(アジア･太平洋)価値観国際比較調査　－インド2008年調査－.　統計数理研究所.
Yoshino, R., Nikaido, K., & Fujita, T. (2009) Cultural manifold analysis (CULMAN) of national character: paradigm of cross-national survey. Behaviormetrika, Vol.36, No.2, pp.89-114.
Yoshino, R. (2009). Reconstruction of trust on a cultural manifold: sense of trust in longitudinal and cross-national surveys of national character. Behaviormetrika, Vol.36, No.2, pp.114-147.

過去の国際比較調査については、(http://www.ism.ac.jp/~yoshino/) 参照。過去に出版した報告書の誤謬訂正なども同所を参照。

（よしの・りょうぞう）

Behaviormetrika
Vol.36, No.2, 2009, 87–88

Editorial

Ryozo Yoshino*

The current number and a part of the forthcoming number are special issues centering on our longitudinal and cross-national surveys on national character. The authors are members of our interdisciplinary and international conjoint research project.

The introductory paper of this issue, by Yoshino, Nikaido and Fujita, presents a brief explanation of the history of our survey research and the research paradigms called "Cultural Linkage Analysis (CLA)" and "Cultural Manifold Analysis (CULMAN)". Some data analyses on this paradigm are exemplified by the four papers by Yoshino, Fujita and Yoshino, Hayashi and Nikaido, and Kuroda in this issue, and three papers by Yamaoka, Zheng, and Matsumoto in the next issue. A brief background explanation of this research is as follows.

The Institute of Statistical Mathematics (ISM) has been conducting longitudinal nationwide social surveys on the Japanese national character every five years since 1953 (Mizuno et al., 1992). Here the term "national character" means the characteristics shown in people's response patterns to the survey's questions. The questionnaire items cover various aspects of people's opinions about their culture, daily life, economy, education, environment, interpersonal relationships, politics, safety, etc. This research began after World War II to establish a public opinion survey system based on a statistical sampling theory as well as to clarify the Japanese national character. This statistical and sociological survey was important at that time, as Japan was expected to shift from a military regime to a democratic country. Stimulated by this survey, many countries currently carry out similar time series surveys: GSS, Eurobarometer, Allbus, Credoc, etc.

Since 1971, this survey research has been extended to foreign countries to arrive at a more advanced understanding of the Japanese national character in a cross-national comparative context. A cross-national comparative survey, however, involves many methodological problems concerning language and sampling. In our search for conditions which can guarantee meaningful cross-national comparability of social survey data, we decided that to begin our study by comparing two nations (or races) which have some similarities and some dissimilarities, e.g. in their racial origin or language, would have greater meaning than attempting to begin from a comparison of two totally different countries. Therefore, our task is to investigate in what aspects and to what degree the peoples of the countries involved are similar or dissimilar.

Our cross-national survey began with a comparison of the Japanese in Japan and Americans of Japanese ancestry in Hawaii in 1971, and has since covered many countries and regions (Table 1, Yoshino, Nikaido & Fujita in this issue). Some of these nations or regions share certain common features such as race or language, both of which are mean-

* The Institute of Statistical Mathematics, Midori-machi 10–3, Tachikawa-shi, Tokyo, 190–8562 Japan.

ingful links for comparison. Extending the chain of links, eventually we may obtain a global chain of cross-national comparisons. Therefore, we call our research methodology Cultural Linkage Analysis for cross-national comparison (Hayashi et al., 1998). Furthermore, the paradigm has been developed as Cultural Manifold Analysis by introducing hierarchical structures into a set of cultural links (Yoshino, 2005a). We intend to develop our theory on data science under the principles of complementarity in social science toward certain practical problems in the world. Here the meaning of "complementary approach" includes aspects of complementarity in methodology, in range of aspects to investigate, in areas or countries to compare, and in statistical scaling.

Our final goal is to develop a behaviormetric study of civilizations through the social survey. Some results of past surveys have been published as a series of ISM Research Reports and simple tabulations of survey data are posted on our homepage http://www.ism.ac.jp/~yoshino/ and http://www.ism.ac.jp/ism_info_j/kokuminsei.html

Once we establish the methodology, we will be able to step forward toward a scientific foundation of cross-national comparison. This will be useful for the mutual understanding of peoples all over the world, for the prediction of mass behavior of a certain nation in response to a particular event, the prediction of the attitude or political determination of a particular nation in international relations, and the scientific understanding of the rise and fall of civilizations as well as the investigation of an ideal condition in Japan and in the world for the development and maintenance of world peace.

We hope that these papers will provide some fundamental information which may prove useful toward the development of world peace and trust among people on earth in the 21st century.

REFERENCES

Hayashi, C. (1992). Quantitative social research—Belief systems, the way of thinking and sentiments of five nations—. *Behaviormetrika*, **19**, 127–170.

Hayashi, C., Yoshino, R., Suzuki, T., Murakami, M., Hayashi, F., Kamano, S., Miyake, I., & Sasaki, M. (1998). *Kokumin-sei nanaka-koku hikaku* (Comparison of national character of seven countries). Tokyo: Idemitsu-Shoten (in Japanese).

Mizuno, K., Yoshino, R., Hayashi, C., Nishihira, S., Hayashi, F., Sakamoto, Y., Murakami, M., Nakamura, T. (1992). *Nihonnjin no kokuminnsei* (Japanese national character), Vol.5. Tokyo: Idemitu-Shoten (in Japanese).

Yoshino, R. (2005a). East Asia Values Survey—Towards the development of a behaviormetric study on the cultural manifold analysis (CULMAN)—. *Japanese Journal of Behaviormetrics*, **32**, 133–146 (in Japanese).

Yoshino, R. (2007). *Higashi-ajia kokuminseihikaku deta no kagaku* [East Asia Values Survey – Science of Data]. Tokyo: Bensei-syuppan (in Japanese).

Behaviormetrika
Vol.36, No.2, 2009, 89–113

CULTURAL MANIFOLD ANALYSIS (CULMAN) OF NATIONAL CHARACTER: PARADIGM OF CROSS-NATIONAL SURVEY

Ryozo Yoshino*, Kosuke Nikaido*, and Taisuke Fujita**

The Institute of Statistical Mathematics has been performing a longitudinal survey on Japanese national character since 1953. Beginning in 1971, this survey was expanded to include cross-national comparative surveys as well as surveys on people of Japanese ancestry in Hawaii, the U.S. West Coast and Brazil. The main focus of the cross-national survey is the comparison of social values, ways of thinking and feeling, and other relevant aspects of people from various nations. Another important purpose of our study is to investigate the conditions under which meaningful cross-national comparability of social survey data is guaranteed.

In the introduction to this special issue, we explain our research paradigm, which we refer to as 'cultural manifold analysis (CULMAN),' discuss methodological problems of cross-national surveys and give an overview of our past surveys. Finally, we provide some comments on our future research.

1. Introduction

The last two decades have witnessed a rapid global change that has led to the destruction of the traditional world order and chaos before the construction of a new order could be accomplished. Among other nations, Japan has been struggling with recession, beginning in the period called the "lost decade"; recession might persist because of the crisis that has emerged from the housing loan problem in the USA. On the other hand, several military or political conflicts have been occurring in certain areas. A key phrase for world peace might be generosity toward differences in cultures, races, religions, and values (Yoshino, 2005a, 2005b).

Each nation and race has its own culture, social values and ways of thinking, which underlie its system of economics, politics, social life, etc. We believe that mutual understanding of these aspects with respect to each nation and race is the key to peaceful development and economic prosperity throughout the world. Therefore, we need to develop generous social values that accept manifold social values over the entire world.

The Institute of Statistical Mathematics (ISM) has been conducting a longitudinal nationwide social survey on the Japanese national character every five years since 1953, using mostly the same questionnaire items (Hayashi, 1992a; Mizuno et al., 1992; Sakamoto, et al., 2000). By the term "national character," we intend to mean characteristics reflected in people's response patterns in questionnaire surveys, which may be closely related to

Key Words and Phrases: Cultural Manifold Analysis (CULMAN), national character survey, Asia-Pacific Values Survey, East Asia Values Survey, policy-making

* The Institute of Statistical Mathematics, Midori-machi 10–3, Tachikawa-shi, Tokyo, 190–8562, Japan. E-mail: yoshino@ism.ac.jp

** Department of Global Studies, Sophia University, Kioi-cho 7–1, Chiyoda-ku, Tokyo, 102–8554, Japan. E-mail: fujita.t.f@gmail.com

Inkeles' (1997) concept of national character concerning statistical modes of people's responses. The survey is a type of general social survey, so the questionnaire covers various aspects of people's opinions about their culture, daily life, economy, education, environment, interpersonal relationships, politics, security, etc.

This survey research was begun to establish a system of public opinion polls based on the statistical sampling theory introduced from the USA immediately after World War II and to clarify the Japanese national character. Although the sampling theory had been invented by the Japanese statistician Kameda as early as 1924, it had not been linked to the development of public opinion polls in the post-World War II democracy in Japan. Public opinion polls must have had an important role in the post-war period when Japan was expected to change from a military regime to a democratic country (Yoshino, 1997, 2005a).

It is said that, stimulated by this survey, some now well-known surveys such as the European Values Survey, Eurobarometer (EU committee), and General Social Survey (GSS) of the USA have started. Currently, many countries are performing similar time series surveys: Allbus in Germany, Credoc in France, World Values Survey (Abramson & Inglehart, 1995), and so forth.

Beginning in 1971, the Japanese national character survey was expanded to cross-national surveys for a more advanced understanding of the Japanese national character in the context of a comparative study (Hayashi et al., 1973). In selecting items for those nationwide surveys, we designed our questionnaires to compare peoples' social values, their ways of thinking and their feelings, and, more explicitly, their cultural identities, interpersonal relationships, leadership qualities, religious attitudes, social values related to science and technology, politics, economy, social security, freedom of speech, etc. These aspects may yield information on the psychological distances between nations or races as evidenced by certain response patterns. Based on statistical survey data on these aspects, our research team has been attempting to clarify quantitatively peoples' attitudes and values as well as the characteristics of their civilizations. Our final goal is to develop a behaviormetric study of civilizations through social survey data as a branch of social science so that it will give us fundamental information for the peaceful development of the world (Hayashi, 1998, 2000; Hayashi et al., 1998; Yoshino, 2005a, 2005b, 2007; Yoshino et al., 1995a, 2000).

In order to be considered a scientific study, the cross-national survey must overcome multi-faceted methodological problems. It is a difficult task to scientifically compare responses collected under different conditions. Since various countries may utilize different languages and statistical sampling methods, there is no *a priori* knowledge as to how these varying conditions would influence peoples' responses even in cases where there is no substantive difference between peoples.

Thus, an important problem in our study is to investigate those conditions under which meaningful **cross-national comparability** of social survey data is guaranteed. This problem involves many analytical and methodological sub-problems. Among others, they are concerned with 1) translation (i.e., the same questionnaire items must be written in different languages), 2) comparison of data sets collected by different sampling procedures

used in different countries, 3) characterization of nations or races (i.e., in which aspects and to what degree certain nations or races are similar or dissimilar to others), and 4) the description of nations or races in terms of common logic rather than logic particular to a certain nation or race. These sub-problems are complementary in the sense that solutions to these problems are interrelated. Some findings on these topics have been reported in our past publications (Hayashi 2001; F. Hayashi & Yamaoka, 2001; Yoshino, 2001; Yoshino [ed.], 2007; Yoshino, Chino & Yamagishi, 2007).

We have moved forward toward a scientific foundation for cross-national comparison with our established methodology for the mutual understanding of peoples all over the world, for prediction of mass behavior within a certain nation in response to a particular event, prediction of the political determination of a particular nation in international relations, scientific understanding of the rise and fall of civilizations, and investigation of an ideal condition in Japan and the world for the development and maintenance of world peace.

Although we described our paradigm and history of our cross-national surveys in Yoshino & Hayashi (2001), here we shall briefly explain the new version of our paradigm (Yoshino, 2005a; Yoshino, Hayashi, & Yamaoka, 2009 [to appear]).

The composition of the remainder of this introduction is as follows. In Section 2, an explanation of our paradigm called the "cultural manifold analysis" (CULMAN) is presented. Some methodological problems of cross-national comparability are discussed in Section 3. Section 4 provides an overview of our past surveys. In Section 5, a basic explanation is given of each country or region that is included in the current analyses, including its relationship with Japan, racial and religious composition, and stage of economic development. Section 6, finally, presents some comments for our future research.

2. From Cultural Linkage Analysis (CLA) to Cultural Manifold Analysis (CULMAN)

In the early years of our survey research, we developed a paradigm called "cultural linkage analysis (CLA)" (Yoshino & Hayashi, 2001). The idea is roughly as follows.

In our search for conditions that could guarantee meaningful cross-national comparability of social survey data, we decided that beginning our study by a comparison of two nations (or social groups) that have some similarities and some dissimilarities would have more meaning than attempting to begin with a comparison of two totally different nations (or social groups). Then, our task was to investigate in what aspects and to what degree the peoples of the nations (or social groups) involved are similar or dissimilar to each other.

Our cross-national survey was begun with the comparison of Japanese in Japan with Americans of Japanese ancestry in Hawaii (Honolulu residents) in 1971. See Table 1 for a partial list of our past cross-national surveys. Some of these nations or areas share certain common features such as race or language. Therefore, they provide meaningful links for comparison. Extending the chain consisting of these links may eventually create a chain for global cross-national comparisons.

Table 1: Partial List of Past Surveys by the Institute of Statistical Mathematics

1953–present	**Japanese National Character Survey** (every five years)
1971	Japanese Americans in Hawaii
1978	Honolulu residents, Americans in Mainland USA
1983	Honolulu residents
1988	Honolulu residents
1987–1993	**Seven Country Survey**
1987	Britain, Germany & France
1988	Americans in Mainland USA, Japanese in Japan
1992	Italy
1993	The Netherlands
	Recent Overseas Japanese Surveys
1991	Japanese Brazilians in Brazil
1998	Americans of Japanese ancestry on the U.S. West Coast.
1999	Honolulu residents in Hawaii
2002–2005	**East Asia Values Survey** (Japan, China [Beijing, Shanghai], Hong Kong, Taiwan, South Korea, & Singapore)
2004–2009	**Asia-Pacific Values Survey** (Japan, China [Beijing, Shanghai], Hong Kong, Taiwan, South Korea, USA, Singapore, Australia & India)

(All of these surveys are based on nationwide sampling data, except for Hawaii, Mainland China, i.e., Beijing and Shanghai [urban areas only]), Australia [Queensland, New South Wales, & Victoria]), and India [10 major cities]).

Developing the idea of spatial comparison for temporal and thematic comparisons, CLA eventually included the following: a **spatial** link as described above, a **temporal** link inherent in longitudinal analysis, and an **item-structure** link inherent in the commonalities and differences in item response patterns within and across different cultures (Yoshino, 2005a). This is the basic idea of CLA, which was developed by Chikio Hayashi around 1978.

Succeeding Hayashi's works, Yoshino (2005a) and his colleagues have been developing the paradigm "CULMAN," which introduces *hierarchical structures* into the three types of links of CLA.

The concept of "manifold" is originally from geometry: a map of the globe (the earth) consists of a set of local charts, where each local chart covers a certain area or region in a simple fashion (such as a Euclidean plane), some of which may partially overlap each other, and the whole set of charts covers the globe (a non-Euclidean space). The set of charts may construct a sort of hierarchical structure, where each level of charts may correspond to an extent of coverage (e.g., Japan and China, Asia, Eurasia, or the world): a larger chart corresponds to a higher level. A larger chart may correspond to a less restricted scaling. In our case, the concept of a spatial chart can be extended for both the temporal link and item-structure link. (The idea is closely linked to Klein's Erlanger

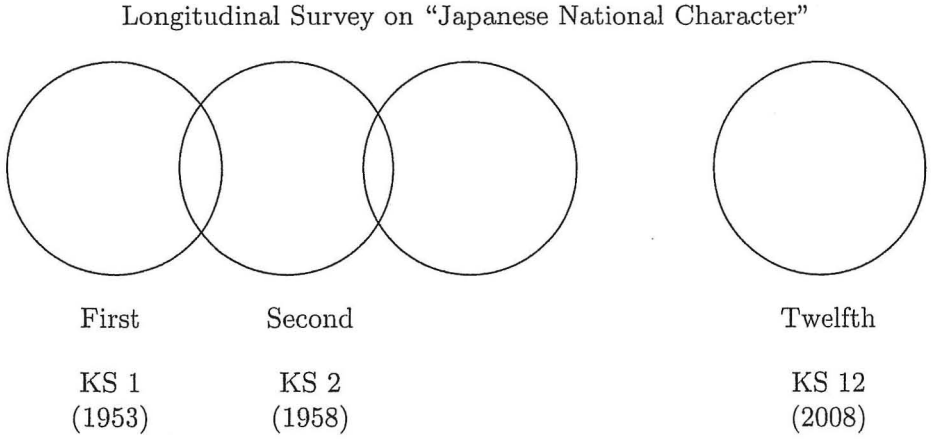


Figure 1: Example of Temporal Linkage
Each temporal chart covers a specific time, and all charts together make a longitudinal linkage of time series comparison. Each chart may correspond to a certain set of items under study.

Program of modern geometry.)

(See Matsumoto [2006] for an example that shows a sort of trade-off between the range of countries studied and depth of analysis on peoples' sense of trust of social systems or institutions.)

This introductory paper briefly illustrates the idea of CULMAN, and the other papers of this special issue exemplify it.

We are developing our survey research on "data science" (Hayashi et al., 1998; Yoshino, 2001; Yoshino [ed.], 2007) under **the Principles of Complementarity** toward a certain practical problem. Here the meaning of "complementarity" is multi-fold, and it covers the following aspects:

1) Complementarity in methodology: data collection vs. theory.
2) Complementarity in the range of aspects to be investigated: analysis of a single aspect vs. synthetic study of various aspects.
3) Complementarity in areas or nations that will be compared: local region vs. a more global area.
4) Complementarity in statistical scaling: uni-dimensional scaling vs. multi-dimensional pattern analysis.

3. Cross-National Comparability

The procedure of our cross-national surveys generally consists of the following eight steps.

Step 1. Making a Japanese questionnaire
Step 2. Making a questionnaire in a foreign language (translation and back-translation)
Step 3. Choosing a survey sampling method (Steps 1, 2 and 3 are parallel.)
Step 4. Developing a semi-final version of the questionnaire
Step 5. Preliminary survey on a small sample to make a final version of the questionnaire

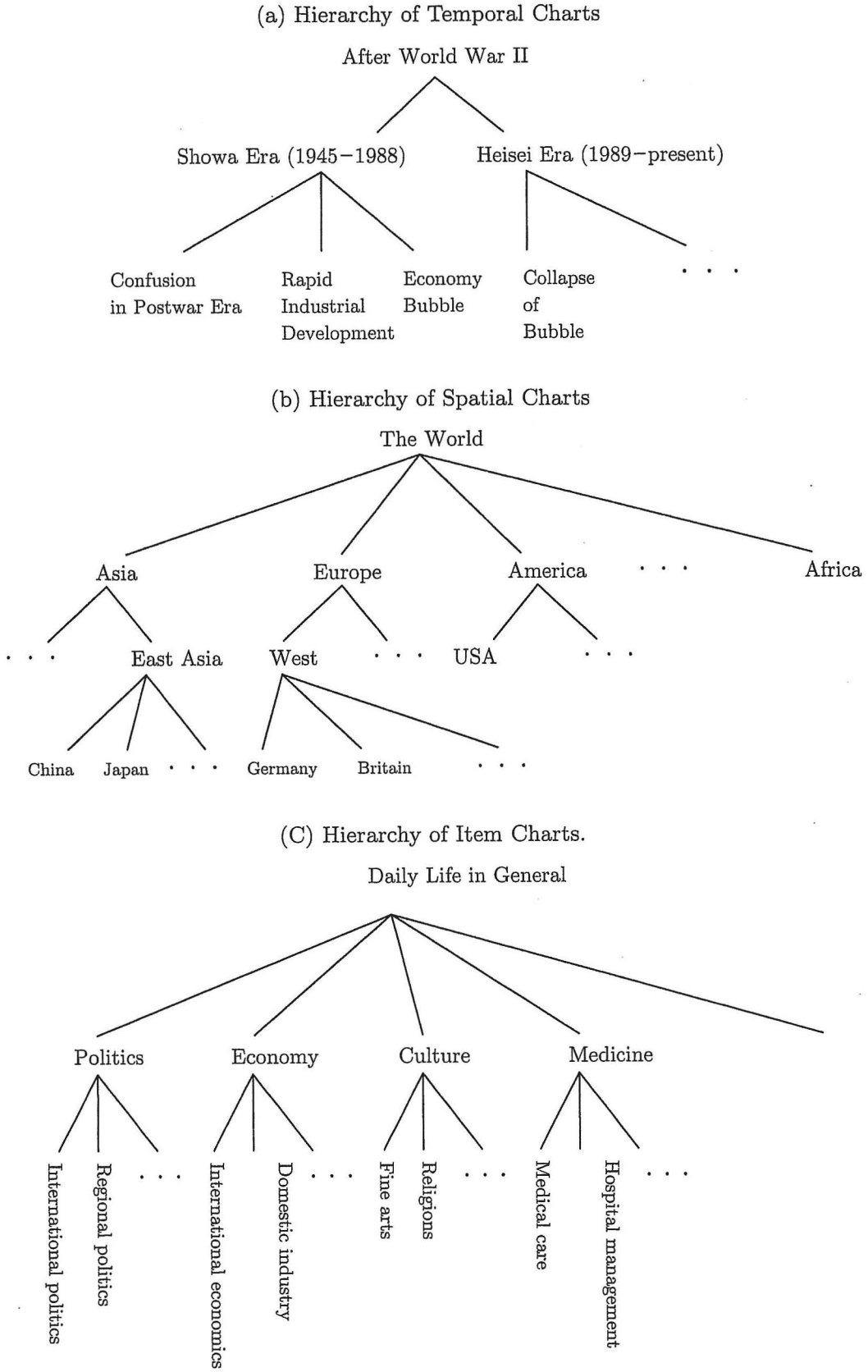


Figure 2: Illustration of Hierarchy of Charts (Links) of a CULTURAL MANIFOLD
Some charts may overlap each other in a hierarchy, and the structure may show dynamic changes over many decades.

Step 6. Nationwide survey (data collection)
Step 7. Data cleaning (including recoding of response categories)
Step 8. Data analysis (cross-tabulation, pattern analysis···)

One should keep in mind that all eight steps involve the problem of comparability of cross-national survey data. Some significant explanation of this problem, along with some findings based on certain trial and error processes in our data analyses, have been reported in previous books and papers (See Yoshino [ed.], 2007, and the references).

We provide an explanation relevant to Steps 2 and 3 as follows. Other steps should be exemplified by data analyses described in the papers in this special issue.

3.1 Making a questionnaire in a foreign language — Back-translation technique —

If an item that we want to use has never been used in a cross-national survey, we must translate it into a specific language(s) for the cross-national survey. Here we explain the case wherein we used the back-translation technique to make a questionnaire in English from a questionnaire in Japanese (Yoshino, Hayashi, & Suzuki, 1995).

The procedure of translation and back-translation in making foreign questionnaires is as follows. 1) A bilingual (preferably a native English speaker) translates a particular Japanese question item into English. 2) Then another bilingual (preferably a native Japanese speaker) translates the English back into Japanese. 3) We compare the wording of the original Japanese and the back-translated Japanese. If there is no difference between them, we may assume that the translated English can be used as an equivalent to the Japanese question (unless we have other evidence against that assumption). If there is an essential difference between them, we have to modify the translation (we may repeat the translation and back-translation process, if necessary).

Occasionally, however, we have had some difficulty in deciding whether or not a certain difference in wording was critical, even though we were sure that there was no grammatical error in the translation. This motivated us to carry out the following experimental survey. By the split-half method, we formed two homogeneous Japanese samples, and we administered Questionnaire A to one of these two samples (Japan A) and Questionnaire B to the other (Japan B). Questionnaire B consisted of those items in the **original** Japanese wording, whereas Questionnaire A consisted of those items with the back-translated Japanese wording. The wording of some items was completely the same in both Questionnaire A and B, but there were slight differences in the wording of some of the other items. We compared the distribution of responses from Japan A and B.

An example of an item is as follows. In translation from the original Japanese to English and back-translation from the English into Japanese, there was no change in the question, but there were some changes in wording in the response categories (choices).

The question was: "Q.33. If you were asked to choose the two most important items listed on the card, which two would you choose? (Select two)" (Percentages following each choice indicate the response percentage.)

In the original Japanese, the choices were:

a. 親孝行 (Filial piety) 73.2%
b. 恩返し (Repaying to one's benefactor) 45.8%
c. 個人の権利 (Respect for the rights of the individual) 37.7%
d. 個人の自由 (Respect for the freedom of the individual). 36.6%

(Here the English in the parentheses is the tentative word-by-word translation by the authors for the readers' convenience.)

These items were translated into English as follows.

a. Filial piety/Love and respect for parents
b. Repaying people who have helped you in the past
c. Respect for the rights of the individual
d. Respect for the freedom of the individual

Then the English was back-translated into Japanese as follows.

a. 親孝行/親に対する愛情と尊敬 (Filial piety/Love and respect for parents) 77.7%
b. 助けてくれた人に感謝し、必要であれば援助する (Repaying people who have helped you in the past) 56.8%
c. 個人の権利 (Respect for the rights of the individual) 25.2%
d. 個人の自由 (Respect for the freedom of the individual) 32.8%

Thus, in the back-translation the Japanese wording was different for categories a and b, but unchanged for categories c and d. In the comparative survey, "b" produced a significant change in response percentage. Even though there was no wording change for "c", the largest change was observed for that item, probably because of an effect from the change in "b."

Fig. 3a and 3b summarize the differences in response distributions between Japan A and Japan B for all items and show that a slightly different wording of items may produce response differences, sometimes up to 10–15%. Therefore, we must be very careful when we compare response percentages from various nations where different languages are used. Even if we find a certain difference in responses, we cannot be sure whether it is due to a real difference or due to a difference in wording.

Some people may think that a potential response difference of up to 10–15% due to wording differences is too large to secure cross-national comparability. However, in pattern analysis, e.g., Hayashi's Quantification Method (Hayashi, 1993), applied to data from several nations or areas for all items on the same questionnaire, we have confirmed that the difference between Japan A and Japan B is small enough to be disregarded in the analysis compared to the differences between several nations in the total data sets (Fig. 4). Therefore, this leads us to the conclusion that if we compare response distributions of two nations with respect to a single item, it may be difficult to see whether a difference is essential or if it is due to translation. However, if we compare response patterns of several nations with respect to many items, we may be able to ignore the influence of minor differences in wording involved in translation processes.

It may be worthwhile to address some issues regarding bilingual comparative surveys. Some people may suspect that there could be response differences even by the same

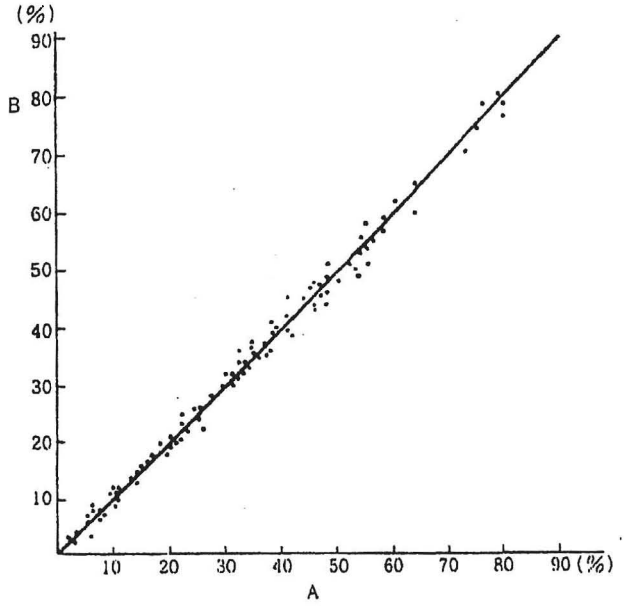


Figure 3a: Comparison of response percentages of Japan A (back-translated Japanese questionnaire) and Japan B (original Japanese questionnaire). In the case where the wording is completely the same in both Japan A and Japan B, there are some percentages of variance, which may be comparable to sampling errors.

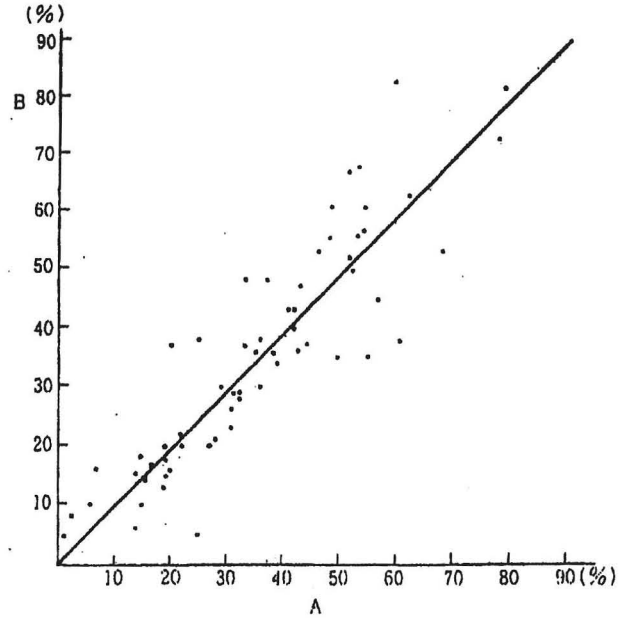


Figure 3b: In the case where there are some wording differences between Japan A and Japan B, the differences in response percentages sometimes amount up to 10–15%.

bilingual respondent when he/she is administered the same questionnaire in different languages. In order to investigate this problem, Hayashi and Suzuki (1997) carried out a comparative survey of persons bilingual in Japanese and English by the split-half method, and they detected certain differences as follows. Roughly, respondents to the Japanese questionnaire tended to avoid polar answers and to choose middle answer categories or "DK (Don't Know)", whereas respondents to the English questionnaire tended to choose

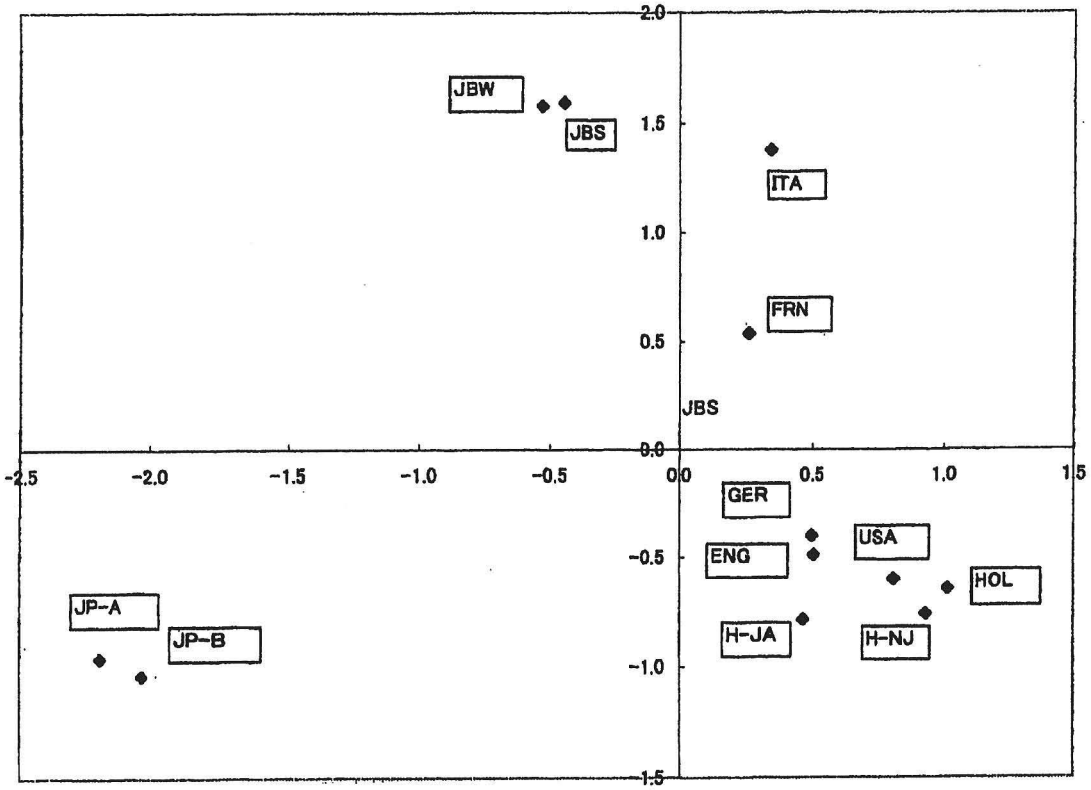


Figure 4: The result of Hayashi's Quantification Method applied to the response data of all common items from several nations and areas. The difference due to wording differences (Japan A & Japan B) or due to sample weighting (JBS & JBW) is so small that we may disregard it in the global comparisons.

polar categories ("very···"). Moreover, the Japanese were as individualistic and optimistic as Americans if they were responding to a question in English (cf. linguistic relativity of Sapir & Whorf hypothesis). See Hayashi & Suzuki (1997) for more details.

Our more recent surveys suggest that the response using a "common language" [English or Arabic] in a multiracial country may tend to produce polar answers in greater numbers simply because of poor literacy of the people who have to use the common language rather than their real mother tongue. This may explain the response tendencies found by Hayashi & Suzuki [1997] of Japanese responding in English. We are still investigating our recent survey data from Australia, Singapore, and India from this point of view. (See Yoshino's paper in this issue.)

3.2 Difference of survey sampling methods

In a social survey, we usually use statistical random sampling of the population under investigation. In cross-national comparative surveys, however, we cannot avoid situations where each country uses its own traditional method of sampling. For example, many European countries use random-route sampling, and many survey companies in Britain and the USA use quota sampling. In addition, some companies often modify response percentages by weighting with respect to age, gender, rate of absence (rate of unavailability

at the time of interviewing), etc. For the comparability under question, multidimensional analysis might be preferable to simple tabulation of response distribution, which often fails to secure cross-national comparability.

Yoshino & Hayashi (2002) and Hayashi (2001) showed robustness of outputs in multidimensional analyses. That is, one can disregard differences in sampling methods in a total configuration obtained by multidimensional data analysis (Hayashi's Quantification Method III) when comparing data from many countries with respect to a group of items in contrast to an examination of only a single item. In addition, Yoshino (1992, 2001) showed that one could even detect falsified data by applying multidimensional scaling, called the superculture model (Yoshino, 1992). Here again, we could confirm the power of multidimensional analysis, as shown in the explanation of back-translation of items.

For example, see Fig. 3 again for the comparison of two sets of data: a) weighted sample data from the Japanese Brazilian (JBW) survey with respect to races and b) non-weighted sample data (JBS). As in the case of comparison of the two Japanese surveys (Japan A and Japan B), the difference between the two sets of data is so small that we can ignore it for the comparison of data from all countries in the analysis of patterns of responses with respect to many items.

Thus, Hayashi's Quantification Method cancels out minor differences in wording of items and those of sampling methods and gives us a stable macro pattern.

4. Overview of Our Past Surveys

In this section, we briefly explain some results of our past surveys. For details, see the references.

4.1 Longitudinal Analyses of Japanese National Character Survey (1953–present)

In the longitudinal survey of the Japanese national character that is the core of CLA, we have found a central dimension of the Japanese character and society, which may be labeled as modernization vs. tradition. Various aspects of Japanese social systems are concerned with this dimension (e.g., views of nature, acceptance of science and technology, etc.) in one way or another. This dimension may represent a conflict between innovation and conservation in Japanese history.

We found also five enduring predominant values held by more than two thirds of Japanese without regard to age, education, and gender over some five decades. These are: 1) fairness in employment situations (Q.35 (#5.1c-1 & c-2), 2) preference for Japanese style gardens (#9.3), 3) preference for a workplace to be governed by the rule of primary group relations (paternalistic department chief, family-like firm) (Q.35, #5.6b), and 4) although only one third of the Japanese have religious faith, most non-religious Japanese also think that a religious attitude (heart/mind) is important (Q.42a & Q.43)[1)].

[1)] Codes such as Q.35 are those for the Asia-Pacific Values Survey (Yoshino [ed.], 2004), and those such as #5.6b are in the Japanese national character survey (Mizuno et al., 1992).

It is natural to think that some changes must be associated with the 1) transformation of Japan in the post-industrial era, 2) shift from collectivity to an individual orientation, and 3) liberalization: change from subjects to citizens (becoming more democratic). Possible causes of these changes in Japan would be 1) the move from an agriculture-based economy to a manufacturing-based economy, and finally service-based economy, 2) a more affluent economy, and 3) the internationalization or globalization of the Japanese economy (Hayashi & Kuroda, 1997, for more details).

Incidentally, it may be interesting to examine the following example of a contrast between stability of men's attitudes and change in stability of women's attitudes as shown in Figure 5. This contrast might be closely related to various aspects of changes taking place in Japan over the past half century after World War II.

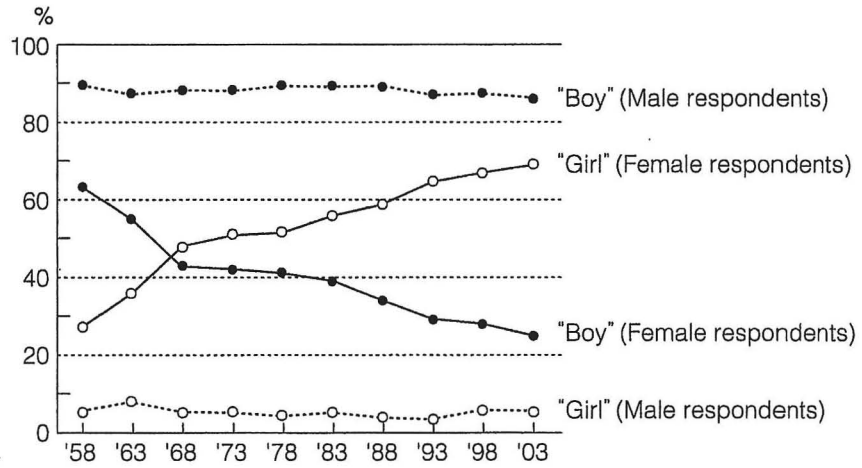


Figure 5: Japanese National Character Survey
Q. "If you were born again, would you like to be born as boy or girl?"
In the past half century there has been stability in Japanese men's response of "boy" (approx. 90%) and significant change in Japanese women's response from "boy" to "girl."

4.2 Macro Comparison of Several Countries

Although the Japanese national character survey is the most important source for the study of changes and stability of Japanese social attitudes, opinions, and values, the Japanese national character must be more distinctively characterized through cross-national comparisons.

1) Seven Country Survey (1985–93)

With special financial aid from the Ministry of Education, we performed a cross-national survey of seven nations: Japan, USA, Britain, France, West Germany (before the unification) (1986–88), Italy (1992), and the Netherlands (1993). Applying a psychometric pattern analysis, called the "super-culture model", Yoshino (1992) found two main dimensions: a) European vs. Japanese and b) Latin vs. Anglo-Saxon. In the dimensional coordinate, there are three clusters: a) Britain and USA (common origin and language),

b) France and Italy (Latin nations and geographical neighbors), and c) Germany and the Netherlands (geographical neighbors). In our multidimensional analyses of social surveys, we frequently find these clusters. Probably the clustering is robust with respect to changes or differences in sets of question items, at least in general social surveys.

Yoshino & Hayashi (2002) gave an example of an item that initially seemed to have nothing to do with national character, but later turned out to have some hidden relevance to national character in our cross national survey. The item is as follows.

Q.14. During the last four weeks, have you suffered from any of the following?

	Yes	No	DK
Headaches/migraines	1	2	0
Backaches	1	2	0
Nervousness	1	2	0
Depression	1	2	0
Insomnia	1	2	0

This item was about medical problems, therefore, seemed apparently irrelevant to national character. Survey results showed that the percentages of those who claimed to have suffered from those health problems were higher among women than among men in all seven countries and that the percentage of Japanese men experiencing those problems was the lowest among the seven countries (Hayashi et al., 1998, pp.129–128). One knows, however, that the life span of women is longer than of men in most countries worldwide. Besides, the suicide rate of Japanese men is the highest among those in advanced industrial countries. These facts apparently seemed to contradict the survey data shown above.

All seven countries involved in this survey are highly industrialized states. Thus, there would appear to be no significant material difference in the stressful conditions of their environments nor in the quality of their medical systems (although medical systems may be related to political issues in each country as evidenced by the situation in the USA that denies many people systematic access to healthcare because of lack of a national healthcare program). On the other hand, it is known that women usually reduce stress effectively by chatting with others, and that Japanese men tend to close their heart and mind when experiencing trouble, which increases stress, sometimes to the extent of suicide. Thus, we have come to suspect that the above-mentioned response patterns with regard to medical symptoms may be closely linked to differences in people's attitudes toward **self-disclosure**. Furthermore, Yoshino (Yoshino, Hayashi & Yamaoka, Ch.3, 2009, to appear) argues that the above-mentioned degrees of self-disclosure also may be closely linked to attitudes leading to avoidance of polar categories (e.g., tendency for intermediate answers among Japanese in questionnaire) (Yoshino, 2009, this issue).

2) People of Japanese ancestry in Hawaii (1971, 1978, 1983, 1988 & 2000), Brazil (1991) and the U.S. West Coast (1998)

Our cross-national survey started with the Hawaii survey project in 1970. This survey of Japanese emigrants provided us with some important information about acculturation. For example, the general Japanese tendency for even non-religious people to respect a

religious attitude was observed among people of Japanese ancestry in Hawaii, Brazil, and the U.S. West Coast (King County in Washington state & Santa Clara in California). The tendency of Japanese to avoid polar answers and prefer middle category responses was observed among people of Japanese ancestry in Hawaii and in Brazil, but not on the U.S. West Coast. Hayashi & Kuroda (1997) mentioned that probably language was a key factor in the ambiguity of the Japanese as well as the diffuse nature of the Japanese self. But, reconsidering all data on this matter from our past surveys, we might explain the general response tendency as follows. In Hawaii, no race comprises a majority and the Japanese group is the largest among minority groups. In Brazil, Japanese may live either close together in a town/village or live in a large and sparsely populated area. In contrast to those two groups, Japanese Americans in the USA mainland have already assimilated into a multiracial society. Although the Japanese may express their opinions in a roundabout way to suggest a delicate and subtle nuance, this type of communication may be possible only among people who share a culture and history, such as the Japanese in Hawaii and Brazil. In order to communicate successfully in a multiracial society such as the mainland of the USA, one is supposed to speak out definitely on one's opinion whenever asked. This may explain the differences in response tendency between the Japanese on the U.S. West Coast and those in Hawaii and Brazil (This may be closely linked with the tendency of self-disclosure explained concerning response tendencies regarding medical symptoms in the previous section.)

In short, the Japanese in Japan use euphemisms and show less self-disclosure because they can expect that others having the same culture and history will guess their real opinions (heart/mind). On the other hand, Japanese immigrants abroad may show the same response tendency as the Japanese in Japan when they communicate among Japanese groups even though they might speak out among people who do not share their culture and history. (There are generational differences among Japanese immigrants, which may be related to differences in their degrees of assimilation.)

Yamaoka (2000, Fig. 3 & Table 3) compared the Japanese with other peoples with respect to the following two aspects: interpersonal relationships measured by the Giri-Ninjyo scale (Q.40-2, Q.41-1 & Q.42-2, Q.48-1 & Q.49-2, Q.45-a & b, Q.50-2) and religious attitude measured by Q.62a-2 & Q.63-1[2)].

Briefly, the Giri-Ninjyo scale captures the interpersonal relationships particular to the Japanese, where Giri-Ninjyo is associated with emotional conflict between obligation and warm heartedness. The percentage of those who have a particular religious faith (about one third) is smaller in Japan than in western countries. But, among those people who do not have a particular religious faith, the percentage of those who think that religious attitudes (heart/mind) are important is the largest among Japanese. These tendencies were observed among people of Japanese ancestry in Hawaii, the U.S. West Coast, and Brazil (Hayashi, et al., 1998; Yamamoto, 1992; Yoshino, 2000).

---

2) Note that the number of Q is the item number used in the comparative survey of seven nations.

5. East Asia Values Survey (EAVS) 2002–2005 and Asia-Pacific Value Survey (APVS) 2004–2009

This section briefly gives basic information on the countries to be analyzed in this special issue. In order to provide a frame of reference for understanding the studies described in this issue, this section focuses on each country's or region's relationship with Japan, its racial and religious composition, and stage of economic development. These explanations mainly depend upon Hirano et al. (2007) and Kyodo News (2008) as references.

People's Republic of China

Shanghai and Beijing, which are the locales to be analyzed in this special issue, have the second and the third largest populations of all the cities in China. The majority of Chinese people are of the Han race. Major religions in China are Buddhism, Islam, and Christianity. Although the Constitution of China guarantees freedom of religion, the government practically imposes restriction on it. (This restricted possible items on politics and religion in our questionnaire.)

The Chinese economy, on the whole, has grown rapidly. The gross domestic product (GDP) of China is about half that of Japan, and its GDP has grown at a yearly rate of 10 percent in the five years since 2003. However, per capita gross national income (GNI) is very low ($2010), and the income gap is already wide and is still widening.

In 1972, Japan and the People's Republic of China established diplomatic relations. Their relations, both at the governmental level and in terms of feelings held by the people, however, have not been warm, mainly due to conflicts over the perception of history. In April 2005, some months before our China Survey 2005 was performed, for instance, there were anti-Japanese demonstrations in big cities, including Beijing and Shanghai, that were triggered by objection to content in Japanese high school history textbooks on events during World War II and Japanese Prime Minister Koizumi's visits to the Yasukuni Shrine.

Sovereignty of Hong Kong was transferred from the United Kingdom to China in 1997. Ninety-five percent of the people in Hong Kong are Chinese. Per capita GNI in Hong Kong is more than 10 times as large as that in Mainland China.

Taiwan

Ninety-eight percent of Taiwanese is of the Han race. Major religions in Taiwan are Taoism, Buddhism, and Christianity. Its economy has developed rapidly so that its per capita GNI is about half that in Japan ($17,000).

After it lost its UN membership to the People's Republic of China (PRC) in 1971, many countries broke off diplomatic relations with Taiwan, with only 23 countries having diplomatic relations with Taiwan today. Japan also broke off diplomatic relations with Taiwan in 1972. Economic and cultural exchanges in the private sector, however, have continued. It is the Taiwanese who first imported the Japanese culture of cartoons and comics, thereby helping Japanese culture to become accepted in other countries in Asia. Thus, generally speaking, people in Taiwan have pro-Japanese feelings. Currently, the

number of visitors from one country to another exceeds 1 million a year.

United States of America

The USA is, of course, a country that has had a preponderant influence on so many aspects of Japan's society, culture and politics from its diplomatic policy and the structure of its legal system to pop culture and the directions of education, and just about everything in between. It is not necessarily true, however, that the general public in either country knows or understands much about the other's culture or the ways in which the people respectively think about important issues of the day. Partly, this probably has to do with some intrinsic difficulty in maintaining a military-political alliance between states that differ greatly in terms of underlying cultural consciousness or of the ways in which national identity is woven into state power. Japan is a deeply secular state whose people's behavior and customs are bound nevertheless by deep-seated tradition, whereas the American people are highly religious even though America's political and economic institutions have been rationalized and depersonalized to a greater extent than in any other country. In terms of denominational affiliations, both Protestantism and Catholicism have a strong foothold in the United States. However, it is probably fair to say that over the last few decades the most conspicuous and politically charged line of cleavage has to do with that between secularists and those with some sort of religious belief.

Then there is the problem of asymmetry in relations. To Japan, the USA is the dominant, and, in fact, often nearly the sole, guideline state in deciding on its diplomatic stance; to the USA, Japan is but one actor among many in a geographical region that only a few with some sort of specialized interests know or care about. Most ordinary people in the USA probably know far less about Japan than people in Japan would like to think. On the other hand, the asymmetry doesn't necessarily mean that the average Japanese person has a deeper understanding of American culture or politics than the average American person might have of Japan. Too often, the Japanese tend to think of the USA in terms of binary stereotypes — emblematic of greatness and fostering admiration or, alternatively, as symbolizing arrogance and promoting hostility, or alternately of resistance or anger (Hirano et al., 2007, p.51).

It is perhaps time for the Japanese people to develop a more nuanced, subtle and fuller understanding of the USA and its culture as it really works.

Republic of Korea

Most people in Korea are Korean. About a quarter of the population is Buddhist and another quarter is Christian, although Korean Christians retain some customs of Confucian teachings. Korea has succeeded in developing rapidly so that its per capita GNI is about half of that in Japan ($18,000).

People in the Republic of Korea have deep anti-Japanese sentiment because of Japanese annexation and occupation of Korea in the first half of the 20th century. Diplomatic relations between the countries are often still tense due to problems over the interpretation of history and disputes over the ownership of the island called Takeshima in Japanese, or Dokdo in Korean.

Japanese culture, such as through books and movies, however, is popular in Korea. Therefore, pirated Japanese books and movies have long been circulated in Korea. After President Kim Dae-jung abolished its restrictive policy toward Japanese culture in 1998, cultural exchanges between the countries have increased more than ever.

Southeast Asian Countries

If relations between Japan and the USA have been characterized by a certain degree of asymmetry, then it is also quite true that Japan's relationship with Southeast Asian countries has been rather unbalanced in the sense that most people in Japan do not seem to fully realize just how much impact their country has had on the historical and political developments in Southeast Asia. But it is certainly reasonable to say that Japan's military ventures in this region during World War II, as well as the subsequent economic penetration in search of labor and natural resources, have had a major impact on the political, economic and cultural developments of the Southeast Asian countries (For instance, see Goodwin [2001] for an example of an argument in sociology that identifies the historical role played by Japan as the single most consequential variable in explaining the nature of a political regime in various Southeast Asian countries since World War II. Also, see Fujimaki & Segawa, eds., 2003, and a series of introductory books on Southeast Asia by Kobundo, for more general information on the politics, society and culture in these countries). In any event, the history of Japanese invasion and military aggression in many of these countries almost necessitates that their public opinion would be characterized by some strong emotion and distrust. Indeed, during World War II Japan occupied and established military rule in the Philippines, Indonesia, Malaysia and Singapore, and often conducted extensive campaigns involving massacre, pillaging and forced labor camps.

Post World War II relations between Japan and Southeast Asia have centered on business, investment and economic aid rather than on direct military intervention and have in general been quite productive. Meanwhile, culturally and socially, the Philippines, Indonesia, Malaysia, and Thailand are all multi-ethnic, multi-lingual and regionally segmented countries that are internally very diverse (Singapore is a partial exception because it is too small to be considered regionally segmented fully based on ethnicity. It is also notable that the Singaporean government over the years has tried to deliberately integrate the different ethnic groups residentially, with varying degrees of success in different historical periods. See Itobayashi [2000] for more information). On the other hand, the influence of Western and Japanese popular culture and lifestyle has been quite pervasive, especially in the cities, in recent years - adding yet another layer of cultural expression and identity to these societies that have historically existed at the crossroads of commerce and cultural exchange since pre-modern times.

Commonwealth of Australia

The majority of Australians are of European ancestry, especially Anglo-Saxon, and about 70 percent of Australians (whose population is 20 million in all) are Christian. Recently, the number of people whose race is Asian has increased to about 0.5 million.

Although the Australian economy is small in size compared to Japan, its stage of eco-

nomic development is as high as that of Japan in terms of per capita GNI.

Since Australia was directly attacked by Japan during World War II, the Australians had strong antagonism toward Japan. The development of Japan-Australia relationships was restricted to the field of trade for a few decades after the war. Around 1972 when the Whitlam Labor government abolished the racial discrimination policy, Japanese emigration to Australia began to appear. Since then, economic and cultural relationships between these countries have been activated. Nowadays, hundreds of thousands Japanese visit Australia for sightseeing each year. As an economic effect, the Australian feelings toward Japan have become better.

India

It is sometimes difficult to even think of such a large, diverse polyglot country as being a modern nation-state at all, but this country of over a billion people and of at least 18 major languages has managed to hold together as the "world's largest democracy" more or less uninterruptedly since its independence from Britain in 1947. The country's history since then has not been without tribulations or political disturbances; secessionist movements in some regions, fundamentalist zeal of both the Hindu and Islamist varieties, as well as the general difficulty in building an unified Indian identity out of the myriads of competing caste, ethnic and regional loyalties remain to be some of the significant challenges the Indian state faces (See Khilnani, 2004, for more on the last point).

While for some time India's post-independence economy was organized around the socialist principle, in 1991 the country shifted to a policy of liberalization in trade and investment. The IT industry has in particular been stimulated by this new approach, and India is now considered one of the world's largest sources of engineers, programmers and so on. Supported by this development, business and trade relations between India and Japan also have expanded and deepened, in spite of a temporary setback caused by India's nuclear testing in '98 to which Japan strongly objected.

6. Towards a New Trustful Social System in the 21st Century

The Japanese mind is the world of an ambiguous self, multiple realities, and multivalued attitudes (Hayashi & Kuroda, 1997). Occasionally, Japan is considered as a homogeneous society with respect to individual opinions, but this is not the case in reality. Simply because the Japanese tend to refrain from making definitive commitments in order to avoid possible conflicts, they often appear to be ambiguous and homogeneous.

A new style of society demands a new type of social system. Bringing this about would first necessitate destruction of the traditional system. A leader in Japan would have to think about the balance between conservation of fundamental human relational systems and quick destruction of obsolete social systems in the transitional age, as would leaders all over the world. The last decade, however, has seen that this destruction has gone too far even in the areas that we have to conserve, for example, in the realm of building trustful human relationships, under misguided globalization. A positive side of ambiguity may lead us to generosity in accepting different social values whereas a negative side may

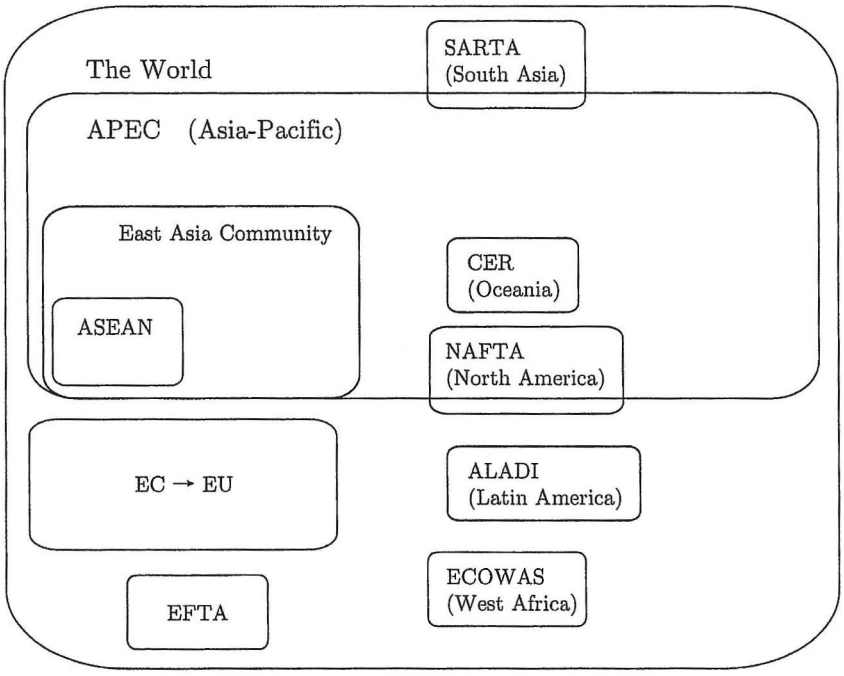


Figure 6: A Manifold of Local Communities
Some pairs of these local communities may overlap each other and the total set may make a hierarchy as a global manifold. In order to realize steady peaceful and prosperous development, we may need a set of "soft" regulations to connect pairs of communities rather than a single restrictive global standard.

lead us to confusion or irresponsibility.

So far we have explained the idea of "manifold" as in the context of comparative surveys. However, the real world has already formed some local communities of a global manifold. We may be able to utilize CULMAN also for **policy-making** in balancing between strict construction and its spatial coverage of regulations. That is, if an international regulation is applied to a larger region, it should be made less restrictive and be adapted to local conditions. In order to have steady peaceful and prosperous development, we may need a set of "soft" regulations to connect pairs of communities rather than a single restrictive global standard. In the literature on international politics, Lipson (1991) and Abbott & Snidal (2000) argue the comparative merits and demerits between informal or "soft" international rules and formal or "hard" ones. Goldstein and Martin (2000) point out the possibility that the establishment of legalized or hard international rules might make international cooperation difficult.

Although Japanese ambiguity has long been criticized in the past, can't we make use of a positive side of it as a strategy of generosity by which we connect those local charts in order to avoid conflicts between different cultures or races and to connect them in a constructive way? It seems that current political confusions in the world are due to insufficient scientific data analyses and inadequate ways to study cultural diversity in this time of globalization. Therefore, it is worthwhile to reconsider world policy from the viewpoint of the world as a cultural manifold.

We hope that our survey research will provide some basic information for mutual un-

derstanding of different cultures and peoples in order to realize peace and prosperity in the entire world.

Acknowledgements

This study was financially supported by the Japan Society for the Promotion of Science (JSPS) (Grant-in Aid for Scientific Research [A] No.18252001). Also, for many years our past survey research has been financially supported by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science & Technology (MEXT), the Toyota Foundation, and the Sasagawa Peace Foundation. The survey results have been published as a series of ISM Research Reports, in addition to appearing in many books and research papers in academic journals. We extend our sincere appreciation to the above organizations as well as to all who have given us their assistance and support in our work through the years.

Appendix

The following is a list of ISM Research Report Series on our surveys. (For the list of titles of all the reports in Japanese, see http://www.ism.ac.jp/editsec/kenripo/index.html)

No.54. A Statistical Method for Comparative Study of Fundamental Structure of Social Attitude. (Hayashi, C. [ed.], 1981)

No.59. Statistical Methods for Comparative Study of Social Attitude by Surveys. (Hayashi, C. [ed.], 1984)

No.70. Toward the Establishment and Development of Statistical Analysis for the Study of Comparative Culture: The Fourth Attitudinal Survey of Honolulu Residents, 1988. (Hayashi, C. & Suzuki, T. [eds.], 1991 [1988])

No.71. Cultural Link Analysis for Comparative Social Research: A New Approach for the Exploration of Structure in Ways of Thinking Applied to Cross-National Analysis of General Social Attitudes (Hayashi, C. & Suzuki, T. [eds.], 1991)

No.72. Cultural Link Analysis for Comparative Social Research: A Codebook for A Common File of 1987's German Survey, 1987's French Survey, 1987's British Survey, 1988's U.S. Survey, and 1988's Japanese Survey. (Hayashi, C. [ed.], 1992)

No.73. Cultural Link Analysis for Comparative Social Research: Cross-Tables by Sex and Age for 1987's German Survey, 1987's French Survey, 1987's British Survey, 1987's U.S. Survey, and 1988's Japanese Survey. (Hayashi, C. [ed.], 1993)

No.74. Research on National Character of Japanese Brazilian: 1991–1992. (Yamamoto, K. & Mori, K. [eds.], 1993 [1991–92])

No.75. A Study of the Japanese National Character: The Ninth Nationwide Survey. (Research Committee on the Study of the Japanese National Character [ed.], 1994).

No.76. Application of Cultural Link Analysis for Comparative Social Survey: A General Report. (Yoshino, R. & Suzuki, T. [eds.], 1995)

No.77. Application of Cultural Link Analysis for Comparative Social Survey: A Manual for International Comparison of the National Character. (Yoshino, R. & Suzuki, T.

[eds.], 1995)

No.78. Application of Cultural Link Analysis for Comparative Social Survey: A Codebook of 1992 Italian Survey (Yoshino, R. & Suzuki, T. [eds.], 1995)

No.79. Application of Cultural Link Analysis for Comparative Social Survey: A List of Responses for Open-Ended Questions of 1992's Italian Survey. (Yoshino, R. & Suzuki, T. [eds.], 1995)

No.80. Application of Cultural Link Analysis for Comparative Social Survey: A Codebook of 1993's Dutch Survey (Yoshino, R. & Suzuki, T. [eds.], 1995)

No.81. Application of Cultural Link Analysis for Comparative Social Survey: A List of Responses for Open-Ended Questions of 1993's Dutch Survey. (Yoshino, R. & Suzuki, T. [eds.], 1995)

No.82. Application of Cultural Link Analysis for Comparative Social Survey: A Codebook for a Common File of 1992's Italian Survey, 1993's Dutch Survey. (Yoshino, R. & Suzuki, T. [eds.], 1995)

No.83. A Study of the Japanese National Character: The Tenth Nationwide Survey. (Research Committee on the Study of the Japanese National Character [ed.], 1998)

No.84. A Study of Statistical Science on Cultural Transmission: Japanese Americans on the West Coast Survey (JAWCS). (Yoshino, R. [ed.], 2000)

No.86. Hawaii Resident Survey 1999–2000 by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2001)

No.89. Researches on the National Character of Chinese and Japanese: A Sampling Survey in Beijing, China. (Zheng, Y. [ed.], 2003)

No.90. Researches on the National Character of Chinese and Japanese: A Sampling Survey in Shanghai, China. (Zheng, Y. [ed.], 2003)

No.91. East Asia Values Survey: Japan 2002 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2004)

The following reports have also been published by ISM.

The East Asia Value Survey: China 2002–03 Survey [Beijing, Shanghai & Hong-Kong] by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2004)

The East Asia Value Survey: Japan 2004A Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2005)

The East Asia Value Survey: Japan 2004B Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2005)

The East Asia Value Survey (2002–2005): Data Analysis on Peoples' Sense of Trust. (Yoshino, R. [ed.], 2006)

The Asia & Pacific Value Survey: China 2005 Survey [Beijing, Shanghai & Hong-Kong] by The Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2007)

The Asia & Pacific Value Survey: Taiwan 2006 by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. & Horoiwa, A. [eds.], 2007)

The Asia-Pacific Value Survey: South Korea 2006 Survey by the Research Committee of

Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. & Matsumoto, W. [eds.], 2007)
The Asia-Pacific Value Survey: USA 2006 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2007)
The Asia & Pacific Value Survey: Singapore 2007 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2008)
The Asia & Pacific Value Survey: Australia 2007 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R., & Matsumoto, W. [eds.], 2008)
The Asia & Pacific Value Survey: India 2008 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey. (Yoshino, R. [ed.], 2009)
A Study of Statistical Science on Health and Culture: Cross-National Comparative Survey on Life — 2006 America CATI Survey — (Yamaoka, K. & Yoshino, R. [eds.], 2008)
A Study of Statistical Science on Health and Culture: Cross-National Comparative Survey on Life — 2007 German CATI Survey — (Yamaoka, K. & Yoshino, R. [eds.], 2008)

Five volumes have been published as a series of "Japanese National Character Survey" by Shisei-dou (Vol.1, 2 & 3) and Idemitu-shoten (Vol.4 & 5).

Special issues on our longitudinal or cross-national surveys have been published in the following journals.

- Proceedings of ISM, Vol.43, No.1. (1995)
  (on Japanese national character survey 1953–1993)
- Proceedings of ISM, Vol.48, No.1. (2000)
  (on Japanese national character survey 1953–1998)
- Proceedings of ISM, Vol.53, No.1. (2005)
  (on Japanese national character survey 1953–2003)
- Behaviormetrika Vol.29, No.2 (2002) & Vol.30, No.1 (2003)
  (on our past longitudinal and cross-national surveys of national character 1953–2001)
- Japanese Journal of Behaviormetrics, No.32-1 (2005) & 33-1 (2006).
  (on the East Asia Values Survey 2002–2005).

The papers of these special issues are available on a free online journal of Proceedings of the ISM (http://www.ism.ac.jp/editsec/toukei-j.html), the Journal of Behaviormetrika (http://www.jstage.jst.go.jp/browse/bhmk), and the Japanese Journal of Behaviormetrics (http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jbhmk/).

As for our past surveys, see our home pages of the Institute of Statistical Mathematics (**http://www.ism.ac.jp/~yoshino/** and **http://www.ism.ac.jp/ism_info_j/kokuminsei.html**).

References

(For the convenience of readers, this list covers more books and papers than appeared in this introductory paper.)

Abbott, K. & Snidal, D. (2000). Hard law and soft law in international governance. *International Organization*, **54**, 421–456.

Abramson, P.R. & Inglehart, R. (1995). *Value change in global perspectives.* Ann Arbor: The University of Michigan Press.

Fujimaki, M. & Segawa, M. eds. (2003). *Gendai tohnan ajia nyumon* (Introduction to contemporary Southeast Asia]. Tokyo: Kokon Shoin (in Japanese).

Fukuyama, F. (1999). *Trust.* Tokyo: Free Press Paperbacks.

Goldstein, J. & Martin, L. (2000). Legalization, trade liberalization, and domestic politics. *International Organization*, **54**, 603–632.

Goodwin, J. (2001). *No other way out: states and revolutionary movements, 1945–1991.* Cambridge: Cambridge University Press.

Guttman, L. (1982). What is not what in theory construction. In R.M. Hauser, D. Mechanic and A. Haller (eds.), *Social structure and behavior* (pp.331–348). New York: Academic Press.

Hayashi, C. (ed.) (1973). *Japanese Americans in Hawaii.* ISM Research Report, No.33. Tokyo: The Institute of Statistical Mathematics.

Hayashi, C. (1992a). Quantitative social research — Belief systems, the way of thinking and sentiments of five nations —. *Behaviormetrika*, **19**, 127–170.

Hayashi, C. (1992b). Belief systems, Japanese way of thinking: Interchronological and international perspectives. Social, Educational and Clinical Psychology, *Proceedings of the 22nd International Congress of Applied Psychology*, **3**, 3–34. Lawrence Erlbaum Associates, Publishers.

Hayashi, C. (1993). *Suhryoka* [Theory and methodology of quantification]. Tokyo: Asakura-shoten (in Japanese).

Hayashi, C. (1998). The quantitative study of national character: Interchronological and international perspectives. In M. Sasaki (ed.), *Values and attitude across nations and time* (pp.91–114). Boston: Brill.

Hayashi, C. (2000). The Future study on national character — to quantitative study on civilization from comparative study of national character —. *The proceeding of ISM*, **48**, 33–66 (in Japanese).

Hayashi, C. (2001). *Deta no kagaku* [Science of Data]. Tokyo: Asakura-shoten (in Japanese).

Hayashi, C. & Kuroda, Y. (1997). *Japanese culture in comparative perspective.* London: Praeger.

Hayashi, C. & Suzuki, T. (1997). *Shakai-chosa to Suryo-ka* [Social survey and quantification methods]. Tokyo: Iwanami-shoten (in Japanese).

Hayashi, C., Yoshino, R., Suzuki, T., Murakami, M., Hayashi, F., Kamano, S., Miyake, I., & Sasaki, M. (1998). *Kokumin-sei nanaka-koku hikaku* [Comparison of national character of seven countries]. Tokyo: Idemitu-shoten (in Japanese).

Hayashi, C., Yoshino, R., Yamamoto, K., Kawai, T., Wakisaka, K., Miyao, S., Mori, K., Mizuno, H., Suzuki, T., & Hayashi, F. (1991). *Research on Japanese Brazilians in 1991.* ISM Research Report, No.74.

Hirano et al. (2007). *Tai-nichi kankei wo siru jiten* [Encyclopedia for the relationship between Japan and other counries]. Tokyo: Heibonsha (in Japanese).

Inkeles, A. (1997). *National character.* Transaction Publications.

Itobayashi, Y. (2000). *Singapore: tabunka shakai wo mezasu toshi-kokka* [Singapore: a city-state trying to be a multicultural society]. Tokyo: Sanshusha (in Japanese).

Khilnani, S. (1997). *The idea of India.* New Delhi: Penguin Books. Reprint with a new introduction, New Delhi: Penguin Books, 2004.

Kuroda, M. (1990). *Restrictions by mother tongue and the international mutual Understanding — survey on Arabic college students.* Toyota foundation.

Kyodo News (2008). *World year book.* Tokyo: Kyodo News.

Lipson, C. (1991). Why are some international agreements informal? *International Organization*,

45, 495–538.

Matsumoto, W. (2006). Sense of trust on organizations in East Asia — analysis for a cross-national comparative study —. *Japanese Journal of Behaviormetrics*, **33**, 25–40.

Mizuno, K., Yoshino, R., Hayashi, C., Nishihira, S., Hayashi, F. (1992), Sakamoto, Y., Murakami, M., Nakamura, T. *Nihonnjin no Kokuminnsei* [Japanese national character], Vol.**5**. Tokyo: Idemitu-Shoten (in Japanese).

Sakamoto, Y., Tsuchiya, T., Nakamura, T., Maeda, T., & Fouse, D. (2000). *A survey of national character: the 10th nationwide survey (1998).* ISM report No.85. Tokyo: The Institute of Statistical Mathematics.

Yamaoka, K. (2000). Variation in attitudes and values among Japanese Americans and Japanese Brazilians across generations. *Behaviormetrika*, **27**, 125–151.

Yoshino, R. (1992a). Superculture as a frame of reference for cross-national comparison of national character. *Behaviormetrika*, **19**, 23–41.

Yoshino, R. (1992b). The unbiased BIGHT model and its application to the distinction of responses to a free-answer question in a social survey. *Behaviormetrika*, **19**, 83–96.

Yoshino, R. (1995a). *Application of cultural link analysis for comparative social survey.* ISM Research Report, No.76. Tokyo: The Institute of Statistical Mathematics.

Yoshino, R. (1995b). *Application of cultural link analysis for comparative social survey — manual of cross-national social survey on national character* —. ISM Research Report, No.77. Tokyo: The Institute of Statistical Mathematics.

Yoshino, R. (1996). Degree of conformity for the cross-national comparative studies. In Hayashi, C. & Scheuch, E.K., *Quantitative social research*, pp.182–206. Oplanden: Reske+Budrich.

Yoshino, R. (1997). Introduction to an institute of public opinion survey-the Institute of Statistical Mathematics. *The Journal of JAPOR, YORON*, **79**, 82–90.

Yoshino, R. (1998). A social quantum theory — for analysis the study of public opinion survey —. *Behaviormetrika*, **25**, 111–132.

Yoshino, R. (2000). *The Japanese American on the West coast survey.* ISM Research Report No.84. Tokyo: The Institute of Statistical Mathematics.

Yoshino, R. (2001). *Kokoro wo hakaru* [Measurement of Mind]. Tokyo: Asakura-shoten (in Japanese).

Yoshino, R. (2002). A time to trust — a study on peoples' sense of trust from a viewpoint of cross-national and longitudinal study on national character —. *Behaviormetrika*, **29**, 231–260.

Yoshino, R. (2005a). East Asia Values Survey — For the development of Behaviormetric study on the cultural manifold analysis (CULMAN) —. *Japanese Journal of Behaviormetrics*, **32**, 133–146 (in Japanese).

Yoshino, R. (2005b). A time to trust in the East Asia — A Behaviormetric study on the sense of trust in East Asia Values Survey —. *Japanese Journal of Behaviormetrics*, **32**, 147–160 (in Japanese).

Yoshino, R. (2006). A social value survey of China — on the change and stability in the Chinese globalization —. *Behaviormetrika*, **33**, 111–130.

Yoshino, R. (ed.) (2007). *Higasi-ajia kokuminsei hikaku — dehta no kagaku* [East Asia Value Survey — Science of Data —]. Tokyo: Bensei-syuppan (in Japanese).

Yoshino, R., Chino, N., & Yamagishi, K. (2007). Mathematical psychology. Ch.5 A Behaviormetirc study of civilization on Data Science. Tokyo: Baihuu-kan (in Japanese).

Yoshino, R., & Hayashi, C. (2002). An Overview of Cultural Link Analysis of National Character. *Behaviormetrika*, **29**, 125–142.

Yoshino, R. & Khor, D. (1995). Complementary scaling for cross-national analyses of national character. *Behaviormetrika*, **22**, 155–184.

Yoshino, R. Hayashi, C., & Suzuki, T. (1995). Kokuminnsei no kokusai-hikaku-chousa no tame no

situmon-bun no sakusei (Constrution of questionnaire for cross-national comparative social survey). *Japanese Journal of Behaviormetrics*, **22**, 62–79 (in Japanese).

Yoshino, R., Hayashi, F., & Yamaoka, K. (2009) [to appear]. *Kokusai hikaku deta no kaiseki* [Analysis of Cross-national survey data]. Tokyo: Asakura-shoten (in Japanese).

Yoshino, R., Zheng, Y., & Phark, S. (2003). Japanese language census of the East Asia. *Japanese Journal of Behaviormetrics*, **30**, 311–352 (in Japanese).

Zheng, Y., Yoshino, R., & Murakami, M. (2006). The sense of natural environments — a comparative study of Japan and China —. *Japanese Journal of Behaviormetrics*, **32**, 55–68 (in Japanese).

(Received March 31 2009, Revised July 29 2009)

Behaviormetrika
Vol.36, No.2, 2009, 115–147

RECONSTRUCTION OF TRUST ON A CULTURAL MANIFOLD: SENSE OF TRUST IN LONGITUDINAL AND CROSS-NATIONAL SURVEYS OF NATIONAL CHARACTER

Ryozo Yoshino*

The objective of this paper is to study the variability of peoples' basic social values as reflected in data from our past surveys on national character. Among other issues, I focus on trust systems in order to explore which aspects of sense of trust are stable and which aspects are variable under longitudinal changes in economic or political conditions. First, I explain peoples' general response tendencies based on our survey on national character, which is a key to the understanding of our survey data in the context of cross-national comparisons. Secondly, I summarize some aspects of people's sense of interpersonal trust from our longitudinal survey of Japanese national character. Thirdly, I present cross-national comparisons of interpersonal and institutional trust as well as some basic social values based on our past surveys, including surveys of seven-countries (Japan, USA and five European countries), the East Asia Values Survey (EAVS) (2002–2005) and the Asia-Pacific Values Survey (APVS) (2004–2008). The results show that East Asian countries have already departed from traditional Confucianism and that people share more common social values beyond the distinction of East and West. Fourthly, I present an overview of data on Japanese immigrants in Brazil, Hawaii and the U.S. West Coast in order to study the interaction between the environment and ethnicity. Fifthly, I provide some comments for our future research.

1. Reconstruction of Trust in the Transition Period

The objective of this paper is to study people's sense of trust as reflected in the data from our longitudinal and cross-national comparative surveys by the Institute of Statistical Mathematics on national character over the past half a century. The background and the significance of this study are as follows.

In the last two decades there has been a rapid transition from the established social system based on traditional industry to a system founded on highly advanced information technology. The transition after the end of the Cold War brought domestic and international confusion in various areas worldwide as well as in various domains of daily life. Each nation has its own culture, social values and way of thinking, and these underlie its economic system, politics and social life. Culture is a system that may unite the people within that culture, but it often excludes people outside of it. In this sense, culture is a system of distrust of outsiders, and, therefore, it can be the reason for conflict between different peoples. Thus, a mutual understanding of cultures in different countries and races is the key to the construction of a wider trust system for peaceful and prosperous development throughout the world in this time of globalization.

Key Words and Phrases: cross-national comparison, cultural manifold analysis (CULMAN), interpersonal relations, Japanese, longitudinal survey, national character, public opinion, social survey, social values, superculture model, trust

* The Institute of Statistical Mathematics, Midori-machi 10–3, Tachikawa-shi, Tokyo, 190–8562, Japan. E-mail: yoshino@ism.ac.jp

The global movement has also brought confusion into our daily life. As a result, we are facing the collapse of our sense of trust in traditional systems of education, ethics, family, law, marriage, work environment and so on. This does not necessarily mean, however, that each individual has totally lost his or her interpersonal trust. Nowadays, many people are engaged in activities of non-profit organizations (NGO) or non-governmental organizations (NPO) more extensively and more intensively than previously seen (Hayashi & Iriyama, 1997). It may be that people's sense of trust and energy are being directed toward the development of a new interpersonal system. Thus it is important to investigate how people's attitudes toward the traditional trust system will be changed in the near future.

Under these conditions, "trust" has been extensively studied during the past two decades, probably as a result of the confusion that came about in the transitional period in the aftermath of the end of the Cold War. It is now necessary to consider how we can develop international trust in order to prevent conflicts between different countries, races or religious groups.

This topic has become particularly popular since Fukuyama's (1995) influential book, "Trust." In his comparative economic theory, Fukuyama treated "trust" as a social capital and contrasted Japan, USA and Germany as highly trustful countries with China and Italy as less trustful countries. (See Yoshino [2006] for the study on trust in China.) Although he focused on aspects of trust as a property of national character, there are various possible definitions of "trust," all of which may be roughly classified into "trust in transactions" and "trust in normative philosophy," as summarized in Hosmer (1995). The study of trust in normative philosophy has a long history, at least since Aristotle in the West and Buddha and Confucius in the East, but it is rare these days. On the other hand, the study of trust in transactions has been the focus of many papers published during the recent years of globalization.

Zucker (1986) pointed out three ways for production of trust: 1) process-based trust tied to past exchanges; 2) characteristic-based trust tied to personal characteristics, such as family background and ethnicity; and 3) institutional-based trust tied to formal societal structures. Shapiro [1987] criticized the third category because he believes that trust cannot be institutionalized. Further, Zucker claimed that trust was not directly measurable. This may have influenced Fukuyama's methodology as he used various datasets concerning "distrust" such as the crime rate, divorce rate, and unemployment rate, rather than a direct measure of trust in public opinion surveys. My focus in this paper is mainly on the second of Zucker's three categories of trust, i.e., that based on personal characteristics, although the three categories are mutually dependent.

Banfield (1958) regarded "distrust" as the culture of the poor. This motivates us to investigate the relationships between people's sense of trust and their economic conditions. I deal with this issue in examining cross-national comparative data in later sections.

Miyamoto, Fugita and Kashima (2002) developed a theory of interpersonal relations derived from G.H. Mead's approach. In the theory, they presented a psychological framework balancing direct behavior and deep cognition to enable an understanding of the differences in character between Japanese and Americans. For example, they indicated

that the Japanese prefer to delay action and pay more attention to the perception of others, perception of themselves, and perception of the situation, whereas the Americans favor direct action and pay more attention to their own views. Their theory also can be used to study the acculturation of Japanese Americans (or Japanese immigrants in general) and transition of generations from Issei and Nisei to Sansei, etc. Or this theory may lead to an understanding of the interaction between racial origins and social environments, rather than acculturation (See next section for the analysis of general response tendencies of nations or races).

As for measurements of national character, Inkeles (1997) claimed that aspects directly related to economic or political conditions should not be regarded as part of "national character." However, it is reasonable to assume that people of different countries may respond differently to certain economic or political items on a questionnaire (i.e., "Are you satisfied with your living conditions?") even under the same economic and political conditions and that such differences in response patterns may be closely related to "national character." For example, Brazilians showed a high degree of life satisfaction and happiness even when their country was experiencing severe conditions regarding international debt in the late 1980s. On the other hand, the Japanese did not show a high degree of life satisfaction and happiness even when their economy was close to the top in the world. To understand this phenomenon, we need to identify general tendencies in people's manner of responding, and both objective and subjective means of measurement must be employed.

Among various efforts to relate trust with social issues in the last decade, public health may be one of the most productive fields in the study of social capital (voluntary activity or interpersonal trust) and social groups, as exemplified by Kawachi and his colleagues (1997). For example, they reported that a greater degree of social capital is closely linked to better health in medical research experiments and social surveys at the individual and state levels in the USA. These results have been confirmed in some other countries, but not in others. In Japan, no clear relationship had been confirmed until recently, probably because one difficulty is to identify what spatial unit (prefecture, city, village, etc.) should be adopted in attempts to relate health with social capital (sense of trust). Ichida and his colleagues (2005), however, performed intensive studies on this matter and finally showed a positive relationship between health and social capital in their survey of villages in Aichi prefecture.

Logistic regression analysis by Tsunoda, Yoshino & Yokoyama (2008) revealed certain relationships between two dependent variables on self-rated health and health dissatisfaction, and some independent variables such as religion, social capital, spirituality, superstitions, etc., as part of a national character study. For example, in males with negative attitudes on generalized trust, the number of self-reported symptoms was greater; in females, negative attitudes on norms of reciprocity were associated with a greater number of self-reported symptoms. Moreover, health dissatisfaction in females was enhanced by low perceptions of support. In both genders, self-reported symptoms and health dissatisfaction were greater in the presence of anxiety. A larger number of self-reported symptoms were associated with adherence to religion and spirituality in males. In females, the de-

gree of health dissatisfaction was greater in those with low income and concern about superstitions. Thus, from the viewpoint of social capital, perceived health is susceptible to personal relationships in females and to distrust in males. Among other factors, anxiety was found to be a key factor affecting perceived health. In addition, females were influenced by economic status and superstitions, whereas males were more concerned about religion or the mind in relation to health. The authors of that study suggested that these findings be used in developing public health policies in Japan.

In this paper, I consider certain aspects of "trust" reflected in responses to our nationwide surveys. I pay attention also to the survey data on variability of people's trust systems in order to explore which aspects of people's sense of trust are stable over many decades and which vary with changes in economic and political conditions. As mentioned previously, some researchers say that "trust" is not directly measurable. But I believe that people's responses in questionnaire surveys can reveal certain aspects of their sense of trust if time series patterns or cross-national patterns of those responses are adequately analyzed and general response tendencies of nations and personality types are adequately considered. (I never mean to imply that any scale on the sense of trust always works in the same way cross-nationally and longitudinally.) This study is based on the methodology called "CULMAN (cultural manifold analysis)" as explained in Yoshino (2005) and Yoshino, Nikaido and Fujita (in this issue).

In Section 2, I discuss general response tendencies as part of the national character. Section 3 summarizes some aspects of people's sense of trust identified in our longitudinal survey of Japanese national character. In Section 4, I present a cross-national comparative analysis of trust and some social values as determined through our past surveys. In Section 5, I consider the acculturation of Japanese immigrants in Brazil, Hawaii, and the U.S. West Coast. Finally, Section 6 includes comments on future research in these areas.

2. General Response Tendencies

As mentioned in the introductory paper of Yoshino, Fujita and Nikaido (this issue), there are problems in cross-national comparability with regard to differences in statistical sampling methods or language translation. For problems of statistical sampling and languages, the application of multidimensional scaling was suggested to secure cross-national comparability.

In this section, I address another problem in cross-national comparability, i.e., general response tendencies as evidenced from our longitudinal and cross-national survey research on national character.

Our past studies have already clarified some national differences in general response tendencies in our questionnaire surveys. For example, the French tend to give negative answers (Yoshino, 2001c), which may be closely related to their critical attitudes as an aspect of a mature democracy (Dogan, 2000). The Brazilians showed optimistic attitudes comparable to affluent Europeans even during the financial difficulties in the 1980s, as evidenced from surveys on their happiness and life satisfaction (Inkeles, 1997). On the other hand, the Japanese avoid polar categories and tend to choose middle response cate-

gories (designated as *middle-response category tendency* [MRC tendency] throughout this paper). For example, they did not show a high degree of life satisfaction even in the 1980s when the economy in Japan was close to the top worldwide. This was a surprise to the world (at least to the West), but it can be explained by their MRC tendency. Thus we need to keep in mind that response data from our questionnaire surveys are confounded by actual conditions and general response tendencies.

In this section, I compare degrees of the MRC tendency in data from our past surveys. This includes not only comparisons between countries, but comparisons between races in the same countries and comparisons between generations of Japanese immigrants. Although there may be several ways to measure the MRC tendency, I tentatively use the sum of percentages of polar responses to the following question (Q.18 in the APVS) that asks respondents to rate the degree of importance of seven domains of daily life using a 7-point scale.

Q.18 [SHOW CARD 12]

Using a scale of 1 to 7, where '7' is "very important," and '1' is "not important at all," can you tell me how important each of the following is to you?

	Not Important at all						Very Important
a. Your immediate family members such as spouse and children, if you have any	1	2	3	4	5	6	7
b. Career and job	1	2	3	4	5	6	7
c. Free time and relaxation	1	2	3	4	5	6	7
d. Friends and people you know	1	2	3	4	5	6	7
e. Parents, brothers, sisters, and other relatives	1	2	3	4	5	6	7
f. Religion	1	2	3	4	5	6	7
g. Politics	1	2	3	4	5	6	7

By definition, the sum of the polar responses "1" and "7" to all of the seven domains (a, b, c, $\cdots$, g) is called the *rate of polar responses (abbreviated as RPR hereafter).* I have analyzed the data with several possible statistical measures concerning the RPR or rate of middle category response. I decided to tentatively use this measure of RPR for the sake of simplicity, although the RPR may not be used to completely reveal the polar response tendency, which is separated from the actual intention to choose very positive or very negative categories.

Tables 1a, 1b and 1c show the RPR of all of our past surveys that included the same item as Q.18. These were the Seven Country Survey (1987–1993) (Japan A & B, USA, Italy, France, West Germany [before unification], the Netherlands, and the UK), the EAVS (2002–2005), the APVS (2004–2008), and the Japanese Immigrant Surveys in Hawaii (Honolulu residents) in 1988 and 1999, in Brazil in 1992, and on the U.S. West

Table 1a: Rate of Polar Responses of Q.18a-g.
(Figures show the sum of polar responses "1" and "7" to Q.18a-g).

The Seven Country Survey

year	1988
	Japan-A
RPR	317
year	1988
	Japan-B
RPR	317

1988	1987	1993	1987	1987	1992
USA	UK	NETHERLANDS	WEST GERMANY	FRANCE	ITALY
338	306	284	222	309	312

Table 1b: Rate of Polar Responses to Q.18a-g.

year	1999	Hawaii		
	Non-Japanese Americans	Japanese Americans		
RPR	311	318		
year	1988Hawaii	Japanese Americans		
	Non-Japanese American	Japanese Americans (total)	1st & 2nd Generations	3rd & 4th Generations
RPR	320	314	317	295

Japanese Immigrant Surveys

1991	JAPANESE BRAZILIANS		
total	1st Generation	2nd Generation	3rd Generation
457	514	463	413

1991	JAPANESE BRAZILIANS (Degrees of Japaneseness)			
total	Low	Middle Low	Middle High	Middle High
457	465	413	465	413

1988	West Coast of USA		
Japanese Americans (total)	2nd Generation	3rd Generation	4th& 5th Generations
319	380	327	300

Table 1c: Rate of Polar Responses of Q.18a-g.

East Asia Values Survey & Asia-Pacific Values Survey

year	2002	2002	2003	2002	2002	2003	2003	2004	2002
	Beijing	Shanghai	Kunming	Hangzhou	Hong Kong	Taiwan	South Korea	Singapore	Japan
RPR	340	287	372	343	258	280	407	359	312

year	2005	2005	2005	2006	2006	2007	2004	2007	2006	2008
	Beijing	Shanghai	Hong Kong	Taiwan	South Korea	Singapore	Japan A	Australia	USA	India
RPR	328	344	265	249	299	338	265	309	325	326

2006	Taiwan	
total	Native Taiwanese	Chinese mainlanders
249	249	254

2004	Singapore			
total	Chinese	Malay	Indian	Others
359	327	431	435	393
2007	Singapore			
total	Chinese	Malay	Indian	Others
338	317	425	382	388

Coast (King County in the state of Washington & Santa Clara in California) in 1999 (See Table 1, Yoshino, Nikaido & Fujita).

A summary of Tables 1 a-c is as follows.

1) The pattern of RPR in the Japan A and Japan B surveys in 1988 were the same (Table 1a), which may suggest the stability of RPR as a measure. The RPR pattern shown in the 2002 Japan survey as part of the EAVS was similar to those of Japan A and Japan B surveys. However, in the APVS (2004), the RPR value was lower by approximately 50. We must reconfirm whether the RPR is inevitably influenced to some extent by changes in opinion over time and whether the context of the questionnaire has an effect.

2) All throughout our past surveys, the Japanese Brazilians had the highest RPR, whereas the West Germans in 1988 (before unification of East and West Germany) had the lowest. (The questionnaire for Japanese Brazilians was in Brazilian Portuguese.) The South Koreans had the second highest value in 2003, but the value was more than 100 points lower in 2006. The reasons for this decrease are unclear, but it would be worthwhile to investigate whether this difference represents actual changes in people's opinions or if variability is intrinsic to the RPR.

3) As for the Japanese immigrants in Hawaii, Brazil, and the U.S. West Coast, RPR values were lowest in the younger generation. This is not consistent with the observation of Hayashi et al. (1996, p.389) that Japanese Americans in Hawaii and Brazil had attitudes leading to avoidance of polar responses and preferences for responses in middle categories. And, it is not consistent with the analysis of Kuroda & Suzuki (1991a, 1991b), which attributes response tendencies mainly to culture or language rather than to other types of social conditions.

The respondents of Japanese Brazilian survey were classified into 4 groups, according to their degrees of Japaneseness (Yamamoto & Hayashi [ed.], 1993, p.86). The RPR was not proportional to the degree of Japaneseness.

In the past decade I have developed a research collaboration with F.S. Miyamoto, T. Kashima and S. Fugita (see Fugita, Kashima & Miyamoto, 2002; Fugita & Fernandez, 2004; Kashima, 2002; Miyamoto, 1984), preeminent researchers on second generation Japanese Americans. As a result, I have become more sensitive to the fact that the early generation of Japanese immigrants had very difficult experiences with racial discrimination, among others, during World War II, so that they had to develop an attitude that allowed them to speak out to protect their rights and gain political power. If that is the case, the RPR should tend to be larger in a multiethnic country or social group, which may be confirmed by our data on the US, Singapore and India, as well as for Japanese immigrants (Table 1a, b & c). Further, I have reconfirmed that even the data of Hayashi et al. (1996, p.389) showed that Japanese immigrants in Hawaii had considerably less MRC tendency. Culture and language may be closely linked, as Kuroda and Suzuki explained (1991a, 1991b); however, it seems to me that the effect of the social situation in a multiethnic society has a much stronger influence even when the same public language such as English must be used because people's communication abilities are more restricted in a multiethnic society. Therefore, people need to speak out in order to avoid miscommunication.

4) Even in English speaking countries, there are differences among various ethnic groups, as it was shown that RPR is higher in countries where English is one of the public languages, such as in Singapore and India. This also supports my analyses on RPR.

5) In Taiwan, there was little difference in RPR between the native Taiwanese and the Chinese mainlanders (the Chinese crossed over to Taiwan during the political confusion after WWII). The minor difference in RPR may suggest that there is less political tension over domestic policies between these two groups than in the past. This may also suggest that it is important to consider the current condition between Taiwan and Mainland China and the possible future of their relationship with regard to the economy and politics[1)].

6) In Singapore, there are three large ethnic groups: Chinese (majority), Malay and Indians (minority groups). The Chinese had the lowest RPR whereas RPR values for Malay and Indians were much higher both in 2004 and 2007. (The values for RPR of Indians changed from 435 to 382, but the general pattern of RPR was consistent among the three ethnic groups as well as with the other minorities.) This observation also confirms that the RPR of minorities tends to be larger in a multiethnic society.

7) As for gender differences, RPR were higher in women than in men in general. Here I do not present the details, but this difference may be closely related to the issue of self-disclosure as shown in responses for self-reported medical symptoms (see Yamaoka in this issue, or Yoshino, Hayashi & Yamaoka, 2009 [in press]).

Considering group differences in previously mentioned point 3), we may hypothesize that a disadvantaged group such as a minority group in a multiethnic society tends to have higher RPR (with the possible exception of gender differences), probably because of the need to speak out in order to obtain power and to protect its rights. I will not go into detail on this issue here, but some relevant data will be presented in Section 5.

In addition to general response tendency, many other factors may be involved in the data. Therefore, there may be several other possible interpretations. However, it is certain that responses in our surveys always involve some general response tendencies, particular to some nations or races. Furthermore, such a general response tendency also characterizes people not only at a national level but at an individual level, as suggested by Yoshino's (2008b) study on the formation of and changes in public opinions. This suggests that each nation consists of different groups of personalities and that differences in distribution of personalities represent some aspects of differences in national character of countries. But it does not suggest that the character of individuals is totally different between countries. Thus, it is necessary to pay attention to whether we deal with individuals or with a total nation or group in our analysis.

---

1) The distinction between the two groups is on self-report, and the sample of valid returned questionnaires in our survey was biased to fewer mainlanders than would be expected by census data. There are at least two possibilities: our sample might have been truly biased; or the mainlanders might have hidden their identities for certain political reasons. Therefore, this analysis is tentative.

3. Interpersonal Trust and Some Social Values

The Institute of Statistical Mathematics (ISM) has been conducting a longitudinal nationwide social survey of the Japanese national character every five years since 1953, using mostly the same questionnaire items (Mizuno et al., 1992). The survey is called "Nihonjin no Kokuminsei Chosa (Japanese National Character Survey)". The definition of "national character" may be very problematic in a political or sociological sense. However, here it simply means characteristics of people's response patterns to the survey's questions (Hayashi, et al., 1998). This is similar to the idea of Inkeles (1997) that each nation or social group is characterized by statistical modes of response distributions in surveys, although our approach was developed independent of his work. The question items cover various aspects of people's opinions about their culture and daily life.

Since 1971, the survey conducted by ISM has been expanded to a cross-national comparative study for a more advanced understanding of the Japanese national character (Hayashi, 1973). (See Table 1 of Yoshino, Fugita & Nikaido in this issue for a partial list of our past surveys.) The main focus of our cross-national surveys is the statistical comparison of peoples' social values and ways of thinking and feeling (Hayashi, 2001a, 2001b; Hayashi et al., 1998; Yoshino, 1994, 2001c).

Our longitudinal survey of Japanese national character shows some stable aspects of attitudes and social values of the Japanese (Hayashi & Kuroda, 1997; Yoshino, 1994). The stability of interpersonal attitudes and religious attitudes may distinguish the Japanese from other people. For example, the Japanese have higher scores on the "Giri-Ninjyo scale" than in other countries. Although only one third of Japanese have religious faith, more than 60% of Japanese supported the opinion that religious attitudes (heart/mind) are important, as shown by Hayashi (in this issue) and Yamaoka (2000).

In the following, I briefly explain certain fundamental dimensions of the Japanese social values, and some results of the analysis of the sense of trust among Japanese along several dimensions.

3.1 Fundamental Dimensions of the Japanese Social Values

Hayashi (1993) has identified two important dimensions that underlie the Japanese national character: 1) the dimension of interpersonal relationships ("Giri-Ninjyo" attitude, or a sort of conflict between obligation and warm-heartedness that is particular to Japanese interpersonal relationships) and 2) the dimension of contrast between the modern and traditional in their way of thinking.

On one hand, Japanese interpersonal attitudes have been stable, at least over the last half century, and probably much longer. (Probably the basic aspects of interpersonal attitudes may be stable over the years. However, certain aspects sensitive to changes in economic or political conditions may vary in the short term in most countries.)

On the other hand, Japan has been striving since the Meiji Restoration in 1868 to overtake western science and technology and develop it into a Japanese adaptation. Probably this enduring effort underlies the dimension of the Japanese traditional vis-a-vis a modern

orientation in the Japanese way of thinking.

However, the Japanese way of thinking has been gradually changing. Our survey of 1978 identified a generation gap between people of 20–24 years old and those older than 25 years[2]. Since signs of generational changes appeared as early as 1978, the Japanese way of thinking had become more complicated than ever. Furthermore, the Japanese are presently in a transitional period from the established social system to a system of a highly advanced information age. This has brought confusion not only in the fields of science and technology but also in the fields of economics and politics. In this period of confusion, the majority of Japanese people have come to distrust traditional systems such as banking and bureaucracy as well as congressional representatives, police, etc. (Yoshino, 2002), in spite of the stereotype of Japan being a highly trustful nation (Fukuyama, 1995).

In people's attitudes, values, or ways of thinking, there are some aspects that may change according to economic and political changes as well as some relatively stable aspects. In the following, I go over several aspects relating to people's sense of trust as revealed in the longitudinal survey.

3.2 Sense of Interpersonal Trust of the Japanese

Psychological studies of measures of interpersonal trust have been developed in the past decades (Rosenberg, 1956; Rotter, 1971). Many of these studies may have some methodological limitations because they are based on too small samples or not on random samples. The significance of such studies, however, may have been justified by the statement of Rotter (1971) in the time of the Cold War. He noted: "It seems clear that disarmament will not proceed without an increase in trust on one or both sides of the iron curtain" (Rotter, 1971, p.443). The iron curtain was torn down two decades before the present time, but new local conflicts have been occurring incessantly all over the world. This necessitates the continued study of interpersonal and international trust. And the study of production of trust necessitates the measurement of trust.

Zucker (1986) questioned the direct measurement of trust. Fukuyama (1995) was probably influenced by Zucker's idea. Therefore he used several objective measures related to distrust such as the crime rate, divorce rate, or unemployment rate for the study of cross-national comparison of trust levels. Although it is questionable whether trust can be *directly* measured, it is certain that people's responses to survey questions may provide us with some information on their sense of trust, provided that items are appropriately chosen and response data are adequately analyzed.

Three items have been used to measure people's sense of trust by the Institute for Social Research at the University of Michigan in their survey on "Americans' Quality of Life" (NORC-ROPER, 1986), the now-called "General Social Survey (GSS)." Although the GSS started as a sort of American version of the Japanese National Character Survey,

[2] Note that the younger generation was born more than 10 years after the end of World War II. In 1956, the Economic White paper declared, "Japan is no longer in the post-war condition," and this symbolized the start of the high-speed development of industry and economy. On the other hand, Japan had to face pollution problems as a result of the high-speed industrialization around 1970.

beginning in 1978, we adopted the three items. They are stated as follows (See the ISM Research Report No.83, 1999, for the Japanese questionnaire.)[3)]

#2.12a) Would you say that most of the time, people try to be helpful, or that they are mostly just looking out for themselves?

1. Try to be helpful, 2. Look out for themselves,
3. Other (PLEASE SPECIFY), 4. Don't know.

#2.12b) Do you think that most people would try to take advantage of you if they got the chance, or would they try to be fair?

1. Take advantage, 2. Try to be fair,
3. Other (PLEASE SPECIFY), 4. Don't know.

#2.12c) Generally speaking, would you say that most people can be trusted or that you can't be too careful in dealing with people?

1. Can be trusted, 2. Can't be too careful,
3. Other (PLEASE SPECIFY), 4. Don't know.

Here I should discuss the dimensionality and wording of these items.

First, originally Almond & Verba (1963) used factor analysis to select several items among hundreds of items on trust in a survey of students, and the three items above survived to be included in the GSS or other related surveys. Thus, the three items were supposed to measure different dimensions of trust: #2.12a was related to a sort of trust of neighbors (or norm of reciprocity), #2.12c was related to generalized trust, and #2.12b may have addressed something in between these two items. Our data, however, have repeatedly demonstrated that #2.12b and #2.12c are highly correlated for the Japanese whereas #2.12a and #2.12b are highly correlated for Americans. Thus, two of the three items may have captured independent aspects but not necessarily all three. Therefore, I sometimes use the independent items #2.12a and #2.12c when we have to reduce the number of items in a questionnaire. (The independence of dimensionality of these two items always held in all of our past surveys, except in the 2008 India survey where #2.12a and #2.12c were correlated.)

Secondly, as for #2.12c, some people may doubt that the second response category "can't be too careful" means distrust, because this category is chosen more frequently than the first category "can be trusted" in many countries (Yoshino, 1995). NORC-ROPER (1986) reported comparative survey data with respect to the effect of the second category. In the survey two cases were compared: in Case 1 the same wording as #2.12c was used and in Case 2 the phrase "can't be trusted" was used. The second category was less frequently chosen in Case 2 than in Case 1; that is, more people answered "can

[3)] All through this paper, figures, such as #2.12, correspond to the common item code of the questionnaire of our surveys. Except in some cases, I leave the exact wording of items and the precise data on response rates to the ISM Research Report No.85 [Sakamoto et al., 2000]. As for our past surveys, our home pages are: http://www.ism.ac.jp/~yoshino/ and http://www.ism.ac.jp/ism_info_j/kokuminsei.html

be trusted." The same pattern of response change was found in surveys in Japan (See Sakamoto, et al., 2000, and Oosaka-syogyou University & Tokyo University, 1999). In summary, the wording of #2.12c uses a sort of advanced technique to induce people's true opinion ("honnne" in Japanese) rather than a disguised opinion biased to a social desirable answer ("tatemae" in Japanese).

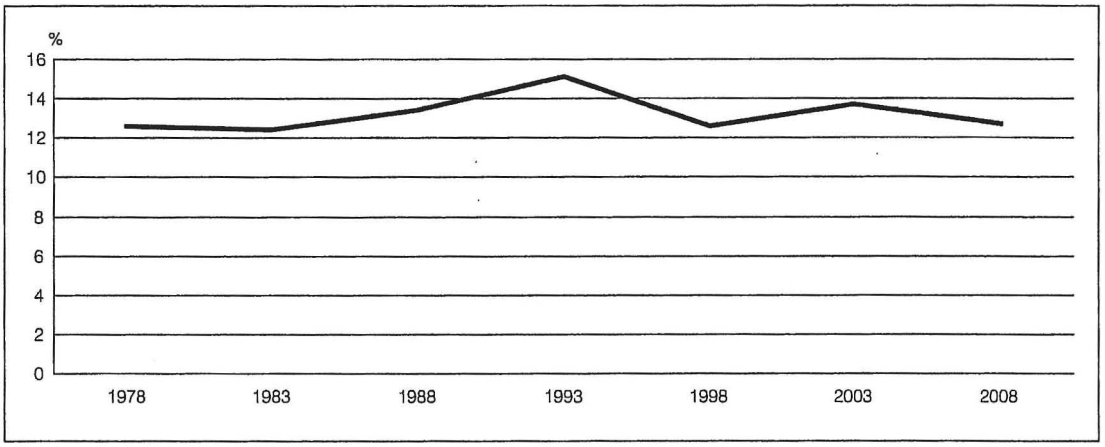


Figure 1: Interpersonal trust scale among Japanese based on three GSS items

The response distributions of the Japanese to the three items over the past three decades are shown in the home pages of our Japanese National Character Survey (http://www.ism.ac.jp/kokuminsei/data/html/index/index.htm). Fig. 1 shows the percentage of those who chose optimistic categories for all three items ("1" of #2.12a, "2" of #2.12b, & "1" of #2.12c). In this paper, I use the percentage of positive respondents, that is, the percentage of those who selected positive responses to all three items, as the trust scale. However, there may be other definitions of the trust scale based on distribution of responses to these three items.

Based on this scale, the Japanese people's sense of trust has been fairly stable during the last three decades. Fig. 2 of Yoshino [2005b, p.151] shows greater changes in trust in Americans than in Japanese during the past three decades. Closer analysis shows that younger generations generally have more positive attitudes on interpersonal trust (#2.12c) than older generations. In the 1998 survey, those 60–64 years old showed a remarkably low degree of trust, although when younger they had not shown such a low degree of sense of trust. They were children during WWII and experienced a drastic social change from the military regime to the postwar democracy. In addition, they had a hard time surviving in the time of famine during and immediately after the war. Furthermore, it is their generation who reconstructed the ruins of Japan into a highly advanced industrialized country. In 1998, most of people of this generation were retired from the lifelong employment system in Japan. Under the economic depression of the 1990s, the "lost decade," they could not get as high a pension as they had expected and many of those people had a hard time finding new jobs. The above-mentioned data may reflect their distrust towards the social systems that did not compensate them sufficiently for their lifelong hard work. It

is remarkable that people of this generation form a cohort in the sense that their opinions and values are different from the other generations in many cases. (See Mizuno, et al., 1992)

In analyzing the most recent survey taken in 2008, I found the following. As for the education level, there was no significant difference in responses to #2.12b. However, graduates of only primary school indicated a higher rate of trust in #2.12a, and a counter correlation was shown in #2.12c, i.e., the higher the education level, the lower the level of trust. As for gender differences, the rate of positive responses to #2.12b was higher in women than in men but there was no difference in responses to #2.12a and c in comparison with men. In the cross-tabulation of gender and age, more young women aged 25–29 years and senior women aged 70–79 years tended to choose "can't be too careful" in #2.12c than the other age groups. In addition, those aged 40–49 years had a slightly higher rate of negative answers to #2.12b than the other age groups. In the economic depression, senior women have occasionally become targets of crimes, so this may make them more sensitive in their attitudes regarding interpersonal relationships.

The Japanese sense of trust has been more stable with respect to economic changes than that of Americans. However, the economic structural reformation of the last decade seemed to have damaged the Japanese sense of trust to some extent. In the early 1990s, the educational system was changed significantly from a system that imposes hard work on students to a system that gives students more free time, called "yutori-kyoiku (relaxed education)," in spite of the fact that other countries were trying to imitate the hard-work education in order to catch up to the high economic level of Japan. The new system was expected to produce creative youth with diverse attitudes and social values, but it simply produced many individualistic persons lacking basic skills in various fields. In the early 1990s, economic conditions were still fairly good. Then, these young people enjoyed moving easily from one workplace to another, not within the system of traditional life-long employment, trying to find the best place for him/her, as if looking for a "blue bird." On the other hand, the system of employment has changed from life-long employment to the system where workers can easily be fired including those in public sector jobs. This has produced distrust between employers and employees: workers are afraid of losing their jobs, whereas employers are afraid of losing workers soon after they invest highly in their training.

Meanwhile the government has lost people's trust in the welfare system of national pension after retirement: Senior people have to rely on younger persons for future financial support. However, the population of younger generations has been decreasing, and they are less motivated to pay pension costs, considering the balance between their total payment and their return in the future. These situations necessarily lead to loss of trust between young and senior people.

Thus the difference in trust found in Japanese and USA samples may largely come from the difference between the employment systems: workers' salary may be reduced but workers may not be fired so easily in the life-long employment system of Japan. This reminds us of the Chinese proverb of Mengzi: "No stable mind without a stable job." All of those social reforms have been done under the guise of globalization. Without

consideration of the culture of each country, it simply leads to confusion.

Inaba (2002, p.72, Fig.1–12) showed the relationship between the crime rate and the sense of interpersonal trust (#2.12c) during 1983–2003. It was suggested that there was a certain causal relationship between the economy and trust in Japan: the economic change from prosperity to recession gradually led to an increase in crime and eventually to an increase in people's sense of distrust with a time lag of some five years.

Yoshino (2002) discussed several other aspects of trust such as trust in politics, science and technology as well as the work ethic of the Japanese. He concluded that some aspects of trust might be variable according to economic and political conditions whereas other aspects may be more stable over time. Generally, the Japanese show stability in interpersonal trust, whereas their attitudes toward work and the work ethic seem to have been influenced by economic and political conditions, although the Japanese used to have the stereotype of diligent worker (called the "economic animal"). As for the interpersonal trust measured by the three items on the GSS, the sense of trust of Americans was more variable than that of the Japanese, probably because of economic and political changes (Yoshino, 2005b, Fig.2).

This may remind us of Banfield's (1958) statement that distrust is a culture particular to the poor. This can be contrasted with Fukuyama's (1995) observation that certain people such as Japanese and Americans are more trustful than other people such as Chinese and Italians because the latter have had a long history of very strong political centralization and did not develop a trustful community beyond their families.

4. Cross-National Comparison of Interpersonal Trust & Institutional Trust

In this section, I present an overview of people's sense of trust as shown in our past cross-national surveys. These surveys included the three items on interpersonal trust from the GSS and the items on institutional trust from the World Values Survey (WVS) by Inglehart et al. (Dentsu-Soken & Yokakaihatsu Center [Ed.], 1999).

4.1 Comparative Survey of Seven Countries (1988–1993)

4.1.1 Sense of Interpersonal Trust

Table 2 shows the response distributions of the GSS trust scale for all countries (areas) that we have surveyed in the past three or four decades.

Miyake presented an analysis of this topic (Hayashi et al. [1998, ch.7 of Part II]) as a member of our seven country survey. This survey included Japan, USA, Britain, West Germany, and France during 1987–1988 and Italy and the Netherlands during 1992–1993. He concluded that the trust scale has low correlations with gender and religion, but stronger correlations with family income, academic background, and social class (higher scores for these attributes were associated with higher scores on the trust scale).

On this scale, West Germany, Britain, and USA were higher than Japan and the Nether-

Table 2: Trust Scale on GSS 3 items

The figures show the percentages of those who selected positive responses to all three items Q.36, 37 & 38.

Q.36 "People are always trying to be helpful to others."
Q.37 "People are trying to be fair."
Q.38 "People can be trusted"

Asia-Pacific Values Survey (APVS)

survey year	2005	2005	2005	2006	2006	2007	2008	2007	2006	2002
APVS	Beijing	Shang-hai	Hong Kong	Taiwan	South Korea	Singa-pore	India	Aust rala	USA	Japan
Q.36	67	65	41	46	57	50	61	54	56	36
Q.37	51	53	42	61	45	51	29	59	56	55
Q.38	37	34	19	19	30	26	52	43	41	41

7 Country Survey

1988	1987	1987	1987	1992	1993	1988	1988
USA	FRA	UK	FRG	ITA	HOL	JPN-A	JPN-B
54	19	53	43	21	32	31	29
56	36	58	55	30	48	53	56
42	23	36	38	14	48	39	34

East Asia Values Survey (EAVS)

survey year	2002	2002	2003	2002	2002	2003	2003	2004	2004
APVS	Beijing	Shang-hai	Kunm ing	Hang-zhou	Hong Kong	Taiwan	South Korea	Singa-pore	Japan A
Q.36	62	59	48	61	36	38	58	51	35
Q.37	53	65	41	55	46	58	45	52	59
Q..38	36	33	32	39	19	14	28	33	37

Japan Surveys

survey year	1988	1988	1993	1998	2002	2003	2004	2004	2008
APVS	JPN-A	JPN-B	JPN-KS9	JPN-KS10	Japan	JPN-KS11	Japan A	Japan B	JPN-KS12
Q.36	31	29	29	30	36	34	35	37	36
Q.37	53	56	65	61	55	62	59		62
Q.38	39	34	38	33	41	33	37	39	30

Japanese Immigrants Surveys

1988	1988	1999	1999	1998	1991
Hawaii JA	Hawaii Non-J	Hawaii JA	Hawaii Non-J	JAWCS	BRZ JB
58	66	68	65	66	41
68	66				
60	46	56	59	61	6

lands, but the difference was small. The French and Italians were clearly lower than those in other nations. In addition, Miyake found that those who have religious faith gave more positive responses to item #2.12a "most of time, people are trying to be helpful for others," irrespective of their religious affiliation.

Interestingly, Miyake found a gender difference in responses to item #2.12b "most people would try to take advantage of you if they got the chance." Specifically, women gave more optimistic answers than men, i.e., "they would try to be fair." As for item #2.12c "most people can be trusted," there was a clear difference between the social classes in all seven countries: the higher the social class, the more trustful. The difference between classes was remarkably large in France and the USA. Miyake observed also that a higher level of education was associated with greater trust, and he suspected that the association was due to the correlation between education and social class. (Although there was a relatively strong correlation between education and social class or between education and income in the USA, this is not necessarily the case for all other countries.)

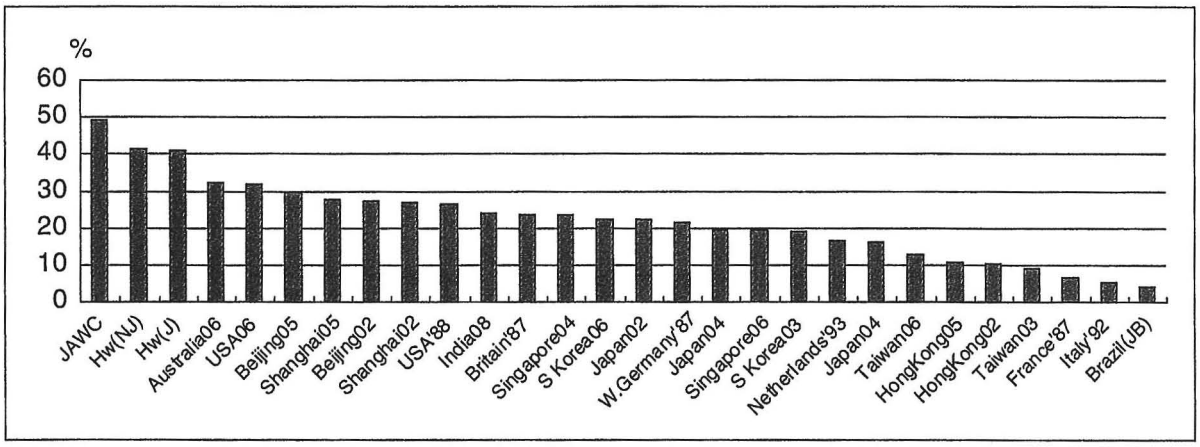


Figure 2: Cross-National Comparisons from All of the Our Past Surveys: Rates of Positive Responses to two GSS Items (#2.12a & #2.12c)

Fig. 2 shows the percentage in each country of those who gave positive answers to *both* #2.12a and #2.12c in the three items of trust. (I used those two items because #2.12b was missing in some of our past surveys. But I have confirmed that the general pattern on that figure was almost the same as on the figure that was made using all three items for the countries or areas where all three items were asked, except India.)

Temporal stability may be confirmed by comparisons of two or three surveys in the same countries (areas). That is, a comparison of the surveys in Japan in 1988, 2002 and 2004 or those in Beijing and Shanghai in 2002 and 2005.

The percentages of positive responses in the USA and Britain were high, whereas those in Italy and France were low. In a sense, this result may be consistent with Fukuyama's claim about trust and national character. However, the reality seems more complicated because the percentages of positive responses in surveys from Mainland China (Beijing & Shanghai) were higher than might have been expected. As for the data for China, there

may be several possible explanations. First, at face value the data indicate that the Chinese might have a higher sense of interpersonal trust. Secondly, the Chinese might have tried to show a higher sense of interpersonal trust because they are now sensitive to their international reputation such as that observed by Fukuyama. Thirdly, the questionnaire items are constructed as a trust scale for Americans, so the items used may be unsuitable for the measurement of trust in other nations. Fourthly, we must be careful about the semantics of the trust scale. For example, Dogan (2000, p.258) states "··· Erosion of confidence is first of all a sign of political maturity. It is not so much that democracy has deteriorated, but rather the critical spirit of most citizens has improved. ···" This suggests that we must always be sensitive to the distinction between the face value of a scale and its semantics. In this context, trust and distrust may not be opposite in a uni-dimensional scale but, rather, they may be closely related in one's mind.

On the other hand, the translation of these items may be a problem in cross-national comparisons, particularly #2.12c. The Japanese wording of the response category "2. Can't be too careful" may be associated with a moral value such as self-discipline. This may explain the lower than expected percentage of Japanese who chose "2". (See Section 3.2)

4.1.2 Institutional Trust: trust of social institutions and systems

The questionnaire for the APVS 2004–2008 included the same item on organizational trust as used in the World Values Survey [WVS], with an additional item of trust in science and technology. The items are as follows.

Q.50 How much confidence do you have in the following? Are you very confident, somewhat confident, not confident or not confident at all? [SHOW CARD 31]

	Very Confident	Somewhat Confident	Not Confident	Not Confident At All
a. Religious organizations	1	2	3	4
b. The law and the legal system	1	2	3	4
c. The press and television	1	2	3	4
d. The police	1	2	3	4
e. National governmental bureaucracy	1	2	3	4
f. National Assembly (Congress)	1	2	3	4
g. NPO/NGO (Non-Profit and Non-Governmental Organization)	1	2	3	4
h. Social welfare facilities	1	2	3	4
i. The United Nations	1	2	3	4
j. Science and technology	1	2	3	4

Table 3 shows the sum of percentages of positive responses, that is, "1. Very confident" and "2. Somewhat confident," for each of the above items. Yoshino's (2005) analysis of

Table 3: Items on Institutional Trust from World Values Survey
Figures show percentages of sum of positive categories "1. very much confident" and "2. confident some what."

APVS

APVS	Item	2005 Beijing	2005 Shang-hai	2005 Hong Kong	2006 Taiwan	2006 USA	2006 South Korea	2007 Singa-pore	2007 Aust ralia	2008 India	2004 Japan A
Q.50a	Religious organization	24	32	60	66	69	46	84	48	90	15
Q.50b	The law and the legal system	84	86	87	63	79	57	96	72	90	79
Q.50c	The press and television	61	66	46	32	44	59	81	32	82	74
Q.50d	The police	72	77	78	57	80	50	95	83	64	69
Q.50e	National government bureaucracy	81	85	63	42	45	29	92	46	58	41
Q.50f	Congress / diet	82	86	61	25	51	11	90	51	64	32
Q.50g	NPO / NGO	40	46	64	40	65	31	70	74	69	45
Q.50h	Social welfare facilities	73	74	81	56	62	59	78	74	83	70
Q.50i	The United Nations	59	59	65	46	55	58	74	59	75	56
Q50j	Science and technology *1	96	94	88	73	87	75	93	88	93	76

EAVS

2002 Japan	2002 Beijing	2002 Shang-hai	2003 Kunm ing	2002 Hang-zhou	2002 Hong Kong	2003 Taiwan	2003 South Korea	2004 Singa-pore
12	20	29	24	24	59	64	49	82
74	82	92	78	80	86	65	59	93
74	57	71	55	60	41	37	60	82
64	71	74	64	73	75	50	49	93
41	84	88	71	81	56	42	30	89
34	85	87	72	82	55	30	14	86
55	36	53	39	48	59	38	41	76
68	70	80	61	69	77	52	62	84
62	59	62	45	56	63	50	50	71
73	97	97	95	90	84	76	78	87

*1 Q.50j was added to the original 9 items on the WVS.

the same items in the EAVS was consistent with the present analysis for countries (areas) studied in both surveys.

In his cross-national analysis of institutional trust, Yoshino (2005) transformed those response data into standardized scores country by country to minimize the effects of general response tendencies particular to individual countries. Here I use a much easier way to reduce general response tendencies in countries. First, I re-categorize the original response categories to sum up the percentage of responses to positive categories ("1" & "2"). Secondly, I compare the percentages of positive responses item by item in each country. This yields a rank order of items in each country. Thirdly, I compare the rank orders of all countries (areas) involved. This procedure results in loss of some information from the original data, but provides more cross-national comparability. This is a trade-off that we have to make in order to secure cross-national comparability beyond a simple comparison of face values of the original data.

Table 3 includes data from both the APVS (2004–2008) and EAVS (2002–2005). I found consistent patterns in the countries (areas) participating in both surveys. For example, the item-by-item differences in percentages between the Japanese surveys in 2002 (EAVS) and 2004 (APVS) were within the margin of sampling error. The maximum difference was for NPO/NGO, i.e., 10%. Roughly the stability of data was confirmed. (I am not sure that in reality the decrease of 10% during the two years is significant at this point in the research. But it may be a result of the fact that activities of NPO/NGO have been increasing whereas some people disguised their groups as NPO/NGO to manage illegal businesses, which was one of the reasons that the Japanese laws on registered organizations are under substantial revisions.)

Except for India, Hong Kong, Taiwan, USA and Singapore, in all of the countries (areas) there was a low degree of confidence in religious organizations. Even in these five countries (areas), the relative degrees of confidence were not very high when compared with all of the other items for each country, except for India. Japan and Mainland China indicated remarkably negative attitudes towards religious organizations (The percent of positive responses among Japanese was lower than among Chinese.). Of the 10 items on Q.50, the percent of positive responses was lowest for religious organization among Chinese. It is known that most Japanese respect religions or the "religious heart/mind" even when they do not have a religious faith (see Hayashi in this issue), but they may be cautious about "religious organizations" because some religious groups such as the Ahm Shinri-Kyo (Aum religious cult) have caused serious problems. In China, the government has been very sensitive toward religious groups because in the long history of China occasionally religious groups have overthrown governments. In some countries, some religious groups might be considered closely linked to terrorism.

The percentages of responses that show confidence in authority such as the "police," "government" and "congress" may represent various patterns of attitudes, probably those concerning democracy. In this sense, a negative attitude does not necessarily mean negation of such authority and it may express a mature democracy as Dogan (2002) suggested. However, the percentage of negative responses may not be proportional to the degree of political maturity.

Singapore respondents indicated very high confidence in most of the items, but lower confidence in the UN. This response pattern might be related to a negative attitude towards global politics mainly led by Western nations.

As for the item on trust in science and technology, all the countries (areas) showed high confidence. Hayashi (1993) and Zheng & Yoshino (2001) have already presented cross-national analyses of data on science and technology from our seven-country survey. Hayashi concluded that the Japanese generally had positive attitudes toward science. However, they were negative regarding scientific approaches towards the understanding of the human heart and mind ("kokoro" in Japanese), solving social and economic problems, and the possibility of living in space stations in the near future (at the time of the survey in the 1980s). The response pattern of West Germans in 1987 was similar to that of Japanese in the sense that they were also more negative about science and technology than those in other Western countries. However, they were not as negative toward the contributions of science and technology to social problems as well as psychological problems of individuals as were the Japanese. These responses might remind us that the theories of Hegel and Marx and the scientific psychological theories of Freud originated in Germany and Austria.

As for data from the APVS, all of the countries (areas) were highly positive toward science and technology, with rates of positivity for that item highest among all items. In particular, the rates for Mainland China were remarkably close to 100% in both the APVS and EAVS. There may be several possible explanations for this. On one hand, the high rates may represent the fact that in the past decade China has been emphasizing the scientific reformation of governmental sections, military systems, and social systems as a priority in their social planning. On the other hand, until recently they have not paid much attention to the negative impact of science and technology that advanced industrial countries have experienced in the past. This is probably because they placed priority on economic development in the past two decades or so. This may explain the overly positive attitudes. After the Beijing Olympics in 2008 or even slightly before it, the Chinese government started paying some attention to the negative side of rapid economic and industrial development and began planning to improve environmental conditions, including air and water pollution, as well as giving attention to political issues such as the social gaps between urban and rural areas.

As a final comment in this section, it should be noted that Sasaki and Suzuki (2000, Ch.11) concluded in their study on trust in science and technology that "a single scale is not adequate to measure people's sense of trust in science and technology because people's attitudes differ from one issue to another within the fields of science and technology." Probably this is applicable to our study on people's sense of trust in general.

4.1.3 Basic Social Values

In this section, I show some data concerning people's basic social values: attitudes towards Confucian teachings, evaluations of degree of importance of various areas of daily life, and choices of Oriental versus Western values.

First, Table 4 shows the response distributions with regard to Confucian teachings of

Table 4: Confucian Teachings of the Asia-Pacific Values Survey (2004–08) & the East Asia Values Survey (2002–05)
Figures show percentages of sum of positive categories "1. strongly agree" & "2. agree to some extent". (Note: In USA 2006 & Singapore 2007 surveys, the word "follow" was used in Q.9c and Q.9e by mistranslation.)

Survey Year	2005	2005
Item	Beijing	Shanghai
Q.9a We should respect our ancestors	96	97
Q.9b The eldest son should look after his aging parents	70	61
Q.9c A wife should obey (follow) her husband	21	20
Q.9d Not to marry someone whom your parents object to	7	12
Q.9e We should obey (follow) older people	43	50
Q.9f It is important to have a son to keep the family line going	21	25
Q.9g Men should work outside and woman should tend to housekeeping	21	20

2005	2006	2006	2007	2004	2007	2006	2008
Hong Kong	Taiwan	South Korea	Singapore	Japan A	Australia	USA	India
99	98	84	96	91	96	96	100
76	66	45	55	32	44	45	77
41	45	60	60	36	29	52	82
7	11	44	28	27	18	37	76
54	66	72	51	54	44	56	96
34	39	34	43	30	35	45	74
29	40	26	28	26	15	17	56

2002	2002	2003	2002	2002	2003	2003	2004	2002
Beijing	Shanghai	Kunming	Hang-zhou	Hong Kong	Taiwan	South Korea	Singapore	Japan
96	97	93	94	97	100	88	96	92
50	51	51	59	64	67	45	41	31
12	11	15	14	40	55	64	65	32
3	6	5	6	7	18	32	25	22
37	40	30	32	49	68	62	46	43
15	11	15	17	30	53	41	42	28
12	14	16	12	25	46	35	29	23

2006 Taiwan	
Native Taiwanese	Chinese mainlander
98	96
65	70
44	50
12	9
67	48
40	35
40	37

2004 Singapore			
Chinese	Malay	Indian	Others
96	94	98	96
38	54	51	44
61	83	72	63
18	44	49	37
40	65	70	70
40	55	46	48
27	39	24	33

2007 Singapore			
Chinese	Malay	Indian	Others
96	94	96	94
51	66	80	63
56	81	68	66
24	40	40	28
45	69	69	63
41	51	41	47
27	31	26	28

the APVS. The question asked is as follows.

Q.9. "How do you feel about each of the following traditional values?" (The response categories are "strongly agree," "agree to some extent," "disagree to some extent," and "disagree strongly.")

a. We should respect our ancestors.
b. The eldest son should look after his aging parents.
c. A wife should obey (follow) her husband.
d. Not to marry someone whom your parents object to.
e. We should obey (follow) older people.
f. It is important to have a son to keep the family line going.
g. Men should work outside the home and woman should tend to housekeeping.

The results were consistent for the countries (areas) surveyed in both APVS and EAVS (Yoshino, 2005b). One may notice that the percentages of positive choices in the USA are larger than those of the Asian countries for some items. It could not be that Americans are more influenced by Confucian teachings than people in Asian countries, so we may confirm that the Asian countries have already departed from the literal teachings of Confucian philosophy, as mentioned in Yoshino (2005b)[4].

More detailed analyses, however, show that there are national differences between, for example, China, Korea and Japan, as well as gender and age differences (see Zheng, 2005, for the analysis of the EAVS.). The Confucian philosophy originated in China around the fifth or sixth century B.C., but it has had a greater influence in Korea than in China since the end of 14th century A.D. It had a limited influence on the dominant class in Japan only in the Edo era ("samurai era" of 17–19 centuries). These historical differences may have led to national differences in response distributions of those items. On the other hand, under the present conditions people cannot follow the Confucian teaching literally. For example, one of the most significant issues is that the number of children is decreasing in almost all countries in East Asia. This will be a serious problem in the near future for the maintenance of social systems concerning health care and financial support. This naturally makes it difficult for elderly parents to be completely taken care of by their children, not to mention "by the eldest son."

In addition, it may be worthwhile to note that the unexpected combination of Confucian teachings and advanced medical technology has caused an ethics crisis in South Korea and Taiwan. As seen in the sentences of "b" and "f" of Q.9, there has been strong social pressure on women to bear a son under Confucian teaching, so wives had a hard time when they did not bear a son. In some cases, they adopted a boy from their relatives. Modern medicine has made it possible to bear a child by a "surrogate mother." As a result, in several cases rich Korean parents did not honor their responsibility to take care

[4] A mistranslation was introduced by the survey company in the USA: "obey" should have been used in "c" and "e" where "follow" was used. But this mistake itself may show a lack of understanding concerning Confucian teachings in the USA. The mistranslation was left in the USA 2006 survey and Singapore 2007, but was corrected in the surveys of Australia 2007 and India 2008.

of the baby when they found that surrogate mothers (occasionally poor Chinese women) were to give birth to female babies. Another problem may be an unbalanced ratio of males and females in South Korea. This may be another piece of evidence against the "utility" of modern medicine without new ethics that are suitable to the time of modern science.

(Incidentally, adoption of children is different between Japan, China and Korea: the Japanese may adopt a child even if there is no blood relationship between the child and the parents, whereas the Chinese and Koreans adopt a child from among their relatives whenever possible.)

Next I show the response distributions of importance of various areas in daily life, which was used in the study of RPR in Section 2. Table 5 shows for each item and each country (area) the sum of percentages of positive categories 5, 6, and 7.

In all the countries (areas) we have surveyed, the degree of importance of "immediate family" was the highest among various aspects of daily life. The degree of importance of "relatives" was the second highest, but it may show variations compared to those of "immediate family": the percentages of positive categories for relatives were closer to those of "immediate family" for Asian people as well as Japanese immigrants than for Western people (except Italians). These findings may be closely linked to national character. Thus we confirmed that all people think that the family and relatives are important among other aspects of daily life, disregarding differences between the East and the West.

As to the third highest choice, the percentages selecting "career," "friends" and "free time" varied among countries. This seems related to economic conditions more than national character, so the percentages may vary more over time.

The seven country survey, EAVS, and APVS included the following item which asks respondents to choose two response categories from the four presented: two Oriental principles and two Western principles.

Q.33 [SHOW CARD 22] If you were asked to choose the two most important items listed on the card, which two would you choose? (Select two)

	Selected	Not Selected
a. Filial piety/ Love and respect for parents	1	2
b. Repaying people who have helped you in the past	1	2
c. Respect for the rights of the individual	1	2
d. Respect for the freedom of the individual	1	2

Six possible pairs can be selected among the four items. Table 6 shows the percentages of the selection of each of the possible pairs in the seven country survey and APVS[5]. Some countries, such as Japan and the USA, were surveyed in both the seven country survey and the APVS. The patterns selected in Japan are fairly consistent while those of the USA differ slightly. (The 1988 Japan survey and the 2004 Japan survey used the same sampling methods and field work company. For the 1988 USA survey and the 2006 USA

[5] The patterns for EAVS and APVS are almost the same for the countries (areas) surveyed in both EAVS and APVS. See Yoshino [2005b] for further information.

Table 5: Degrees of Importance of Aspects of Daily Life
Figures show the sum of percentages of positive categories 5, 6 & 7 in the 7-point scale.

APVS*	2004	2005	2005			2005	2006	2006	2007	2008	2007	2006
	Japan A	Beijing	Shanghai			Hong Kong	Taiwan	South Korea	Singapore	India	Australia	USA
Q.18a Family	93	93	92			92	97	97	96	96	92	91
Q.18b Career	72	77	85			80	89	96	86	93	66	77
Q.18c Free time	70	59	69			73	85	94	87	68	80	82
Q.18d Friends	81	67	80			74	80	91	86	82	83	88
Q.18e Relatives	89	89	89			90	95	96	97	93	89	93
Q.18f Religion	21	14	28			31	38	47	69	81	36	68
Q.18g Politics	49	43	51			23	19	43	39	37	29	35

EAVS**	2002	2002	2002	2003	2002	2002	2003	2003	2004
	Japan	Beijing	Shanghai	Kinming	Hangzhou	Hong Kong	Taiwan	South Korea	Singapore
Q.18a Family	94	95	98	93	95	94	97	97	95
Q.18b Career	78	87	91	84	90	81	88	95	81
Q.18c Free time	77	68	74	70	78	74	84	93	88
Q.18d Friends	85	76	82	77	84	76	76	93	88
Q.18e Relatives	92	91	94	91	94	92	94	97	97
Q.18f Religion	24	11	18	17	24	28	43	49	72
Q.18g Politics	48	41	44	46	45	20	22	45	37

Japanese Americans

1999	Hawaii	1988	Hawaii
Japanese Americans	Non-Japanese	Japanese Americans	Non-Japanese
99	94	95	94
66	77	73	80
80	80	78	75
91	83	87	80
97	88	94	85
58	55	61	58
34	31	39	39

7 Country Survey	1988	1988	1987	1987	1987	1992	1993
	Japan-A	Japan-B	FRA	UK	FRG	ITA	HOL
Q.18a Family	95	94	93	96	87	98	94
Q.18b Career	85	83	85	57	51	75	62
Q.18c Free time	76	78	73	66	83	70	83
Q.18d Friends	87	85	73	76	84	80	88
Q.18e Relatives	91	91	83	83	81	93	86
Q.18f Religion	38	37	35	36	38	64	33
Q.18g Politics	54	53	23	26	40	28	32

Japanese Brazilians

1988	1998	1991
USA	JAWCS	BRZ JB
98	93	94
65	74	95
74	83	63
83	92	87
90	96	96
76	47	74
46	26	49

*Asia-Pacific Values Survey
**East Asia Values Survey

survey, the fieldwork companies were different; the former used random-walk sampling and the latter used quota sampling based on age, gender and race.)

In all countries (areas) in Asia, the first choice was pair "a. Filial piety/Love and respect for parents" and "b. Repaying people who have helped you in the past." On the other hand, even in Western countries, the choice of pair "c. the rights of individuals" and "d. the right of freedom" was not a majority choice. Only in France and West Germany (in 1988, i.e., before the unification) was the rate of selection of that pair higher than in the other countries, but at most it was 30% or so.

For all countries, "a. Filial piety/ Love and respect for parents" was the first choice; this is consistent with the previous observation from data in Table 4. That is, the degrees of importance of immediate family and relatives were the highest and the second highest, respectively, in all countries (areas). Throughout human history, "family and relatives" has formed the core for survival, whereas political human rights, such as rights of individuals or the right of freedom appeared only recently, although no one would deny the importance of human rights. Probably family and relatives are universally valued in both East and West, whereas rights of individuals and the right of freedom originated in the "modern west." Thus, they may be differently viewed in the current political system of each country. This may mean that each country has its own way to develop democracy as well as economic prosperity; therefore, no country should impose its particular version on other countries but respect the others' ways.

Table 6: Rates of Selection of Two Items from a List of Four Items
A (filial piety), B (pay back to a benefactor), C (rights of individuals), & D (right of freedom)

APVS	USA'06	Japan'04	Beijing	Shanghai	Hong Kong	Taiwan	South Korea	Singapore	India	Australia
A&B	26	**48**	**55**	**58**	**44**	**53**	**51**	**45**	34	16
A&C	23	12	19	18	14	17	18	30	23	31
A&D	11	15	13	12	26	12	15	12	11	12
B&C	12	8	5	4	3	5	7	6	2	8
B&D	7	12	4	3	7	7	6	3	2	4
C&D	**22**	8	5	4	7	6	4	4	1	**25**

7 Country Survey	USA'88	Japan'88	Italy	France	W.Germany	Holland	UK
A&B	20	**47**	24	20	9	12	32
A&C	40	14	30	14	28	30	20
A&D	13	20	26	20	19	26	13
B&C	6	5	4	8	4	3	11
B&D	3	7	3	11	3	1	8
C&D	20	8	14	27	37	28	16

5. Sense of Trust among Japanese Immigrants and Multi-Ethnic Differences

First, I show more details of the survey data on Japanese immigrants in Hawaii (Yoshino [ed.], 2001b), Brazil (Yamamoto & Hayashi [ed.], 1993), and the U.S. West Coast (Yoshino [ed.], 2000, 2001a) to observe differences in regions or generations. Secondly, I study ethnic

differences (the Chinese, Malay and Indians) in Singapore in interpersonal trust. Thirdly, I compare native Taiwanese and Chinese mainlanders in Taiwan.

Some analyses of our past surveys have already clarified similarities and dissimilarities between Japanese living in Japan and Japanese immigrants abroad. First, the Japanese tendency to avoid polar response categories and to prefer intermediate response categories in a questionnaire survey (Hayashi & Kuroda, 1997) is not necessarily transmitted among Japanese immigrants in the same way (Hayashi et al., 1998, p.388). There are some variations in this tendency due to the social context of the host country. For example, immigrants need to make clear their intentions in order to communicate successfully in their host countries such as the USA (mainland). Otherwise they would be unable to get along with others as well as to protect their rights.

Secondly, we found that the Japanese style of interpersonal attitudes (Giri-Ninjyo attitudes) or religious attitudes was preserved in immigrant Issei and Nisei (first & second generations) in the USA. The third generation and younger generations seem to have become more adapted to the country where they were born and now live. These observations have been explained by Hayashi (1993), Yamaoka (2000, Fig. 4 & Table 3), and Yoshino (2000, p.197; 2001b, p.52; 2002).

Here I reexamine those observations on the sense of trust among Japanese immigrants in Brazil, Hawaii, and the U.S. West Coast with results from our recent survey and analyses.

Generally, Brazilian Japanese showed a much lower degree of sense of trust for each of the three items (#2.12a, #2.12b, #2.12c) than most respondents in the seven countries mentioned in Section 4.1.1 (see also Hayashi et al., 1993, p.435). Furthermore, an even lower degree of trust was found in the third or younger generation than in the first and second generations[6]. As a whole, the pattern of sense of trust in Brazil appeared close to that of France (1987 survey) and Italy (1992 survey). As for the immigrants in Hawaii and the West Coast, they showed higher degrees of a sense of trust than most respondents in the seven countries, including Japan and the USA. (Unfortunately, the survey of the U.S. West Coast Japanese immigrants did not include #2.12b.) For an understanding of the generations of Japanese immigrants in the USA, there is a frame of comparison, as Kitano (1993, ch.13) showed. Namely, the first generation (Issei) were called "Japs" and were discriminated against as immigrants from Japan. The second generation (Nisei) represents Japanese Americans who have been constantly in search of their own identity between the USA and Japan (many of them voluntarily fought in WWII as American soldiers while their parents were placed in concentration camps by the American government). The third generation or younger are simply Americans of Japanese descent.

Fig. 8 of Yoshino (2002) showed that there was no significant difference between the Japanese Americans and the non-Japanese Americans among Honolulu residents with regard to trust (#2.12a, b & c). (In Hawaii, no ethnic group is the majority and Japanese Americans comprise the largest group among the minorities, except Caucasians.) Furthermore, Fig. 9 of Yoshino (2002) provided details of the cross-ethnic comparison among Hawaii residents (several races with a small sample size, e.g., less than 20, were omitted).

---

[6] We should keep in mind that the economic condition of Brazil was bad in the year of survey.

We should be careful in our conclusion because the samples for each are too small.

Time series data sets are available for the Hawaii Resident Survey. Fig. 10 of Yoshino (2002) shows longitudinal changes among Japanese residents of Hawaii in terms of trust for each generation. There was no large difference between generations in over two decades, except for some differences between Nisei and Sansei in 1988. This may be explained by the many mixtures of ethnicities in Hawaii. Also, there was little change in the sense of interpersonal trust in each generation over these two decades. (It may be worthwhile noting that those with higher education have been increasing [Yoshino, 2002, p.67]. In most countries or regions that we surveyed, age and education level turned out to be negatively correlated, with younger residents having higher education levels.)

As for Japanese Americans on the West Coast, the survey questionnaire included only two items on trust (#2.12a & #2.12c). Data for the West Coast (Fig. 1 of Yoshino, 2002) showed a large difference between generations: the older generation seemed the more trustful. This was not seen in the Hawaii data. We should be very careful when interpreting the data, because there may be several compounding factors (such as age, generation, physical conditions, economic conditions, and residential area). However, there is a difference between Japanese Americans in Hawaii and Japanese Americans on the West Coast with regard to generational differences (compare Fig. 10 with Fig. 11 in Yoshino, 2002). This may be related to differences in their concepts of ethnicity. That is, Japanese Americans in the mainland would have no problem classifying themselves as Americans of Japanese descent. On the other hand, many Hawaiian residents are of highly mixed ethnicity in this multi-ethnic society, so that their perception of ethnicity is dependent upon *how they identify themselves* in the ethnic classification. In addition, the different conditions of Japanese Americans in Hawaii and on the West Coast during WWII may have had an effect on their attitudes and social values[7].

To conclude this section, let me summarize Yoshino's (2002) analysis of the relationships between trust and economic conditions. There are different perspectives on people's sense of trust, such as the historical perspective of Fukuyama (1995) or the economic perspective of Banfield (1958). Yoshino (2002) studied some relationships between people's sense of trust and their social class or income (both self-reported variables).

As for the relationship between trust and self-reported social class in the longitudinal survey of Japanese National Character, the result was consistent with Banfield's (1958) claim. More detailed analyses on the comparative data of seven countries showed some differences between countries. For example, West Germany was remarkably different from the others: the middle category (not necessarily "middle class") of social class was less trustful than the high and low categories. The pattern in the USA was opposite that of West Germany.

There were some differences among countries in the relationship between trust and self-reported income. For Britain and the USA, trust was almost linearly related to income categories: the higher the income, the more trustful. West Germany and Japan did not

[7] In Hawaii, there was no concentration camp, and Japanese American Nisei soldiers did not have as much emotional conflict with their Japanese parents. For more details, see Dowds, 1986; Kashima, 2003; Fugita & Fernandez, 2004; Miyamoto, 1984.

follow that pattern. Italy and France showed a much lower relationship of trust with social class and with income. Throughout all social classes, Italians consistently indicated the lowest degree of trust whereas in France social class was linearly related to trust. As to income, both Italy and France had a significant linear relationship with the degree of trust but the relationship was less pronounced than in the cases of Britain and the USA.

For reference, the correlation coefficients (Kendall's tau) between social classes and income (both 3-point ordered categories) were 0.47 in the Netherlands, 0.36 in USA, 0.34 in Britain, 0.30 in West Germany, 0.29 in Italy, 0.28 in France, and 0.24 in Japan. These patterns of correlation may represent some differences in social structure (or national character) between countries. For example, "income" or "education" may be more directly related to "social class" in the USA than in Japan, at least before the too rapid social reform of Japan in "the lost decade." Thus we need to consider social background and institutions for a better understanding of this matter.

6. Conclusions

In this paper I have presented people's sense of trust from social survey data. As a whole, this paper has shown some differences between countries, races, and generations regarding senses of interpersonal and institutional trust as well as other social values. We need to be cautious when we interpret the results because survey data on "trust" are often a compound of many variables including economic and political factors as well as people's general response tendencies. In addition, we should consider the items that are used for measuring trust. Scales may be used to measure some important dimensions related to trust, but there may be other important dimensions of trust. That is, "sense of trust" can be considered in various contexts, such as intra-personal or interpersonal relationships, inter-social groups, transactions, or moral philosophy. Nevertheless I believe that our survey data has clarified certain aspects of the differences among several countries or social groups in terms of trust and has also clarified certain aspects of the generational differences among Japanese immigrants abroad.

First, in order to facilitate a mutual understanding between East and West, we need to pay much attention to differences in social values. The study on the scale of trust (Yoshino, 2005b, 2006) may caution us on the applicability of a certain "single" scale invented in Western cultures to Eastern cultures, or vice versa. For example, it is not always the case in Asia that "distrust is a culture of poverty" as Banfield (1958) mentioned. A Chinese proverb says that "Fine manners need a full stomach" (or "The belly has no ears"), but another says "Be contented with honest poverty." Gallup (1977, p.461) reported that in their global survey they could not find very poor but still happy people. I think that they missed well-known observations. For example, Brazilians were very optimistic even when Brazil was the worst debtor nation in the 1980s (Inkeles, 1997). Inglehart reported a correlation of 0.57 between economic development and life satisfaction for some 20 countries surveyed in 1980s (Inkeles, 1997, pp.366–371). But life satisfaction in Japan in the 1980's was lower than around 2000, although Japan was prosperous in the 1980s but struggling with the recession around 2000. Thus, we need to measure various aspects of social values

in order to understand different cultures in the age of globalization.

Secondly, it is important to note that people's negative responses do not necessarily mean that they lack a sense of trust. As Dogan (2000, p.258) mentioned, there are several positive interpretations of people's sense of distrust. For example, people may express distrust or complaint toward the government or others, not because they lack intra-personal or interpersonal trust, but because they know that it is a way to improve their own country and eventually our world in a democratic way.

Thirdly, a comment is provided for the development of the framework of CULMAN (cultural manifold analysis). The last century was the time of expansion of western civilization. In this time of globalization, I think that world leaders should be knowledgeable about world geography and history and sensitive to the conditions of all countries and nations, if they wish to take seriously their responsibility to develop and maintain world peace. Differences between cultures or civilizations occasionally prevent us from deeply understanding each other. In studying world history as well as regional histories of different cultures and civilizations, however, we should remember that there are various ways of successful social development. Thus we should not impose our own social values on any other country or nation.

Some institutional systems or customs are changing, converging towards more universal ones under the influences of transnational exchange or trade. However, other systems are becoming more sensitive to cultural differences, as a reaction to globalization.

The last two decades have shown that, at least for the foreseeable future, globalization does not lead us to a single unified global culture or a single "superculture" on the earth (cf. Yoshino, 1992)[8]. As mentioned in the introductory paper in this issue, our survey team has been developing a methodology called "Cultural Manifold Analysis (CULMAN)" for cross-national comparisons. I think it is possible to use CULMAN to develop a framework of policy making to bring about a gradual development of, so-to-speak, a Global Cultural Manifold (GCM) (Yoshino, 2008a).

The GCM is a set of hierarchical overlapping local charts, and each chart covers a certain area (region, country, national groups, civilization, etc.). In each chart, we may assume that people share a certain culture or social values: A larger chart corresponds to a less restrictive but to a more universal culture or social values. Thus, according to the size of the chart (area, region or social group), people may be able to consider the degree of rigidity in decision-making or the extent of regulations concerning various types of exchanges (e.g., contracts in transnational business or international trade within the members in the region). The charts of GCM must be dynamic. Therefore, each chart may be enlarged, shrunken, or disappear over time. Also, a new chart may appear. The EU may exemplify the concept of GCM. I expect that East Asia and the Asia-Pacific area will be another example in the near future. However, many people doubt such unification because of their too complicated diversity of races, languages, religions as well as political systems.

Weber (1904–05) argued in his theory on religion and capitalism that Asian countries

8) For a detailed review of the literature on "globalization" and cultures, see Guillen, 2001, pp.252–254.

would not be able to develop capitalism. Now we know of so many counter-examples (such as Japan, Korea, NIES, and China) that go against his argument. Some people argued that the Japanese adaptation of Confucian philosophy functioned as a substitute for the Protestant ethic and led Japan to successfully develop capitalism (Morishima, 1984). But the past decades have seen many examples to show that economic success is not necessarily linked to a particular ethic, ideology, or religion. Now we have more data to consider the relationships between economic development, social systems and social values. For example, in this paper, I have shown that Asian countries have already departed from the literal teaching of Confucian philosophy. In this time of globalization, I would like to emphasize the fact that there are various ways for successful social development. Therefore, we should not impose one's own social value on any other country if we intend to develop a peaceful world.

Experiencing severe political tension in the world in the aftermath of New York on September 11, 2001, some people made use of the farfetched argument "that this is a war between civilizations or religions such as Christianity and Islam" to further for their political causes. And now, after the confusion of the last several years, we have finally come to discreetly see the reality. Mr. Barack Obama, newly elected president of the USA, seems a symbol of multi-perspective thinking for the new age. He was born and educated in Hawaii, a multi-ethnic society. Kuroda (2002) described Hawaii as "Rainbow model" in terms of harmony of various social values and ways of thinking.

It is my sincere hope that mutual understanding among the various cultures and civilizations will prevent unnecessary conflicts between nations and races and will lead us to a peaceful and prosperous world in the 21st century.

Acknowledgements

This study is supported by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science & Technology, Grant in Scientific Research A (2), No.14252013 (2002–2005 fiscal years) and A (2) No.18252001 (2006–2009 fiscal years). The author is very grateful to Emeritus Prof. Frank Shotaro Miyamoto, Prof. Tetsuden Kashima (University of Washington), Prof. Stephan S. Fugita (Santa Clara University), Emeritus Prof. Yasumasa Kuroda (University of Hawaii), the late Prof. Chikio Hayashi and my colleagues. We could not have carried out our surveys without them.

Also, he is grateful to Prof. Nicolaos Synodinos (University of Hawaii) for his valuable comments on my early draft of this paper.

References

Almond, G.A. & Verba, S. (1963). *Civic culture.* Boston: Little Brown.

Banfield, E.C. (1958). *The moral basis of a backward society.* NY: The Free Press.

Dowds, M. (1986). *Buriea no kaihou-sya-tati* [Liberation army of Briar]. Bunsyunn-bunko. Tokyo: Bungeisyunjyuu (in Japanese).

Dentsu-Soken & Yokakaihatsu Center (Eds.). (1999). *Kachi-kan chosa deita* [Data of world value survey] (in Japanese).

Dogan, M. (2000). Deficit of confidence within European democracies. In M. Haller (ed.), *The making of the European union* (pp.243–261). Paris: Springer-Verlag.

Fugita, S.S. & Fernandez, M. (2004). *Altered lives, enduring community: Japanese Americans remember their World War II incarceration* (Scott and Laurie Oki Series in Asian American Studies). Seattle: University of Washington Press.

Fugita, S.S., Kashima, & T. Miyamoto, F.S. (2002). Methodology of comparative studies of national character. *Behaviormetrika*, **29**, 143–148.

Fugita, S.S., Miyamoto, F.S. & Kashima, T. (2002). Interpersonal style and Japanese American organizational involvement. *Behaviormetrika*, **29**, 185–202.

Fukuyama, F. (1995). *Trust.* NY: Free Press.

Gallup, G.H. (1977). Human needs and satisfactions: a global survey. *Public Opinion Quarterly*, winter, pp.459–467.

Guillen, M.F. (2001). Globalization civilizing, destructive or feeble? A critique of five key debates in the social science literature. *Annual Review of Sociology*, **27**, 235–260.

Hayami, T. & Miyamoto, M. (1988). *Industrial Revolution.* Tokyo: Iwanami-syoten (in Japanese).

Hayashi, C. (Ed.) (1973). *A study of Japanese-Americans in Honolulu, Hawaii.* ISM Research Report General Series, No.33. Tokyo: ISM (in Japanese).

Hayashi, C. (1992). *Suuryou-ka* [Hayashi's quantification method]. Asakura-syoten (in Japanese).

Hayashi, C. (1993). *Nihon-jin no kokuminnsei* [Japanese national character]. Phase '93 (in Japanese).

Hayashi, C. (2001a). *Nihon-jin no kokuminsei kenkyu* [a study on the Japanese national character]. Tokyo: Nansou-sya (in Japanese).

Hayashi, C. (2001b). *De-ta no kagaku* [The Science of Data]. Tokyo: Asakura-syoten (in Japanese).

Hayashi, C. & Iriyama, A. (1997). *Koueki hojin no jitsuzo* [The Reality of NPO]. Tokyo: Daiamond-sha (in Japanese).

Hayashi, C. & Kuroda, Y. (1997). *Japanese culture in comparative perspective.* C T: Praeger.

Hayashi, C. & Yamamoto, K. (1993). *Research on national character of Japanese Brazilian — 1991&1992 —.* ISM Research Report General Series, No.74.

Hayashi, C., Yoshino, R., Suzuki, T., Hayashi, F., Kamano, S., Miyake, I., Murakami, M., & Sasaki, M. (1998). *Kokuminsei nanaka-koku hikaku* [cross-national comparison of seven nations]. Tokyo: Idemitsu-syoten (in Japanese).

Hosmer, L.T. (1995). Trust: the connecting link between organizational theory and philosophical theory. *Academy of Management Review*, **20**, 379–403.

Ichida, N., Yoshikawa, G., Kobayashi, S., Hirai, H., & Kondo, K. (2005). Social capital and health — A survey of the 32,000 senior people in the Chita peninsula (Aichi prefecture) —. http://www.nihonfukushi-u.jp/coe/report/pdf/20051027_2.pdf

Inaba, Y. (2002). *Japan and economy of trust.* Tokyo: Toyo-keizai-sinpou-sya (in Japanese).

Inkeles, A. (1997). *National character.* New Brunswick: Transaction Publishers.

Kashima, T. (2003). *Judgment without trial: Japanese American imprisonment during World War II* (The Scott and Laurie Oki Series in Asian American Studies). Seattle: University of Washington Press.

Kawachi, I., Kennedy, B.P., Lochner, K. & Prothrow-Smith, D. (1997). Social capital, income inequality, and mortality. *American Journal of Public Health*, **87**, 1491–1498.

Kitano, H.H.L. (1993). *Generations and identity: The Japanese American.* MA: Ginn Press.

Kuroda, Y. (2002). The rainbow model of American ethic groups. *Behaviormetrika*, **30**, 39–62.

Kuroda, Y. & Suzuki, T. (1991a). Arab student and English: The role of implicit cultures. *Behviormetrika*, **18**, 23–44.

Kuroda, Y. & Suzuki, T. (1991b). A comparative analysis of the Arab culture: Arabic, English and Japanese languages and values. *Behviormetrika*, **18**, 35–53.

Miyamoto, F.S. (1984). *Social Solidarity among the Japanese in Seattle.* Seattle: University of

Washington Press.
Miyamoto, F. (1986). Problems of interpersonal style among the Nisei. *Amerasia*, **13**, 59–45.
Miyamoto, F.S., Fugita, S.S., & Kashima, T. (2002). A theory of interpersonal relations for cross cultural studies. *Behaviormetrika*, **29**, 19–184.
Mizuno, K., Suzuki, T., Sakamoto, Y., Murakami, M., Nakamura, T., Yoshino, R., Hayashi, C., Nishihira, Y., & Hayashi, F. (1992). *Dai 5 nihon-jin no kokuminsei* [Japanese national character survey V]. Tokyo: Idemitsu-syoten (in Japanese).
Morishima, M. (1984). *Naze nihon ha seikou sitaka* [Why did Japan succeed]? Tokyo: TBS Britannica (in Japanese).
NORC-ROPER (1986). *General social surveys, 1972–1986: cumulative codebook.* The Roper Center for public opinion research, University of Conneticut.
Osaka Shogyo University & Tokyo University (1999). *The Japanese version of general social survey (JGSS).* The second preliminary survey, simple tabulation & codebook.
Rosenberg, M. (1956). Misanthropy and political ideology. *American sociological review*, **XXI**, 690–695.
Rotter, J.B. (1971). Generalized expectations for interpersonal trust. *American Psychologist*, **26**, 443–452.
Sakamoto, Y., Nakamura, T., Tsuchiya, T., Maeda, T., & Fouse, D.B. (Eds.) (2000). *A study of the Japanese national character: the tenth nationwide survey (1998).* ISM Research Report, General Series, No.85.
Shapiro, S. (1987). The social control of interpersonal trust. *American Journal of Sociology*, **93**, 623–658.
Sasaki, M. & Suzuki, T. (2000). *Social attitudes in Japan.* Boston: Brill.
Weber, M. (1904–05). *The Protestant ethics and the spirit of capitalism* [translated by T. Parsons]. Routledge Classics.
Yamamoto, K. & Hayashi, C. (ed.) (1993). *Research on national character of Japanese Brazilians 1991~1992.* ISM Research Report No.74.
Yamaoka, K. (2000). Variation in attitudes and values among Japanese Americans and Japanese Brazilians across generations. *Behaviormetrika*, **27**, 125–151.
Yoshino, R. (1992). Superculture as a frame of reference for cross-national comparison of national characters. *Behaviormetrika*, **19**, 23–41.
Yoshino, R. (1994). An overview of the longitudinal studies of national character by ISM (in Japanese). *Proceedings of the Institutional Statistical Mathematics*, **42**, 259–276.
Yoshino, R. (Ed.) (2000). *A study of statistical science on cultural transmission.* The ISM Research Report No.84. Tokyo: ISM.
Yoshino, R. (Ed.) (2001a). *A study of statistical science on cultural transmission based on social survey data of National Character.* A report submitted to The Ministry of Education, Culture, Sports, Science & Technology.
Yoshino, R. (Ed.) (2001b). *Hawaii Resident Survey 1999–2000.* The ISM Research Report, No.86. Tokyo: ISM.
Yoshino, R. (2001c). *Kokoro wo hakaru* [Measuring the mind]. Tokyo: Asakura-syoten.
Yoshino, R. (2002). A time to trust — a study on peoples' sense of trust from a viewpoint of cross-national and longitudinal study on national character —. *Behaviormetrika*, **29**, 231–260.
Yoshino, R. (2003). A time to trust. *Eco-Forum*, Vol.22, No.1, a special issue: Social capital part II, pp.42–51. Tokyo: Tokei-kenkyu-kai (in Japanese).
Yoshino, R. (2005a). East Asia Values Survey — For the development of Behaviormetric study of civilization on the Cultural Manifold Analysis (CULMAN) —. *Japanese Journal of Behaviormetrics*, **32**, 133–146 (in Japanese).
Yoshino, R. (2005b). A time to trust in the East Asia — A Behaviormetirc study on the sense of

trust in the East Asia Values Survey —. *Japanese Journal of Behaviormetrics*, **32**, 147–160.

Yoshino, R. (2006). A social value survey of China — on the change and stability in the Chinese globalization —. *Behaviormetrika*, **33**, 111–130.

Yoshino, R. (2008a). National character and environmental issues — For policy-making to accept cultural manifold —. *Environmental Information Science*, **37**, 21–26 (in Japanese).

Yoshino, R. (2008b). Obake-chosa saikou (Reconsideration on a spirit survey). *Shi-jyo chosa* (Marketing Research), 273, pp.4–13. Tokyo: Yoronn-kagaku-kyoukai (in Japanese).

Yoshino, R. [ed.] (2007). *The cross-national comparison of the East Asia — Science of data —*. Tokyo: Bensei-syuppan (in Japanese).

Tsunoda, H., Yoshino, R., & Yokoyama, K. (2008). Components of social capital and socio-psychological factors that worsen the perceived health of Japanese males and females. *Tohoku Journal of Experimental Medicine*, **216**, 173–185.

Zucker, L.G. (1986). Production of trust: institutional sources of economic structure. *Research in Organizational Behavior*, **8**, 53–111.

(Received March 31 2009, Revised July 29 2009)

Behaviormetrika
Vol.36, No.2, 2009, 149–166

SOCIAL VALUES ON INTERNATIONAL RELATIONSHIPS IN THE ASIA-PACIFIC REGION

Taisuke Fujita* and Ryozo Yoshino**

Few studies on international politics have examined people's values, especially through use of cross-national analysis, although a country's foreign policy may reflect the values held by the public. The present paper examines results of the Asia-Pacific Values Survey and analyzes Asia-Pacific people's attitudes and values regarding international politics. Our focus is on three sets of items regarding people's attitude toward Japan, confidence in the United Nations, and ideology. First, we analyze response data for those items separately. Then, by applying Hayashi's Quantification Method III, we show that countries/areas in the Asia-Pacific region may be classified into three clusters or cultural spheres. This result presents an illustration of cultural manifold analysis (CULMAN) of international politics.

1. Introduction

What values on international politics do people have in the Asia-Pacific region? The present paper analyzes Asia-Pacific people's attitudes and values regarding international politics by using data from our Asia-Pacific Values Survey (APVS).

This paper deals with some of the gaps left by the literature on international politics as follows. Firstly, many past studies of international politics have mainly focused on organizations such as the state, ministries and industry as the players. Even studies on individuals have mainly examined decision-makers such as presidents, prime ministers, and foreign ministers. Although the foreign policy of a country may reflect the values of the ordinary people of that country, these values have rarely been examined, especially in the Asia-Pacific region.

Secondly, in past studies on international politics that analyzed survey data, the main concern was with variations within countries rather than between countries (Inoguchi et al., 2008). In order to understand nations' foreign policies, however, we must investigate variations among countries as well as within countries.

Thirdly, most existing studies of people's values regarding international politics have used simple statistical methods such as regression analysis where only a single item is taken as a dependent variable. In order to understand complicated international relations, however, we may need to apply multi-dimensional pattern analysis whereby some important dimensions may be extracted to show a total picture of international relations.

The present paper analyzes Asia-Pacific nations' attitudes and values reflected in data

Key Words and Phrases: cross-national comparison, attitudes toward Japan, confidence in the United Nations, ideology, cultural manifold analysis (CULMAN)

* Department of Global Studies, Sophia University, Kioi-cho 7–1, Chiyoda-ku, Tokyo, JAPAN 102–8554, e-mail: fujita.t.f@gmail.com

** The Institute of Statistical Mathematics, Midori-machi 10–3, Tachikawa-shi, Tokyo, JAPAN 190–8562, e-mail: yoshino@ism.ac.jp

from our Asia-Pacific Values Survey (APVS) using cross tabulations and Hayashi's Quantification Method III (Hayashi, 1993). To confirm the robustness of our findings obtained by those data, we also examine data from our East Asia Values Survey (EAVS) and the Asian Barometer Survey (Inoguchi et al., 2006), whenever available.

The questionnaire used in the APVS included three sets of items on international politics. Those concerned the attitude toward Japan, confidence in an international organization (United Nations (UN)) and ideology. By analyzing response data for these items, we show that countries/areas in the Asia Pacific region may be classified into three clusters or cultural spheres.

In section 2, we give a short literature review on international politics. In section 3, we examine response data on the three sets of items on people's attitudes toward Japan, the UN, and ideology, one by one. In section 4, we apply multi-dimensional pattern analyses to the response data on the three sets of items in order to understand cross-national differences in international politics in the Asia Pacific countries/areas.

2. Literature Review

Previous studies on international politics have focused mostly on organizations such as the state, ministries and industry rather than on individuals. Waltz (1959, 1979) argued that in explaining international politics, especially causes of war, there are three levels of analysis: international system, state, and individual[1)]. Among the three levels, he emphasized the importance of the international system. Beginning around 1990, a growing number of studies have focused on the state level. The democratic peace theory, arguing that democratic countries do not go to war with each other, is one of the most prevailing arguments based on the state level (Russett 1993, Fearon 1994). On the other hand, although some studies have explored factors related to individuals, they have been concerned mainly with decision-makers such as presidents, prime ministers, and foreign ministers rather than with the public.

Thus, few studies on foreign policy have focused on the public, especially in cross-national analyses, although policies of a democratic country, even those on foreign policy, may be expected to reflect values held by the public. Nevertheless, few studies have been based on data from social surveys (public opinion polls) (e.g., Chang & Park [2007] and Inoguchi et al. [2008] for analyses of social survey data on domestic politics in the Asia-Pacific region). As an exception, one can name studies on trade policy using survey data such as the ISSP Survey and World Value Survey (e.g., Mayda & Rodrik 2005; Beaulieu 2002; Gabel 1998; Baker 2003; Hainmueller & Hiscox 2006). They, however, focus on attitudes toward trade policy, and most do not examine Asian nations.

In a study of people's values concerning international politics in the Asia-Pacific region, Johnson (2007) argued that the peoples' attitude toward an international organization,

1) Morgenthau (1978), in one of the most important classics in the literature on international politics, touches on the effect of national character on foreign policy in chapter 9. For instance, he describes German national character as representing collectivism, which led to dictatorship and facilitated the mobilization of national resources for war.

the World Bank, was closely linked with their attitude toward the U.S. In examining this relationship, she employed regression analysis to explore individual-level phenomena. Similarly, Inoguchi (2003) analyzed confidence in domestic and international organizations mainly at individual levels.

On the other hand, our main interest in analyzing peoples' values is on the nation level. This is because we think that understanding variations in foreign policy between countries requires analysis of variations in values between nations more than variations within nations.

3. Public Attitudes towards Japan, the UN and Ideology

In this section, we examine the public attitude toward Japan, the UN, and ideology in Asia-Pacific nations one by one.

3.1 Attitude toward Japan

There is a common stereotype that Chinese and South Koreans have negative attitudes toward Japan. In fact, in Japan, a number of books have been published with titles of "anti-Japan (han-nichi)". Also, this stereotype was strengthened by the occurrence of a skirmish between Chinese and Japanese spectators during an international soccer game held in China, for instance. We analyze this stereotype from viewpoints that are different from the usual.

The APVS includes two items regarding the attitude toward Japan, Q.2 and Q.3.

Q.2 Which one of the following countries or regions would you like to see develop the friendliest relationship for our own national interest?

With regard to a simple tabulation of responses to Q.2 and Q.3, see p.141 of Yoshino (2008). Since Q.2 uses the concept "national interest," respondents were supposed to give the answer that reflected their attitude toward foreign countries in terms of a diplomatic relationship, at least to some extent. From what country/area did respondents consider Japan as the most important diplomatic partner for their country? Table 1 shows dichotomization of responses into the categories "Japan" and "Others," meaning other countries or areas.

Table 1: Rates of Choice of Japan or Another Nations (Q.2 Development of Friendliest Relationship)

Survey Country and Area / Response Category	Beijing	Shanghai	Hong Kong	Taiwan	South Korea	USA	Singapore	Australia	Total
"Japan"	3%	7%	8%	13%	3%	12%	7%	9%	7%
"Other"	97%	93%	92%	87%	97%	88%	93%	91%	93%

Data rounded off to integral numbers.

Even though the largest percentage for the choice of Japan was not very high, 13%, there was considerable variation in percentages of those who selected Japan. People in Taiwan, the U.S., and Australia relatively regarded the relationship with Japan as important, whereas people in Beijing and South Korea did not. The differences in the percentages of the choice of Japan among cities in China (Beijing, Shanghai, and Hong Kong) should be noted. The percentage was lowest in Beijing, the center of politics. The response patterns described here are consistent with those of the EAVS.

Fig. 1 shows which country/area people in the respondent countries/areas selected as desiring the friendliest relationship for national interest. The figure does not include Beijing, Shanghai, and Hong Kong because of differences in choice categories: those respondents cannot choose "China" (their own country) in the question.

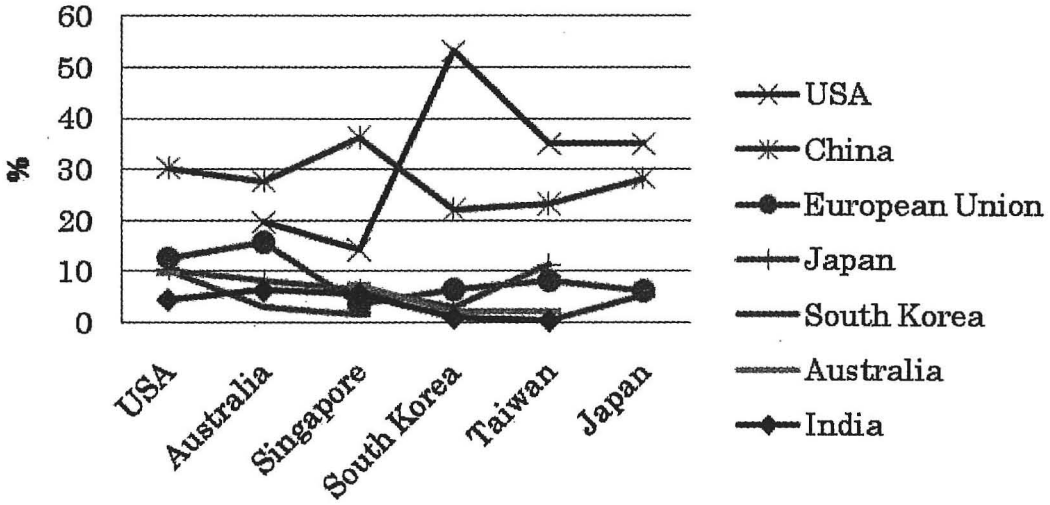


Figure 1: Desiring Friendliest Relations for National Interest (Q.2)

As shown in Fig. 1, for the people in Taiwan and Australia, Japan is the third and fourth choice, respectively. The percentage of the choice of Japan by these nations was about half to a third of that for the choice of China. For people in the U.S., the percentage for the choice of Japan was about a third of that for the choice of China and exactly the same as for the choice of South Korea. These results suggest that Japan's influence on international politics is limited even in the Asia-Pacific region.

Fig. 2 shows variations in the percentages of the choice of Japan among age groups, which may show the attitudes of people from these countries/areas toward Japan from the viewpoint of age. Few people in Beijing and Shanghai selected Japan, regardless of age. In contrast, in Taiwan, about 16% of people under 30 years old chose Japan, which was the largest percentage among all age groups or countries/regions surveyed. In Hong Kong and Singapore, more responders under 30 years of age chose Japan than those of other age groups (15.7% and 12.7%, respectively). Because almost all of these tendencies in East Asia countries or areas were observed in EAVS also, these results may be considered robust.

Here, we do not give details of rates for those in age groups that chose countries other

than Japan. See Yoshino [2007], and Yoshino & Matsumoto [2008]. However, in the U.S., younger people chose Japan or Australia more than older people. The percentage of people under 40 years old in the U.S. that chose Japan or Australia exceeded the percentage of those who chose the European Union. In addition, China is the country most frequently chosen by those surveyed in the U.S. These findings suggest that Americans have come to think that the Asia Pacific region is more important than the European Union. A greater percentage of Australians under the age of 50 years chose Japan than those aged 50 or older. In contrast to Australian current foreign policy, the younger the respondent, the fewer who selected China. Among people under 30 years old, a lower percentage chose China than the U.S. or the European Union.

Overall, although the percentage of people who selected Japan in Q.2 is low, younger rather than older people chose Japan in the Asia Pacific nations. This may imply that although the relative national power of Japan might decline from now on in terms of the economy, its influence in international politics might not. As Nye (2005) argues, people might not think that materialistic power is the only source of a country's influence.

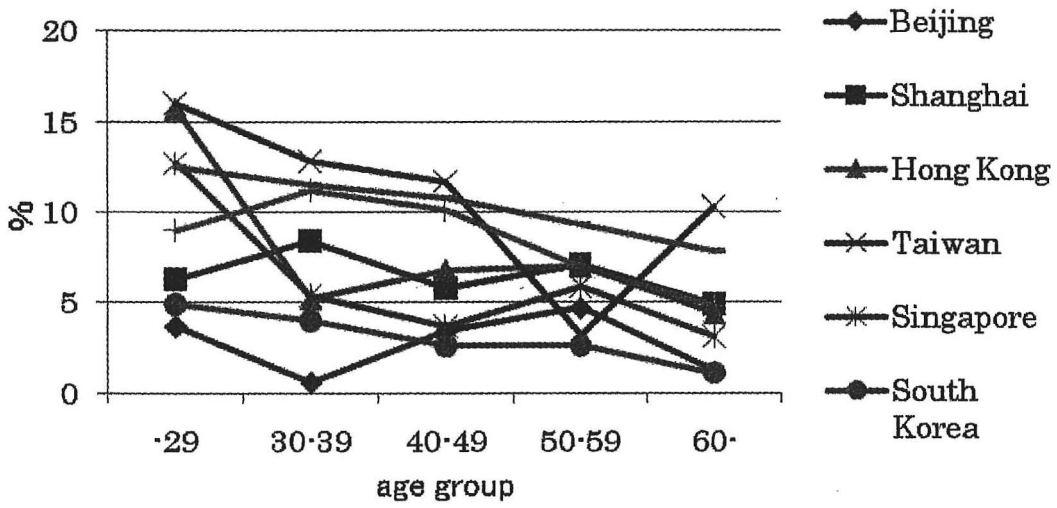


Figure 2: Rates of Choice of Japan for National Interest According to Age Group (Q.2)

Next, we analyze response distribution of Q.3 as follows.

Q.3 If you could be born again, which one of the following Asian or Pacific countries or area(s) would you like be born in, with the exception of (your own country or area)?

Although Q.2 is a sort of stereotyped question to induce stereotyped responses, Q.3 is supposed to reveal respondents' actual opinions of certain countries/regions from a different point of view. Fig. 3 shows that Japan is the first choice among Taiwanese and Australians. More than half of responders in Taiwan selected Japan and about one quarter in Australia and Hong Kong selected Japan. South Korea's first choice was Japan in the EAVS, but in the APVS its first choice was Australia and its second choice was Japan. This difference is due to differences in response categories, as the EAVS does not include the choice of Australia, which was the first choice in the APVS for most of the

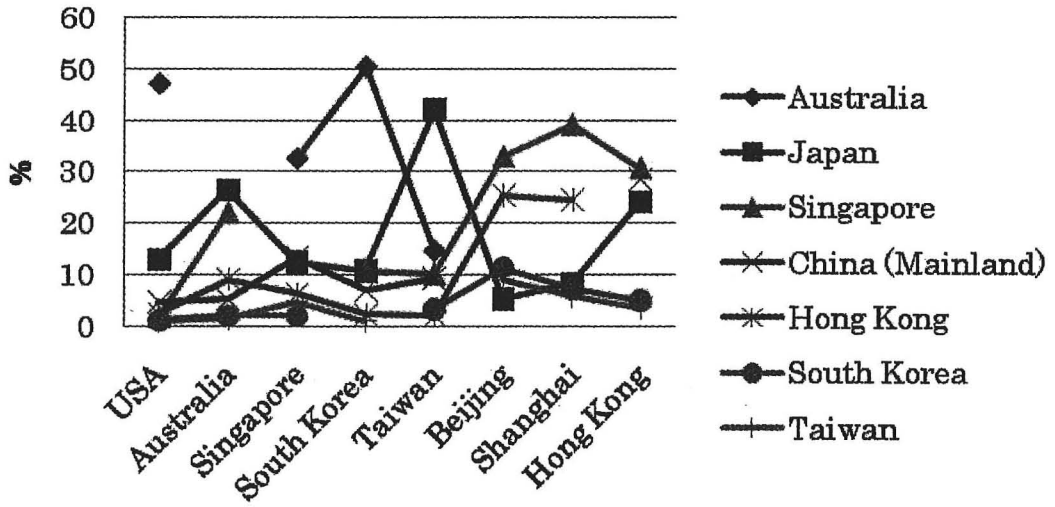


Figure 3: Rates of Countries/Areas Respondents Preferred to be Born In (Q.3)
Please note the difference in categories between Figure 1 and Figure 3

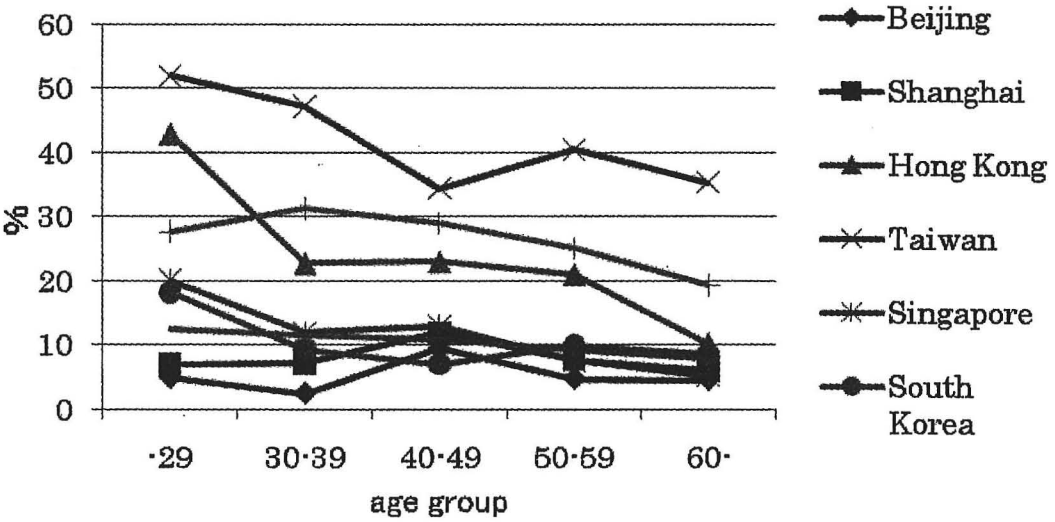


Figure 4: Rates of Choice of Japan to be Born In (Q.3)

countries/areas.

Overall, the responses to Q.3 indicate that the stereotyped "anti-Japan" attitudes of Korea and China may have become reduced.

Fig. 4 shows percentages according to age group of respondents for the choice of Japan as the preferred birth country with the exception of their own country (Q.3). Except for Beijing, Shanghai, and the U.S., the younger generation seemed more positive toward Japan.

Fig. 5 shows variations in attitudes toward Japan and China as defined by responses to Q.2 and Q.3. with respect to age groups. Variations between an older age group (40 years or more) and a younger age group (under 40 years) were very clear. Both in responses to Q.2 and Q.3, the younger generation in the surveyed countries/areas seems more positive toward Japan. Because here we use Fig. 5 to compare attitudes toward Japan and those toward Mainland China, it does not include response data from Japan,

Beijing and Shanghai. (In the Hong Kong survey, there was no choice of "China" in Q.2. See Yoshino [2005c] and Yoshino [2006] for the details.) In contrast, in response to Q.2, the younger generation was the less positive toward China with the exception of South Korea. Responses to Q.3 indicated that the younger generation was less positive toward China with the exception of Australia and the USA.

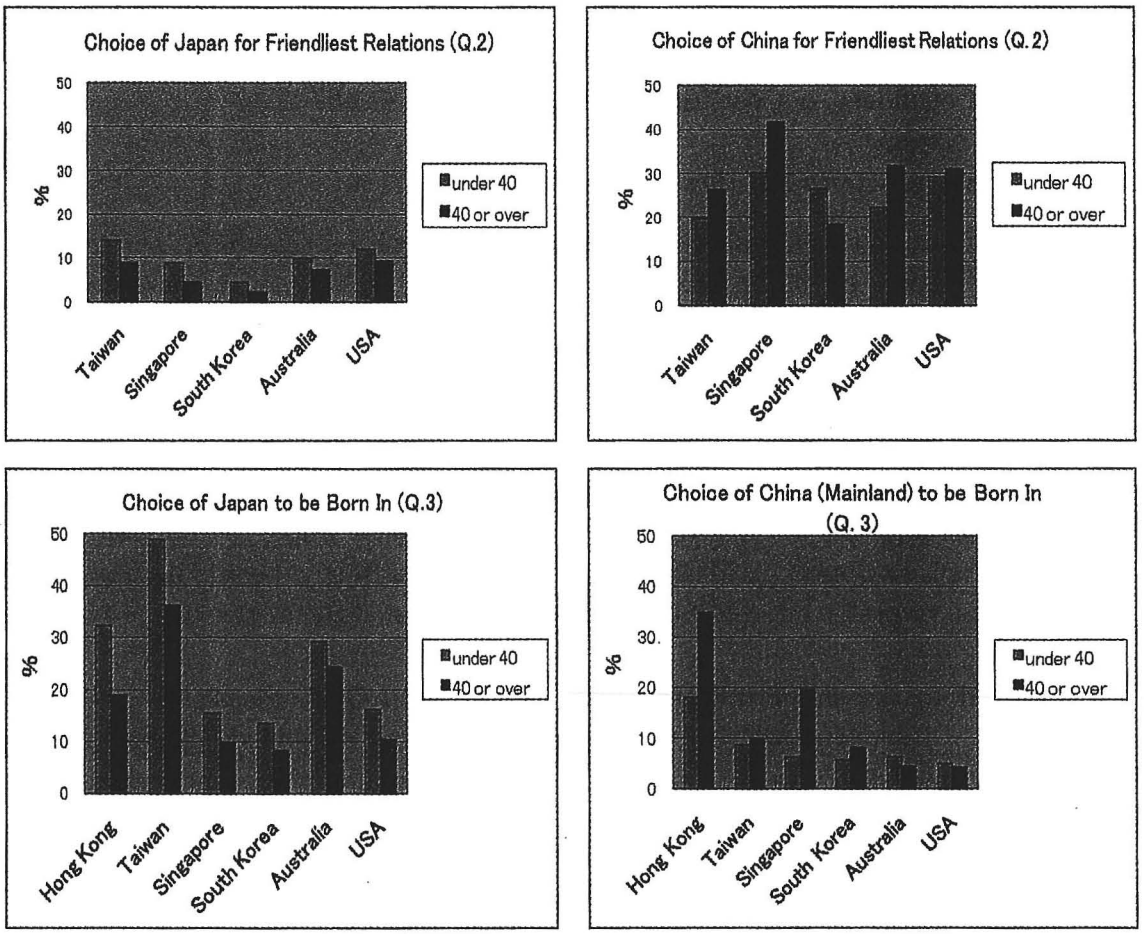


Figure 5: Variations in the attitude toward Japan and China between age groups

In summary, people in the Asia Pacific countries/areas do not seem to consider Japan as diplomatically important (Q.2). However, people in countries/areas in the Asia Pacific region showed a much more positive attitude toward Japan when asked by way of Q.3. Even China and South Korea showed much less "anti-Japanese" attitudes than in Q.2. Moreover, more people in younger age groups have positive attitudes toward Japan than those in older age groups.

3.2 Confidence in the United Nations

In the literature on international politics, in many studies it has been argued that international organizations promote stability in international politics (e.g., Keohane 1984;

Chayes and Chayes 1998; Russett & Oneal 2001; Dorussen & Ward 2008). The function of international organizations, however, must depend on member countries' support, which eventually depends on peoples' support within the member countries. The APVS includes an item about confidence in social institutions such as the UN, the most important international security organization in the sense that it has the authority to decide whether and how international society should deal with an incident such as North Korea's nuclear tests. The item is as follows.

Q.50 How much confidence do you have in the following? Are you very confident, somewhat confident, not confident, or not confident at all?
i. The United Nations
(There are other sub-items but these are omitted here.)

A scholar of international politics may form a hypothesis on this item. The hypothesis might be that people in major powers, in terms of the military and the economy, are less confident of international organizations. This is because, generally, major powers do not prefer international organizations. Without an international organization, countries would have to bargain to decide how to cooperate every time a problem emerges. Results of bargaining tend to favor major powers due to their bargaining power. In contrast, with an international organization, countries are supposed to cooperate according to the rules decided upon through the international organization ex ante, where the bargaining power of major powers is useless (e.g., Mearsheimer 1994). Accordingly, people in major powers are thought not to prefer international organizations that restrain the use of bargaining power.

With regard to the simple tabulation of responses to Q.50, please see page 141 of Yoshino (2008). Table 2 shows the response distribution of confidence in the UN. In the table, the responses "very confident" and "somewhat confident" are merged as a positive response "Confident," and the responses "not confident" and "not confident at all" are merged as the negative response "Not Confident." More people in Shanghai, Hong Kong, and Singapore seem to trust the UN than in Taiwan, South Korea and the U.S., although the majority in each country/area revealed a positive attitude. The pattern is consistent with that of the EAVS. We, however, should be careful in taking this result at face value. As Yoshino (2005b) made it clear, it is possible that there is variation among countries/areas in the general tendency of people to express confidence in organizations.

While Table 2 shows that Singaporeans were more confident in the UN than people in any other countries/areas, Table 3 shows that the percentage of Singaporeans that expressed confidence in the UN was lower than for most of the other organizations listed.

Table 2: Confidence in the United Nations (% within countries and areas) (Q.50)

	Japan	Beijing	Shanghai	Hong Kong	Taiwan	South Korea	USA	Singapore	Australia	Total
Confident	65%	62%	70%	68%	53%	61%	57%	78%	62%	65%
Not Confident	35%	38%	31%	32%	47%	39%	43%	22%	39%	35%

Data rounded off to be integral numbers.

Table 3: Standardized Score within Each Country or Area (Q.50)

	Japan	Beijing	Shanghai	Hong Kong	Taiwan	Korea	USA	Singapore	Australia
Religious Organizations	−2.03	−1.86	−1.97	−0.68	0.56	−0.38	0.18	−0.23	−0.82
The Law and the Legal system	0.77	0.77	0.79	0.99	0.37	0.10	0.69	1.07	0.29
The Press and Television	0.49	−0.25	−0.31	−1.71	−1.37	0.21	−1.40	−0.51	−1.67
The Police	0.25	0.23	0.19	0.36	−0.02	−0.24	0.73	0.91	0.81
National Government Bureaucracy	−0.89	0.70	0.83	−0.48	−0.77	−1.31	−1.30	0.70	−0.91
National Assembly (Congress)	1.32	1.41	1.28	1.64	2.11	2.16	1.76	1.23	1.57
Non-Governmental Organization	−0.45	−1.11	−0.93	−0.42	−0.75	−1.10	0.05	−1.53	0.51
Social Welfare Facilities	0.47	0.32	0.32	0.58	0.12	0.25	−0.20	−0.74	0.44
The United Nations	0.07	−0.21	−0.20	−0.26	−0.26	0.30	−0.60	−0.91	−0.22

Considering general response tendency, we take the percentage of responses "very confident" and "somewhat confident" to all the responses except "Don't Know." Then, we transform the percentage into a standardized score within each country (average: 0.00, Standard deviation: 1.00).

In contrast, South Koreans expressed less confidence in the UN than people in any other countries/areas except the U.S. and Taiwan (Table 2), but the percentage of South Koreans that were confident in the UN was higher than for any of the other organizations with the exception of the Diet (Table 3). Thus, one has to be careful in analyzing the data[2)].

With regard to the U.S. and Taiwan, it might be safe to state that they are less confident in the UN than any of the other countries surveyed, as Table 2 shows. Table 3 also indicates that the percentages of those confident in the UN in both the U.S. and Taiwan are lower than the average of confidence in the other organizations listed. This low level of confidence held by the people is convincing when we think of international political history. The U.S.'s distrust towards the UN may be reflected by its repeated nonpayment of UN dues. In addition, because Taiwan lost its UN membership to the People's Republic of China (PRC) in 1971, Taiwan naturally has little confidence in the UN.

Overall, the result does not necessarily support the previously mentioned hypothesis drawn from the literature on international politics. Low confidence held by the Americans can be understood by the hypothesis. However, the possibility of high confidence held by Shanghai and low confidence by South Korea are contradictory to the hypothesis. There are at least two possible reasons why the hypothesis fails. First, the attitude toward the UN held by the governments may be different from that held by the public. Secondly, determinants of that attitude are not only based on international factors but on domestic

2) Asian-Barometer Survey data (2006; question 29) also shows that, relatively speaking, Singaporeans trust the UN whereas South Koreans and Taiwanese do not.

factors. The considerable variation in the attitude among the cities in China (Beijing, Shanghai, and Hong Kong) may illustrate this[3].

3.3 Ideology

In this subsection, we analyze some items on ideology, which must be related to attitudes toward Japan and confidence in the UN. It is well known that xenophobia is related to ideology. Further, a governmental party's ideology must be one of the strongest factors that determine, e.g., whether the country prioritizes a bilateral relationship or multilateral relationships through international organizations[4]. The APVS included two items related to ideology, Q.26 and Q.30 as follows.

Q.26 Some people say that if we get outstanding political leaders, the best way to improve the country is for the people to leave everything to them rather than for the people to discuss things among themselves. Do you agree with this, or disagree?
1. Agree, 2. Disagree, 3. Undecided

Fig. 6 shows the response distribution of "disagree" in five age groups. The percentages of those selecting "disagree" were lower in Beijing, Hong Kong, Taiwan, and South Korea than in Japan, the U.S., and Australia.

This pattern might remind you of Huntington (1999): People in countries democratized earlier (in the first and second wave of democracy) disagree more than people in countries democratized later (in the third wave of democracy). Fig. 6 is consistent with this argument. According to Miyake's analysis of our Seven Country Survey (Hayashi et al., 1998, ch.7), however, the percentages of those disagreeing in France and Italy were

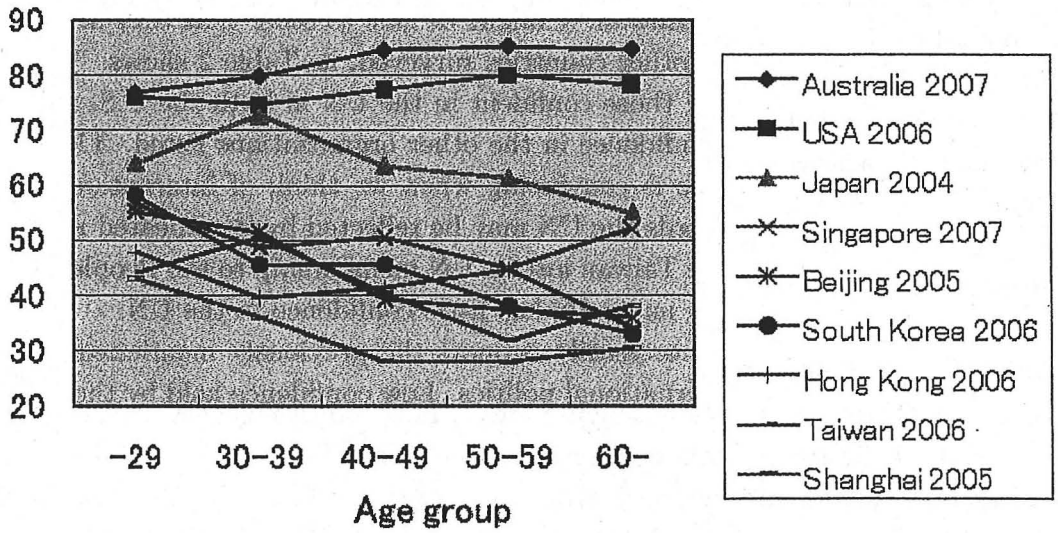


Figure 6: Percentages of "disagree" to Q.26 (APVS)

[3] Similar variation among the cities in China is observed in EAVS.

[4] Recall recent foreign policies of the U.S., Australia, and Japan. The left parties in these countries emphasized the importance of international organization whereas the right parties prioritized bilateral relationships.

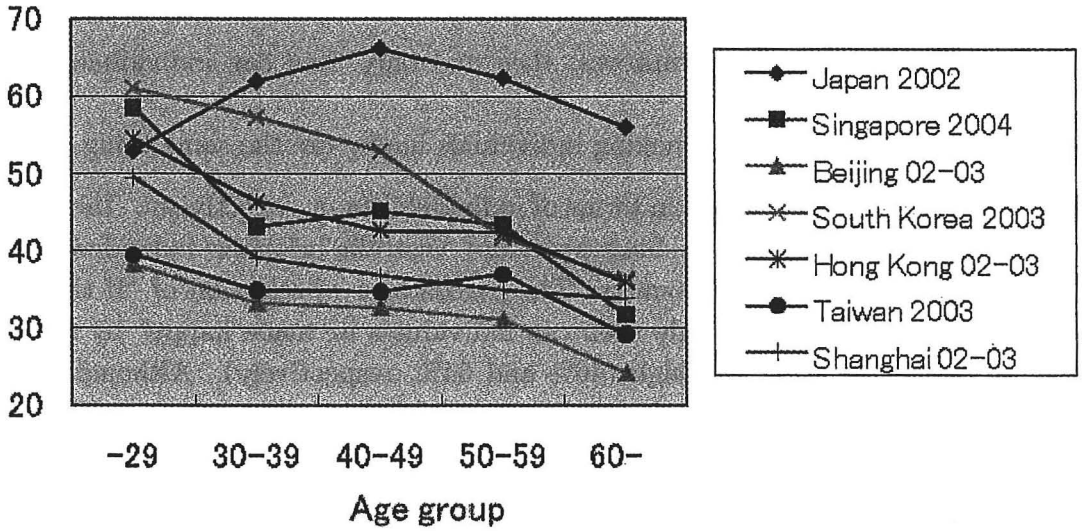


Figure 7: Percentages of "disagree" to Q.17 (EAVS)

46% and 37%, respectively. The percentage for Italy was lower than those of Hong Kong, Taiwan, South Korea and Singapore. It might be, thus, misleading to associate responses to this question directly to people's attitudes toward democracy.

Hayashi (1992) showed in the Japanese National Character Survey that younger Japanese disagree more than older Japanese. He concluded that this was due to neither a cohort-effect nor time-effect but to an age-effect. Miyake also found that among seven countries (our Seven Country Survey), the percentages of responses of "disagree" were lower for older people in all countries but the U.S.

As for age differences in percentage of "disagree" responses among Asia-Pacific countries/areas, we should note several points in Fig. 6. Firstly, not only was there no age difference in percentage of "disagree" responses among U.S. responders but also among those from Australia. Secondly, as for Japan, the age difference seems missing in both the APVS and EAVS (Fig. 7). We should note that most of the Japanese respondents in both surveys were born after World War II. Thirdly, in Beijing, where political control must be severe[5], the majority of people under 40 years old selected "disagree." (The percentage of "disagree" in Beijing was lower in the EAVS, but it was still about 40%[6].)

The APVS included another item on ideology, Q.30, as follows.

Q.30 Please choose from among the following statements the one with which you agree most.

1. If individuals are made happy, then and only then will the country as a whole im-

[5] Chinese government is still sensitive to concepts such as democratization and human rights. When North Atlantic Treaty Organization (NATO) executed bombing of Serbia in 1999 for a humanitarian purpose, the Chinese government condemned NATO for "new interventionism." It took a similar attitude toward the Myanmar problem.

[6] One reason why the percentage was high among young people in Beijing may be that the proportion of the sample with high education was very high. Of 273 respondents under 30 years old in Beijing, 199 were classified into the higher education category (university/college or graduate school).

prove.
2. If the country as a whole improves, then and only then can individuals be made happy.
3. Improving the country and making individuals happy are the same thing.

This item is related to ideology in terms of individualism or collectivism. Table 4 shows that Japan, South Korea, the U.S., Singapore, and Australia prioritize individuals whereas Beijing and Shanghai prioritize country. The percentages of selection of "If the country as a whole improves, then and only then can individuals be made happy" by responders from Beijing and Shanghai was high (46% and 54%, respectively). Although a former prime minister of Singapore, Lee Kuan Yew, is one of the political leaders who emphasized "Asian values," which prioritizes group interests over individual interests, current Singaporeans do not seem to hold "Asian values." The percentage of Singaporeans who prioritize country (34%) was even less than that of Americans (36%).

Table 4: Prioritizing Individual or Country (Q.30)

	Japan	Beijing	Shanghai	Hong Kong	Taiwan	South Korea	USA	Singapore	Australia	Total
1. Individual	27%	5%	12%	8%	13%	38%	33%	26%	33%	21%
2. Country	25%	46%	54%	23%	29%	28%	36%	34%	26%	34%
3. Same	48%	50%	34%	69%	59%	34%	32%	40%	41%	45%

Data rounded off to integral numbers.

4. Multi-Dimensional Analysis

In the previous sections, we analyzed response data item by item. In this section, in order to grasp the total picture of cross-national comparisons, we apply multi-dimensional data analyses (Hayashi's Quantification Method III, [Hayashi, 1993]) to the set of items.

This section consists of two subsections. The first subsection shows pattern analysis of attitudes toward Japan, confidence in the UN, and ideology, excluding Japanese data. The second subsection shows pattern analyses with respect to ideology and confidence in the UN, including Japanese data.

4.1 Multi-Dimensional Analysis of International Relationships (1)

We analyzed responses to seven items: an item on nation, two items regarding attitudes toward Japan (Q.2 and Q.3), two items regarding confidence in the UN and in governmental bureaucracy (Q.50e & Q.50i), and two items on ideology (Q.26 and Q.30). We included the item on confidence in governmental bureaucracy as well as that in the UN because these are considered to be related to "ideology."

As shown in Fig. 8, confidence in the UN and that in government show similar patterns. This result may not seem to be consistent with the findings by Matsumoto (2006), which

suggested that confidence in the UN and in government reflected different kinds of confidence in organizations. This difference may be due to differences in the items used in the analyses. Unlike Matsumoto (2006), we analyzed confidence in organizations with other factors such as ideology, which led to similar patterns between the two types of confidence. In Fig. 8, the attitude as to whether prioritizing the country as a whole or the individual and confidence in organizations overlapped with each other. Also, these two kinds of values (confidence and ideology) and the attitude toward Japan are of independent dimensions.

Furthermore, Fig. 8 shows clustering of three groups of countries/areas. The first group consists of Beijing, Shanghai, and Singapore. People in this group are confident in the UN, prioritize country as a whole, and do not have a positive attitude toward Japan. The second group consists of Hong Kong and Taiwan. People in these countries/areas think that "improving the country and making individuals happy are the same things," and have a positive attitude toward Japan. And the third group consists of the U.S., Australia, and South Korea. People in these countries have low confidence in the UN, prioritize individuals, and disagree with "leaving everything to political leaders." Cities in China may not be comparable to the other countries/areas because the people in these cities do not have a choice of "China" among the items on the attitude toward Japan. The patterns found above, however, were the same even when we conducted the same pattern analysis excluding data on Beijing, Shanghai, and Hong Kong.

These patterns suggest the following. First, we can classify Asia Pacific countries/areas into a Chinese cultural sphere and a non-Chinese cultural sphere. This pattern seems robust because it does not change even when we conduct the same pattern analysis excluding the data on Beijing, Shanghai, and Hong Kong. Secondly, people in Hong Kong and Taiwan are distinct in terms of a positive attitude toward Japan.

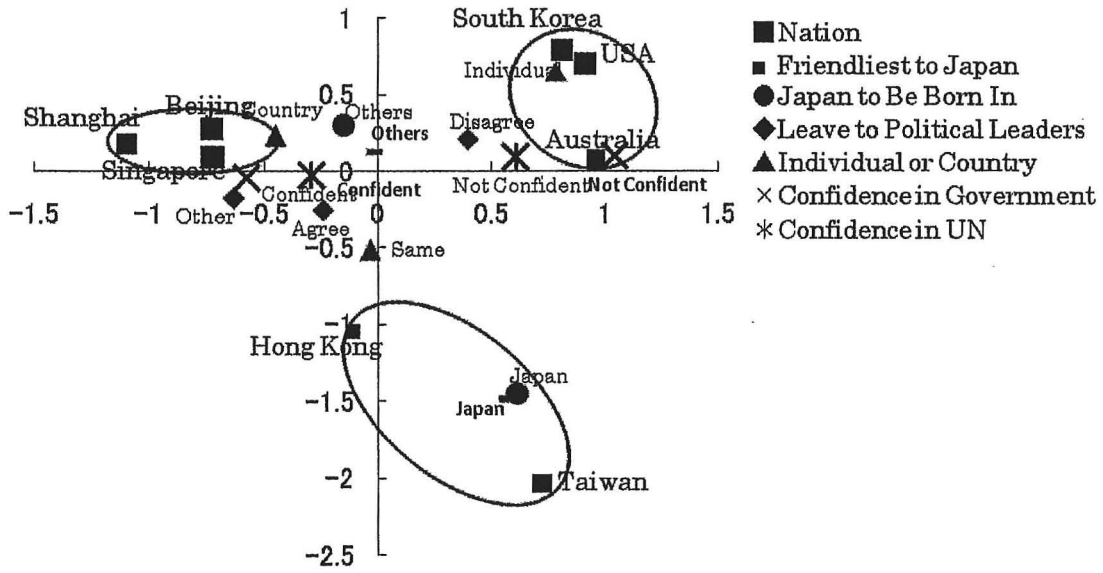


Figure 8: Hayashi's Quantification Method III of Q.2, Q.3, Q.26, Q.30, and Q.50

4.2 Multi-Dimensional Analysis of International Relationships (2)

In this subsection, we put responses to three items into the analysis: nation and the two items on ideology (Q.26 and Q.30). Fig. 9 shows three clusters of countries/areas. One consists of Hong Kong, Taiwan, Beijing, and Shanghai (i.e., Chinese group). People in these countries/areas agree with the opinion "leaving everything to political leaders" and "prioritize country as a whole" or think that "improving the country and making individuals happy are the same things." Another cluster consists of the U.S., Australia, Japan, and South Korea, whose response pattern is opposite to that of the Chinese group. Singapore does not belong to either group and makes up the third cluster as a single country. This distinct location of Singapore coincides with the analysis by Matsumoto (2005).

Thus, the distinctive clustering of a Chinese cultural sphere and a non-Chinese cultural sphere is clear. The majority of Singaporeans are Chinese, but the political system and the international relationships are between the two spheres. Thus, Singapore is located in the middle, between the spheres, as if it were bridging over the two spheres.

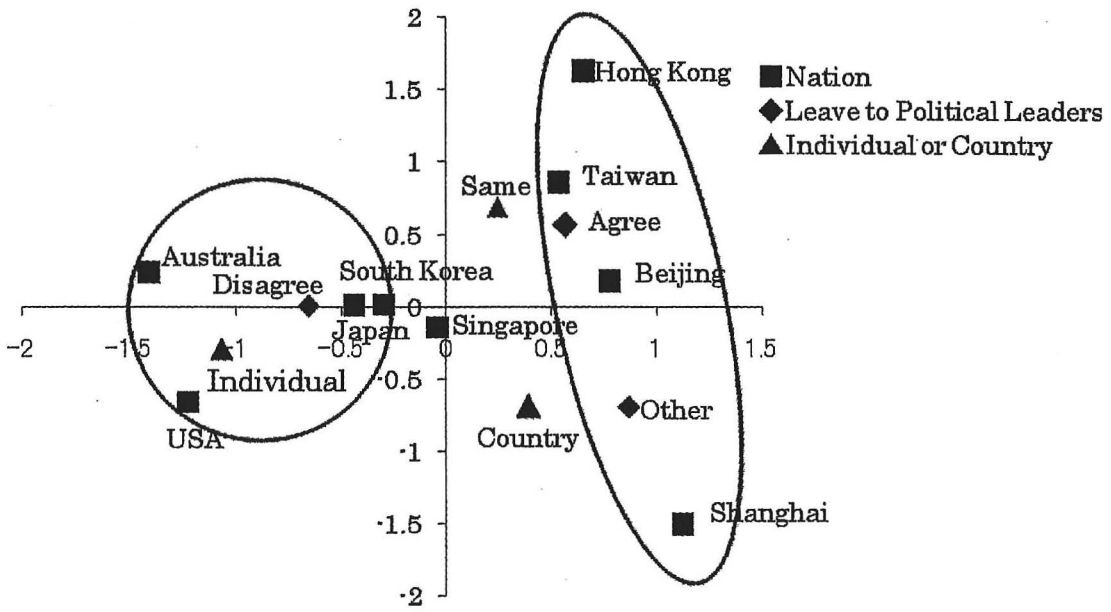


Figure 9: Hayashi's Quantification Method III of Q.26 and Q.30 [Ideology]

Next, we added the items regarding confidence in the UN and in governmental bureaucracy (Q.50) into our analysis. Fig. 10 shows four clusters of countries/areas. Taiwan, Hong Kong, Beijing and Shanghai make a cluster. People in these countries/areas agree with the opinion "leaving everything to political leaders" and think that "improving the country and making individuals happy are the same things." The U.S. and Australia make up another cluster, where people disagree with the opinion "leaving everything to political leaders" and prioritize individuals. Japan and South Korea make up the third cluster, where people are more critical of the UN and their own governments. And Singapore

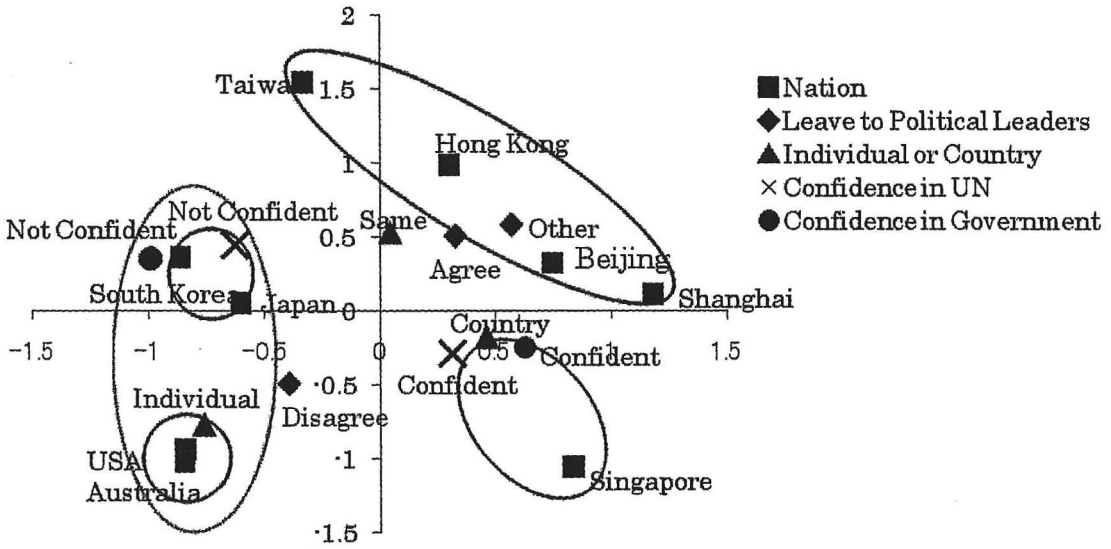


Figure 10: Hayashi's Quantification Method III of Q.26, Q.30, Q.50e, and Q.50i [Ideology and Confidence in UN & Government Bureaucracy]

comprises the fourth cluster as a single country.

Again, Singapore is located in the middle between the Chinese cultural sphere and the non-Chinese cultural sphere. These pattern analyses illustrate a cultural manifold analysis (CULMAN) (Yoshino, 2005a). We analyzed the patterns among countries/areas with respect to the three variables in the previous subsection to get three clusters. Here, we increased the number of variables and got four clusters, where the non-Chinese cultural group (U.S., Australia, Japan, and South Korea) in the previous analysis was divided into the two sub-clusters (Anglo-Saxon group and Asian group). This exemplifies that "a set of charts may construct a sort of hierarchical structure, where each level of charts may correspond to an extent of coverage: the larger chart, the higher level." (See Yoshino, Nikaido & Fujita, this issue).

5. Conclusion

In this paper, we have analyzed people's values on international politics in the Asia Pacific countries/areas, focusing on attitudes toward Japan, confidence in the UN, and ideology.

As for the attitudes toward Japan, Japan did not seem to be considered as the most important country in terms of diplomatic relationships by the people in the Asia Pacific countries/areas under investigation. Even in the U.S., few people chose Japan as the first choice with which to develop friendliest relationships. However, when asked in concrete and personal terms, many more people in many countries/areas showed a positive attitude toward Japan. Moreover, younger age groups in many countries/areas had more positive attitudes toward Japan, but the less positive toward China.

Regarding attitudes toward the UN, people in Taiwan and the U.S. were less confident in the UN than people in the other countries/areas. In addition, low confidence by South

Koreans and high confidence by the people in Shanghai were observed. Although we should be careful in interpreting these results, it might be difficult to gain an understanding of them by following the literature on international politics.

With regard to ideology, we analyzed two items. The item on whether people agree with the opinion "leaving everything to political leaders" separates those countries/areas into two clusters; the U.S, Australia and Japan on the one hand and cities in China, Taiwan, Singapore and South Korea on the other. Although the Japanese persistently have shown an age effect (the older the group, the more people "agree" (Hayashi 1992)), it seems that younger Japanese "disagree" less than senior Japanese. Moreover, it is worth noting that more than half of the young people in Beijing in 2005 and in Shanghai in 2002 "disagree."

By analyzing these three kinds of items by Hayashi's Quantification Method III, there emerged clusters of a Chinese cultural sphere and a non-Chinese cultural sphere. Moreover, by conducting analyses with different sets of items, we observed a structure that can be understood well by cultural manifold analysis (CULMAN).

Let us make some comments drawn from the present analyses. Firstly, the analyses in this paper imply that analyzing people's values is important for understanding foreign policy and international politics. In past studies, countries have been classified by the size of national power, stage of economic development or degree of democratization. These criteria, however, may not be suitable for analysis beyond the nation-state. Therefore, our analysis focused on people's attitudes and values and found, for instance, that confidence in the UN is related to confidence in national government. People's values on international politics were similar between the U.S. and Australia. Beijing, Shanghai, Hong Kong, and Taiwan were classified into the same cluster of a Chinese cultural sphere. Thus, analysis of people's values will be an important agenda for international politics.

Secondly, this paper implies that people's attitudes toward a foreign country are influenced by so-called soft power as well as by hard power. According to Nye (2004), soft power is the ability to attract others, to get others to want the outcomes that you want, and to co-opt people rather than coerce them. Relatively, China could be expected to rise and Japan to decline in their national power of economy and politics. In addition, young people could develop an image of China as being a more developed and liberal country than senior people[7]. Nevertheless, the younger the age group, the more people showed positive attitudes toward Japan and less positive attitudes toward China in the surveys. This contrast might reflect the differences in soft power between the countries. It might also be that Japan will maintain its influence with its soft power in international politics than is currently expected.

Thirdly and lastly, in order to gain a more robust understanding of people's values in the Asia Pacific region, we need to continue to perform surveys and analyses. We observed some variations in response patterns among age groups on the attitude toward Japan and ideology. By continuing surveys and analyses, we would be able to confirm whether the variations among age groups are due to a cohort-effect, age-effect, or time-effect. It is

[7] Lampton (2001) argues that many kinds of actors outside the government have come to have influence on Chinese foreign policy such as think tanks, business, civil organizations, and the public.

important to understand the deeper structure of peoples' values on international politics in order to foresee its dynamic changes in the near future.

REFERENCES

Baker, A. (2003). Why is trade reform so popular in Latin America? *World Politics*, **55**, 423–455.

Beaulieu, E. (2002). Factor or industry cleavages in trade policy? An empirical analysis of the Stolper-Samuelson theorem. *Economics and Politics*, **14**, 99–131.

Chang, Y., Chu, Y., & Park, C. (2007). Authoritarian nostalgia in Asia, *Journal of Democracy*, **18**, 66–80.

Chayes, A. & Chayes, A.H. (1998). *The new sovereignty: Compliance with international regulatory agreements.* Cambridge, MA.: Harvard University Press.

Dorussen, H. & Ward, H. (2008). Intergovernmental organizations and the Kantian peace: A network perspective, *Journal of Conflict Resolution*, **52**, 189–212.

Fearon, J. (1994). Domestic political audiences and the escalation of international disputes. *American Political Science Review*, **88**, 577–592.

Gabel, M.J. (1998). *Interests and integration: Market liberalization, public opinion, and European Union.* Ann Arbor: University of Michigan Press.

Hainmueller, J. & Hiscox, M.J. (2006). Learning to love globalization: Education and individual attitudes toward international trade, *International Organization*, **60**, 469–498

Hayashi, C. (1992). Quantitative social research — Belief systems, the way of thinking and sentiments of five nations —. *Behaviormetrika*, **19**, 127–170.

Hayashi, C. (1993). *Suhryoka* [Theory and methodology of quantification]. Tokyo: Asakura-shoten (in Japanese).

Hayashi, C., Nishihara, Y., & Hayashi, F. (1992). Dai 5 nihon-jin no kokuminsei [A study on the Japanese national character]. Tokyo: Idemitsu-shoten (in Japanese).

Hayashi, C., Yoshino, R., Suzuki, T., Murakami, M., Hayashi, F., Kamano, S., Miyake, I., & Sasaki, M. (1998). *Kokumin-sei nanaka-koku hikaku* [Comparison of national character of seven countries]. Tokyo: Idemitu-shoten (in Japanese).

Hungtington, S. (1999). *The third wave*, Norman: University of Oklahoma Press.

Inoguchi, T. (2003). Grobarizeishon wa yoi gabanansu wo motarasuka? [Has the globalization positively facilitated global governance?], *Nenpo seijigaku* [The annual of Japanese Political Science Association, pp.199–227 (in Japanese).

Inoguchi, T., Uenohara, H., & Ide, H. (2008). Does globalization reduce or enhance democracy? A micro analysis based on an 18 country cross-national Asia-Europe survey, *Behaviormetrika*, **35**, 73–96.

Johnson, T. (2007). The danger of anti-U.S. sentiment for World Bank legitimacy, Workshop Papers, Centre for the Study of Globalisation and Regionalisation (CSGR), University of Warwick, April 2007. Available at http://www2.warwick.ac.uk/fac/soc/csgr/activitiesnews/workshops/forthcoming/wbbled/papers/johnson.pdf

Keohane, R.O. (1984). *After hegemony: Cooperation and discord in the world political economy.* Princeton: Princeton University Press.

Lampton, D.M. (2001). China's foreign and national security policy-making process: Is it changing, and does it matter? In Lampton D.M. (Ed.), *The making of Chinese foreign and security policy in the era of reform, 1978–2000*, Stanford: Stanford University Press.

Matsumoto, W. (2005). "Shingaporu ha higashi-ajia nanoka?: Kachikan deta karano kento. [Is Singapore in East Asia?: examination from Value Survey data]," Proceedings of the 33th Behaviormetric Society of Japan Conference, pp.82–85 (in Japanese).

Matsumoto, W. (2006). A sense of trust on organizations in East Asia — Analysis for a cross-national comparative study — *Japanese Journal of Behaviormetrics*, **33**, 25–40 (in

Japanese).
Mayda, A.M. & Rodrik D. (2005). Why are some people (and countries) more protectionist than others? *European Economic Review*, **49**, 1393–1430.
Mearsheimer, J.J. (1994). The false promise of international institutions, *International Security*, **19**, 5–49.
Morgenthau, H.J. (1978). *Politics among nations: The struggle for power and peace* (5th ed.). New York: Alfred A. Knopf, Inc.
Nye, J. (2004). *Soft power: The means to success in world politics.* New York: Public Affairs.
Russett, B.M. (1993). *Grasping the democratic peace: Principles for a post-cold war world.* Princeton: Princeton University Press.
Russett, B. & Oneal, J. (2001). *Triangulating peace: Democracy, interdependence and international organizations.* New York: Norton.
Waltz, K. (1959). *Man, the state, and war.* New York: Columbia University Press.
Waltz, K. (1979). *Theory of international politics.* New York: McGraw-Hill.
Yoshino, R. (2001). *Kokoro wo hakaru* "Measurement of Mind". Tokyo: Asakura-shoten (in Japanese).
Yoshino, R. (2005a). The East Asia Values Survey — Towards the development of a behaviormetric study on the cultural manifold analysis (CULMAN) —. *Japanese Journal of Behaviormetrics*, **32**, 133–146.
Yoshino, R. (2005b). For the development of trust and economic prosperity — A study of data science on the East Asia Values Survey, *Japanese Journal of Behaviormetrics*, **32**, 147–160.
Yoshino, R. (2005c). The East Asia Value Survey: Japan 2004A Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey.
Yoshino, R. (2006). The Asia & Pacific Value Survey: China (Beijing, Shanghai, Hong Kong) 2005 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey.
Yoshino, R. (2007). The Asia & Pacific Value Survey: USA 2006 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey.
Yoshino, R. & Matsumoto, W. (2008). The Asia & Pacific Value Survey: Australia 2007 Survey by the Research Committee of Cross-National Comparative Survey.

(Received June 4 2009, Revised August 21 2009)

Behaviormetrika
Vol.36, No.2, 2009, 167–180

RELIGIOUS FAITH AND RELIGIOUS FEELINGS IN JAPAN: ANALYSES OF CROSS-CULTURAL AND LONGITUDINAL SURVEYS

Fumi Hayashi* and Kosuke Nikaido**

In the present paper, we focused on religion and religiosity using data that had been obtained from the Seven Nations Comparative Survey, the East Asia Values Survey, and the Asia and Pacific Values Survey. In Japan, only about 30% of the population have a religious faith, and this percentage is the lowest among developed countries. On the other hand, 70% think that having a religious mind is important. If we presume that people who either claim to have a specific religious faith or say that religious mind in a generic sense is important as being more or less positive to religion, then we could say that the proportion of people who feel positively about religion in Japan is comparable to that in most other countries. While attempts have been made to investigate the meaning of the term "religious mind" with relatively small data sets in Japan (Hayashi, F. 2007), it is also true that "religiosity" — which carries a different meaning than "religion" as an object of worship — is now being debated in Western countries, too. In this paper, we analyze whether the "religious mind" is a distinctive property of the Japanese or if there is a similar sort of attitude in the West using an international and comparative data set.

1. Introduction: Religious Faith and 'Religious Heart/Mind' in Japan

According to the East Asia Values Survey project (Yoshino, 2005), the cartography of religious faith in Japan is such that 23% of the population believe in Buddhism, and every other faith attracts less than 3%. It is said that Islam, Hindu, Christianity and Buddhism constitute the world's four great religions; yet, among them, there are a countless number of denominations. As far as denominational distinctions in the context of international comparative research are concerned, researchers attempt to list a set of sects and denominations relevant to a particular locality as response categories based on pre-existing information, and then record open-ended answers in case there is any other type of religion. In the Asia and Pacific Values Survey project (Yoshino, 2009), responses on religious faith have been coded into 20 categories for the countries or areas included in the project, which were Japan, South Korea, Beijing, Shanghai, Hong Kong, Taiwan, Singapore, Australia, and the United States. However, many other religions that do not fit into one of these 20 categories have also been named. There are other complexities in constructing an appropriate categorization of various denominational faiths. In the 7-Nation Survey of Japan, Europe and the USA, people very rarely identified themselves as Christians – instead, they made a firm distinction between Protestantism and Catholicism. In contrast, in Japan people tend to identify themselves as Christians without specifying the difference between Protestant and Catholic (Tokei Suri Kenkyujo Kokuminsei Kokusai Chosa IInkai, 1998).

Key Words and Phrases: Religion, Religiosity, The Japanese National Character, The East Asia Value Survey, The Asia and Pacific Values Survey

* Faculty of Human Science, Toyo Eiwa University, 3–1 Miho-cho, Midori-ku, Yokohama-shi, 226–0015, Japan.

** The Institute of Statistical Mathematics

It should be noted that in the Asia and Pacific Values Survey, the response patterns in Singapore appear to be quite close to those in Japan.

The proportion of those who profess some sort of religious faith in Japan is exceedingly low compared to other developed countries. In the era of scientific research based on sample surveys conducted after the end of World War II until contemporary times, that proportion has consistently hovered around 30% (Tokei Suri Kenkyujo Kokuminsei Chosa Iinkai, 1992). Breakdown by age showed that throughout the 60 years concerned, younger people are less likely to have a faith, while the older the respondents are, the more likely that they express a religious faith. Further, cohort analysis empirically verified that this phenomenon has to do with the age effect. That is, as people grow older, they become more likely to believe in a religious faith. In Western Europe, the proportion of those who have some religious faith is higher among older people – but there are no longitudinal data whose time span is as long as some data sets in Japan are. However, according to an analysis based on a shorter length of time, the observed phenomenon is due to the period effect (Sasaki & Suzuki, 1996). For this reason, it is alleged that it is one of the unique qualities of the Japanese character that people tend to be more faithful as they age.

Additionally, we would like to note that regarding the recent trend of increasing loss of popularity of traditional religious faith in Western Europe, such phenomenon is often associated with the idea of "freedom to be free of certain specific denominational faith". This indicates that culturally, in the older days in Western Europe it was accepted as simply natural that people would have some religious faith, and that those who did not were regarded as loony.

On the other hand, with respect to faith in Buddhism which is prevalent among the Japanese, some people see this form of religiosity in a critical light. They often claim that many people identify as Buddhists in a merely formal sense – due, for instance, to the gift-offering system based on parish in the Edo period, and to the custom of ancestral worship because graveyards usually happen to be around Buddhist temples in Japan.

In any event, if we are to assume that religion represents something fundamental about the human species as a creature that had begun to develop on its unique path through the habit of thinking, then we can say the presence of some sort of religion is universal even if the specific types of faith and denomination vary. In this research, the phrase "religious mind" includes not only faith in a traditional or a "new" organized religion but rather various forms of feelings and moods that may be seen as religious in a broad sense.

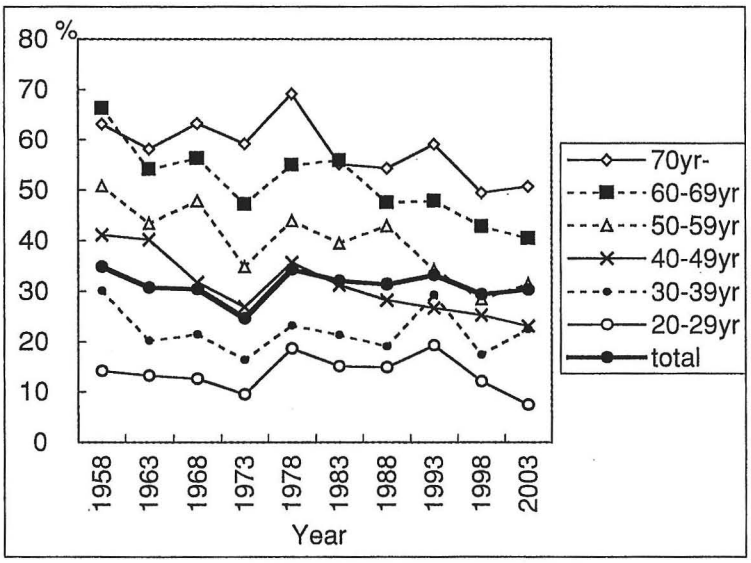
2. The Relationship between Faith and the Religious Mind

The Study on the Japanese National Character series, which is a comprehensive attitudinal survey encompassing questions on various topics, has been administered every 5 years since 1953. For 5 times from 1958 to 1978, a question asking whether respondents had any religious faith and another item asking whether they thought "a religious mind" was important or not to those who said they did not have any religious faith, were included. Since 1983, the religious mind question was also asked of the respondents who professed a certain religious faith; only about 2% or so answered "Not Important" or

"Don't Know" (thereafter DK) to the religious mind question while expressing belief in a religious faith (Researcher Committee on the Study of the Japanese National Character, 2004).

Figure 1 shows changes in the proportions of people reporting a religious faith by age group between 1958 and 2003. Over the 45-year period, people in their 20s consistently had a low rate of belief in a religious faith. The older the respondent was, the more likely that he or she reported having a religious faith.

One should also be able to infer that this largely results from the cohort effect such that individuals became more likely to have a certain religious faith as they became older. While the proportion of people who do profess a religious faith has consistently been about 30% since World War II to this day, one can also see that generally the proportion of people with faith has declined within each age group in this figure. The proportion of people with a religious faith in the overall population has not greatly changed because of the changing composition of different age groups.



Source: A Study of the Japanese National Character, 1958–2003.

Figure 1: Changes in the Proportion of People with a Religious Faith by Age.

Figure 2 shows the proportion of individuals who report a religious faith as well as those who do not report a religious faith but who say that a "religious mind" is important between 1958 and 2003. In each age group, the proportions of such individuals generally decreased. The trend was especially marked among the younger groups after 1988.

Figure 3 looks at the pattern of the relationship between having a religious faith and whether the respondent thinks having a religious mind is important or not. It traces the cohort who were in their 20s in 1958 in terms of the changes with respect to these two variables.

Through the 10 installments of the Japanese National Character Survey up to 2003, we can observe that the proportion of those with a religious faith barely changed over the years, and also that the proportion of those who state that having a religious mind is not

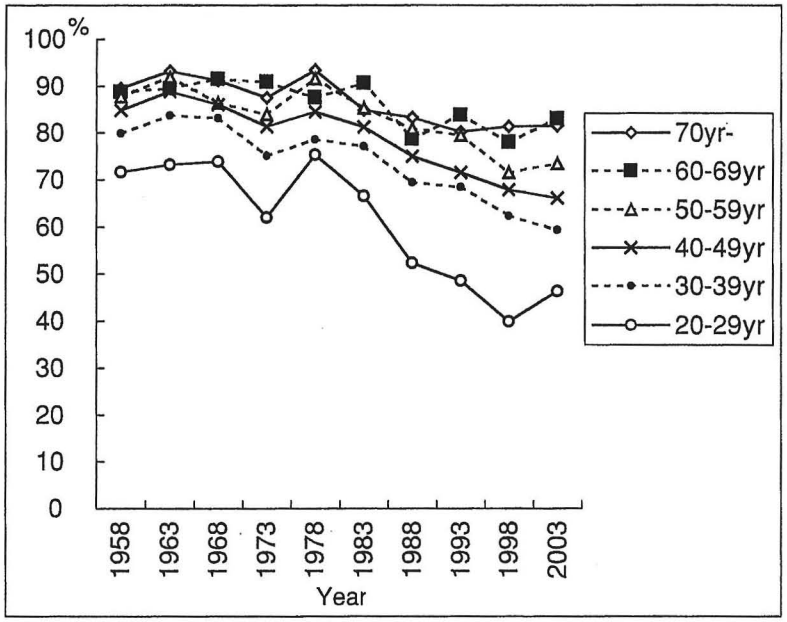


Figure 2: Changes in the Proportion of People Who Report a Religious Faith or Say a Religious Mind Is Important by Age Group.

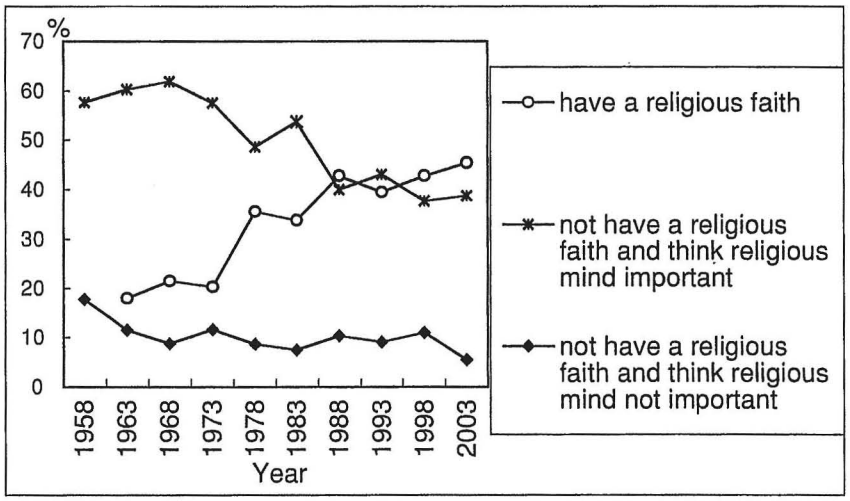
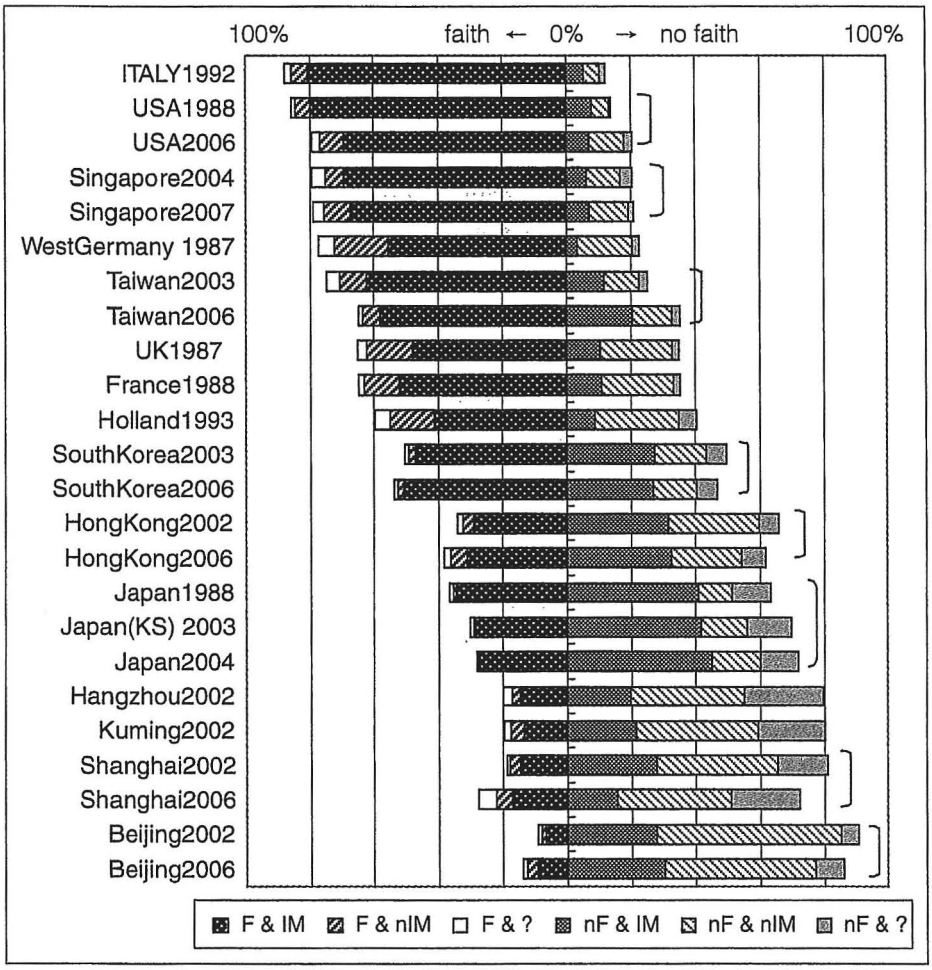


Figure 3: Changes in Views on Religious Faith and the Importance of Having a Religious Mind Due to Aging, for People Who Were in Their 20s in 1963.

important among the religiously faithful has been consistently low. However, we do need to be careful of the fact that it is generally difficult to capture any change there might have been among the young, because of both the changing demographic composition in Japan as well as the fact that the response rate tends to be higher among older people.

Figure 4 summarizes the results from the Seven Nations Comparative Survey, the East Asia Values Survey, and the Asia and Pacific Values Survey. A part of the results had already been presented (Hayashi, 2006, 2007). It may perhaps be possible to interpret the results from the surveys in 1988, 2003 and 2004 in Japan as a decline in religious faith. On the other hand, the results from the surveys in Shanghai in 2002 and 2006 and in Taiwan



Note: (Q.1) Do you have any personal religious faith? Yes (F), No (nF).
(Q.2) Without reference to any of the established religions, do you think having a religious mind is important or not important? Important (IM), Not Important (nIM)

Figure 4: Relationship Between Having a Religious Faith and Whether One Thinks Having a Religious Mind Is Important or Not in Different Countries.

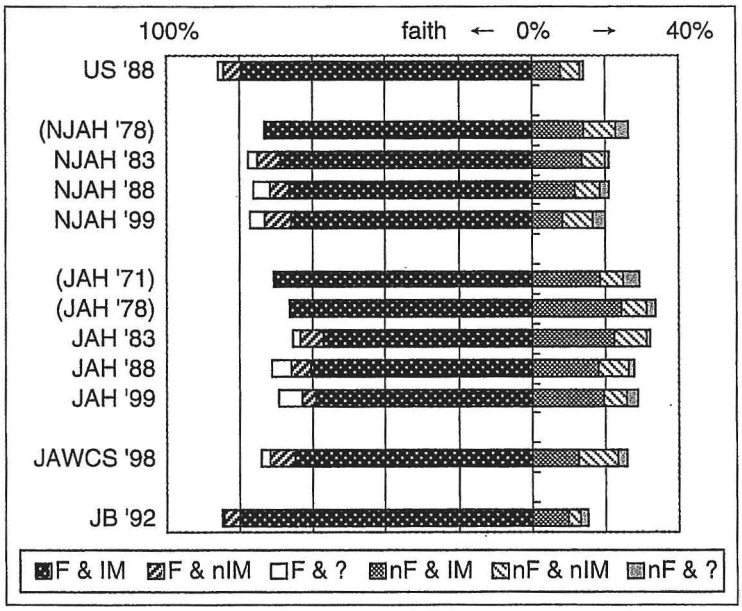
in 2003 and 2006 show that the proportion of those with a faith increased markedly in these two locations – however, it is possible that these sorts of variations occurred due to a combination of sampling errors as well as a series of non-sampling errors having to do with the specific circumstances under which these surveys were conducted. Generally speaking, we can say that the tendency of people to nearly always say that having a religious mind is important if they have a religious faith – a pattern alleged to be one of the defining traits of the nature of religiosity in Japan – is most pronounced in Japan as well as South Korea. It is also the case that these two countries share the pattern that a relatively large proportion of those without a faith reported that having a religious mind is nevertheless important. We can also see that the proportion of individuals with belief in a religious faith increased in Beijing and Shanghai, and it may perhaps be appropriate to interpret this as associated with a certain change in policy by the Chinese Communist Party. Such interpretation is rendered more plausible by the observation that whereas in

all other locations except China the proportion of those with a faith is higher among the older people, in China the religiously faithful are more commonly found among younger people.

So far, we have focused on comparison of different regions and countries. Now, this paper aims to take a look at the same issue from the perspective of race and ethnicity. In particular, in order to ascertain whether some sort of uniqueness is to be credited to Japan, we need to think of cases such as those of Japanese descent living in the USA or Brazil. With regard to Japanese emigrants, several surveys have been conducted on Japanese-Hawaiians starting from 1971, followed by a survey of Japanese-Americans living on the West Coast of mainland USA (Yoshino, et al. 2000), and a survey of Japanese-Brazilians (Yamamoto, K. & Mori, K. (eds.), 1993). Summaries of the results of these surveys are presented in Figure 5. Hawaii is among the more distinctively identifiable places in the USA, and it is generally true that its population in general – not restricted to just the Japanese-Hawaiians – evinces traits that are different from those in the mainland USA. One of these characteristics is the fact that the proportion of those without a religious faith is higher in Hawaii than on the mainland. Japanese-Americans, meanwhile, are much closer to Americans than to the Japanese in terms of the proportion of those with a religious faith, but the proportion of those who state that having a religious mind is important is high among the non-faithful. A major difference between these people and Americans in general or those who are not of Japanese descent, is that Buddhism is the most popular form of faith among Japanese-Americans. Overall, we might conclude that Japanese-Hawaiians have retained some of the distinctively Japanese qualities.

In the Japanese National Character Survey, it should be noted that until 1978, the question of whether they thought having a religious mind was important or not was asked only to respondents who did not report a religious faith. Since 1983, we re-evaluated our position and determined that not everyone who claims to have a faith would say that having a religious mind as such is important, so the above question was separated from the question on religious faith. It turned out that those who do not think that having a religious mind is important among people who do identify a particular faith are more commonly found in Hawaii than in Japan – in fact, this proportion is higher than that in the mainland USA. It may perhaps be surmised that in Japan those who identify a faith do so out of conviction in the sense that they do it based on the "religious mind", while Japanese-Hawaiians ended up expressing a belief in faith according to the customs of a society that is generally more pious. The Japanese-Americans on the West Coast (JAWCS) were similar to non-Japanese-Americans in Hawaii. In this sense, the particular type of faith they have may not correspond well to the idea of having a religious mind as measured here.

On the other hand, we found that among the Japanese-Brazilians, 85% identified themselves as having a religious faith, 90% said that having a religious mind was important, and the proportion of people who answered yes to either of the questions was as high as 95%. We see that Japanese-Brazilians are a highly religious people. Looking over the composition of the different denominational faiths among Japanese-Brazilians, we find that Catholics are of the majority, and a little less than 20% of the respondents selected Bud-



Note: cf. Note for Figure 4.
JAH – Japanese-Americans in Hawaii
NJAH – Non-Japanese-Americans in Hawaii
JAWCS – Japanese-Americans in West Coast Survey
Also note that in the installments inside the parentheses, the question of whether one thought having a religious mind was important or not was not asked to respondents who reported having a religious faith.

Figure 5: Religious Beliefs Among Japanese-Hawaiians, Americans in General and Japanese-Brazilians.

dhism or its related offshoots. Overall, we can conclude that the respective results for the Japanese-Brazilians and Japanese-Hawaiians show that each group is strongly influenced by the traits of the native people living in the regions they inhabit.

3. What Is a Religious Mind?

Most Japanese people seem to intuitively know what the term "religious mind" means, and the use of this phrase is rarely seen as problematic in the context of a research survey. In the methodology adopted in such a survey, exactly what the term refers to is not specified *a priori* but rather we let each respondent answer the question based on his or her own understanding. On the other hand, after the fieldwork is completed, we attempt to more concretely grasp what the term might mean sociologically by analyzing the pattern of association between the term itself and any given thing in social life. The "Explorations of Structure in Ways of Thinking" survey conducted from 1976 to 1978 (in Tokyo and Yonezawa, also known as the "spook survey"), the survey on Views on Nature of the Japanese conducted in 1996 (nationwide survey, conducted by the Institute of Nuclear Safety System), and the survey research project conducted in 4 wards of Yokohama City in 2006, have all been guided by this type of methodology (Hayashi, C. et al. 1979; Hayashi, F. et al. 1996; Hayashi, F. 2007). While we believe that the terminology may

Table 1: How People in Different Countries Feel About Religion and Other Wondrous Things (%).

	Japan	South Korea	Beijing	Shanghai	Hong Kong	Taiwan	Singapore	Australia	USA
Survey year	2004	2006	2005	2005	2006	2006	2007	2007	2006
Sample size	1139	1030	1053	1062	849	603	1032	700	901
Have a religious faith	28	54	14	28	38	65	79	54	80
Religious mind is important	72	78	39	33	64	78	74	53	76
Having a religious faith and/ or religious mind is important	73	81	44	43	71	85	86	66	86
God, gods or Buddha exists	40	26	18	18	43	47	72	49	71
may exist	41	28	25	38	33	42	20	29	21
Life after death exists	19	23	9	7	32	35	53	37	50
may exist	45	28	21	31	33	45	28	36	33
A soul or a spirit exists	32	26	17	10	42	41	56	53	64
may exist	43	34	23	34	29	45	29	31	27
Supernatural power or psychokinesis*	57	58	50	43	55	66	62	59	48
UFO or alien*	53	45	58	50	47	59	43	52	42
Specter or ogre*	47	34	25	31	55	71	47	21	23
Ghost or apparition, curse*	62	42	25	29	55	71	69	57	46

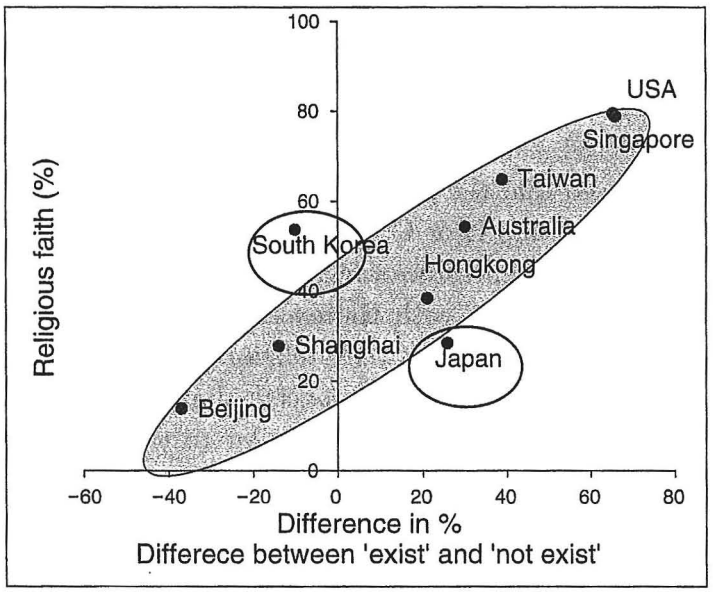
Note: For items marked with an asterisk (*), the numbers indicate the summed proportions of all responses that are construed as showing interest. That is, they include 'Exist', 'would like to be', 'Interesting, amusing', 'Dreadful, scary' and 'Would not like to be'. The other possible responses were "Boring", "Nonsense, does not exist", "Not scary, not dreadful", and "Other".

be replaced by something like the primordial religious emotion, we presume that substantively the concept subsumes elements as the views on religion based on natural history, lore handed down through word of mouth communication and superstition, reflections on supernatural matters, perspectives on health and mortality, and so on.

In the Asia and Pacific Values Survey that we have been conducting since 2005, several questions regarding the aforementioned matters were included. Specifically, they delved into people's views on the existence of "god, gods or Buddha", "life after death", and "a soul or a spirit", as well as their views on "ghosts", "goblins" or "specter".

For the questions asking whether the respondent believes that "god, gods or Buddha", "life after death", and "a soul or a spirit" exist or not, we decided to offer three response choices of "exists", "may exist", and "does not exist". The response category of "may exist" was left deliberately vague, in order to capture any feeling certain people might harbor such that they would be hesitant to declare its non-existence. As we predicted, we can observe from the results that in Japan the "may exist" category was more likely to be selected than in other countries or areas. In addition, it is interesting that the Taiwanese were about as likely to say "may exist" as the Japanese (Table 1).

We attempted to analyze whether people's views about the existence or non-existence of "god, gods or Buddha" is associated with identification with a religious faith or not (Fig. 6). In Japan, in spite of the fact that the proportion of those who have a specific religious faith is low, 40% of the respondents chose "God, gods or Buddha exists", which



Note: The y-axis represents the percentage of people with a religious faith, and the x-axis represents the difference in the percentages of people who do or do not believe in the existence of God, Gods or Buddha.

Figure 6: Relationship Between Having a Religious Faith and the Answer to "Do You Believe in the Existence of God, Gods or Buddha?" in Different Countries and Regions.

is considerably more than the 15% who said they do not exist. In all countries except Japan and South Korea, when analyzed at the aggregate level of the country or region as a whole, the strength of the association between the difference of "exist" and "does not exist" and identification with a religious faith is linearly proportionate. While this is a rather interesting observation, Japan and South Korea are two outliers that deviate from this pattern of the linear association between the views on the existence of god, gods or Buddha, and identification with a religious faith. Furthermore, the pattern of association is actually the other way around in South Korea than it is in Japan, so that while the proportion of those with a religious faith was considerably higher in South Korea, people were more likely to say that they did not believe in the existence of god, gods or Buddha than to say that they exist. This indicates that the meaning of faith is different in Japan and Korea. That is, while we argued in Section 1 that a commonality between Japan and Korea is that both have low rates of the combination of having a religious faith and saying that having a religious mind is not important (in other words, those who express a religious faith are most likely to say that having a religious mind is important), from some other angles we can observe differences between the two countries.

Also, while the above-mentioned analysis ignored the middle category of "may exist", the South Koreans were the third most likely to say "do not exist" behind denizens of Beijing and Shanghai, so that the ambivalent category of "may exist" was not chosen frequently. We might say that this is a distinctive trait of Koreans.

Next, we categorized the samples into three groups: Group A: "religious faith – yes", Group B: "religious faith – no + having a religious mind is important", and Group C: "re-

ligious faith – no + having a religious mind is not important". We analyzed each group's respective relationships to other indicators of attitudes and feelings.

With regard to the relationship with the variable of whether respondents "respect ancestors or not", as predicted, this variable was associated with religion and the religious mind in Japan. We observed that the proportion of those who respect ancestors in Group A was higher than that in Group B or C. While our hypothesis was that this pattern of association with the respect-for-ancestors variable might be a distinctive quality of Asian countries, the analysis showed that with the exception of a slight association in Singapore, no clear pattern of association between religion or the religious mind and respect for ancestors was observed in Asian regions except Japan. On the other hand, in the six Western European countries, in a manner similar to that in Singapore, religion and respect for ancestors were associated, albeit not to the degree that they were in Japan.

With regard to the pattern of association of the three groups with the belief in life after death, a stronger association was observed in Hong Kong, South Korea, the USA, Singapore and Australia than in Japan. A similar pattern was also found with respect to the belief in a soul or a spirit. The implication is that Japan appears to show a distinctive pattern in terms of the relationship between religiosity and the belief in life after death, or in a soul or a spirit (Hayashi & Kotani, 2008).

In general, this classification in terms of religion and the religious mind can be observed to reveal certain patterns of association with many other things. However, since they are also strongly associated with age, it is difficult to tell whether the key influence comes from age or religiosity. Still, we believe that it is not meaningless to keep in mind that this may be an association that incorporates, and not excludes, the effect of age.

In Japan, there were a series of survey projects that tapped into the "religious mind" in the 1970s. Things like religious sentiments based on views of natural history, quotidian moral parables and sayings, emotions and feelings on something mystical or supernatural, and the understanding of eschatology, were probed into as components of the underlying structure in ways of thinking. These things were conceived of as essentially being the "spooky things", and so the project was nicknamed the "spook research" (Hayashi, C., 1972). It was later found that in general, people's thoughts and feelings about these "spooky things" were not related to religious faith. Nevertheless, we would like to discuss some of the questions included in this research as they are relevant in understanding the significance of the contrast between rationality and non-rationality. These questions did not merely ask whether respondents thought 12 selected types of "spooky presence" such as the Yeti (also known as the Abominable Snowman) existed or did not exist, but rather offered multiple response categories as "would like to see", "would not like to see", "scary", "fun", and so on, in order to tap into just what kinds of expressions come closest to the respondents' feelings in a more nuanced manner. Summing the proportions of people who selected response categories that involve some sort of mental interest, we found that the older, rather than the younger, and the more highly educated individuals were more likely to report such interest (Table 2). It may be said that this group of people are ones who tend to not be constricted by the narrow scope of "rationality". It is also possible that the location of people on such a dimension of the rationality – non-rationality continuum

Table 2: People's Views on Religion, Supernatural Power and Other Matters in Different Countries (Asia and Pacific Values Survey).

	Age (yr)	Japan %	Korea %	Beijing %	Shanghai %	Hong Kong %	Taiwan %	Singapore %	Australia %	USA %
Religious Faith	20–49	19	50	16	25	35	61	77	56	77
	50 and over	35	63	11	31	46	75	84	55	84
No religious faith and Religious mind important	20–49	46	29	32	19	36	23	8	12	7
	50 and over	44	22	26	12	26	14	5	12	7
God, gods or Buddha	20–49	82	54	52	57	82	90	92	76	90
	50 and over	81	54	28	53	67	88	93	79	93
Life after death	20–49	75	53	39	39	74	83	81	77	83
	50 and over	56	46	15	35	47	75	80	66	82
A soul or a spirit	20–49	83	62	49	48	78	88	86	85	92
	50 and over	70	56	26	39	56	81	86	80	91
Supernatural power or psychokinesis	20–49	71	63	56	46	62	71	67	63	52
	50 and over	48	47	41	40	41	52	48	52	42
UFO or alien	20–49	69	51	64	52	56	66	48	54	41
	50 and over	42	33	47	47	30	38	32	49	42
Specter or ogre	20–49	61	37	30	33	63	76	49	25	24
	50 and over	37	25	16	27	40	57	41	15	21
Ghost or apparition, curse	20–49	77	46	28	32	62	75	71	64	49
	50 and over	52	33	18	26	41	58	64	47	37

Note: For "God, gods or Buddha", "Life after death", and "A soul or a spirit", the numbers indicate the summed proportions of the "exist" and "may exist" responses. For the other items, the numbers indicate the summed proportions of all words that are construed as showing interest (cf. Note for Table 1).

has something to do with attitudes toward various issues that exist in society.

A similar kind of measurement instrument was used based on the above-mentioned kind of thinking in the survey on people's views on the safety of nuclear technology, conducted by the Institute of Nuclear Safety System in Japan in the 1990s. Further, associations between the above-mentioned "rationality – non-rationality" dimension and people's attitudes toward informing patients of terminal cancer were explored, and attempts were made to construct an instrument that would be able to distinguish those who would benefit from being informed from those who cannot be anticipated to benefit. That is, in some cases we would not necessarily be able to find out what the real feelings are by directly asking people whether they would like to be informed of such crisis situation or not. The point is that it might be possible to reduce the errors in judgment by knowing people's personalities in terms of the rationality- non-rationality dimension.

4. About the "Mind"

The phrase "religious mind" appears to be intuitively quite concrete and sensible for nearly everyone in Japan. However, in many other countries, especially in the West, it is

Table 3: Questions Used to Measure Views on Science.

I. Using the answers on this card, would you tell me how much you agree or disagree with each one of the following statements?
(1. Strongly agree 2. Agree to some extent 3. Disagree to some extent 4. Strongly disagree)
A. Some day science will permit the complete understanding of the functioning of the human mind.
B. Most of the social and economic problems we face today will be resolved by the advancement of science and technology.
C. At some point in the future, we can live on Mars as we live on the earth today.
II. How likely do you think that each of the following will be realized within the next 25 years or so? (1. Very likely 2. Possible 3. Not at all likely)
D. Safe method for nuclear wastes disposal E. Cure for cancer
F. Cure for senility G. Living at the space station

Table 3a: Views on Science (1) (Seven Nation Comparative Survey)

	Italy '92 N=1048	France '88 N=1013	West Germany '87 N=1000	HOL '93 N=1083	UK '87 N=1043	USA '88 N=1563	Japan '88 N=2265
A Strongly agree	15.5	26.8	9.1	11.1	12.4	18.6	2.5
Agree to some extent	36.8	37.9	25.3	20.9	37.3	39.2	11.3
B Strongly agree	13.5	15.5	7.3	7.7	9.5	12.2	2.7
Agree to some extent	38.8	33.8	36.7	27.5	33.3	34.7	12.4
C ——	—	—	—	—	—	—	—
D Very likely	34.3	28.4	17.1	24.3	33.7	32.2	33.4
E Very likely	62.2	68.3	36.5	44.0	63.5	61.9	65.1
F Very likely	24.6	23.4	16.8	26.8	11.7	25.0	28.7
G Very likely	12.1	23.4	35.6	20.7	32.7	41.3	19.3

Note: The percentages of subjects who had the indicated responses are shown. Statement C was not included in the Seven Nation Comparative Survey.

Table 3b: Views on Science (2) (Asia and Pacific Values Survey)

	Japan '04 N=1139	Beijing '06 N=1053	Shanghai '06 N=1062	Hong Kong '06 N=849	Taiwan '06 N=603	South Korea '06 N=1030	USA '06 N=901	Singapore '07 N=1032	Australia '07 N=700
A Strongly agree	1.5	4.4	8.3	3.1	4.5	3.7	16.8	9.8	18.7
Agree to some extent	9.5	36.1	28.5	31.8	37.5	24.9	46.5	54.9	46.6
B Strongly agree	0.9	9.3	9.5	3.7	6.0	4.6	9.4	8.6	7.3
Agree to some extent	10.3	46.2	39.7	36.3	47.4	38.4	38.5	52.4	33.6
C Strongly agree	1.6	6.5	8.9	3.1	4.0	3.0	5.5	4.7	3.3
Agree to some extent	23.8	42.4	37.7	44.2	42.3	41.4	19.3	41.1	28.0

Note: The percentages of subjects with the indicated responses are shown.

difficult to even arrive at a fixed translation to capture the intent. It may perhaps just be that the word "mind" conjures up something quite different in Japan than it does most everywhere else. Such inference is hinted at by the results from survey questions tapping into views on the nature of science and its possibilities.

Table 3 shows relevant questions on people's views of the role of science in civilization. Selected results from the Seven Nation Comparative Survey and the Asia and Pacific Values Survey are shown in Tables 3a and 3b, respectively.

We can observe that the Japanese have about the same level of optimism with regard to Statements C, D, E, and F as people living in most other countries or regions, but a greater number of people in Japan tend to think that issues of the "mind" and social and economic problems cannot be solved by science alone as represented in Statement A or B, respectively. With regard to Statement A, a greater percentage of people in Western countries "strongly agree" than do those in Asian countries, and so we can observe the presence of some "Europe vs. Asia" contrast as well. On the other hand, the Japanese response patterns with respect to Statements A and B characteristically show smaller percentages of people who "agree" than in other countries. It can be said that the Japanese tend to harbor sentiments that are quite unique in relation to the thinking on the "mind" among the countries and regions studied. It is perhaps also possible to interpret this as a difference that has to do with the thinking about "scientific technology", and further research is needed in order to delve more deeply into this theme.

When we speak of the "religious mind", we should be careful in interpreting the results of a survey research with an awareness of the implications of the meaning of the "mind". On the other hand, this does not necessarily mean that it is as simple as saying that the "religious mind" is uniquely Japanese in concept just because the meaning of the "mind" is unusual in Japan.

5. Conclusion

It is of great significance that the Japanese National Character Survey has been able to grasp the "religious mind" consistently, given that in recent years the issue of religion in Japan is increasingly being thought of as an issue that needs to be considered. It is all the more so as it is not possible to retroactively offer an empirical verification through research.

In Japan, while those who have a specific faith are few in number, not a small proportion of people believe that the religious mind is important and that god or Buddha exists. It is likely the case that individuals become increasingly likely to have a faith due to aging because of such a sociological foundation. We can also surmise that the ways of thinking about the "mind" may be quite unique in some yet unspecified way.

REFERENCES

Hayashi, C., et al. (1979). *Statistical Approach for Multidimensional Analysis—Theory and Application—*. ISM Research Report No.44, The Institute of Statistical Mathematics.

Hayashi, F., et al. (1996). *Nihonjin no Shizenkan* (Japanese View of Nature), Report of a workshop of the Institute of Nuclear Safety System (in Japanese).

Hayashi, F., et al. (2007). *A Survey for Japanese traditional culture in the daily life.* Report of the mail survey for the four wards in Yokohama City in 2006.

Hayashi, F. (2006). A Study of Religious Faith and Religious Feelings. *Japanese Journal of Behaviormetrics*, **33**, 13–24.

Hayashi, F. (2007). Research on Religious Faith and the Religious Mind Based on Cross-Cultural Surveys. *Annual of the Institute of Thanatology* (Toyo Eiwa University), LITHON, 129–154.

Hayashi, F. & Kotani, M. (2008). A Study on Religious Feeling. In *The proceeding of the 36th Conference of the Bahaviormetric Society* (pp.69–70).

Researcher Committee on the Study of the Japanese National Character. (2004). *A Study of the Japanese National Character—The Eleventh Nationwide Survey.* ISM Research Report No.92, The Institute of Statistical Mathematics.

Sasaki, M. & Suzuki, T. (1996). Changes in Religious Commitment in the United States, Holland, and Japan. In Inkeles, A & Sasaki, M. (Eds.), *Comparing Nations and Cultures—Readings in a Cross-Disciplinary Perspective* (pp.586–601). Englewood Cliffs, N.J.: Prentice-Hall.

Tokei Suri Kenkyujo Kokuminnsei Chosa IInkai. (1992). *Daigo Nihonjin no Kokuminsei* (The Fifth Study on the National Character of the Japanese). Tokyo: Idemitsu Shoten (in Japanese).

Tokei Suri Kenkyujo Kokuminsei Kokusai Chosa IInkai. (1998). *Kokuminsei Nanakamoku Chosa* (Research on Seven Aspects of the National Character). Tokyo: Idemitsu Shoten (in Japanese).

Yamamoto, K. & Mori, K. (1993). Research on National Character of Japanese-Brazilian: 1991–1992. ISM Research Report No.74, The Institute of Statistical Mathematics.

Yoshino, R., et al. (2000). *A Study of Statistical Science on Cultural Transmission: Japanese Americans on the West Coast Survey (JAWCS).* ISM Research Report No.84, The Institute of Statistical Mathematics.

Yoshino, R. (2005). *The Asia Value Survey—Japan 2004B Survey. The Research Committee of Cross-National Comparative Survey.* Tokyo: The Institute of Statistical Mathematics.

Yoshino, R. (2008). *The Asia & Pacific Value Survey—India 2008 Survey. The Research Committee of Cross-National Comparative Survey.* Tokyo: The Institute of Statistical Mathematics.

(Received June 24 2009, Revised July 21 2009)

5. 調査票

本報告書に掲載する調査原票は、調査を実施した現地調査会社より Word 形式、PDF 形式で送られた「最終版」であり、実際の調査で使用された「実際版」とは一部異なる。「最終版」と「実際版」との違いを以下に示す。

USA 調査

実際の調査で使用された調査票は、縦横 35.3×21.5 ㎝であり、例えば 1 ページ目に Q5 までが印刷されている。

インド調査票 Hindu 語版

Q9　実際版では、選択肢８の下に括弧なし

Q18　実際版では、選択肢８の下に括弧なし

Q21　実際版では、yes と no の間に区切り線

Q22　実際版では、選択肢番号は「1」「2」・・・
質問文の始めに“Whom would you go to for advice when you have worries about your personal problems and important matters”が抜けている

Q42b　実際版では、選択肢番号は「1」「2」・・・

Q52　実際版では、選択肢番号は「1」「2」・・・

F2　実際版では、選択肢番号は「1」「2」・・・

a. 日本調査原票

4376 号調査

生活と文化に関する世論調査
（東アジア調査・日本 04A）

平成 16 年 11 月

社団法人　新情報センター

地点番号				対象番号		調査員氏名	点検者氏名

(1)～(6)　　(7)=1

第 1 回　訪問日時	第 2 回　訪問日時	第 3 回　訪問日時	第 4 回　訪問日時
日　午前 午後　時 分頃	日　午前 午後　時 分頃	日　午前 午後　時 分頃	日　午前 午後　時 分頃
第 5 回　訪問日時	**第 6 回　訪問日時**	**第 7 回　訪問日時**	**第 8 回　訪問日時**
日　午前 午後　時 分頃	日　午前 午後　時 分頃	日　午前 午後　時 分頃	日　午前 午後　時 分頃

【自己紹介】

こんにちは（こんばんは）。私は、社団法人・新情報センターからきた（身分証を見せ、調査員の名前をいう）と申します。きょうは（旧文部科学省）大学共同利用法人・統計数理研究所の委託で、世界の人々の生活や文化、意識の比較資料を集めるために、日本での調査にうかがいました。調査の内容は、答えてくださった方々の全体の統計数字のみが使われるだけで、それぞれの個人のご回答はあくまでも秘密厳守され、他の目的につかわれることは一切ありません。もし、この規則をわれわれが破ると罰せられることもあるので、絶対に個人情報をもらすことはありませんので、どうぞよろしくご協力お願いいたします。

問 1　**〔カード 1〕**日本人全体の生活水準は、これから先の 5 年間によくなると思いますか、それとも悪くなると思いますか。

1　非常によくなるだろう
2　ややよくなるだろう
3　変わらないだろう
4　ややわるくなるだろう
5　非常にわるくなるだろう
8　その他（記入　　）　(8)
9　わからない

問 2　**〔カード 2〕**今後、日本のために、一番に友好を深めていくべき国や地域は、次の中ではどこでしょう。**1 つ**だけ選んで下さい。

1　アメリカ合衆国
2　ＥＵ（ヨーロッパ連合）
3　中国（本土）
4　韓国
5　中国（本土）や韓国以外のアジアの国
8　その他（記入　　）　(9)
9　わからない

問３　**〔カード３〕**もし、もういちど生まれ変われるとしたら、日本以外のアジアの国（地域）の中では、どの国（地域）に生まれたいですか。**１つ**だけ選んで下さい。

1　中国（本土）　　4　香港　　7　シンガポール
2　韓国　　5　インド　　8　その他（記入　　）
3　台湾　　6　フィリピン　　9　わからない

(10)

問４　では、もういちど生まれかわるとしたら、あなたは男と女の、どちらに、生まれてきたいと思いますか。

1　男に
2　女に
8　その他（記入　　）
9　わからない

(11)

今度は、家庭や暮らしについておうかがいいたします。

問５　あなたはどちらかといえば、普通より先祖を尊ぶ方ですか、それとも普通より尊ばない方ですか。

1	2	3	8	9
普通より尊ぶ方	普通より尊ばない方	普通	その他（記入　　）	わからない

(12)

問6　子供がないときは、血のつながりがない他人の子供を、養子にとって家をつがせた方がよいと思いますか、それとも、つがせる必要はないと思いますか。

1	2	3	8	9
つがせた方がよい	つがせる必要はない	場合による	その他（記入　　）	わからない

(13)

問７　現在、一般的な家庭にとって望ましい子供の数は何人だと思いますか。

□人　　9 わからない

(14)

問８　**〔カード４〕**一般に、人のくらし方には、いろいろあるでしょうが、つぎにあるもののうちで、どれが一番、あなた自身の気持に近いものですか。**（１つ選択）**

1　あやまちをおかさず、まじめに生きること
2　ボランティア活動などをして、社会のためにつくすこと
3　一生けんめい働き、金持ちになること
4　まじめに勉強して、名をあげること
5　金や名誉を考えずに、自分の趣味にあったくらし方をすること
6　その日その日を、のんきにクヨクヨしないでくらすこと
8　その他（記入　　）
9　わからない

(15)

問9 **〔カード5〕**あなたは次のような価値観についてどう思いますか。

	全くそのとおりだと思う	そう思う	そうは思わない	決してそうは思わない	その他	わからない	
a．先祖を尊ぶべき……	1	2	3	4	8	9	(16)
b．長男は両親の面倒を見るべき……	1	2	3	4	8	9	(17)
c．妻は夫に従う……	1	2	3	4	8	9	(18)
d．親が反対する結婚はしない……	1	2	3	4	8	9	(19)
e．年上の人の意見に従う……	1	2	3	4	8	9	(20)
f．家系を続かせるため息子は必要だ……	1	2	3	4	8	9	(21)
g．男性は外で働き、女性は家庭を守るべき…	1	2	3	4	8	9	(22)

問10a．それでは、あなたが一番尊敬する職業は何ですか。（もし回答者が複数あげた場合は、すべて記す）

（記入）　　9 わからない　(23)

b．では、ご自身が実際につきたいと思う職業は何ですか。

（もし回答者が複数あげた場合は、すべて記す）

（記入）　　9 わからない　(24)

問11 **〔カード6〕**実際に今、働いているかどうかは別にして、もしあなたが働いているとした時、あなたの職場では良きリーダーはどんな資質を持っているべきでしょうか。最も重要なものを**3つ**、次の中から選んで下さい。**（3つ選択）**

1 技術的に優れていること
2 部下を公平に扱うこと
3 部下に尊敬され、好かれていること
4 真剣に仕事に取り組むこと
5 人間関係がよい、顔が広いこと
6 仕事仲間に誠心誠意、接すること
7 決断力がある、断固としていること　(25)(26)
8 判断力が優れていること
9 部下に利益をもたらすこと
10 年功を積んでいること
11 よい階級の出身であること

問 12 〔カード7〕あなたと同じ年の人と比べて、あなたの健康状態はいかがですか。

1 非常に満足している
2 満足している
3 あまり満足していない
4 満足していない
8 その他（記入 ）
9 わからない

(27)

問 13 〔カード8〕かりに現在の日本社会全体を、ここに書いてあるように5つの層に分けるとすれば、お宅はこのどれにはいると思いますか。

1 上　2 中の上　3 中の中　4 中の下　5 下　8 その他（記入 ）　9 わからない

(28)

問 14 〔カード9〕あなたは次のうちどちらが好ましいと思いますか。

1 収入が増えること
2 余暇(自由な時間)が増えること
8 その他（記入 ）
9 わからない

(29)

問 15 もし、一生、楽に生活できるだけのお金がたまったとしたら、あなたはずっと働きますか、それとも働くのをやめますか。

1 ずっと働く　2 働くのをやめる　8 その他（記入 ）　9 わからない

(30)

問 16 〔カード10〕ここに仕事について、ふだん話題になることがあります。
あなたは、どれに一番関心がありますか。**（1つ選択）**

1 お金のことを気にしないですむ程、よい給料
2 倒産や失業の恐れがない仕事
3 気の合った人たちと働くこと
4 やりとげたという感じがもてる仕事
8 その他（記入 ）
9 わからない

(31)

問 17 〔カード11〕ときどき、自分自身のことや家族のことで不安になることもあるかもしれません。
あなたは、次のような危険について不安を感じることがありますか。

	非常に感じる	かなり感じる	少しは感じる	全く感じない	その他	わからない	
a．まず、「重い病気」の不安はどの程度でしょうか。……	1	2	3	4	8	9	(32)
b．では、「交通事故」についてはどうでしょうか。……	1	2	3	4	8	9	(33)
c．では、「失業」についてはどうでしょうか。……	1	2	3	4	8	9	(34)
d．では、「戦争」についてはどうでしょうか。……	1	2	3	4	8	9	(35)

問 18　〔カード 12〕次にあげる生活領域のそれぞれについて、あなたが重要だと思う程度に従って１～７の評価をつけてください。

	重要でない						重要	その他	わからない	(該当せず)	
a．まず、「あなた自身の家族や子供」についてはどうですか。……	1	2	3	4	5	6	7	8	9		(36)
b．では、「職業や仕事」についてはどうですか。……	1	2	3	4	5	6	7	8	9		(37)
c．では、「自由になる時間とくつろぎ」についてはどうですか。……	1	2	3	4	5	6	7	8	9		(38)
d．では、「友人、知人」については……	1	2	3	4	5	6	7	8	9		(39)
e．では、「両親、兄弟、姉妹、親戚」については……	1	2	3	4	5	6	7	8	9		(40)
f．では、「宗教」については……	1	2	3	4	5	6	7	8	9		(41)
g．では、「政治」については……	1	2	3	4	5	6	7	8	9		(42)

問 19　〔カード 13〕あなたは自分の家庭に満足していますか、それとも不満がありますか。

1	2	3	4	5	8	9	
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	その他（記入　　）	わからない	(43)

問 20　〔カード 14〕あなたの生活についておききします。ひとくちにいってあなたは今の生活に満足していますか、それとも不満がありますか。

1	2	3	4	5	8	9	
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	その他（記入　　）	わからない	(44)

問21　ここ１ヶ月の間につぎにあげるものに悩みましたか（かかりましたか）。　**（１つずつ聞く）**

	あり	なし	
a．頭痛・偏頭痛・頭が重い ……	1	2	(45)
b．背中の痛み（肩こりや腰痛など） ……	1	2	(46)
c．いらいら ……	1	2	(47)
d．うつ状態（ゆううつになる、気がふさぐ） ……	1	2	(48)
e．不眠症（よく眠れない） ……	1	2	(49)

8　その他（記入　　）　(50)

9　わからない

問22　〔カード 15〕それでは、あなたは悩みごとや重大な相談事を、まずどなたに相談していますか、あるいは、するとおもいますか。次の中から**1つ**だけ選んで下さい。

1　父親
2　母親
3　きょうだい
4　配偶者やパートナー（夫や妻）
5　その他の家族や親戚
6　（職場や学校、近所の）友人・知人　(51)
7　（電話やインターネットなど）匿名で相談できるところ
8　その他（記入　　）
9　相談できる人がいない
10　特に悩みはない

問23　〔カード 16〕いまの社会で成功している人をみて、その人の成功には、個人の才能や努力と、運やチャンス、あるいは血縁・地縁・学閥などの人のつながりの、どれが一番大きな役割をはたしていると思いますか。**（1つ選択）**

1	2	3	8	9	(52)
個人の才能や努力	運やチャンス	血縁・地縁・学閥などの人のつながり	その他（記入　　）	わからない	

問24　〔カード 17〕世間でときどき話題になることをおうかがいします。このカードにある「超能力」や「空飛ぶ円盤」などについて、あなたはどんな感じをもちますか。1から8までの言葉をよくごらんになって、それぞれについて、あなたの気持にもっともピッタリする言葉を**1つずつ**選んでください。

	つまらない	あってほしいいてほしい	いる・ある	おそろしいこわい	あってほしくないいてほしくない	たのしいおもしろい	ばかばかしいいない・ない	おそろしくないこわくない	その他	わからない	
a．超能力（ちょうのうりょく）や念力……	1	2	3	4	5	6	7	8	80	99	(53)
b．空飛ぶ円盤や宇宙人……	1	2	3	4	5	6	7	8	80	99	(54)
c．妖怪（ようかい）や鬼……	1	2	3	4	5	6	7	8	80	99	(55)
d．幽霊（ゆうれい）や亡霊（ぼうれい）、人のたたり…	1	2	3	4	5	6	7	8	80	99	(56)

問 25　こういう意見があります。

「世の中は、だんだん科学や技術が発展して、便利になって来るが、それにつれて人間らしさがなくなって行く」

というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

1　賛成（人間らしさはへる）
2　反対（人間らしさ、不変、ふえる）
3　いちがいにはいえない
8　その他（記入　　）
9　わからない　(57)

問 26　こういう意見があります。

「国をよくするためには、すぐれた政治家がでてきたら、国民がたがいに議論をたたかわせるよりはその人達にまかせる方がよい」

というのですが、あなたはこれに賛成ですか、それとも反対ですか。

1　賛成（まかせる）
2　反対（まかせっきりはいけない）
3　いちがいにはいえない
8　その他（記入　　）　(58)
9　わからない

問 27　つぎのような考え方があります。

「家庭は、ここちよく、くつろげる、ただ１つの場所である」

というのですが、あなたはそう思いますか、そうは思いませんか。

1 そう思う　2 そうは思わない　8 その他（記入　　）　9 わからない　(59)

問 28　**〔カード 18〕**つぎの３つの意見の中で、どれが一番あなたの意見に近いですか。

1　離婚はすべきではない
2　ひどい場合には、離婚してもよい
3　二人の合意さえあれば、いつ離婚してもよい
8　その他（記入　　）
9　わからない　(60)

問 29　**〔カード 19〕**自然と人間との関係について、つぎのような意見があります。あなたがこのうち真実に近い（ほんとうのことに近い）と思うものを、**１つ**だけ選んでください。

1　人間が幸福になるためには、自然に従わなければならない
2　人間が幸福になるためには、自然を利用しなければならない
3　人間が幸福になるためには、自然を征服していかなければならない
8　その他（記入　　）
9　わからない　(61)

問 30　**〔カード 20〕**あなたはつぎの意見の、どちらに賛成ですか。**1 つ**だけあげてください。

1　個人が幸福になって、はじめて国全体がよくなる
2　国がよくなって、はじめて個人が幸福になる
3　国がよくなることも、個人が幸福になることも同じである　(62)
8　その他（記入　　）
9　わからない

問 31　こういう意見があります。

「どんなに世の中の機械化や情報化が進んでも、人の心の豊かさ（人間らしさ）はへりはしない」というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

1　反対（へる）　　8　その他（記入　　）
2　賛成（へらない）　　9　わからない　(63)
3　いちがいにはいえない

問 32　**〔カード 21〕**次にあげるものをあなたは「ある」または「存在する」と思いますか。
それぞれについてお答え下さい。**（1 つずつ聞く）**

	ある・存在する	あるかもしれない	ない・存在しない	その他	わからない	
a．神や仏 ……	1	2	3	8（　）	9	(64)
b．死後の世界 ……	1	2	3	8（　）	9	(65)
c．霊魂（たましい） ……	1	2	3	8（　）	9	(66)

問 33　**〔カード 22〕**つぎのうち、大切なことを**2 つ**あげてくれといわれたら、どれとどれにしますか。
（この質問では、2 つの項目をあげてもらうこと）

	あり	なし	
a．親孝行、親に対する愛情と尊敬……	1	0	(67)
b．助けてくれた人に感謝し、必要があれば援助する……	1	0	(68)
c．個人の権利を尊重すること……	1	0	(69)
d．個人の自由を尊重すること……	1	0	(70)

8　その他（記入　　）　(71)
9　わからない

問 34a.〔カード 23〕さて、あなたが、ある会社の社長だったとします。その会社で、新しく職員を 1 人採用するために試験をしました。入社試験をまかせておいた課長が、

「社長のご親戚(しんせき)の方は 2 番でした。しかし、私としましては、1 番の人でも、ご親戚(しんせき)の方でも、どちらでもよいと思いますがどうしましょうか」

と社長のあなたに報告しました。

あなたはどちらをとれ（採用しろ）といいますか。

1　1 番の人を採用するようにいう
2　親戚(しんせき)を採用するようにいう
8　その他（記入　　）
9　わからない

(72)

---

b.〔カード 24〕それでは、この場合 2 番になったのがあなたの親戚(しんせき)の子供でなくて、あなたが昔世話になった人の子供だったとしたら、あなたはどうしますか。（どちらをとれといいますか）

1　1 番の人を採用するようにいう
2　昔世話になった人の子供を採用するようにいう
8　その他（記入　　）
9　わからない

(73)

問 35　〔カード 25〕ある会社につぎのような 2 人の課長がいます。もしあなたが使われるとしたら、どちらの課長に使われる方がよいと思いますか。どちらか 1 つあげてください。

1　規則をまげてまで、無理な仕事をさせることはありませんが、仕事以外のことでは人のめんどうを見ません
2　時には規則をまげて、無理な仕事をさせることもありますが、仕事のこと以外でも人のめんどうをよく見ます
8　その他（記入　　）
9　わからない

(74)

問 36　さて、たいていの人は、他人の役にたとうとしていると思いますか、それとも自分のことだけ考えていると思いますか。

1　他人の役にたとうとしている
2　自分のことだけ考えている
8　その他（記入　　）
9　わからない

(75)

問 37　他人は、機会があれば、あなたを利用しようとしていると思いますか、それともそんなことはないと思いますか。

1　他人は機会があれば利用しようとしていると思う
2　そんなことはないと思う
8　その他（記入　　）　(76)
9　わからない

問 38　たいていの人は信頼できると思いますか、それとも、常に用心した方がよいと思いますか。

1	2	8	9	(77)
信頼できると思う	常に用心した方がよい	その他（記入　　）	わからない	

問 39a.〔**カード 26**〕次のような状況を思いうかべて下さい。南山さんという人は、小さいときに両親に死に別れ、となりの親切な西木野さんに育てられて、大学まで卒業させてもらいました。そして、南山さんはある会社の社長にまで出世しました。ところが故郷の、育ててくれた、西木野さんが「キトクだからスグカエレ」という緊急連絡を受け取ったとき、南山さんの会社がつぶれるか、つぶれないか、ということがきまってしまう大事な会議があります。

あなたはつぎのどちらの態度をとるのがよいと思いますか。よいと思う方を**1つ**だけえらんでください。

1　なにをおいても、すぐ故郷に帰る
2　故郷のことが気になっても、大事な会議に出席する
8　その他（記入　　）　(78)
9　わからない

……

b.いまの質問では、恩人が死にそうなときを、うかがいましたが、もしキトクなのが恩人ではなくて、南山さんの親だったら、どうしたらよいと思いますか、どちらかえらんで下さい。

1　なにをおいても、すぐ故郷に帰る
2　故郷のことが気になっても、大事な会議に出席する
8　その他（記入　　）　(79)
9　わからない

問 40　〔**カード 27**〕つぎに読みあげる事柄についてあなたはどう思いますか。

それぞれについて、この中からお答えください。**（a～dについてそれぞれ聞く）**

a．病気の中には近代医学とは別の方法で治療した方がよいものもある。

1　全くそのとおりだと思う　　4　決してそうは思わない
2　そう思う　　8　その他（記入　　）　(80)
3　そうは思わない　　9　わからない

(7)=2

b．科学技術が発展すれば、いつかは人間の心の中までも解明できる。

1　全くそのとおりだと思う　　4　決してそうは思わない

2　そう思う　　8　その他（記入　　）　(8)

3　そうは思わない　　9　わからない

---

c．今日（こんにち）、我々が直面している経済的、社会的問題のほとんどは科学技術の進歩により解決される。

1　全くそのとおりだと思う　　4　決してそうは思わない

2　そう思う　　8　その他（記入　　）　(9)

3　そうは思わない　　9　わからない

---

d．将来、科学技術の発展により、火星でも、地球と同じような生活ができるようになる。

1　全くそのとおりだと思う　　4　決してそうは思わない

2　そう思う　　8　その他（記入　　）　(10)

3　そうは思わない　　9　わからない

問41　日本文化ときいて、まず思い浮かべることは何ですか。

（もし回答者が複数あげた場合は、すべて記す）

（記入）　　9 わからない　(11)

問42a．宗教についておききしたいのですが、たとえば、あなたは、何か信仰とか信心とかを持っていますか。

1 もっている、信じている　　2 もっていない、信じていない 関心がない　(12)

→（問43へ）

---

b．（問42aで「1　もっている、信じている」と回答した人に）

それは何という宗教ですか。**（1つ選択）**

1　仏教系

2　神道系

3　キリスト教

8　その他の宗教（記入　　）　(13)

9　わからない

問 43　それでは、いままでの宗教にはかかわりなく、「宗教的な心」というものを、大切だと思いますか、それとも大切だとは思いませんか。

1 大 切　　2 大切でない　　8 その他（記入　　）　　9 わからない　(14)

問 44　宗教について、こんな意見があります。

「宗教にはいろいろあり、それぞれ独自の教えを説いているが、そうした教えは、けっきょくは同じものだ」というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

1 賛 成　　2 反 対　　8 その他（記入　　）　　9 わからない　(15)

今度は、法律についてお聞きします。

問 45　「法律はどんなときにも守るべきである」という意見と「目的が本当に正しいものだと確信がもてるときには、法律をやぶることもやむをえない」という意見があります。どちらの考えがあなたにぴったりしますか。

1　「どんなときにも守るべきだ」という意見
2　「目的が正しい時には、法律をやぶることもやむをえない」という意見　(16)
8　その他（記入　　）
9　わからない

問 46　**〔カード 28〕**契約書というものについて、あなたは次の A さんと B さんの意見のうち、どちらに近いですか。

A　「契約書をとりかわすなどというのは、お互いに信頼し合っていない証拠だ。信頼し合っていれば、契約書など必要ない」

B　「いくらお互いに信頼し合っていても、契約は契約として、ちゃんと文書をとりかわしておく方がよい」

1　A の意見に近い
2　B の意見に近い　(17)
8　その他（記入　　）
9　わからない

問 47　**〔カード 29〕**また、次のＡさんとＢさんの意見ではどちらに近いですか。

Ａ「契約書をとりかわすときでも、契約などというものは形式的なものだから、できるだけ簡単にして、契約書の表現もできるだけ融通がきくようなものにしておく方がよい」

Ｂ「契約書というものは、あとで解釈などをめぐってもめないように、できるだけこまかく具体的にキチッと決めておく方がよい」

1　Ａの意見に近い
2　Ｂの意見に近い
8　その他（記入　　）
9　わからない

(18)

問 48　**〔カード 30〕**環境保護と経済成長について、次の 2 つの意見がよく出されます。どちらがあなたの考えに近いですか。

1　経済がある程度悪化しても、環境保護が優先されるべきだ
2　環境がある程度悪化しても、経済成長が優先されるべきだ
8　その他（記入　　）
9　わからない

(19)

問 49　あなたにとって一番大切と思うものはなんですか。**（もし回答者が複数あげた場合は、すべて記す）**

（記入）	9 わからない

(20)

問 50　**〔カード 31〕**あなたは、次にあげる組織や制度、事がらをどの程度信頼しますか。「非常に信頼する」「やや信頼する」「あまり信頼しない」「全く信頼しない」のいずれかでお答え下さい。

（１つずつ聞く）

	非常に信頼する	やや信頼する	あまり信頼しない	全く信頼しない	わからない	
ａ．宗教団体	1	2	3	4	9	(21)
ｂ．法律や裁判の制度	1	2	3	4	9	(22)
ｃ．新聞・テレビ	1	2	3	4	9	(23)
ｄ．警察	1	2	3	4	9	(24)
ｅ．国の行政	1	2	3	4	9	(25)
ｆ．国会	1	2	3	4	9	(26)
ｇ．NPO・NGO(非営利団体や非政府組織)	1	2	3	4	9	(27)
ｈ．社会福祉施設	1	2	3	4	9	(28)
ｉ．国連	1	2	3	4	9	(29)
ｊ．科学技術	1	2	3	4	9	(30)

問 51 **〔カード 32〕**現在、世界中にいろいろな宗教があり、宗教間の対立による争いが起こっていますが、これからの世界の人々は、どのようにすべきと思いますか。次のうち、どれがあなたのお考えに近いですか。次の中から**1つ**だけ選んでください。

1　世界の人々は、自分の宗教を広めるべき
2　世界の人々は、自分の宗教を世界に理解させることに努力するべき
3　世界の人々は、他のいろいろな宗教を理解することに努力するべき
4　世界の人々は、理解するかどうかは別として、お互いの宗教を尊重するべき　(31)
8　その他（記入　　）
9　わからない

問 52 **〔カード 33〕**あなたは、現在、何らかの組織やクラブの会員になっていますか。このカードをご覧になって、どれに所属しているのか教えてください。**いくつでも**よいです。**（いくつでも）**

1　自治会、町内会
2　ＰＴＡ、父母の会
3　婦人会、老人会、青年会や青少年団体（ボーイ・スカウト/ガール・スカウトなど）
4　消防団、防犯協会
5　農協、漁協、森林組合
6　商工会、その他の業界団体
7　労働組合
8　スポーツ、レクリエーション、趣味・文化サークル　(32)(33)
9　県人会、同窓会、ＯＢ会
10　宗教団体
11　生協（生活協同組合）、消費者運動
12　政治団体、後援会
13　市民団体、住民運動、環境・自然保護団体
88　その他（記入　　）
99　どれにも入っていない

＜フェース・シート＞

（最後に、あなたご自身のことについてお伺いします。）（この部分は回答者に記入させてもよい。）

F1 〔性　別〕

1	2	
男　性	女　性	(34)

F2 〔年　齢〕あなたのお年は満でおいくつですか。 □□ 歳 (35)(36)

1	20～24歳	5	40～44歳	9	60～64歳
2	25～29歳	6	45～49歳	10	65～69歳
3	30～34歳	7	50～54歳	11	70歳以上
4	35～39歳	8	55～59歳		

(37)(38)

F3 〔学　歴〕**〔カード34〕**あなたが最後に卒業された学校はどちらですか。

（中退・在学中は卒業としてお答えください。）

1	2	3	4	5	
小学校・中学校（及び旧高小）	高　校（及び旧中）	短　大・専門学校	大　学・大学院	不明	(39)

F4 〔職　業〕あなたのご職業は何ですか。

（具体的に記入して、下記の該当するものに○をする）

自営者			被傭者				家族従業員			無　職			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	(40)(41)
農林漁業	商工サービス業	自由業	管理職	専門・技術職	事務職	労務職	農林漁業	商工サービス業	自由業	無職の主婦	学生	その他の無職	

F5 〔世帯収入〕**〔カード35〕**では、お宅の収入は、ご家族全部合わせて、過去1年間でおよそどれくらいになりましたか。この中ではどうでしょうか。ボーナスも含め、税込みでお答えください。

1	200万円未満	6	1,000万円～1,500万円未満	(42)
2	200万円～400万円未満	7	1,500万円～2,000万円未満	
3	400万円～600万円未満	8	2,000万円以上	
4	600万円～800万円未満	9	わからない	
5	800万円～1,000万円未満			

F6 〔同居人数〕今、ごいっしょにお住まいの方は、あなた御自身をふくめて、何人でしょうか。

□ 人　　99 わからない (43)(44)

F7　〔同居形態〕**〔カード 36〕**現在、あなたは誰と一緒にお住まいですか。次から、**いくつでも**いいですのでお選び下さい。**（いくつでも）**

1　本人だけ（独り暮らし）
2　配偶者（妻、夫、パートナー）
3　親　(45)
4　子供
5　親戚
6　それ以外の人（記入　　）
9　わからない

ご協力ありがとうございました。

〔カード　1〕　問 1　　(No.4376)

1　非常によくなるだろう

2　ややよくなるだろう

3　変わらないだろう

4　ややわるくなるだろう

5　非常にわるくなるだろう

〔カード　2〕　問 2

1　アメリカ合衆国

2　ＥＵ（ヨーロッパ連合）

3　中　国　（本　土）

4　韓　国

5　中国（本土）や韓国以外のアジアの国

〔カード　3〕　問3

1　中　国　（本　土）

2　韓　国

3　台　湾

4　香　港

5　インド

6　フィリピン

7　シンガポール

〔カード　4〕　問8

1　あやまちをおかさず、まじめに生きること

2　ボランティア活動などをして、社会のためにつくすこと

3　一生けんめい働き、金持ちになること

4　まじめに勉強して、名をあげること

5　金や名誉を考えずに、自分の趣味にあったくらし方をすること

6　その日その日を、のんきにクヨクヨしないでくらすこと

〔カード　5〕　問9

a．先祖を尊ぶべき

b．長男は両親の面倒を見るべき

c．妻は夫に従う

d．親が反対する結婚はしない

e．年上の人の意見に従う

f．家系を続かせるため息子は必要だ

g．男性は外で働き、女性は家庭を守るべき

1	2	3	4
全くそのとおりだと思う	そう思う	そうは思わない	決してそうは思わない

〔カード　6〕　問11

（３つ選ぶ）

1　技術的に優れていること

2　部下を公平に扱うこと

3　部下に尊敬され、好かれていること

4　真剣に仕事に取り組むこと

5　人間関係がよい、顔が広いこと

6　仕事仲間に誠心誠意、接すること

7　決断力がある、断固としていること

8　判断力が優れていること

9　部下に利益をもたらすこと

10　年功を積んでいること

11　よい階級の出身であること

〔カード　7〕　問 12

1　非常に満足している

2　満足している

3　あまり満足していない

4　満足していない

〔カード　8〕　問 13

1　上

2　中　の　上

3　中　の　中

4　中　の　下

5　下

〔カード　9〕　問 14

1　収入が増えること

2　余暇(自由な時間)が増えること

〔カード　10〕　問 16

1　お金のことを気にしないですむ程、よい給料

2　倒産や失業の恐れがない仕事

3　気の合った人たちと働くこと

4　やりとげたという感じがもてる仕事

〔カード　11〕　問 17

a．まず、「重い病気」の不安はどの程度でしょうか。

b．では、「交通事故」についてはどうでしょうか。

c．では、「失業」についてはどうでしょうか。

d．では、「戦争」についてはどうでしょうか。

1	2	3	4
非常に感じる	かなり感じる	少しは感じる	全く感じない

〔カード　12〕　問 18

a．「あなた自身の家族や子供」

b．「職業や仕事」

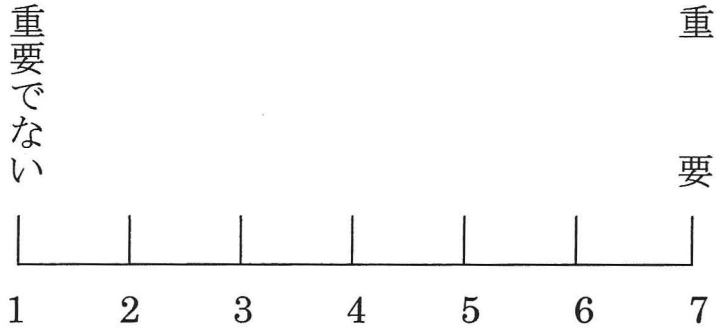
c．「自由になる時間とくつろぎ」

d．「友人、知人」

e．「両親、兄弟、姉妹、親戚」

f．「宗教」

g．「政治」



〔カード　13〕　問 19

1　満　　足

2　やや満足

3　どちらともいえない

4　やや不満

5　不　　満

〔カード　14〕　問 20

1　満　　足

2　やや満足

3　どちらともいえない

4　やや不満

5　不　　満

〔カード　15〕　問 22

1　父親

2　母親

3　きょうだい

4　配偶者やパートナー（夫や妻）

5　その他の家族や親戚

6　（職場や学校、近所の）友人・知人

7　（電話やインターネットなど）匿名で相談できるところ

〔カード　16〕　問 23

1　個人の才能や努力

2　運やチャンス

3　血縁・地縁・学閥などの人のつながり

〔カード　17〕　問 24

a．超能力（ちょうのうりょく）や念力

b．空飛ぶ円盤や宇宙人

c．妖怪や鬼

d．幽霊（ゆうれい）や亡霊（ぼうれい）、人のたたり

1 つまらない
2 あってほしい
3 いる・ある
4 おそろしい
こわい
5 あってほしくない
いてほしくない
6 おもしろい
たのしい
7 ばかばかしい
いない・ない
8 おそろしくない
こわくない

〔カード　18〕　問 28

1　離婚はすべきではない

2　ひどい場合には、離婚してもよい

3　二人の合意さえあれば、いつ離婚してもよい

〔カード　19〕　問 29

1　人間が幸福になるためには、
自然に従わなければならない

2　人間が幸福になるためには、
自然を利用しなければならない

3　人間が幸福になるためには、
自然を征服していかなければならない

〔カード　20〕　問 30

1　個人が幸福になって、はじめて国全体が
よくなる

2　国がよくなって、はじめて個人が幸福になる

3　国がよくなることも、個人が幸福になること
も同じである

〔カード　21〕　問 32

a．神や仏

b．死後の世界

c．霊魂（たましい）

1	2	3
ある・存在する	あるかもしれない	ない・存在しない

〔カード　22〕　問 33

（２つ選ぶ）

a．親孝行、親に対する愛情と尊敬

b．助けてくれた人に感謝し、必要があれば援助する

c．個人の権利を尊重すること

d．個人の自由を尊重すること

〔カード　23〕　問 34 a

1　１番の人を採用するようにいう

2　親戚（しんせき）を採用するようにいう

〔カード　24〕　問 34 b

1　１番の人を採用するようにいう

2　昔世話になった人の子供を採用するようにいう

〔カード　25〕　問 35

1　規則をまげてまで、無理な仕事をさせることはありませんが、仕事以外のことでは人のめんどうを見ません

2　時には規則をまげて、無理な仕事をさせることもありますが、仕事のこと以外でも人のめんどうをよく見ます

〔カード　26〕　問 39 a

南山さんという人は、小さいときに両親に死に別れ、となりの親切な西木野さんに育てられて、大学まで卒業させてもらいました。そして、南山さんはある会社の社長にまで出世しました。

ところが故郷の、育ててくれた、西木野さんが「キトクだからスグカエレ」という緊急連絡を受け取ったとき、南山さんの会社がつぶれるか、つぶれないか、ということがきまってしまう大事な会議があります。

あなたはつぎのどちらの態度をとるのがよいと思いますか。よいと思う方を**1つ**だけえらんでください。

1　なにをおいても、すぐ故郷に帰る

2　故郷のことが気になっても、大事な会議に出席する

〔カード　27〕　問 40

1　全くそのとおりだと思う

2　そう思う

3　そうは思わない

4　決してそうは思わない

〔カード　28〕　問 46

A「契約書をとりかわすなどというのは、
お互いに信頼し合っていない証拠だ。
信頼し合っていれば、契約書など必要ない」

B「いくらお互いに信頼し合っていても、
契約は契約として、ちゃんと文書を
とりかわしておく方がよい」

〔カード　29〕　問 47

A「契約書をとりかわすときでも、
契約などというものは形式的なものだから、
できるだけ簡単にして、契約書の表現も
できるだけ融通(ゆうずう)がきくようなものに
しておく方がよい」

B「契約書というものは、
あとで解釈などをめぐってもめないように、
できるだけこまかく具体的にキチッと
決めておく方がよい」

〔カード　30〕　問 48

1　経済がある程度悪化しても、
環境保護が最優先されるべきだ

2　環境がある程度悪化しても、
経済成長が最優先されるべきだ

〔カード　31〕　問 50

a．宗教団体
b．法律や裁判の制度
c．新聞・テレビ
d．警察
e．国の行政
f．国会
g．NPO・NGO（非営利団体や非政府組織）
h．社会福祉施設
i．国連
j．科学技術

1	2	3	4
非常に信頼する	やや信頼する	あまり信頼しない	全く信頼しない

〔カード　32〕　問 51

1　世界の人々は、自分の宗教を広めるべき

2　世界の人々は、自分の宗教を世界に理解させることに努力するべき

3　世界の人々は、他のいろいろな宗教を理解することに努力するべき

4　世界の人々は、理解するかどうかは別として、お互いの宗教を尊重するべき

〔カード　33〕　問 52

（いくつでもいいです）

1. 自治会、町内会
2. ＰＴＡ、父母の会
3. 婦人会、老人会、青年会や青少年団体
   （ボーイ・スカウト/ガール・スカウトなど）
4. 消防団、防犯協会
5. 農協、漁協、森林組合
6. 商工会、その他の業界団体
7. 労働組合
8. スポーツ、レクリエーション、
   趣味・文化サークル
9. 県人会、同窓会、ＯＢ会
10. 宗教団体
11. 生協（生活協同組合）、消費者運動
12. 政治団体、後援会
13. 市民団体、住民運動、環境・自然保護団体

〔カード　34〕　F3　【学歴】

（中退・在学中は卒業としてお答えください。）

1　小学校・中学校（及び旧高小）

2　高校（及び旧中）

3　短大・専門学校

4　大学・大学院

〔カード　35〕　F5　【世帯収入】

1. 200 万円未満

2. 200 万円～400 万円未満

3. 400 万円～600 万円未満

4. 600 万円～800 万円未満

5. 800 万円～1,000 万円未満

6. 1,000 万円～1,500 万円未満

7. 1,500 万円～2,000 万円未満

8. 2,000 万円以上

〔カード　36〕　F7　【同居形態】

（いくつでもいいです）

1　本人だけ（独り暮らし）

2　配偶者（妻、夫、パートナー）

3　親

4　子供

5　親戚

6　それ以外の人

b. 英語調査票（オーストラリア、USA、シンガポール、インド版）
（各地の英語調査票は表現が異なることに注意）

英語調査票（オーストラリア）

AP Values - 2007 Survey

We are doing a survey on Asia-Pacific Values in Australia We'd like to speak to the person in your household aged 18 years and above who has most recently celebrated his/her birthday. For this objective, we would like to ask questions about your daily life, including economy, health, politics, religion, and the like. All the information and views you provide will be kept strictly confidential. We hope that you could help our survey.

RECORD START TIME:

Now let us start by asking a question about daily life.

Q.1 Over the next five years do you think your living conditions will get better or worse? **[SHOW CARD 1]**
READ OUT

Much better	1
Slightly better	2
About the same	3
Slightly worse	4
Much worse	5
Other (Specify)_____ **(DNR)**	8
Don't know **(DO NOT READ OUT)**	9

Q.2 Which one of the following countries or regions would you like to see develop the friendliest relationship for our own national interest? **[SHOW CARD 2]**

USA (America)	1
EU (European Union)	2
Japan	3
China	4
India	5
South Korea	6
Asian Country other than China, India, Japan and South Korea	7
Other (Specify)_____	8
Don't know	9

Q.3 If you could be born again, which one of the following Asian or Pacific countries or area(s) would you like be born in, with the exception of Australia?
[SHOW CARD 3]

Japan	1
China (Mainland)	2
South Korea	3
Taiwan	4
Hong Kong	5
India	6
Philippines	7
Singapore	8
Other (Specify)_____	88
Don't know	99

Q.4 Now, if you could be born again, would you like to be a boy or a girl?

1 Boy
2 Girl
8 Other (Please specify) _____
9 DK

Now, I'd like to ask some questions about your family or lifestyle.

Q.5 Would you say you are, on the whole, more or less inclined than the average Australian to respect your ancestors?

1 More than the average Australian
2 Less than the average Australian
3 Average
8 Other (Please specify)_____
9 DK

Q.6 If you had no children, would you think it desirable to adopt a child in order to continue the family line, even if there is no blood relationship?

1 Would adopt
2 Would not adopt (13)
3 Depends on situation
8 Other (Please specify)_____
9 DK

Q.7 In general, what would you think is the ideal number of children for a family?

_____(Record number)

Don't know 9

Q.8 There are all sorts of attitudes toward life. Which one of the following statements would you say comes closest to your way of life?

[SHOW CARD 4]

Resist all evils in the world and live a pure and just life	1
Make a social commitment by being active in volunteer work.	2
Work hard and get rich	3
Make a name for yourself by studying earnestly	4
Don't think about money or fame; just live a life that suits your own taste	5
Live each day as it comes, optimistically and without worrying	6
Other (Specify)_____	8
Don't know	9

(15)

Q.9 How do you feel about each of the following traditional values?

[SHOW CARD 5]

	Strongly agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree	Other Specify	Don't know
We should respect our ancestors.	1	2	3	4	8( )	9
The eldest son should look after his aging parents	1	2	3	4	8( )	9
A wife should obey her husband	1	2	3	4	8( )	9
Not to marry someone whom your parents object to	1	2	3	4	8( )	9
We should obey older peoples' opinions	1	2	3	4	8( )	9
It is important to have a son to keep the family line going	1	2	3	4	8( )	9
Men should work outside and women should tend to housekeeping	1	2	3	4	8( )	9

Q.10a What occupation do you respect most?

WRITE DOWN ALL ANSWERS IF THE RESPONDENT GIVES MORE THAN ONE

_____

_____

_____

Q.10b What is the occupation you yourself would like to have?

WRITE DOWN ALL ANSWERS IF THE RESPONDENT GIVES MORE THAN ONE

_____

_____

_____

Q.11 Whether you have a job in a certain workplace or not, what qualifications should good leaders have in your workplace? Please choose the three most important qualifications among the following. **[SHOW CARD 6]**
(3 MULTI ANSWERS)

Technical competence	1
Fair in treating subordinates	2
Being liked and respected by subordinates	3
Serious attitude toward work	4
Have many friends/acquaintances	5
Sincere in attitudes toward co-workers	6
Decisive and determined	7
Good judgment	8
Ability to bring great benefit to subordinates	9
Seniority	10
Come from good family background	11

Q.12 For your age, how satisfied are you with your health? **[SHOW CARD 7]**
Would you say…? **READ OUT**

Very satisfied	1
Fairly Satisfied	2
Fairly dissatisfied, or	3
Very dissatisfied	4
Other (Specify):_____	8
Don't know **(DO NOT READ)**	9

Q.13 Using the classifications on this card, how would you classify your current standard of living? **[SHOW CARD 8]**

Upper	1
Upper middle	2
Middle	3
Lower middle	4
Lower	5
Other (Specify): _____	8
Don't know	9

Q.14 If you had to choose one, which would you prefer, more money or more free time? **[SHOW CARD 9]**

More money	1
More free time	2
Other (Specify):_____	8
Don't know	9

Q.15 If you were to get enough money to live as comfortably as you would like for the rest of your life, would you continue to work or would you stop working?

Continue to work	1
Stop working	2
Other (Specify): _____	8
DK	9

Q.16 Here are some of the things people usually take into account in relation to their work. Which one would you personally place first? **(PLEASE SELECT ONLY ONE)** **[SHOW CARD 10]**

A good income so that you do not have any worries about money	1
A safe job with no risk of closing down or unemployment	2
Working with people you like	3
Doing an important job which gives you a feeling of accomplishment	4
Other (Specify):_____	8
Don't know	9

Q.17 People feel uneasy about themselves or their family members from time to time. To what extent do you worry, either for yourself or for your family, about each of the following? Would you say very much, somewhat, slightly, or not at all?
[SHOW CARD 11]

	Very much	Somewhat	Slightly	Not at all	Other	Don't Know
Serious illness	1	2	3	4	8( )	9
Car accident	1	2	3	4	8( )	9
Unemployment	1	2	3	4	8( )	9
War	1	2	3	4	8( )	9

Q.18 By using the scale of 1 to 7, where'7' is "very important, " and '1' is "not important at all," can you tell me how important each of the following is to you?
[SHOW CARD 12]

	Not Important at all				Very Important			Other	DK/ NA
Your immediate family members such as spouse and children, if you have any	1	2	3	4	5	6	7	8( )	9
Career and job	1	2	3	4	5	6	7	8( )	9
Free time and relaxation	1	2	3	4	5	6	7	8( )	9
Friends and people you know	1	2	3	4	5	6	7	8( )	9
Parents, brothers, sisters, and other relatives	1	2	3	4	5	6	7	8( )	9
Religion	1	2	3	4	5	6	7	8( )	9
Politics	1	2	3	4	5	6	7	8( )	9

Q.19 All things considered, how satisfied are you with your family life—the time you spend and the things you do with members of your family? Just call off the number which comes closest to your feelings. **[SHOW CARD 13]**

Satisfied	1
Somewhat satisfied	2
Neither satisfied nor dissatisfied (neutral)	3
Somewhat dissatisfied	4
Dissatisfied	5
Other (Specify):_____	8
Don't know	9

Q.20 Now I would like to ask about your life as a whole. How satisfied are you with your life as a whole these days? Which number on this card comes closest to your feelings? **[SHOW CARD 14]**

Satisfied	1
Somewhat satisfied	2
Neither satisfied nor dissatisfied (neutral)	3
Somewhat dissatisfied	4
Dissatisfied	5
Other (Specify):_____	8
Don't know	9

Q.21 During the last four weeks, have you suffered from any of the following?
READ OUT MULTIPLE RESPONSE

Headaches/migraines/(head felt heavy)	1
Backaches (stiff back)	2
Nervousness	3
Depression (feeling down)	4
Insomnia (sleeplessness)	5
Other (specify):_____	8
Don't know/None	9

Q.22 Whom would you go to for advice when you have worries about your personal problems and important matters? Please choose one among the following.
[SHOWCARD 15]

Father	01
Mother	02
Brothers and sisters	03
Spouse or partner (wife or husband)	04
Other family member and relative	05
Friends or acquaintances (in your workplace, school or neighborhood)	06
Person to consult anonymously (on the phone or internet)	07
Other (specify):_____	08
I don't have anyone with whom I can confide	09
I don't have any problems	10

Q.23 If you look at successful people in society today, which do you think has played the largest part in their success, their ability and effort, luck and chance, or relationships through kindred, countrymen/countrywomen, and alumni/alumnae (personal connections) ? **[SHOW CARD 16] SINGLE RESPONSE**

Ability and effort	1
Luck and chance	2
Relationships through kindred, countrymen/countrywomen, and alumni/alumnae(personal connections)	3
Other (Specify):_____	8
Don't know	9

Q24 Now the questions about hot topics. How do you feel about something like 'Supernatural Power' and 'UFO (Unidentified Flying Object)' on this card? Looking at categories 1 to 8 carefully, please choose the one that comes closest to your feeling for each of the following items. **[SHOW CARD 17]**

	Boring	Would like to be	Exist	Dreadful, Scary	Would not like to be	Interesting, amusing	Nonsense Does not exist	Not dreadful Not scary	Other	DK
Super natural power or psychokinesis	1	2	3	4	5	6	7	8	98	99
UFO (Unidentified Flying Object) or alien	1	2	3	4	5	6	7	8	98	99
Goblin or ogre	1	2	3	4	5	6	7	8	98	99
Ghost or apparition, curse	1	2	3	4	5	6	7	8	98	99

Q.25 Some people say that with the development of science and technology, life becomes more convenient, but at the same time humanity / a lot of human feeling is lost. Do you agree with this opinion or do you disagree?

Agree (Humanity is lost.)	1
Disagree (Humanity is NOT lost)	2
Undecided/it depends	3
Other (Specify): _____	8
DK	9

Q.26 Some people say that if we get outstanding political leaders, the best way to improve the country is for the people to leave everything to them, rather than for the people to discuss things among themselves. Do you agree with this, or disagree?

Agree	1
Disagree	2
Undecided/it depends	3
Other (Specify): _____	8
DK	9

Q.27 Some people say that home is the only place where you can totally relax and feel comfortable. Do you feel that way or not?

Yes, home is the only place	1
No	2
Other (Specify):_____	8
Don't know	9

Q.28 Which of the statements on this card comes closest to your own opinion about marriage? Just call off the number, please. **[SHOW CARD 18]**

Marriage is permanent	1
Marriage may be broken only under serious circumstances	2
Marriage can be broken by simple agreement of the two partners	3
Other (Specify):_____	8
DK	9

Q.29 Here are three opinions about man and nature on the card. Which one of these do you think is closest to the truth? **[SHOW CARD 19]**

In order to be happy, we must follow nature	1
In order to be happy, we must make use of nature	2
In order to be happy, we must conquer nature	3
Other (Specify):_____	8
DK	9

Q.30 Please choose from among the following statements the one with which you agree most. **[SHOW CARD 20]**

If individuals are made happy, then and only then will the country as a whole improve.	1
If the country as a whole improves, then and only then can individuals be made happy.	2
Improving the country and making individuals happy are the same thing.	3
Other (Specify):_____	8
Don't know	9

(62)

Q.31 Some people say that no matter how mechanized and how much advanced information technology the world gets, nothing can reduce the richness of human feelings or one's humanity. Do you agree with this opinion or disagree?

Disagree (humanity is REDUCED)	1
Agree (humanity is NOT REDUCED)	2
Cannot say one way or another	3
Other (Specify):_____	8
DK	9

Q.32 Which, if any, of the following do you believe in? **[SHOW CARD 21]**

	Exists	May exist	Does not exist	Other	Don't know
Buddha, God, or gods	1	2	3	8	9
Life after death	1	2	3	8	9
A soul or a spirit	1	2	3	8	9

Q.33 If you were asked to choose the two most important items listed on the card, which two would you choose? **(SELECT TWO) [SHOW CARD 22]**

Love and respect for parents	1
Repaying people who have helped you in the past	2
Respect for the rights of the individual	3
Respect for the freedom of the individual	4
Other (Specify):_____	8
Don't know	9

Q.34a Suppose that you are the president of a company. The company decides to hire one person, and then administers an employment examination. The supervisor in charge reports to you saying, "Your relative who took the examination got the second highest grade. But I believe that either your relative or the candidate who got the highest grade would be satisfactory. What shall we do?" In such a case, which person would you employ?

[SHOW CARD 23]

1 One with the highest grade
2 Your relative
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q34b In the last question, we supposed that the one getting the second highest grade was your relative. Suppose that the one who got the second highest grade was the daughter or son of parents to whom you felt indebted. Which person would you employ? **[SHOW CARD 24]**

1 One with the highest grade
2 Daughter or son of person to whom you are indebted
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.35 Suppose you are working in a firm. Which of the following department managers would you prefer to work under? **[SHOW CARD 25]**

A department manager who always sticks to the work rules and never demands any unreasonable work, but who, on the other hand, never does anything for you personally in matters not connected with work.	1
A department manager who sometimes demands more than what the rules call for but who takes care of you personally beyond the call of his or her responsibility	2
Other (Specify):_____	8
Don't know	9

Q.36 Would you say that most of the time, people try to be helpful, or that they are mostly just looking out for themselves?

1 Try to be helpful
2 Look out for themselves
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q37 Do you think that most people would try to take advantage of you if they got the chance, or would they try to be fair?

1 Take advantage
2 Try to be fair
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.38 Generally speaking, Would you say that most people can be trusted or that you can't be too careful in dealing with people?

1 Can be trusted
2 Can't be too careful
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.39 a) Imagine this situation: Pat was orphaned at an early age and was brought up by Sandy, a kind neighbor. Sandy gave him/her a good education, sent him/her to a university, and now Pat has become the president of a company. One day he/she gets an urgent message saying that Sandy, who brought him/her up, is seriously ill and asking if he/she would come at once. This message arrives as he/she is leaving to attend an important meeting which will decide whether his/her firm is to go bankrupt or to survive. Which of the following do you think he/she should do? **[SHOW CARD 26]**

Leave everything and go back home	1
However worried he/she might be about Sandy, he/she should go to the meeting	2
Other (specify): _____	8
Don't know	9

Q.39 b) The last question supposed that Sandy had taken Pat in as an orphan in his/her youth and brought him/her up. Suppose that it was one of Pat's real parents who was seriously ill. Which would have been your answer then? **[SHOW CARD 26]**

Leave everything and go back home	1
However worried he/she might be about Sandy, he/she should go to the meeting	2
Other (specify): _____	8
Don't know	9

Q.40 Using the answers on this card, please tell me how much you agree or disagree with each one of the following statements **[SHOW CARD 27]**.

READ OUT STATEMENTS

Would you say you...?

	Strongly Agree	Agree to some extent	Disagree to some extent	Strongly disagree	Other (Specify)	Don't know
There are some illnesses that are better treated by methods that modern medicine does not recognize.	1	2	3	4	8( )	9
Some day science will permit the complete understanding of the functioning of the human mind.	1	2	3	4	8( )	9
Most of the social and economic problems we face today will be resolved by the advancement of science and technology.	1	2	3	4	8( )	9
At some point in the future, we can live on Mars as we live on the earth today.	1	2	3	4	8( )	9

Q.41 What first comes to your mind when you think of Australian culture?

_____

_____

_____

9. DK

Q.42a Now I would like to ask you a few questions about religion. Do you have any personal religious faith?

Yes 1 → Ask **Q42b**

No 2 → Skip to **Q43**

Q42b What is your religion?

Catholic	01
Anglican (Church of England)	02
Uniting Church	03
Presbyterian	04
Baptist	05
Islam	06
Greek Orthodox	07
Buddhism	08
Lutheran	09
Other (specify):_____	98

ASK EVERYONE

Q.43 Without reference to any of the established religions, do you think a religious mind is important, or not important?

1 Important
2 Not important
8 Other (Specify):_____
9 DK

Q.44 Some people say that although there are many different religions in the world, each with its own beliefs, their teachings really all amount to the same thing. Would you agree with this or disagree?

1 Agree
2 Disagree
8 Other(Please specify: _____)
9 DK

Q.45 Here are two statements which people sometimes make when discussing law. Which of them comes closer to your opinion?

(i) "We should always obey the law," or

(ii) "It should be excusable to break a law when we have the confidence that what we are doing is right."

We should always obey the law	1
It should be excusable to break a law when we have the confidence that what we are doing is right	2
Other (Specify): _____	8
DK	9

Q.46 Here are two statements about a contract. Which of them comes closer to your own opinion? **[SHOW CARD 28]**

A: "To have a contract constitutes evidence that there is no trust between two parties. There is no need to have a contract if the two parties trust each other"

B: "No matter how much two parties trust each other, it is better to have a contract"

Closer to A's opinion.	1
Closer to B's opinion.	2
Other (Specify): _____	8
Don't know	9

Q.47 Which of the following comes closer to your opinion? **[SHOW CARD 29]**

A: "If you were to have a contract, it is better to keep the contract simple allowing for its flexibility because it is a mere formality"
B: "Contracts should be written clearly in detail to avoid the possibility of conflicting interpretations"

Closer to A's opinion.	1
Closer to B's opinion.	2
Other (Specify): _____	8
Don't know	9

Q.48 Here are two statements people sometimes make when discussing the environment and economic growth. Which of them comes closer to your own point of view? **[SHOW CARD 30]**

Protecting the environment should be given priority, even if it causes slower economic growth	1
Economic growth should be the top priority, even if the environment suffers to some extent	2
Other (Specify): _____	8
Don't know	9

Q.49 What is the single most important thing in life for you? (Write down all answers if the respondent gives more than one.)

_____

_____

9 Don't Know

Q.50 How much confidence do you have in the following? Are you very confident, somewhat confident, not confident or not confident at all? **[SHOW CARD 31]**

	Very Confident	Somewhat Confident	Not Confident	Not Confident At All	Don't know
Religious organizations	1	2	3	4	9
The law and the legal system	1	2	3	4	9
The press and television	1	2	3	4	9
The police	1	2	3	4	9
National federal bureaucracy	1	2	3	4	9
National Assembly (Federal Parliament)	1	2	3	4	9
NPO/NGO (Non-Profit and Non-Governmental Organization)	1	2	3	4	9
Social welfare facilities	1	2	3	4	9
The United Nations	1	2	3	4	9
Science and technology	1	2	3	4	9

Q.51 There are many religions in the world, some of which are in conflict with one another. What do you think we should do? Which one of the following ideas comes closest to your thoughts? **Please select only one answer. [SHOW CARD 32]**

Everyone should spread his/her own religious beliefs	1
We should all try to make others understand our religious beliefs	2
We should all try to understand each other's religion	3
Regardless of understanding each other's religion, we should all respect each other's religious beliefs	4
Other (Specify):_____	8
DK	9

Q.52 Please look carefully at the following list of voluntary organizations and activities and say… which, if any, do you belong to? **[SHOW CARD 33]**
MULTIPLE RESPONSE

Community organization	01
P&C / PTA (Parents and citizens/teachers association)	02
Women's club, seniors' club, young people's club	03
Fire-fighters' association, voluntary neighborhood watch group	04
Farmers' association, fishermen's association, forester's association	05
Chamber of commerce and industry and other industrial association	06
Trade union	07
Club for sports, recreation, hobby or cultural activities	08
Regional association, class reunion association, alumni association	09
Religious organization	10
Cooperatives, consumer union	11
Political group, election campaign organization	12
Citizen group, resident movement group, environment protection group	13
Others (Specify):_____	88
None	99

Demographics

We have now reached the last section of the survey. We would like to ask you a bit about yourself.

F1 Record Gender

DO NOT ASK (Judge from name and appearance)

Male..... 1
Female 2

F2 How old are you?

18 – 19	01
20 – 24	02
25 – 29	03
30 – 34	04
35 – 39	05
40 – 44	06
45 – 49	07
50 – 54	08
55 – 59	09
60 – 64	10
65 – 70	11
Refused/Don't know	99

F3 What is the last school from which you graduated?
(If you dropped out or are still in the school, please consider yourself graduated)
[SHOW CARD 34]

Higher degree or post graduate diploma	1
Bachelor degree	2
Undergraduate diploma	3
Associate diploma	4
Skilled vocational	5
Basic vocational	6
Completed highest level of school	7
Did not complete highest level of school	8
(Don't Know/Not Stated) – **DO NOT READ**	9
Other (Specify)_____	10

F4 Are you currently…?
READ OUT

Employed..... .....1→ **Ask F5**
Retired 2
Unemployed & looking for Work.....3
Student..... 4
Homemaker 5
} **Skip to F6**

F5 What is your current occupation?

SPECIFY: _____

CODE APPROPRIATE RESPONSE:

High status professional (doctor, dentist, lawyer, architect, consultant, psychologist, professor, engineer, etc.)	1
Other professional (teacher, social worker, therapist, etc.)	2
High level business executive (CEO, CFO, COO, President, Executive VP, Senior VP, VP, etc.)	3
Middle manager (supervisor, director, division head, manager, etc.)	4
Small business owner/entrepreneur/shopkeeper	5
White collar worker (word processor, secretary, typist, clerk, administrative assistant, etc.)	6
Skilled worker (technician, electrician, plumber, computer programmer, carpenter, etc.)	7
Blue collar laborer	8
Civil servant (policeman, postal worker, fireman, sanitation worker, military, etc.)	9
Farmer/fisherman	10
Any other not elsewhere classified specify:_____	98

F6 Would it be possible for you to tell me to which one of the following categories your household belongs to in terms of the past year's income before taxes, including bonus? **[SHOW CARD 35]**

Under $20,000	1
$20,000 - $29,999	2
$30,000 - $39,999	3
$40,000 - $49,999	4
$50,000 - $59,999	5
$60,000 - $69,999	6
$70,000 - $79,999	7
$80,000 - $89,999	8
$90,000 - $99,999	9
$100,000 - $119,999	10
$120,000 - $149,999	11
$150,000 and over	12
Don't Know (DO NOT READ)	13
Refused (DO NOT READ)	14

F 7 What is the total number of people in your household, including yourself ?

☐ persons (43)(44)

F8 Who do you live with in your household now? Please choose as many categories as you like from the following items? **[SHOW CARD 36]**

1 Only myself (Single)
2 Spouse/partner (wife, husband or partner)
3 Parent(s) (45)
4 Child(ren)
5 Relative(s)
6 Roommate(s)/friend(s)
7 Other (Please specify:_____)
9 DK

F9 What is the main language spoken in your household?

1 English
2 Arabic
3 Cantonese
4 Greek
5 Italian
6 Mandarin
7 Vietnamese
8 Other (Specify): _____
9 Don't know

Those are all of my questions for today. Thank you again for taking the time to participate in our research.

RECORD FINISH TIME:

Record Respondent Name: _____

Record Respondent Telephone Number: _____

CLOSING

As this is market research, it is carried out in compliance with the Privacy Act and the information you provide will only be used for research purposes. We are conducting this survey for The Institute of Statistical Mathematics (Japan). We have interviewed people aged between 18 & 70 for this survey. All your answers will be combined with those of other participants to provide a summary of opinion about Asia Pacific Values.

As a market research company we comply with the requirements of the Privacy Act. Would you like me to read out our full Privacy Act Statement?

Yes
No

If Yes: In accordance with the privacy Act, once information processing has been completed, please be assured that your name and contact details will be removed from your responses to this survey. After that time we will no longer be able to identify the responses provided by you. However, for the period that your name and contact details remain with your survey responses, which will be approximately 2-4 weeks, you will be able to contact us to request that some or all your information be deleted.

In case you missed it earlier my name is _____ from I-view. If you would like to contact my Supervisor to check the validity of this study you can call I-view on 1300 364 830.

I certify that this interview has been conducted by me according to the code of PROFESSIONAL BEHAVIOR ICC/ESOMAR.

Name _____ ID # _____

Signature _____ Date _____

SHOW CARD 1

1 Much better

2 Slightly better

3 About the same

4 Slightly worse, or

5 Much worse

1

SHOW CARD 2

1 USA (America)

2 EU (European Union)

3 Japan

4 China

5 India

6 South Korea

7 Asian Country other than China, India, Japan and South Korea

2

SHOW CARD 3

1 Japan

2 China (Mainland)

3 South Korea

4 Taiwan

5 Hong Kong

6 India

7 Philippines

8 Singapore

SHOW CARD 4

1 Resist all evils in the world and live a pure and just life

2 Make a social commitment by being active in volunteer work

3 Work hard and get rich

4 Make a name for yourself by studying earnestly (15)

5 Don't think about money or fame; just live a life that suits your own taste

6 Live each day as it comes, optimistically and without worrying

SHOW CARD 5

1 Strongly agree

2 Agree

3 Disagree

4 Strongly disagree

5

SHOW CARD 6

(3 multi-answers)

1 Technical competence

2 Fair in treating subordinates

3 Being liked and respected by subordinates

4 Serious attitude toward work

5 Have many friends/acquaintances

6 Sincere in attitudes toward co-workers

7 Decisive and determined

8 Good judgment

9 Ability to bring great benefit to subordinates

10 Seniority

11 Come from good family background

6

SHOW CARD 7

1 Very satisfied

2 Fairly Satisfied

3 Fairly dissatisfied,

4 Very dissatisfied

7

SHOW CARD 8

1 Upper

2 Upper middle

3 Middle

4 Lower middle

5 Lower

8

SHOW CARD 9

1 More money

2 More free time

9

SHOW CARD 10

1 A good income so that you do not have any worries about money

2 A safe job with no risk of closing down or unemployment

3 Working with people you like

4 Doing an important job which gives you a feeling of accomplishment

10

SHOW CARD 11

1. Very Much

2. Somewhat

3. Slightly

4. Not at all

11

SHOW CARD 12

Not at all important 1

2

3

4

5

6

Very important 7

12

SHOW CARD 13

1 Satisfied

2 Somewhat satisfied

3 Neither satisfied nor dissatisfied (neutral)

4 Somewhat dissatisfied

5 Dissatisfied

SHOW CARD 14

1 Satisfied

2 Somewhat satisfied

3 Neither satisfied or dissatisfied (neutral)

4 Somewhat dissatisfied

5 Dissatisfied

SHOW CARD 15

1 Father

2 Mother

3 Brothers and sisters

4 Spouse or partner (wife or husband)

5 Other family member and relative

6 Friends or acquaintances (in your workplace, school or neighbourhood)

7 Person to consult anonymously (on the phone or internet)

SHOW CARD16

1 Ability and effort

2 Luck and chance

3 Relationships through kindred, countrymen/countrywomen, and alumni/alumnae (personal connections)

SHOW CARD 17

1 Boring

2 Would like to be

3 Exist

4 Dreadful, scary

5 Would not like to be

6 Interesting, amusing

7 Nonsense, does not exist

8 Not dreadful, not scary

SHOW CARD 18

1 Marriage is permanent

2 Marriage may be broken only under serious circumstances

3 Marriage can be broken by simple agreement of the two partners

SHOW CARD 19

1 In order to be happy, we must follow nature

2 In order to be happy, we must make use of nature

3 In order to be happy, we must conquer nature

19

SHOW CARD 20

1 If individuals are made happy, then and only then will the country as a whole improve.

2 If the country as a whole improves, then and only then can individuals be made happy.

3 Improving the country and making individuals happy are the same thing.

20

SHOW CARD 21

1 Exists

2 May Exist

3 Does not Exists

SHOW CARD 22

(Select two)

a. Love and respect for parents

b. Repaying people who have helped you in the past

c. Respect for the rights of the individual

d. Respect for the freedom of the individual

SHOW CARD 23

1 One with the highest grade

2 Your relative

23

SHOW CARD 24

1 One with the highest grade

2 Daughter or son of person to whom you are indebted

24

SHOW CARD 25

1 A department chief who always sticks to the work rules and never demands any unreasonable work, but who, on the other hand, never does anything for you personally in matters not connected with work.

2 A department chief who sometimes demands more than what the rules call for but who takes care of you personally beyond the call of his or her responsibility

SHOW CARD 26

Imagine this situation. Pat was orphaned at an early age and was brought up by Sandy, a kind neighbor. Sandy gave him/her a good education, sent him/her to a university, and now Pat has become the president of a company. One day he/she gets a urgent message saying that Sandy, who brought him/her up, is seriously ill and asking if he/she would come at once. This message arrives as he/she is leaving to attend an important meeting which will decide whether his/her firm is to go bankrupt or to survive. Which of the following do you think he/she should do?

1 Leave everything and go back home

2 However worried he might be about Sandy, he/she should go to the meeting

SHOW CARD 27

1 Strongly agree

2 Agree to some extent

3 Disagree to some extent

4 Strongly disagree

27

SHOW CARD 28

A "To have a contract constitutes evidence that there is no trust between parties. There is no need to have a contract if parties trust each other"

B "No matter how much two parties trust each other, it is better to have a contract"

28

SHOW CARD 29

A "If you were to have a contract, it is better to keep the contract simple allowing for its flexibility because it is a mere formality"

B "Contracts should be written clearly in detail to avoid the possibility of conflicting interpretations"

SHOW CARD 30

1 Protecting the environment should be given priority, even if it causes slower economic growth

2 Economic growth should be the top priority, even if the environment suffers to some extent

SHOW CARD 31

1 Very Confident

2 Somewhat confident

3 Not Confident

4 Not at all confident

31

SHOW CARD 32

1. Everyone should spread his/her own religious beliefs

2. We should all try to make others understand our religious beliefs

3. We should all try to understand each other's religion

4 Regardless of understanding each other's religion, we should all respect each other's religious belief

32

SHOW CARD 33

1. Community organization
2. P&C / PTA (Parents and citizens/teachers association)
3. Women's club, seniors' club, young people's club
4. Fire-fighters' association, voluntary neighborhood watch group
5. Farmers' association, fishermen's association, forester's association
6. Chamber of commerce and industry and other industrial association
7. Trade union
8. Club for sports, recreation, hobby or cultural activities
9. Regional association, class reunion association, alumni association
10. Religious organization
11. Co-ops, consumer union
12. Political group, election campaign organization
13. Citizen group, resident movement group, environment protection group

SHOW CARD 34

(If you dropped out or still in the school, please consider yourself graduated)

1 Higher degree or post graduate diploma
2 Bachelor degree
3 Undergraduate diploma
4 Associate diploma
5 Skilled vocational
6 Basic vocational
7 Completed highest level of school
8 Did not complete highest level of school

SHOW CARD 35【Family income】

1 Under $20,000

2 $20,000 - $29,999

3 $30,000 - $39,999

4 $40,000 - $49,999

5 $50,000 - $59,999

6 $60,000 - $69,999

7 $70,000 - $79,999

8 $80,000 -$89,999

9 $90,000 - $99,999

10 $100,000 - $119,999

11 $120,000 - $149,999

12 $150,000 and over

SHOW CARD 36

1 Only myself (Single)

2 Spouse/partner (wife, husband or partner)

3 Parent(s)

4 Child(ren)

5 Relative(s)

6 Roommate(s)/friend(s)

7 Other (Please specify: _____)

英語調査票（USA）

Questionnaire of USA-2006 Survey

We are doing a survey on Asia-Pacific Values in the USA. We'd like to speak to the person in your household aged 20 years and above who has most recently celebrated his/her birthday. For this objective, we would like to ask questions about your daily life, including economy, health, politics, religion, and the like. All the information and views you provide will be kept strictly confidential. We hope that you could help our survey.

Now let us start by asking a question about daily life.

Q.1 [SHOW CARD 1] Over the next five years do you think your living conditions will get better or worse? (READ)

1 Much better
2 Slightly better
3 About the same
4 Slightly worse, or
5 Much worse
8 Other (Please specify) (8)
9 Don't know

Q.2 [SHOW CARD 2] Which one of the following countries or regions would you like to see develop friendliest relationship for our own national interest?

1 EU (European Union)
2 Australia
3 Japan
4 China
5 India
6 South Korea
7 Asian Country other than China, India, Japan and South Korea
8 Other (Please specify)_____
9 DK

Q.3 [SHOW CARD 3] If you could be born again, which one of the following Asian or Pacific countries or area(s) would you like be born in, with the exception of USA?

1 Australia
2 Japan
3 China (Mainland)
4 South Korea
5 Taiwan
6 Hong Kong
7 India
8 Philippines
9 Singapore
10 None
88 Other(Please specify)_____
99 DK

Q4 Now, if you could be born again, would you like to be a boy or a girl?

1 Boy
2 Girl
3 Other (Please specify) _____
4 DK

Now, I'd like to ask some questions about your family or lifestyle.

Q5 Would you say you are, on the whole, more inclined than the average American to respect your ancestors or less?

1 More than the average American

2 Less than the average American

3 Average

8 Other (Please specify)_____

9 DK

Q.6 If you had no children, would you think it desirable to adopt a child in order to continue the family line, even if there is no blood relationship? Or do you not think this is important?

1 Would adopt

2 Would not adopt (13)

3 Depends on situation

8 Other (Please specify)_____

9 DK

Q.7 In general, what would you think is the ideal number of children for a family?

[ ] 9 DK

Q.8 [SHOW CARD 4] There are all sorts of attitudes toward life. Which one of the following statements would you say comes closest to your way of life?

1 Make no offense and lead a serious life

2 Active in volunteer work and make a social commitment

3 Work hard and get rich

4 Study earnestly and make a name for yourself (15)

5 Don't think about money or fame; just live a life that suits your own taste

6 Live each day as it comes, cheerfully and without worrying

8 Other (Please specify))

9 D.K.

Q.9 [SHOW CARD 5] How do you feel about each of the following traditional values?

	Strongly agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree	Other	Don't know
a. We should respect our ancestors.	1	2	3	4	8	9
b. The eldest son should look after his aging parents	1	2	3	4	8	9
c. A wife should follow her husband	1	2	3	4	8	9
d. Not to marry someone whom your parents object to	1	2	3	4	8	9
e. We should follow older people	1	2	3	4	8	9
f. It is important to have a son to keep the family line going	1	2	3	4	8	9
g. Men should work outside and woman should tend to housekeeping	1	2	3	4	8	9

Q.10

a) What occupation do you respect most? (Write down all answers if the respondent gives more than one.) _____

b) What is the occupation you yourself would like to have? (Write down all the answers if the respondent gives more than one.) _____

Q.11 [SHOW CARD 6] Whether you have a job in a certain workplace or not, what qualifications should good leaders have in your workplace? Please choose the three most important qualifications among the following.

(3 multi-answers)

1 Technical competence
2 Fair in treating subordinates
3 Being liked and respected by subordinates
4 Serious attitude toward work
5 Have many friends/acquaintances
6 Sincere in attitudes toward co-workers
7 Decisive and determined
8 Good judgment
9 Ability to bring great benefit to subordinates
10 Seniority
11 Come from good family background

Q.12 [SHOW CARD 7] For your age, how satisfied are you with your health? Would you say...(Read)

1 Very satisfied
2 Fairly Satisfied
3 Fairly dissatisfied, or
4 Very dissatisfied
8 Other (Please specify: _____)
9 DK(DO NOT READ)

Q.13 [SHOW CARD 8] Using the classifications on this card, how would you classify your current standard of living?

1 Upper class
2 Upper middle class
3 Middle class
4 Lower middle class
5 Lower class
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.14 [SHOW CARD 9] If you had to choose one, which would you prefer, more money or more free time?

1 More money
2 More free time
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.15 If you were to get enough money to live as comfortably as you would like for the rest of your life, would you continue to work or would you stop working?

1 Continue to working
2 Stop working
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.16 [SHOW CARD 10] Here are some of the things people usually take into account in relation to their work. Which one would you personally place first? (Please select only one)

1 A good income so that you do not have any worries about money
2 A safe job with no risk of closing down or unemployment
3 Working with people you like
4 Doing an important job which gives you a feeling of accomplishment
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.17 [SHOW CARD 11] People feel uneasy about themselves or their family members from time to time. To what extent do you worry, either for yourself or for your family, about each of the following? (Circle one of the numbers in the column)

	Very much	Somewhat	Slightly	Not at all	Other	DK
a. Serious illness	1	2	3	4	8	9
b. Car accident	1	2	3	4	8	9
c. Unemployment	1	2	3	4	8	9
d. War	1	2	3	4	8	9

Q.18 [SHOW CARD 12] By using the scale of 1 to 7, where'7' is "very important, " and '1' is "not important at all," can you tell me how important each of the following is to you?

	Not Important at all						Very Important	Other	DK/NA
a. Your immediate family members such as spouse and children, if you have any	1	2	3	4	5	6	7	8	9
b. Career and job	1	2	3	4	5	6	7	8	9
c. Free time and relaxation	1	2	3	4	5	6	7	8	9
d. Friends and people you know	1	2	3	4	5	6	7	8	9
e. Parents, brothers, sisters, and other relatives	1	2	3	4	5	6	7	8	9
f. Religion	1	2	3	4	5	6	7	8	9
g. Politics	1	2	3	4	5	6	7	8	9

Q.19 [SHOW CARD 13] All things considered, how satisfied are you with your family life—the time you spend and the things you do with members of your family? Just call off the number which comes closest to your feelings.

1 Satisfied
2 Somewhat satisfied
3 Neither satisfied nor dissatisfied (neutral)
4 Somewhat dissatisfied
5 Dissatisfied
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.20 [SHOW CARD 14] Now I would like to ask how satisfied you feel about your life as a whole. How satisfied are you with your life as a whole these days? Which letter on this card comes closest to your feelings?

1 Satisfied
2 Somewhat satisfied
3 Neither satisfied nor dissatisfied (neutral)
4 Somewhat dissatisfied
5 Dissatisfied
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.21 During the last four weeks, have you suffered from any of the following? (Read each in turn)

	Yes	No
a. Headaches/migraines/(head felt heavy)	1	2
b. Backaches (stiff back)	1	2
c. Nervousness	1	2
d. Depression (feeling down)	1	2
e. Insomnia (sleeplessness)	1	2

8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.22 [SHOW CARD 15] Whom would you go to for advice when you have worries about your personal problems and important matters? Please choose one among following.

1 Father
2 Mother
3 Brothers and sisters

4 Spouse or partner (wife or husband)
5 Other family member and relative
6 Friends or acquaintances (in your workplace, school or neighborhood)
7 Person to consult anonymously (on the phone or internet)
8 Other (Please specify: _____)
9 I don't have anyone with whom I can confide
10 I don't have any problems

Q.23 [SHOW CARD16] If you look at successful people in society today, which do you think has played the largest part in their success, their ability and effort, luck and chance, or personal relationships through kindred, countrymen/countrywomen, and alumni/alumnae?

1 Ability and effort
2 Luck and chance
3 Relationships through kindred, countrymen, and alumni (personal connections)
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q24 〔SHOW CARD 17〕 Now the questions about hot topics. How do you feel about something like 'Supernatural Power' and 'UFO (Unidentified Flying Object)' on this card? Looking at categories 1 to 8 carefully, please choose the one that comes closest to your feeling for each of the following items.

	Boring	Would like to be	Exist	Dreadful, Scary	Would not like to be	Interesting, amusing	Nonsense Does not exist	Not dreadful Not scary	Other	DK	
a. Super natural power or psycho kinesis·····	1	2	3	4	5	6	7	8	80	99	(53)
b. UFO (Unidentified Flying Object) or alien·····	1	2	3	4	5	6	7	8	80	99	(54)
c. Specter or ogre ·····	1	2	3	4	5	6	7	8	80	99	(55)
d. Ghost or apparition, curse···	1	2	3	4	5	6	7	8	80	99	(56)

Q.25 Some people say that with the development of science and technology, life becomes more convenient, but at the same time a lot of human feeling is lost. Do you agree with this opinion or do you disagree?

1 Agree
2 Disagree
3 Undecided/it depends
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.26 Some people say that if we get outstanding political leaders, the best way to improve the country is for the people to leave everything to them, rather than for the people to discuss things among themselves. Do you agree with this, or disagree?

1 Agree
2 Disagree
3 Undecided/it depends
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.27 Some people say that home is the only place where you can totally relax and feel comfortable. Do you feel that way or not?

1 Yes, home is the only place
2 No
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.28 [SHOW CARD 18] Which of the statements on this card comes closest to your own opinion about marriage? Just call off the letter, please.

1 Marriage is permanent
2 Marriage may be broken only under serious circumstances
3 Marriage can be broken by simple agreement of the two partners
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.29 [SHOW CARD 19] Here are three opinions about man and nature on the card. Which one of these do you think is closest to the truth?

1 In order to be happy, we must follow nature
2 In order to be happy, we must make use of nature
3 In order to be happy, we must conquer nature
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

(62)

Q.30 [SHOW CARD 20] Please choose from among the following statements the one with which you agree most.

1 If individuals are made happy, then and only then will the country as a whole improve.
2 If the country as a whole improves, then and only then can individuals be made happy.
3 Improving the country and making individuals happy are the same thing.
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.31 Some people say that no matter how mechanized and how much advanced information technology the world gets, nothing can reduce the richness of human feelings or one's humanity. Do you agree with this opinion or disagree?

1 Disagree (the richness of human feelings is REDUCED)
2 Agree (the richness of human feelings is NOT REDUCED)
3 Cannot say one way or another
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.32 [SHOW CARD 21] Which, if any, of the following do you believe in?

	Exists	May exist	Does not exist	
a. Buddha, God, or gods	1	2	3	8
b. Life after death	1	2	3	8
c. a soul or a spirit	1	2	3	8

Q.33 [SHOW CARD 22] If you were asked to choose the two most important items listed on the card, which two would you choose? (Select two)

	Selected
a. Filial piety/ Love and respect for parents	1

b. Repaying people who have helped you in the past 1
c. Respect for the rights of the individual 1
d. Respect for the freedom of the individual 1

8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.34

a. [SHOW CARD 23] Suppose that you are the president of a company. The company decides to hire one person, and then administers an employment examination. The supervisor in charge reports to you saying, "Your relative who took the examination got the second highest grade. But I believe that either your relative or the candidate who got the highest grade would be satisfactory. What shall we do?" In such a case, which person would you employ?

1 One with the highest grade
2 Your relative
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

b. [SHOW CARD 24] In the last question, we supposed that the one getting the second highest grade was your relative. Suppose that the one who got the second highest grade was the daughter or son of parents to whom you felt indebted. Which person would you employ?

1 One with the highest grade
2 Daughter or son of person to whom you are indebted
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.35 [SHOW CARD 25] Suppose you are working in a firm. Which of the following department chiefs would you prefer to work under?

1 A department chief who always sticks to the work rules and never demands any unreasonable work, but who, on the other hand, never does anything for you personally in matters not connected with work.
2 A section chief who sometimes demands more than what the rules call for but who takes care of you personally beyond the call of his or her responsibility
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.36 Would you say that most of the time, people try to be helpful, or that they are mostly just looking out for themselves?

1 Try to be helpful
2 Look out for themselves
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q37 Do you think that most people would try to take advantage of you if they got the chance, or would they try to be fair?

1 Take advantage
2 Try to be fair
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.38 Generally speaking, Would you say that most people can be trusted or that you can't be too careful in dealing with people?

1 Can be trusted
2 Can't be too careful
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.39 a. [SHOW CARD 26] Imagine this situation. Pat was orphaned at an early age and was brought up by Sandy, a kind neighbor. Sandy gave him/her a good education, sent him/her to a university, and now Pat has become the president of a company. One day he/she gets an urgent message saying that Sandy, who brought him/her up, is seriously ill and asking if he/she would come at once. This message arrives as he/she is leaving to attend an important meeting which will decide whether his/her firm is to go bankrupt or to survive. Which of the following do you think he/she should do?

1 Leave everything and go back home

2 However worried he/she might be about Sandy, he/she should go to the meeting

3 Other (Please specify: _____)

9 DK

b. The last question supposed that Sandy had taken Pat in as an orphan in his/her youth and brought him/her up. Suppose that it was one of Pat's real parents who was seriously ill. Which would have been your answer then?

1 Leave everything and go back home

2 However worried he/she might be about his/her father, he/she should go to the meeting

3 Other (Please specify: _____)

9 D.K.

Q.40 [SHOW CARD 27] Using the answers on this card, please tell me how much you agree or disagree with each one of the following statements:

a. There are some illnesses that are better treated by methods that modern medicine does not recognize.
1 Strongly agree
2 Agree to some extent
3 Disagree to some extent
4 Strongly disagree
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

b. Some day science will permit the complete understanding of the functioning of the human mind.
1 Strongly agree
2 Agree to some extent
3 Disagree to some extent
4 Strongly disagree
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

c. Most of the social and economic problems we face today will be resolved by the advancement of science and technology.
1 Strongly agree
2 Agree to some extent
3 Disagree to some extent
4 Strongly disagree
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

d. At some point in the future, we can live on Mars as we live on the earth today.
1 Strongly agree

2 Agree to some extent
3 Disagree to some extent
4 Strongly disagree
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.41 What first comes to your mind when you think of American culture?

_____

_____

9 DK

Q.42a Now I would like to ask you a few questions about religion. Do you have any personal religious faith?

1 Yes ⟶ (If the respondent answers "1.Yes", continue with Q.42b.)
2 No ⟶ (If the respondent answers "2.No", skip to Q.43.)

Q42b (Religion, only the respondents who choose "1.Yes" in Q42a) What is your religion?

1 Buddhism
2 Protestantism
3 Catholicism
4 Judaism
5 Islam
6 Hinduism
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

[ASK EVERYONE]

Q.43 Without reference to any of the established religions, do you think a religious mind is important, or not important?

1 Important
2 Not important
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.44 Some people say that although there are many different religions in the world, each with their own beliefs, their teachings really all amount to the same thing. Would you agree with this or disagree?

1 Agree
2 Disagree
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.45 Here are two statements which people sometimes make when discussing law. Which of them comes closer to your opinion? "We should always obey the law," or "It should be excusable to break a law when we have the confidence that what we are doing is right."

1 We should always obey the law
2. It should be excusable to break a law when we have the confidence that what we are doing is right
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.46 [SHOW CARD 28] Here are two statements about a contract. Which of them comes closer to your own opinion?

A "To have a contract constitutes evidence that there is no trust between parties. There is no need to have a contract if parties trust each other"

B "No matter how much parties trust each other, it is better to have a contract"

1 Closer to A's opinion.
2 Closer to B's opinion.
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.47 [SHOW CARD 29] Which of the following comes closer to your opinion?

A "If you were to have a contract, it is better to keep the contract simple allowing for its flexibility because it is a mere formality"

B "Contracts should be written clearly in detail to avoid the possibility of conflicting interpretations"

1 Closer to A's opinion.
2 Closer to B's opinion.
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.48 [SHOW CARD 30] Here are two statements people sometimes make when discussing the environment and economic growth. Which of them comes closer to your own point of view?

1 Protecting the environment should be given priority, even if it causes slower economic growth
2 Economic growth should be the top priority, even if the environment suffers to some extent
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.49 What is the single most important thing in life for you? (Write down all answers if the respondent gives more than one.)

_____

9 DK

Q.50 [SHOW CARD 31] How much confidence do you have in them? Are you very confident, somewhat confident, not confident or not confident at all?

	Very Confident	Somewhat Confident	Not Confident	Not Confident At All	DK
a. Religious organizations	1	2	3	4	9
b. The law and the legal system	1	2	3	4	9
c. The press and television	1	2	3	4	9
d. The police	1	2	3	4	9
e. National government bureaucracy	1	2	3	4	9
f. National Assembly (Congress)	1	2	3	4	9
g. NPO/NGO (Non-Governmental, Non-Profit Organizations)	1	2	3	4	9
h. Social welfare facilities	1	2	3	4	9
i. The United Nations	1	2	3	4	9
j. Science and technology	1	2	3	4	9

Q.51 [SHOW CARD 32] There are many religions in the world, some of which are in conflict with one another. What do you think we should do? Which one of the following ideas comes closest to your thoughts? Please select only one answer.

1. Everyone should spread his/her own religious beliefs
2. We should all try to make others understand our religious beliefs
3. We should all try to understand each other's religion
4 Regardless of understanding each other's religion, we should all respect each other's religious beliefs
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.52 [SHOW CARD33] Please look carefully at the following list of voluntary organizations and activities and say... which, if any, do you belong to? (Code all 'yes' answers as 1, if not mentioned code as 2) ***(Multi Answers)***

1. Neighborhood organization
2. PTA (Parents and teachers association)
3. Women's club, seniors' club, young people's club
4. Fire-fighters' association, voluntary neighborhood watch group
5. Farmers' association, fishermen's association, forester's association
6. Chamber of commerce and industry and other industrial association
7. Labor Union (Trade union)
8. Club for sports, recreation, hobby or cultural activities
9. Regional association, class reunion association, alumni association
10. Religious organization
11. Coops, consumer union
12. Political group, election campaign organization
13. Citizen group, resident movement group, environment protection group
14. Others (Please specify: _____)
15. None

Demographics

We have now reached the last section of the survey. We would like to ask you a bit about yourself.

F1【Gender】 ***(DO NOT ASK THIS QUESTION. JUDGE FROM NAME AND APPEARANCE)***

1 Male
2 Female

F2【Age】 How old are you? ☐☐

1	18～19 yrs				
2	20～24yrs	6	40～44yrs	10	60～64yrs
3	25～29yrs	7	45～49yrs	11	65～69yrs
4	30～34yrs	8	50～54yrs	12	70yrs & over
5	35～39yrs	9	55～59yrs	99	DK

F3【Education】 [SHOW CARD 34] What is the last school from which you graduated?
(If you dropped out or are still in the school, please consider yourself graduated)

1 Elementary, middle or junior high school
2 Senior high school
3 Community or junior college
4 Four-year college, university
5 Graduate or professional school
8 Other (please specify: _____)
9 NA/DK

F4【Occupation】 What is your work? _____ *<Write down job title>*

1 High status professional (doctor, dentist, lawyer, architect, consultant, psychologist, professor, engineer, etc.)
2 Other professional (teacher, social worker, therapist, etc.)
3 High level business executive (CEO, CFO, COO, President, Executive VP, Senior VP, VP, etc.)
4 Middle manager (supervisor, director, division head, manager, etc.)
5 Small business owner/entrepreneur/shopkeeper
6 White collar worker (word processor, secretary, typist, clerk, administrative assistant, etc.)

7 Skilled worker (technician, electrician, plumber, computer programmer, carpenter, etc.)

8 Blue collar laborer

9 Civil servant (policeman, postal worker, fireman, sanitation worker, military, etc.)

10 Farmer/fisherman

11 Student

12 Homemaker

13 Unemployed, but looking for work

14 Retired

15 Any other not elsewhere classified (Please specify _____)

F5【Family income】[SHOW CARD 35]

Would it be possible for you to tell me to which one of the following categories your family belongs in terms of the past year's income before taxes, including bonus?

1	Under $20,000	7	$80,001-$100,000	
2	$20,001-$30,000	8	$100,001-$150,000	
3	$30,001-$40,000	9	$150,001-$200,000	(42)
4	$40,001-$50,000	10	Over $200,000	
5	$50,001-$60,000	11	DK (volunteered)	
6	$60,001-$80,000	12	Refused (volunteered)	

F6【Number of household members】What is the total number of people in your household, including yourself?

[ ] persons 99 DK (43)(44)

F7【household members】〔SHOW CARD 36〕Who do you live with in your household now? Please choose as many categories as you like from the following items?

1 Only myself (Single)

2 Spouse/partner (wife, husband or partner)

3 Parent(s) (45)

4 Child(ren)

5 Relative

6 Roommate/friend

7 Other (Please specify _____)

9 DK

Thank you very much for your time.

英語調査票（シンガポール）

MEDIA RESEARCH CONSULTANTS PTE. LTD.
Caldecott Broadcast Centre
Andrew Road
Singapore 299939
Tel.: (65) 6255 7484 Fax: (65) 6255 6268

Serial Number:
(Official use only)

Please tick (☑) where applicable:
☐ Checked ☐ Coded
☐ Validated ☐ Data entered

PLEASE FILL IN THE FOLLOWING INFORMATION:

Name of Interviewer: _____

Name of Respondent: _____

Respondent's Contact Numbers: _____ (H) _____ (O) _____ (HP / PGR)

Respondent's Address: _____

Date of Survey: / / 2007 Time Started: _____ Time Ended: _____

MEDIA RESEARCH CONSULTANTS PTE. LTD.
Caldecott Broadcast Centre
Andrew Road
Singapore 299939
Tel.: (65) 6255 7484 Fax: (65) 6255 6268

Serial Number:
(Official use only)

Please tick (☑) where applicable:
☐ Checked ☐ Coded
☐ Validated ☐ Data entered

Main Language of Interviewer: 1 Mandarin 2 Malay 3 Tamil 4 English 5 Other (specify:_____)

INTRODUCTION

Good morning/afternoon/evening. I am <u><< read out interviewer name >></u> from Media Research Consultants Pte. Ltd.

We are doing a survey on Asia-Pacific Values in Singapore. We'd like to speak to the person in your household aged 20 years and above who has most recently celebrated his/her birthday. All the information and views you provide will be kept strictly confidential.

Before we start the interview, could I please find out whether you or anyone in the household works in any of these industries:

Market research.....**[TERMINATE INTERVIEW]**

早/午/晚安。我的名字叫_____，是传媒研究公司的代表。我们正在新加坡进行一项关于亚洲太平洋地区的价值观调查。 想和您家中一位最近刚庆祝生日及在 20 岁以上的成员谈话。此项研究只限于对调查结果进行统计分析，保证不会泄漏任何个人信息。

在访问开始之前，请问您家中有任何一位成员在市场研究公司工作吗？如有，结束访问。

Q.1 **[SHOW CARD 1]** Over the next five years do you think your living conditions will get better or worse? Read 1 to 5）
在今后的 5 年间里，你认为你的生活状况将变的更好呢?，还是变的更坏呢？请依次读 1 至 5）

1 Much better
2 Slightly better
3 About the same
4 Slightly worse, or
5 Much worse
8 Other (Please specify)_____
9 Don't know

Q.2 **[SHOW CARD 2]** Which one of the following countries or regions would you like to see develop the friendliest relationship for our own national interest? **(CODE ONE ANSWER ONLY)**
为了我国的利益，在以下列举的国家（地区）当中，您认为最应该促进与哪个国家（地区）的友好往来?

1 USA
2 EU (European Union)
3 China
4 Japan
5 South Korea
6 Australia
7 India
8 An Asian country other than China, India, Japan and South Korea
88 Other (Please specify: _____)
99 DK

Q.3 **[SHOW CARD 3]** If you could be born again, which of the following Asian or Pacific countries or areas would you like be born in, with the exception of Singapore? (CODE ONE ANSWER ONLY)
假如人能转世的话，在新加坡以外的亚洲太平洋国家或地区中，您愿意出生在以下的哪个国家或地区?

1 China (Mainland)
2 Japan
3 South Korea
4 Taiwan
5 Hong Kong
6 India
7 Philippines
8 Australia
88 Other (Please specify: _____)
99 DK

Q.4 Now, If you could be born again, would you like to be a boy or a girl?
那么，假如有再一次转生的机会的话，您是希望作为男的还是作为女的出生呢?

1 Boy
2 Girl
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.5 Would you say you are, on the whole, more inclined than the average Singaporean to respect your ancestors or less? 说起来您比一般新加坡人更尊敬自己的祖先, 还是没有一般人那样尊敬自己的祖先呢?

1 More than the average Singaporean
2 Less than the average Singaporean
3 Average
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.6 If you had no children, would you think it desirable to adopt a child in order to continue the family line, even if there is no blood relationship? Or do you not think this is important? 如果您没有孩子，您认为有必要领养没有血缘关系的孩子来传宗接代吗？还是认为没有那样做的必要呢?

1 Would adopt
2 Would not adopt
3 Depends
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.7 In general, what would you think is the ideal number of children in a family?
现在，对一般家庭来说，您认为有几个孩子最为理想?

[ ] 9 DK

Q8 **[SHOW CARD 4]** There are all sorts of attitudes toward life. Which one of the following statements would you say comes closest to your way of life? 关于生活方式，人们有各种各样的不同观点。在以 下列举的选项当中，哪一项更接近你的生活方式?

1 Make no offense and lead a serious life
2 Active in volunteer work and make a social commitment
3 Work hard and get rich
4 Study earnestly and make a name for yourself
5 Don't think about money or fame; just live a life that suits your own taste
6 Live each day as it comes, cheerfully and without worrying
8 Other (Please specify) _____
9 D.K.

Q.9 **[SHOW CARD 5]** How do you feel about each of the following traditional values? 对于以下列举出的传统价值观，您是怎样看待的?

	Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree	Other	Don't know
a. We should respect ancestors.	1	2	3	4	8	9
b. The eldest son should look after his aging parents	1	2	3	4	8	9
c. A wife should follow her husband	1	2	3	4	8	9
d. Not to marry someone whom your parents object to	1	2	3	4	8	9
e. We should follow older people	1	2	3	4	8	9
f. We need a son to keep our family line going	1	2	3	4	8	9
g. Men should work outside and women should tend to housekeeping	1	2	3	4	8	9

Q14 **[SHOW CARD 9]** If you had to choose one, which would you prefer, more money or more free time? 如果您必须在以下两个项目中选择一项，您会选择哪一项?

1 More money
2 More free time
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.15 If you were to get enough money to live as comfortably as you would like for the rest of your life, would you continue to work or would you stop working? 如果您积蓄了一生都能过上舒适生活的钱，您还继续工作下去吗？还是放弃工作呢?

1 Continue to work
2 Stop working
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.16 **[SHOW CARD 10]** Here are some of the things people usually take into account in relation to their work. Which one would you personally place first? 关于工作，经常成为平时议论的话题。您对工作最关心的是以下哪一方面?

1 A good income so that you do not have any worries about money
2 A safe job with no risk of closing down or unemployment
3 Working with people you like
4 Doing an important job which gives you a feeling of accomplishment
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.17 **[SHOW CARD 11]** People feel uneasy about themselves or their family members from time to time. To what extent do you worry, either for yourself or for your family, about each of the following? Would you say very much, somewhat, slightly, or not at all? **(CIRCLE ONE OF THE NUMBERS IN THE COLUMN)** 人们有时为自己或者家人的事会感到不安。您对下述的可能发生在您的家人或您本人身上的问题是否感到不安？请用“非常不安”，“相当不安”,"有些不安”,“非常不安” 进行回答

	Very much	Somewhat	Slightly	Not at all	Other	DK
a. Serious illness	1	2	3	4	8	9
b. Car accident	1	2	3	4	8	9
c. Unemployment	1	2	3	4	8	9
d. War	1	2	3	4	8	9

Q.10 What occupation do you respect most? (Write down all answers if the respondent gives more than one.) 请说出您最尊敬的职业是什么？（如果调查对象的回答项目超过 1 项时，请全部记录下来）

_____

b) What is the occupation you yourself would like to have? (Write down all the answers if the respondent gives more than one.) 您本身实际上最想从事的职业是什么呢？（如果调查对象的回答项目超过 1 项时，请全部记录下来）

_____

Q.11 **[SHOW CARD 6]** Whether you have a job in a certain workplace or not, what qualifications should a good leader have in your workplace? Please choose the three most important qualifications among the following. ***(3 multi-answers)*** 无论您现在有无固定的职业，您认为一位好领导应该具备什么品质？请在下列各项中选出您认为最重要的 3 项来。（限选 3 项）

1 Technical competence
2 Fair in treating followers
3 Being liked and respected by followers
4 Serious attitudes toward work
5 Good human relations and have a wide acquaintance
6 Sincere in attitudes toward co-workers
7 Being quick in decision and determined
8 Good judgment
8 Ability to bring great benefits to followers
9 Seniority
10 Come from good family background

Q12 **[SHOW CARD 7]** For your age, how satisfied are you with your health? Would you say…(Read) 和同龄人相比，您对自己的健康状况感到满意吗？（读出）

1 Very satisfied
2 Fairly Satisfied
3 Fairly dissatisfied, or
4 Very dissatisfied
8 Other (Please specify: _____)
9 DK (DO NOT READ)

Q13. **[SHOW CARD 8]** Using the classifications on this card, how would you classify your current standard of living? 如果把当前整个社会分成以下 5 个阶层的话，您认为您属于哪一阶层？

1 Upper
2 Upper middle
3 Middle
4 Lower middle
5 Lower
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.18 **[SHOW CARD 12]** By using the scale of 1 to 7, where'7' is "very important, " and '1' is "not important at all," can you tell me how important each of the following is to you? 在下述列举的生活范围内，请您用 1 至 7 之间的数字来评价每一项内容的重要程度。

	Not Important at all ←						Very Important	Other	DK/ NA
a. Your immediate family members such as spouse and children, if you have any	1	2	3	4	5	6	7	8	9
b. Career and job	1	2	3	4	5	6	7	8	9
c. Free time and relaxation	1	2	3	4	5	6	7	8	9
d. Friends and people you know	1	2	3	4	5	6	7	8	9
e. Parents, brothers, sisters, and other relatives	1	2	3	4	5	6	7	8	9
f. Religion	1	2	3	4	5	6	7	8	9
g. Politics	1	2	3	4	5	6	7	8	9

Q.19 **[SHOW CARD 13]** All things considered, how satisfied are you with your family life—the time you spend and the things you do with members of your family? Just call off the number which comes closest to your feelings. 考虑到所有的时间及事情，您对自己的家庭满意，还是不满意？请选择最接近您的想法的项目编号.

1 Completely satisfied
2 Somewhat satisfied
3 Neither satisfied nor dissatisfied (neutral)
4 Somewhat dissatisfied
5 Completely dissatisfied
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.20 **[SHOW CARD 14]** Now I would like to ask about your life as a whole. How satisfied are you with your life as a whole these days? Which letter on this card comes closest to your feelings?
接下来问一下您对生活的看法。坦率地说您对您目前的生活是满足，还是不满足呢？哪一项最接近您的看法？

1 Completely satisfied
2 Somewhat satisfied
3 Neither satisfied nor dissatisfied (neutral)
4 Somewhat dissatisfied
5 Completely dissatisfied
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.21 During the last four weeks, have you suffered from any of the following? (Read each in turn) 近 1 个月内，您对以下列出的症状而感到苦恼过吗？（请依次读出各项）

	Yes	No
a. Headaches/migraines/(head felt heavy)	1	2
b. Backaches (stiff back)	1	2
c. Nervousness	1	2
d. Depression (feeling down)	1	2
e. Insomnia (sleeplessness)	1	2

8 Other (Please specify: _____)

9 DK

Q.22 **[SHOW CARD 15]** Whom would you go to for advice when you have worries about your personal problems and important matters? Please choose ONE among the following. 在遇到烦恼之事或者面临重要的决策时，您想首先去找谁相商呢？或想找谁相商呢？请从以下列举的当中选择 1 项。

1 Father
2 Mother
3 Brothers and sisters
4 Spouse or partner (wife or husband)
5 Other family member and relative
6 Friends or acquaintances (in your workplace, school or neighborhood)
7 Person to consult anonymously (on phone or internet)
8 Others (Please specify: _____)
98 I don't have anyone with whom I can confide in.
99. I don't have any problem.

Q.23 **[SHOW CARD 16]** If you look at successful people in society today, which do you think has played the largest part in their success, their ability and effort, luck and chance, or relationships through kindred, countrymen/countrywomen, and alumni/alumnae (personal connections) ？ 综观当今社会上成功的人，您认为对成功起最主要作用的是个人的才能及努力，还是运气及机遇，或是血缘 •地缘 •学缘等关系呢 (个人关系)?

1 Ability and effort
2 Luck and chance
3 Relationships through kindred, countrymen/countrywomen, and alumni/alumnae (personal connections)
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q24 〔**SHOW CARD 17**〕 Now the questions about hot topics. How do you feel about something like 'Supernatural Power' and 'UFO (Unidentified Flying Object)' on this card? Looking at categories 1 to 8 carefully, please choose the one that comes closest to your feeling for each of the following items. 现在请教您一下社会上经常议论的话题。 这张提问卡上列有「超能力」、「飞碟」等，您对此有何感想？请您仔细看好 1 至 8 的名词，对每一项回答出与您的看法恰好一致的选项。

	Boring	Would like to be	Exist	Dreadful, Scary	Would not like to be	Interesting, amusing	Does not exist Nonsense	Not dreadful Not scary		Other	DK	
a . Super natural power or psychokinesis	1	2	3	4	5	6	7	8		80	99	
b .UFO (Unidentified Flying Object) or alien	1	2	3	4	5	6	7	8		80	99	
c . Specter or ogre	1	2	3	4	5	6	7	8		80	99	
d . Ghost or apparition, curse	1	2	3	4	5	6	7	8		80	99	

Q.25 Some people say that with the development of science and technology, life becomes more convenient, but at the same time humanity /a lot of human feelings is lost. Do you agree with this opinion, or do you disagree? 有这样的意见：「随着科学技术的不断发展，人们的生活变得越来越方便了，但是随之而来的是本来的人情味(人的很多情感)变得越来越淡漠」。您赞成还是反对这种意见?

1 Agree (Humanity is lost)
2 Disagree (Humanity is not lost)
3 Undecided/it depends
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.26 Some people say that if we get outstanding political leaders, the best way to improve the country is for the people to leave everything to them, rather than for the people to discuss things among themselves. Do you agree with this, or disagree? 有这样的意见：「如果出现优秀的政治家，为使国家兴旺，与其国民之间相互争论，还不如将国家的命运交给他们好」。对这种意见，您是赞成呢？还是反对呢?

1 Agree
2 Disagree
3 Undecided/it depends
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.27 Do you agree with the following statement? "Home is the only place where I can relax and feel good." 有这样的看法：「家庭是唯一舒适而轻松的场所」。您也那么想吗？还是不那么想呢？

1 Yes, home is the only place where I can relax and feel good.
2 No
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.28 **[SHOW CARD 18]** Which of the statements on this card comes closest to your own opinion about marriage? Just call off the letter, please. 关于离婚问题，在下面的 3 种意见中哪一种和您的想法最接近?

1 Marriage is permanent
2 Marriage may be broken only under serious circumstances
3 Marriage can be broken by simple agreement of the two partners
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.29 **[SHOW CARD 19]** Here are three opinions about man and nature on the card. Which one of these do you think is closest to the truth? 关于自然和人类的关系有以下几种意见。您认为哪一种看法更真实?

1 In order to be happy, we must follow nature
2 In order to be happy, we must make use of nature
3 In order to be happy, we must conquer nature
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.30 **[SHOW CARD 20]** Please choose from among the following statements the one with which you agree most. 在下面的意见当中您赞成哪一种?

1 If individuals are made happy, then and only then will the country as a whole improve.
2 If the country as a whole improves, then and only then can individuals be made happy.
3 Improving the country and making individuals happy are the same thing.
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.31 Some people say that no matter how mechanized and how advanced information technology the world gets, nothing can reduce the richness of human feelings or one's humanity. Do you agree with this opinion or disagree?
有这样的意见：「不管机械化或信息化程度有多高，人们内心的丰富程度（人情味）也不会减少」。您怎样看这种意见?

1 Disagree (Humanity is REDUCED)
2 Agree (NOT REDUCED)
3 Cannot say one way or another
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.32 **[SHOW CARD 21]** Which, if any, of the following do you believe in? 您认为以下列举的事情真的「有」或「存在」吗？

	Exists	May exist	Does not exist	Others	DK
a. Buddha, God, or gods	1	2	3	8	9
b. Life after death	1	2	3	8	9
c. A soul or a spirit	1	2	3	8	9

Q.33 **[SHOW CARD 22]** If you were asked to choose the two most important items listed on the card, which two would you choose? (Select two) 如果让您在以下项目中列举最重要的两项，您会选择哪两项呢?

	Selected	Not selected
a. Filial piety/Love and respect for parents	1	2
b. Repaying people who have helped you in the past	1	2
c. Respect for the rights of the individual	1	2
d. Respect for the freedom of the individual	1	2

8 Other Please specify: _____)

9 DK

Q.34 **[SHOW CARD 23]** Suppose that you are the president of a company. The company decides to employ one person, and then carries out an employment examination. The supervisor in charge reports to you saying, "Your relative who took the examination got the second highest grade. But I believe that either your relative or the candidate who got the highest grade would be satisfactory. What shall we do?" In such a case, which person would you employ?

假如您是某公司的总裁。该公司为录取一名新职员而举行了考试。负责这次招聘考试的长官对身为总裁的您做了如下的结果汇报：「总裁，您亲戚考了第 2 名，但是我认为无论录取第 1 名，还是录取您的亲戚都可以。不知您看怎么办好?」。您将告诉长官录用（录取）哪一位呢？

1 One with the highest grade
2 Your relative
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

b. **[SHOW CARD 24]** In the last question, we supposed that the one getting the second highest grade was your relative. Suppose that the one who got the second highest grade was the daughter or son of parents to whom you felt indebted. Which person would you employ? 那么，在这里如果获第 2 名的不是您的亲戚，而是曾经对您有恩的人的孩子，您将怎样回答？

1 One with the highest grade
2 Daughter or son of your benefactor
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.35 **[SHOW CARD 25]** Suppose you are working in a firm. Which of the following department chiefs would you prefer to work under? 某公司有下述两位长官。如果要是您做为他的部下，您认为做哪一位的部下更好?

1 A department chief who always sticks to the work rules and never demands any unreasonable work, but who, on the other hand, never does anything for you personally in matters not connected with work.

2 A department chief who sometimes demands extra work in spite of rules against it, but who, on the other hand, looks after you personally in matters not connected with work.

8 Other (Please specify: _____)

9 DK

Q.36 Would you say that most of the time, people try to be helpful, or that they are mostly just looking out for themselves? 您认为大部分人是愿意帮助别人? 还是只考虑自己?

1 Try to be helpful

2 Look out for themselves

8 Other (Please specify: _____)

9 DK

Q.37 Do you think that most people would try to take advantage of you if they got the chance, or would they try to be fair? 您是否认为别人一有机会总想利用您，还是认为根本没有那样的事?

1 Take advantage

2 Try to be fair

8 Other (Please specify: _____)

9 DK

Q.38 Generally speaking, would you say that most people can be trusted or that you can't be too careful in dealing with people? 您认为大部分人可以信赖吗? 还是认为经常有防备之心为好?

1 Can be trusted

2 Can't be too careful

8 Other (Please specify: _____)

9 DK

Q.39 a. **[SHOW CARD 26]** Imagine this situation. Pat was orphaned at an early age and was brought up by Sandy, a kind neighbor. Sandy gave him/her a good education, sent him/her to a university, and now Pat has become the president of a company. One day he/she gets an urgent message saying that Sandy, who brought him/her up, is seriously ill and asking if he/she would come at once. This message arrives as he/she is leaving to attend an important meeting which will decide whether his/her firm is to go bankrupt or to survive. Which of the following do you think he/she should do?

请您想像以下的场面：有一位名叫陆大安的人，在他年幼的时候父母就相继去世了，有一位邻居名叫李山的人把他扶养成人，并且顺利完成了大学学业，而今又在一家公司任 总经理职位。当他正在开是否破产，决定公司命运的重要会议时，突然收到老家恩人「李山病危速回」的通知。 如果是您的话您会怎么做？请在下列中选出一个。

1 Leave everything and go back home
2 However worried he/she might be about Sandy, he/she should go to the meeting
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

b. The last question supposed that Sandy had taken Pat in as an orphan in his/her youth and brought him/her up. Suppose that it was one of Pat's real parents who was seriously ill. Which would have been your answer then? 以上是关于恩人病危的情形，如果不是恩人，而是陆大安的生身父母的话，您认为他应该怎么做？请在下列中选出一个。

1 Leave everything and go back home
2 However worried he/she might be about his/her parent, he/she should go to the meeting
8 Other (Please specify: _____)
9 D.K.

Q.40 **[SHOW CARD 27]** Using the answers on this card, would you tell me how much you agree or disagree with each one of the following statements? (Read each in turn) 对于下面列举出的事物您是怎样看的？请分别在其中做出选择。

a. There are some illnesses that are better treated by methods that modern medicine does not recognize. 对于有些病，用与现代医学不同的治疗方法去医治会更好。

1 Strongly agree
2 Agree to some extent
3 Disagree to some extent
4 Strongly disagree
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

b. Some day science will permit the complete understanding of the functioning of the human mind. 随着科学技术的发展，有一天我们可以知道人们的心里想的是什么。

1 Strongly agree
2 Agree to some extent
3 Disagree to some extent
4 Strongly disagree
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

c. Most of the social and economic problems we face today will be resolved by the advancement of science and technology.
我们今天所面临的几乎所有的经济问题及社会问题都会随着科学技术的进步而得到解决。

1 Strongly agree
2 Agree to some extent
3 Disagree to some extent
4 Strongly disagree
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

d. At some point in the future, we can live on Mars as we live on the earth today.
随着科学技术的发展，将来人们可以象生活在地球上一样，生活在火星上。

1 Strongly agree
2 Agree to some extent
3 Disagree to some extent
4 Strongly disagree
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.41 What first comes to your mind when you think of Singaporean culture?
如果问起您新加坡文化，最初浮现在您脑海的是什么?

_____

9 DK

Q.42a Now I would like to ask you a few questions about religion. Do you have any personal religious faith?
接下来想问一下有关宗教的问题。您有什么信仰吗?

1 Yes ——→ Q.42b
2 No ——→ Q.43

Q.42b (Religion, only the respondents who choose "1" in Q42a) What is your religion?
(限定问 42a 选择"1"的回答者) 您所信仰的宗教是以下哪一种?

1 Buddhism
2 Taoism
3 Christianity
4 Islamism
5 Hinduism
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.43 Without reference to any of the established religions, do you think a religious mind is important, or not?
那么，无论您有无宗教信仰，您认为「宗教心」非常重要吗? 还是认为不重要呢?

1 Important
2 Not important
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.44 Some people say that although there are many different religions in the world, each with its own beliefs, their teachings really all amount to the same thing. Would you agree with this or disagree?
关于宗教有这样的意见：「尽管有各种各样的宗教，各自都有独自的教义，但是教义的根本都是相同的。」那么，您赞成还是反对这种意见?

1 Agree
2 Disagree
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.45 Here are two statements which people sometimes make when discussing law. Which of them comes closer to your opinion? "We should always obey the law," or "It should be excusable to break a law when we have the confidence that what we are doing is right."
有这样的意见：「无论在什么情况下，都应该维护法律」，同时也有这样的意见：「确信有正当理由时，破坏了法律也是不得已的」。哪一种意见与您的想法更接近?

1 We should always obey the law
2. It should be excusable to break a law when we have the confidence that what we are doing is right
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.46 **[SHOW CARD 28]** Here are two statements about a contract. Which of them comes closer to your own opinion? 关于合同书到底是什么，在 A 和 B 的意见中，您与谁的看法更接近?

A "To have a contract constitutes evidence that there is no trust between two parties. There is no need to have a contract if the parties trust each other"
B "No matter how much two parties trust each other, it is better to have a contract"
A 签定合同书是相互没有信任的证据。如果双方相互信任，就没有必要签订合同书
B 无论双方怎样相互信任，作为合同书都应该以正式的书面形式签订

1 Closer to A's opinion.
2 Closer to B's opinion.
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.47 **[SHOW CARD 29]** Which of the following comes closer to your opinion?
以下 A 和 B 的意见之中，您与哪一位的意见更接近?

A "If you were to have a contract, it is better to keep the contract simple allowing for its flexibility because it is a mere formality"
B "Contracts should be written clearly in detail to avoid the possibility of conflicting interpretations"
A 因为合同是形式上的东西，即使双方签订合同，其表述应尽可能做到灵活通融
B 为避免日后围绕合同解释等问题引起的争执，合同书的表述应尽量做到具体、明确
1 Closer to A's opinion.
2 Closer to B's opinion.
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.48 **[SHOW CARD 30]** Here are two statements people sometimes make when discussing the environment and economic growth. Which of them comes closer to your own point of view?
关于环境保护与经济增长经常有以下两种意见，哪一种意见与您的看法更接近?

1 Protecting the environment should be given priority, even if it causes slower economic growth
2 Economic growth should be the top priority, even if the environment suffers to some extent
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.49 What is the single most important thing in life for you? (Write down all answers if the respondent gives more than one.) 对您来说，最宝贵的东西是什么?

_____ 9 DK

Q.50 **[SHOW CARD 31]** How much confidence do you have in them? Are you very confident, somewhat confident, not confident or not confident at all? 您对以下列举的组织或者制度或者事情具有怎样的信赖程度? 请用「非常信赖」「稍微信赖」「不信赖」「完全不信赖」当中的一个进行回答。

	Very Confident	Somewhat Confident	Not Confident	Not Confident At All	DK
a. Religious organization	1	2	3	4	9
b. The law and the legal system	1	2	3	4	9
c. The press and the television	1	2	3	4	9
d. The police	1	2	3	4	9
e. National government bureaucracy	1	2	3	4	9
f. National Assembly (Diet or Parliament)	1	2	3	4	9
g. NPO / NGO (Non-Profit and Non-Governmental Organization)	1	2	3	4	9
h. Social welfare facilities	1	2	3	4	9
i. The United Nations	1	2	3	4	9
j. Science and technology	1	2	3	4	9

Q.51 **[SHOW CARD 32]** There are many religions in the world, some of which are in conflict with one another. What do you think we should do? Which one of the following ideas comes closest to your thoughts? Please select only one answer.
现在世界上有许许多多的宗教，由于宗教之间的对立引起的争端也多有发生，您认为今后世界上的人们应该怎么办? 以下列举的项目中哪一项与您的看法最接近?

1. Everyone should spread one's own religious belief
2. We should all try to make others understand our religious belief
3. We should all try to understand each other's religion
4 Regardless of understanding each other's religion, we should all respect each other's religious belief
8 Other (Please specify: _____)
9 DK

Q.52 **[SHOW CARD 33]** Please look carefully at the following list of voluntary organizations and activities and say… which, if any, do you belong to? (Code all 'yes' answers as 1, if not mentioned code as 2) **(Multi Answers)** 您现在都参加了什么组织？或属于那个俱乐部的会员吗？请您看一下这里的卡片，告诉我哪些是您所属的?(选择项数不限)

	Belong	Not Mentioned
1. Neighborhood organizations (Residents' Committee or RC)	1	2
2. Parents' alumni and teachers' associations	1	2
3. Women's club, seniors' club, young people's club (Non religious nature)	1	2
4. Civil Defence Volunteer Group, Voluntary neighbourhood watch group	1	2
5. Farmers' association, fishermen's association	1	2
6. Chamber of commerce and industry and other industrial association	1	2
7. Labour union (Trade union)	1	2
8. Club for sports, recreation, hobby or cultural activities	1	2
9. Regional association, class reunion association, alumni association	1	2
10. Religious organization	1	2
11. CASE (Consumers Association of Singapore)	1	2
12. Political group, election campaign organization	1	2
13. Environment protection group	1	2
14. Family Service Centres	1	2
88. Others (Please specify: _____)		
99. None		

Demographics

We have now reached the last section of the survey. We would like to ask a bit about yourself.

F1【Gender】*(DO NOT ASK THIS QUESTION. JUDGE FROM NAME AND APPEARANCE)*
【性别】

1 Male
2 Female

F2【Age】How old are you?
【年龄】您今年多大年龄? ☐☐ years

1	20～24yrs	5	40～44yrs	9	60～64yrs
2	25～29yrs	6	45～49yrs	10	65～69yrs
3	30～34yrs	7	50～54yrs	99	Others
4	35～39yrs	8	55～59yrs		

F3a【Ethnic Group】What is your ethnic group? 【种族】您的种族是什么?

1 Chinese
2 Malay
3 Indian
4 Others (Please specify: _____)

b【Main Language】What is your main language? 【母语】您使用最多的语言是什么?

1 Mandarin
2 Malay
3 Tamil
4 English
5 Others (Please specify: _____)

F4【Education】**[SHOW CARD 34]** What is the last school from which you graduated?
(If you dropped out or still in the school, please consider yourself graduated)
【学历】您最终毕业的学校属于下列哪一类（退学以及正在就读的可看成毕业）?

1 No formal education/ Primary education
2 Secondary Education/ "N" level
3 "O" Level
4 Post Secondary (ITE)
5 Pre U / JC/ "A" Level
6 Polytechnic/ Diploma
7 University/ Postgraduate
8 NA/DK

F5【Occupation】What is your work? _____<*Write down job title*>【职业】您的职业是什么?

1 Top Management (CEO, GM, Director, VP etc)
2 Middle Management (Department Manager, Head)
3 Executive
4 Professional (Doctor, Lawyer, Engineer etc)
5 Clerical (Clerk, Admin Asst., Secretary etc)
6 Blue-Collar (Construction, Technician, Driver etc)
7 Freelancer (Tutor, Designer, Artist etc)
8 Self-employed
9 Student
10 Homemaker/Housewife
11 Retiree
12 Unemployed
13 Serving NS
14 NA/DK

F6【Family income】**[SHOW CARD 35]** Would it be possible for you to tell me to which one of the following groups your **Household** belongs in terms of the monthly income before taxes?
【家庭收入】您的去年每个月的收入有多少? 请您告诉我包括奖金在内扣税前的总收入。

1 S$2,000 or below
2 Between S$2,001 and S$3,000
3 Between S$3,001 and S$5,000
4 Between S$5,001 and S$7,000
5 Between S$7,001 and S$9,000
6 Between S$9,001 and S$10,000
7 More than S$10,000
8 DK

F 7【Number of household members】What is the total number of people in your household, including yourself and live-in maids? 【家庭人数】和您一起生活的家庭里有几口人? (包括佣人)

☐ Persons/人 99 不知

F 8【household members】〔**SHOW CARD 36**〕Who do you live with in your household now ? Please choose as many categories as you like from the following items?
【居住形态】现在, 您和谁住在一起? 在以下的各项里请选择与您的情况相符的项目。

		Yes/ 是	**No/ 否**
1	Only myself (Single)	1	2
2	Spouse/partner (wife, husband or partner)	1	2
3	Parent(s)	1	2
4	Child(ren)	1	2
5	Relative(s)	1	2
6	Roommate/friend(s)	1	2
7	Other (Please specify_____)		
8	DK		

Thank you very much for your time.
谢谢您的参与.

英語調査票（インド）

Project -Sense of Values 2008
INDIA

Job no: BQ 23760
Date: Nov'08

Sr.No | | | | | | |

LOCATION OF INTERVIEW:

Mumbai	1	Delhi	2	Kolkata	3
Chennai	4	Bangalore	5	Hyderabad	6
Ahmedabad	7	Pune	8	Ludhiana	9
Kochi	10				

Name of the Respondent _____

Address _____

_____

Land mark _____

Telephone Number Res: Work Place:

INTERVIEW START TIME (HHMM)			

INTERVIEW END TIME (HHMM)			

LENGTH OF INTERVIEW			
			Mins

Name of Interviewer		Intr. Code										
Name of Team Leader		T L Code										

Accompanied		
		Ref no.
TL	1	
EIC	2	
OFE	3	
FM	4	
Signature		

Back Checked			
	Tel	Per	Ref no.
TL	1	5	
EIC	2	6	
OFE	3	7	
FM	4	8	
Signature			

Scrutinized		
		Ref no.
TL	1	
EIC	2	
OFE	3	
FM	4	
Signature		

INTRODUCTION

Good .....! I am from IMRB International. We are a reputed market research organization. We regularly conduct surveys on various products and services. Currently we are doing a survey to examine values, lifestyles, cultural settings in India. In this connection, I would like to speak to you for a few minutes.

Asia Pacific Values – India 2008 Survey

एशिया-प्रशांत क्षेत्र की जन मूल्य-मान्यताएँ - भारत 2008 सर्वेक्षण

We are doing a survey on Asia-Pacific Values in India. We'd like to speak to the person in your household aged 18 - 69 years who has most recently celebrated his/her birthday. For this objective, we would like to ask questions about your daily life, including economy, health, politics, religion, and the like. All the information and views you provide will be kept strictly confidential. We hope that you could help our survey.

हम एशिया-प्रशांत क्षेत्र की जन मूल्य-मान्यताओं के बारे में भारत में यह सर्वेक्षण कर रहे हैं । हम आपके परिवार के 18 से 69 वर्ष तक की आयु के उस व्यक्ति से ये प्रश्न पूछना चाहेंगे जिस ने सबसे हाल ही में अपनी वर्षगाँठ पूरी की हो / जन्मदिन मनाया हो । शोध के लिए इस प्रश्नावली में हम आपकी और आपके परिवार की आर्थिक हालत, स्वास्थ्य, राजनीति, धर्म इत्यादि जैसे रोज़मर्रा के जीवन से संबन्धित प्रश्न पूछना चाहेंगे । आपके द्वारा प्रकट किए गए विचार और दी गई हर सूचना गुप्त रखे जाएँगे । इस सर्वेक्षण में सहयोग देने के लिए बहुत बहुत धन्यवाद ।

Main Language of Interviewer: 1 Hindi 2 Bengali 3 Tamil 4 Kannada 5 Telugu
6 Gujarati 7 Marathi 8 Malayalam 9 English 10 Other (specify:_____)

RECORD START TIME शुरु करने का समय लिखें

Now let us start by asking a question about daily life. सबसे पहले हम आपके रोज़मर्रा के जीवन के बारे में पूछना चाहेंगे ।

Q.1 [SHOW CARD 1] Over the next five years do you think your living conditions will get better or worse? **READ OUT**

[शो-कार्ड 1 दिखाएँ] आने वाले पाँच सालों में आपको अपना रहन-सहन बेहतर होता दिखता है या बदतर ?

(पढ़ कर सुनाऐं)

Much better काफ़ी बेहतर	1
Slightly better कुछ हद तक बेहतर	2
About the same लगभग अभी जैसी ही	3
Slightly worse कुछ हद तक बदतर	4
Much worse काफ़ी बदतर	5
Other (Please Specify)_____ **(DO NOT READ OUT)** अन्य (कृप्या बताएँ) _____ **(इसे न पढ़े)**	8
Don't know **(DO NOT READ OUT)** नहीं मालूम **(इसे न पढ़े)**	9

Q.2 [SHOW CARD 2] Which one of the following countries or regions would you like to see develop the friendliest relationship for our own national interest?

[शो-कार्ड 2 दिखाएँ] इनमें से किस <u>एक</u> देश या क्षेत्र के साथ आप अपने देश के मैत्रीपूर्ण सम्बन्ध होना अपने राष्ट्र-हित में समझते हैं ?

USA (America) - अमेरिका	1
EU (European Union) - यूरोपीय संघ	2
Japan - जापान	3
Australia - आस्ट्रेलिया	4
China - चीन	5
South Korea - दक्षिण कोरिया	6
Asian country other than China, Japan and South Korea - चीन, जापान,	7
Other (Please Specify) अन्य (कृप्या बताएँ) _____	88
Don't know नहीं मालूम	99

Q.3 **[SHOW CARD 3]** If you could be born again, which one of the following Asian or Pacific countries or area(s) would you like be born in, with the exception of India?

[शो-कार्ड 3 दिखाएँ] यदि आप दूसरा जन्म लें, तो भारत के अलावा, एशिया-प्रशान्त क्षेत्र के इन में से किस <u>एक</u> देश में पैदा होना चाहेंगे ?

Australia - आस्ट्रेलिया	1
Japan - जापान	2
South Korea - दक्षिण कोरिया	3
China (Mainland) – चीन (मेनलैंड)	4
Taiwan - ताईवान	5
Hong Kong - हांगकांग	6
Philippines - फिलिपीन	7
Singapore - सिंगापुर	8
Other (Please Specify) अन्य (कृप्या बताएँ) _____	88
Don't know नहीं मालूम	99

Q.4 Now, if you could be born again, would you like to be a boy or a girl?

यदि आप दूसरा जन्म लें तो लड़का पैदा होना चाहेंगे या लड़की ?

1 Boy लड़का

2 Girl लड़की

8 Other (Please specify) _____अन्य (कृप्या बताएँ) _____

9 D K

Now, I'd like to ask some questions about your family or lifestyle.

अब हम आपके परिवार और आपके रहन-सहन के बारे में पूछना चाहेंगे ।

Q.5 Would you say you are, on the whole, more or less inclined than the average Indian to respect your ancestors? एक आम भारतीय की तुलना में आप पूर्वजों का कितना आदर करते हैं ?

1 More than the average Indian आम भारतीय व्यक्ति से ज्यादा

2 Less than the average Indian आम भारतीय व्यक्ति से कम

3 Average किसी भी आम भारतीय व्यक्ति जितना ही

8 Other (Please specify)_____अन्य (कृप्या बताएँ) _____

9 D K नहीं मालूम

Q.6 If you had no children, would you think it desirable to adopt a child in order to continue the family line, even if there is no blood relationship? यदि आपकी कोई सन्तान न हो, तो क्या आप[13] वंश बढ़ाने के लिए, खून का रिश्ता न होने के बावजूद कोई बच्चा गोद लेने का विचार करेंगे ?

1 Would adopt बच्चा गोद लेंगे

2 Would not adopt बच्चा गोद नहीं लेंगे

3 Depends on situation हालात पर निर्भर करता है

8 Other (Please specify)_____अन्य (कृप्या बताएँ) _____

9 D K नहीं मालूम

Q.7 In general, what would you think is the ideal number of children for a family? आपके अनुसार साधारणतः एक परिवार में कितने बच्चे होने चाहिये ?

(Record number) _____ _____ (संख्या लिखें)

99 Don't know नहीं मालूम

Q.8 [SHOW CARD 4] There are all sorts of attitudes toward life. Which one of the following statements would you say comes closest to your way of life?

[शो-कार्ड 4 दिखाएँ] जीवन के प्रति हर किसी की अपनी-अपनी विचारधारा और धारणाएँ होती हैं । इन में से कौन सा कथन जीवन के प्रति आपकी विचारधारा के सबसे समीप है ?

Resist all evils in the world and live a pure and just life दुनिया की सभी बुराइयों से दूर रह कर पवित्र और सही जीवन व्यतीत करना चाहिये	1
Make a social commitment by being active in volunteer work सामाजिक ज़िम्मेदारियों का निर्वाह करने के लिए समाज सेवा करनी चाहिये	2
Work hard and get rich खूब मेहनत कर के खूब सारा पैसा कमाना चाहिये	3
Make a name for yourself by studying earnestly मन लगाकर अध्ययन-पठन कर के अच्छा नाम कमाना चाहिये	4
Don't think about money or fame; just live a life that suits your own taste नाम और पैसे के बारे में न सोच कर, अपने तरीके और मन-मर्जी का जीवन व्यतीत करना चाहिये	5
Live each day as it comes, optimistically and without worrying आशवादी और बिना चिंता किए सकारात्मक विचारों के साथ हर दिन को अपने तरीके से जीना चाहिये	6
Other (Please Specify) _____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8
D K नहीं मालूम	9

(15)

Q.9 [SHOW CARD 5] How do you feel about each of the following traditional values?

[शो-कार्ड 5 दिखाएँ] इन पारंपरिक मूल्य-मान्यताओ के बारे में आप क्या सोचते हैं ?

	Strongly Agree पूर्ण सहमति	Agree सहमति	Disagree असहमति	Strongly Disagree पूर्ण असहमति	Other Please Specify अन्य (कृप्या बताएँ)	Don't Know नहीं मालूम
We should respect our ancestors हमें अपने पूर्वजों का आदर करना चाहिये	1	2	3	4	8 ( )	9
The eldest son should look after his aging parents परिवार के सबसे बड़े बेटे को माता पिता की देखभाल करनी चाहिये	1	2	3	4	8 ( )	9
A wife should obey her husband पत्नी को पति की कही हर बात का पालन करना चाहिये	1	2	3	4	8 ( )	9
Not to marry someone whom your parents object to माता पिता की इच्छा के विरुद्ध शादी नहीं करनी चाहिये	1	2	3	4	8 ( )	9
We should obey older peoples' opinions बड़े-बूढ़ों की आज्ञा का पालन करना चाहिये	1	2	3	4	8 ( )	9
It is important to have a son to keep the family line going वंश को बढ़ाने के लिए परिवार में बेटा होना ज़रूरी है	1	2	3	4	8 ( )	9
Men should work outside and women should tend to housekeeping पुरुषों को बाहर काम करना चाहिये और स्त्रियों को घर के अंदर	1	2	3	4	8 ( )	9

Q.10a What occupation do you respect most? **(Write down all answers if the respondent gives more than one)**

आप किन पेशों की सबसे ज्यादा इज्ज़त करते हैं ?**(उत्तरदाता जितने भी पेशे बताए, सभी के नाम लिखें)**

_____

_____

_____

Q.10b What is the occupation you yourself would like to have? **(Write down all answers if the respondent gives more than one)**

आप स्वयं किस पेशे में रहना चाहेंगे ? **(उत्तरदाता जितने भी पेशे बताए, सभी के नाम लिखें)**

_____

_____

_____

Q.11 [SHOW CARD 6] Whether you have a job in a certain workplace or not, what qualifications should good leaders have in your workplace? Please choose the three most important qualifications among the following.

[शो-कार्ड 6 दिखाएँ] आप स्वयं कहीं कार्यरत हों या नहीं पर आपके अनुसार कार्यस्थल में एक अच्छे शीर्ष व्यक्ति में इन में से कौन से तीन महत्त्वपूर्ण गुण होने चाहिये ? निम्नलिखित में से कोई <u>तीन</u> ही चुनें । **(इनमें से कोई तीन ही)**

Technical competence तकनीकी निपुणता	1
Fair in treating subordinates निचले कार्यकरियों से उचित आचरण	2
Being liked and respected by subordinates निचले कार्यकरियों के द्वारा पसंद व आदर किए जाना	3
Serious attitude toward work कार्य के प्रति गम्भीर रवैया रखना	4
Have many friends/acquaintances कई सारे मित्र और परिचित होना	5
Sincere in attitudes toward co-workers सहकर्मियों के प्रति समर्पित भाव होना	6
Decisive and determined निर्णयात्मक और कृतसंकल्प होना	7
Good judgment हालात की समझ होना और विवेकपूर्ण होना	8
Ability to bring great benefit to subordinates निचले कार्यकरियों का हित व लाभ कराने की क्षमता	9
Seniority अनुभवी होना और ज्येष्ठता	10
Come from good family background अच्छे कुलीन परिवार से होना	11

Q.12 [SHOW CARD 7] For your age, how satisfied are you with your health? Would you say…?

READ OUT

[शो-कार्ड 7 दिखाएँ] अपनी उम्र के हिसाब से आप अपनी सेहत से कितने संतुष्ट हैं ? **(पढ़ कर सुनाएँ)**

Very satisfied पूर्णतः संतुष्ट	1
Fairly Satisfied काफी हद तक संतुष्ट	2
Fairly dissatisfied काफी हद तक असंतुष्ट	3
Very dissatisfied पूर्णतः असंतुष्ट	4
Other (Please Specify) _____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8
Don't know **(DO NOT READ)** नहीं मालूम **(इसे न पढ़े)**	9

Q.13 [SHOW CARD 8] Using the classifications on this card, how would you classify your current standard of living?

[शो-कार्ड 8 दिखाएँ] इस कार्ड पर दिये गए वर्गीकरण के अनुसार आपका अभी का जीवन-स्तर किस वर्ग का है ?

Upper उच्च	1
Upper middle उच्च मध्यम	2
Middle मध्यम	3
Lower middle निम्न मध्यम	4
Lower निम्न	5
Other (Please Specify) _____ अन्य (बताएँ) _____	8
D K नहीं मालूम	9

Q.14 [SHOW CARD 9] If you had to choose one, which would you prefer, more money or more free time?

[शो-कार्ड 9 दिखाएँ] यदि इन दोनों में से कोई एक चुनने को कहा जाए तो आप किसे चुनेंगे ? ज्यादा पैसा या ज्यादा खाली समय ?

More money ज्यादा पैसा	1
More free time ज्यादा खाली समय	2
Other (Please Specify) _____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8
D K नहीं मालूम	9

Q.15 If you were to get enough money to live as comfortably as you would like for the rest of your life, would you continue to work or would you stop working? यदि आपको बाकी का जीवन बिलकुल ऐश-ओ-आराम से व्यतीत करने लायक काफी पैसा मिल जाए तो क्या आप काम करना जारी रखेंगे या काम छोड़ देंगे ?

Continue to work काम करना जारी रखेंगे	1
Stop working काम छोड़ देंगे	2
Other (Please Specify) _____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8
D K नहीं मालूम	9

Q.16 [SHOW CARD 10] Here are some of the things people usually take into account in relation to their work. Which one would you personally place first? **(PLEASE SELECT ONLY ONE)**

[शो-कार्ड 10 दिखाएँ] ये कुछ ऐसी बातें हैं जो लोग अपने काम के बारे में सोचते है । इन में से किस **एक** को आप सबसे महत्तवपूर्ण समझते हैं ? **(केवल एक उत्तर चुनें)**

A good income so that you do not have any worries about money अच्छी आमदनी हो तो खर्चे-पैसे की चिंता नहीं रहती	1
A safe job with no risk of closing down or unemployment स्थाई नौकरी होने से बेरोज़गार हो जाने का डर नहीं रहता	2
Working with people you like अपनी पसन्द के लोगों के साथ काम करना	3
Doing an important job which gives you a feeling of accomplishment उपलब्धि की भावना देने वाला महत्वपूर्ण काम करना	4
Other (Please Specify) _____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8
D K नहीं मालूम	9

Q.17 [SHOW CARD 11] People feel uneasy about themselves or their family members from time to time. To what extent do you worry, either for yourself or for your family, about each of the following? Would you say very much, somewhat, slightly, or not at all? **[शो-कार्ड 11 दिखाएँ]** हम सभी को कभी न कभी अपने बारे में या फिर अपने परिवार के सदस्य के बारे में चिंता होती ही है । इन में से किस स्थिति के लिए आप अपने बारे में या अपने परिवार के सदस्यों के बारे में कितनी चिंता करते हैं ? हर स्थिति में आप चिंता काफी ज्यादा, कुछ हद तक, थोड़ी बहुत या बिलकुल नहीं करते ?

	Very much काफी ज्यादा	Somewhat कुछ हद तक	Slightly थोड़ी बहुत	Not at all बिलकुल नहीं	Other (Please Specify) अन्य (कृप्या बताएँ)	D K नहीं मालूम
Serious illness गम्भीर बीमारी	1	2	3	4	8( )	9
Car accident सड़क दुर्घटना	1	2	3	4	8( )	9
Unemployment बेरोज़गारी	1	2	3	4	8( )	9
War युद्ध	1	2	3	4	8( )	9

Q.18 [SHOW CARD 12] By using the scale of 1 to 7, where'7' is "very important, " and '1' is "not important at all," can you tell me how important each of the following is to you.

[शो-कार्ड 12 दिखाएँ] 1 से 7 के माप पर जहाँ 7 का मतलब है <u>काफी महत्त्वपूर्ण</u> और 1 का मतलब है <u>बिलकुल भी महत्त्वपूर्ण नहीं</u>, ये सब आपके लिए कितने महत्त्वपूर्ण हैं ?

	Not Important at all बिलकुल भी महत्त्वपूर्ण नहीं				Very Important काफी महत्वपूर्ण			Other (Please Specify) अन्य (कृप्या बताएँ)	DK/ NA नहीं मालूम
Your immediate family members such as spouse and children, if you have any आपके निकटतम परिवारजन जैसे पति/पत्नी और बच्चे, यदि हैं तो	1	2	3	4	5	6	7	8 - ( )	9
Career and job कैरियर और नौकरी	1	2	3	4	5	6	7	8 ( )	9
Free time and relaxation खाली समय और आराम	1	2	3	4	5	6	7	8 ( )	9
Friends and people you know दोस्त और परिचित लोग	1	2	3	4	5	6	7	8 ( )	9
Parents, brothers, sisters, and other relatives माता-पिता भाई-बहन व अन्य रिश्तेदार	1	2	3	4	5	6	7	8 ( )	9
Religion धर्म	1	2	3	4	5	6	7	8 ( )	9
Politics राजनीति	1	2	3	4	5	6	7	8 ( )	9

Q.19 [SHOW CARD 13] All things considered, how satisfied are you with your family life—the time you spend and the things you do with members of your family? Just call off the number which comes closest to your feelings.

[शो-कार्ड 13 दिखाएँ] पूरी तरह देखा जाए तो आप अपने पारिवारिक-जीवन से कितने संतुष्ट हैं ? आप अपने परिवारजनों के साथ कितना समय बिताते है, क्या-क्या करते हैं, संतुष्टि की भावना किस हद तक है ?

Satisfied संतुष्ट	1
Somewhat satisfied थोडा बहुत संतुष्ट	2
Neither satisfied nor dissatisfied (neutral) न संतुष्ट न ही असंतुष्ट (तटस्थ)	3
Somewhat dissatisfied थोडा बहुत असंतुष्ट	4
Dissatisfied असंतुष्ट	5
Other (Please Specify)____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8
D K नहीं मालूम	9

Q.20 [SHOW CARD 14] Now I would like to ask about your life as a whole. How satisfied are you with your life as a whole these days? Which number on this card comes closest to your feelings?

[शो-कार्ड 14 दिखाएँ] अब हम आपसे आपके पूर्णरूपी जीवन के बारे में पूछना चाहेंगे । आप अपनी अभी की ज़िन्दगी से कितने संतुष्ट हैं ? संतुष्टि की भावना किस हद तक है ?

Satisfied संतुष्ट	1
Somewhat satisfied थोडा बहुत संतुष्ट	2
Neither satisfied nor dissatisfied (neutral) न संतुष्ट न ही असंतुष्ट (तटस्थ)	3
Somewhat dissatisfied थोडा बहुत असंतुष्ट	4
Dissatisfied असंतुष्ट	5
Other (Please Specify)____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8
D K नहीं मालूम	9

Q.21 During the last four weeks, have you suffered from any of the following? **(READ OUT) (ASK ONE BY ONE)**

पिछले चार हफ्तों में क्या इन में से कोई लक्षण आपने महसूस किए हैं ?**(पढ़ कर सुनाएँ) (एक एक कर पुछिए)**

	Yes	No
A Headaches/migraines/(head felt heavy) सिर दर्द या सिर भारी होना माईग्रेन	1	2
B Backaches (stiff back) पीठ दर्द या पीठ का अकड़ना	1	2
C Nervousness घबराहट	1	2
D Depression (feeling down) उदासी या हताशा	1	2
E Insomnia (sleeplessness) निद्राभाव या नींद कम आना	1	2
Other (Please Specify)____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8	
D K नहीं मालूम	9	

Q.22 [SHOWCARD 15] ? Please choose **one** among the following.

[शो-कार्ड 15 दिखाएँ] अपनी किसी निजी समस्या या ज़रूरी मामलों के लिए आप किस से परामर्श लेते हैं ? कोई **एक** चुनें । **(केवल एक उत्तर सम्भव)**

Father पिता	01
Mother माँ	02
Brothers and sisters भाई-बहन	03
Spouse or partner (wife or husband) पति या पत्नी	04
Other family member and relative कोई और परिवारजन या रिश्तेदार	05
Friends or acquaintances (in your workplace, school or neighborhood) कार्यस्थल, स्कूल या पड़ोस में कोई मित्र सहेली या परिचितजन	06
Person to consult anonymously (on the phone or internet) बिना नाम बताए परामर्श का साधन जैसे फोन या इंटरनेट	07
Other (Please Specify)____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____	08
I don't have anyone with whom I can confide मेरा कोई नहीं जिस से मैं अपनी समस्याएँ बता सकूँ	09
I don't have any problems मुझे कोई समस्या ही नहीं है	10

Q.23 [SHOW CARD 16] If you look at successful people in society today, which do you think has played the largest part in their success, their ability and effort, luck and chance, or relationships through kindred, countrymen/countrywomen, and alumni/alumnae (personal connections) ?

[शो-कार्ड 16 दिखाएँ] आज के समाज में जब आप सफल लोगों को देखते हैं तो आप क्या पाते है कि उनकी सफलता के पीछे इनमें से किस चीज़ का सबसे बड़ा योगदान रहा है ? उनकी योग्यता प्रतिभा और मेहनत, किस्मत और संयोग, या भाई-बंधु से संबन्ध, अपने प्रदेश के लोग होने का संबन्ध, स्कूल या कालेज युनीवर्सिटी की मंडली जैसे व्यक्तिगत संबन्ध? **(केवल एक उत्तर सम्भव)**

Ability and effort योग्यता प्रतिभा और मेहनत	1
Luck and chance किस्मत और संयोग	2
Relationships through kindred, countrymen / countrywomen, and alumni / alumnae(personal connections) भाई-बंधु से संबन्ध, अपने प्रदेश के लोग होने का संबन्ध, स्कूल या कालेज युनीवर्सिटी की मंडली जैसे व्यक्तिगत संबन्ध	3
Other (Please Specify)____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8
D K नहीं मालूम	9

Q24 [SHOW CARD 17] Now the questions about hot topics. How do you feel about something

like 'Supernatural Power' and 'UFO (Unidentified Flying Object)' on this card? Looking at categories 1 to 8 carefully, please choose the one that comes closest to your feeling for each of the following items.

[शो-कार्ड 17 दिखाएँ] अब कुछ विवादास्पद विषयों पर बात हो जाए । **<u>रहस्यमयी ताकतों</u>** और **<u>उड़नतश्तरियों</u>** के बारे में आप क्या सोचते हैं ? **1** से **8** तक के वर्गीकरण में से बताएँ की आप इनके बारे में क्या सोचते हैं ।

	Boring उबदार	Would like to be ऐसा होना पसंद करेंगे	Exist होना	Dreadful, Scary भयानक , डरावना	Would not like to be ऐसा होना पसंद नही करेंगे	Interesting, amusing दिलचस्प या आनंदमय	nonsense Does not exist नहीं होना	Not dreadful Not scary भयानक नहीं , डरावना नहीं	Other (Please Sprcify) अन्य ः कृः स्पट किजीये	DK पता नहीं
Super natural power or Psychokinesis रहस्यमयी ताकतें या अद्वितीय शक्तियाँ	1	2	3	4	5	6	7	8	98	99
UFO (Unidentified Flying Object) or alien उड़नतश्तरियाँ या दूसरी दुनिया के प्राणी	1	2	3	4	5	6	7	8	98	99
Goblin or ogre भूत-पिशाच	1	2	3	4	5	6	7	8	98	99
Ghost or apparition, curse प्रेतात्माएँ और श्राप	1	2	3	4	5	6	7	8	98	99

Q.25 Some people say that with the development of science and technology, life becomes more convenient, but at the same time humanity / a lot of human feeling is lost. Do you agree with this opinion or do you disagree? कुछ लोग कहते हैं विज्ञान और प्रौद्योगिकी की प्रगति के साथ जीवन तो आरामदेह हो गया है पर साथ ही साथ हम में से मानवीय भावनाएँ और मनुष्यत्व खोता जा रहा है । आप इस कथन से सहमत है या असहमत ?

Agree (Humanity is lost.) सहमत (मनुष्यत्व खोता जा रहा है)	1
Disagree (Humanity is NOT lost) असहमत (मनुष्यत्व नहीं खो रहा)	2
Undecided/it depends ठीक से कह पाना मुश्किल है, स्थिति पर निर्भर करता है	3
Other (Please Specify) _____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8
D K नहीं मालूम	9

Q.26 Some people say that if we get outstanding political leaders, the best way to improve the country is for the people to leave everything to them, rather than for the people to discuss things among themselves. Do you agree with this, or disagree?

कुछ लोगों का कहना है कि यदि बढ़िया और सक्षम राजनीतिज्ञ मिल जाएँ तो राष्ट्र को सुधारने के लिए नागरिकों के आपस में बहस करने से बेहतर है कि सभी कुछ उन राजनीतिज्ञों पर छोड़ दिया जाए । आप इस से सहमत है या असहमत ?

Agree सहमत	1
Disagree असहमत	2
Undecided/it depends ठीक से कह पाना मुश्किल है, स्थिति पर निर्भर करता है	3
Other (Please Specify) _____अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8
D K नहीं मालूम	9

Q. 27 Some people say that home is the only place where you can totally relax and feel comfortable. Do you feel that way or not? कुछ लोगों का कहना है कि अपने घर में ही सुख-शाँति मिलती है और व्यक्ति पूरी तरह निश्चिन्त हो कर रह सकता है । क्या आप भी ऐसा सोचते हैं ?

Yes, home is the only place हाँ, अपने घर में ही सुख-शाँति मिलती है	1
No नहीं	2
Other (Please Specify) _____अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8
D K नहीं मालूम	9

Q.28 [SHOW CARD 18] Which of the statements on this card comes closest to your own opinion about marriage? Just call off the number, please.

[शो-कार्ड 18 दिखाएँ] शादी के बारे में आपके विचारों से सबसे मेल खाता हुआ <u>एक</u> कथन चुनें ।

Marriage is permanent शादी स्थायी है	1
Marriage may be broken only under serious circumstances काफी गम्भीर और असहनीय स्थिति में ही शादी तोड़नी चाहिये	2
Marriage can be broken by simple agreement of the two partners यदि पति-पत्नी की रज़ामन्दी है तो शादी तोड़ने में कोई हर्ज़ नहीं	3
Other (Please Specify) _____अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8
D K नहीं मालूम	9

Q.29 [SHOW CARD 19] Here are three opinions about man and nature on the card. Which one of these do you think is closest to the truth?

[शो-कार्ड 19 दिखाएँ] प्रकृति और मनुष्य के बारे में तीन कथन दिए जा रहे हैं । आप के अनुसार इन में से कौन सा सबसे सही है ?

In order to be happy, we must follow nature खुश रहने के लिए हमें प्रकृति के अनुसार चलना चाहिये	1
In order to be happy, we must make use of nature खुश रहने के लिए हमें प्रकृति का इस्तेमाल करना चाहिये	2
In order to be happy, we must conquer nature खुश रहने के लिए हमें प्रकृति पर विजय प्राप्त करनी चाहिये	3
Other (Please Specify) _____अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8
D K नहीं मालूम	9

Q.30 [SHOW CARD 20] Please choose from among the following statements the one with which you agree most.

[शो-कार्ड 20 दिखाएँ] इन में से एक कथन चुनें जिससे आप सबसे ज्यादा सहमत हैं ।

If individuals are made happy, then and only then will the country as a whole improve. हर एक व्यक्ति को खुश करने से ही देश की पूर्ण उन्नति होगी	1
If the country as a whole improves, then and only then can individuals be made happy. देश की पूर्णरूपी उन्नति होने से ही हर एक व्यक्ति खुश होंगे	2
Improving the country and making individuals happy are the same thing. देश की उन्नति और हर एक व्यक्ति की खुशी एक ही बात है	3
Other (Please Specify) _____अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8
D K नहीं मालूम	9

Q.31 Some people say that no matter how mechanized and how much advanced information technology the world gets, nothing can reduce the richness of human feelings or one's humanity. Do you agree with this opinion or disagree? कुछ लोगों का कहना है कि यंत्रीकरण और सूचना प्रौद्योगिकी चाहे कितनी भी प्रगति कर ले परंतु दुनिया से मानवीय भावनाएँ और मनुष्यत्व की कीमत कम नही होगी । आप इस कथन से सहमत हैं या असहमत ?

Disagree (humanity is REDUCED) असहमत (मनुष्यत्व की कीमत **कम होगी**)	1
Agree (humanity is NOT REDUCED) सहमत (मनुष्यत्व की कीमत **कम नही होगी**)	2
Cannot say one way or another ठीक से कह पाना मुश्किल है	3
Other (Please Specify)_____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8
D K नहीं मालूम	9

Q.32 [SHOW CARD 21] Which, if any, of the following do you believe in?

[शो-कार्ड 21 दिखाएँ] इन में से किस में आप विश्वास करते हैं ?

	Exists होता/होते हैं	May exist शायद होता/होते हैं	Does not exist नहीं होता/होते	Other (Please Specify) अन्य (कृप्या बताएँ)	Don't know नहीं मालूम
Buddha, God, or gods बुद्ध, अल्लाह या ईश्वर	1	2	3	8 ( )	9
Life after death मरणोपरान्त् जीवन	1	2	3	8 ( )	9
A soul or a spirit आत्मा या रूह	1	2	3	8 ( )	9

Q.33 [SHOW CARD 22 If you were asked to choose the two most important items listed on the card, which two would you choose? **(SELECT TWO)]**

[शो-कार्ड 22 दिखाएँ] इन में से अपने लिए सबसे महत्त्वपूर्ण कोई **दो** चीज़ें चुनें । **(कोई दो चुनें)**

Love and respect for parents माता-पिता के प्रति स्नेह और आदर	1
Repaying people who have helped you in the past किसी के द्वारा की गई मदद का ऋण उतारना	2
Respect for the rights of the individual हर व्यक्ति के अधिकारों का आदर	3
Respect for the freedom of the individual हर व्यक्ति की आज़ादी का आदर	4
Other (Please Specify)_____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8
D K नहीं मालूम	9

Q.34a [SHOW CARD 23] Suppose that you are the president of a company. The company decides to hire one person, and then administers an employment examination. The supervisor in charge reports to you saying, "Your relative who took the examination got the second highest grade. But I believe that either your relative or the candidate who got the highest grade would be satisfactory. What shall we do?" In such a case, which person would you employ?

[शो-कार्ड 23 दिखाएँ] मान लीजिए कि आप एक कम्पनी के प्रमुख हैं । आपकी कम्पनी में एक व्यक्ति की भर्ती होनी है और इसके लिए एक भर्ती-परीक्षा हुई और निरीक्षक ने आपको बताया कि आपका एक रिश्तेदार जिसने परीक्षा लिखी थी दूसरे स्थान पर रहा परन्तु पहला स्थान प्राप्त करने वाला व्यक्ति या आपका रिश्तेदार दोनों में से कोई भी ठीक रहेगा । इस स्थिति में आप क्या करेंगे ? दोनों में से किस व्यक्ति को अपनी कम्पनी में भर्ती करेंगे ?

1 One with the highest grade पहला स्थान प्राप्त करने वाले व्यक्ति को

2 Your relative अपने रिश्तेदार को

8 Other (Please Specify)_____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____

9 D K नहीं मालूम

Q34b [SHOW CARD 24] In the last question, we supposed that the one getting the second highest grade was your relative. Suppose that the one who got the second highest grade was the daughter or son of parents to whom you felt indebted. Which person would you employ?

[शो-कार्ड 24 दिखाएँ] पिछले प्रश्न में आपने माना था कि दूसरा स्थान प्राप्त करने वाला व्यक्ति आपका रिशतेदार है । आब मान लीजिए कि दूसरा स्थान प्राप्त करने वाला कोई ऐसा है जिसके माता-पिता के प्रति आप कृतज्ञ हों । इस परिस्थिति में आप पहला स्थान प्राप्त करने वाले को भर्ती करेंगे या दूसरे स्थान वाले को ?

1 One with the highest grade पहला स्थान प्राप्त करने वाले व्यक्ति को

2 Daughter or son of person to whom you are indebted उस व्यक्ति को जिसके माता-पिता के प्रति आप कृतज्ञ हैं

8 Other (Please Specify)_____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____

9 D K नहीं मालूम

Q.35 [SHOW CARD 25] Suppose you are working in a firm. Which of the following department managers would you prefer to work under?

[शो-कार्ड 25 दिखाएँ] मान लीजिए आप किसी कम्पनी में काम करते हैं । इन में से किस तरह के डिपार्टमेंट मैनेजर के अधीन आप काम करना पसंद करेंगे ?

A department manager who always sticks to the work rules and never demands any unreasonable work, but who, on the other hand, never does anything for you personally in matters not connected with work. ऐसा डिपार्टमेंट मैनेजर जो सिर्फ काम से मतलब रखता है कोई फालतू काम की अपेक्षा नहीं करता परंतु दुसरी तरफ कभी भी आपकी कोई निजी मदद नहीं करता	1
A department manager who sometimes demands more than what the rules call for but who takes care of you personally beyond the call of his or her responsibility ऐसा डिपार्टमेंट मैनेजर जो कभी-कभार ज़रूरत से ज्यादा काम कराता हो परंतु अपनी जिम्मेवारी से बढ़ कर आपका ध्यान रखता है	2
Other (Please Specify)_____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8
D K नहीं मालूम	9

Q.36 Would you say that most of the time, people try to be helpful, or that they are mostly just looking out for themselves? आपके अनुसार लोग ज्यादातर सचमुच मदद करने की भावना से मदद करते हैं या अपने किसी स्वार्थ के लिए ?

1 Try to be helpful मदद करने की भावना से मदद करते हैं

2 Look out for themselves अपने किसी स्वार्थ के लिए मदद करते हैं

8 Other (Please Specify)_____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____

9 D K नहीं मालूम

Q.37 Do you think that most people would try to take advantage of you if they got the chance, or would they try to be fair? आपकी राय में ज्यादातर लोग मौका मिलने पर आपका फायदा ज़रुर उठाएँगे या निष्कपट रहने की कोशिश करेंगे ?

1 Take advantage फायदा उठाएँगे

2 Try to be fair निष्कपट रहेंगे

8 Other (Please Specify)_____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____

9 D K नहीं मालूम

Q.38 Generally speaking, would you say that most people can be trusted or that you can't be too careful in dealing with people? आपके अनुसार आमतौर पर ज्यादातर लोग भरोसा करने लायक होते हैं या आप लोगों के साथ साथ एक हद से ज्यादा सतर्क नहीं रहा जा सकता ?

1 Can be trusted भरोसा करने लायक होते हैं

2 Can't be too careful हद से ज्यादा सतर्क नहीं रहा जा सकता

8 Other (Please Specify)_____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____

9 D K नहीं मालूम

Q.39 a [SHOW CARD 26] Imagine this situation: Prakash was orphaned at an early age and was brought up by Ramu Kaka, a kind neighbor. Ramu Kaka gave him a good education, sent him to a university, and now Prakash has become the president of a company. One day he gets an urgent message saying that Ramu Kaka, who brought him up, is seriously ill and asking if he would come at once. This message arrives as he is leaving to attend an important meeting which will decide whether his firm is to go bankrupt or to survive. Which of the following do you think he should do?

[शो-कार्ड 26 दिखाएँ] कल्पना करें कि प्रकाश बहुत ही छोटी उम्र में अनाथ हो गया था और पड़ोस के रामू काका ने उसे पाल-पोस कर बड़ा किया। रामू काका ने उसे बहुत अच्छी तरह पढ़ाया-लिखाया और आज प्रकाश एक कम्पनी का प्रमुख बन गया है। अचानक एक दिन प्रकाश को संदेशा मिला कि जिन रामू काका ने उसे पाल-पोस कर बड़ा किया था, बहुत बीमार हैं और प्रकाश को तुरन्त बुलाया है। यह संदेशा उसे तब मिला जब वह उस अतिमहत्त्वपूर्ण मीटिंग के लिए निकल रहा था जिस से उसकी कम्पनी का दिवालिया होना या बच जाना निर्भर था। ऐसे में आपके अनुसार प्रकाश को क्या करना चाहिये?

Leave everything and go back home सब कुछ छोड़-छाड़ कर घर चले जाना चाहिये	1
However worried he might be about Ramu Kaka, he should go to the meeting रामू काका के बारे में वह कितना भी चिंतित क्यों न हो उसे मीटिंग में जाना चाहिये	2
Other (Please Specify)_____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8
D K नहीं मालूम	9

Q.39 b [SHOW CARD 26] The last question supposed that Ramu Kaka had taken Prakash in as an orphan in his youth and brought him up. Suppose that it was one of Prakash's real parents who was seriously ill. Which would have been your answer then?

[शो-कार्ड 26 दिखाएँ] पिछले प्रश्न में दी गई परिस्थिति में सोचें कि रामू काका ने प्रकाश को उसकी यौवनावस्था में गोद लिया था और इस समय प्रकाश के असल माता-पिता बहुत बीमार हैं (जिनसे रामू काका ने प्रकाश को गोद लिया था) । अब इस परिस्थिति में आपके अनुसार प्रकाश को क्या करना चाहिये ?

Leave everything and go back home सब कुछ छोड़-छाड़ कर घर चले जाना चाहिये	1
However worried he might be about Prakash's parent, he should go to the meeting माता-पिता के बारे में वह कितना भी चिंतित क्यों न हो उसे मीटिंग में जाना चाहिये	2
Other (Please Specify)_____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8
D K नहीं मालूम	9

Q.40 [SHOW CARD 27] Using the answers on this card, please tell me how much you agree or disagree with each one of the following statements. Would you say that .....? **(READ OUT STATEMENTS)**

[शो-कार्ड 27 दिखाएँ] कृप्या बताईए कि इस कार्ड पर दिये गए जवाबों के अनुसार आप इन कथनों से कितने सहमत या असहमत हैं ? **(सभी कथनों को पढ़ कर सुनाएँ)**

a. There are some illnesses that are better treated by methods that modern medicine does not recognize. कुछ ऐसी बीमारियाँ होती हैं जिनका इलाज करने के तरीके को आधुनिक उचार पद्याति स्वीकार नहीं करती

1 Strongly Agree पूर्णतः सहमत

2 Agree to some extent कुछ हद तक सहमत

3 Disagree to some extent कुछ हद तक असहमत

4 Strongly disagree पूर्णतः असहमत

8 Other (Please Specify)_____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____

9 D K नहीं मालूम

b. Some day science will permit the complete understanding of the functioning of the human mind. भविष्य में विज्ञान की प्रगति हमें मनुष्य के अंतर्मन की गुत्थी पूरी तरह सुलझाने में सक्षम कर देगी

1 Strongly Agree पूर्णतः सहमत

2 Agree to some extent कुछ हद तक सहमत

3 Disagree to some extent कुछ हद तक असहमत

4 Strongly disagree पूर्णतः असहमत

8 Other (Please Specify)_____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____

9 D K नहीं मालूम

c. Most of the social and economic problems we face today will be resolved by the advancement of science and technology. हमारी आज की अधिकतर सामाजिक और आर्थिक समस्याएँ विज्ञान और प्रौद्योगिकी की प्रगति से सुलझ जाएँगी

1 Strongly Agree पूर्णतः सहमत

2 Agree to some extent कुछ हद तक सहमत

3 Disagree to some extent कुछ हद तक असहमत

4 Strongly disagree पूर्णतः असहमत

8 Other (Please Specify)_____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____

9 D K नहीं मालूम

d. At some point in the future, we can live on Mars as we live on the earth today.जिस प्रकार हम धरती पर रहते हैं, भविष्य में इसी प्रकार हम मंगल ग्रह पर भी रह सकेंगे

1 Strongly Agree पूर्णतः सहमत

2 Agree to some extent कुछ हद तक सहमत

3 Disagree to some extent कुछ हद तक असहमत

4 Strongly disagree पूर्णतः असहमत

8 Other (Please Specify)_____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____

9 D K नहीं मालूम

Q.41 What first comes to your mind when you think of Indian culture? **(Write down all if the respondent name more than one)**

"भारतीय संस्कृति" सुन कर आपके मन में सबसे पहली बात क्या आती है ?
(उत्तरदाता के द्वारा दिए गए सभी उत्तर लिखें)

_____

_____

_____

_____

9 Don't Know नहीं मालूम

Q.42a Now I would like to ask you a few questions about religion. Do you have any personal religious faith? अब हम आपसे धर्म के बारे में कुछ प्रश्न करना चाहेंगे । क्या आपका कोई धर्म हैं ?

1 Yes → Ask **Q42b** हाँ 1 → **प्रश्न . 42b** पूछें

2 No → Skip to **Q43** नहीं 2 → **प्रश्न . 43** पूछें

Q42b What is your religion? आप किस धर्म के हैं ?

Hindu हिन्दू	01
Islam इस्लाम	02
Christian ईसाई	03
Buddhism बौद्ध	04
Sikh सिख	05
Jain जैन	06
Other (Please Specify)_____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____	98
D K नहीं मालूम	99

ASK EVERYONE THE FOLLOWING QUESTIONS

निम्नलिखित प्रश्न के आगे से सभी प्रश्न सभी उत्तरदाताओं से पूछें

Q.43 Without reference to any of the established religions, do you think a religious mind is important, or not important? किसी भी स्थापित धर्म के संदर्भ के बिना क्या आप धार्मिक प्रवृत्ति का होना महत्त्वपूर्ण समझते हैं ?

1 Important महत्त्वपूर्ण है

2 Not important महत्त्वपूर्ण नहीं

8 Other (Please Specify)_____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____

9 D K नहीं मालूम

Q.44 Some people say that although there are many different religions in the world, each with its own beliefs, their teachings really all amount to the same thing. Would you agree with this or disagree? कुछ लोगों का कहना है कि दुनिया भर में अलग अलग विचारधारा के कई सारे धर्म हैं परंतु सब की सीख एक ही है । आप इस कथन से कितने सहमत या असहमत हैं ?

1 Agree सहमत

2 Disagree असहमत

8 Other (Please specify) _____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____

9 D K नहीं मालूम

Q.45 Here are two statements which people sometimes make when discussing law. Which of them comes closer to your opinion?

(i) "We should always obey the law," or

(ii) "It should be excusable to break a law when we have the confidence that what we are doing is right."

कानून के बारे में लोगों की आम धारणाओं में से दो यहाँ दी जा रही हैं । इन में से कौन सी आपकी राय है ?

(i) "हमें सदैव कानून का पालन करना चाहिये," या

(ii) "यदि हमें विश्वास है कि जो हम कर रहे हैं वह सही है तो कानून तोड़ने में हर्ज़ नहीं"

We should always obey the law हमें सदैव कानून का पालन करना चाहिये	1
It should be excusable to break a law when we have the confidence that what we are doing is right यदि हमें विश्वास है कि जो हम कर रहे हैं वह सही है तो कानून तोड़ने में हर्ज़ नहीं	2
Other (Please Specify)_____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8
D K नहीं मालूम	9

Q.46 [SHOW CARD 28] Here are two statements about a contract. Which of them comes closer to your own opinion?

A: "To have a contract constitutes evidence that there is no trust between two parties. There is no need to have a contract if the two parties trust each other"

B: "No matter how much two parties trust each other, it is better to have a contract"

[शो-कार्ड 28 दिखाएँ] यहाँ एक अनुबन्ध (कान्ट्रैक्ट) के बारे में दो कथन दिए जा रहे है । इन में से कौन सा कथन आपकी राय के समीप है ?

A: दो पक्षों के बीच अनुबन्ध (कान्ट्रैक्ट) होने का मतलब है कि दोनो पक्षों को परस्पर विश्वास नहीं है । यदि दोनो पक्षो को एक दूसरे पर विश्वास है तो किसी भी अनुबन्ध की आवश्यकता नहीं है ।

B: दोनो पक्षो को एक दूसरे पर चाहे कितना भी विश्वास क्यों न हो अनुबन्ध (कान्ट्रैक्ट) का होना बेहतर है ।

Closer to A's opinion. आपकी राय A के समीप है	1
Closer to B's opinion. आपकी राय B के समीप है	2
Other (Please Specify)_____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8
D K नहीं मालूम	9

Q.47 [SHOW CARD 29] which of the following comes closer to your opinion?

A: "If you were to have a contract, it is better to keep the contract simple allowing for its flexibility because it is a mere formality"

B: "Contracts should be written clearly in detail to avoid the possibility of conflicting interpretations"

[शो-कार्ड 29 दिखाएँ] इन में से कौन सा कथन आपकी राय के समीप है ?

A: यदि अनुबन्ध रखना ही है तो बेहतर है कि साधारण सा ही रखें जिससे कि उसमें फेरबदल की गुंजाइश रहे क्योंकि अनुबन्ध सिर्फ एक औपचारिकता है ।

B: अनुबन्ध को स्पष्ट शब्दों में और विस्तार से लिखना चाहिये जिससे कि परस्पर विरोधी व्याख्याएँ करना सम्भव न हो ।

Closer to A's opinion. आपकी राय A के समीप है	1
Closer to B's opinion. आपकी राय B के समीप है	2
Other (Please Specify)_____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8
D K नहीं मालूम	9

Q.48 [SHOW CARD 30] Here are two statements people sometimes make when discussing the environment and economic growth. Which of them comes closer to your own point of view?

[शो-कार्ड 30 दिखाएँ] पर्यावरण और आर्थिक प्रगति के बारे में लोगों की आम धारणाओं में से दो यहाँ दी जा रही हैं । इन में से कौन सी आपकी राय है ?

Protecting the environment should be given priority, even if it causes slower economic growth आर्थिक प्रगति धीमी होने पर भी हर हाल मे पर्यावरण के संरक्षण को प्राथमिकता देनी चाहिये	1
Economic growth should be the top priority, even if the environment suffers to some extent पर्यावरण थोड़ा-बहुत नष्ट होने पर भी आर्थिक प्रगति को प्राथमिकता देनी चाहिये	2
Other (Please Specify)_____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8
D K नहीं मालूम	9

Q.49 What is the single most important thing in life for you? **(Write down all answers if the respondent gives more than one.)**

आपके जीवन में सबसे बढ़ कर महत्त्वपूर्ण चीज़ क्या है ? **(उत्तरदाता के द्वारा दिए गए सभी उत्तर लिखें)**

_____

_____

_____

_____

9 Don't Know नहीं मालूम

Q.50 [SHOW CARD 31] How much confidence do you have in the following? Are you very confident, somewhat confident, not confident or not confident at all?

[शो-कार्ड 31 दिखाएँ] आपको इन पर कितना विश्वास है ? (पूर्ण विश्वास, थोड़ा-बहुत विश्वास, विश्वास नहीं, बिलकुल विश्वास नहीं) में से चुनें ।

		Very Confident बहुत विश्वासू	Somewhat Confident थोडा बहुत विश्वासू	Not Confident विश्वासू नही	Not at all Confident बिल्कुल विश्वासू नही	Don't know पता नही
a.	Religious organizations धार्मिक संगठन	1	2	3	4	9
b.	The law and the legal system कानून और न्याय प्रणाली	1	2	3	4	9
c.	The press and television प्रेस और मीडिया	1	2	3	4	9
d.	The police पुलिस	1	2	3	4	9
e.	Bureaucracy अधिकारी-तंत्र और नौकरशाही	1	2	3	4	9
f.	Parliament संसद	1	2	3	4	9
g.	NPO/NGO (Non-Profit and Non-Governmental Organization) गैर लाभ संस्था/गैर सरकारी संस्था (NPO/NGO)	1	2	3	4	9
h.	Social welfare facilities समाज कल्याण सुविधाएँ	1	2	3	4	9
i.	The United Nations संयुक्त राष्ट्र (UN)	1	2	3	4	9
j.	Science and Technology विज्ञान और प्रौद्योगिकी	1	2	3	4	9

Q.51 [SHOW CARD 32] There are many religions in the world, some of which are in conflict with one another. What do you think we should do? Which one of the following ideas comes closest to your thoughts? **(PLEASE SELECT ONLY ONE ANSWER)**

[शो-कार्ड 32 दिखाएँ] दुनिया में कई धर्म हैं और उन में से कुछ एक-दूसरे का विरोध करते है । आपके अनुसार इसके बारे में क्या किया जा सकता है ? इन में से कौन सा एक कथन आपके विचारों के सबसे निकट है ? **(केवल एक उत्तर चुनें)**

Everyone should spread his/her own religious beliefs हर किसी को अपने धार्मिक विचारों और धारणाओं का प्रचार करना चाहिये	1
We should all try to make others understand our religious beliefs हमें दूसरों को अपने धार्मिक विचार और धारणाएँ समझानी चाहिये	2
We should all try to understand each other's religion हम सभी को एक-दूसरे के धर्मों को समझना चाहिये	3
Regardless of understanding each other's religion, we should all respect each other's religious beliefs एक-दूसरे के धर्मों को समझने से ज्यादा ज़रूरी है कि हम सभी धार्मिक विचारों और धारणाओं का सम्मान करें	4
Other (Please Specify)_____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____	8
D K नहीं मालूम	9

Q.52 [SHOW CARD 33] Please look carefully at the following list of voluntary organizations and activities and say… which, if any, do you belong to? **(MULTIPLE RESPONSE POSSIBLE)**

[शो-कार्ड 33 दिखाएँ] नीचे दी गईं किन स्वयंसेवी संस्थाओं से आपका सम्बन्ध है या आप इन में से किस स्वैच्छिक कार्य में भाग लेते हैं ? **(एक से अधिक उत्तर सम्भव)**

Community organization समुदायिक संगठन	01
P&C / PTA (Parents and citizens/teachers association) शिक्षक-अविभावक/नागरिक मंडल (PTA)	02
Women's club, seniors' club, young people's club महिला मंडल, वरिष्ठ नागरिक मंडल, युवा मंडल	03
Fire-fighters' association, voluntary neighborhood watch group अग्निशामक दल, पड़ोस का स्वैच्छिक चौकसी दल	04
Farmers' association, fishermen's association, forester's association किसान संगठन मछुआरा संगठन वन रक्षक दल	05
Chamber of commerce and industry and other industrial association FICCI या अन्य औद्योगिक संगठन	06
Trade union मज़दूर संघ	07
Club for sports, recreation, hobby or cultural activities खेल-कूद, मनोरंजन या रुचि से जुड़ा हुआ क्लब या सांस्कृतिक संगठन	08
Regional association, class reunion association, alumni association क्षेत्रीय संगठन या स्कूल, कालेज, यूनिवर्सिटी के छात्र संघ	09
Religious organization धर्मिक संगठन	10
Co-ops, consumer union सहकारी संगठन या उपभोगता संघ	11
Political group, election campaign organization राजनैतिक दल या चुनाव अभियान संगठन	12
Citizen group, resident movement group, environment protection group नागरिक मंडली, निवासी आन्दोलन मंडल, पर्यावरण संरक्षण दल	13
Other (Please Specify)_____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____	88
D K नहीं मालूम	99

Demographics

We have now reached the last section of the survey. We would like to ask you a bit about yourself.

अब हम इस सर्वेक्षण के अंतिम चरण में हैं । हम आपके और अपके परिवार-सम्बन्धी कुछ आँकड़े जानना चाहेंगे ।

F1 【Gender】 Record Gender 【लिंग】 लिंग लिखें

DO NOT ASK (Judge from name and appearance)

पूछें नहीं (नाम और सूरत से अनुमान लगाएँ)

Male पुरुष 1

Female स्त्री 2

F2 【Age】 How old are you? 【उम्र】 आपकी उम्र कितनी | | |

18 – 19 years	01
20 – 24 years	02
25 – 29 years	03
30 – 34 years	04
35 – 39 years	05
40 – 44 years	06
45 – 49 years	07
50 – 54 years	08
55 – 59 years	09
60 – 64 years	10
65 – 69 years	11
Refused/Don't know	99

F3-1 What is the occupation of the main income earner in your household? That is the person with the largest income, whether from employment, pensions, state benefits, investments or any other source? PROBE FOR TITLE, BUSINESS QUALIFICATIONS, PEOPLE RESPONSIBLE FOR.

आपके घर के मुख्य कमाने वाले व्यक्ति का व्यवसाय क्या है ? यानि कि वह व्यक्ति जिसकी आय सबसे ज्यादा है , यदि किसी रोजगार , पेन्शन्स , स्टेट बेनिफीटस , निवेश या दुसरा कोई जरीया ?

INTERVIEWER- CODE SOCIAL CLASSIFICATION

			Illiterate	School Up to 4 years	School 5-9 years	SSC/ HSC	Some college but not graduate	Graduate/ Post Graduate	
								General	Professional
	Unskilled अकुशल कामगार	**01**	**E2**	**E2**	**E1**	**D**	**D**	**D**	**D**
	Skilled worker कुशल कामगार	**02**	**E2**	**E1**	**D**	**C**	**C**	**B2**	**B2**
	Petty trader छोटा व्यवसाय करने वाले	**03**	**E2**	**D**	**D**	**C**	**C**	**B2**	**B2**
	Shop owner दूकान के मालिक	**04**	**D**	**D**	**C**	**B2**	**B1**	**A2**	**A2**
	Businessmen/Industrialist ***(No. of employees)*** व्यवसायी / उद्योगपति								
	- None	**05**	**D**	**C**	**B2**	**B1**	**A2**	**A2**	**A1**
	- 1-9	**06**	**C**	**B2**	**B2**	**B1**	**A2**	**A1**	**A1**
	- 10+	**07**	**B1**	**B1**	**A2**	**A2**	**A1**	**A1**	**A1**
	Self employed professional स्वनियोजित / (प्रोफैशनल)	**08**	**D**	**D**	**D**	**B2**	**B1**	**A2**	**A1**
	Clerical/Salesman क्लर्क / सेल्समन	**09**	**D**	**D**	**D**	**C**	**B2**	**B1**	**B1**
	Supervisory level सुपरवायजरी स्तर	**10**	**D**	**D**	**D**	**C**	**B2**	**B1**	**A2**
	Officers/Executives ऑफीसर / एक्झीक्युटीव्स —								
	- Junior ज्युनियर	**11**	**C**	**C**	**C**	**B1**	**B1**	**A2**	**A2**
	- Middle/Senior मिडल /सिनीयर	**12**	**B1**	**B1**	**C**	**A2**	**A2**	**A1**	**A1**

Record SEC

F3-2 What is your Educational qualification?

आपकी शैक्षिक योग्यता क्या है ?

Illiterate	1
School upto 4 yrs	2
School 5-9 yrs	3
SSC/HSC	4
School/College but not graduate	5
Graduate/Post Graduate	6

F4 Are you currently…? **READ OUT**

अभी आप.....? पढ़ कर सुनाऐं

Employed काम करते हैं..... ..... 1→ **Ask F5**

Retired सेवानिवृत्त हैं..... 2

Unemployed & looking for Work

नौकरी की खोज कर रहे हैं.....3

Student विद्यार्थी हैं..... 4

Homemaker गृहणी हैं.....……..5

} **Skip to F6**

F5 【Occupation】 What is your current occupation? 【पेशा】 आपका अभी का पेशा क्या है ?

SPECIFY: बताएँ : _____

CODE APPROPRIATE RESPONSE: **उपयुक्त कोड लिखें :**

High status professional (doctor, dentist, lawyer, architect, consultant, psychologist, professor, engineer, etc.) उच्च स्तरीय व्यावसायिक (डाक्टर, दंत-चिकित्सक, वकील, वास्तुकार, परामर्शदाता, मनोवैज्ञानिक, प्रोफेसर, इंजीनियर इत्यादि)	1
Other professional (teacher, social worker, therapist, etc.) अन्य प्रकार के व्यावसायिक (अध्यापक, समाजसेवी, थेरेपिस्ट इत्यादि)	2
High level business executive (CEO, CFO, COO, President, Executive VP, Senior VP, VP, etc.) उच्च स्तरीय व्यावसायिक प्रबंधकर्ता (High level business executive – CEO, CFO, COO,	3

President, Executive VP, Senior VP, VP इत्यादि)	
Middle manager (supervisor, director, division head, manager, etc.) मध्य स्तरीय मैनेजर (सुपरवाइज़र, डायरेक्टर, डिविज़न प्रमुख इत्यादि)	4
Small business owner/entrepreneur/shopkeeper छोटा व्यापारी / अपना व्यापार (Entrepreneur)/ दुकानदार	5
White collar worker (word processor, secretary, typist, clerk, administrative assistant, etc.) सेक्रेटरी, टाइपिस्ट, क्लर्क, प्रशिसनिक सहायक इत्यादि	6
Skilled worker (technician, electrician, plumber, computer programmer, carpenter, etc.) प्रशिक्षित कार्यकर्मी (तकनीशियन, बिजली वाला, प्लम्बर, कम्प्यूटर प्रोग्रामर, बढ़ई इत्यादि)	7
Blue collar laborer अप्रशिक्षित कार्यकर्मी	8
Civil servant (policeman, postal worker, fireman, sanitation worker, military, etc.) सरकारी कर्मचारी (पुलिस अधिकारी, डाक अधिकारी, आग्निशामक दल रक्षक, सिपाही इत्यादि)	9
Farmer/fisherman किसान/मछुआरा	10
Any other not elsewhere classified specify: _____ अन्य (जो और कहीं वर्गीकृत न हो बताएँ) _____	98

F6 【Household Income】 **[SHOW CARD 35]** Would it be possible for you to tell me to which one of the following categories your household belongs to in terms of monthly income before taxes?

【पारिवारिक आमदनी】 **[शो-कार्ड 35 दिखाएँ]** यदि आप आज्ञा दें तो हम आपसे पूछना चाहेंगे कि आपकी मासिक आमदनी (आयकर देने से पहले) इन में से किस वर्ग में आती है ?

A	Under RS3000	1
B	RS3001-6000	2
C	RS6001-9000	3
D	RS9001-10000	4
E	RS10001-11000	5
F	RS11001-12000	6
G	RS12001-13000	7
H	RS13001-14000	8
I	RS14001-15000	9
J	RS15001-18000	10
K	RS18001-21000	11
L	RS21001-24000	12
M	RS24001-27000	13
N	RS27001-30000	14
O	RS30001 or higher	15
	Don't know/Refused	0

F7 What is the total number of people in your household, including yourself but excluding servants or housemaids? आपके साथ घरेलू नौकर या नौकरानी के अलावा कुल मिला कर कितने लोग रहते हैं ?

☐ persons
लोग (43)(44)

F8 【Household members】 **[SHOW CARD 36]** Who do you live with in your household now? Please choose as many categories as you like from the following items?

【परिवार】 **[शो-कार्ड 36 दिखाएँ]** क्या आप अपने परिवार के साथ रहते हैं ? इन में से जो लागू हो वह बताएँ ।

1 Only myself (Single) सिर्फ मैं अकेले

2 Spouse/partner (wife, husband or partner) पति/पत्नी या साथी के साथ

3 Parent(s) माता/पिता के साथ (45)

4 Child(ren) बच्चों के साथ

5 Relative(s) रिश्तेदारों के साथ

6 Roommate(s)/ Friend(s) रूम-मेट या सहेलियों/दोस्तों के साथ

7 Living-in Servant (s)/ Housemaid(s) घरेलू नौकर/नौकरानी के साथ

8 Other (Please Specify): _____अन्य (कृप्या बताएँ) _____

9 D K नहीं मालूम

F9 【Main language】 What is the main language spoken in your household?

【मुख्य भाषा】 आपके परिवार में मुख्यत: कौन सी भाषा बोली जाती है ?

1. Hindi हिन्दी
2. Bengali बंगाली
3. Tamil तमिल
4. Kannada कन्नड़
5. Telugu तेलुग
6. Gujarati गुजराती
7. Marathi मराठी
8. Malayalam मलयालम
9. English

88. Other (Please Specify): _____ अन्य (कृप्या बताएँ) _____

99. D K नहीं मालूम

Those are all of my questions for today. Thank you again for taking the time to participate in our research.

इसी के साथ यह प्रश्नावली समाप्त होती है। इस शोध में आपका बहुमूल्य समय देने के लिये हम आपके बहुत बहुत आभारी हैं।

RECORD FINISH TIME खत्म करने का समय लिखें

c. 項目の出典履歴

以下に、環太平洋調査の調査票における項目の履歴を示す。日本調査 04A（2004 年度実施）に準じているが、項目によっては質問の主旨に沿って回答カテゴリーを適宜変更したもの（Q2、Q3、Q22、Q42b、Q52 等）、また回答カテゴリーの尺度表現に国や地域によって微妙な差があるもの（Q12、Q40 等）もあるので注意せよ。

※　右端の「04B」の記号は、日本調査 04A とほぼ同時期に遂行した日本調査 04B で同じ問題があるものを指す。

質問		KS 国民性調査	関連出典	トピック	変更内容	関連調査
問 1	変更	#7.31	日本人の国民性 7ヶ国比較・問3	生活水準	K.S.：「将来」→「これから先の5年間」 七カ国比較：同じ K.S.,七カ国比較：「あなたの」→「日本人全体の」 日本04A：「日本人全体の」→「あなたの」	04B
問2	変更		東ア日本02・問44	国の親近感(友好)	【国別質問】 「わが国」→「日本」、「中国」→「中国（本土）」、「１つ」bold 日本04A：「日本のために」→「わが国のために」	
問3	変更		東ア日本02・問43	国の親近感(生まれたい国)	【国別質問】 「、もういちど」追加、「中国」→「中国（本土）」	
問4		#6.2	日本人の国民性 東ア日本02・問42b（修正版）	男女の生まれ変わり(将来)		
問5		#4.11	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問11 東ア日本02・問1	先祖を尊ぶ	日本04A:「普通より」は、（各国で）「その国の普通の人々より」に翻訳 環太平洋調査の英語版では基本的に、“Would you say you are, on the whole, more inclined than the average 各国人 to respect your ancestors or less?” オーストラリア07とインド08のみ “Would you say you are, on the whole, more or less inclined than the average 各国人 to respect your ancestors?”	04B
問6		#4.10	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問12 東ア日本02・問2	他人の子供を養子にするか	環太平洋調査英語版の中で、オーストラリア07とインド08のみ、“Or do you not think this is important?”を削除	
問7		#4.80	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問13 東ア日本02・問3	望ましい子供の数	USA06: “for a family”→”in a family”	
問8	変更	#2.4	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問22	くらし方	K.S.,七カ国比較：「（１つ選択）」追加、カテゴリーと項目順変更 04Bと関連するが、内容は異なる 選択肢１は、環太平洋調査英語版では基本的に“Make no offense and lead a serious life”だが、オーストラリア07とインド08のみ、“Resist all evils in the world and live a pure and just life”	04B
問9a			東ア日本02・問50a	儒教精神(先祖尊ぶ)		
問9b			東ア日本02・問50b	儒教精神（長男が両親の面倒）		
問9c			東ア日本02・問50c	儒教精神（妻は夫に従う）	環太平洋調査の英語版では基本的に “follow”だが、オーストラリア07とインド08のみ“obey”	
問9d			東ア日本02・問50d	儒教精神（親の反対する結婚）	環太平洋調査の英語版では基本的に “follow”だが、オーストラリア07とインド08のみ“obey”	

質問		KS 国民性調査	関連出典	トピック	変更内容	関連調査
問9e			東ア日本02・問50e	儒教精神（年上の人の意見）		
問9f			東ア日本02・問50f	儒教精神（家系に息子が必要）		
問9g			東ア日本02・問50g	儒教精神（男が働き女は家庭）		
問10a	変更		東ア日本02・問39a	尊敬する職業	「それでは、」追加	
問10b			東ア日本02・問39b	実際につきたい職業		
問11	変更		東ア日本02・問52	リーダーの条件	「実際に今、働いているかどうかは別にして、もしあなたが働いているとした時、」追加、「(3M.A.)」→「**(3つ選択)**」 環太平洋調査の英語版では基本的に "5: Have many friends/aquaintances, 7: Decisive and determined"だが、シンガポール07のみ "5: Good human relations and have a wide acquaintance, 7: Being quick in decision and determined" "Other, DK"を削除	04B
問12		#2.3g	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問15 東ア日本02・問5	健康満足	日本04A：「いかがですか」→「どれくらい満足していますか？」	
問13		#1.8	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問16 東ア日本02・問6	社会的階層	【国別質問】 環太平洋調査英語版のうち、USA06のみ"class"を付加	
問14		#7.81	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問17 東ア日本02・問7	収入と余暇		
問15		#2.8	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問18 東ア日本02・問8	お金と仕事		
問16			東ア日本02・問9	仕事と個人生活	「(1つ選択)」bold	
問17a	変更	#2.30	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問9a 東ア日本02・問10a	不安感(重い病気)	質問文「と思います」→「かもしれません」	04B
問17b	変更	#2.30d	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問9b 東ア日本02・問10b	不安感(交通事故)	質問文「と思います」→「かもしれません」	04B
問17c	変更 追加	#2.30e	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問9c	不安感(失業)	質問文「と思います」→「かもしれません」 追加カテゴリー	04B
問17d		#2.30f	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問9d 東ア日本02・問10c	不安感(戦争)	質問文「と思います」→「かもしれません」	04B
問18a		#5.81a	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問27a 東ア日本02・問12a	生活領域の重要性（家族や子供）	「家族や子供」→「あなた自身の家族や子供」	
問18b		#5.81b	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問27b 東ア日本02・問12b	生活領域の重要性（職業や仕事）		

質問		KS 国民性調査	関連出典	トピック	変更内容	関連調査
問18c		#5.81c	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問27c 東ア日本02・問12c	生活領域の重要性（自由と寛ぎ）		
問18d		#5.81d	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問27d 東ア日本02・問12d	生活領域の重要性（友人，知人）		
問18e		#5.81e	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問27e 東ア日本02・問12e	生活領域の重要性（両親，親戚）		
問18f		#5.81f	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問27f 東ア日本02・問12f	生活領域の重要性（宗教）		
問18g		#5.81g	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問27g 東ア日本02・問12g	生活領域の重要性（政治）		
問19		#2.3c	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問28 東ア日本02・問13	家庭満足	環太平洋調査の英語版では基本的に“1: Satisfied, 2: Dissatisfied”だが、シンガポール07のみここに“Completely”を追加	
問20		#2.82	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問29 東ア日本02・問14	生活満足	環太平洋調査の英語版では基本的に“1: Satisfied, 2: Dissatisfied”だが、シンガポール07のみここに“Completely”を追加	
問21a	修正	#2.80a	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問14a 東ア日本02・問4a	病気（頭痛・偏頭痛.頭が重い）	「(1つずつ聞く)」追加	04B
問21b	修正	#2.80b	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問14b 東ア日本02・問4b	病気（背中の痛み）	「(1つずつ聞く)」追加	04B
問21c	修正	#2.80c	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問14c 東ア日本02・問4c	病気（いらいら）	「(1つずつ聞く)」追加	04B
問21d	修正	#2.80d	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問14d 東ア日本02・問4d	病気（うつ状態）	「(1つずつ聞く)」追加	04B
問21e	修正	#2.80e	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問14e 東ア日本02・問4e	病気（不眠症）	「(1つずつ聞く)」追加	04B
問22	変更		東ア日本02・問45	相談相手	回答肢の大幅変更「4、6、7」	
問23			東ア日本02・問15	成功の要因	「(1つ選択)」bold 日本04A:「(1つ選択)」→削除 USA06では“personal relationship”だが、環太平洋調査の英語版では基本的に“personal”を削除、問題文の最後に “personal connections”を追加	
問24a	変更		日本の習慣・行事に関する調査1976・問19G 「ガン告知QOL」	超能力・念力	「その他」「わからない」追加 回答カテゴリーの再編成	04B
問24b	変更		日本の習慣・行事に関する調査1976・問19C 「ガン告知QOL」	空飛ぶ円盤・宇宙人	「その他」「わからない」追加 回答カテゴリーの再編成	04B
問24c	変更		日本の習慣・行事に関する調査1976・問19F+L 「ガン告知QOL」	妖怪・鬼	「その他」「わからない」追加 回答カテゴリーの再編成	04B

質問		KS 国民性調査	関連出典	トピック	変更内容	関連 調査
問24d	変更		日本の習慣・行事に関する調査1976・問19D+H 「ガン告知QOL」	幽霊・人のたたり	「その他」「わからない」追加 回答カテゴリーの再編成	04B
問25		#7.1	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問32 東ア日本02・問16	人間らしさはへるか	USA06: "a lot of human feeling"→ 問題文では"humanity /a lot of human feelings"、回答カテゴリーでは "humanity"	
問26		#8.1b	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問34 東ア日本02・問17	政治家にまかせる	KSの「その人」→「その人達」に変更 7カ国A:「その人たち」　7カ国B:「その人」 東ア日本02:「その人達」、日本04Bでは「その人」	04B
問27		#4.30	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問37 東ア日本02・問19	家庭はくつろぐ場所	※USA06以降で、内容は同じだが、問題文、回答カテゴリーともに表現を変えている	
問28		#4.32	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問38 東ア日本02・問20	離婚すべきではないか		
問29		#2.5	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問43 東ア日本02・問21	自然と人間との関係	日本04A：「1つ」bold→bold取り消し	
問30		#7.4	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問44 東ア日本02・問22	国と個人の幸福	日本04A：「1つ」bold→bold取り消し	
問31		#7.2	日本人の国民性 東ア日本02・問18	心の豊かさはへらないか	ただし、東ア日本02とは回答カテゴリーの順番が逆である。 日本04A：「へる」→「人間らしさはへる」 日本04A：「へらない」→「人間らしさはへらない」 環太平洋調査の英語版では基本的に"how much advanced"だが、シンガポール07のみ"how advanced"	
問32a			東ア日本02・問11a WVS世界23ヵ国価値観・問71	神や仏の存在	「(1つずつ○印)」→「**(1つずつ聞く)**」、「その他」追加 日本04A：「**(1つずつ聞く)**」→削除	04B
問32b			東ア日本02・問11b WVS世界23ヵ国価値観・問71	死後の世界の存在	「(1つずつ○印)」→「**(1つずつ聞く)**」、「その他」追加 日本04A：「**(1つずつ聞く)**」→削除	04B
問32c			東ア日本02・問11c WVS世界23ヵ国価値観・問71	霊魂の存在	「(1つずつ○印)」→「**(1つずつ聞く)**」、「その他」追加 日本04A：「**(1つずつ聞く)**」→削除	04B
問33a		#5.1d	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問45 東ア日本02・問23a	大切な道徳(親孝行)	日本04A：「(この質問では、2つの項目をあげてもらうこと)」位置移動とbold→bold取り消し	
問33b		#5.1d	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問45 東ア日本02・問23b	大切な道徳(恩返し)		
問33c		#5.1d	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問45 東ア日本02・問23c	大切な道徳(個人の権利)		
問33d		#5.1d	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問45 東ア日本02・問23d	大切な道徳(自由)		
問34a		#5.1c1	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問48 東ア日本02・問24	入社試験(親戚)	「親戚」ルビ追加→削除（日本語以外）	

質問		KS 国民性調査	関連出典	トピック	変更内容	関連 調査
問34b		#5.1c2	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問49 東ア日本02・問24	入社試験 (恩人の子)	「親戚」ルビ追加→削除（日本語以外） 環太平洋調査の英語版では基本的に“the person to whom you are indebted”だが、シンガポール07のみ“your benefactor”	
問35		#5.6	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問50 東ア日本02・問25	めんどうをみる課長	USA06とそれ以降では、内容は同じであるが、回答カテゴリーの表現を変えている	04B
問36		#2.12	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問51 東ア日本02・問26	他人のためか自分のためか	「さて、」追加	04B
問37		#2.12b	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問52 東ア日本02・問27	スキがあれば利用されるか		
問38		#2.12c	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問53 東ア日本02・問28	人は信頼できるか		
問39a		#5.1	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問41	恩人が危篤	国ごとに「名前」を変更	
問39b		#5.1b	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問42	親が危篤		
問40a		#7.83	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問57a 東ア日本02・問29a	病気の治療	日本04A：「（a～dについてそれぞれ聞く）」 bold→bold取り消し USA06: “Would you say that.....?”を追加	
問40b		#7.84	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問57b 東ア日本02・問29b	心の解明		
問40c		#7.85	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問57c 東ア日本02・問29c	経済的・社会的問題の解決		
問40d			東ア日本02・問29d	火星での生活		
問41		#9.80	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問61 東ア日本02・問30	文化	【国別質問】 「(もし回答者が複数あげた場合は、すべて記す)」 bold→削除	
問42a		#3.1a	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問62a 東ア日本02・問31a	宗教を信じるか		
問42b		#3.1b	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問62b 東ア日本02・問31b	何という宗教	【国別質問】 「持っている」→「もっている」 「(1つ選択)」bold	
問43		#3.2	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問63 東ア日本02・問32	「宗教心」は大切か		
問44		#3.3	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問64 東ア日本02・問33	宗教は1つか		
問45			東ア日本02・問34 日本人の法意識(日本文化会議)・Q35	法の遵守		
問46			東ア日本02・問35 日本人の法意識(日本文化会議)・Q43	契約書と信頼感	USA06: “parties”→ “two parties”	

質問		KS 国民性調査	関連出典	トピック	変更内容	関連調査
問47			東ア日本02・問36 日本人の法意識(日本文化会議)・Q44	契約書の規定		
問48			東ア日本02・問37 WVS世界23ヵ国価値観・問12	環境保護か経済成長か		
問49		#2.7	日本人の国民性 7ヶ国比較A票・問26 東ア日本02・問38	一番大切なもの	「(もし回答者が複数あげた場合は、すべて記す)」bold→bold取り消し	
問50a			東ア日本02・問41a WVS世界23ヵ国価値観・問9	信頼感(宗教団体)	問50全体:「(1つずつ○印)」→「(1つずつ聞く)」→削除	
問50b			東ア日本02・問41b WVS世界23ヵ国価値観・問9	信頼感(司法制度)		
問50c			東ア日本02・問41c WVS世界23ヵ国価値観・問9	信頼感(マスコミ)		
問50d			東ア日本02・問41d WVS世界23ヵ国価値観・問9	信頼感(警察)		
問50e			東ア日本02・問41e WVS世界23ヵ国価値観・問9	信頼感(行政)		
問50f			東ア日本02・問41f WVS世界23ヵ国価値観・問9	信頼感(国会)	USA06: "National Assembly (Congress)"→"Parliament"	
問50g			東ア日本02・問41g WVS世界23ヵ国価値観・問9	信頼感(NPO・NGO)		
問50h			東ア日本02・問41h WVS世界23ヵ国価値観・問9	信頼感(社会福祉施設)		
問50i			東ア日本02・問41i WVS世界23ヵ国価値観・問9	信頼感(国連)		
問50j			東ア日本02・問41j	信頼感(科学技術)		
問51			東ア日本02・問51	宗教の在り方	「1つ」bold→bold取り消し 環太平洋調査の英語版では基本的に"his/her"だが、シンガポール07のみ"one's"	
問52			東ア日本02・問54 国民性7カ国比較オムニバスD票・問14	社会参画	【国別質問】 「(M.A.)」→「(いくつでも)」、「いくつでも」bold、回答肢番号一部変更 USA06と回答カテゴリーの内容はほぼ同じだが、表現をインドにあわせている	

〈フェース・シート〉 Face Sheetの項目のカテゴリーは、各国の事情に合わせて、変更されているので注意

質問		KS 国民性調査	関連出典	トピック	変更内容	関連調査
F1			7ヶ国比較A票・F1	性別		

質問		KS 国民性調査	関連出典	トピック	変更内容	関連調査
F 2	変更		7ヶ国比較A票・F2	年齢	日本調査の対象者は20歳以上だが、成人が18歳以上の国・地域の場合、カテゴリー「01.18-19歳」を追加 日本調査では70歳以上も対象としているが、国地域によっては、69歳以下を対象としているため、「11.70歳以上」を削除	
F3 **F4** **F5** **F6** **F7** **F8** **F9**	新設			年齢 学歴 本人職業 世帯収入 同居人数 同居形態 社会階層 母語など	【国別質問】 Face Sheetの項目の順番、内容、カテゴリーは、各国の事情に合わせて、変更されているので注意 （調査を実施した現地調査会社の形式を採用）	

【参考文献】
電通総研・余暇開発センター編（1999）. 世界 23 カ国 価値観データブック. 同友館.
日本癌病態治療研究会（1996）「日本人の心とガン告知」（日本癌病態治療研究会、QOL 班）
林知己夫他（1998）. 国民性七か国比較. 出光書店.
日本文化会議編（1973）. 日本人の法意識—調査分析—. 至誠堂.
統計数理研究所・研究リポート No.76（1995）. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—総合報告書—.
統計数理研究所・研究リポート No.77（1995）. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—国民性の国際比較のためのマニュアル—.
統計数理研究所・研究リポート No.89（2003）. 日本・中国の国民性比較のための基礎研究—中国北京市における意識調査—.
統計数理研究所・研究リポート No.90（2003）. 日本・中国の国民性比較のための基礎研究(2)—中国上海市における意識調査—.
吉野諒三（2001）. 心を測る—個と集団の意識の科学—. 朝倉書店.

【関連調査データ→参考文献】
KS：日本人の国民性調査（1953 年～2003 年）→
統計数理研究所・研究リポート No.92（2004）国民性の研究第 11 次全国調査—2003 年全国調査—. 他多数。
日本の法意識 →
日本文化会議編（1973）. 日本人の法意識—調査分析—. 至誠堂.
日本の習慣・行事に関する調査（1976・1977・1978） →
統計数理研究所・研究リポート No.44（1979）には東京 1976 年調査、米沢 1977 年調査、及び東京 1978 年調査の調査票がある。
がん告知 QOL 調査（1996） → 「日本人の心とガン告知」（日本癌病態治療研究会、QOL 班）
WVS 世界 23 カ国価値観 →
電通総研・余暇開発センター編（1999）. 世界 23 カ国 価値観データブック. 同友館.
7ヶ国比較 A 票/国民性 7ヶ国比較オムニバス D 票 →
林知己夫他（1998）. 国民性七か国比較. 出光書店.
統計数理研究所・研究リポート No.76（1995）. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—総合報告書—.
統計数理研究所・研究リポート No.77（1995）. 意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—国民性の国際比較のためのマニュアル—.
吉野諒三（2001）. 心を測る—個と集団の意識の科学—. 朝倉書店.
東ア日本 02（東アジア価値観国際比較調査，日本調査 2002） →
統計数理研究所・研究リポート No.89（2003）. 日本・中国の国民性比較のための基礎研究—中国北京市における意識調査—.

統計数理研究所・研究リポート No.90（2003）．日本・中国の国民性比較のための基礎研究(2)—中国上海市における意識調査—．